



CHAPTER

2

## Catalyst 4500 シリーズ スイッチの Cisco IOS コマンド

---

この章では、Catalyst 4500 シリーズ スイッチの Cisco IOS コマンドがアルファベット順に記載されています。このマニュアルに記載されていない Cisco IOS コマンドの詳細については、次の URL にある Cisco IOS Release 12.2 のコンフィギュレーション ガイドおよびコマンドリファレンスを参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/iosswrel/ps1835/products\\_product\\_indices\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/iosswrel/ps1835/products_product_indices_list.html)

# #macro keywords

マクロ キーワードのヘルプ スtringを指定するには、**#macro keywords** コマンドを使用します。

```
#macro keywords [keyword1] [keyword2] [keyword3]
```

シンタックスの説明	keyword 1	(任意) マクロをインターフェイスに適用する場合に必要なキーワードを指定します。
	keyword 2	(任意) マクロをインターフェイスに適用する場合に必要なキーワードを指定します。
	keyword 3	(任意) マクロをインターフェイスに適用する場合に必要なキーワードを指定します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** マクロの必須キーワードを指定しなかった場合、そのマクロは無効とみなされ、適用しようとする  
と失敗します。**#macro keywords** コマンドを入力すると、構文を有効にするために指定する必要の  
あるキーワードを示したメッセージが表示されます。

**例** 次に、test という名前のマクロに関連付けられたキーワードのヘルプ スtringを指定する例を示  
します。

```
Switch(config)# macro name test
macro name test
Enter macro commands one per line. End with the character '@'.
#macro keywords $VLAN $MAX
swichport
@

Switch(config)# int g1/1
Switch(config-if)# macro apply test ?
WORD Keyword to replace with a value e.g $VLAN, $MAX << It is shown as help
<cr>
```

**関連コマンド**

- [macro apply cisco-desktop](#)
- [macro apply cisco-phone](#)
- [macro apply cisco-router](#)
- [macro apply cisco-switch](#)

# aaa accounting dot1x default start-stop group radius

802.1x 認証セッションのアカウントングをイネーブルにするには、**aaa accounting dot1x default start-stop group radius** コマンドを使用します。アカウントングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
aaa accounting dot1x default start-stop group radius
```

```
no aaa accounting dot1x default start-stop group radius
```

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** アカウントングはディセーブルです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 802.1x アカウントングには、RADIUS サーバが必要です。

このコマンドは、802.1x サプリカント（ワークステーションクライアント）から認証（RADIUS）サーバへ 802.1x アップデート パケットおよびウォッチドッグ パケットを転送するために、Authentication, Authorization, and Accounting（AAA; 認証、許可、アカウントング）クライアントのアカウントング機能をイネーブルにします（ウォッチドッグ パケットは、EAPOL-LOGON、EAPOL-LOGOFF、および EAPOL-INTERIM メッセージとして定義されています）。事前に、認証サーバによってサプリカントの認証および許可が正常に行われないと、これらのパケットを有効とみなし転送することはできません。クライアントが再認証されると、暫定アップデート アカウントング通知がアカウントングサーバへ送信されます。

**例** 次に、802.1x アカウントングを設定する例を示します。

```
Switch(config)# aaa accounting dot1x default start-stop group radius
```



(注)

AAA クライアントからアップデート パケットまたはウォッチドッグ パケットを受信し記録するには、RADIUS 認証サーバを適切に設定する必要があります。

**関連コマンド** [aaa accounting system default start-stop group radius](#)

# aaa accounting system default start-stop group radius

スイッチの再起動後にセッション終端メッセージを受信するには、**aaa accounting system default start-stop group radius** コマンドを使用します。アカウントングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**aaa accounting system default start-stop group radius**

**no aaa accounting system default start-stop group radius**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** アカウンティングはディセーブルです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 802.1x アカウンティングには、RADIUS サーバが必要です。

このコマンドは、802.1x サプリカント（ワークステーションクライアント）から認証（RADIUS）サーバへ 802.1x アップデート パケットおよびウォッチドッグ パケットを転送するために、Authentication, Authorization, and Accounting（AAA; 認証、許可、アカウントング）クライアントのアカウントング機能をイネーブルにします（ウォッチドッグ パケットは、EAPOL-LOGON、EAPOL-LOGOFF、および EAPOL-INTERIM メッセージとして定義されています）。事前に、認証サーバによってサプリカントの認証および許可が正常に行われないと、これらのパケットを有効とみなし転送することはできません。クライアントが再認証されると、暫定アップデート アカウンティング通知がアカウントングサーバへ送信されます。

**例** 次に、スイッチの再起動後にログオフを生成する例を示します。

```
Switch(config)# aaa accounting system default start-stop group radius
```



(注)

AAA クライアントからアップデート パケットまたはウォッチドッグ パケットを受信し記録するには、RADIUS 認証サーバを適切に設定する必要があります。

**関連コマンド** [aaa accounting dot1x default start-stop group radius](#)

## access-group mode

オーバーライドモード (VACL を PACL よりも優先させる場合など) および非オーバーライドモード (merge モードや strict モードなど) を指定するには、**access-group mode** コマンドを使用します。優先ポートモードに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
access-group mode {prefer {port | vlan} | merge}
```

```
no access-group mode {prefer {port | vlan} | merge}
```

### シンタックスの説明

<b>prefer port</b>	PACL が設定されている場合は PACL モードが優先するように指定します。ポートに PACL 機能が設定されていない場合は、インターフェイスに適用可能なその他の機能がマージされ、インターフェイスに適用されます。
<b>prefer vlan</b>	VLAN (仮想 LAN) ベース Access Control List (ACL; アクセスコントロールリスト) モードが優先するように指定します。ポートの VLAN に VLAN ベース ACL 機能が設定されていない場合は、ポートの PACL 機能が適用されません。
<b>merge</b>	適用可能な ACL 機能をマージしてから、ハードウェアにプログラミングします。

### デフォルト

PACL オーバーライドモード

### コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーションモード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

レイヤ 2 インターフェイスでは、prefer port、prefer vlan、および merge モードがサポートされています。レイヤ 2 インターフェイスには、各方向 (着信方向と発信方向) に 1 つずつ IP ACL を適用できます。

### 例

次に、スイッチで PACL モードを有効にする例を示します。

```
(config-if)# access-group mode prefer port
```

次に、適用可能な ACL 機能をマージする例を示します。

```
(config-if)# access-group mode merge
```

### 関連コマンド

[show access-group mode interface](#)  
[show ip interface](#) (Cisco IOS のマニュアルを参照)  
[show mac access-group interface](#)

## access-list hardware capture mode

制御パケットのキャプチャ モードを選択するには、**access-list hardware capture mode** コマンドを使用します。

```
access-list hardware capture mode {global | vlan}
```

シンタックスの説明	global	vlan
	すべての VLAN 上でのグローバルな制御パケットのキャプチャを指定します。	特定の VLAN 上での制御パケットのキャプチャを指定します。

**デフォルト** 制御パケットをグローバルにキャプチャします。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(40)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** キャプチャ モードを設定する前に、DHCP スヌーピングや IGMP スヌーピングなどの機能をグローバルにディセーブルにして、特定の VLAN でのみイネーブルになるように設定を確認および修正する必要があります。

パス管理モードに変更する場合、ハードウェアに VLAN ごとの CAM エントリがプログラミングされるまでは、制御トラフィックがハードウェアでブリッジングされたり、最初に破棄される可能性があることに注意してください。

VLAN でイネーブルに設定されている機能のために、メンバ ポートや VLAN の全アクセス制御設定が、制御パケットの CPU への転送を拒否したり破棄しないようにする必要があります。制御パケットが許可されていない場合、特定の機能が機能しません。

**例** 次に、制御パケットのキャプチャをイネーブルにするように設定されている VLAN 上で制御パケットをキャプチャするようにスイッチを設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# access-list hardware capture mode vlan
Switch(config)# end
Switch#
```

次に、(静的な ACL を使用して) すべての VLAN 上で制御パケットをグローバルにキャプチャするようにスイッチを設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# access-list hardware capture mode global
Switch(config)# end
Switch#
```

次に、すべての VLAN 上で制御パケットをグローバルにキャプチャするようにスイッチを設定する別の方法を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# no access-list hardware capture mode vlan
Switch(config)# end
Switch#
```

## access-list hardware entries

Access Control List (ACL; アクセスコントロールリスト) をスイッチのハードウェアにプログラムする方法を指定するには、**access-list hardware entries** コマンドを使用します。

**access-list hardware entries {packed | scattered}**

### シンタックスの説明

<b>packed</b>	ACL の Access Control Entry (ACE; アクセスコントロール エントリ) をプログラムするために、ACL Ternary CAM (TCAM) からエントリを選択するとき、条件に一致する (マスク使用) 最初のエントリをソフトウェアが使用するように指定します。
<b>scattered</b>	ACL の ACE をプログラムするために、TCAM からエントリを選択するとき、最初のエントリをソフトウェアが使用するように指定します (マスクなし)。

### デフォルト

ACL は packed としてプログラムされています。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(20)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

ACL のプログラム時には、エントリとマスクの2種類のハードウェア リソースが使用されます。これらのリソースのいずれかが消費されて使用できない場合、ハードウェアに新たに ACL をプログラムできません。マスクが消費されてもエントリが使用可能な場合、プログラミングアルゴリズムを **packed** から **scattered** に変更して、マスクを使用可能にします。このアクションにより、新たな ACL をハードウェアにプログラムできるようになります。

このコマンドの目的は、ACL エントリごとのマスク数を少なくして、TCAM のリソースをより効率的に使用することです。 **scattered** または **packed** アルゴリズムを適用しているときに TCAM の使用率を比較するには、**show platform hardware acl statistics utilization brief** コマンドを使用します。プログラムのアルゴリズムを **packed** から **scattered** に変更するには、**access-list hardware entries** コマンドを使用します。

**例** 次に、ハードウェアにプログラムする ACL を packed アルゴリズムにする方法を示します。プログラムされたあとは、49% の ACL エントリのみをプログラムするために、89% のマスクが必要になります。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# access-list hardware entries packed
Switch(config)# end
Switch#
01:15:34: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
Switch#
Switch# show platform hardware acl statistics utilization brief
Entries/Total(%)  Masks/Total(%)
-----
Input  Acl (PortAndVlan)  2016 / 4096 ( 49)   460 / 512 ( 89)
Input  Acl (PortOrVlan)   6 / 4096 ( 0)      4 / 512 ( 0)
Input  Qos (PortAndVlan)  0 / 4096 ( 0)      0 / 512 ( 0)
Input  Qos (PortOrVlan)   0 / 4096 ( 0)      0 / 512 ( 0)
Output Acl (PortAndVlan)  0 / 4096 ( 0)      0 / 512 ( 0)
Output Acl (PortOrVlan)  0 / 4096 ( 0)      0 / 512 ( 0)
Output Qos (PortAndVlan)  0 / 4096 ( 0)      0 / 512 ( 0)
Output Qos (PortOrVlan)  0 / 4096 ( 0)      0 / 512 ( 0)

L4Ops: used 2 out of 64
Switch#
```

次に、ハードウェアの ACL エントリ間のスペースを個別に (scattered) 確保する例を示します。49% のエントリをプログラムするために必要なマスク数は 49% に減少します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# access-list hardware entries scattered
Switch(config)# end
Switch#
01:39:37: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
Switch#
Switch# show platform hardware acl statistics utilization brief
Entries/Total(%)  Masks/Total(%)
-----
Input  Acl (PortAndVlan)  2016 / 4096 ( 49)   252 / 512 ( 49)
Input  Acl (PortOrVlan)   6 / 4096 ( 0)      5 / 512 ( 0)
Input  Qos (PortAndVlan)  0 / 4096 ( 0)      0 / 512 ( 0)
Input  Qos (PortOrVlan)   0 / 4096 ( 0)      0 / 512 ( 0)
Output Acl (PortAndVlan)  0 / 4096 ( 0)      0 / 512 ( 0)
Output Acl (PortOrVlan)  0 / 4096 ( 0)      0 / 512 ( 0)
Output Qos (PortAndVlan)  0 / 4096 ( 0)      0 / 512 ( 0)
Output Qos (PortOrVlan)  0 / 4096 ( 0)      0 / 512 ( 0)

L4Ops: used 2 out of 64
Switch#
```



# access-list hardware region

ハードウェアにおける TCAM 領域間のバランスを修正するには、**access-list hardware region** コマンドを使用します。

```
access-list hardware region {feature | qos} {input | output} balance {bal-num}
```

## シンタックスの説明

<b>feature</b>	ACL (アクセス コントロール リスト) に対する領域バランスの調整を指定します。
<b>qos</b>	QoS (Quality Of Service) に対する領域バランスの調整を指定します。
<b>input</b>	入力 ACL および QoS に対する領域バランスの調整を指定します。
<b>output</b>	出力 ACL および QoS に対する領域バランスの調整を指定します。
<b>balance bal-num</b>	TCAM における、PandV 領域と PorV 領域の相対サイズを指定します。有効値は 1 ~ 99 です。

## デフォルト

各 TCAM のデフォルトの領域バランスは 50 です。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

PandV はフロー ラベルにおいて、ポート部分と VLAN タグ部分の両方をマスクするエントリを含む TCAM 領域です。

PorV はフロー ラベルにおいて、ポート部分か VLAN タグ部分のどちらか一方だけをマスクするエントリを含む TCAM 領域です。

バランスを 1 にすると、最小限の PandV 領域エントリ数、および最大限の PorV 領域エントリ数が割り当てられます。バランスを 99 にすると、最大限の PandV 領域エントリ数、および最小限の PorV 領域エントリ数が割り当てられます。バランスを 50 にすると、指定の TCAM において、PandV 領域と PorV 領域のエントリ数が同じになります。

4 つの TCAM は、それぞれのバランスを別々に修正できます。

## 例

次の例は、MAC アドレスをポートに追加した場合の MAC 通知トラップをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# access-list hardware region feature input balance 75
Switch(config)#
```

# action

VACL のマッチングの場合に実行されるアクションを指定するには、**action** コマンドを使用します。アクション句を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
action {drop | forward}
```

```
no action {drop | forward}
```

## シンタックスの説明

<b>drop</b>	パケットを廃棄するアクションを設定します。
<b>forward</b>	パケットを宛先に転送するアクションを設定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

VLAN アクセス マップ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

VLAN (仮想 LAN) アクセス マップでは、特定の packets タイプ (IP または MAC [メディア アクセス制御]) 用に設定されている Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) が 1 つ以上存在する場合、その packets タイプのデフォルトアクションは **drop** (拒否) です。

特定の packets タイプ用に設定されている ACL が存在しない場合は、その packets タイプのデフォルトアクションは **forward** (許可) です。

特定の packets タイプ用に設定されている ACL が空または未定義の場合は、設定されたアクションがその packets タイプに適用されます。

## 例

次に、廃棄アクションを定義する例を示します。

```
Switch(config-access-map)# action drop
Switch(config-access-map)#
```

次に、転送アクションを定義する例を示します。

```
Switch(config-access-map)# action forward
Switch(config-access-map)#
```

## 関連コマンド

**match**  
**show vlan access-map**  
**vlan access-map**

# apply

新しい VLAN (仮想 LAN) データベースを実装し、設定番号をインクリメントし、NVRAM (不揮発性 RAM) で設定番号を保存し、管理ドメイン全体に設定番号を伝えるには、**apply** コマンドを使用します。

**apply**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** VLAN コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** **apply** コマンドは、VLAN データベース モードを開始したあとに行った設定変更を実施し、これを実行コンフィギュレーションに使用します。このコマンドにより、VLAN データベース モードが開始されます。

スイッチが VLAN Trunk Protocol (VTP; VLAN トランク プロトコル) クライアント モードの場合には、このコマンドを使用することはできません。

特権 EXEC モードから **show vlan** コマンドを入力することにより、VLAN データベース変更が行われたかどうかを確認できます。

**例** 次に、新たな VLAN データベースを実装し、これを現在のデータベースとして認識する例を示します。

```
Switch(config-vlan)# apply
Switch(config-vlan)#
```

**関連コマンド**

- abort** (Cisco IOS のマニュアルを参照)
- exit** (Cisco IOS のマニュアルを参照)
- reset**
- show vlan**
- shutdown vlan** (Cisco IOS のマニュアルを参照)
- vtp** (グローバル コンフィギュレーションモード)

# arp access-list

Address Resolution Protocol (ARP; アドレス レゾリューション プロトコル) アクセス リストを定義したり、設定済みリストの末尾にコマンドを追加するには、**arp access-list** コマンドを使用します。

**arp access-list** *name*

シンタックスの説明	<i>name</i> Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) の名前を指定します。
-----------	---

デフォルト	なし
-------	----

コマンド モード	コンフィギュレーション
----------	-------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、static-hosts という名前の ARP アクセス リストを定義する例を示します。

```
Switch(config)# arp access-list static-hosts
Switch(config)#
```

関連コマンド	<a href="#">deny</a> <a href="#">ip arp inspection filter vlan</a> <a href="#">permit</a>
--------	---

# attach module

特定のモジュールにリモートから接続するには、**attach module** コンフィギュレーション コマンドを使用します。

**attach module** *mod*

シンタックスの説明	<i>mod</i>	コマンドのターゲット モジュール
-----------	------------	------------------

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権

コマンド履歴	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドが適用されるのは、Catalyst 4500 シリーズスイッチのアクセス ゲートウェイ モジュールのみです。

*mod* の有効値は、使用するシャーシによって異なります。たとえば、Catalyst 4506 シャーシを使用している場合、モジュールの有効値は 2～6 です。4507R シャーシを使用している場合、有効値は 3～7 です。

**attach module** *mod* コマンドを実行すると、プロンプトが Gateway# に変わります。

このコマンドのアクションは、**session module** *mod* および **remote login module** *mod* コマンドのアクションと同じです。

**例** 次に、アクセス ゲートウェイ モジュールにリモートからログインする例を示します。

```
Switch# attach module 5
Attaching console to module 5
Type 'exit' at the remote prompt to end the session

Gateway>
```

**関連コマンド** [remote login module](#)  
[session module](#)

## auto qos voip

QoS (Quality Of Service) ドメイン内に Voice over IP (VoIP) 用の Auto-QoS (自動 QoS) を自動設定するには、**auto qos voip** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。Auto-QoS コンフィギュレーションを標準 QoS デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
auto qos voip {cisco-phone | trust}
```

```
no auto qos voip {cisco-phone | trust}
```

### シンタックスの説明

<b>cisco-phone</b>	このインターフェイスを Cisco IP Phone に接続し、VoIP 用の QoS を自動設定します。着信パケット内の Class of Service (CoS; サービス クラス) ラベルは、IP Phone が検出された場合のみ信頼されます。
<b>trust</b>	このインターフェイスを信頼できるスイッチまたはルータに接続し、VoIP 用の QoS を自動設定します。着信パケットの CoS および DSCP ラベルは、信頼されます。

### デフォルト

Auto-QoS はすべてのインターフェイスでディセーブルです。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、QoS ドメイン内の VoIP トラフィックに適切な QoS を設定します。QoS ドメインには、QoS の着信トラフィックを分類できるスイッチ、ネットワーク内部、およびエッジデバイスが含まれます。

**cisco-phone** キーワードは、Cisco IP Phone に接続されたネットワークのエッジにあるポートで使用します。スイッチは、Cisco Discovery Protocol (CDP; シスコ検出プロトコル) を介して IP Phone を検出し、その IP Phone から受信したパケット内の CoS ラベルを信頼します。

**trust** キーワードは、ネットワーク内部に接続されたポートで使用します。トラフィックはすでに他のエッジデバイスで分類されているとみなされるので、これらのパケットの CoS/DSCP ラベルは信頼されます。

指定されたインターフェイスで Auto-QoS 機能をイネーブルにすると、自動的に次のアクションが発生します。

- QoS がグローバルにイネーブルになります (**qos** グローバル コンフィギュレーション コマンド)。
- DBL がグローバルにイネーブルになります (**qos dbi** グローバル コンフィギュレーション コマンド)。
- **auto qos voip cisco-phone** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力した場合は、信頼性のある境界機能がイネーブルになります。Cisco IP Phone の有無の検出には、CDP が使用されます。Cisco IP Phone が検出されると、特定のインターフェイス上の入力分類は、パケットで受信された CoS ラベルを信頼するように設定されます。これは、一部の古い IP Phone では DSCP がマークされないためです。Cisco IP Phone が存在しない場合、入力分類はパケットの CoS ラベルを信頼しないよう設定されます。

- **auto qos voip trust** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力すると、指定されたインターフェイスがレイヤ2として設定されている場合、このインターフェイス上の入力分類はパケットで受信された CoS ラベルを信頼するように設定されます（このインターフェイスがレイヤ3として設定されている場合は、DSCP を信頼するように設定されます）。

スタティック ポート、ダイナミック アクセス ポート、音声 VLAN（仮想 LAN）アクセス ポート、およびトランク ポートで Auto-QoS をイネーブルにできます。

Auto-QoS がイネーブルの場合に自動生成される QoS コンフィギュレーションを表示するには、Auto-QoS をイネーブルにする前にデバッグをイネーブルにします。Auto-QoS デバッグをイネーブルにするには、**debug auto qos** 特権 EXEC コマンドを使用します。

インターフェイス上で Auto-QoS をディセーブルにするには、**no auto qos voip** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。このコマンドを入力すると、標準 QoS がイネーブルになり、Auto-QoS 設定がそのインターフェイスの標準 QoS デフォルト設定に変更されます。Auto-QoS によって実行されたグローバル設定がこのアクションで変更されることはありません。グローバル設定は維持されます。

## 例

次に、インターフェイス GigabitEthernet 1/1 に接続されたスイッチまたはルータが信頼できるデバイスの場合に、Auto-QoS をイネーブルにし、着信パケット内で受信された CoS および DSCP ラベルを信用する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# auto qos voip trust
```

次に、インターフェイス FastEthernet 2/1 に接続されたデバイスが Cisco IP Phone として検出された場合に、Auto-QoS をイネーブルにして、着信パケット内で受信された CoS ラベルを信頼する例を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet2/1
Switch(config-if)# auto qos voip cisco-phone
```

次に、Supervisor Engine 6-E 以外の Supervisor Engine 上のインターフェイスで Auto-QoS がイネーブルになっている場合に自動的に生成される QoS 設定を表示する方法の例を示します。

```
Switch# debug auto qos
AutoQoS debugging is on
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# auto qos voip trust
Switch(config-if)#
00:00:56:qos
00:00:57:qos map cos 3 to dscp 26
00:00:57:qos map cos 5 to dscp 46
00:00:58:qos map dscp 32 to tx-queue 1
00:00:58:qos dbl
00:01:00:policy-map autoqos-voip-policy
00:01:00:  class class-default
00:01:00:  dbl
00:01:00:interface GigabitEthernet1/1
00:01:00: qos trust cos
00:01:00: tx-queue 3
00:01:00:  priority high
00:01:00:  shape percent 33
00:01:00:  service-policy output autoqos-voip-policy
Switchconfig-if)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# auto qos voip cisco-phone
Switch(config-if)#
00:00:55:qos
00:00:56:qos map cos 3 to dscp 26
00:00:57:qos map cos 5 to dscp 46
00:00:58:qos map dscp 32 to tx-queue 1
00:00:58:qos dbl
00:00:59:policy-map autoqos-voip-policy
00:00:59:  class class-default
00:00:59:  dbl
00:00:59:interface GigabitEthernet1/1
00:00:59: qos trust device cisco-phone
00:00:59: qos trust cos
00:00:59: tx-queue 3
00:00:59:  priority high
00:00:59:  shape percent 33
00:00:59:  bandwidth percent 33
00:00:59:  service-policy output autoqos-voip-policy
```

次に、Supervisor Engine 6-E 上のインターフェイスで Auto-QoS がイネーブルになっている場合に自動的に生成される QoS 設定を表示する方法の例を示します。

```
Switch#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#interface gigabitethernet3/10
Switch(config-if)#auto qos voip trust
Switch(config-if)#
1d03h:  service-policy input AutoQos-VoIP-Input-Cos-Policy
1d03h:  service-policy output AutoQos-VoIP-Output-Policy
Switch(config-if)#interface gigabitethernet3/11
Switch(config-if)#auto qos voip
cisco-phone
Switch(config-if)#
1d03h:  qos trust device cisco-phone
1d03h:  service-policy input AutoQos-VoIP-Input-Cos-Policy
1d03h:  service-policy output AutoQos-VoIP-Output-Policy
Switch(config-if)#end
Switch#
```

設定を確認するには、**show auto qos interface** コマンドを入力します。



**関連コマンド**

`debug auto qos` (Cisco IOS のマニュアルを参照)  
`qos map cos`  
`qos trust`  
`show auto qos`  
`show qos`  
`show qos interface`  
`show qos maps`

## auto-sync

NVRAM (不揮発性 RAM) のコンフィギュレーション ファイルの自動同期化をイネーブルにするには、**auto-sync** コマンドを使用します。自動同期化をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
auto-sync {startup-config | config-register | bootvar | standard}
no auto-sync {startup-config | config-register | bootvar | standard}
```

シンタックスの説明	
<b>startup-config</b>	スタートアップ コンフィギュレーションの自動同期化を指定します。
<b>config-register</b>	コンフィギュレーション レジスタ設定の自動同期化を指定します。
<b>bootvar</b>	BOOTVAR コンフィギュレーションの自動同期化を指定します。
<b>standard</b>	スタートアップ コンフィギュレーション、BOOTVAR、およびコンフィギュレーション レジスタの自動同期化を指定します。

**デフォルト** すべてのコンフィギュレーション ファイルの自動同期化は **standard** です。

**コマンド モード** 冗長メイン CPU

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました (Catalyst 4507R のみ)。

**使用上のガイドライン** **no auto-sync standard** コマンドを入力すると、自動同期化は行われません。

**例** 次に(デフォルト設定から)メイン CPU のコンフィギュレーション レジスタの自動同期化をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# config terminal
Switch (config)# redundancy
Switch (config-r)# main-cpu
Switch (config-r-mc)# no auto-sync standard
Switch (config-r-mc)# auto-sync configure-register
Switch (config-r-mc)#
```

**関連コマンド** [redundancy](#)

# bandwidth

物理ポートに対応付けられているポリシー マップに属するクラスに割り当てられた最小限の帯域幅を指定または修正するには、**bandwidth** ポリシーマップ クラス コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**bandwidth** {*bandwidth-kbps* | **percent percent** | **remaining percent percent**}

**no bandwidth**

シンタックスの説明		
<i>bandwidth-kbps</i>		クラスに割り当てられている帯域幅の量 (単位は kbps)。範囲は 32 ~ 16,000,000 です。
<b>percent percent</b>		親クラスに割り当てられている使用可能な帯域幅の割合。範囲は 1 ~ 100 です。
<b>remaining percent percent</b>		親クラスに割り当てられている帯域幅の残りの割合。範囲は 1 ~ 100 です。このコマンドは、プライオリティ キューイング クラスが設定されていて、そのプライオリティ キューイングがレート制限されていない場合のみサポートされます。

## デフォルト

帯域幅は指定されていません。

## コマンド モード

ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドは Supervisor Engine 6E を使用する Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

**bandwidth** コマンドは物理ポートに対応付けられたポリシー マップにのみ使用します。

**bandwidth** コマンドでは、スイッチにトラフィックの輻輳が起きた場合、そのクラスのトラフィックに最小限の帯域幅を指定します。スイッチで輻輳が起きていない場合、クラスはこのコマンドでの指定より多くの帯域幅を受け取ります。

帯域幅の明示的な設定がなくキューイング クラスが設定された場合、キューには最低限の帯域幅が保証されていないため、ポートに割り当てられていない帯域幅の一部を得ます。

新しいキューに対して割り当てられていない帯域幅がない場合や、割り当てられていない帯域幅が、帯域幅の明示的な設定がないすべてのキューに対して設定可能な最小限の割合に満たない場合、ポリシーの関連付けは却下されます。

**bandwidth** コマンドには次の制限があります。

- **percent** キーワードを使用した場合、1 つのポリシー マップ内におけるクラス帯域幅の割合の合計が 100 を超過することはできません。割合の計算は、ポートで使用可能な帯域幅を基準としています。
- 設定した帯域幅の量はレイヤ 2 のオーバーヘッドにも対応できるものである必要があります。
- ポリシー マップでは、すべてのクラスの帯域幅を **kbps** またはパーセンテージを使用して指定できますが、両方を使用することはできません。

**例** 次に、*silver-class* というクラスの最低限の帯域幅を 2,000 kbps に設定する方法の例を示します。このクラスはすでにスイッチの設定に存在しています。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# policy-map polmap6
Switch(config-pmap)# class silver-class
Switch(config-pmap-c)# bandwidth 2000
Switch(config-pmap-c)# end
```

次に、CBWFQ が設定されているときに *class1* に 30 パーセントの帯域幅を、*class2* に 25 パーセントの帯域幅を保証する方法の例を示します。2 つのクラスを持つポリシー マップが作成され、その後物理ポートに対応付けられます。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# policy-map policy1
Switch(config-pmap)# class class1
Switch(config-pmap-c)# bandwidth percent 50
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# class class2
Switch(config-pmap-c)# bandwidth percent 25
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# end
Switch(config)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# service-policy input policy1
Switch(config-if)# end
```

次に、Low Latency Queuing (LLQ; 低遅延キューイング) および帯域幅が設定されているときの帯域幅の保証の例を示します。この例では、*voice1* というクラスで LLQ がイネーブルになっています。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# policy-map policy1
Switch(config-pmap)# class class1
Switch(config-pmap-c)# bandwidth remaining percent 50
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# class class2
Switch(config-pmap-c)# bandwidth remaining percent 25
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# class voice1
Switch(config-pmap-c)# priority
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# end
Switch(config)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# service-policy output policy1
Switch(config-if)# end
```

`show policy-map` 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

## 関連コマンド

- [class](#)
- [policy-map](#)
- [priority](#)
- [dbl](#)
- [service-policy \(ポリシーマップクラス\)](#)
- [shape \(クラスベース キューイング\)](#)
- [show policy-map](#)

# channel-group

EtherChannel インターフェイスの EtherChannel グループへの割り当て、または設定を行うには、**channel-group** コマンドを使用します。インターフェイスからチャンネル グループ コンフィギュレーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
channel-group number mode {active | on | auto [non-silent]} | {passive | desirable [non-silent]}
no channel-group
```

## シンタックスの説明

<b>number</b>	チャンネル グループ番号を指定します。有効値は 1 ～ 64 です。
<b>mode</b>	インターフェイスの EtherChannel モードを指定します。
<b>active</b>	LACP を無条件にイネーブルにします。
<b>on</b>	強制的にポートを Port Aggregation Protocol (PAgP; ポート集約プロトコル) のないチャンネルに設定します。
<b>auto</b>	ポートをパッシブ ネゴシエーション ステートにします。ポートは受信した PAgP パケットに応答しますが、PAgP パケット ネゴシエーションは開始しません。
<b>non-silent</b>	(任意) トラフィックが他の装置から送信されることが予想される場合に auto モードまたは desirable モードとともに使用されます。
<b>passive</b>	LACP 装置が検出された場合に限り、LACP をイネーブルにします。
<b>desirable</b>	ポートをアクティブ ネゴシエーション ステートにします。ポートは PAgP パケットを送信して、他のポートとのネゴシエーションを開始します。

## デフォルト

チャンネル グループは割り当てられません。

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(13)EW	LACP のサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

物理インターフェイスをチャンネル グループに割り当てる前にポート チャンネル インターフェイスを作成する必要はありません。ポート チャンネル インターフェイスが作成されていない場合、ポート チャンネル インターフェイスは、そのチャンネル グループの最初の物理インターフェイスが作成されたときに自動的に作成されます。

チャンネル グループの PAgP がイネーブルに設定されているインターフェイスに使用されている特定のチャンネル番号は、LACP がイネーブルに設定されているインターフェイスを含むチャンネルを設定する場合に使用できません。その逆も同様です。

**interface port-channel** コマンドを入力してポート チャンネルを作成することもできます。この場合には、レイヤ 3 ポート チャンネルが作成されます。レイヤ 3 ポート チャンネルをレイヤ 2 ポート チャンネルに変更するには、物理インターフェイスをチャンネル グループに割り当てる前に **switchport** コマンドを使用してください。ポート チャンネルにメンバポートがある場合には、ポート チャンネルをレイヤ 3 からレイヤ 2、またはレイヤ 2 からレイヤ 3 に変更することはできません。

チャンネル グループの一部である物理インターフェイスに割り当てられた IP アドレスをディセーブルにする必要はありませんが、ディセーブルにすることを推奨します。

ポート チャネル インターフェイスに行われた設定変更または属性変更は、ポート チャネルとして同じチャンネル グループ内のすべてのインターフェイスに伝えられます (たとえば、設定変更は、そのポート チャネルの一部ではないが、そのチャンネル グループの一部である物理インターフェイスにも伝えられます)。

**on** モードで 2 つのポート グループを接続することにより、使用可能な EtherChannel を作成できます。

**注意**

物理 EtherChannel インターフェイスでレイヤ 3 アドレスをイネーブルにしないでください。物理 EtherChannel インターフェイス上でブリッジ グループを割り当てないでください。ループが生じます。

**例**

次に、インターフェイス GigabitEthernet 1/1 をポート チャネル 45 によって指定された EtherChannel グループに追加する例を示します。

```
Switch(config-if)# channel-group 45 mode on  
Creating a port-channel interface Port-channel45  
Switch(config-if)#
```

**関連コマンド**

**interface port-channel**

**show interfaces port-channel** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

# channel-protocol

インターフェイス上で LACP または Port Aggregation Protocol (PAgP; ポート集約プロトコル) をイネーブルにするには、**channel-protocol** コマンドを使用します。これらのプロトコルをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
channel-protocol {lACP | pagP}
```

```
no channel-protocol {lACP | pagP}
```

シンタックスの説明	lACP	channel-protocol {lACP   pagP}
	lACP	チャネリングを管理するために LACP をイネーブルにします。
	pagP	チャネリングを管理するために PAgP をイネーブルにします。

デフォルト PAgP

コマンドモード インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Supervisor Engine I が搭載されているシステムではサポートされません。

**channel-group** コマンドを使用して、プロトコルを選択することもできます。

インターフェイスがチャンネルに属する場合は、このコマンドの **no** 形式を使用しても拒否されます。

同じ EtherChannel に属するすべてのポートでは、同じプロトコルを使用する必要があります。1 つのモジュールで 2 つのプロトコルを実行することはできません。

PAgP と LACP には互換性がありません。チャンネルの両端で同じプロトコルを使用する必要があります。

スイッチを手動で設定し、一方の側で PAgP、反対側で LACP を **on** モードにできます。

プロトコルはいつでも変更できます。ただし、変更した場合は、新しいプロトコルに対して、既存のすべての EtherChannel がデフォルトチャンネルモードにリセットされます。**channel-protocol** コマンドを使用すると、選択されたプロトコルに適用不可能なモードを選択できなくなります。

EtherChannel 内のすべてのポートを、同じ速度および同じデュプレックス モード (LACP モードの場合は全二重のみ) で動作するように設定してください。

詳細な注意事項については、『*Catalyst 4500 Series Switch Cisco IOS Software Configuration Guide*』の「Configuring EtherChannel」を参照してください。

例 次に、インターフェイスでチャネリングを管理するために LACP を選択する例を示します。

```
Switch(config-if)# channel-protocol lACP
Switch(config-if)#
```

関連コマンド **channel-group**  
**show etherchannel**

# class

トラフィック ポリシーを作成または変更するクラスの名前を指定するには、**class** ポリシーマップ コンフィギュレーション コマンドを使用します。ポリシー マップから既存のクラスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**class** *class-name*

**no class** *class-name*

## シンタックスの説明

<i>class-name</i>	トラフィック ポリシーを設定または変更する定義済みのトラフィック クラス名。このクラスはすでに <b>class-map</b> <i>class-map-name</i> グローバル コンフィギュレーション コマンドで作成されています。
-------------------	---

## デフォルト

class-default 以外のクラスは定義されていません。

## コマンドモード

ポリシーマップ コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

**class** コマンドを使用する前に、**class-map** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してクラスに対応するパケットのクラス マップを作成する必要があります。ポリシー マップを指定し、ポリシー マップ コンフィギュレーション モードに入るために、**policy-map** グローバル コンフィギュレーション コマンドも使用する必要があります。ポリシー マップを指定したら新しいクラスに対してトラフィック ポリシーを設定するか、そのポリシー マップ内に既存するクラスのトラフィック ポリシーを変更することができます。ポリシー マップに **class** コマンドで指定するクラス名は、そのクラスの実行 (ポリシー) を、**class-map** グローバル コンフィギュレーション コマンドで設定したように、クラス マップとその一致基準に関係付けます。ポリシー マップは **service-policy (インターフェイス コンフィギュレーション)** コンフィギュレーション コマンドを使用してポートに対応付けます。

**class** コマンドの入力後、スイッチはポリシーマップ クラス コンフィギュレーション モードになり、次のコンフィギュレーション コマンドが使用可能になります。

- **bandwidth** — ポリシー マップに属するクラスの最小限の帯域幅を指定または変更します。詳細については、**bandwidth** コマンドを参照してください。このコマンドは Supervisor Engine 6-E のみ使用できます。
- **dbl** — このクラスのトラフィックに対し Dynamic Buffer Limiting (DBL) をイネーブルにします。dbl パラメータの詳細については、**show qos dbl** コマンドを参照してください。
- **exit** — ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、ポリシーマップ コンフィギュレーション モードに戻ります。
- **no** — コマンドをデフォルトの設定に戻します。
- **police** — トラフィックのクラスに Committed Information Rate (CIR; 認定情報レート) および Peak Information Rate (PIR; 最大情報レート) を使用する 1 レート ポリサー、集約ポリサー、または 2 レート トラフィック ポリサーを設定します。ポリサーは帯域幅の制限と制限を超過した場合のアクションを指定します。詳細については、**police** コマンドを参照してください。2 レート ポリサーの詳細については、**police (2 レート)** および **police (パーセント)** コマンドを参照してください。2 レート トラフィック ポリサーは、Supervisor Engine 6-E のみサポートされています。

- **priority** — トラフィックのクラスに対し、完全優先キューをイネーブルにします。詳細については、**priority** コマンドを参照してください。このコマンドは Supervisor Engine 6-E でのみ有効です。
- **service-policy (ポリシーマップクラス)** — サービス ポリシーをポリシー マップ内の (階層サービス ポリシーと呼ばれる) QoS (Quality of Service) ポリシーとして作成します。詳細については、**service-policy (ポリシーマップクラス)** コマンドを参照してください。このコマンドはインターフェースに対応付けられている階層ポリシー マップのみで有効です。
- **set** — パケットに Class of Service (CoS; サービス クラス)、Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServ コードポイント)、IP precedence を設定し IP トラフィックを分類します。詳細については、**set** コマンドを参照してください。
- **shape (クラスベース キューイング)** — ポリシー マップにトークンバケットの CIR を設定します。詳細については、**shape (クラスベース キューイング)** コマンドを参照してください。このコマンドは Supervisor Engine 6-E でのみ有効です。
- **trust** — トラフィック クラスの信頼状態を定義します。詳細については、**trust** コマンドを参照してください。このコマンドは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

スイッチはデフォルトのクラスも含めポリシー マップ内で最大 256 のクラスをサポートしています。一致基準に満たないパケットはデフォルトのトラフィック クラスのメンバに分類されます。**class** ポリシーマップ コンフィギュレーション コマンドにクラス名として **class-default** を指定し、デフォルトのトラフィック クラスを設定します。デフォルトのトラフィック クラス (ポリシングまたはシェーピングのためにポリシーを設定するなど) は他のトラフィック クラスと同様に操作できますが、削除することはできません。

ポリシーマップ コンフィギュレーション モードに戻るには、**exit** コマンドを使用します。特権 EXEC モードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

## 例

次に、*policy1* というポリシー マップを作成する方法の例を示します。入力ポートに対応付けられている場合、*class1* に定義されているすべての着信トラフィックにポリシーは一致し、IP DSCP を 10 に設定し、トラフィックを平均レート 1 Mbps およびバースト 20 KB にポリシングします。プロファイルを超過するトラフィックは、ポリシングされた DSCP マップから取得した DSCP 値にマークダウンされ送信されます。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# class-map class1
Switch(config-cmap)# exit
Switch(config)# policy-map policy1
Switch(config-pmap)# class class1
Switch(config-pmap-c)# set ip dscp 10
Switch(config-pmap-c)# police 1000000 20000 exceed-action policed-dscp-transmit
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# exit
Switch(config)# interface fastethernet1/0/4
Switch(config-if)# service-policy input policy1
Switch#
```

**show policy-map** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

## 関連コマンド

**bandwidth**  
**class-map**  
**dbl**  
**police**  
**police (パーセント)**  
**police rate**  
**policy-map**  
**priority**



[service-policy \(インターフェイス コンフィギュレーション\)](#)  
[service-policy \(ポリシーマップ クラス\)](#)  
[set](#)  
[shape \(クラスベース キューイング\)](#)  
[show policy-map](#)  
[trust](#)

## class-map

名前を指定するクラスに一致するパケットに使用するクラス マップを作成し、クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始するには、**class-map** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。既存のクラス マップを削除し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻るには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
class-map [match-all | match-any] class-map-name
```

```
no class-map [match-all | match-any] class-map-name
```

### シンタックスの説明

<b>match-all</b>	(任意) このクラス マップ下で一致するすべてのものに論理 AND を実行します。クラス マップのすべての基準に一致する必要があります。
<b>match-any</b>	(任意) このクラス マップ下で一致するステートメントに論理 OR を実行します。クラス マップの 1 つ以上の基準に一致する必要があります。
<i>class-map-name</i>	クラス マップ名です。

### デフォルト

クラス マップは定義されていません。

**match-all** または **match-any** キーワードのいずれの指定もない場合、デフォルトは **match-all** になります。

### コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

クラスマップ一致基準を作成または変更するクラスの名前を指定し、クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始するには、このコマンドを使用します。パケットはクラス マップに対して設定された一致基準と照合され、そのクラスに属するか判断されます。パケットが指定した基準に一致する場合、パケットはクラスのメンバとみなされ、トラフィック ポリシーに設定された QoS 仕様に基づいて転送されます。

**class-map** コマンドの入力後、スイッチはクラスマップ コンフィギュレーション モードを開始し、次のコンフィギュレーション コマンドが使用可能になります。

- **description** — クラス マップ (最大 200 文字) の説明です。 **show class-map** 特権 EXEC コマンドによってクラス マップの説明と名前が表示されます。
- **exit** — QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを終了します。

- **match** — 分類基準を設定します。詳細については、[match \(クラスマップ コンフィギュレーション\)](#) コマンドを参照してください。
- **no** — クラスマップから一致ステートメントを削除します。

**例** 次に、103 というアクセス リストである 1 つの一致基準を持つ *class1* というクラス マップを設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# access-list 103 permit any any dscp 10
Switch(config)# class-map class1
Switch(config-cmap)# match access-group 103
Switch(config-cmap)# exit
Switch#
```

次に、*class1* クラス マップを削除する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# no class-map class1
Switch#
```

**show class-map** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

#### 関連コマンド

[class](#)  
[match \(クラスマップ コンフィギュレーション\)](#)  
[policy-map](#)  
[show class-map](#)

# clear counters

インターフェイスカウンタをクリアするには、**clear counters** コマンドを使用します。

```
clear counters [{FastEthernet interface_number} | {GigabitEthernet interface_number} | {null
interface_number} | {port-channel number} | {vlan vlan_id}]
```

シンタックスの説明		
<b>FastEthernet interface_number</b>	(任意) ファストイーサネットインターフェイスを指定します。有効値は 1～9 です。	
<b>GigabitEthernet interface_number</b>	(任意) ギガビットイーサネットインターフェイスを指定します。有効値は 1～9 です。	
<b>null interface_number</b>	(任意) ヌルインターフェイスを指定します。有効値は 0 です。	
<b>port-channel number</b>	(任意) チャンネルインターフェイスを指定します。有効値は 1～64 です。	
<b>vlan vlan_id</b>	(任意) VLAN (仮想 LAN) を指定します。有効値は 1～4096 です。	

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** インターフェイスが指定されていない場合、このコマンドはすべてのインターフェイスの現在のインターフェイスカウンタをクリアします。



(注)

このコマンドは、SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) で検索されたカウンタはクリアせず、**show interface counters** コマンドを入力したときに表示されるカウンタだけをクリアします。

**例** 次に、すべてのインターフェイスカウンタをクリアする例を示します。

```
Switch# clear counters
Clear "show interface" counters on all interfaces [confirm] y
Switch#
```

次に、特定のインターフェイスのカウンタをクリアする例を示します。

```
Switch# clear counters vlan 200
Clear "show interface" counters on this interface [confirm] y
Switch#
```

**関連コマンド** **show interface counters** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

# clear hw-module slot password

インテリジェント回線モジュールのパスワードをクリアするには、**clear hw-module slot password** コマンドを使用します。

```
clear hw-module slot slot_num password
```

シンタックスの説明	<i>slot_num</i> 回線モジュール上のスロットです。				
デフォルト	パスワードはクリアされていません。				
コマンドモード	特権 EXEC モード				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12.2(18)EW</td> <td>このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
リリース	変更内容				
12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。				
使用上のガイドライン	パスワードがリセットされないかぎり、必要なパスワードの変更は1度きりです。				
例	次に、回線モジュールのスロット 5 のパスワードをクリアする例を示します。  Switch# <b>clear hw-module slot 5 password</b> Switch#				
関連コマンド	<a href="#">hw-module power</a>				

# clear interface gigabitethernet

ギガビットイーサネット IEEE 802.3z インターフェイスからハードウェア ロジックをクリアするには、**clear interface gigabitethernet** コマンドを使用します。

```
clear interface gigabitethernet mod/port
```

## シンタックスの説明

<i>mod/port</i>	モジュールおよびポートの番号です。
-----------------	-------------------

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 例

次に、ギガビットイーサネット IEEE 802.3z インターフェイスからハードウェア ロジックをクリアする例を示します。

```
Switch# clear interface gigabitethernet 1/1  
Switch#
```

## 関連コマンド

[show interfaces status](#)

# clear interface vlan

VLAN（仮想 LAN）のハードウェア ロジックをクリアするには、**clear interface vlan** コマンドを使用します。

**clear interface vlan** *number*

## シンタックスの説明

<i>number</i>	VLAN インターフェイス番号です。有効値は 1 ～ 4,094 です。
---------------	--------------------------------------

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンド モード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。

## 例

次に、特定の VLAN からハードウェア ロジックをクリアする例を示します。

```
Switch# clear interface vlan 5
Switch#
```

## 関連コマンド

[show interfaces status](#)

## clear ip access-template

アクセス リストの統計情報をクリアするには、**clear ip access-template** コマンドを使用します。

```
clear ip access-template access-list
```

シンタックスの説明	<i>access-list</i>	アクセス リスト番号です。有効値は IP 拡張アクセス リストについては 100 ~ 199、拡張範囲 IP 拡張アクセス リストについては 2,000 ~ 2,699 です。
-----------	--------------------	--

デフォルト このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

例 次に、アクセス リストの統計情報をクリアする例を示します。

```
Switch# clear ip access-template 201
Switch#
```

## clear ip arp inspection log

ログ バッファのステータスをクリアするには、**clear ip arp inspection log** コマンドを使用します。

```
clear ip arp inspection log
```

シンタックスの説明 このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

デフォルト このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

例 次に、ログ バッファの内容をクリアする例を示します。

```
Switch# clear ip arp inspection log
Switch#
```

関連コマンド [arp access-list](#)  
[show ip arp inspection log](#)

# clear ip arp inspection statistics

Dynamic ARP Inspection (DAI; ダイナミック ARP インспекション) 統計情報をクリアするには、**clear ip arp inspection statistics** コマンドを使用します。

```
clear ip arp inspection statistics [vlan vlan-range]
```

## シンタックスの説明

**vlan *vlan-range*** (任意) VLAN (仮想 LAN) 範囲を指定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 例

次に、VLAN 1 の DAI 統計情報をクリアして、その状態を確認する例を示します。

```
Switch# clear ip arp inspection statistics vlan 1
Switch# show ip arp inspection statistics vlan 1

Vlan      Forwarded      Dropped      DHCP Drops      ACL Drops
-----
1          0              0            0              0

Vlan      DHCP Permits    ACL Permits    Source MAC Failures
-----
1          0              0              0

Vlan      Dest MAC Failures  IP Validation Failures
-----
1          0                  0

Switch#
```

## 関連コマンド

[arp access-list](#)  
[clear ip arp inspection log](#)  
[show ip arp inspection](#)



# clear ip dhcp snooping database

DHCP バインディング データベースをクリアするには、**clear ip dhcp snooping database** コマンドを使用します。

**clear ip dhcp snooping database**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、DHCP バインディング データベースをクリアする例を示します。

```
Switch# clear ip dhcp snooping database
Switch#
```

**関連コマンド**

- [ip dhcp snooping](#)
- [ip dhcp snooping binding interface](#) (Cisco IOS のマニュアルを参照)
- [ip dhcp snooping information option](#)
- [ip dhcp snooping trust](#)
- [ip dhcp snooping vlan](#)
- [show ip dhcp snooping](#)
- [show ip dhcp snooping binding](#)

# clear ip dhcp snooping database statistics

DHCP バインディング データベース統計情報をクリアするには、**clear ip dhcp snooping database statistics** コマンドを使用します。

**clear ip dhcp snooping database statistics**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、DHCP バインディング データベースをクリアする例を示します。

```
Switch# clear ip dhcp snooping database statistics
Switch#
```

**関連コマンド**

- [ip dhcp snooping](#)
- [ip dhcp snooping binding](#)
- [ip dhcp snooping information option](#)
- [ip dhcp snooping trust](#)
- [ip dhcp snooping vlan](#)
- [show ip dhcp snooping](#)
- [show ip dhcp snooping binding](#)

# clear ip igmp group

Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) グループ キャッシュ エントリを削除するには、**clear ip igmp group** コマンドを使用します。

```
clear ip igmp group [{fastethernet mod/port} | {GigabitEthernet mod/port} | {host_name |
group_address} {Loopback interface_number} | {null interface_number} | {port-channel number}
| {vlan vlan_id}]
```

## シンタックスの説明

<b>fastethernet</b>	(任意) ファストイーサネットインターフェイスを指定します。
<i>mod/port</i>	(任意) モジュールおよびポートの番号です。
<b>GigabitEthernet</b>	(任意) ギガビットイーサネットインターフェイスを指定します。
<i>host_name</i>	(任意) Domain Name System (DNS; ドメインネームシステム) ホストテーブルまたは <b>ip host</b> コマンドで定義されているホスト名です。
<i>group_address</i>	(任意) 4 分割ドット表記で記載されたマルチキャストグループのアドレスです。
<b>Loopback interface_number</b>	(任意) ループバックインターフェイスを指定します。有効値は 0 ~ 2,147,483,647 です。
<b>null interface_number</b>	(任意) ヌルインターフェイスを指定します。有効値は 0 です。
<b>port-channel number</b>	(任意) チャンネルインターフェイスを指定します。有効値は 1 ~ 64 です。
<b>vlan vlan_id</b>	(任意) VLAN (仮想 LAN) を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

IGMP キャッシュには、直接接続されている LAN のホストがメンバであるマルチキャストグループのリストが含まれています。

すべてのエントリを IGMP キャッシュから削除する場合は、引数なしで **clear ip igmp group** コマンドを入力します。

## 例

次に、IGMP キャッシュから特定のグループのエントリをクリアする例を示します。

```
Switch# clear ip igmp group 224.0.255.1
Switch#
```

次に、特定のインターフェイスから、IGMP グループ キャッシュ エントリをクリアする例を示します。

```
Switch# clear ip igmp group gigabitethernet 2/2
Switch#
```

**関連コマンド**

`ip host` (Cisco IOS のマニュアルを参照)  
`show ip igmp groups` (Cisco IOS のマニュアルを参照)  
[show ip igmp interface](#)

## clear ip igmp snooping membership

明示的なホスト追跡データベースをクリアするには、`clear ip igmp snooping membership` コマンドを使用します。

```
clear ip igmp snooping membership [vlan vlan_id]
```

**シンタックスの説明**

<code>vlan <i>vlan_id</i></code>	(任意) VLAN (仮想 LAN) を指定します。有効値は 1 ~ 1,001 および 1,006 ~ 4,094 です。
----------------------------------	--

**デフォルト**

このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード**

特権 EXEC モード

**コマンド履歴**

リリース	変更内容
12.1(20)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン**

明示的なホスト追跡データベースには、デフォルトで最大 1 KB のエントリを格納できます。この制限に達すると、データベースに新規エントリを作成できなくなります。さらにエントリを作成するには、`clear ip igmp snooping statistics vlan` コマンドを使用して、データベースを削除する必要があります。

**例**

次に、VLAN 25 の Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) スヌーピング統計情報を表示する例を示します。

```
Switch# clear ip igmp snooping membership vlan 25
Switch#
```

**関連コマンド**

[ip igmp snooping vlan explicit-tracking](#)  
[show ip igmp snooping membership](#)

# clear ip mfib counters

グローバル MFIB カウンタおよびすべてのアクティブ MFIB ルートのカウンタをクリアするには、**clear ip mfib counters** コマンドを使用します。

```
clear ip mfib counters
```

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、すべてのアクティブ MFIB ルートおよびグローバルカウンタをクリアする例を示します。

```
Switch# clear ip mfib counters
Switch#
```

**関連コマンド** [show ip mfib](#)

# clear ip mfib fastdrop

すべての MFIB 高速廃棄エントリをクリアするには、**clear ip mfib fastdrop** コマンドを使用します。

**clear ip mfib fastdrop**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 新しい高速廃棄パケットが到着すると、新しい高速廃棄エントリが作成されます。

**例** 次に、すべての高速廃棄エントリをクリアする例を示します。

```
Switch# clear ip mfib fastdrop
Switch#
```

**関連コマンド**

- [ip mfib fastdrop](#)
- [show ip mfib fastdrop](#)

## clear lacp counters

特定のチャンネル グループに属するすべてのインターフェイスの統計情報をクリアするには、**clear lacp counters** コマンドを使用します。

```
clear lacp [channel-group] counters
```

シンタックスの説明	<i>channel-group</i> (任意) チャンネルグループの番号です。有効値は 1 ~ 64 です。
-----------	--

デフォルト	このコマンドにデフォルト設定はありません。
-------	-----------------------

コマンドモード	特権 EXEC モード
---------	-------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

使用上のガイドライン	<p>このコマンドは、Supervisor Engine I が搭載されているシステムではサポートされません。</p> <p><code>channel group</code> を指定しない場合は、すべてのチャンネル グループがクリアされます。</p> <p>Port Aggregation Protocol (PAgP; ポート集約プロトコル) モードのメンバを含むチャンネル グループにこのコマンドを入力しても、無視されます。</p>
------------	---

例	次に、特定のグループの統計情報をクリアする例を示します。
---	------------------------------

```
Switch# clear lacp 1 counters
Switch#
```

関連コマンド	<a href="#">show lacp</a>
--------	---------------------------

# clear mac-address-table

グローバル カウンタ エントリをレイヤ 2 MAC (メディア アクセス制御) アドレス テーブルからクリアするには、**clear mac-address-table dynamic** コマンドを使用します。

```
clear mac-address-table {dynamic [{address mac_addr} | {interface interface}] [vlan vlan_id] | notification}
```

## シンタックスの説明

<b>dynamic</b>	ダイナミック エントリのタイプを指定します。
<b>address mac_addr</b>	(任意) MAC アドレスを指定します。
<b>interface interface</b>	(任意) インターフェイスを指定して、それに対応付けられるエントリをクリアします。有効値は <b>FastEthernet</b> および <b>GigabitEthernet</b> です。
<b>vlan vlan_id</b>	(任意) VLAN (仮想 LAN) を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。
<b>notification</b>	MAC 変更通知のグローバル カウンタを指定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンド モード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。
12.2(31)SG	MAC アドレス通知のグローバル カウンタのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

すべてのダイナミック エントリをテーブルから削除するには、**clear mac-address-table dynamic** コマンドを引数なしで入力します。

**clear mac-address-table notification** コマンドは、**show mac-address-table notification** コマンドによって表示されるグローバル カウンタのみをクリアします。CISCO-MAC-NATIFICATION-MIB のグローバル カウンタおよび履歴テーブルはクリアされません。

## 例

次に、特定インターフェイス (gi1/1) のすべてのダイナミック レイヤ 2 エントリをクリアする例を示します。

```
Switch# clear mac-address-table dynamic interface gi1/1
Switch#
```

次に、MAC アドレス通知カウンタをクリアする例を示します。

```
Switch# clear mac-address-table notification
Switch#
```

## 関連コマンド

[clear mac-address-table dynamic](#)  
[mac-address-table aging-time](#)  
[mac-address-table notification](#)  
[main-cpu](#)  
[show mac-address-table address](#)



[mac-address-table notification](#)  
[snmp-server enable traps](#)  
[snmp trap mac-notification change](#)

## clear mac-address-table dynamic

ダイナミック アドレス エントリをレイヤ 2 MAC (メディア アクセス制御) アドレス テーブルからクリアするには、**clear mac-address-table dynamic** コマンドを使用します。

```
clear mac-address-table dynamic [{address mac_addr} | {interface interface}] [vlan vlan_id]
```

### シンタックスの説明

<b>address mac_addr</b>	(任意) MAC アドレスを指定します。
<b>interface interface</b>	(任意) インターフェイスを指定して、それに対応付けられるエントリをクリアします。有効値は <b>FastEthernet</b> および <b>GigabitEthernet</b> です。
<b>vlan vlan_id</b>	(任意) VLAN (仮想 LAN) を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

すべてのダイナミック エントリをテーブルから削除するには、**clear mac-address-table dynamic** コマンドを引数なしで入力します。

### 例

次に、特定インターフェイス (gi1/1) のすべてのダイナミック レイヤ 2 エントリをクリアする例を示します。

```
Switch# clear mac-address-table dynamic interface gi1/1
Switch#
```

### 関連コマンド

[mac-address-table aging-time](#)  
[main-cpu](#)  
[show mac-address-table address](#)

# clear pagp

ポート チャネル情報をクリアするには、**clear pagp** コマンドを使用します。

```
clear pagp {group-number | counters}
```

## シンタックスの説明

<i>group-number</i>	チャネルグループ番号です。有効値は 1 ～ 64 です。
<b>counters</b>	トラフィック フィルタをクリアします。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 例

次に、特定グループのポート チャネル情報をクリアする例を示します。

```
Switch# clear pagp 32
Switch#
```

次に、ポート チャネルトラフィック フィルタをすべてクリアする例を示します。

```
Switch# clear pagp counters
Switch#
```

## 関連コマンド

[show pagp](#)

## clear port-security

MAC (メディア アクセス制御) アドレス テーブルからすべての設定済みセキュアアドレス、もしくはインターフェイス上の特定のダイナミックまたはスティッキ セキュアアドレスを削除するには、**clear port-security** コマンドを使用します。

```
clear port-security dynamic [address mac-addr [vlan vlan-id]] [interface interface-id] [vlan access | voice]
```

シンタックスの説明	dynamic	すべてのダイナミック セキュア MAC アドレスを削除します。
	address mac-addr	(任意) 指定したセキュア MAC アドレスを削除します。
	vlan vlan-id	(任意) 指定した VLAN (仮想 LAN) から指定したセキュア MAC アドレスを削除します。
	interface interface-id	(任意) 指定した物理ポートまたはポート チャネルのセキュア MAC アドレスを削除します。
	vlan access	(任意) アクセス VLAN からセキュア MAC アドレスを削除します。
	vlan voice	(任意) 音声 VLAN からセキュア MAC アドレスを削除します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** 特権 EXEC モード

**使用上のガイドライン** **clear port-security all** コマンドを入力すると、スイッチはすべてのダイナミック セキュア MAC アドレスを MAC アドレス テーブルから削除します。



**(注)** **no switchport port-security mac-address** コマンドを使用する場合は、スティッキおよびスタティック MAC アドレスを一度に1つだけクリアできます。

**clear port-security dynamic interface interface-id** コマンドを入力すると、スイッチはインターフェイス上のすべてのダイナミック セキュア MAC アドレスを MAC アドレス テーブルから削除します。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.2(31)SG	スティッキ ポートセキュリティのサポートが追加されました。

**例** 次に、MAC アドレス テーブルからすべてのダイナミック セキュア アドレスを削除する例を示します。

```
Switch# clear port-security dynamic
```

次に、MAC アドレス テーブルからダイナミック セキュア アドレスを削除する例を示します。

```
Switch# clear port-security dynamic address 0008.0070.0007
```

## ■ clear port-security

次に、特定のインターフェイスで学習したダイナミック セキュア アドレスをすべて削除する例を示します。

```
Switch# clear port-security dynamic interface gigabitethernet0/1
```

情報が削除されたことを確認するには、**show port-security** コマンドを入力します。

---

関連コマンド

[show port-security](#)  
[show diagnostic result module test 2](#)

# clear qos

グローバルおよびインターフェイスごとの集約 QoS (Quality Of Service) カウンタをクリアするには、**clear qos** コマンドを使用します。

```
clear qos [aggregate-policer [name] | interface {{fastethernet | GigabitEthernet} {mod/interface}} |
          vlan {vlan_num} | port-channel {number}]
```

## シンタックスの説明

<b>aggregate-policer</b> <i>name</i>	(任意) 集約ポリサーを指定します。
<b>interface</b>	(任意) インターフェイスを指定します。
<b>fastethernet</b>	(任意) ファストイーサネット 802.3 インターフェイスを指定します。
<b>GigabitEthernet</b>	(任意) ギガビットイーサネット 802.3z インターフェイスを指定します。
<i>mod/interface</i>	(任意) モジュールおよびインターフェイスの番号です。
<b>vlan</b> <i>vlan_num</i>	(任意) VLAN (仮想 LAN) を指定します。
<b>port-channel</b> <i>number</i>	(任意) チャンネルインターフェイスを指定します。有効値は 1 ~ 64 です。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。



(注)

**clear qos** コマンドを入力すると、カウンタの動作方法が影響を受け、通常は制限されるトラフィックが短期間転送されることがあります。

**clear qos** コマンドは、インターフェイス QoS ポリシー カウンタをリセットします。インターフェイスが指定されていない場合、**clear qos** コマンドはすべてのインターフェイスの QoS ポリシー カウンタをリセットします。

## 例

次に、すべてのプロトコルでグローバルおよびインターフェイスごとの集約 QoS カウンタをクリアする例を示します。

```
Switch# clear qos
Switch#
```

次に、すべてのインターフェイスで特定プロトコルの集約 QoS カウンタをクリアする例を示します。

```
Switch# clear qos aggregate-policer
Switch#
```

## 関連コマンド

[show qos](#)

# clear vlan counters

指定された VLAN（仮想 LAN）またはすべての既存 VLAN のソフトウェアキャッシュ カウンタ値をクリアして、0 から再開させるには、**clear vlan counters** コマンドを使用します。

**clear vlan [vlan-id] counters**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>vlan-id</i> (任意) VLAN 番号です。有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
------------------	---

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** *vlan-id* 値を指定しない場合は、すべての既存 VLAN のソフトウェアキャッシュ カウンタ値がクリアされます。

**例** 次に、特定の VLAN のソフトウェアキャッシュ カウンタ値をクリアする例を示します。

```
Switch# clear vlan 10 counters
Clear "show vlan" counters on this vlan [confirm]y
Switch#
```

**関連コマンド** [show vlan counters](#)

# clear vmps statistics

VLAN Membership Policy Server (VMPS; VLAN メンバシップ ポリシー サーバ) 統計情報をクリアするには、**clear vmps statistics** コマンドを使用します。

**clear vmps statistics**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、VMPS 統計情報をクリアする例を示します。

```
Switch# clear vmps statistics
Switch#
```

**関連コマンド** [show vmps](#)  
[vmps reconfirm](#) (特権 EXEC)

# control-plane

コントロールプレーン コンフィギュレーション モードでは、装置のコントロールプレーンに関連付けられた属性またはパラメータ（サービス ポリシーなど）の関連付けまたは修正を行えます。このモードを開始するには、**control-plane** コマンドを使用します。

## control-plane

### シンタックスの説明

このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

### デフォルト

system-cpp-policy という名前のデフォルトのサービス ポリシーが付加されます。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SG	このコマンドのサポートが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。



(注)

すべてのクラスに対し、それぞれポリシー アクションを設定する必要があります。全クラスにポリシー アクションを設定しないと、トラフィックはポリシー アクションを持たないクラスをスキップし、それ以降のクラスと照合されます。

**control-plane** コマンドを入力したあとは、ルートプロセッサに対するコントロールプレーンサービスを定義できます。たとえば、コントロールプレーンに対し、このコントロールプレーン宛のすべてのトラフィックをポリシングするサービス ポリシーを関連付けることができます。

### 例

次の例では、送信元アドレス 10.1.1.1 および 10.1.1.2 を持つ信頼されたホストに対し、Telnet パケットをコントロールプレーンに制約なく転送できるように設定します。残りのすべての Telnet パケットは、指定のレートに従うようにポリシングします。

```
Switch(config)# access-list 140 deny tcp host 10.1.1.1 any eq telnet
! Allow 10.1.1.2 trusted host traffic.
Switch(config)# access-list 140 deny tcp host 10.1.1.2 any eq telnet
! Rate limit all other Telnet traffic.
Switch(config)# access-list 140 permit tcp any any eq telnet
! Define class-map "telnet-class."
Switch(config)# class-map telnet-class
Switch(config-cmap)# match access-group 140
Switch(config-cmap)# exit
Switch(config)# policy-map control-plane
Switch(config-pmap)# class telnet-class
Switch(config-pmap-c)# police 32000 1000 conform transmit exceed drop
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# exit
! Define aggregate control plane service for the active Route Processor.
Switch(config)# macro global apply system-cpp
Switch(config)# control-plane
Switch(config-cp)# service-police input system-cpp-policy
Switch(config-cp)# exit
```



## 関連コマンド

[class](#) (『Cisco IOS Release 12.2 Command Reference』を参照)  
[class-map](#)  
[drop](#) (『Cisco IOS Release 12.2 Command Reference』を参照)  
[match access-group](#) (『Cisco IOS Release 12.2 Command Reference』を参照)  
[policy-map](#)  
[service-policy](#) (インターフェイス コンフィギュレーション)  
[show policy-map control-plane](#)

## counter

スイッチ ポートにカウンタ セットを割り当てるには、**counter** コマンドを使用します。カウンタの割り当てを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**counter**

**no counter**

## シンタックスの説明

このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドのサポートが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは Supervisor Engine 6-E でのみサポートされています。

送信および受信カウンタを持つことができるスイッチ ポートの合計は 4096 です。

カウンタが割り当てられたレイヤ 3 ポートがレイヤ 2 ポートに変更になると削除されると、ハードウェアカウンタは開放されます。このアクションは **no counter** コマンドを発行するのと類似しています。

## 例

次に、スイッチ ポートにカウンタ セットを割り当てる例を示します。

```

Switch#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#interface vlan 20
Switch(config-if)#counter
Switch(config-if)#end
Switch#

```

# dbl

**dbl** コマンドを使用して、トラフィックのクラスによって使用される送信キュー上でアクティブキュー管理をイネーブルにします。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**dbl**

**no dbl**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** アクティブ キュー管理はディセーブルになっています。

**コマンド モード** ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.2(40)SG	Supervisor Engine 6E のサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** DBL 設定の意味は (W) RED アルゴリズムと類似しています。つまり、「dbl」は「class-default」に対してスタンドアロンが許可されていますが、それ以外の場合は、クラスに対して **bandwidth** または **shape** コマンドも設定されている必要があります。

**例** 次に、クラスで **dbl** アクションをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# policy-map policy1
Switch(config-pmap)# class class1
Switch(config-pmap-c)# dbl
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# exit
Switch(config)# interface gigabitethernet 1/1
Switch(config-if)# service-policy output policy1
Switch(config-if)# end
```

**関連コマンド**

- [bandwidth](#)
- [class](#)
- [policy-map](#)
- [service-policy \(ポリシーマップ クラス\)](#)
- [show policy-map](#)

# debug adjacency

隣接デバッグ情報を表示するには、**debug adjacency** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug adjacency [ipc]**

**no debug adjacency**

<b>シンタックスの説明</b>	<b>ipc</b>	(任意) 隣接データベースの Inter-Processor Communication (IPC; プロセッサ間通信) エントリを表示します。
------------------	------------	--

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、隣接データベース内の情報を表示する例を示します。

```
Switch# debug adjacency
4d02h: ADJ: add 172.20.52.36 (GigabitEthernet1/1) via ARP will expire: 04:00:00
4d02h: ADJ: add 172.20.52.36 (GigabitEthernet1/1) via ARP will expire: 04:00:00
4d02h: ADJ: add 172.20.52.36 (GigabitEthernet1/1) via ARP will expire: 04:00:00
4d02h: ADJ: add 172.20.52.36 (GigabitEthernet1/1) via ARP will expire: 04:00:00
4d02h: ADJ: add 172.20.52.36 (GigabitEthernet1/1) via ARP will expire: 04:00:00
4d02h: ADJ: add 172.20.52.36 (GigabitEthernet1/1) via ARP will expire: 04:00:00
4d02h: ADJ: add 172.20.52.36 (GigabitEthernet1/1) via ARP will expire: 04:00:00
4d02h: ADJ: add 172.20.52.36 (GigabitEthernet1/1) via ARP will expire: 04:00:00
(テキスト出力は省略)
Switch#
```

**関連コマンド** **undebug adjacency** (no debug adjacency と同じ)

# debug backup

バックアップ イベントをデバッグするには、**debug backup** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug backup**

**no debug backup**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、バックアップ イベントをデバッグする例を示します。

```
Switch# debug backup
Backup events debugging is on
Switch#
```

**関連コマンド** **undebug backup** (no debug backup と同じ)

# debug condition interface

インターフェイス関連アクティビティのデバッグ出力を制限するには、**debug condition interface** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug condition interface {fastethernet mod/port | GigabitEthernet mod/port | null interface_num |
port-channel interface-num | vlan vlan_id}
```

```
no debug condition interface {fastethernet mod/port | GigabitEthernet mod/port | null interface_num
| port-channel interface-num | vlan vlan_id}
```

## シンタックスの説明

<b>fastethernet</b>	ファストイーサネットインターフェイスのデバッグを制限します。
<i>mod/port</i>	モジュールおよびポートの番号です。
<b>GigabitEthernet</b>	ギガビットイーサネットインターフェイスのデバッグを制限します。
<b>null interface-num</b>	NULL インターフェイスのデバッグを制限します。有効値は 0 です。
<b>port-channel interface-num</b>	ポートチャネルインターフェイスのデバッグを制限します。有効値は 1 ~ 64 です。
<b>vlan vlan_id</b>	VLAN (仮想 LAN) インターフェイス番号を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。

## 例

次に、VLAN インターフェイス 1 のデバッグ出力を制限する例を示します。

```
Switch# debug condition interface vlan 1
Condition 2 set
Switch#
```

## 関連コマンド

**debug interface**

**undebug condition interface** (no debug condition interface と同じ)

# debug condition standby

スタンバイ ステート変化のデバッグ出力を制限するには、**debug condition standby** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug condition standby {fastethernet mod/port | GigabitEthernet mod/port | port-channel
  interface-num | vlan vlan_id group-number}
```

```
no debug condition standby {fastethernet mod/port | GigabitEthernet mod/port | port-channel
  interface-num | vlan vlan_id group-number}
```

## シンタックスの説明

<b>fastethernet</b>	ファストイーサネット インターフェイスのデバッグを制限します。
<i>mod/port</i>	モジュールおよびポートの番号です。
<b>GigabitEthernet</b>	ギガビットイーサネット インターフェイスのデバッグを制限します。
<b>port-channel</b> <i>interface_num</i>	ポートチャンネル インターフェイスのデバッグ出力を制限します。有効値は 1 ~ 64 です。
<b>vlan</b> <i>vlan_id</i>	VLAN (仮想 LAN) インターフェイス上での条件付きデバッグを制限します。有効値は 1 ~ 4,094 です。
<i>group-number</i>	VLAN チャンネルグループ番号です。有効値は 0 ~ 255 です。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

1 つしかない条件セットを削除しようとした場合には、削除操作を中断するかどうかを尋ねるメッセージとともにプロンプトが表示されます。n を押して削除を中断するか、または y を押して削除を実行できます。1 つしかない条件セットを削除した場合は、過剰な数のデバッグメッセージが表示される場合があります。

## 例

次に、VLAN 1 の group 0 へのデバッグ出力を制限する例を示します。

```
Switch# debug condition standby vlan 1 0
Condition 3 set
Switch#
```

次に、最後のスタンバイ デバッグ条件をオフにしようとした場合の表示例を示します。

```
Switch# no debug condition standby vlan 1 0
This condition is the last standby condition set.
Removing all conditions may cause a flood of debugging
messages to result, unless specific debugging flags
are first removed.

Proceed with removal? [yes/no]: n
% Operation aborted
Switch#
```

**関連コマンド** `undebug condition standby` (no debug condition standby と同じ)

## debug condition vlan

特定 VLAN (仮想 LAN) の VLAN デバッグ出力を制限するには、`debug condition vlan` コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

```
debug condition vlan {vlan_id}
```

```
no debug condition vlan {vlan_id}
```

**シンタックスの説明** `vlan_id` VLAN の番号です。有効値は 1 ~ 4096 です。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** 1 つしかない VLAN 条件セットを削除しようとした場合には、削除操作を中断するかどうかを尋ねるメッセージとともにプロンプトが表示されます。`n` を押して削除を中断するか、または `y` を押して削除を実行できます。1 つしかない条件セットを削除した場合は、過剰な数のメッセージが表示される場合があります。

**例** 次に、VLAN 1 へのデバッグ出力を制限する例を示します。

```
Switch# debug condition vlan 1
Condition 4 set
Switch#
```

次に、最後の VLAN デバッグ条件をディセーブルにしようとしたときに表示されるメッセージ例を示します。

```
Switch# no debug condition vlan 1
This condition is the last vlan condition set.
Removing all conditions may cause a flood of debugging
messages to result, unless specific debugging flags
are first removed.
```

```
Proceed with removal? [yes/no]: n
% Operation aborted
Switch#
```

**関連コマンド** `undebug condition vlan` (no debug condition vlan と同じ)

# debug dot1x

802.1x 機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug dot1x** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug dot1x {all | errors | events | packets | registry | state-machine}
```

```
no debug dot1x {all | errors | events | packets | registry | state-machine}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	すべての条件のデバッグをイネーブルにします。
<b>errors</b>	dot1x エラー フラグによってガードされた印刷ステートメントのデバッグをイネーブルにします。
<b>events</b>	dot1x イベント フラグによってガードされた印刷ステートメントのデバッグをイネーブルにします。
<b>packets</b>	着信したすべての dot1x パケットの packets 情報が印刷されます。
<b>registry</b>	dot1x レジストリ フラグによってガードされた印刷ステートメントのデバッグをイネーブルにします。
<b>state-machine</b>	dot1x レジストリ フラグによってガードされた印刷ステートメントのデバッグをイネーブルにします。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 例

次に、すべての条件の 802.1x デバッグをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# debug dot1x all
Switch#
```

## 関連コマンド

**show dot1x**

**undebug dot1x** (no debug dot1x と同じ)



# debug etherchnl

EtherChannel をデバッグするには、**debug etherchnl** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug etherchnl [all | detail | error | event | idb | linecard]
```

```
no debug etherchnl
```

シンタックスの説明	
<b>all</b>	(任意) すべての EtherChannel デバッグ メッセージを表示します。
<b>detail</b>	(任意) 詳細な EtherChannel デバッグ メッセージを表示します。
<b>error</b>	(任意) EtherChannel エラー メッセージを表示します。
<b>event</b>	(任意) 主な EtherChannel イベント メッセージをデバッグします。
<b>idb</b>	(任意) Port Aggregation Protocol (PAgP; ポート集約プロトコル) IDB メッセージをデバッグします。
<b>linecard</b>	(任意) モジュールへの SCP メッセージをデバッグします。

## デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- デバッグはディセーブルです。
- すべてのメッセージが表示されます。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

キーワードを指定しない場合、すべてのデバッグ メッセージが表示されます。

## 例

次に、すべての EtherChannel デバッグ メッセージを表示する例を示します。

```
Switch# debug etherchnl
PAgP Shim/FEC debugging is on
22:46:30:FEC:returning agport Po15 for port (Fa2/1)
22:46:31:FEC:returning agport Po15 for port (Fa4/14)
22:46:33:FEC:comparing GC values of Fa2/25 Fa2/15 flag = 1 1
22:46:33:FEC:port_attr:Fa2/25 Fa2/15 same
22:46:33:FEC:EC - attrib incompatable for Fa2/25; duplex of Fa2/25 is half, Fa2/15 is full
22:46:33:FEC:pagp_switch_choose_unique:Fa2/25, port Fa2/15 in agport Po3 is incompatable
Switch#
```

次に、EtherChannel IDB デバッグ メッセージを表示する例を示します。

```
Switch# debug etherchnl idb
Agport idb related debugging is on
Switch#
```

次に、デバッグをディセーブルにする例を示します。

```
Switch# no debug etherchnl
Switch#
```

関連コマンド **undebug etherchnl** (no debug etherchnl と同じ)

## debug interface

**debug condition interface** コマンドのエントリを省略するには、**debug interface** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug interface {FastEthernet mod/port | GigabitEthernet mod/port | null | port-channel
                interface-num | vlan vlan_id}
```

```
no debug interface {FastEthernet mod/port | GigabitEthernet mod/port | null | port-channel
                   interface-num | vlan vlan_id}
```

シンタックスの説明	FastEthernet	ファスト イーサネット インターフェイスのデバッグを制限します。
<i>mod/port</i>		モジュールおよびポートの番号です。
<b>GigabitEthernet</b>		ギガビット イーサネット インターフェイスのデバッグを制限します。
<b>null</b>		NULL インターフェイスのデバッグを制限します。有効値は 0 のみです。
<b>port-channel</b> <i>interface-num</i>		ポートチャンネル インターフェイスのデバッグを制限します。有効値は 1 ~ 64 です。
<b>vlan</b> <i>vlan_id</i>		VLAN (仮想 LAN) インターフェイス番号を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。

デフォルト このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。

例 次に、インターフェイス VLAN 1 へのデバッグを制限する例を示します。

```
Switch# debug interface vlan 1
Condition 1 set
Switch#
```

関連コマンド **debug condition interface**  
**undebug interface** (no debug interface と同じ)

# debug ipc

Inter-Processor Communication (IPC; プロセッサ間通信) アクティビティをデバッグするには、**debug ipc** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug ipc {all | errors | events | headers | packets | ports | seats}
```

```
no debug ipc {all | errors | events | headers | packets | ports | seats}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	すべての IPC デバッグをイネーブルにします。
<b>errors</b>	IPC エラー デバッグをイネーブルにします。
<b>events</b>	IPC イベント デバッグをイネーブルにします。
<b>headers</b>	IPC ヘッダー デバッグをイネーブルにします。
<b>packets</b>	IPC パケット デバッグをイネーブルにします。
<b>ports</b>	ポートの作成および削除のデバッグをイネーブルにします。
<b>seats</b>	ノードの作成および削除のデバッグをイネーブルにします。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 例

次に、IPC イベントのデバッグをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# debug ipc events
Special Events debugging is on
Switch#
```

## 関連コマンド

**undebug ipc** (no debug ipc と同じ)

# debug ip dhcp snooping event

DHCP スヌーピング イベントをデバッグするには、**debug ip dhcp snooping event** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug ip dhcp snooping event**

**no debug ip dhcp snooping event**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** スヌーピング イベントのデバッグはディセーブルです。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、DHCP スヌーピング イベントのデバッグをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# debug ip dhcp snooping event
Switch#
```

次に、DHCP スヌーピング イベントのデバッグをディセーブルにする例を示します。

```
Switch# no debug ip dhcp snooping event
Switch#
```

**関連コマンド** [debug ip dhcp snooping packet](#)

## debug ip dhcp snooping packet

DHCP スヌーピング メッセージをデバッグするには、**debug ip dhcp snooping packet** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug ip dhcp snooping packet**

**no debug ip dhcp snooping packet**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** スヌーピング パケットのデバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、DHCP スヌーピング パケットのデバッグをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# debug ip dhcp snooping packet
Switch#
```

次に、DHCP スヌーピング パケットのデバッグをディセーブルにする例を示します。

```
Switch# no debug ip dhcp snooping packet
Switch#
```

**関連コマンド** [debug ip dhcp snooping event](#)

# debug ip verify source packet

IP 送信元ガード メッセージをデバッグするには、**debug ip verify source packet** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug ip verify source packet**

**no debug ip verify source packet**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** スヌーピング セキュリティ パケットのデバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、IP 送信元ガードのデバッグをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# debug ip verify source packet
Switch#
```

次に、IP 送信元ガードのデバッグをディセーブルにする例を示します。

```
Switch# no debug ip verify source packet
Switch#
```

**関連コマンド**

- [ip dhcp snooping](#)
- [ip dhcp snooping information option](#)
- [ip dhcp snooping limit rate](#)
- [ip dhcp snooping trust](#)
- [ip verify source vlan dhcp-snooping](#) (Cisco IOS のマニュアルを参照)
- [show ip dhcp snooping](#)
- [show ip dhcp snooping binding](#)
- [show ip verify source](#) (Cisco IOS のマニュアルを参照)

# debug lacp

LACP アクティビティをデバッグするには、**debug lacp** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug lacp [all | event | fsm | misc | packet]
```

```
no debug lacp
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	(任意) すべての LACP デバッグをイネーブルにします。
<b>event</b>	(任意) LACP イベントのデバッグをイネーブルにします。
<b>fsm</b>	(任意) LACP 有限状態マシンのデバッグをイネーブルにします。
<b>misc</b>	(任意) 各種 LACP デバッグをイネーブルにします。
<b>packet</b>	(任意) LACP パケット デバッグをイネーブルにします。

## デフォルト

LACP アクティビティのデバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドをサポートするのはスーパーバイザエンジンだけです。また、このコマンドを入力できるのは、Catalyst 4500 シリーズスイッチ コンソールからに限ります。

## 例

次に、LACP の各種デバッグをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# debug lacp
Port Aggregation Protocol Miscellaneous debugging is on
Switch#
```

## 関連コマンド

**undebug pagp** (no debug pagp と同じ)

# debug monitor

モニタリング アクティビティを表示するには **debug monitor** コマンドを使用します。デバッグ出力をディisableにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug monitor** {all | errors | idb-update | list | notifications | platform | requests}

**no debug monitor** {all | errors | idb-update | list | notifications | platform | requests}

シンタックスの説明	
<b>all</b>	すべての Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチド ポート アナライザ) デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	SPAN エラー詳細を表示します。
<b>idb-update</b>	SPAN IDB 更新追跡を表示します。
<b>list</b>	SPAN リスト追跡および VLAN (仮想 LAN) リスト追跡を表示します。
<b>notifications</b>	SPAN 通知を表示します。
<b>platform</b>	SPAN プラットフォーム追跡を表示します。
<b>requests</b>	SPAN 要求を表示します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、モニタリング エラーをデバッグする例を示します。

```
Switch# debug monitor errors
SPAN error detail debugging is on
Switch#
```

**関連コマンド** **undebug monitor** (no debug monitor と同じ)



## debug nvram

NVRAM（不揮発性 RAM）アクティビティをデバッグするには、**debug nvram** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug nvram**

**no debug nvram**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、NVRAM をデバッグする例を示します。

```
Switch# debug nvram
NVRAM behavior debugging is on
Switch#
```

**関連コマンド** **undebug nvram**（no debug nvram と同じ）

# debug pagp

Port Aggregation Protocol (PAgP; ポート集約プロトコル) アクティビティをデバッグするには、**debug pagp** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug pagp [all | event | fsm | misc | packet]
```

```
no debug pagp
```

シンタックスの説明	
<b>all</b>	(任意) すべての PAgP デバッグをイネーブルにします。
<b>event</b>	(任意) PAgP イベントのデバッグをイネーブルにします。
<b>fsm</b>	(任意) PAgP 有限状態マシンのデバッグをイネーブルにします。
<b>misc</b>	(任意) 各種 PAgP デバッグをイネーブルにします。
<b>packet</b>	(任意) PAgP パケット デバッグをイネーブルにします。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドをサポートするのはスーパーバイザエンジンだけです。また、このコマンドを入力できるのは、Catalyst 4500 シリーズスイッチ コンソールからに限ります。

**例** 次に、PAgP の各種デバッグをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# debug pagp misc
Port Aggregation Protocol Miscellaneous debugging is on
Switch#
*Sep 30 10:13:03: SP: PAgP: pagp_h(Fa5/6) expired
*Sep 30 10:13:03: SP: PAgP: 135 bytes out Fa5/6
*Sep 30 10:13:03: SP: PAgP: Fa5/6 Transmitting information packet
*Sep 30 10:13:03: SP: PAgP: timer pagp_h(Fa5/6) started with interval 30000
(テキスト出力は省略)
Switch#
```

**関連コマンド** **undebug pagp** (no debug pagp と同じ)

# debug platform packet protocol lacp

LACP プロトコルパケットをデバッグするには、**debug platform packet protocol lacp** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform packet protocol lacp [receive | transmit | vlan]
```

```
no debug platform packet protocol lacp [receive | transmit | vlan]
```

シンタックスの説明		
	<b>receive</b>	(任意) プラットフォームのパケット受信デバッグ機能をイネーブルにします。
	<b>transmit</b>	(任意) プラットフォームのパケット送信デバッグ機能をイネーブルにします。
	<b>vlan</b>	(任意) プラットフォームのパケット VLAN (仮想 LAN) デバッグ機能をイネーブルにします。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、すべての PM デバッグをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# debug platform packet protocol lacp
Switch#
```

**関連コマンド** **undebg platform packet protocol lacp** (no debug platform packet protocol lacp と同じ)

# debug platform packet protocol pagp

Port Aggregation Protocol (PAgP; ポート集約プロトコル) のプロトコル パケットをデバッグするには、**debug platform packet protocol pagp** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform packet protocol pagp [receive | transmit | vlan]
```

```
no debug platform packet protocol pagp [receive | transmit | vlan]
```

シンタックスの説明		
<b>receive</b>	(任意) プラットフォームのパケット受信デバッグ機能をイネーブルにします。	
<b>transmit</b>	(任意) プラットフォームのパケット送信デバッグ機能をイネーブルにします。	
<b>vlan</b>	(任意) プラットフォームのパケット VLAN (仮想 LAN) デバッグ機能をイネーブルにします。	

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、すべての PM デバッグをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# debug platform packet protocol pagp
Switch#
```

**関連コマンド** **undebg platform packet protocol pagp** (no debug platform packet protocol pagp と同じ)

# debug pm

Port Manager (PM) アクティビティをデバッグするには、**debug pm** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug pm {all | card | cookies | etherchnl | messages | port | registry | scp | sm | span | split |vlan | vp}
```

```
no debug pm {all | card | cookies | etherchnl | messages | port | registry | scp | sm | span | split |vlan | vp}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	すべての PM デバッグメッセージを表示します。
<b>card</b>	モジュール関連イベントをデバッグします。
<b>cookies</b>	内部 PM クッキー確認をイネーブルにします。
<b>etherchnl</b>	EtherChannel 関連イベントをデバッグします。
<b>messages</b>	PM メッセージをデバッグします。
<b>port</b>	ポート関連イベントをデバッグします。
<b>registry</b>	PM レジストリ呼び出しをデバッグします。
<b>scp</b>	SCP モジュール メッセージングをデバッグします。
<b>sm</b>	ステート マシン関連イベントをデバッグします。
<b>span</b>	スパンニングツリー関連イベントをデバッグします。
<b>split</b>	スプリット プロセッサをデバッグします。
<b>vlan</b>	VLAN (仮想 LAN) 関連イベントをデバッグします。
<b>vp</b>	仮想ポート関連イベントをデバッグします。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 例

次に、すべての PM デバッグをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# debug pm all
Switch#
```

## 関連コマンド

**undebug pm** (no debug pm と同じ)

# debug port-security

ポートセキュリティをデバッグするには、**debug port-security** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug port-security**

**no debug port-security**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、すべての PM デバッグをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# debug port-security  
Switch#
```

**関連コマンド** [show diagnostic result module test 2](#)

## debug redundancy

スーパーバイザ エンジン冗長をデバッグするには、**debug redundancy** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug redundancy {errors | fsm | kpa | msg | progression | status | timer}
```

```
no debug redundancy
```

シンタックスの説明	
<b>errors</b>	エラー デバッグの冗長ファシリティをイネーブルにします。
<b>fsm</b>	FSM イベント デバッグの冗長ファシリティをイネーブルにします。
<b>kpa</b>	キーブアライブ デバッグの冗長ファシリティをイネーブルにします。
<b>msg</b>	メッセージング イベント デバッグの冗長ファシリティをイネーブルにします。
<b>progression</b>	プログレッション イベント デバッグの冗長ファシリティをイネーブルにします。
<b>status</b>	ステータス イベント デバッグの冗長ファシリティをイネーブルにします。
<b>timer</b>	タイマー イベント デバッグの冗長ファシリティをイネーブルにします。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました (Catalyst 4507R のみ)。

**例** 次に、冗長ファシリティ タイマー イベント デバッグをデバッグする例を示します。

```
Switch# debug redundancy timer
Redundancy timer debugging is on
Switch#
```

# debug spanning-tree

スパニングツリー アクティビティをデバッグするには、**debug spanning-tree** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug spanning-tree {all | backbonefast | bpdu | bpdu-opt | etherchannel | config | events | exceptions
                    | general | ha | mstp | pvst+ | root | snmp | switch | synchronization | uplinkfast}
```

```
no debug spanning-tree {all | bpdu | bpdu-opt | etherchannel | config | events | exceptions | general |
                       mst | pvst+ | root | snmp}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	すべてのスパニングツリー デバッグ メッセージを表示します。
<b>backbonefast</b>	BackboneFast イベントをデバッグします。
<b>bpdu</b>	スパニングツリー BPDU (ブリッジ プロトコル データ ユニット) をデバッグします。
<b>bpdu-opt</b>	最適化された BPDU 処理をデバッグします。
<b>etherchannel</b>	スパニングツリー EtherChannel サポートをデバッグします。
<b>config</b>	スパニングツリー設定変更をデバッグします。
<b>events</b>	TCAM イベントをデバッグします。
<b>exceptions</b>	スパニングツリー例外をデバッグします。
<b>general</b>	一般スパニングツリー アクティビティをデバッグします。
<b>ha</b>	HA イベントをデバッグします。
<b>mstp</b>	複数のスパニングツリー イベントをデバッグします。
<b>pvst+</b>	PVST+ イベントをデバッグします。
<b>root</b>	スパニングツリー ルート イベントをデバッグします。
<b>snmp</b>	スパニングツリー SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) イベントをデバッグします。
<b>switch</b>	スイッチのデバッグ イベントをデバッグします。
<b>synchronization</b>	STP 状態の同期イベントをデバッグします。
<b>uplinkfast</b>	UplinkFast イベントをデバッグします。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンド モード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 例

次に、スパニングツリー PVST+ をデバッグする例を示します。

```
Switch# debug spanning-tree pvst+
Spanning Tree PVST+ debugging is on
Switch#
```

## 関連コマンド

**undebg spanning-tree** (no debug spanning-tree と同じ)



# debug spanning-tree backbonefast

スパニングツリー BackboneFast イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree backbonefast** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug spanning-tree backbonefast [detail | exceptions]**

**no debug spanning-tree backbonefast**

シンタックスの説明	<b>detail</b>	(任意) 詳細な BackboneFast デバッグメッセージを表示します。
	<b>exceptions</b>	(任意) スパニングツリー BackboneFast 例外のデバッグをイネーブルにします。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドをサポートするのはスーパーバイザエンジンだけです。また、このコマンドを入力できるのは、Catalyst 4500 シリーズ スイッチ コンソールからに限ります。

**例** 次に、デバッグをイネーブルにして、スパニングツリー BackboneFast デバッグ情報を表示する例を示します。

```
Switch# debug spanning-tree backbonefast detail
Spanning Tree backbonefast detail debugging is on
Switch#
```

**関連コマンド** **undebg spanning-tree backbonefast** (no debug spanning-tree backbonefast と同じ)

# debug spanning-tree switch

スイッチ シム デバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree switch** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug spanning-tree switch {all | errors | general | pm | rx} {decode | errors | interrupt | process} | state | tx [decode]}
```

```
no debug spanning-tree switch {all | errors | general | pm | rx} {decode | errors | interrupt | process} | state | tx [decode]}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	すべてのスパニングツリー スイッチ シム デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	スイッチ シム エラーまたは例外のデバッグをイネーブルにします。
<b>general</b>	一般イベントのデバッグをイネーブルにします。
<b>pm</b>	ポート マネージャ イベントのデバッグをイネーブルにします。
<b>rx</b>	受信 Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジプロトコルデータユニット) 処理デバッグ メッセージを表示します。
<b>decode</b>	スパニングツリー スイッチ シムのデコード受信パケットのデバッグをイネーブルにします。
<b>errors</b>	スパニングツリー スイッチ シムの受信エラーのデバッグをイネーブルにします。
<b>interrupt</b>	スパニングツリー スイッチのシム ISR 受信 BPDU デバッグをイネーブルにします。
<b>process</b>	スパニングツリー スイッチのプロセス受信 BPDU デバッグをイネーブルにします。
<b>state</b>	スパニングツリー ポート上のステート変化のデバッグをイネーブルにします。
<b>tx</b>	スパニングツリー スイッチ シム上の伝送 BPDU デバッグをイネーブルにします。
<b>decode</b>	(任意) スパニングツリー スイッチ シム上でデコード送信済みパケット デバッグをイネーブルにします。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドをサポートするのはスーパーバイザ エンジンだけです。また、このコマンドを入力できるのは、スイッチ コンソールからに限ります。

**例** 次に、スパニングツリー スイッチ シム上で送信 BPDU デバッグをイネーブにする例を示します。

```
Switch# debug spanning-tree switch tx
Spanning Tree Switch Shim transmit bpdu debugging is on
*Sep 30 08:47:33: SP: STP SW: TX: bpdu of type ieee-st size 92 on FastEthernet5/9 303
*Sep 30 08:47:33: SP: STP SW: TX: bpdu of type ieee-st size 92 on FastEthernet5/9 304
*Sep 30 08:47:33: SP: STP SW: TX: bpdu of type ieee-st size 92 on FastEthernet5/9 305
*Sep 30 08:47:33: SP: STP SW: TX: bpdu of type ieee-st size 92 on FastEthernet5/9 349
*Sep 30 08:47:33: SP: STP SW: TX: bpdu of type ieee-st size 92 on FastEthernet5/9 350
*Sep 30 08:47:33: SP: STP SW: TX: bpdu of type ieee-st size 92 on FastEthernet5/9 351
*Sep 30 08:47:33: SP: STP SW: TX: bpdu of type ieee-st size 92 on FastEthernet5/9 801
(テキスト出力は省略)
Switch#
```

**関連コマンド** `undebug spanning-tree switch` (no debug spanning-tree switch と同じ)

## debug spanning-tree uplinkfast

スパニングツリー UplinkFast イベントのデバッグをイネーブするには、`debug spanning-tree uplinkfast` コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

`debug spanning-tree uplinkfast [exceptions]`

`no debug spanning-tree uplinkfast`

<b>シンタックスの説明</b>	<b>exceptions</b> (任意) スパニングツリー UplinkFast 例外のデバッグをイネーブにします。
------------------	--

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドをサポートするのはスーパーバイザ エンジンだけです。また、このコマンドを入力できるのは、スイッチ コンソールからに限ります。

**例** 次に、スパニングツリー UplinkFast 例外をデバッグする例を示します。

```
Switch# debug spanning-tree uplinkfast exceptions
Spanning Tree uplinkfast exceptions debugging is on
Switch#
```

**関連コマンド** `undebug spanning-tree uplinkfast` (no debug spanning-tree uplinkfast と同じ)

## debug sw-vlan

VLAN (仮想 LAN) マネージャ アクティビティをデバッグするには、**debug sw-vlan** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan {badpmcookies | events | management | packets | registries}
```

```
no debug sw-vlan {badpmcookies | events | management | packets | registries}
```

シンタックスの説明	説明
<b>badpmcookies</b>	不良ポートマネージャクッキーの VLAN マネージャ インシデントを表示します。
<b>events</b>	VLAN マネージャ イベントをデバッグします。
<b>management</b>	内部 VLAN の VLAN マネージャ管理をデバッグします。
<b>packets</b>	パケット処理およびカプセル化プロセスをデバッグします。
<b>registries</b>	VLAN マネージャ レジストリをデバッグします。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 例

次に、ソフトウェア VLAN イベントをデバッグする例を示します。

```
Switch# debug sw-vlan events
vlan manager events debugging is on
Switch#
```

### 関連コマンド

**undebug sw-vlan** (no debug sw-vlan と同じ)

## debug sw-vlan ifs

VLAN (仮想 LAN) マネージャ Cisco IOS File System (IFS; IOS ファイル システム) エラー テストをイネーブルにするには、**debug sw-vlan ifs** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan ifs {open {read | write} | read {1 | 2 | 3 | 4} | write}
```

```
no debug sw-vlan ifs {open {read | write} | read {1 | 2 | 3 | 4} | write}
```

シンタックスの説明		
<b>open</b>	IFS ファイル オープン オペレーションのエラーの VLAN マネージャ IFS デバッグをイネーブルにします。	
<b>read</b>	IFS VLAN コンフィギュレーション ファイルが読み込みのために開かれたときに発生するエラーをデバッグします。	
<b>write</b>	IFS VLAN コンフィギュレーション ファイルが書き込みのために開かれたときに発生するエラーをデバッグします。	
<b>{1   2   3   4}</b>	ファイル読み込み操作を判別します。操作レベルの詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。	
<b>write</b>	IFS ファイル書き込み操作中に発生するエラーをデバッグします。	

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 次に 4 種類のファイル読み込み操作を示します。

- 操作 1 — ヘッダー確認ワードおよびファイル確認番号を含むファイル ヘッダーを読み込みます。
- 操作 2 — ドメインおよび VLAN 情報のほとんどを含むファイルのメイン ボディを読み込みます。
- 操作 3 — Type-Length-Value (TLV) 記述子構造を読み込みます。
- 操作 4 — TLV データを読み込みます。

**例** 次に、ファイル読み込み操作中に TLV データ エラーをデバッグする例を示します。

```
Switch# debug sw-vlan ifs read 4
vlan manager ifs read # 4 errors debugging is on
Switch#
```

**関連コマンド** **undebug sw-vlan ifs** (no debug sw-vlan ifs と同じ)

# debug sw-vlan notification

ISL (スイッチ間リンク) VLAN (仮想 LAN) ID のアクティベーションおよび非アクティベーションを追跡するデバッグメッセージをイネーブルにするには、**debug sw-vlan notification** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan notification {accfwdchange | allowedvlanfgchange | fwdchange | linkchange |
modechange | pruningcfgchange | statechange}
```

```
no debug sw-vlan notification {accfwdchange | allowedvlanfgchange | fwdchange | linkchange |
modechange | pruningcfgchange | statechange}
```

## シンタックスの説明

<b>accfwdchange</b>	集約アクセス インターフェイス Spanning-Tree Protocol (STP; スパニング ツリー プロトコル) 転送変更の VLAN マネージャ通知をイネーブルにします。
<b>allowedvlanfgchange</b>	許可 VLAN コンフィギュレーション変更の VLAN マネージャ通知をイネーブルにします。
<b>fwdchange</b>	STP 転送変更の VLAN マネージャ通知をイネーブルにします。
<b>linkchange</b>	インターフェイス リンク ステート変更の VLAN マネージャ通知をイネーブルにします。
<b>modechange</b>	インターフェイス モード変更の VLAN マネージャ通知をイネーブルにします。
<b>pruningcfgchange</b>	プルーニング コンフィギュレーション変更の VLAN マネージャ通知をイネーブルにします。
<b>statechange</b>	インターフェイス ステート変更の VLAN マネージャ通知をイネーブルにします。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンド モード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 例

次に、ソフトウェア VLAN インターフェイス モード変更通知をデバッグする例を示します。

```
Switch# debug sw-vlan notification modechange
vlan manager port mode change notification debugging is on
Switch#
```

## 関連コマンド

**undebug sw-vlan notification** (no debug sw-vlan notification と同じ)

## debug sw-vlan vtp

VLAN Trunk Protocol (VTP; VLAN トランク プロトコル) のプロトコル コードによって生成されるデバッグ メッセージをイネーブルにするには、**debug sw-vlan vtp** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan vtp {events | packets | pruning [packets | xmit] | xmit}
```

```
no debug sw-vlan vtp {events | packets | pruning [packets | xmit] | xmit}
```

### シンタックスの説明

<b>events</b>	VTP コードでの VTP_LOG_RUNTIME マクロによって生成される汎用ロジック フローおよび詳細 VTP デバッグ メッセージを表示します。
<b>packets</b>	プルーニング パケットを除く Cisco IOS VTP プラットフォーム依存レイヤから VTP コードへ渡されるすべての着信 VTP パケットの内容を表示します。
<b>pruning</b>	VTP プロトコル コードのプルーニング セグメントによって生成されるデバッグ メッセージをイネーブルにします。
<b>packets</b>	(任意) Cisco IOS VTP プラットフォーム依存レイヤから VTP コードへ渡されるすべての着信 VTP プルーニング パケットの内容を表示します。
<b>xmit</b>	(任意) VTP コードが Cisco IOS VTP プラットフォーム依存レイヤに送信するように要求するすべての送信 VTP パケットの内容を表示します。
<b>xmit</b>	VTP コードが Cisco IOS VTP プラットフォーム依存レイヤに送信するように要求するすべての送信 VTP パケットの内容を表示します。プルーニング パケットは含まれません。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

**pruning** の入力後、さらにパラメータを追加しない場合は、VTP プルーニング デバッグ メッセージが表示されます。

### 例

次に、ソフトウェア VLAN (仮想 LAN) 送信 VTP パケットをデバッグする例を示します。

```
Switch# debug sw-vlan vtp xmit
vtp xmit debugging is on
Switch#
```

### 関連コマンド

**undebug sw-vlan vtp** (no debug sw-vlan vtp と同じ)

# debug udld

UniDirectional Link Detection Protocol (UDLD; 単一方向リンク検出) アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug udld** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug udld {events | packets | registries}
```

```
no debug udld {events | packets | registries}
```

シンタックスの説明	events	UDLD プロセス イベントが発生したときのデバッグをイネーブルにします。
	packets	パケット キューからパケットを受信するときの UDLD プロセスのデバッグをイネーブルにして、UDLD プロトコル コードの要求によりパケットを送信しようとします。
	registries	UDLD プロセス依存モジュールおよび他の機能モジュールからのレジストリ アップコールを処理するときの UDLD プロセスのデバッグをイネーブルにします。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドをサポートするのはスーパーバイザ エンジンだけです。また、このコマンドを入力できるのは、Catalyst 4500 シリーズ スイッチ コンソールからに限ります。

**例** 次に、UDLD イベントをデバッグする例を示します。

```
Switch# debug udld events
UDLD events debugging is on
Switch#
```

次に、UDLD パケットをデバッグする例を示します。

```
Switch# debug udld packets
UDLD packets debugging is on
Switch#
```

次に、UDLD レジストリ イベントをデバッグする例を示します。

```
Switch# debug udld registries
UDLD registries debugging is on
Switch#
```

**関連コマンド** **undebug udld** (no debug udld と同じ)



# debug vqpc

VLAN Query Protocol (VQP) をデバッグするには、**debug vqpc** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug vqpc [all | cli | events | learn | packet]
```

```
no debug vqpc [all | cli | events | learn | packet]
```

シンタックスの説明	
<b>all</b>	(任意) すべての VQP イベントをデバッグします。
<b>cli</b>	(任意) VQP CLI (コマンドラインインターフェイス) をデバッグします。
<b>events</b>	(任意) VQP イベントをデバッグします。
<b>learn</b>	(任意) VQP アドレス ラーニングをデバッグします。
<b>packet</b>	(任意) VQP パケットをデバッグします。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、すべての VQP デバッグをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# debug vqpc all
Switch#
```

**関連コマンド** [vmps reconfirm](#) (特権 EXEC)

# define interface-range

インターフェイスのマクロを作成するには、**define interface-range** コマンドを使用します。

```
define interface-range macro-name interface-range
```

## シンタックスの説明

<i>macro-name</i>	インターフェイス 範囲 マクロ名です。32 文字まで指定できます。
<i>interface-range</i>	インターフェイスを指定する場合の有効範囲のリストです。「使用上のガイドライン」を参照してください。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

マクロ名は 32 文字までの文字ストリングです。

マクロには最大 5 つまでの範囲を含むことができます。インターフェイス 範囲はモジュールをまたがることはできません。

*interface-range* を入力するときは、次のフォーマットを使用します。

- *interface-type* {*mod*}/{*first-interface*} - {*last-interface*}
- *interface-type* {*mod*}/{*first-interface*} - {*last-interface*}

*interface-type* の有効値は次のとおりです。

- **FastEthernet**
- **GigabitEthernet**
- **Vlan** *vlan\_id*

## 例

次に、複数インターフェイスのマクロを作成する例を示します。

```
Switch(config)# define interface-range macrol gigabitethernet 4/1-6, fastethernet
2/1-5
Switch(config)#
```

## 関連コマンド

[interface range](#)

# deny

DHCP バインディングとの一致に基づいて Address Resolution Protocol (ARP; アドレス レゾリューション プロトコル) パケットを拒否するには、**deny** コマンドを使用します。アクセスリストから指定された Access Control Entry (ACE; アクセス コントロール エントリ) を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
deny {[request] ip {any | host sender-ip | sender-ip sender-ip-mask} mac {any | host sender-mac | sender-mac sender-mac-mask} | response ip {any | host sender-ip | sender-ip sender-ip-mask} [{any | host target-ip | target-ip target-ip-mask}] mac {any | host sender-mac | sender-mac sender-mac-mask} [{any | host target-mac | target-mac target-mac-mask}]} [log]
```

```
no deny {[request] ip {any | host sender-ip | sender-ip sender-ip-mask} mac {any | host sender-mac | sender-mac sender-mac-mask} | response ip {any | host sender-ip | sender-ip sender-ip-mask} [{any | host target-ip | target-ip target-ip-mask}] mac {any | host sender-mac | sender-mac sender-mac-mask} [{any | host target-mac | target-mac target-mac-mask}]} [log]
```

## シンタックスの説明

<b>request</b>	(任意) ARP 要求との一致を要求します。 <b>request</b> を指定しない場合は、すべての ARP パケットに対して照合されます。
<b>ip</b>	送信側 IP アドレスを指定します。
<b>any</b>	任意の IP または MAC (メディア アクセス制御) アドレスを許可するように指定します。
<b>host sender-ip</b>	特定の送信側 IP アドレスのみを許可するように指定します。
<b>sender-ip sender-ip-mask</b>	特定の範囲の送信側 IP アドレスを許可するように指定します。
<b>mac</b>	送信側 MAC アドレスを指定します。
<b>host sender-mac</b>	特定の送信側 MAC アドレスのみを許可するように指定します。
<b>sender-mac sender-mac-mask</b>	特定の範囲の送信側 MAC アドレスを許可するように指定します。
<b>response</b>	ARP 応答との一致を指定します。
<b>ip</b>	ARP 応答の IP アドレス値を指定します。
<b>host target-ip</b>	(任意) 特定のターゲット IP アドレスのみを許可するように指定します。
<b>target-ip target-ip-mask</b>	(任意) 特定の範囲のターゲット IP アドレスを許可するように指定します。
<b>mac</b>	ARP 応答の MAC アドレス値を指定します。
<b>host target-mac</b>	(任意) 特定のターゲット MAC アドレスのみを許可するように指定します。
<b>target-mac target-mac-mask</b>	(任意) 特定の範囲のターゲット MAC アドレスを許可するように指定します。
<b>log</b>	(任意) ACE と一致するパケットを記録します。

## デフォルト

ARP アクセス リストの末尾には、暗黙的な **deny ip any mac any** コマンドがあります。

## コマンドモード

arp-nacl コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン**

deny コマンドを追加すると、一部の一致基準に基づいて ARP パケットを転送したり、廃棄したりできます。

**例**

次に、MAC アドレスが 0000.0000.abcd で、IP アドレスが 1.1.1.1 であるホストの例を示します。次に、このホストからの要求および応答の両方を拒否する例を示します。

```
Switch(config)# arp access-list static-hosts
Switch(config-arp-nacl)# deny ip host 1.1.1.1 mac host 0000.0000.abcd
Switch(config-arp-nacl)# end
Switch# show arp access-list
```

```
ARP access list static-hosts
  deny ip host 1.1.1.1 mac host 0000.0000.abcd
Switch#
```

**関連コマンド**

[arp access-list](#)  
[ip arp inspection filter vlan](#)  
[permit](#)

# diagnostic monitor action

パケット メモリ障害を検出したときのスイッチのアクションを指示するには、**diagnostic monitor action** コマンドを使用します。

**diagnostic monitor action** [**conservative** | **normal** | **aggressive**]

シンタックスの説明	conservative	(任意) 起動時 SRAM 診断は、すべての障害を記録し、影響を受けるバッファをすべてハードウェア操作から除外するように指定します。実行中の SRAM 診断は、イベントを記録しますが、その他のアクションは実行しません。
	normal	(任意) SRAM 診断は、継続的な障害によりスーパーバイザエンジンがリセットされること以外は、保守モードとして動作するように指定します。これにより、起動時テストは影響を受けるメモリを決定できます。
	aggressive	(任意) SRAM 診断は、起動時障害が障害のみを記録し、スーパーバイザエンジンがオンライン化することを許可しないこと以外は、ユーザモードで動作するように指定します。これにより冗長スーパーバイザエンジンまたはネットワークレベルの冗長性のいずれかが引き継ぎを許可されます。

**デフォルト** ユーザ モード

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 問題を修復するためにスイッチを再起動したくない場合は、**conservative** キーワードを使用します。冗長スーパーバイザエンジンがある場合、またはネットワークレベルの冗長性が提供されている場合は、**aggressive** キーワードを使用します。

**例** 次に、継続的な障害の発生時に RPR スイッチオーバーを開始するようにスイッチを設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch (config)# diagnostic monitor action normal
```

**関連コマンド** [show diagnostic result module test 2](#)  
[show diagnostic result module test 3](#)

# diagnostic start

指定の診断テストを実行するには、**diagnostic start** コマンドを使用します。

```
diagnostic start {module num} {test test-id} [port num]
```

## シンタックスの説明

<b>module num</b>	モジュール番号です。
<b>test</b>	実行するテストを指定します。
<b>test-id</b>	実行するテストの ID 番号を指定します。ケーブル診断のテスト ID ( <i>test-id</i> )、または <b>cable-tdr</b> キーワードを使用できます。
<b>port num</b>	(任意) インターフェイスのポート番号を指定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 例

次に、指定のモジュールに対して指定の診断テストを実行する例を示します。

```
This exec command starts the TDR test on specified interface
Switch# diagnostic start module 1 test cable-tdr port 3
diagnostic start module 1 test cable-tdr port 3
module 1: Running test(s) 5 Run interface level cable diags
module 1: Running test(s) 5 may disrupt normal system operation
Do you want to continue? [no]: yes
yes
Switch#
2d16h: %DIAG-6-TEST_RUNNING: module 1: Running online-diag-tdr{ID=5} ...
2d16h: %DIAG-6-TEST_OK: module 1: online-diag-tdr{ID=5} has completed successfully

Switch#
```



(注)

TDR テストの結果を表示するには、**show cable-diagnostic tdr** コマンドを使用します。テストの結果は、テストの開始から約 1 分経過しないと取得可能になりません。テストの開始後 1 分以内に **show cable-diagnostic tdr** コマンドを入力すると、[TDR test is in progress on interface...] というメッセージが表示されます。

## 関連コマンド

[show diagnostic content](#)

## dot1x auth-fail max-attempts

ポートが認証失敗 VLAN (auth-fail VLAN) に移行する前の、最大試行回数を設定するには、**dot1x auth-fail max-attempts** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
dot1x auth-fail max-attempts max-attempts
```

```
no dot1x auth-fail max-attempts max-attempts
```

---

シンタックスの説明	<i>max-attempts</i>	ポートが認証失敗 VLAN に移行する前の、最大試行回数を指定します。有効値は 1 ~ 10 です。
-----------	---------------------	--

---

---

デフォルト	デフォルトは 3 です。
-------	--------------

---

---

コマンドモード	インターフェイス コンフィギュレーション モード
---------	--------------------------

---

---

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(25)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

---

---

例	次の例は、インターフェイス fastethernet4/3 に対し、ポートが認証失敗 VLAN に移行するまでの最大試行回数を設定する例を示します。
---	--

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet4/3
Switch(config-if)# dot1x auth-fail max-attempts 5
Switch(config-if)# end
Switch#
```

---

関連コマンド	<a href="#">dot1x max-reauth-req</a> <a href="#">show dot1x</a>
--------	--

---

## dot1x auth-fail vlan

認証失敗 VLAN（仮想 LAN）をポートでイネーブルにするには、**dot1x auth-fail vlan** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
dot1x auth-fail vlan vlan-id
```

```
no dot1x auth-fail vlan vlan-id
```

シンタックスの説明	<i>vlan-id</i>	1 ~ 4,094 の VLAN を指定します。
-----------	----------------	--------------------------

デフォルト	なし
-------	----

コマンドモード	インターフェイス コンフィギュレーション モード
---------	--------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(25)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、インターフェイス fastethernet4/3 上で、認証失敗 VLAN をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet4/3
Switch(config-if)# dot1x auth-fail vlan 40
Switch(config-if)# end
Switch#
```

関連コマンド	<a href="#">dot1x max-reauth-req</a> <a href="#">show dot1x</a>
--------	--



# dot1x control-direction

スイッチ上で、単一方向のポート制御をポート単位でイネーブルにするには、**dot1x control-direction** コマンドを使用します。単一方向のポート制御をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
dot1x control-direction [in | both]
```

```
no dot1x control-direction
```

シンタックスの説明	
<b>in</b>	(任意) ポートにおいてインバウンドトラフィックを制御するように指定します。
<b>both</b>	(任意) ポートにおいて、インバウンドトラフィックとアウトバウンドトラフィックの両方を制御するように指定します。

**デフォルト** インバウンドトラフィックとアウトバウンドトラフィックの両方が制御されます。

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 単一方向制御を使用して、リモートシステムを管理できます。単一方向制御を使用すると、マジックパケットと呼ばれる特殊なイーサネットパケットを使用して、システムをリモートで起動できます。

単一方向制御を使用することで、802.1x ポートからのシステムのリモート管理が可能になります。これまでは、システムを終了させると、ポートが無許可ステートに移行していました。この状態のポートは、EAPoL パケットの送受信しか行えません。したがって、単一方向制御を行うマジックパケットがホストに到達できず、システムを起動していないかぎり、ポートを認証して開くことはできませんでした。

**例** 次に、着信パケットに対して単一方向制御をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# dot1x control-direction in
Switch(config-if)#
```

**関連コマンド** [show dot1x](#)

# dot1x critical

ポート上での 802.1x クリティカル認証をイネーブルにするには、**dot1x critical** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**dot1x critical**

**no dot1x critical**

**シンタックスの説明** このコマンドには、キーワードまたは変数はありません。

**デフォルト** クリティカル認証はディセーブルです。

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、802.1x クリティカル認証をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# dot1x critical
Switch(config-if)#
```

**関連コマンド**

- [dot1x critical eapol](#)
- [dot1x critical recovery delay](#)
- [dot1x critical vlan](#)
- [show dot1x](#)

## dot1x critical eapol

EAP 交換の途中でポートがクリティカル認証を受けた場合の、EAPOL 成功パケットの送信をイネーブルにするには、**dot1x critical eapol** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**dot1x critical eapol**

**no dot1x critical eapol**

**シンタックスの説明** このコマンドには、キーワードまたは変数はありません。

**デフォルト** デフォルトでは、EAPOL 成功パケットは送信されません。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、EAPOL 成功パケットの送信をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# dot1x critical eapol
Switch(config-if)#
```

**関連コマンド**

- [dot1x critical](#)
- [dot1x critical recovery delay](#)
- [dot1x critical vlan](#)
- [show dot1x](#)

# dot1x critical recovery delay

ポートが再初期化されるまでのインターバルを設定するには、**dot1x critical recovery delay** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**dot1x critical recovery delay delay-time**

**no dot1x critical recovery delay**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>delay-time</i>	AAA（認証、許可、アカウントिंग）遷移が発生した場合の、ポートの再初期化までのインターバルを指定します。有効値は 1 ～ 10,000 ミリ秒です。
------------------	-------------------	--

**デフォルト** 遅延時間は 100 ミリ秒に設定されています。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

<b>コマンド履歴</b>	リリース	変更内容
	12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、802.1x クリティカル回復遅延時間を 500 に設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# dot1x critical recovery delay 500
Switch(config-if)#
```

**関連コマンド**

- [dot1x critical](#)
- [dot1x critical eapol](#)
- [dot1x critical vlan](#)
- [show dot1x](#)

## dot1x critical vlan

クリティカル認証を行ったポートを特定の VLAN（仮想 LAN）に割り当てるには、**dot1x critical vlan** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
dot1x critical vlan vlan-id
```

```
no dot1x critical vlan-id
```

シンタックスの説明	<i>vlan-id</i> (任意) VLAN（仮想 LAN）を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。
-----------	---

デフォルト	ポートの VLAN では、クリティカル認証はディセーブルです。
-------	---------------------------------

コマンドモード	インターフェイス コンフィギュレーション モード
---------	--------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

使用上のガイドライン	指定する VLAN のタイプは、ポートタイプと一致している必要があります。ポートがアクセスポートの場合は、VLAN は通常の VLAN である必要があります。プライベート VLAN のホストポートの場合は、有効なプライベート VLAN ドメインにおけるセカンダリ VLAN である必要があります。ルーティッドポートの場合は、VLAN は指定できません。
------------	--

このコマンドは、クリティカル認証 VLAN サブシステムを含まないプラットフォーム（レイヤ 3 スイッチなど）ではサポートされません。

例	次に、ポート VLAN で 802.1x クリティカル認証をイネーブルにする例を示します。
---	---

```
Switch(config-if)# dot1x critical vlan 350  
Switch(config-if)#
```

関連コマンド	<a href="#">dot1x critical</a> <a href="#">dot1x critical eapol</a> <a href="#">dot1x critical recovery delay</a> <a href="#">show dot1x</a>
--------	---

## dot1x guest-vlan

ポート単位でゲスト VLAN（仮想 LAN）をイネーブルにするには、**dot1x guest-vlan** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
dot1x guest-vlan vlan-id
```

```
no dot1x guest-vlan vlan-id
```

シンタックスの説明	<i>vlan-id</i>	1 ~ 4,094 の VLAN を指定します。
-----------	----------------	--------------------------

デフォルト	なし。ゲスト VLAN 機能はディセーブルです。
-------	--------------------------

コマンドモード	インターフェイス コンフィギュレーション モード
---------	--------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.2(25)EWA	設定済みゲスト VLAN ID としてのセカンダリ VLAN のサポートが追加されました。

使用上のガイドライン	ゲスト VLAN は、アクセス ポートまたはプライベート VLAN ホスト ポートとして静的に設定されたポートのみで設定できます。静的に設定されたアクセス ポートでは、通常の VLAN をゲスト VLAN として設定できます。静的に設定されたプライベート VLAN ホスト ポートでは、セカンダリプライベート VLAN をゲスト VLAN として設定できます。
------------	--

例	次に、インターフェイス fastethernet4/3 上でゲスト VLAN をイネーブルにする例を示します。
---	---

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet4/3
Switch(config-if)# dot1x port-control auto
Switch(config-if)# dot1x guest-vlan 26
Switch(config-if)# end
Switch(config)# end
Switch#
```

関連コマンド	<a href="#">dot1x max-reauth-req</a> <a href="#">show dot1x</a>
--------	--

# dot1x guest-vlan supplicant

802.1x 対応のサブリカント (ホスト) をゲスト VLAN に入れるには、**dot1x guest-vlan supplicant** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**dot1x guest-vlan supplicant**

**no dot1x guest-vlan supplicant**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** 802.1x 対応ホストはゲスト VLAN に入れることはできません。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(25)EWA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** Cisco Release 12.2(25)EWA では、**dot1x guest-vlan supplicant** コマンドを使用して、802.1x 対応ホストをゲスト VLAN に入れることができます。Cisco Release 12.2(25)EWA より前のリリースでは、802.1x 非対応ホストしかゲスト VLAN に入れることはできませんでした。

ゲスト VLAN サブリカントの動作をイネーブルにした場合は、Catalyst 4500 シリーズ スイッチは EAPOL パケット履歴を維持しません。このスイッチでは、EAPOL パケットがインターフェイス上で検出されたかどうかにかかわらず、802.1x 認証に失敗したクライアントによるゲスト VLAN へのアクセスが許可されます。

**例** 次に、802.1x 対応サブリカント (ホスト) をゲスト VLAN に入れる例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# dot1x guest-vlan supplicant
Switch(config)# end
Switch#
```

**関連コマンド** [dot1x system-auth-control](#)  
[show dot1x](#)

## dot1x host-mode

シングルホスト（クライアント）または複数のホストを IEEE 802.1x 対応のポートで使用可能にするには、**dot1x host-mode** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドをスイッチ スタックまたはスタンドアロン スイッチ上で使用します。Multidomain Authentication（MDA; マルチドメイン認証）を IEEE 802.1x 対応ポートでイネーブルにするには、**multi-domain** キーワードを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
dot1x host-mode {multi-host | single-host | multi-domain}
```

```
no dot1x host-mode [multi-host | single-host | multi-domain]
```

### シンタックスの説明

<b>multi-host</b>	マルチホスト モードをスイッチ上でイネーブルにします。
<b>single-host</b>	シングルホスト モードをスイッチ上でイネーブルにします。
<b>multi-domain</b>	MDA をスイッチ ポート上でイネーブルにします。

### デフォルト

デフォルトは、シングルホスト モードです。

### コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(20)EWA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.2(37)SG	複数のドメインのサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

IEEE 802.1x 対応ポートをシングルクライアントに制限するか、IEEE 802.1x 対応ポートに複数のクライアントを接続するには、このコマンドを使用します。マルチホスト モードで、すべてのホストにネットワーク アクセスが許可されるには、少なくとも接続ホストのいずれか 1 つが正常に許可される必要があります。ポートが無許可になると（再認証が失敗するか、Extensible Authentication Protocol over LAN [EAPOL] ログオフ メッセージを受信すると）、接続されたすべてのクライアントのネットワーク アクセスが拒否されます。

1 つのポート上で MDA をイネーブルにするには、**multi-domain** キーワードを使用します。MDA はポートを、データ ドメインと音声ドメインの両方に分割します。MDA により、データ デバイスおよび IP フォン（シスコ製でも他社製でも可）のような音声デバイスの両方が同じ IEEE 802.1x 対応ポート上で使用できるようになります。

このコマンドを入力する前に、**dot1x port-control** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドが指定のポートに対して、**auto** に設定されていることを確認してください。

### 例

次に、802.1x 認証およびマルチホスト モードをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface gigabitethernet6/1
Switch(config-if)# dot1x port-control auto
Switch(config-if)# dot1x host-mode multi-host
Switch(config-if)# end
Switch#
```



次に、MDA をイネーブルにして、ホストと音声デバイスの両方をポート上で使用可能にする例を示します。

```
Switch# configure t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface FastEthernet6/1
Switch(config-if)# switchport access vlan 12
Switch(config-if)# switchport mode access
Switch(config-if)# switchport voice vlan 10
Switch(config-if)# dot1x pae authenticator
Switch(config-if)# dot1x port-control auto
Switch(config-if)# dot1x host-mode multi-domain
Switch(config-if)# no shutdown
Switch(config-if)# end
Switch#
```

`show dot1x [interface interface-id]` 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

関連コマンド [show dot1x](#)

## dot1x initialize

802.1x を再初期化する前にインターフェイスを無許可にするには、`dot1x initialize` コマンドを使用します。

`dot1x initialize interface`

シンタックスの説明 `interface` インターフェイスの番号です。

デフォルト このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

使用上のガイドライン ステートマシンを初期化し、新しい認証環境をセットアップするには、このコマンドを使用します。

例 次に、インターフェイス上で 802.1x ステートマシンを初期化する例を示します。

```
Switch# dot1x initialize
Switch#
```

関連コマンド [dot1x initialize](#)  
[show dot1x](#)

## dot1x mac-auth-bypass

スイッチで 802.1x MAC (メディア アクセス制御) アドレス バイパスをイネーブルにするには、**dot1x mac-auth-bypass** コマンドを使用します。MAC アドレス バイパスをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
dot1x mac-auth-bypass [eap]
```

```
no dot1x mac-auth-bypass [eap]
```

### シンタックスの説明

eap	(任意) EAP MAC アドレス認証の使用を指定します。
-----	-------------------------------

### デフォルト

デフォルト設定はありません。

### コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

**dot1x mac-auth-bypass** 設定をポートから削除しても、ポートの許可ステートまたは認証ステートには影響はありません。未認証ステートのポートは未認証ステートのままです。また、MAB がアクティブな場合は、認証が 802.1x オーセンティケータに戻ります。ポートが MAC アドレスによって許可されている場合に MAB 設定を削除すると、このポートは再認証が行われるまで許可された状態を維持します。再認証が実行されると、回線上で検出された 802.1x サブリカントが優先されるため、MAC アドレスは削除されます。

### 例

次に、EAP MAC アドレス認証をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# dot1x mac-auth-bypass
Switch(config-if)#
```

## dot1x max-reauth-req

認証プロセスを再起動する前に、スイッチが EAP 要求 /ID フレームをクライアントに再送信する最大回数を設定するには、**dot1x max-reauth-req** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
dot1x max-reauth-req count
```

```
no dot1x max-reauth-req
```

### シンタックスの説明

<i>count</i>	認証プロセスを再開するまでにスイッチが EAP 要求 /ID フレームを再送信する回数です。有効値は 1 ~ 10 回です。
--------------	--

### デフォルト

スイッチの再送信回数の最大値は 2 回です。

### コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード。

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドのデフォルト値の変更は、信頼性のないリンクや特定のクライアントおよび認証サーバの特殊な動作問題など、異常な状況を調整する場合だけ行うようにしてください。この設定は、dot1x 非対応クライアントを設定した場合に、このクライアントがゲスト VLAN（仮想 LAN）に登録されるまでの待機時間に影響します。

**show dot1x** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

### 例

次に、認証プロセスを再開するまでに、スイッチが EAP 要求 /ID フレームを再送信する回数を 5 回に設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# dot1x max-reauth-req 5  
Switch(config-if)#
```

### 関連コマンド

[show dot1x](#)

## dot1x max-req

認証プロセスを再開する前にスイッチが Extensible Authentication Protocol (EAP) 要求 /ID 以外のタイプの EAP 要求フレームをクライアントに再送信する最大回数を設定するには、**dot1x max-req** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**dot1x max-req count**

**no dot1x max-req**

### シンタックスの説明

<i>count</i>	認証プロセスを再開するまでにスイッチが EAP 要求 /ID フレーム以外のタイプの EAP 要求フレームを再送信する回数です。有効値は 1 ~ 10 回です。
--------------	--

### デフォルト

スイッチの再送信回数の最大値は 2 回です。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(19)EW	EAP 要求 /ID 再送信制限を制御するように変更されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドのデフォルト値の変更は、信頼性のないリンクや特定のクライアントおよび認証サーバの特殊な動作問題など、異常な状況を調整する場合だけ行うようにしてください。

**show dot1x** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

### 例

次に、認証プロセスを再開するまでに、スイッチが EAP 要求フレームを再送信する回数を 5 回に設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# dot1x max-req 5
Switch(config-if)#
```

### 関連コマンド

[dot1x initialize](#)  
[dot1x max-reauth-req](#)  
[show dot1x](#)

# dot1x port-control

ポート上での認証ステートの手動制御をイネーブルにするには、**dot1x port-control** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
dot1x port-control {auto | force-authorized | force-unauthorized}
```

```
no dot1x port-control {auto | force-authorized | force-unauthorized}
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	<b>auto</b>	インターフェイス上で 802.1x 認証をイネーブルにして、スイッチとクライアントの間の 802.1x 認証交換に基づきポートを許可または無許可ステートへ移行させます。
	<b>force-authorized</b>	インターフェイス上で 802.1x 認証をディセーブルにして、認証交換をせずにポートを許可ステートに移行させます。ポートは、クライアントの 802.1x ベースの認証なしで通常のトラフィックを送受信します。
	<b>force-unauthorized</b>	ポートを強制的に無許可ステートに移行させ、クライアント認証の試行をすべて無視することにより、指定されたインターフェイス上のすべてのアクセスを拒否します。スイッチは、インターフェイスを介してクライアントに認証サービスを提供できません。

**デフォルト** ポート 802.1x 許可はディセーブルです。

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 802.1x プロトコルは、レイヤ 2 スタティック アクセス ポートとレイヤ 3 ルーテッド ポートの両方でサポートされています。

ポートが次のように設定されていない場合にだけ **auto** キーワードを使用できます。

- **トランク ポート** — トランク ポートで 802.1x をイネーブルにしようとする、エラー メッセージが表示され、802.1x はイネーブルになりません。802.1x 対応ポートのモードをトランクに変更しようとしても、ポート モードは変更されません。
- **ダイナミック ポート** — ダイナミック モードのポートは、近接ポートとネゴシエーションしてトランク ポートになることができます。ダイナミック ポートで 802.1x をイネーブルにしようとする、エラー メッセージが表示され、802.1x はイネーブルになりません。802.1x 対応ポートのモードをダイナミックに変更しようとしても、ポート モードは変更されません。
- **EtherChannel ポート** — ポート上で 802.1x をイネーブルにする前に、まず EtherChannel から削除する必要があります。EtherChannel または EtherChannel のアクティブ ポートで 802.1x をイネーブルにしようとする、エラー メッセージが表示され、802.1x はイネーブルになりません。EtherChannel の非アクティブ ポートで 802.1x をイネーブルにしようとする、ポートは EtherChannel に加入しません。
- **Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチド ポート アナライザ) 宛先ポート** — SPAN 宛先ポートで 802.1x をイネーブルにできますが、SPAN 宛先として削除するまで 802.1x はディセーブルに設定されます。SPAN 送信元ポートでは、802.1x をイネーブルにできます。

スイッチで 802.1x をグローバルにディセーブルにするには、各ポートでディセーブルにする必要があります。この操作に使用できるグローバル コンフィギュレーション コマンドはありません。

**例**

次に、gigabitethernet1/1 上で 802.1x をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# dot1x port-control auto
Switch#
```

**show dot1x all** または **show dot1x interface int** コマンドを入力してポート制御ステータスを表示すると、設定を確認できます。表示されたステータスがイネーブル (enabled) の場合、ポート制御値が **auto** または **force-unauthorized** に設定されていることを意味します。

**関連コマンド**

[show dot1x](#)

## dot1x re-authenticate

手動ですべての 802.1x 対応ポートまたは指定された 802.1x 対応ポートの再認証を初期化するには、**dot1x re-authenticate** コマンドを使用します。

```
dot1x re-authenticate [interface interface-id]
```

**シンタックスの説明**

**interface interface-id** (任意) インターフェイスのモジュールおよびポート番号です。

**デフォルト**

このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード**

特権 EXEC モード

**コマンド履歴**

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン**

再認証試行 (re-authperiod) と自動再認証との間で設定された秒数を待たずにクライアントを再認証する場合に、このコマンドを使用できます。

**例**

次に、インターフェイス gigabitethernet1/1 に接続された装置を手動で再認証する例を示します。

```
Switch# dot1x re-authenticate interface gigabitethernet1/1
Starting reauthentication on gigabitethernet1/1
Switch#
```

# dot1x re-authentication

クライアントの定期的再認証をイネーブルにするには、**dot1x re-authentication** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**dot1x re-authentication**

**no dot1x re-authentication**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** 定期的再認証はディセーブルです。

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** **dot1x timeout re-authperiod** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用すると、定期的再認証試行間隔の時間を設定できます。

**例** 次に、クライアントの定期的再認証をディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# no dot1x re-authentication
Switch(config-if)#
```

次に、定期的再認証をイネーブルにし、再認証を試行する間隔を 4,000 秒に設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# dot1x re-authentication
Switch(config-if)# dot1x timeout re-authperiod 4000
Switch#
```

**show dot1x** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

**関連コマンド** [dot1x timeout](#)  
[show dot1x](#)

# dot1x system-auth-control

スイッチで 802.1x 認証をイネーブルにするには、**dot1x system-auth-control** コマンドを使用します。システムの 802.1x 認証をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**dot1x system-auth-control**

**no dot1x system-auth-control**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** 802.1x 認証はディセーブルです。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** スイッチの任意のポートで 802.1x アクセス コントロールを使用するには、**dot1x system-auth-control** コマンドをイネーブルにする必要があります。802.1x アクセス コントロールを使用する各ポート上で、**dot1x port-control auto** コマンドを使用できます。

**例** 次に、802.1x 認証をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# dot1x system-auth-control
Switch(config)#
```

**関連コマンド**

- [dot1x initialize](#)
- [show dot1x](#)



# dot1x timeout

再認証タイマーを設定するには、**dot1x timeout** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
dot1x timeout {reauth-period {seconds | server} | quiet-period seconds | tx-period seconds |
  supp-timeout seconds | server-timeout seconds}
no dot1x timeout {reauth-period | quiet-period | tx-period | supp-timeout | server-timeout}
```

## シンタックスの説明

<b>reauth-period seconds</b>	再認証試行間隔の秒数です。有効値は 1 ～ 65,535 秒です。詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<b>reauth-period server</b>	再認証試行間隔の秒数です。有効値は 1 ～ 65,535 秒であり、Session-Timeout RADIUS 属性に従います。詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<b>quiet-period seconds</b>	クライアントとの認証交換が失敗したあと、スイッチが待機ステートにある秒数を設定します。有効値は 0 ～ 65,535 秒です。
<b>tx-period seconds</b>	要求を再送信するまでに、スイッチがクライアントからの EAP 要求/ID フレームに対する応答を待機する秒数を設定します。有効値は 1 ～ 65,535 秒です。
<b>supp-timeout seconds</b>	EAP 要求パケットの再送信を待機する秒数を設定します。有効値は 30 ～ 65,535 秒です。
<b>server-timeout seconds</b>	スイッチがバックエンドオーセンティケータによる認証サーバへのパケットの再送信を待機する秒数を設定します。有効値は 30 ～ 65,535 秒です。

## デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- reauth-period は 3,600 秒です。
- quiet-period は 60 秒です。
- tx-period は 30 秒です。
- supp-timeout は 30 秒です。
- server-timeout は 30 秒です。

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.2(25)EWA	サーバからの認証タイマー選択のサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**dot1x timeout re-authperiod** コマンドを入力する前に、定期的再認証をイネーブルにしておく必要があります。定期的再認証をイネーブルにするには、**dot1x re-authentication** コマンドを入力します。

**例** 次に、要求を再送信するまでに、スイッチがクライアントからの EAP 要求 /ID フレームに対する応答を待機する秒数を 60 秒に設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet4/3
Switch(config-if)# dot1x timeout tx-period 60
Switch(config-if)# end
Switch#
```

**show dot1x** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

次に、Session-Timeout 属性から得られた再認証タイムアウトを使用するように、スイッチを設定する例を示します。この属性は、ホストが 802.1x 経由の認証に成功したときに受信した、RADIUS Access-Accept メッセージから取得されます。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet4/3
Switch(config-if)# dot1x timeout reauth-period server
Switch(config-if)# end
Switch#
```

#### 関連コマンド

[dot1x initialize](#)  
[show dot1x](#)

# duplex

インターフェイス上でデュプレックス動作を設定するには、**duplex** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
duplex {auto | full | half}
```

```
no duplex
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	<b>auto</b>	自動ネゴシエーション動作を指定します。
	<b>full</b>	全二重動作を指定します。
	<b>half</b>	半二重動作を指定します。

**デフォルト** 半二重動作

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 表 2-1 に、サポートされているコマンド オプションをインターフェイス別に示します。

表 2-1 サポートされている duplex コマンド オプション

インターフェイスタイプ	サポートされている構文	デフォルト設定	注意事項
10/100 Mbps モジュール	<b>duplex [half   full]</b>	<b>half</b>	速度が <b>auto</b> に設定されている場合は、 <b>duplex</b> モードを設定できません。  速度が <b>10</b> または <b>100</b> に設定されていて、デュプレックスが設定されていない場合、デュプレックス モードは <b>half</b> デュプレックスに設定されます。
100 Mbps ファイバ モジュール	<b>duplex [half   full]</b>	<b>half</b>	
ギガビットイーサネットインターフェイス	サポートなし	サポートなし	ギガビットイーサネットインターフェイスは <b>full</b> デュプレックスに設定されます。
10/100/1000	<b>duplex [half   full]</b>		速度が <b>auto</b> または <b>1000</b> に設定されている場合は、 <b>duplex</b> を設定できません。  速度が <b>10</b> または <b>100</b> に設定されていて、デュプレックスが設定されていない場合、デュプレックス モードは <b>half</b> デュプレックスに設定されます。

16 ポート RJ-45 ギガビット イーサネット ポート上での伝送速度が **1000** に設定されている場合、デュプレックス モードは **full** に設定されます。伝送速度が **10** または **100** に変化しても、デュプレックス モードは **full** のままです。伝送速度が 1000 Mbps から **10** または **100** に変化した場合、スイッチに正しいデュプレックス モードを設定する必要があります。



### 注意

インターフェイス速度およびデュプレックス モードの設定を変更すると、インターフェイスがシャットダウンされてから再びイネーブルになる場合があります。

表 2-2 に、デュプレックスと速度モードをさまざまに組み合わせた場合のシステム パフォーマンスを示します。duplex コマンドと speed コマンドの設定により、表に示すアクションが行われます。

表 2-2 duplex コマンドと speed コマンドの関係

duplex コマンド	speed コマンド	システム アクション
duplex half または duplex full	speed auto	速度とデュプレックス モードの両方を自動ネゴシエーションします。
duplex half	speed 10	強制的に 10 Mbps および半二重になります。
duplex full	speed 10	強制的に 10 Mbps および全二重になります。
duplex half	speed 100	強制的に 100 Mbps および半二重になります。
duplex full	speed 100	強制的に 100 Mbps および全二重になります。
duplex full	speed 1000	強制的に 1,000 Mbps および全二重になります。

### 例

次に、インターフェイスを全二重動作に設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# duplex full
Switch(config-if)#
```

### 関連コマンド

#### speed

**interface** (Cisco IOS のマニュアルを参照)


**show controllers** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

**show interfaces** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

# erase

ファイルシステムを消去するには、**erase** コマンドを使用します。

```
erase {/all [non-default | nvram:] | cat4000_flash | nvram: | startup-config}
```

シンタックスの説明	
/all nvram:	NVRAM（不揮発性 RAM）内のすべての内容を消去します。
/all non-default	NVRAM、ブートフラッシュ、cat4000_flash、crashinfo など、ローカル スーパーバイザ エンジンの不揮発性ストレージ内にあるファイルおよび設定を消去します。Catalyst 4500 シリーズスイッチを、出荷時のデフォルト設定にリセットします。
	 <b>(注)</b> このコマンド オプションは、スタンドアロンのスーパーバイザ エンジンのみを対象としています。
cat4000_flash:	VLAN（仮想 LAN）データベースのコンフィギュレーション ファイルを消去します。
nvram:	NVRAM 内の startup-config および private-config ファイルを消去します。
startup-config:	NVRAM 内の startup-config および private-config ファイルを消去します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(25)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン



**erase** コマンドを使用してファイルシステムを消去した場合は、このファイルシステム内のファイルは回復できません。

上述のコマンド オプションのほかに、NVRAM および slavenvram や slavecat4000\_flash などのフラッシュの識別に使用されるプレフィクス スレーブ用のオプションも、冗長構成のデュアル スーパーバイザスイッチのコマンド ヘルプ メッセージに表示されます。

**erase nvram:** コマンドは、**write erase** および **erase startup-config** コマンドの代わりに使用されます。この 2 つのコマンドと同様、startup-config ファイルと private-config ファイルの両方を消去します。

**erase /all nvram:** コマンドは startup-config ファイルと private-config ファイルのほかに、NVRAM のすべてのファイルを消去します。

**erase cat4000\_flash:** コマンドは、VLAN データベースのコンフィギュレーション ファイルを消去します。

**erase /all non-default** コマンドは、製造施設や修理センターでの作業の円滑化に役立ちます。このコマンドは、不揮発性ストレージ内に保管された設定および状態を消去し、Catalyst 4500 シリーズスイッチを、出荷時のデフォルト設定にリセットします。デフォルト設定とは、IOS ライブラリ (後述) で説明されている設定、および **erase /all non-default** コマンド (vtp mode=transparent、ROMMON 変数の ConfigReg=0x2101、PS1="rommon !>" および EnableAutoConfig=1) で設定された設定です。

- 次の URL の『Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide』Release 12.2  
[http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/software/ios122/122cgcr/fun\\_c/index.htm](http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/software/ios122/122cgcr/fun_c/index.htm)
- 次の URL の『Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Command Reference』Release 12.2  
[http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/software/ios122/122cgcr/fun\\_r/index.htm](http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/software/ios122/122cgcr/fun_r/index.htm)



### 注意

erase /all non-default コマンドは、ブートフラッシュ内の IOS イメージも消去します。したがって、次の 2 点を確認してください。1) IOS イメージをブートフラッシュに再コピーできること (たとえば、アクセス可能な TFTP サーバや、ほとんどのシャーシモデルに存在するスロット 0 に挿入されたフラッシュカードからコピーする)。または、2) アクセス可能なネットワーク サーバに格納されたイメージからスイッチを起動できること。

### 例

次に、不揮発性ストレージ内のファイルと設定を消去し、スイッチを出荷時の設定に戻す例を示します。

```
Switch# erase /all non-default
Switch#
Erase and format operation will destroy all data in non-volatile storage. Continue?
[confirm]
Formatting bootflash: ...

Format of bootflash complete
Erasing nvram:
Erasing cat4000_flash:
Clearing crashinfo:data
Clearing the last power failure timestamp
Clearing all ROMMON variables
Setting default ROMMON variables:
    ConfigReg=0x2101
    PS1=rommon ! >
    EnableAutoConfig=1
Setting vtp mode to transparent
%WARNING! Please reboot the system for the changes to take effect
Switch#
00:01:48: %SYS-7-NV_BLOCK_INIT: Initialized the geometry of nvram
Switch#
```

次に、NVRAM の内容を消去する例を示します。

```
Switch# erase /all nvram:
Erasing the nvram filesystem will remove all files! Continue? [confirm]
[OK]
Erase of nvram: complete
Switch#
00:38:10: %SYS-7-NV_BLOCK_INIT: Initalized the geometry of nvram
Switch#
```

次に、ファイルシステム `cat4000_flash` を消去する例を示します。

```
Switch# erase cat4000_flash:  
Erasing the cat4000_flash filesystem will remove all files! Continue? [confirm]  
[OK]  
Erase of cat4000_flash:complete  
Switch#
```

#### 関連コマンド

**boot config** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

**delete** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

**more nvram:startup-config:** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

**show bootvar**

**undelete** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

# errdisable detect

エラー ディセーブル検出をイネーブルにするには、**errdisable detect** コマンドを使用します。エラー ディセーブル検出機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
errdisable detect cause {all | arp-inspection | dhcp-rate-limit | dtp-flap | gbic-invalid | l2ptguard | link-flap | pagp-flap}
```

```
no errdisable detect cause {all | arp-inspection | dhcp-rate-limit | dtp-flap | gbic-invalid | l2ptguard | link-flap | pagp-flap}
```

## シンタックスの説明

<b>cause</b>	エラー ディセーブル検出を指定して、特定の原因からの検出を行います。
<b>all</b>	すべてのエラー ディセーブル原因のエラー ディセーブル検出を指定します。
<b>arp-inspection</b>	Address Resolution Protocol (ARP; アドレス レゾリューション プロトコル) インスペクション エラー ディセーブル原因の検出を指定します。
<b>dhcp-rate-limit</b>	DHCP レート制限エラー ディセーブル原因の検出を指定します。
<b>dtp-flap</b>	Dynamic Trunking Protocol (DTP; ダイナミック トランキング プロトコル) フラップ エラー ディセーブル原因の検出を指定します。
<b>gbic-invalid</b>	GBIC (ギガビット インターフェイス コンバータ) 無効エラー ディセーブル原因の検出を指定します。
<b>l2ptguard</b>	レイヤ2 プロトコル トンネル エラー ディセーブル原因の検出を指定します。
<b>link-flap</b>	リンク フラップ エラー ディセーブル原因の検出を指定します。
<b>pagp-flap</b>	Port Aggregation Protocol (PAgP; ポート集約プロトコル) フラップ エラー ディセーブル原因の検出を指定します。

## デフォルト

すべてのエラー ディセーブル原因が検出されます。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

原因 (dtp-flap、link-flap、pagp-flap) は、エラー ディセーブル ステートが発生する理由として定義されます。原因が検出されたインターフェイスは、エラー ディセーブル ステート (リンク ダウン ステートに似た動作ステート) となります。

**shutdown** コマンドを入力し、次に **no shutdown** コマンドを入力して、インターフェイスをエラー ディセーブルから手動で回復する必要があります。

## 例

次に、リンク フラップ エラー ディセーブル原因のエラー ディセーブル検出をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# errdisable detect cause link-flap
Switch(config)#
```



次に、Dynamic ARP Inspection (DAI; ダイナミック ARP インスペクション) のエラー ディセーブル 検出をディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# no errdisable detect cause arp-inspection
Switch(config)# end
Switch# show errdisable detect
ErrDisable Reason    Detection status
-----
udld                  Enabled
bpduguard             Enabled
security-violatio    Enabled
channel-misconfig    Disabled
psecure-violation    Enabled
vmps                  Enabled
pagp-flap             Enabled
dtp-flap              Enabled
link-flap             Enabled
l2ptguard            Enabled
gbic-invalid         Enabled
dhcp-rate-limit      Enabled
unicast-flood        Enabled
storm-control        Enabled
ilpower              Enabled
arp-inspection       Disabled
Switch#
```

**関連コマンド**

[show errdisable detect](#)  
[show interfaces status](#)

# errdisable recovery

回復メカニズム変数を設定するには、**errdisable recovery** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
errdisable recovery [cause {all | arp-inspection | bpduguard | channel-misconfig | dhcp-rate-limit |
dtp-flap | gbic-invalid | l2ptguard | link-flap | pagp-flap | pesecure-violation | security-violation
| storm-control | udld | unicastflood | vmps} [arp-inspection] [interval {interval}]]
```

```
no errdisable recovery [cause {all | arp-inspection | bpduguard | channel-misconfig | dhcp-rate-limit
| dtp-flap | gbic-invalid | l2ptguard | link-flap | pagp-flap | pesecure-violation | security-violation
| storm-control | udld | unicastflood | vmps} [arp-inspection] [interval {interval}]]
```

## シンタックスの説明

<b>cause</b>	(任意) 特定の原因から回復するためのエラー ディセーブル回復をイネーブルにします。
<b>all</b>	(任意) すべてのエラー ディセーブル原因の回復タイマーをイネーブルにします。
<b>arp-inspection</b>	(任意) Address Resolution Protocol (ARP; アドレス レゾリューション プロトコル) インспекション原因の回復タイマーをイネーブルにします。
<b>bpduguard</b>	(任意) Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) ガード エラー ディセーブル原因の回復タイマーをイネーブルにします。
<b>channel-misconfig</b>	(任意) チャネル設定ミス エラー ディセーブル原因の回復タイマーをイネーブルにします。
<b>dhcp-rate-limit</b>	(任意) DHCP レート制限エラー ディセーブル原因の回復タイマーをイネーブルにします。
<b>dtp-flap</b>	(任意) Dynamic Trunking Protocol (DTP; ダイナミック トランキング プロトコル) フラップ エラー ディセーブル原因の回復タイマーをイネーブルにします。
<b>gbic-invalid</b>	(任意) GBIC (ギガビット インターフェイス コンバータ) 無効エラー ディセーブル原因の回復タイマーをイネーブルにします。
<b>l2ptguard</b>	(任意) レイヤ 2 プロトコル トンネル エラー ディセーブル原因の回復タイマーをイネーブルにします。
<b>link-flap</b>	(任意) リンク フラップ エラー ディセーブル原因の回復タイマーをイネーブルにします。
<b>pagp-flap</b>	(任意) Port Aggregation Protocol (PAgP; ポート集約プロトコル) フラップ エラー ディセーブル原因の回復タイマーをイネーブルにします。
<b>pesecure-violation</b>	(任意) pesecure 違反エラー ディセーブル原因の回復タイマーをイネーブルにします。
<b>security-violation</b>	(任意) 802.1x セキュリティ違反によりディセーブルとなったポートの自動回復をイネーブルにします。
<b>storm-control</b>	(任意) ストーム制御エラーディセーブル ステートからの回復タイマーをイネーブルにします。
<b>udld</b>	(任意) UniDirectional Link Detection Protocol (UDLD; 単一方向リンク検出) エラー ディセーブル原因の回復タイマーをイネーブルにします。
<b>unicastflood</b>	(任意) ユニキャスト フラッピング エラー ディセーブル原因の回復タイマーをイネーブルにします。
<b>vmps</b>	(任意) VLAN Membership Policy Server (VMPS; VLAN メンバシップ ポリシー サーバ) エラー ディセーブル原因の回復タイマーをイネーブルにします。

<b>arp-inspection</b>	(任意) ARP インспекション原因および回復タイムアウトをイネーブルにします。
<b>interval <i>interval</i></b>	(任意) 指定されたエラー ディセーブル原因から回復する時間を指定します。有効値は 30 ~ 86,400 秒です。

**デフォルト**

エラー ディセーブル回復はディセーブルです。  
回復インターバルは 300 秒に設定されています。

**コマンドモード**

コンフィギュレーション

**コマンド履歴**

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(19)EW	ストーム制御機能のサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン**

原因 (bpduguard、dtp-flap、link-flap、pagp-flap、udld) は、エラー ディセーブル ステートが発生する理由として定義されます。原因が検出されたインターフェイスは、エラー ディセーブル ステート (リンク ダウン ステートに似た動作ステート) となります。その原因のエラー ディセーブル回復をイネーブルにしない場合、shutdown および no shutdown が入力されるまでインターフェイスはエラー ディセーブル ステートのままです。原因の回復をイネーブルにした場合、インターフェイスはエラー ディセーブル ステートから抜け出し、すべての原因がタイムアウトになったときに動作を再開できるようになります。

**shutdown** コマンドを入力し、次に **no shutdown** コマンドを入力して、インターフェイスをエラー ディセーブルから手動で回復する必要があります。

**例**

次に、BPDU ガードエラー ディセーブル原因の回復タイマーをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# errdisable recovery cause bpduguard
Switch(config)#
```

次に、タイマーを 300 秒に設定する例を示します。

```
Switch(config)# errdisable recovery interval 300
Switch(config)#
```

次に、ARP インспекションのエラーディセーブル回復をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# errdisable recovery cause arp-inspection
Switch(config)# end
Switch# show errdisable recovery
ErrDisable Reason    Timer Status
-----
udld                  Disabled
bpduguard             Disabled
security-violatio    Disabled
channel-misconfig    Disabled
vmps                  Disabled
pagp-flap             Disabled
dtp-flap              Disabled
link-flap             Disabled
l2ptguard             Disabled
psecure-violation    Disabled
gbic-invalid          Disabled
dhcp-rate-limit      Disabled
unicast-flood         Disabled
storm-control         Disabled
arp-inspection        Enabled

Timer interval: 300 seconds

Interfaces that will be enabled at the next timeout:

Switch#
```

#### 関連コマンド

[show errdisable recovery](#)  
[show interfaces status](#)

# flowcontrol

ギガビットイーサネットインターフェイスがポーズフレームを送信または受信するよう設定するには、**flowcontrol** コマンドを使用します。フロー制御設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
flowcontrol {receive | send} {off | on | desired}
```

```
no flowcontrol {receive | send} {off | on | desired}
```

## シンタックスの説明

<b>receive</b>	インターフェイスがポーズフレームを処理するよう指定します。
<b>send</b>	インターフェイスがポーズフレームを送信するよう指定します。
<b>off</b>	ローカルポートがリモートポートからのポーズフレームを受信して処理したり、リモートポートへポーズフレームを送信したりすることを禁止します。
<b>on</b>	ローカルポートがリモートポートからのポーズフレームを受信して処理したり、リモートポートへポーズフレームを送信したりすることをイネーブルにします。
<b>desired</b>	リモートポートが <b>on</b> 、 <b>off</b> 、または <b>desired</b> のいずれかに設定されていても、予測できる結果を入手します。

## デフォルト

ギガビットイーサネットインターフェイスのデフォルト設定は次のとおりです。

- ポーズフレームの送信 — **off** (非オーバーサブスクライブ ギガビットイーサネットインターフェイス)
- ポーズフレームの受信 — **desired** (非オーバーサブスクライブ ギガビットイーサネットインターフェイス)
- ポーズフレームの送信 — **on** (オーバーサブスクライブ ギガビットイーサネットインターフェイス)
- ポーズフレームの受信 — **desired** (オーバーサブスクライブ ギガビットイーサネットインターフェイス)

表 2-3 に、モジュールのデフォルト設定を示します。

表 2-3 モジュール デフォルト設定

モジュール	ポート	送信
WS-X4418-GB および WS-X4416-2GB-TX 以外のすべてのモジュール	オーバーサブスクライブポート以外の すべてのポート	off
WS-X4418-GB	アップリンクポート (1～2)	off
WS-X4418-GB	オーバーサブスクライブポート (3～18)	on
WS-X4412-2GB-TX	アップリンクポート (13～14)	off
WS-X4412-2GB-TX	オーバーサブスクライブポート (1～12)	on
WS-X4416-2GB-TX	アップリンクポート (17～18)	off

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

ポーズフレームは、バッファがいっぱいであるために特定の期間フレームの送信を停止する信号を送信元に送る特殊なパケットです。

表 2-4 に、**flowcontrol** コマンドと **send** キーワードおよび **receive** キーワードをさまざまな組み合わせで使用する場合の注意事項を示します。

表 2-4 send キーワードおよび receive キーワードの設定

コンフィギュレーション	説明
<b>send on</b>	ローカル ポートからリモート ポートへのポーズ フレームの送信をイネーブルにします。予測できる結果を得るには、 <b>send on</b> は、リモート ポートが <b>receive on</b> または <b>receive desired</b> に設定されている場合にだけ使用します。
<b>send off</b>	ローカル ポートからリモート ポートへのポーズ フレームの送信を禁止します。予測できる結果を得るには、 <b>send off</b> は、リモート ポートが <b>receive off</b> または <b>receive desired</b> に設定されている場合にだけ使用します。
<b>send desired</b>	リモート ポートが <b>receive on</b> 、 <b>receive off</b> 、または <b>receive desired</b> のいずれかに設定されていようと、予測できる結果を得ます。
<b>receive on</b>	ローカル ポートで、リモート ポートから送信されたポーズ フレームの処理をイネーブルにします。予測できる結果を得るには、 <b>receive on</b> は、リモート ポートが <b>send on</b> または <b>send desired</b> に設定されている場合にだけ使用します。
<b>receive off</b>	リモート ポートからローカル ポートへのポーズ フレームの送信を禁止します。予測できる結果を得るには、 <b>send off</b> は、リモート ポートが <b>receive off</b> または <b>receive desired</b> に設定されている場合にだけ使用します。
<b>receive desired</b>	リモート ポートが <b>send on</b> 、 <b>send off</b> 、または <b>send desired</b> のいずれかに設定されていても、予測できる結果を得ます。

表 2-5 では、速度設定に基づいてギガビット イーサネット インターフェイス上でフロー制御がどのように強制またはネゴシエーションされるのかを示します。

表 2-5 スイッチ タイプ、モジュール、およびポートごとの送信能力

インターフェイス タイプ	設定速度	アダプタイズされたフロー制御
10/100/1000BASE-TX	速度 1000	常にフロー制御設定
1000BASE-T	ネゴシエーションが常にイネーブル	フロー制御が常にネゴシエーションされるように設定
1000BASE-X	速度非ネゴシエーションなし	フロー制御がネゴシエーションされるように設定
1000BASE-X	速度非ネゴシエーション	フロー制御が強制されるように設定

## 例

次に、送信フロー制御をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# flowcontrol receive on
Switch(config-if)#
```

次に、送信フロー制御をディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# flowcontrol send off
Switch(config-if)#
```

次に、受信フロー制御を `desired` に設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# flowcontrol receive desired
Switch(config-if)#
```

#### 関連コマンド

[interface port-channel](#)  
[interface range](#)  
[interface vlan](#)  
[flowcontrol](#)  
[show running-config](#) (Cisco IOS のマニュアルを参照)  
[speed](#)

## hardware statistics

ACL で TCAM ハードウェア統計をイネーブルにするには、`hardware statistics` コマンドを使用します。TCAM ハードウェア統計をディセーブルにするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

```
hardware statistics
no hardware statistics
```

#### シンタックスの説明

このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

#### デフォルト

ハードウェア統計はディセーブルです。

#### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	Supervisor Engine 6-E のサポートが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

Supervisor Engine 6-E TCAM ハードウェアには、すべての分類 /QoS CAM エントリに関する十分なハードウェア統計エントリがありません。したがって各 CAM エントリの統計は必要に応じてイネーブルにする必要があります。

#### 例

次に、ACL の ACE で TCAM ハードウェア統計をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# ip access-list extended myv4
Switch(config-ext-nacl)# permit ip any any
Switch(config-ext-nacl)# hardware statistics
Switch(config-ext-nacl)# end
```

#### 関連コマンド

[ip access list](#) (Cisco IOS のマニュアルを参照)  
[ipv6 access list](#) (Cisco IOS のマニュアルを参照)  
[mac access-list extended](#)

# hw-module port-group

モジュールでギガビット イーサネットまたは 10 ギガビット イーサネットを選択するには、**hw-module port-group** コマンドを使用します。

**hw-module module *number* port-group *number* select [gigabitethernet | tengigabitethernet]**

## シンタックスの説明

<b>module</b>	回線モジュールを指定します。
<b>number</b>	TwinGig コンバータをサポートするモジュールを指定します。
<b>port-group <i>number</i></b>	スイッチのポート グループ番号。
<b>select</b>	インターフェイスのタイプを指定します。有効値はギガビット イーサネットおよび 10 ギガビット イーサネットです。
<b>gigabitethernet</b>	(任意) ギガビット イーサネットを指定します。
<b>tengigabitethernet</b>	(任意) 10 ギガビット イーサネットを指定します。

## デフォルト

10 Gigabit

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	TwinGig コンバータ モジュールのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは TwinGig コンバータ モジュールをサポートする Cisco Catalyst 4500 モジュールでサポートされています。Supervisor Engine 6-E および WS-X4606-10GE-E がこれに該当します。

## 例

次に、TwinGig コンバータを使用する WS-X4606-10GE-E でギガビット イーサネット インターフェイスを選択する例を示します。

```
Switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# hw-module module 1 port-group 1 select gigabitethernet
Switch(config)# exit
```

設定を表示するには、**show interfaces status** コマンドを使用します。

## 関連コマンド

[show hw-module port-group](#)  
[show interfaces status](#)



## hw-module power

スロットまたは回線モジュールの電源をオフにするには、**no hw-module power** コマンドを使用します。電源を再びオンにするには、**hw-module power** コマンドを使用します。

**hw-module [slot | module] number power**

**no hw-module [slot | module] number power**

### シンタックスの説明

<b>slot</b>	(任意) シャーシのスロットを指定します。
<b>module</b>	(任意) 回線モジュールを指定します。
<b>number</b>	(任意) スロットまたはモジュール番号を指定します。

### デフォルト

起動後に、電源がオンになります。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(18)EW	slot および module キーワードを追加しました。

### 例

次に、スロット 5 にあるモジュールの電源をオフにする例を示します。

```
Switch# no hw-module slot 5 power
Switch#
```

### 関連コマンド

[clear hw-module slot password](#)

# hw-module uplink select

W-C4510R シャーシ内の Supervisor Engine V-10GE 上で 10 ギガビット イーサネット または ギガビット イーサネット アップリンク を選択するには、**hw-module uplink select** コマンドを使用します。

```
hw-module uplink select {tengigabitethernet | gigabitethernet | all}
```

シンタックスの説明	
tengigabitethernet	(任意) 10 ギガビット イーサネット アップリンク を指定します。
gigabitethernet	(任意) ギガビット イーサネット アップリンク を指定します。
all	(任意) すべてのアップリンク (10 ギガビット イーサネット および ギガビット イーサネット) を指定します。

デフォルト tengigabitethernet

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(25)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチ に導入されました。
	12.2(25)SG	all キーワードのサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** Supervisor Engine V-10GE および Supervisor Engine II+10GE は、10 ギガビット イーサネット および ギガビット イーサネット アップリンク ポートをサポートします。Supervisor Engine II+10GE では、すべてのアップリンク ポートは常に使用可能です。同様に、Supervisor Engine V-10GE を W-C4503、W-4506、または W-4507R シャーシに実装した場合も、すべてのアップリンク ポートは常に使用可能です。Supervisor Engine V-10GE を W-4510R シャーシに実装した場合は、10 ギガビット イーサネット アップリンク ポート、ギガビット イーサネット アップリンク ポート、またはすべてのアップリンク ポートの使用を選択できます。すべてのアップリンク ポートの使用を選択した場合は、10 番目のスロットは WS-X4302-GB スイッチング ラインカードのみをサポートします。このコマンドは、リロード (**redundancy reload shelf** コマンドの実行) しないと有効にならないことに注意してください。

アップリンク 選択はハードウェアの初期化時にプログラムされるので、アクティブなアップリンク を変更するには設定を保存し、スイッチをリロードする必要があります。アップリンク に対する変更を設定する場合、システムはスイッチをリロードする必要があることを通知するメッセージを表示し、スイッチをリロードするのに適切なコマンドを (冗長モードに応じて) 示します。

all キーワードを選択する場合は、10 番目のスロットが空であるか、または WS-X4302-GB スイッチング モジュールが実装されていることを確認してください。

このコマンドの **no** 形式はありません。設定を取り消すには、アップリンク を設定する必要があります。

**例** 次に、ギガビット イーサネット アップリンク を選択する例を示します。

```
Switch(config)# hw-module uplink select gigabitethernet
A reload of the active supervisor is required to apply the new configuration.
Switch(config)# exit
Switch#
```



(注) ギガビットイーサネットアップリンクは、次にリロードしたあとでアクティブになります。

次に、SSO モードの冗長システムのギガビットイーサネットアップリンクを選択する例を示します。

```
Switch(config)# hw-module uplink select gigabitethernet
A 'redundancy reload shelf' or power-cycle of chassis is required to apply the new
configuration
Switch(config)# exit
Switch#
```



(注) ギガビットイーサネットアップリンクは、シャーシ/シェルフを次にリロードしたあとでアクティブになります。シャーシ/シェルフをリロードするには、**redundancy reload shelf** コマンドを使用します。

次に、RPR モードの冗長システムのギガビットイーサネットアップリンクを選択する例を示します。

```
Switch(config)# hw-module uplink select gigabitethernet
A reload of the active supervisor is required to apply the new configuration.
Switch(config)# exit
Switch#
```



(注) ギガビットイーサネットは、アクティブスーパーバイザエンジンのスイッチオーバーまたはリロードが発生してもアクティブのままです。

次に、SSO モードの冗長システムにおいて、すべてのアップリンクを選択する例を示します。

```
Switch(config)# hw-module uplink select all
Warning: This configuration mode may disable slot10.
A 'redundancy reload shelf' or power-cycle of chassis is required to apply the new
configuration.
Switch(config)# exit
Switch#
```



(注) **all** キーワードを選択する場合は、スーパーバイザエンジンの 10 番目のスロットでは Drome ボードのみがサポートされます。

#### 関連コマンド

[show hw-module uplink](#)

# instance

1 つまたは一連の VLAN（仮想 LAN）を MST インスタンスにマッピングするには、**instance** コマンドを使用します。VLAN を共通インスタンスのデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
instance instance-id {vlans vlan-range}
```

```
no instance instance-id
```

シンタックスの説明	instance-id	指定された VLAN がマッピングされている MST インスタンスです。有効値は 0 ~ 15 です。
	vlans vlan-range	指定されたインスタンスにマッピングされる VLAN の番号を指定します。番号は、1 つの値または範囲として入力できます。有効値は 1 ~ 4,094 です。

**デフォルト** マッピングはディセーブルです。

**コマンド モード** MST コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** マッピングは増分であり、絶対値ではありません。VLAN の範囲を入力した場合には、この範囲は既存の VLAN に追加されるか、既存の VLAN から削除されます。

マッピングされていない VLAN はすべて、CIST インスタンスにマッピングされます。

**例** 次に、VLAN の範囲を instance 2 にマッピングする例を示します。

```
Switch(config-mst)# instance 2 vlans 1-100
Switch(config-mst)#
```

次に、VLAN を instance 5 にマッピングする例を示します。

```
Switch(config-mst)# instance 5 vlans 1100
Switch(config-mst)#
```

次に、VLAN の範囲を instance 2 から CIST インスタンスに移動する例を示します。

```
Switch(config-mst)# no instance 2 vlans 40-60
Switch(config-mst)#
```

次に、instance 2 にマッピングされているすべての VLAN を再び CIST インスタンスに移動する例を示します。

```
Switch(config-mst)# no instance 2
Switch(config-mst)#
```

**関連コマンド**

- [name](#)
- [revision](#)
- [show spanning-tree mst](#)
- [spanning-tree mst configuration](#)

# interface

設定するインターフェイスを選択し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、**interface** コマンドを使用します。

```
interface type number
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	<i>type</i>	設定するインターフェイスのタイプを指定します。有効値については、 <a href="#">表 2-6</a> を参照してください。
	<i>number</i>	モジュールおよびポート番号です。

**デフォルト** インターフェイス タイプは設定されません。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(25)EW	10 ギガビット イーサネット インターフェイスが追加されました。

**使用上のガイドライン** [表 2-6](#) に、*type* の有効値の一覧を表示します。

表 2-6 有効な type 値

キーワード	定義
<b>ethernet</b>	イーサネット IEEE 802.3 インターフェイス
<b>fastethernet</b>	100-Mbps イーサネット インターフェイス
<b>gigabitethernet</b>	ギガビット イーサネット IEEE 802.3z インターフェイス
<b>tengigabitethernet</b>	10 ギガビット イーサネット IEEE 802.3ae インターフェイス
<b>ge-wan</b>	ギガビット イーサネット WAN IEEE 802.3z インターフェイス。Supervisor Engine 2 を搭載した Catalyst 4500 シリーズスイッチでのみ、サポートされます。
<b>pos</b>	Packet OC-3 interface on the Packet over SONET (POS) インターフェイス プロセッサ。Supervisor Engine 2 を搭載した Catalyst 4500 シリーズスイッチでのみ、サポートされます。
<b>atm</b>	Asynchronous Transfer Mode (ATM; 非同期転送モード) インターフェイス。Supervisor Engine 2 を搭載した Catalyst 4500 シリーズスイッチでのみ、サポートされます。
<b>vlan</b>	VLAN (仮想 LAN) インターフェイス。 <a href="#">interface vlan</a> コマンドを参照してください。
<b>port-channel</b>	ポート チャネル インターフェイス。 <a href="#">interface port-channel</a> コマンドを参照してください。
<b>null</b>	ヌル インターフェイス。有効値は <b>0</b> です。

**例** 次に、インターフェイス fastethernet 2/4 上でインターフェイス設定モードを開始する例を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet2/4
Switch(config-if)#
```

**関連コマンド** [show interfaces](#)

# interface port-channel

ポートチャネル インターフェイスのアクセスまたは作成を行うには、**interface port-channel** コマンドを使用します。

```
interface port-channel channel-group
```

シンタックスの説明	<i>channel-group</i>	ポート チャネル グループ番号です。有効値は 1 ~ 64 です。
-----------	----------------------	-----------------------------------

デフォルト	このコマンドにデフォルト設定はありません。
-------	-----------------------

コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード
----------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 物理インターフェイスをチャネル グループに割り当てる前にポート チャネル インターフェイスを作成する必要はありません。ポート チャネル インターフェイスがまだ作成されていない場合には、チャネル グループの最初の物理インターフェイスが作成されたときに、ポート チャネル インターフェイスが自動的に作成されます。

**interface port-channel** コマンドを入力してポート チャネルを作成することもできます。この場合には、レイヤ 3 ポート チャネルが作成されます。レイヤ 3 ポート チャネルをレイヤ 2 ポート チャネルに変更するには、物理インターフェイスをチャネル グループに割り当てる前に **switchport** コマンドを使用してください。ポート チャネルにメンバポートがある場合には、ポート チャネルをレイヤ 3 からレイヤ 2、またはレイヤ 2 からレイヤ 3 に変更することはできません。

1 つのチャネル グループには、ポート チャネルは 1 つだけです。



## 注意

レイヤ 3 ポート チャネル インターフェイスは、ルーテッドインターフェイスです。物理ファストイーサネット インターフェイスでレイヤ 3 アドレスをイネーブルにしないでください。

Cisco Discovery Protocol (CDP; シスコ検出プロトコル) を使用したい場合は、物理ファストイーサネット インターフェイス上でだけ設定する必要があります。ポート チャネル インターフェイス上で設定することはできません。

**例** 次に、チャネル グループ番号 64 でポート チャネル インターフェイスを作成する例を示します。

```
Switch(config)# interface port-channel 64
Switch(config)#
```

関連コマンド	<b>channel-group</b> <b>show etherchannel</b>
--------	--

# interface range

コマンドを複数のポートで同時に実行するには、**interface range** コマンドを使用します。

```
interface range {vlan vlan_id - vlan_id} {port-range | macro name}
```

## シンタックスの説明

<b>vlan vlan_id - vlan_id</b>	VLAN (仮想 LAN) 範囲を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。
<b>port-range</b>	ポート範囲です。 <i>port-range</i> の有効値のリストについては、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<b>macro name</b>	マクロ名を指定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード  
 インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**interface range** コマンドは、既存の VLAN SVI 上でだけ使用できます。VLAN SVI を表示するには、**show running config** コマンドを入力します。表示されない VLAN は、**interface range** コマンドで使用することはできません。

**interface range** コマンドとともに入力される値は、すべての既存の VLAN SVI に適用されます。

マクロを使用する前に、**define interface-range** コマンドで範囲を定義する必要があります。

ポート範囲に対して行われるすべての設定変更は NVRAM (不揮発性 RAM) に保存されますが、**interface range** コマンドで作成されたポート範囲は NVRAM には保存されません。

ポート範囲は次の 2 つの方法で入力できます。

- 最大 5 つのポート範囲を指定
- 以前定義したマクロを指定

ポートまたはポート範囲マクロ名のいずれかを指定できます。ポート範囲は、同じポート タイプで構成される必要があります。範囲内のポートはモジュールをまたがることはできません。

1 つのコマンドで最大 5 つのポート範囲を定義できます。それぞれの範囲はカンマで区切ってください。

範囲を定義する場合は、最初のポートとハイフン (-) の間にスペースを挿入します。

```
interface range gigabitethernet 5/1 -20, gigabitethernet4/5 -20.
```

*port-range* を入力するときは、次のフォーマットを使用します。

- *interface-type* {*mod*}/*{first-port}* - *{last-port}*
- *interface-type* {*mod*}/*{first-port}* - *{last-port}*

## ■ interface range

*interface-type* の有効値は次のとおりです。

- **FastEthernet**
- **GigabitEthernet**
- **Vlan *vlan\_id***

同じコマンドでマクロとインターフェイス範囲の両方を指定することはできません。マクロを作成したあとで、さらに範囲を入力できます。すでにインターフェイス範囲を入力している場合は、CLI (コマンドラインインターフェイス) でマクロを入力することはできません。

*port-range* 値に単一のインターフェイスを指定できます。この場合、このコマンドは **interface interface-number** コマンドと同様に機能します。

## 例

次に、**interface range** コマンドを fastethernet 5/18 ~ 20 へのインターフェイスに使用する例を示します。

```
Switch(config)# interface range fastethernet 5/18 - 20  
Switch(config-if)#
```

次に、ポート範囲マクロを実行するコマンドの例を示します。

```
Switch(config)# interface range macro macrol  
Switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

**define interface-range**

**show running config** (Cisco IOS のマニュアルを参照)



# interface vlan

レイヤ 3 Switch Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス) の作成またはアクセスを行うには、**interface vlan** コマンドを使用します。SVI を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface vlan vlan_id
no interface vlan vlan_id
```

シンタックスの説明	<i>vlan_id</i>	VLAN の番号です。有効値は 1 ~ 4,094 です。
デフォルト		Fast EtherChannel は指定されません。
コマンド モード		グローバル コンフィギュレーション モード
コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.1(12c)EW	拡張アドレス指定のサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** SVI は、特定の VLAN に最初に **interface vlan *vlan\_id*** コマンドを入力したときに作成されます。*vlan\_id* 値は、ISL (スイッチ間リンク) または 802.1Q カプセル化トランク上のデータ フレームに関連付けられる VLAN タグまたはアクセス ポートに設定された VLAN ID に対応します。VLAN インターフェイスが新たに作成されたときには必ずメッセージが表示されるので、正しい VLAN 番号が入力されたかどうかを確認できます。

**no interface vlan *vlan\_id*** コマンドを入力して SVI を削除した場合、関連付けられたインターフェイスは強制的に管理上のダウン状態に設定され、削除とマークされます。削除されたインターフェイスは、**show interface** コマンドでは見ることはできません。

削除されたインターフェイスに **interface vlan *vlan\_id*** コマンドを入力すると、削除された SVI を元に戻すことができます。インターフェイスは戻りますが、以前の設定の多くは消失します。

**例** 次に、新しい VLAN 番号に **interface vlan *vlan\_id*** コマンドを入力したときの出力例を示します。

```
Switch(config)# interface vlan 23
% Creating new VLAN interface.
Switch(config)#
```

## ip arp inspection filter vlan

Dynamic ARP Inspection (DAI; ダイナミック ARP インスペクション) がイネーブルの場合にスタティック IP 用に設定されたホストからの Address Resolution Protocol (ARP; アドレス レゾリューション プロトコル) を許可したり、ARP アクセス リストを定義して VLAN (仮想 LAN) に適用したりするには、**ip arp inspection filter vlan** コマンドを使用します。この適用をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip arp inspection filter arp-acl-name vlan vlan-range [static]
```

```
no ip arp inspection filter arp-acl-name vlan vlan-range [static]
```

### シンタックスの説明

<i>arp-acl-name</i>	Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) の名前です。
<i>vlan-range</i>	VLAN の番号または範囲です。有効値は 1 ~ 4,094 です。
<i>static</i>	(任意) ACL をスタティックに適用するように指定します。

### デフォルト

定義された ARP ACL はどの VLAN にも適用されません。

### コマンド モード

コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

ARP ACL を VLAN に適用して DAI を行う場合は、IP/イーサネット MAC (メディア アクセス制御) バインディングのみを含む ARP パケットが ACL と比較されます。それ以外のすべてのパケットタイプは、検証されずに、着信 VLAN 内でブリッジングされます。

このコマンドは、着信 ARP パケットを ARP ACL と比較し、ACL で許可されている場合のみパケットを許可するように指定します。

ACL の明示的な拒否によってパケットが拒否されると、そのパケットは廃棄されます。ACL がスタティックに適用されていない場合、暗黙的な拒否によってパケットが拒否されると、そのパケットは DHCP バインディングのリストと照合されます。

## 例

次に、DAI 用に ARP ACL [static-hosts] を VLAN 1 に適用する例を示します。

```
Switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# ip arp inspection filter static-hosts vlan 1
Switch(config)# end
Switch#
Switch# show ip arp inspection vlan 1
Source Mac Validation      : Enabled
Destination Mac Validation : Disabled
IP Address Validation      : Disabled
```

Vlan	Configuration	Operation	ACL Match	Static ACL
1	Enabled	Active	static-hosts	No

Vlan	ACL Logging	DHCP Logging
1	Acl-Match	Deny

Switch#

## 関連コマンド

[arp access-list](#)  
[show ip arp inspection](#)

## ip arp inspection limit (インターフェイス)

インターフェイスの着信 Address Resolution Protocol (ARP; アドレス レゾリューション プロトコル) 要求および応答のレートを制限したり、DoS 攻撃 (サービス拒絶攻撃) が発生した場合に Dynamic ARP Inspection (DAI; ダイナミック ARP インスペクション) によってシステム リソースがすべて消費されないようにするには、**ip arp inspection limit** コマンドを使用します。この制限を解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip arp inspection limit {rate pps | none} [burst interval seconds]
```

```
no ip arp inspection limit
```

### シンタックスの説明

<b>rate pps</b>	1 秒間に処理される着信パケット数の上限を指定します。有効なレートは 1 ~ 10,000 pps です。
<b>none</b>	処理可能な着信 ARP パケットのレートに上限を指定しません。
<b>burst interval seconds</b>	(任意) インターフェイスで高速 ARP パケットをモニタするインターバルを秒単位で指定します。有効なインターバルは 1 ~ 15 秒です。

### デフォルト

1 秒間に 15 台の新規ホストに接続するホストが配置されたスイッチド ネットワークの場合、信頼できないインターフェイスのレートは 15 パケット / 秒に設定されます。

信頼できるすべてのインターフェイスでは、レートは無制限です。

デフォルトでは、バースト インターバルは 1 秒に設定されています。

### コマンドモード

インターフェイス

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(20)EW	インターフェイス モニタリングのサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

トランク ポートは、集約が反映されるように、より大きなレートに設定する必要があります。着信パケットのレートがユーザが定義したレートを超えると、インターフェイスはエラーディセーブル ステートになります。エラーディセーブル タイムアウト機能を使用すると、ポートのエラーディセーブル ステートを解除できます。レートは信頼できるインターフェイスと信頼できないインターフェイスの両方に適用されます。複数の DAI 対応 VLAN (仮想 LAN) でパケットを処理する場合は、トランクに適切なレートを設定します。レートを無制限に設定する場合は、**none** キーワードを使用します。

チャンネル ポートの着信 ARP パケットのレートは、すべてのチャンネル メンバの着信パケット レートの合計と同じです。チャンネル ポートのレート制限は、チャンネル メンバの着信 ARP パケットを調べたあとにのみ設定してください。

バースト期間中に、設定されたレートを超えるレートでスイッチがパケットを受信した場合、インターフェイスはエラーディセーブル ステートになります。

**例**

次に、着信 ARP 要求のレートを 25 パケット / 秒に制限する例を示します。

```
Switch# config terminal
Switch(config)# interface fa6/3
Switch(config-if)# ip arp inspection limit rate 25
Switch(config-if)# end
Switch# show ip arp inspection interfaces fastEthernet 6/3
Interface      Trust State      Rate (pps)
-----
Fa6/3          Trusted          25
Switch#
```

次に、着信 ARP 要求のレートを 20 パケット / 秒に制限し、インターフェイス モニタリング インターバルを 5 秒間に設定する例を示します。

```
Switch# config terminal
Switch(config)# interface fa6/1
Switch(config-if)# ip arp inspection limit rate 20 burst interval 5
Switch(config-if)# end
```

**関連コマンド**

[show ip arp inspection](#)

# ip arp inspection log-buffer

ロギングバッファに対応するパラメータを設定するには、**ip arp inspection log-buffer** コマンドを使用します。このパラメータをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip arp inspection log-buffer {entries number | logs number interval seconds}
```

```
no ip arp inspection log-buffer {entries | logs}
```

## シンタックスの説明

<b>entries number</b>	ロギングバッファのエントリ数です。有効値は 0 ~ 1,024 です。
<b>logs number</b>	インターバル中に記録されるエントリ数です。有効値は 0 ~ 1,024 です。値が 0 の場合は、エントリがこのバッファ外で記録されないことを意味します。
<b>interval seconds</b>	ロギングレートです。有効値は 0 ~ 86,400 (1 日) です。値が 0 の場合は、即座に記録されます。

## デフォルト

Dynamic ARP Inspection (DAI; ダイナミック ARP インスペクション) がイネーブル化、拒否、または削除されると、Address Resolution Protocol (ARP; アドレス レゾリューション プロトコル) パケットが記録されます。

エントリ数は 32 に設定されています。

ロギング エントリ数は 1 秒あたり 5 に制限されています。

インターバルは 1 に設定されています。

## コマンド モード

コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

指定されたフロー内で最初に廃棄されたパケットは、即座に記録されます。同じフローの後続パケットは記録されますが、即座には記録されません。これらのパケットは、すべての VLAN (仮想 LAN) で共有されるログバッファに登録されます。このバッファのエントリは、レート制御に基づいて記録されます。

## 例

次に、最大 45 のエントリを保持するようにロギングバッファを設定する例を示します。

```
Switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# ip arp inspection log-buffer entries 45
Switch(config)# end
Switch# show ip arp inspection log
Total Log Buffer Size : 45
Syslog rate : 5 entries per 1 seconds.
No entries in log buffer.
Switch#
```

次に、3 秒間に 10 のログを記録するようにロギング レートを設定する例を示します。

```
Switch(config)# ip arp inspection log-buffer logs 10 interval 3
Switch(config)# end
Switch# show ip arp inspection log
Total Log Buffer Size : 45
Syslog rate : 10 entries per 3 seconds.
No entries in log buffer.
Switch#
```

#### 関連コマンド

[arp access-list](#)  
[show ip arp inspection](#)

## ip arp inspection trust

着信 Address Resolution Protocol (ARP; アドレス レゾリューション プロトコル) パケットを検査する一連のインターフェイスを判別する、ポート単位で設定可能な信頼状態を設定するには、**ip arp inspection trust** コマンドを使用します。インターフェイスを信頼できない状態にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip arp inspection trust
no ip arp inspection trust
```

#### シンタックスの説明

このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

#### デフォルト

なし

#### コマンドモード

Interface

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

#### 例

次に、インターフェイスを信頼状態に設定する例を示します。

```
Switch# config terminal
Switch(config)# interface fastEthernet 6/3
Switch(config-if)# ip arp inspection trust
Switch(config-if)# end
```

設定を確認するには、このコマンドの show 形式を使用します。

```
Switch# show ip arp inspection interfaces fastEthernet 6/3

Interface          Trust State      Rate (pps)      Burst Interval
-----
Fa6/3              Trusted          None             1
Switch#
```

#### 関連コマンド



[show ip arp inspection](#)

# ip arp inspection validate

Address Resolution Protocol (ARP; アドレス レゾリューション プロトコル) インспекションに関する特定のチェックを実行するには、**ip arp inspection validate** コマンドを使用します。チェックをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip arp inspection validate [src-mac] [dst-mac] [ip]
```

```
no ip arp inspection validate [src-mac] [dst-mac] [ip]
```

シンタックスの説明	src-mac
	(任意) イーサネット ヘッダー内の送信元 MAC (メディア アクセス制御) と、ARP 本体内の送信側 MAC アドレスを比較します。このチェックは、ARP 要求と応答の両方に対して行われます。
	 <p>(注) このチェックがイネーブルの場合、異なる MAC アドレスを持つパケットは無効として分類され、廃棄されます。</p>
	dst-mac
	(任意) イーサネット ヘッダー内の宛先 MAC アドレスと、ARP 本体内のターゲット MAC アドレスを比較します。このチェックは、ARP 応答に対して行われます。
	 <p>(注) このチェックがイネーブルの場合、異なる MAC アドレスを持つパケットは無効として分類され、廃棄されます。</p>
	ip
	(任意) ARP 本体内で、無効な予期しない IP アドレスをチェックします。このようなアドレスには、0.0.0.0、255.255.255.255、すべての IP マルチキャストアドレスなどがあります。
	送信側 IP アドレスはすべての ARP 要求および応答内でチェックされ、ターゲット IP アドレスは ARP 応答内でのみチェックされます。

**デフォルト** チェックはディセーブルです。

**コマンドモード** コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** チェックをイネーブルにする場合は、コマンドラインに少なくとも 1 つのキーワード (**src-mac**、**dst-mac**、および **ip**) を指定します。コマンドを実行するごとに、その前のコマンドの設定は上書きされます。**src** および **dst mac** の検証をイネーブルにするコマンドのあとに、IP 検証のみをイネーブルにするコマンドを実行すると、2 番目のコマンドによって **src** および **dst mac** の検証がディセーブルになります。

このコマンドの **no** 形式を使用すると、指定されたチェックのみがディセーブルになります。どのチェック オプションもイネーブル化しない場合は、すべてのチェックがディセーブルになります。



**例**

次に、送信元 MAC の検証をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# ip arp inspection validate src-mac
Switch(config)# end
Switch# show ip arp inspection vlan 1
Source Mac Validation      : Enabled
Destination Mac Validation : Disabled
IP Address Validation      : Disabled
```

Vlan	Configuration	Operation	ACL Match	Static ACL
1	Enabled	Active		

Vlan	ACL Logging	DHCP Logging
1	Deny	Deny

```
Switch#
```

**関連コマンド**

[arp access-list](#)  
[show arp access-list](#)

# ip arp inspection vlan

VLAN (仮想 LAN) 単位で Dynamic ARP Inspection (DAI; ダイナミック ARP インスペクション) をイネーブルにするには、**ip arp inspection vlan** コマンドを使用します。DAI をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip arp inspection vlan vlan-range
```

```
no ip arp inspection vlan vlan-range
```

<b>シンタックスの説明</b>	<i>vlan-range</i>	VLAN の番号または範囲です。有効値は 1 ~ 4,094 です。
------------------	-------------------	------------------------------------

<b>デフォルト</b>	すべての VLAN で、Address Resolution Protocol (ARP; アドレス レゾリューション プロトコル) インスペクションはディセーブルです。
--------------	---

<b>コマンド モード</b>	コンフィギュレーション
-----------------	-------------

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	DAI をイネーブルにする VLAN を指定する必要があります。設定済みの VLAN が作成されていない場合、または設定済みの VLAN がプライベートの場合、DAI は機能しないことがあります。
-------------------	--

<b>例</b>	次に、VLAN 1 で DAI をイネーブルにする例を示します。
----------	----------------------------------

```
Switch(config)# ip arp inspection vlan 1
Switch(config)# end
Switch# show ip arp inspection vlan 1
```

```
Source Mac Validation      : Disabled
Destination Mac Validation : Disabled
IP Address Validation      : Disabled
Vlan      Configuration   Operation  ACL Match      Static ACL
----      -
1         Enabled         Active
Vlan      ACL Logging     DHCP Logging
----      -
1         Deny             Deny
Switch#
```

<b>関連コマンド</b>	<a href="#">arp access-list</a> <a href="#">show ip arp inspection</a>
---------------	---


# ip arp inspection vlan logging

記録するパケットタイプを制御するには、**ip arp inspection vlan logging** コマンドを使用します。このロギング制御をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip arp inspection vlan vlan-range logging {acl-match {matchlog | none} | dhcp-bindings {permit | all | none}}
```

```
no ip arp inspection vlan vlan-range logging {acl-match | dhcp-bindings}
```

## シンタックスの説明

<b>vlan-range</b>	指定されたインスタンスにマッピングされる VLAN (仮想 LAN) の番号です。番号は、1 つの値または範囲として入力できます。有効値は 1 ~ 4,094 です。
<b>acl-match</b>	Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) との一致に基づいて廃棄または許可されるパケットのロギング基準を指定します。
<b>matchlog</b>	ACL と一致したパケットのロギングを、ACL の許可および拒否 Access Control Entry (ACE; アクセス コントロール エントリ) 内のキーワード <b>matchlog</b> で制御するように指定します。
	 <b>(注)</b> デフォルトでは、ACE の <b>matchlog</b> キーワードは使用できません。このキーワードを使用した場合、拒否されたパケットは記録されません。パケットが記録されるのは、 <b>matchlog</b> キーワードを含む ACE とパケットが一致した場合のみです。
<b>none</b>	ACL と一致したパケットを記録しないように指定します。
<b>dhcp-bindings</b>	DHCP バインディングとの一致に基づいて廃棄または許可されるパケットのロギング基準を指定します。
<b>permit</b>	DHCP バインディングによって許可された場合に、ロギングを行うように指定します。
<b>all</b>	DHCP バインディングによって許可または拒否された場合に、ロギングを行うように指定します。
<b>none</b>	DHCP バインディングによって許可または拒否されたパケットのロギングをすべて禁止します。

## デフォルト

拒否または廃棄されたパケットは、すべて記録されます。

## コマンドモード

コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

**acl-match** および **dhcp-bindings** キーワードは、連携しています。ACL 一致設定を設定すると、DHCP バインディング設定はイネーブルになります。このコマンドの **no** 形式を使用すると、ロギング基準の一部がデフォルトにリセットされます。いずれのオプションも指定しない場合は、ARP パケットが拒否されると、すべてのロギングタイプが記録されるようにリセットされます。使用できるオプションは、次の 2 つです。

- **acl-match** — 拒否されたパケットが記録されるように、ACL との一致に関するロギングがリセットされます。

- **dhcp-bindings** — 拒否されたパケットが記録されるように、DHCP バインディングとの比較に関するロギングがリセットされます。

**例** 次に、**logging** キーワードを含む ACL と一致した場合にパケットを追加するように、VLAN 1 の ARP インспекションを設定する例を示します。

```
Switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# ip arp inspection vlan 1 logging acl-match matchlog
Switch(config)# end
Switch# show ip arp inspection vlan 1

Source Mac Validation      : Enabled
Destination Mac Validation : Disabled
IP Address Validation      : Disabled

Vlan      Configuration      Operation      ACL Match      Static ACL
----      -
1         Enabled            Active

Vlan      ACL Logging      DHCP Logging
----      -
1         Acl-Match        Deny
Switch#
```

#### 関連コマンド

**arp access-list**  
**show ip arp inspection**

# ip cef load-sharing algorithm

送信元および宛先 IP アドレスに加えて送信元 TCP/UDP ポート、宛先 TCP/UDP ポート、またはその両方のポートをハッシュに含めることができるよう負荷分散ハッシュ機能を設定するには、**ip cef load-sharing algorithm** コマンドを使用します。ポートを含まないデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip cef load-sharing algorithm {include-ports {source source | destination dest} | original | tunnel | universal}
```

```
no ip cef load-sharing algorithm {include-ports {source source | destination dest} | original | tunnel | universal}
```

## シンタックスの説明

<b>include-ports</b>	レイヤ 4 ポートを含むアルゴリズムを指定します。
<b>source source</b>	負荷分散ハッシュ機能での送信元ポートを指定します。
<b>destination dest</b>	負荷分散ハッシュでの宛先ポートを指定します。ハッシュ機能での送信元および宛先を使用します。
<b>original</b>	オリジナルアルゴリズムを指定します。これは推奨されません。
<b>tunnel</b>	トンネルだけの環境で使用されるアルゴリズムを指定します。
<b>universal</b>	デフォルトの Cisco IOS 負荷分散アルゴリズムを指定します。

## デフォルト

デフォルトの負荷分散アルゴリズムはディセーブルです。



(注)

このオプションには、負荷分散ハッシュの送信元または宛先ポートは含まれません。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

**original** アルゴリズム、**tunnel** アルゴリズム、および **universal** アルゴリズムは、ハードウェアを通してルーティングされます。ソフトウェアによってパケットをルーティングする場合、アルゴリズムはソフトウェアで処理されます。**include-ports** オプションは、ソフトウェアによってスイッチングされたトラフィックには適用されません。

## 例

次に、レイヤ 4 ポートを含む IP Cisco Express Forwarding (CEF; シスコ エクスプレス フォワーディング) 負荷分散アルゴリズムを設定する例を示します。

```
Switch(config)# ip cef load-sharing algorithm include-ports
Switch(config)#
```

次に、レイヤ 4 トンネル ポートを含む IP CEF 負荷分散アルゴリズムを設定する例を示します。

```
Switch(config)# ip cef load-sharing algorithm include-ports tunnel
Switch(config)#
```

## 関連コマンド

[show ip cef vlan](#)

## ip device tracking maximum

レイヤ 2 ポート上のトラッキングをバインディングする IP ポート セキュリティをイネーブルにするには、**ip device tracking maximum** コマンドを使用します。信頼できないレイヤ 2 インターフェイス上の IP ポート セキュリティをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip device tracking maximum {number}
```

```
no ip device tracking maximum {number}
```

シンタックスの説明	number	IP デバイス トラッキング テーブルでポート用に作成されたバインディングの数を指定します。有効値は 0 ~ 2048 です。
-----------	--------	---

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(37)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、レイヤ 2 アクセス ポート上で IP ポート セキュリティの IP-Mac フィルタ機能をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# ip device tracking
Switch(config)# interface fastethernet 4/3
Switch(config-if)# switchport mode access
Switch(config-if)# switchport access vlan 1
Switch(config-if)# ip device tracking maximum 5
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# switchport port-security maximum 5
Switch(config-if)# ip verify source tracking port-security
Switch(config-if)# end
```

**show ip verify source** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

**関連コマンド** [ip verify source](#)  
[show ip verify source](#)

# ip dhcp snooping

DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにするには、**ip dhcp snooping** コマンドを使用します。DHCP スヌーピングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip dhcp snooping**

**no ip dhcp snooping**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** DHCP スヌーピングはディセーブルです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** VLAN (仮想 LAN) で DHCP スヌーピングを使用する前に、DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにする必要があります。

**例** 次に、DHCP スヌーピングをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# ip dhcp snooping
Switch(config)#
```

次に、DHCP スヌーピングをディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# no ip dhcp snooping
Switch(config)#
```

**関連コマンド**

- [ip dhcp snooping information option](#)
- [ip dhcp snooping limit rate](#)
- [ip dhcp snooping trust](#)
- [ip dhcp snooping vlan](#)
- [show ip dhcp snooping](#)
- [show ip dhcp snooping binding](#)

# ip dhcp snooping binding

再起動時に DHCP バインディングを復元するように、DHCP バインディング コンフィギュレーションを設定および生成するには、**ip dhcp snooping binding** コマンドを使用します。バインディング コンフィギュレーションをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip dhcp snooping binding mac-address vlan vlan-# ip-address interface interface expiry seconds
```

```
no ip dhcp snooping binding mac-address vlan vlan-# ip-address interface interface
```

## シンタックスの説明

<b>mac-address</b>	MAC (メディア アクセス制御) アドレスを指定します。
<b>vlan vlan-#</b>	有効な VLAN (仮想 LAN) 番号を指定します。
<b>ip-address</b>	IP アドレスを指定します。
<b>interface interface</b>	インターフェイス タイプおよび番号を指定します。
<b>expiry seconds</b>	バインディングが無効となるまでのインターバル (秒) を指定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンド モード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(25)EW	10 ギガビット イーサネット インターフェイスが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用してバインディングを追加または削除すると、バインディング データベースは変更済みとマークされ、書き込みが開始されます。

## 例

次に、VLAN 1 のインターフェイス gi1/1 に、有効期限が 1,000 秒の DHCP バインディング コンフィギュレーションを生成する例を示します。

```
Switch# ip dhcp snooping binding 0001.1234.1234 vlan 1 172.20.50.5 interface gi1/1 expiry 1000
Switch#
```

## 関連コマンド

[ip dhcp snooping](#)  
[ip dhcp snooping information option](#)  
[ip dhcp snooping trust](#)  
[ip dhcp snooping vlan](#)  
[show ip dhcp snooping](#)  
[show ip dhcp snooping binding](#)



# ip dhcp snooping database

DHCP スヌーピングによって生成されたバインディングを保存するには、**ip dhcp snooping database** コマンドを使用します。タイムアウトのリセット、書き込み遅延のリセット、または URL によって指定されたエージェントの削除を行うには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip dhcp snooping database {url | timeout seconds | write-delay seconds}
```

```
no ip dhcp snooping database {timeout | write-delay}
```

シンタックスの説明	
<i>url</i>	URL を次のいずれかの形式で指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• tftp://&lt;host&gt;/&lt;filename&gt;</li> <li>• ftp://&lt;user&gt;:&lt;password&gt;@&lt;host&gt;/&lt;filename&gt;</li> <li>• rcp://&lt;user&gt;@&lt;host&gt;/&lt;filename&gt;</li> <li>• nvram:/&lt;filename&gt;</li> <li>• bootflash:/&lt;filename&gt;</li> </ul>
<i>timeout seconds</i>	バインディング データベースが変更されてからデータベース転送プロセスを打ち切るまでの期間を指定します。  遅延の最小値は 15 秒です。0 は、無限大の遅延として定義されます。
<i>write-delay seconds</i>	バインディング データベースが変更されたあとに、転送を遅らせる期間を指定します。

**デフォルト**      タイムアウト値は 300 秒です (5 分)。  
write-delay 値は 300 秒に設定されています。

**コマンド モード**      インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン**      ネットワークベース URL (TFTP や FTP [ファイル転送プロトコル] など) の設定済み URL に一連のバインディングが書き込まれる前に、この URL に空のファイルを作成する必要があります。



(注)

NVRAM とブートフラッシュはいずれも記憶容量が限られているため、TFTP またはネットワークベース ファイルの使用を推奨します。データベース ファイルの保存にフラッシュを使用する場合は、エージェントが新たに更新を行うと新規ファイルが作成され、フラッシュはすぐに満杯になります。また、フラッシュで使用されるファイルシステムの性質上、大量のファイルを保存すると、アクセスが極端に低速化します。ファイルを TFTP によってアクセス可能なリモートの位置に保存しておくと、スイッチオーバーが発生した場合に、RPR/SSO スタンバイ スーパーバイザ エンジンがバインディングリストを引き継ぐことができます。

**例** 次に、IP アドレス 10.1.1.1 の directory という名前のディレクトリ内にデータベース ファイルを保存する例を示します。TFTP サーバに file という名前のファイルが存在しなければなりません。

```
Switch# config terminal
Switch(config)# ip dhcp snooping database tftp://10.1.1.1/directory/file
Switch(config)# end
Switch# show ip dhcp snooping database
Agent URL : tftp://10.1.1.1/directory/file
Write delay Timer : 300 seconds
Abort Timer : 300 seconds

Agent Running : Yes
Delay Timer Expiry : Not Running
Abort Timer Expiry : Not Running

Last Succeeded Time : None
Last Failed Time : None
Last Failed Reason : No failure recorded.

Total Attempts      :          1   Startup Failures :          0
Successful Transfers :          0   Failed Transfers :          0
Successful Reads    :          0   Failed Reads     :          0
Successful Writes   :          0   Failed Writes    :          0
Media Failures      :          0

Switch#
```

**関連コマンド**

[ip dhcp snooping](#)  
[ip dhcp snooping binding](#)  
[ip dhcp snooping information option](#)  
[ip dhcp snooping trust](#)  
[ip dhcp snooping vlan](#)  
[show ip dhcp snooping](#)  
[show ip dhcp snooping binding](#)

# ip dhcp snooping information option

DHCP オプション 82 データ挿入をイネーブルにするには、**ip dhcp snooping information option** コマンドを使用します。DHCP オプション 82 データ挿入をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip dhcp snooping information option format remote-id {hostname | string {word}}
```

```
no ip dhcp snooping information option format remote-id {hostname | string {word}}
```

## シンタックスの説明

<b>format</b>	オプション 82 情報形式を指定します。
<b>remote-id</b>	オプション 82 のリモート ID を指定します。
<b>hostname</b>	リモート ID のユーザ設定ホスト名を指定します。
<b>string word</b>	リモート ID のユーザ定義ストリングを指定します。文字ストリングは、1～63 文字長で、スペースなしです。

## デフォルト

DHCP オプション 82 データ挿入はイネーブルです。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.2(40)SG	オプション 82 拡張をサポートするために <b>remote-id</b> キーワードを追加しました。

## 使用上のガイドライン

ホスト名が 63 文字よりも長い場合、リモート ID で 64 文字以降が切り捨てられます。

## 例

次に、DHCP オプション 82 データ挿入をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# ip dhcp snooping information option
Switch(config)#
```

次に、DHCP オプション 82 データ挿入をディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# no ip dhcp snooping information option
Switch(config)#
```

次に、リモート ID としてホスト名を設定する例を示します。

```
Switch(config)# ip dhcp snooping information option format remote-id hostname
Switch(config)#
```

## ■ ip dhcp snooping information option

次に、VLAN 500 ~ 55 までの DHCP スヌーピングとオプション 82 remote-id をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# ip dhcp snooping
Switch(config)# ip dhcp snooping vlan 500 555
Switch(config)# ip dhcp snooping information option format remote-id string switch123
Switch(config)# interface GigabitEthernet 5/1
Switch(config-if)# ip dhcp snooping trust
Switch(config-if)# ip dhcp snooping limit rate 100
Switch(config-if)# ip dhcp snooping vlan 555 information option format-type circuit-id string customer-555
Switch(config-if)# interface FastEthernet 2/1
Switch(config-if)# ip dhcp snooping vlan 555 information option format-type circuit-id string customer-500
Switch(config)# end
```

---

関連コマンド

- [ip dhcp snooping](#)
- [ip dhcp snooping limit rate](#)
- [ip dhcp snooping trust](#)
- [ip dhcp snooping vlan](#)
- [ip dhcp snooping vlan number information option format-type](#)
- [show ip dhcp snooping](#)
- [show ip dhcp snooping binding](#)

# ip dhcp snooping information option allow-untrusted

オプション 82 データが挿入された DHCP パケットを、信頼できないスヌーピング ポートから受信できるようにするには、**ip dhcp snooping information option allow-untrusted** コマンドを使用します。このような DHCP パケットの受信を禁止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip dhcp snooping information option allow-untrusted**

**no ip dhcp snooping information option allow-untrusted**

## シンタックスの説明

このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

## デフォルト

オプション 82 データを含む DHCP パケットは、信頼できないスヌーピング ポートでは許可されません。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)EWA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 例

次に、オプション 82 データが挿入された DHCP パケットを、信頼できないスヌーピング ポートから受信するように許可する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# ip dhcp snooping information option allow-untrusted
Switch(config)# end
Switch#
```

## 関連コマンド

[ip dhcp snooping](#)  
[ip dhcp snooping limit rate](#)  
[ip dhcp snooping trust](#)  
[ip dhcp snooping vlan](#)  
[ip dhcp snooping information option](#)  
[show ip dhcp snooping](#)  
[show ip dhcp snooping binding](#)

## ip dhcp snooping limit rate

インターフェイスが 1 秒あたりに受信することのできる DHCP メッセージの数を設定するには、**ip dhcp snooping limit rate** コマンドを使用します。DHCP スヌーピング レート制限をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip dhcp snooping limit rate rate**

**no ip dhcp snooping limit rate**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>rate</i>	スイッチが 1 秒あたりに受信することのできる DHCP メッセージの数です。
------------------	-------------	---

<b>デフォルト</b>	DHCP スヌーピング レート制限はディセーブルです。
--------------	-----------------------------

<b>コマンドモード</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モード
----------------	--------------------------

<b>コマンド履歴</b>	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	通常このレート制限は信頼できないインターフェイスに適用されます。信頼できるインターフェイスのレート制限を設定する場合、信頼できるインターフェイスはスイッチのすべての DHCP トラフィックを集約するので、インターフェイス レート制限を大きい値に調整する必要があります。
-------------------	--

<b>例</b>	次に、DHCP メッセージ レート制限をイネーブルにする例を示します。
----------	-------------------------------------

```
Switch(config-if)# ip dhcp snooping limit rate 150
Switch(config)#
```

次に、DHCP メッセージ レート制限をディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# no ip dhcp snooping limit rate
Switch(config)#
```

<b>関連コマンド</b>	<a href="#">ip dhcp snooping</a> <a href="#">ip dhcp snooping information option</a> <a href="#">ip dhcp snooping trust</a> <a href="#">ip dhcp snooping vlan</a> <a href="#">show ip dhcp snooping</a> <a href="#">show ip dhcp snooping binding</a>
---------------	--

## ip dhcp snooping trust

DHCP スヌーピングでインターフェイスを信頼できるように設定するには、**ip dhcp snooping trust** コマンドを使用します。インターフェイスを信頼できないように設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip dhcp snooping trust**

**no ip dhcp snooping trust**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** DHCP スヌーピング信頼はディセーブルです。

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、インターフェイス上で DHCP スヌーピング信頼をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# ip dhcp snooping trust
Switch(config)#
```

次に、インターフェイス上で DHCP スヌーピング信頼をディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# no ip dhcp snooping trust
Switch(config)#
```

**関連コマンド**

- [ip dhcp snooping](#)
- [ip dhcp snooping information option](#)
- [ip dhcp snooping limit rate](#)
- [ip dhcp snooping vlan](#)
- [show ip dhcp snooping](#)
- [show ip dhcp snooping binding](#)

## ip dhcp snooping vlan

VLAN (仮想 LAN) 上で DHCP スヌーピングをイネーブルにするには、**ip dhcp snooping vlan** コマンドを使用します。VLAN 上で DHCP スヌーピングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip dhcp snooping [vlan number]
```

```
no ip dhcp snooping [vlan number]
```

シンタックスの説明	<b>vlan number</b>	(任意) 単一の VLAN 番号または VLAN 範囲を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。
-----------	--------------------	--

**デフォルト** DHCP スヌーピングはディセーブルです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** DHCP スヌーピングは、グローバル スヌーピングと VLAN スヌーピングが両方ともイネーブルの場合のみ、VLAN 上でイネーブルになります。

**例** 次に、DHCP スヌーピングを VLAN 上でイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# ip dhcp snooping vlan 10
Switch(config)#
```

次に、DHCP スヌーピングを VLAN 上でディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# no ip dhcp snooping vlan 10
Switch(config)#
```

次に、DHCP スヌーピングを VLAN グループ上でイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# ip dhcp snooping vlan 10 55
Switch(config)#
```

次に、DHCP スヌーピングを VLAN グループ上でディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# no ip dhcp snooping vlan 10 55
Switch(config)#
```

### 関連コマンド

[ip dhcp snooping](#)  
[ip dhcp snooping information option](#)  
[ip dhcp snooping limit rate](#)  
[ip dhcp snooping trust](#)  
[ip dhcp snooping vlan number information option format-type](#)  
[show ip dhcp snooping](#)  
[show ip dhcp snooping binding](#)



# ip dhcp snooping vlan number information option format-type

VLAN (仮想 LAN) 上で circuit-id (DHCP スヌーピング オプション 82 のサブオプション) をイネーブルにするには、**ip dhcp snooping vlan number information option format-type** コマンドを使用します。VLAN 上で circuit-id をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip dhcp snooping vlan number information option format-type circuit-id string string**

**no ip dhcp snooping vlan number information option format-type circuit-id string string**

## シンタックスの説明

<b>vlan number</b>	単一の VLAN 番号または VLAN 範囲を指定します。有効値は 1 ~ 4094 です。
<b>information</b>	DHCP スヌーピング情報 82 データ挿入を指定します。
<b>option</b>	DHCP スヌーピング情報オプションを指定します。
<b>format-type</b>	オプション 82 情報形式を指定します。
<b>circuit-id</b>	回線 ID としてストリングを使用するように指定します。
<b>string string</b>	回線 ID 用のユーザ定義ストリングを指定します。

## デフォルト

VLAN-mod-port (DHCP スヌーピング オプション 82 がディセーブルの場合)

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

DHCP オプション 82 の circuit-id サブオプションは、DHCP スヌーピングがグローバルにイネーブルで、VLAN で DHCP オプション 82 を使用している場合のみサポートされます。

## 例

次に、VLAN 500 ~ 55 までの DHCP スヌーピングとオプション 82 の circuit-id をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# ip dhcp snooping
Switch(config)# ip dhcp snooping vlan 500 555
Switch(config)# ip dhcp snooping information option format remote-id string switch123
Switch(config)# interface GigabitEthernet 5/1
Switch(config-if)# ip dhcp snooping trust
Switch(config-if)# ip dhcp snooping limit rate 100
Switch(config-if)# ip dhcp snooping vlan 555 information option format-type circuit-id string customer-555
Switch(config-if)# interface FastEthernet 2/1
Switch(config-if)# ip dhcp snooping vlan 555 information option format-type circuit-id string customer-500
Switch(config)# end
```

## 関連コマンド

[ip dhcp snooping](#)  
[ip dhcp snooping information option](#)  
[ip dhcp snooping limit rate](#)  
[ip dhcp snooping trust](#)  
[ip dhcp snooping vlan](#)  
[show ip dhcp snooping](#)  
[show ip dhcp snooping binding](#)

# ip igmp filter

Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) プロファイル をインターフェイスに適用することにより、レイヤ2 インターフェイス上のすべてのホストが1つ または複数の IP マルチキャスト グループに加入できるかどうかを制御するには、**ip igmp filter** コマンドを使用します。インターフェイスからプロファイルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp filter** *profile number*

**no ip igmp filter**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>profile number</i> 適用する IGMP プロファイル番号です。有効値は 1 ~ 429,496,795 です。
------------------	---

<b>デフォルト</b>	プロファイルは適用されません。
--------------	-----------------

<b>コマンドモード</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モード
----------------	--------------------------

<b>コマンド履歴</b>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12.1(11b)EW</td> <td>このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	12.1(11b)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
リリース	変更内容				
12.1(11b)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。				

<b>使用上のガイドライン</b>	IGMP フィルタはレイヤ2 物理インターフェイスにだけ適用できます。IGMP フィルタはルーテッド ポート、Switch Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス)、または EtherChannel グループに属するポートに適用することはできません。
-------------------	--

IGMP プロファイルは、1つまたは複数のスイッチ ポート インターフェイスに適用できますが、1つのポートには、1つのプロファイルしか適用できません。

<b>例</b>	次に、IGMP プロファイル 22 をインターフェイスに適用する例を示します。
----------	---

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# ip igmp filter 22
Switch(config-if)#
```

<b>関連コマンド</b>	<p><b>ip igmp profile</b></p> <p><b>show ip igmp profile</b></p>
---------------	--

## ip igmp max-groups

レイヤ 2 インターフェイスが加入できる Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネットグループ管理プロトコル) グループの最大数を設定するには、**ip igmp max-groups** コマンドを使用します。最大数をデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip igmp max-groups number
```

```
no ip igmp max-groups
```

シンタックスの説明	<i>number</i>	インターフェイスが加入することのできる IGMP グループの最大数です。有効値は 0 ~ 4,294,967,294 です。
-----------	---------------	--

デフォルト	最大制限なし
-------	--------

コマンドモード	インターフェイス コンフィギュレーション モード
---------	--------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(11b)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** **ip igmp max-groups** コマンドは、レイヤ 2 物理インターフェイス上でだけ使用できます。IGMP 最大グループは、ルーテッドポート、Switch Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス)、または EtherChannel グループに属するポートに設定することはできません。

**例** 次に、インターフェイスが加入できる IGMP グループの数を 25 に制限する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# ip igmp max-groups 25
Switch(config-if)
```

# ip igmp profile

Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) プロファイルを作成するには、**ip igmp profile** コマンドを使用します。IGMP プロファイルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp profile profile number**

**no ip igmp profile profile number**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>profile number</i>	設定中の IGMP プロファイル番号です。有効値は 1 ~ 4,294,967,295 です。
------------------	-----------------------	---

<b>デフォルト</b>	プロファイルは作成されません。
--------------	-----------------

<b>コマンドモード</b>	グローバル コンフィギュレーション モード IGMP プロファイル コンフィギュレーション
----------------	--

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(11b)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	範囲を入力する場合、小さい方の IP マルチキャスト アドレスを入力してからスペースを入れ、大きい方の IP マルチキャスト アドレスを入力します。
-------------------	--

IGMP プロファイルは 1 つまたは複数のレイヤ 2 インターフェイスに適用できますが、それぞれのインターフェイスにはプロファイルを 1 つしか適用できません。

<b>例</b>	次に、IP マルチキャスト アドレスの指定された範囲を許可する IGMP プロファイル 40 を設定する例を示します。
----------	---

```
Switch # config terminal
Switch(config)# ip igmp profile 40
Switch(config-igmp-profile)# permit
Switch(config-igmp-profile)# range 233.1.1.1 233.255.255.255
Switch(config-igmp-profile)#
```

<b>関連コマンド</b>	<b>ip igmp filter</b> <b>show ip igmp profile</b>
---------------	--

# ip igmp query-interval

スイッチが Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) ホスト クエリー メッセージを送信する頻度を設定するには、**ip igmp query-interval** コマンドを使用します。デフォルトの頻度に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp query-interval seconds**

**no ip igmp query-interval**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>seconds</i>	IGMP ホスト クエリー メッセージを送信する頻度 (秒) です。有効値は IGMP スヌーピング モードによって異なります。詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
------------------	----------------	--

**デフォルト** クエリー インターバルは 60 秒に設定されています。

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** デフォルトの IGMP スヌーピング設定を使用する場合、指定できるクエリー インターバルは 1 ～ 65,535 秒です。デフォルト設定を変更して、CGMP を IGMP スヌーピング学習方式としてサポートする場合、有効なクエリー インターバルは 1 ～ 300 秒です。

LAN の指定スイッチだけが、IGMP ホスト クエリー メッセージを送信します。IGMP バージョン 1 の場合、指定スイッチは、LAN 上で実行するマルチキャスト ルーティング プロトコルにより選択されます。IGMP バージョン 2 の場合、指定クエリアはサブネット上の IP アドレスが最小のマルチキャスト スイッチです。

(**ip igmp query-timeout** コマンドによって制御される) タイムアウト期間クエリーが送信されなかった場合、スイッチがクエリアとなります。



**(注)** タイムアウト期間を変更すると、マルチキャスト転送は深刻な影響を受けます。

**例** 次に、指定スイッチが IGMP ホスト クエリー メッセージを送信する頻度を変更する例を示します。

```
Switch(config-if)# ip igmp query-interval 120
Switch(config-if)#
```

**関連コマンド**

- ip igmp query-timeout** (Cisco IOS のマニュアルを参照)
- ip pim query-interval** (Cisco IOS のマニュアルを参照)
- show ip igmp groups** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

## ip igmp snooping

Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) スヌーピングをイネーブルにするには、**ip igmp snooping** コマンドを使用します。IGMP スヌーピングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip igmp snooping [tcn {flood query count count | query solicit}]
```

```
no ip igmp snooping [tcn {flood query count count | query solicit}]
```

### シンタックスの説明

<b>tcn</b>	(任意) トポロジー変更設定を指定します。
<b>flood</b>	(任意) トポロジー変更が発生した場合にスパニングツリー テーブルのネットワークへのフラッディングを指定します。
<b>query</b>	(任意) Topology Change Notification (TCN; トポロジー変更通知) クエリー設定を指定します。
<b>count <i>count</i></b>	(任意) スパニングツリー テーブルをフラッディングする頻度を指定します。有効値は 1 ~ 10 です。
<b>solicit</b>	(任意) IGMP 一般クエリーを指定します。

### デフォルト

IGMP スヌーピングはイネーブルです。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(11)EW	スパニングツリー テーブルのフラッディングのサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**tcn flood** オプションは、レイヤ 2 スイッチ ポートおよび EtherChannel だけに適用されます。ルーテッド ポート、VLAN(仮想 LAN) インターフェイス、またはレイヤ 3 チャネルには適用されません。マルチキャスト ルータでは、**ip igmp snooping** コマンドはデフォルトでディセーブルです。



#### (注)

インターフェイス コンフィギュレーション モードで **tcn flood** オプションを使用できます。

### 例

次に、IGMP スヌーピングをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# ip igmp snooping
Switch(config)#
```

次に、IGMP スヌーピングをディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# no ip igmp snooping
Switch(config)#
```

次に、9つのトポロジー変更が発生したあとでスパニングツリーテーブルのネットワークへのフラディングをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# ip igmp snooping tcn flood query count 9
Switch(config)#
```

次に、スパニングツリーテーブルのネットワークへのフラディングをディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# no ip igmp snooping tcn flood
Switch(config)#
```

次に、IGMP 一般クエリーをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# ip igmp snooping tcn query solicit
Switch(config)#
```

次に、IGMP 一般クエリーをディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# no ip igmp snooping tcn query solicit
Switch(config)#
```

#### 関連コマンド

[ip igmp snooping vlan immediate-leave](#)  
[ip igmp snooping vlan mrouter](#)  
[ip igmp snooping vlan static](#)

# ip igmp snooping report-suppression

レポート抑制をイネーブルにするには、**ip igmp snooping report-suppression** コマンドを使用します。レポート抑制をディセーブルにして、レポートをマルチキャスト デバイスへ転送するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip igmp snooping report-suppression
no ip igmp snooping report-suppression
```

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) スヌーピング レポート抑制はイネーブルです。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** **ip igmp snooping report-suppression** コマンドがディセーブルの場合、すべての IGMP レポートはマルチキャスト デバイスへ転送されます。

このコマンドがイネーブルの場合は、レポート抑制は IGMP スヌーピングによって行われます。

**例** 次に、レポート抑制をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# ip igmp snooping report-suppression
Switch(config)#
```

次に、レポート抑制をディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# no ip igmp snooping report-suppression
Switch(config)#
```

次に、レポート抑制のシステム ステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snoop
vlan 1
-----
IGMP snooping is globally enabled
IGMP snooping TCN solicit query is globally disabled
IGMP snooping global TCN flood query count is 2
IGMP snooping is enabled on this Vlan
IGMP snooping immediate-leave is disabled on this Vlan
IGMP snooping mrouter learn mode is pim-dvmrp on this Vlan
IGMP snooping is running in IGMP_ONLY mode on this Vlan
IGMP snooping report suppression is enabled on this Vlan
Switch#
```

**関連コマンド**

- [ip igmp snooping vlan immediate-leave](#)
- [ip igmp snooping vlan mrouter](#)
- [ip igmp snooping vlan static](#)



# ip igmp snooping vlan

VLAN（仮想 LAN）の Internet Group Management Protocol（IGMP; インターネット グループ管理プロトコル）スヌーピングをイネーブルにするには、**ip igmp snooping vlan** コマンドを使用します。IGMP スヌーピングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip igmp snooping vlan vlan-id
```

```
no ip igmp snooping vlan vlan-id
```

シンタックスの説明	<i>vlan-id</i>	VLAN の番号です。有効値は 1 ～ 1,001 および 1,006 ～ 4,094 です。
デフォルト		IGMP スヌーピングはディセーブルです。
コマンドモード		グローバル コンフィギュレーション モード
コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.1(12c)EW	拡張アドレス指定のサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドを入力できるのは、VLAN インターフェイス コンフィギュレーション モードに限ります。

マルチキャスト ルータでは、**ip igmp snooping vlan** コマンドはデフォルトでディセーブルです。

**例** 次に、IGMP スヌーピングを VLAN 上でイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# ip igmp snooping vlan 200
Switch(config)#
```

次に、IGMP スヌーピングを VLAN 上でディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# no ip igmp snooping vlan 200
Switch(config)#
```

**関連コマンド**

- [ip igmp snooping vlan immediate-leave](#)
- [ip igmp snooping vlan mrouter](#)
- [ip igmp snooping vlan static](#)

# ip igmp snooping vlan explicit-tracking

VLAN (仮想 LAN) 単位で明示的なホスト追跡をイネーブルにするには、**ip igmp snooping vlan explicit-tracking** コマンドを使用します。明示的なホスト追跡をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp snooping vlan *vlan-id* explicit-tracking**

**no ip igmp snooping vlan *vlan-id* explicit-tracking**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>vlan_id</i>	(任意) VLAN (仮想 LAN) を指定します。有効値は 1 ~ 1,001 および 1,006 ~ 4,094 です。
------------------	----------------	--

**デフォルト** 明示的なホスト追跡はイネーブルです。

**コマンドモード** コンフィギュレーション

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(20)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、インターフェイス VLAN 200 で Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネットグループ管理プロトコル) の明示的なホスト追跡をディセーブルにし、設定を確認する例を示します。

```
Switch(config)# no ip igmp snooping vlan 200 explicit-tracking
Switch(config)# end
Switch# show ip igmp snooping vlan 200 | include explicit tracking
Global IGMP Snooping configuration:
-----
IGMP snooping           : Enabled
IGMPv3 snooping        : Enabled
Report suppression     : Enabled
TCN solicit query      : Disabled
TCN flood query count   : 2

Vlan 2:
-----
IGMP snooping           : Enabled
IGMPv2 immediate leave : Disabled
Explicit host tracking  : Disabled
Multicast router learning mode : pim-dvmrp
CGMP interoperability mode : IGMP_ONLY
Explicit host tracking  : Disabled
Switch#
```

**関連コマンド**

- show ip igmp snooping membership**
- clear ip igmp snooping statistics vlan** (Cisco IOS のマニュアルを参照)
- show ip igmp snooping statistics vlan** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

# ip igmp snooping vlan immediate-leave

Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネットグループ管理プロトコル) 即時脱退処理をイネーブルにするには、**ip igmp snooping vlan immediate-leave** コマンドを使用します。即時脱退処理をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip igmp snooping vlan vlan_num immediate-leave
```

```
no ip igmp snooping vlan vlan_num immediate-leave
```

## シンタックスの説明

<b>vlan_num</b>	VLAN の番号です。有効値は 1 ～ 4,094 です。
<b>immediate-leave</b>	即時脱退処理をイネーブルにします。

## デフォルト

即時脱退処理はディセーブルです。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張アドレス指定のサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを入力できるのは、グローバル コンフィギュレーション モードに限ります。

即時脱退機能の使用は、特定 VLAN の MAC (メディアアクセス制御) グループの単一レシーバーがある場合に限定してください。

即時脱退機能は、IGMP バージョン 2 のホストについてのみサポートされます。

## 例

次に、VLAN 4 上での IGMP 即時脱退処理をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# ip igmp snooping vlan 4 immediate-leave
Switch(config)#
```

次に、VLAN 4 上での IGMP 即時脱退処理をディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# no ip igmp snooping vlan 4 immediate-leave
Switch(config)#
```

## 関連コマンド

[ip igmp snooping](#)

[ip igmp snooping vlan mrouter](#)

[ip igmp snooping vlan static](#)

[show ip igmp interface](#) (Cisco IOS のマニュアルを参照)

[show mac-address-table multicast](#)

# ip igmp snooping vlan mrouter

VLAN (仮想 LAN) のマルチキャスト ルータ インターフェイスとしてレイヤ 2 インターフェイスをスタティックに設定するには、**ip igmp snooping vlan mrouter** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip igmp snooping vlan vlan-id mrouter {interface {{fastethernet slot/port} | {gigabitethernet
slot/port} | {tengigabitethernet slot/port} | {port-channel number}} | {learn {cgmp |
pim-dvmrp}}
```

```
noip igmp snooping vlan vlan-id mrouter {interface {{fastethernet slot/port} | {gigabitethernet
slot/port} | {tengigabitethernet slot/port} | {port-channel number}} | {learn {cgmp |
pim-dvmrp}}
```

## シンタックスの説明

<b>vlan</b> <i>vlan-id</i>	コマンドで使用する VLAN ID 番号を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。
<b>interface</b>	マルチキャスト スイッチへのネクスト ホップ インターフェイスを指定します。
<b>fastethernet</b> <i>slot/port</i>	ファスト イーサネット インターフェイス、およびスロットとポートの番号を指定します。
<b>gigabitethernet</b> <i>slot/port</i>	ギガビット イーサネット インターフェイス、およびスロットとポートの番号を指定します。
<b>tengigabitethernet</b> <i>slot/port</i>	10 ギガビット イーサネット インターフェイス、およびスロットとポートの番号を指定します。
<b>port-channel</b> <i>number</i>	ポート チャネルの番号です。有効値は 1 ~ 64 です。
<b>learn</b>	マルチキャスト スイッチ学習方式を指定します。
<b>cgmp</b>	マルチキャスト スイッチ スヌーピング CGMP パケットを指定します。
<b>pim-dvmrp</b>	マルチキャスト スイッチ スヌーピング PIM-DVMRP パケットを指定します。

## デフォルト

マルチキャスト スイッチ スヌーピング PIM-DVMRP パケットが指定されます。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張アドレス指定のサポートが追加されました。
12.2(25)EW	10 ギガビット イーサネット インターフェイスが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを入力できるのは、グローバル コンフィギュレーション モードに限ります。

スイッチとのインターフェイスは、コマンドを入力する VLAN 内になければなりません。スイッチは管理上のアップ状態にあり、ラインプロトコルもアップになっている必要があります。

CGMP 学習方式により、制御トラフィックを減少させることができます。

設定された学習方式は、NVRAM (不揮発性 RAM) に保存されます。

マルチキャスト インターフェイスへのスタティック接続は、スイッチ インターフェイス上でだけサポートされます。

**例** 次に、マルチキャスト スイッチへのネクスト ホップ インターフェイスを指定する例を示します。

```
Switch(config-if)# ip igmp snooping 400 mrouter interface fastethernet 5/6
Switch(config-if)#
```

次に、マルチキャスト スイッチ学習方式を指定する例を示します。

```
Switch(config-if)# ip igmp snooping 400 mrouter learn cgmp
Switch(config-if)#
```

#### 関連コマンド

[ip igmp snooping](#)  
[ip igmp snooping vlan immediate-leave](#)  
[ip igmp snooping vlan static](#)  
[show ip igmp snooping](#)  
[show ip igmp snooping mrouter](#)

# ip igmp snooping vlan static

レイヤ2 インターフェイスをグループのメンバとして設定するには、**ip igmp snooping vlan static** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip igmp snooping vlan vlan_num static mac-address {interface {fastethernet slot/port} |
  {gigabitethernet slot/port} | {tengigabitethernet slot/port} | {port-channel number}}
```

```
no ip igmp snooping vlan vlan_num static mac-address {interface {fastethernet slot/port} |
  {gigabitethernet slot/port} | {tengigabitethernet mod/interface-number} | {port-channel
  number}}
```

## シンタックスの説明

<b>vlan</b> <i>vlan_num</i>	VLAN（仮想 LAN）の番号です。
<b>static</b> <i>mac-address</i>	グループ MAC（メディアアクセス制御）アドレスです。
<b>interface</b>	マルチキャストスイッチへのネクストホップインターフェイスを指定します。
<b>fastethernet</b> <i>slot/port</i>	ファストイーサネットインターフェイス、およびスロットとポートの番号を指定します。
<b>gigabitethernet</b> <i>slot/port</i>	ギガビットイーサネットインターフェイス、およびスロットとポートの番号を指定します。
<b>tengigabitethernet</b> <i>slot/port</i>	10ギガビットイーサネットインターフェイス、およびスロットとポートの番号を指定します。
<b>port-channel</b> <i>number</i>	ポートチャンネルの番号です。有効値は1～64です。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.2(25)EW	10ギガビットイーサネットインターフェイスが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 例

次に、インターフェイスでホストをスタティックに設定する例を示します。

```
Switch(config)# ip igmp snooping vlan 4 static 0100.5e02.0203 interface fastethernet
5/11
Configuring port FastEthernet5/11 on group 0100.5e02.0203 vlan 4
Switch(config)#
```

## 関連コマンド

[ip igmp snooping](#)  
[ip igmp snooping vlan immediate-leave](#)  
[ip igmp snooping vlan mrouter](#)  
[show mac-address-table multicast](#)

## ip local-proxy-arp

ローカルプロキシ Address Resolution Protocol (ARP; アドレス レゾリューションプロトコル) 機能をイネーブルにするには、**ip local-proxy-arp** コマンドを使用します。ローカルプロキシ ARP 機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip local-proxy-arp**

**no ip local-proxy-arp**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** ローカルプロキシ ARP はディセーブルです。

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーションモード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** この機能は、ホストが接続されているスイッチに直接通信することが意図的に禁止されているサブネット上でだけ使用されます。

Internet Control Message Protocol (ICMP; インターネット制御メッセージプロトコル) リダイレクトは、ローカルプロキシ ARP 機能がイネーブルのインターフェイス上でディセーブルです。

**例** 次に、ローカルプロキシ ARP 機能をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# ip local-proxy-arp
Switch(config-if)#
```

# ip mfib fastdrop

MFIB 高速廃棄をイネーブルにするには、**ip mfib fastdrop** コマンドを使用します。MFIB 高速廃棄をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip mfib fastdrop**

**no ip mfib fastdrop**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** MFIB 高速廃棄はイネーブルです。

**コマンドモード** EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、MFIB 高速廃棄をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# ip mfib fastdrop
Switch#
```

**関連コマンド**

- [clear ip mfib fastdrop](#)
- [show ip mfib fastdrop](#)



# ip route-cache flow

IP ルーティングの NetFlow 統計情報をイネーブルにするには、**ip route-cache flow** コマンドを使用します。NetFlow 統計情報をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip route-cache flow [infer-fields]**

**no ip route-cache flow [infer-fields]**

<b>シンタックスの説明</b>	<b>infer-fields</b>	(任意) ソフトウェアによって推測された場合に、入力 ID、出力 ID、ルーティング情報といった NetFlow フィールドを含めます。
------------------	---------------------	--

<b>デフォルト</b>	NetFlow 統計情報はディセーブルです。 推測される情報は除外されます。
--------------	---

<b>コマンドモード</b>	コンフィギュレーション
----------------	-------------

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.1(19)EW	推測フィールドをサポートするようにコマンドが強化されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	これらのコマンドを使用するには、Supervisor Engine IV および NetFlow Service Card を搭載する必要があります。
-------------------	---

NetFlow 統計機能は、一連のトラフィック統計情報を取得します。これらのトラフィック統計情報には、送信元 IP アドレス、宛先 IP アドレス、レイヤ 4 ポート情報、プロトコル、入出力 ID など、ネットワークの分析、計画、アカウンティング、課金、および DoS 攻撃（サービス拒絶攻撃）の識別に使用可能な情報が含まれます。

NetFlow スイッチングは、すべてのインターフェイス タイプの IP トラフィックおよび IP カプセル化トラフィックでサポートされます。

**ip route-cache flow** コマンドのあとに **ip route-cache flow infer-fields** コマンドを入力すると、既存のキャッシュが消去されます。この逆も同様です。これは、キャッシュ内に推測フィールドを持つフローと持たないフローが混在しないようにするためです。

NetFlow スイッチングの詳細については、『*Catalyst 4500 Series Switch Cisco IOS Software Configuration Guide*』を参照してください。



<b>(注)</b>	NetFlow は他のスイッチング モデルよりも多くのメモリおよび CPU リソースを消費します。NetFlow をイネーブルにする前に、スイッチに必要なリソースを把握する必要があります。
------------	--

<b>例</b>	次に、スイッチで NetFlow スイッチングをイネーブルにする例を示します。
----------	---

```
Switch# config terminal
Switch(config)# ip route-cache flow
Switch(config)# exit
Switch#
```



<b>(注)</b>	このコマンドは、個別のインターフェイスでは機能しません。
------------	------------------------------

# ip source binding

スタティック IP 送信元バインディング エントリを追加または削除するには、**ip source binding** コマンドを使用します。対応する IP 送信元バインディング エントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip source binding ip-address mac-address vlan vlan-id interface interface-name
```

```
no ip source binding ip-address mac-address vlan vlan-id interface interface-name
```

## シンタックスの説明

<i>ip-address</i>	バインディング対象 IP アドレスです。
<i>mac-address</i>	バインディング対象 MAC (メディア アクセス制御) アドレスです。
<b>vlan</b> <i>vlan-id</i>	VLAN 番号
<b>interface</b> <i>interface-name</i>	バインディング対象インターフェイスです。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

**ip source binding** コマンドは、スタティック IP 送信元バインディング エントリの追加のみを行います。

このコマンドの **no** 形式は、対応する IP 送信元バインディング エントリを削除します。削除を正常に行うには、すべての必須パラメータを一致させる必要があります。

各スタティック IP バインディング エントリは、MAC アドレスおよび VLAN 番号で指定されます。CLI (コマンドライン インターフェイス) に既存の MAC および VLAN を含めると、既存のバインディング エントリが新しいパラメータで更新されます。別のバインディング エントリは作成されません。

## 例

次に、スタティック IP 送信元バインディングを設定する例を示します。

```
Switch# config terminal
Switch(config)# ip source binding 11.0.0.1 0000.000A.000B vlan 10 interface
fastethernet6/10
Switch(config)#
```

## 関連コマンド

[show ip source binding](#)

# ip sticky-arp

スティッキー ARP (アドレス レゾリューション プロトコル) をイネーブルにするには、**ip sticky-arp** コマンドを使用します。スティッキー ARP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip sticky-arp**

**no ip sticky-arp**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** イネーブルです。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、PVLAN のみでサポートされます。

レイヤ 3 PVLAN インターフェイスで学習された ARP エントリを、スティッキー ARP エントリと呼びます。PVLAN インターフェイスの ARP エントリを表示および確認するには、**show arp** コマンドを使用します。

セキュリティ上の理由から、PVLAN インターフェイスのスティッキー ARP エントリはエージングアウトしません。同一の IP アドレスを持つ新たな装置を接続すると、メッセージが表示され、その ARP エントリは作成されません。

PVLAN インターフェイスの ARP エントリはエージングアウトしないため、MAC アドレスの変更が生じた場合は、PVLAN の ARP エントリを手動で削除する必要があります。

スティッキー ARP エントリはスタティック エントリとは異なり、**reboot** および **restart** コマンドを入力しても保存および復元されません。

**例** 次に、スティッキー ARP をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config) ip sticky-arp
Switch(config)# end
Switch#
```

次に、スティッキー ARP をディセーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config) no ip sticky-arp
Switch(config)# end
Switch#
```

**関連コマンド** **arp** (Cisco IOS のマニュアルを参照)  
**show arp** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

# ip verify header vlan all

レイヤ2 でスイッチングされた IPv4 パケットの IP ヘッダー検証をイネーブルにするには、**ip verify header vlan all** コマンドを使用します。IP ヘッダー検証をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip verify header vlan all**

**no ip verify header vlan all**

**シンタックスの説明** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**デフォルト** ブリッジングおよびルーティングされた IPv4 パケットの IP ヘッダーが検証されます。

**コマンドモード** コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(20)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドはレイヤ3 でスイッチング（ルーティング）されたパケットには適用されません。

Catalyst 4500 シリーズ スイッチは、スイッチングされたすべての IPv4 パケットの IPv4 ヘッダーについて、次のフィールドの有効性を調べます。

- バージョンが 4 であること
- ヘッダー長が 20 バイト以上であること
- 全体長がヘッダー長の 4 倍以上であり、かつレイヤ2 パケット サイズからレイヤ2 カプセル サイズを引いた値よりも大きいこと

IPv4 パケットの IP ヘッダー検証に失敗した場合、パケットは廃棄されます。ヘッダー検証をディセーブルにすると、IP ヘッダーが無効なパケットはブリッジングされますが、ルーティングが必要な場合であってもルーティングされません。また、IPv4 アクセス リストも IP ヘッダーに適用されません。

**例** 次に、レイヤ2 でスイッチングされた IPv4 パケットの IP ヘッダー検証をディセーブルにする例を示します。

```
Switch# config terminal
Switch(config)# no ip verify header vlan all
Switch(config)# end
Switch#
```

## ip verify source

信頼できないレイヤ 2 インターフェイス上の IP ソース ガードをイネーブルにするには、**ip verify source** コマンドを使用します。信頼できないレイヤ 2 インターフェイス上の IP ソース ガードをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip verify source {vlan dhcp-snooping | tracking} [port-security]
```

```
no ip verify source {vlan dhcp-snooping | tracking} [port-security]
```

### シンタックスの説明

<b>vlan dhcp-snooping</b>	信頼できないレイヤ 2 DHCP スヌーピング インターフェイス上で IP ソース ガードをイネーブルにします。
<b>tracking</b>	IP ポートセキュリティが、ポート上でスタティック IP アドレス ラーニングを学習するようにします。
<b>port-security</b>	(任意) ポートセキュリティ機能を使用して、送信元 IP アドレスと MAC (メディアアクセス制御) アドレスの両方をフィルタリングします。

### デフォルト

IP 送信元ガードはディセーブルです。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.2(37)SG	IP ポートセキュリティおよびトラッキングのサポートが追加されました。

### 例

次に、IP ソース ガードを VLAN 10 ~ 20 までポート単位でイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# ip dhcp snooping
Switch(config)# ip dhcp snooping vlan 10 20
Switch(config)# interface fastethernet6/1
Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation dot1q
Switch(config-if)# switchport mode trunk
Switch(config-if)# switchport trunk native vlan 10
Switch(config-if)# switchport trunk allowed vlan 11-20
Switch(config-if)# no ip dhcp snooping trust
Switch(config-if)# ip verify source vlan dhcp-snooping
Switch(config)# end
Switch# show ip verify source interface f6/1
```

Interface	Filter-type	Filter-mode	IP-address	Mac-address	Vlan
Fa6/1	ip-mac	active	10.0.0.1		10
Fa6/1	ip-mac	active	deny-all		11-20

```
Switch#
```

次に、レイヤ 2 アクセス ポート上で IP ポート セキュリティの IP-Mac フィルタ機能をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
Switch(config)# ip device tracking
Switch(config)# interface fastEthernet 4/3
Switch(config-if)# switchport mode access
Switch(config-if)# switchport access vlan 1
Switch(config-if)# ip device tracking maximum 5
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# switchport port-security maximum 5
Switch(config-if)# ip verify source tracking port-security
Switch(config-if)# end
```

**show ip verify source** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

#### 関連コマンド

**debug ip verify source packet** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

**ip device tracking maximum**

**ip dhcp snooping**

**ip dhcp snooping limit rate**

**ip dhcp snooping information option**

**ip dhcp snooping trust**

**ip source binding** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

**show ip dhcp snooping**

**show ip dhcp snooping binding**

**show ip verify source** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

**show ip source binding** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

# ip verify unicast source reachable-via

Supervisor Engine 6-E IPv4 インターフェイスでユニキャスト RPF チェックをイネーブルにして設定するには、**ip verify unicast source reachable-via** コマンドを使用します。ユニキャスト RPF をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip verify unicast source reachable-via rx allow-default**

**no ip verify unicast source reachable-via**

シンタックスの説明	rx	送信元アドレスがパケットを受信したインターフェイスで到達可能であることを確認します。
	<b>allow-default</b>	デフォルト ルートが送信元アドレスと一致することを確認します。

**デフォルト**      ディセーブルです。

**コマンド モード**      インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(40)SG	このコマンドが Supervisor Engine 6-E を搭載した Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン**      基本 RX モードでは、ユニキャスト RPF により、着信インターフェイス側で送信元アドレスが到達可能になっていなければならないことが保証されます。たとえば、ロード バランシングなしで送信元が到達可能になっていなければいけません。



**(注)**      ユニキャスト RPF は入力機能で、接続のアップストリーム エンドにあるルータの入力インターフェイスにのみ適用されます。

ユニキャスト RPF を内部ネットワーク インターフェイスで使用しないでください。内部インターフェイスにはルーティングに非対称性が存在する可能性があります。つまり、パケットの送信元へのルートが複数存在します。固有または指定の対称性が存在するところのみユニキャスト RPF を適用します。

**例**      次に、ユニキャスト RPF exist-only チェック モードをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# ip verify unicast source reachable-via rx allow-default
Switch(config-if)# end
Switch#
```

**関連コマンド**      **ip cef** (Cisco IOS のマニュアルを参照)  
**show running-config**

# ipv6 mld snooping

IP バージョン 6 (IPv6) Multicast Listener Discovery (MLD) スヌーピングをグローバルまたは指定の VLAN でイネーブルにするには、キーワードなしで **ipv6 mld snooping** コマンドを使用します。スイッチまたは VLAN 上で MLD スヌーピングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ipv6 mld snooping [vlan vlan-id]
```

```
no ipv6 mld snooping [vlan vlan-id]
```

## シンタックスの説明

<b>vlan vlan-id</b>	(任意) 指定した VLAN で IPv6 MLD スヌーピングをイネーブルまたはディセーブルにします。VLAN ID 範囲は、1 ~ 1001 と 1006 ~ 4094 です。
---------------------	--

## デフォルト

MLD スヌーピングは、スイッチでグローバルにディセーブルです。

MLD スヌーピングはすべての VLAN でイネーブルです。ただし、VLAN スヌーピングを実行する前に MLD スヌーピングをグローバルにイネーブルにする必要があります。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドが Catalyst 4500 に導入されました。

## 使用上のガイドライン

MLD スヌーピングはグローバルにディセーブルの場合、すべての既存 VLAN インターフェイスでディセーブルになります。MLD スヌーピングをグローバルにイネーブルにすると、デフォルト ステート (イネーブル) の全 VLAN インターフェイスでイネーブルになります。VLAN コンフィギュレーションは、MLD スヌーピングがディセーブルになっていたインターフェイスのグローバル コンフィギュレーションを無効にします。

MLD スヌーピングがグローバルにディセーブルの場合、VLAN でイネーブルにすることができません。MLD スヌーピングがグローバルにイネーブルの場合、個別の VLAN でディセーブルにすることができます。

VLAN 番号 1002 ~ 1005 は、トークンリングおよび FDDI VLAN 用に予約されていて、MLD スヌーピングでは使用できません。

## 例

次に、グローバルに MLD スヌーピングをイネーブルにする例を示します。

```
Switch#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#ipv6 mld snooping
Switch(config)#end
Switch#
```

次に、MLD スヌーピングを VLAN 上でディセーブルにする例を示します。

```
Switch#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#no ipv6 mld snooping vlan 11
Switch(config)#end
Switch#
```



`show ip mld snooping` ユーザ EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

### 関連コマンド

[show ipv6 mld snooping](#)

## ipv6 mld snooping last-listener-query-count

クライアントをエージングアウトする前に送信される IP バージョン 6 (IPv6) Multicast Listener Discovery Multicast Address Specific Queries (MASQ) を設定するには、`ipv6 mld snooping last-listener-query-count` コマンドを使用します。クエリーカウントをデフォルト設定にリセットするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

```
ipv6 mld snooping [vlan vlan-id] last-listener-query-count integer_value
```

```
no ipv6 mld snooping [vlan vlan-id] last-listener-query-count
```

### シンタックスの説明

<code>vlan <i>vlan-id</i></code>	(任意) 指定 VLAN で last-listener クエリーカウントを設定します。VLAN ID 範囲は、1 ~ 1001 と 1006 ~ 4094 です。
<code><i>integer_value</i></code>	範囲は 1 ~ 7 です。

### コマンドのデフォルト設定

デフォルトのグローバルカウントは 2 です。

デフォルトの VLAN カウントは 0 です (グローバルカウントが使用されます)。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドが Catalyst 4500 に導入されました。

### 使用上のガイドライン

MLD スヌーピングでは、IPv6 マルチキャストスイッチがマルチキャストグループに属するホストに定期的にクエリーを送信します。ホストがマルチキャストグループを脱退する場合、サイレントに脱退するか、または Multicast Listener Done メッセージ (IGMP Leave メッセージと同じ) でクエリーに応答することができます。即時脱退が設定されていない場合 (グループの複数のクライアントが同じポートに存在している場合設定されません)、MLD クライアントがエージングアウトされる前に設定されている last-listener クエリーカウントで MASQ 数が決定されます。

last-listener クエリーカウントが VLAN に設定される際、このカウントによってグローバルに設定された値が無効になります。VLAN カウントが設定されていない (デフォルトの 0 に設定されている) 場合、グローバルカウントが使用されます。

VLAN 番号 1002 ~ 1005 は、トークンリングおよび FDDI VLAN 用に予約されていて、MLD スヌーピングでは使用できません。

**例**

次に、last-listener クエリー カウントをグローバルに設定する例を示します。

```
Switch#configure terminal  
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.  
Switch(config)#ipv6 mld snooping last-listener-query-count 1  
Switch(config)#end  
Switch#
```

次に、VLAN 10 の last-listener クエリー カウントを設定する例を示します。

```
Switch#configure terminal  
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.  
Switch(config)#ipv6 mld snooping vlan 10 last-listener-query-count 3  
Switch(config)#end  
Switch#
```

**show ipv6 mld snooping [vlan *vlan-id*]** ユーザ EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

**関連コマンド**

[ipv6 mld snooping last-listener-query-interval](#)  
[show ipv6 mld snooping querier](#)

# ipv6 mld snooping last-listener-query-interval

IPバージョン6 (IPv6) Multicast Listener Discovery (MLD) スヌーピング last-listener クエリー間隔をスイッチまたは VLAN に設定するには、**ipv6 mld snooping last-listener-query-interval** コマンドを使用します。クエリー時間をデフォルト設定にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ipv6 mld snooping [vlan vlan-id] last-listener-query-interval integer_value
```

```
no ipv6 mld snooping [vlan vlan-id] last-listener-query-interval
```

## シンタックスの説明

<b>vlan <i>vlan-id</i></b>	(任意) 指定 VLAN で last-listener クエリー間隔を設定します。VLAN ID 範囲は、1 ~ 1001 と 1006 ~ 4094 です。
<b><i>integer_value</i></b>	Multicast Address Specific Query (MASQ) の発行後、マルチキャストグループからポートを削除するまで、マルチキャストスイッチが待機しなければならない期間 (1000 分の 1 秒単位) を設定します。有効な値は 100 ~ 32768 です。デフォルトは 1000 (1 秒) です。

## コマンドのデフォルト設定

デフォルトのグローバルクエリー間隔 (最大応答時間) は 1000 (1 秒) です。

デフォルトの VLAN クエリー間隔 (最大応答時間) は 0 (グローバルカウントを使用) です。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドが Catalyst 4500 に導入されました。

## 使用上のガイドライン

last-listener クエリー間隔時間は、MASQ の発行後、マルチキャストグループからポートを削除するまでマルチキャストスイッチが待機する最大時間です。

MLD スヌーピングでは、IPv6 マルチキャストスイッチが MLD 脱退メッセージを受信すると、マルチキャストグループに属するホストにクエリーを送信します。一定時間ポートから MASQ に対する応答がない場合、スイッチがマルチキャストアドレスのメンバシップデータベースからポートを削除します。last-listener クエリー間隔は、マルチキャストグループから応答のないポートを削除するまでスイッチが待機する最大時間です。

VLAN クエリー間隔が設定される場合、グローバルクエリー間隔は無効になります。VLAN 間隔が 0 に設定される場合、グローバル値が使用されます。

VLAN 番号 1002 ~ 1005 は、トークンリングおよび FDDI VLAN 用に予約されていて、MLD スヌーピングでは使用できません。

## 例

次に、グローバルに last-listener クエリー間隔を 2 秒に設定する例を示します。

```
Switch#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#ipv6 mld snooping last-listener-query-interval 2000
Switch(config)#end
Switch#
```

■ **ipv6 mld snooping last-listener-query-interval**

次に、VLAN 1 の last-listener クエリー間隔を 5 秒に設定する例を示します。

```
Switch#configure terminal  
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.  
Switch(config)#ipv6 mld snooping vlan 1 last-listener-query-interval 5500  
Switch(config)#end  
Switch#
```

**show ipv6 MLD snooping [vlan *vlan-id*]** ユーザ EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

---

**関連コマンド**

**ipv6 mld snooping last-listener-query-count**

**show ipv6 mld snooping querier**

# ipv6 mld snooping listener-message-suppression

IPバージョン6 (IPv6) Multicast Listener Discovery (MLD) スヌーピング リスナー メッセージ抑制をイネーブルにするには、**ipv6 mld snooping listener-message-suppression** コマンドを使用します。MLD スヌーピング リスナー メッセージ抑制をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ipv6 mld snooping listener-message-suppression
```

```
no ipv6 mld snooping listener-message-suppression
```

## コマンドのデフォルト設定

デフォルトでは、MLD スヌーピング リスナー メッセージ抑制はディセーブルになっています。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドが Catalyst 4500 に導入されました。

## 使用上のガイドライン

MLD スヌーピング リスナー メッセージ抑制は、IGMP スヌーピング レポート抑制と同じです。これをイネーブルにすると、グループで受信される MLDv1 レポートがすべてのレポート転送時に1回のみ IPv6 マルチキャスト スイッチに転送されます。これにより、レポートの転送が重複しません。

## 例

次に、MLD スヌーピング リスナー メッセージ抑制をイネーブルにする例を示します。

```
Switch#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#ipv6 mld snooping listener-message-suppression
Switch(config)#end
Switch#
```

次に、MLD スヌーピング リスナー メッセージ抑制をディセーブルにする例を示します。

```
Switch#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#no ipv6 mld snooping listener-message-suppression
Switch(config)#end
Switch#
```

**show ipv6 mld snooping [vlan vlan-id]** ユーザ EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

## 関連コマンド

[ipv6 mld snooping](#)  
[show ipv6 mld snooping](#)

# ipv6 mld snooping robustness-variable

応答しないリスナーを削除する前にスイッチが送信する IP バージョン 6 (IPv6) Multicast Listener Discovery (MLD) クエリーの数を設定したり、VLAN 単位のクエリー数を設定するために VLAN ID を入力するには、**ipv6 mld snooping robustness-variable** コマンドを使用します。変数をデフォルト設定にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ipv6 mld snooping [vlan vlan-id] robustness-variable integer_value
```

```
no ipv6 mld snooping [vlan vlan-id] robustness-variable
```

## シンタックスの説明

<b>vlan <i>vlan-id</i></b>	(任意) 指定 VLAN でロバストネス変数を設定します。VLAN ID 範囲は、1 ~ 1001 と 1006 ~ 4094 です。
<b><i>integer_value</i></b>	範囲は 1 ~ 3 です。

## コマンドのデフォルト設定

デフォルトのグローバル ロバストネス変数 (リスナーを削除するまでのクエリー数) は 2 です。

デフォルトの VLAN ロバストネス変数 (マルチキャストアドレスをエージングアウトするまでのクエリー数) は 0 です。つまり、システムはリスナーのエージングアウトにグローバル ロバストネス変数を使用します。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドが Catalyst 4500 に導入されました。

## 使用上のガイドライン

ロバストネスは、ポートがマルチキャストグループから削除されるまで応答のなかった MLDv1 クエリー数で測定されます。MLDv1 クエリーの設定数に対して受信された MLDv1 レポートがない場合、ポートが削除されます。グローバル値は、応答のないリスナーを削除するまでスイッチが待機するクエリー数を決定するもので、VLAN 値セットのないすべての VLAN に適用されます。

VLAN に設定されたロバストネス値がグローバル値を無効にします。VLAN のロバストネス値が 0 (デフォルト) の場合、グローバル値が使用されます。

VLAN 番号 1002 ~ 1005 は、トークンリングおよび FDDI VLAN 用に予約されていて、MLD スヌーピングでは使用できません。

## 例

次に、スイッチが 3 つのクエリーを送信してから応答のないリスナーポートを削除するように、グローバル ロバストネス値を設定する例を示します。

```
Switch#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#ipv6 mld snooping robustness-variable 3
Switch(config)#end
Switch#
```

次に、VLAN 1 のロバストネス値を設定する例を示します。この値は、VLAN のグローバル コンフィギュレーションを無効にします。

```
Switch#configure terminal  
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.  
Switch(config)#ipv6 mld snooping vlan 1 robustness-variable 1  
Switch(config)#end  
Switch#
```

**show ipv6 MLD snooping [vlan *vlan-id*]** ユーザ EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

#### 関連コマンド

[ipv6 mld snooping last-listener-query-count](#)  
[show ipv6 mld snooping](#)

# ipv6 mld snooping tcn

IP バージョン 6 (IPv6) Multicast Listener Discovery (MLD) Topology Change Notification (TCN; トポロジー変更通知) を設定するには、**ipv6 mld snooping tcn** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ipv6 mld snooping tcn {flood query count integer_value | query solicit}
```

```
no ipv6 mld snooping tcn {flood query count integer_value | query solicit}
```

## シンタックスの説明

<b>flood query count <i>integer_value</i></b>	フラッディングクエリーカウントを設定します。これは、要求のあるポートにのみマルチキャストデータを転送する前に送信するクエリーの数です。範囲は 1 ~ 10 です。
<b>query solicit</b>	TCN クエリーの送信請求をイネーブルにします。

## コマンドのデフォルト設定

TCN クエリー送信請求はディセーブルです。

イネーブルにすると、デフォルトのフラッディングクエリーカウントは 2 です。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)SG	このコマンドが Catalyst 4500 に導入されました。

## 例

次に、TCN クエリー送信請求をイネーブルにする例を示します。

```
Switch#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#ipv6 mld snooping tcn query solicit.
Switch(config)#end
Switch#
```

次に、フラッディングクエリーカウントを 5 に設定する例を示します。

```
Switch#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#ipv6 mld snooping tcn flood query count 5.
Switch(config)#end
Switch#
```

**show ipv6 MLD snooping [vlan *vlan-id*]** ユーザ EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

## 関連コマンド

[show ipv6 mld snooping](#)



## ipv6 mld snooping vlan

VLAN 上で IP バージョン 6 (IPv6) Multicast Listener Discovery (MLD) スヌーピング パラメータを設定するには、**ipv6 mld snooping vlan** コマンドを使用します。パラメータをデフォルト設定にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ipv6 mld snooping vlan vlan-id [immediate-leave | mrouter interface interface-id | static
ipv6-multicast-address interface interface-id]
```

```
no ipv6 mld snooping vlan vlan-id [immediate-leave | mrouter interface interface-id | static ip-address
interface interface-id]
```

### シンタックスの説明

<b>vlan</b> <i>vlan-id</i>	有効な VLAN 番号を指定します。VLAN ID 範囲は、1 ~ 1001 と 1006 ~ 4094 です。
<b>immediate-leave</b>	(任意) VLAN インターフェイス上の MLD 即時脱退処理をイネーブルにします。インターフェイス上での即時脱退機能をディセーブルにするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。
<b>mrouter interface</b>	(任意) マルチキャスト スイッチ ポートを設定します。設定を削除するには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。
<b>static</b> <i>ipv6-multicast-address</i>	(任意) 指定された IPv6 マルチキャスト アドレスでマルチキャスト グループを指定します。
<b>interface</b> <i>interface-id</i>	レイヤ 2 ポートをグループに追加します。 <b>mrouter</b> またはスタティック インターフェイスは、物理ポートまたは 1 ~ 48 の <b>port-channel</b> インターフェイスのいずれかです。

### コマンドのデフォルト設定

MLD スヌーピング即時脱退処理はディセーブルです。

デフォルトで、スタティック IPv6 マルチキャスト グループはありません。

デフォルトで、マルチキャスト スイッチ ポートはありません。

### コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドが Catalyst 4500 に導入されました。

### 使用上のガイドライン

VLAN 内の各ポートに 1 つのレシーバーのみがある場合だけ即時脱退機能を設定します。設定は NVRAM (不揮発性 RAM) に保存されます。

**static** キーワードは、MLD メンバ ポートをスタティックに設定する場合のみ使用されます。

設定と、スタティック ポートおよびグループは NVRAM に保存されます。

VLAN 番号 1002 ~ 1005 は、トークンリングおよび FDDI VLAN 用に予約されていて、MLD スヌーピングでは使用できません。

**例**

次に、VLAN 1 上での MLD 即時脱退処理をイネーブルにする例を示します。

```
Switch#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#ipv6 mld snooping vlan 1 immediate-leave
Switch(config)#end
Switch#
```

次に、VLAN 1 上での MLD 即時脱退処理をディセーブルにする例を示します。

```
Switch#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#no ipv6 mld snooping vlan 1 immediate-leave
Switch(config)#end
Switch#
```

次に、マルチキャスト スイッチ ポートとしてポートを設定する例を示します。

```
Switch#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#ipv6 mld snooping vlan 1 mrouter interface gigabitethernet1/0/2
Switch(config)#end
Switch#
```

次に、スタティック マルチキャスト グループを設定する例を示します。

```
Switch#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#ipv6 mld snooping vlan 2 static FF12::34 interface gigabitethernet1/0/2
Switch(config)#end
Switch#
```

**show ipv6 mld snooping vlan *vlan-id*** ユーザ EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

**関連コマンド**

[ipv6 mld snooping](#)  
[ipv6 mld snooping vlan](#)  
[show ipv6 mld snooping](#)

# issu abortversion

実行中の ISSU アップグレードまたはダウングレードプロセスを中止し、Catalyst 4500 シリーズ スイッチをプロセス開始前の状態に戻すには、**issu abortversion** コマンドを使用します。

```
issu abortversion active-slot [active-image-new]
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	<i>active-slot</i>	現在のスタンバイ スーパーバイザ エンジンのスロット番号を指定します。
	<i>active-image-new</i>	(任意) 現在のスタンバイ スーパーバイザ エンジンに格納された新規イメージの名前です。

**デフォルト** デフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** **issu commitversion** コマンドの入力によって開始した ISSU プロセスは、**issu abortversion** コマンドを使用することでいつでも中止できます。なんらかのアクションが実行される前に、両方のスーパーバイザ エンジンが実行バージョン (RV) またはロードバージョン (LV) ステートであることを検証するためのチェックが行われます。

**issu runversion** コマンドの前に **issu abortversion** コマンドを入力すると、スタンバイ スーパーバイザ エンジンはリセットされ、古いイメージがリロードされます。**issu runversion** コマンドのあとに **issu abortversion** コマンドを入力すると、変更が適用され、新しいスタンバイ スーパーバイザ エンジンがリセットされ、古いイメージがリロードされます。

**例** 次に、スタンバイ スーパーバイザ エンジンを実行バージョンをリセットおよびリロードする例を示します。

```
Switch# issu abortversion 2
Switch#
```

**関連コマンド**

- [issu acceptversion](#)
- [issu commitversion](#)
- [issu loadversion](#)
- [issu runversion](#)
- [show issu state](#)

# issu acceptversion

ISSU プロセスの実行中に Cisco IOS ソフトウェア イメージが自動的に中止されないように、ロールバック タイマーを停止するには、**issu acceptversion** コマンドを使用します。

```
issu acceptversion active-slot [active-image-new]
```

シンタックスの説明		
<code>active-slot</code>		現在のアクティブ スーパーバイザ エンジンのスロット番号を指定します。
<code>active-image-new</code>	(任意)	現在のアクティブ スーパーバイザ エンジンに格納された新規イメージの名前です。

**デフォルト**      ロールバック タイマーは、**issu runversion** コマンドを実行してから 45 分後に自動的にリセットされます。

**コマンドモード**      特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン**      新規イメージに問題がなく、新たなスーパーバイザ エンジンがコンソールからもネットワークからも到達可能であることを確認できたら、**issu acceptversion** コマンドを入力してロールバック タイマーを停止します。**issu runversion** コマンドの実行後 45 分以内に **issu acceptversion** コマンドを入力しないと、ISSU プロセス全体が前バージョンのソフトウェアに自動的にロールバックされます。ロールバック タイマーは、**issu runversion** コマンドの実行後ただちに開始されます。

スタンバイ スーパーバイザ エンジンがホット スタンバイ ステートに移行する前にロールバック タイマーが満了した場合は、タイマーは自動的に最大 15 分延長されます。この延長時間中にスタンバイ ステートがホット スタンバイ ステートに移行した場合、または 15 分の延長時間が経過した場合は、スイッチは ISSU プロセスを打ち切ります。タイマーの延長時間が 1 分経過するごとに、手動介入を要求する警告メッセージが表示されます。

ロールバック タイマーを長時間に設定し（デフォルトの 45 分など）、スタンバイ スーパーバイザ エンジンが 7 分後にホット スタンバイ ステートに移行した場合、38 分間（45 から 7 を引いた値）以内なら必要に応じてロールバックを行えます。

ロールバック タイマーを設定するには、**issu set rollback-timer** コマンドを使用します。

**例**      次に、ロールバック タイマーを停止して、ISSU プロセスを続行させる例を示します。

```
Switch# issu acceptversion 2
Switch#
```

**関連コマンド**

- [issu abortversion](#)
- [issu commitversion](#)
- [issu loadversion](#)
- [issu runversion](#)
- [issu set rollback-timer](#)
- [show issu state](#)

# issu commitversion

新規の Cisco IOS イメージを新たなスタンバイ スーパーバイザ エンジンにロードするには、**issu commitversion** コマンドを使用します。

```
issu commitversion standby-slot standby-image-new
```

シンタックスの説明	standby-slot	現在のアクティブ スーパーバイザ エンジンのスロット番号を指定します。
	active-image-new	(任意) 現在のアクティブ スーパーバイザ エンジンに格納された新規イメージの名前です。

**デフォルト** デフォルトはイネーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** **issu commitversion** コマンドは、スタンバイ スーパーバイザ エンジンのファイル システム内に新規の Cisco IOS ソフトウェア イメージがあり、両方のスーパーバイザ エンジンが run version (RV) ステートであることを検査します。これらの条件が満たされている場合は、以下のアクションが実行されます。

- スタンバイ スーパーバイザ エンジンがリセットされ、新バージョンの Cisco IOS ソフトウェアによって起動されます。
- スタンバイ スーパーバイザ エンジンは Stateful Switchover (SSO) モードに移行し、スタンバイ スーパーバイザ エンジンと互換性のあるすべてのクライアントおよびアプリケーションに対して、完全にステートフルとなります。
- スーパーバイザ エンジンは最終ステートに移行します。これは、初期ステートと同じ状態です。

**issu commitversion** コマンドを実行すると、In Service Software Upgrade (ISSU) プロセスが完了します。このプロセスは、新規の ISSU プロセスを開始しないかぎり、停止したり元の状態に戻したりすることはできません。

**issu acceptversion** コマンドを入力せずに **issu commitversion** コマンドを入力すると、**issu acceptversion** コマンドと **issu commitversion** コマンドの両方を入力した場合と同じ結果となります。**issu commitversion** コマンドは、現在のステートのまま長時間実行させず、新規ソフトウェア バージョンで問題がない場合に使用します。

**例** 次に、新規スタンバイ スーパーバイザ エンジンをリセットし、新規 Cisco IOS ソフトウェア バージョンをリロードするように設定する例を示します。

```
Switch# issu commitversion 1
Switch#
```

**関連コマンド**

- [issu acceptversion](#)
- [issu commitversion](#)
- [issu loadversion](#)
- [issu runversion](#)
- [show issu state](#)

## issu config-sync mismatched-commands

アクティブ スーパーバイザとスタンバイ スーパーバイザの IOS バージョンが異なると、一部の CLI (コマンドライン インターフェイス) の互換性がなくなります。このようなコマンドがアクティブ スーパーバイザ エンジンの実行コンフィギュレーション内にすでに存在し、スタンバイ スーパーバイザ エンジンの起動時にこれらのコマンドに対する構文チェックが失敗した場合は、**issu config-sync mismatched-commands** コマンドを使用します。このコマンドは、アクティブ スーパーバイザ エンジンを Mismatched Command List (MCL) に移動し、スタンバイ スーパーバイザ エンジンをリセットします。

```
issu config-sync {ignore | validate} mismatched-commands
```

シンタックスの説明		
	<b>ignore</b>	MCL を無視します。
	<b>validate</b>	MCL を、修正した実行コンフィギュレーションによって再確認します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 次に、ミスマッチ コマンドのログ エントリの例を示します。

```
00:06:31: Config Sync: Bulk-sync failure due to Servicing Incompatibility. Please
check full list of mismatched commands via:
  show issu config-sync failures mcl
00:06:31: Config Sync: Starting lines from MCL file:
interface GigabitEthernet7/7
  ! <submode> "interface"
- ip address 11.0.0.1 255.0.0.0
  ! </submode> "interface"
```

すべてのミスマッチ コマンドを表示するには、**show issu config-sync failures mcl** コマンドを使用します。

MCL を消去するには、次の手順に従います。

- 
- ステップ 1** アクティブ スーパーバイザ エンジンの実行コンフィギュレーションから、すべてのミスマッチ コマンドを削除します。
  - ステップ 2** **issu config-sync validate mismatched-commands** コマンドを使用して、修正した実行コンフィギュレーションに基づき MCL を再確認します。
  - ステップ 3** スタンバイ スーパーバイザ エンジンをリロードします。
-

次の手順に従い、MCL を無視することもできます。

---

**ステップ 1** `issu config-sync ignore mismatched-commands` コマンドを実行します。

**ステップ 2** スタンバイ スーパーバイザ エンジンをリロードします。システムは SSO モードに変わります。



**(注)** ミスマッチ コマンドを無視する場合でも、アクティブおよびスタンバイ スーパーバイザ エンジンの異なるコンフィギュレーションは残されたままになります。

---

**ステップ 3** 無視された MCL を確認するには、`show issu config-sync ignored mcl` コマンドを使用します。

---

---

#### 例

次に、MCL から削除したエントリを確認する例を示します。

```
Switch# issu config-sync validate mismatched-commands  
Switch#
```

---

#### 関連コマンド

[show issu config-sync](#)

# issu loadversion

ISSU プロセスを開始するには、**issu loadversion** コマンドを使用します。

**issu loadversion active-slot active-image-new standby-slot standby-image-new [force]**

シンタックスの説明		
<i>active-slot</i>		現在のアクティブ スーパーバイザ エンジンのスロット番号を指定します。
<i>active-image-new</i>		現在のアクティブ スーパーバイザ エンジンに格納された新規イメージの名前です。
<i>standby-slot</i>		ネットワーク機器のスタンバイ スロットを指定します。
<i>standby-image-new</i>		スタンバイ スーパーバイザ エンジンに格納された新規イメージの名前です。
<b>force</b>		(任意) 新規の Cisco IOS ソフトウェア バージョンに互換性がないことが検出された場合に、自動ロールバックを無効にします。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

**issu loadversion** コマンドを実行すると、スタンバイ スーパーバイザ エンジンはリセットされ、このコマンドによって指定された新規の Cisco IOS ソフトウェア イメージで起動されます。古いイメージと新しいイメージが両方とも ISSU 対応であり、ISSU と互換性があり、設定の不一致が存在しない場合は、スタンバイ スーパーバイザ エンジンは Stateful Switchover (SSO) モードに移行し、両方のスーパーバイザ エンジンはロード バージョン (LV) ステートに移行します。

**issu loadversion** コマンドを入力してから、Cisco IOS ソフトウェアがスタンバイ スーパーバイザ エンジンにロードされ、スタンバイ スーパーバイザ エンジンが SSO モードに移行するまでには、数秒かかります。

## 例

次に、ISSU プロセスを開始する例を示します。

```
Switch# issu loadversion 1 bootflash:new-image 2 slavebootflash:new-image
Switch#
```

## 関連コマンド

[issu abortversion](#)  
[issu acceptversion](#)  
[issu commitversion](#)  
[issu runversion](#)  
[show issu state](#)



## issu runversion

アクティブ スーパーバイザ エンジン をスタンバイ スーパーバイザ エンジン に強制的に切り替え、新たにアクティブとなったスーパーバイザ エンジンで、**issu loadversion** コマンドで指定した新規イメージを実行するには、**issu runversion** コマンドを使用します。

```
issu runversion standby-slot [standby-image-new]
```

### シンタックスの説明

<i>standby-slot</i>	ネットワーク機器のスタンバイ スロットを指定します。
<i>standby-image-new</i>	スタンバイ スーパーバイザ エンジンに格納された新規イメージの名前です。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

**issu runversion** コマンドを実行すると、現在アクティブなスーパーバイザ エンジン はスタンバイ スーパーバイザ エンジン に切り替わります。実際のスタンバイ スーパーバイザ エンジン は古いイメージ バージョンによって起動され、スイッチがリセットされます。スタンバイ スーパーバイザ エンジン がスタンバイ ステートに移行するとすぐ、ロールバック タイマーが開始します。

### 例

次に、アクティブ スーパーバイザ エンジン をスタンバイ スーパーバイザ エンジン に強制的に切り替える例を示します。

```
Switch# issu runversion 2
Switch#
```

### 関連コマンド

[issu abortversion](#)  
[issu acceptversion](#)  
[issu commitversion](#)  
[issu loadversion](#)  
[show issu state](#)

# issu set rollback-timer

In Service Software Upgrade (ISSU) ロールバック タイマーの値を設定するには、`issu set rollback-timer` コマンドを使用します。

`issu set rollback-timer seconds`

<b>シンタックスの説明</b>	<i>seconds</i>	ロールバック タイマーの値を秒単位で指定します。有効なタイマー値は 0 ～ 7,200 秒 (2 時間) です。0 秒に設定すると、ロールバック タイマーはディセーブルとなります。
------------------	----------------	--

**デフォルト** デフォルトのロールバック タイマー値は 2,700 秒です。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** ロールバック タイマーの値を設定するには、`issu set rollback-timer` コマンドを使用します。このコマンドは、スーパーバイザ エンジンが初期ステートの場合のみに有効です。

**例** 次に、ロールバック タイマー値を 3,600 秒 (1 時間) に設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# issu set rollback-timer 3600
Switch(config)# end
Switch#
```

**関連コマンド** [issu acceptversion](#)  
[issu set rollback-timer](#)

# l2protocol-tunnel

インターフェイスのプロトコル トンネリングをイネーブルにするには、**l2protocol-tunnel** コマンドを使用します。Cisco Discovery Protocol (CDP; シスコ検出プロトコル)、Spanning-Tree Protocol (STP; スパニング ツリー プロトコル)、または VLAN Trunking Protocol (VTP; VLAN トランキング プロトコル) のパケットのトンネリングをイネーブルにできます。インターフェイスのトンネリングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**l2protocol-tunnel [cdp | stp | vtp]**

**no l2protocol-tunnel [cdp | stp | vtp]**

## シンタックスの説明

<b>cdp</b>	(任意) CDP のトンネリングをイネーブルにします。
<b>stp</b>	(任意) STP のトンネリングをイネーブルにします。
<b>vtp</b>	(任意) VTP のトンネリングをイネーブルにします。

## デフォルト

デフォルトでは、レイヤ 2 プロトコル パケットはトンネリングされません。

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

レイヤ 2 パケットをトンネリングするには、プロトコル タイプを指定して、または指定せずに、このコマンドを入力する必要があります。

サービス プロバイダー ネットワーク全体にわたるレイヤ 2 プロトコル トンネリングは、レイヤ 2 情報がネットワーク経由ですべてのカスタマーの場所へ伝播されるように保証します。プロトコル トンネリングがイネーブルの場合、プロトコル パケットは **well known** のシスコ マルチキャスト アドレスを使用してカプセル化され、ネットワーク全体へ送信されます。パケットがそれぞれの宛先に到達すると、**well-known** の MAC (メディア アクセス制御) アドレスはレイヤ 2 プロトコル MAC アドレスによって置き換えられます。

レイヤ 2 プロトコル トンネリングは、CDP、STP、および VTP に対して個別にイネーブルにすることもできれば、3 つすべてのプロトコルに対してイネーブルにすることもできます。

## 例

次に、CDP パケットのプロトコル トンネリングをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# l2protocol-tunnel cdp
Switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

[l2protocol-tunnel cos](#)  
[l2protocol-tunnel drop-threshold](#)  
[l2protocol-tunnel shutdown-threshold](#)

# l2protocol-tunnel cos

トンネリングされるレイヤ 2 プロトコル パケットすべてに対して Class of Service (CoS; サービスクラス) 値を設定するには、**l2protocol-tunnel cos** コマンドを使用します。デフォルト値のゼロに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**l2protocol-tunnel cos value**

**no l2protocol-tunnel cos**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>value</i>	トンネリングされるレイヤ 2 プロトコル パケットの CoS プライオリティ値を指定します。有効値は 0 ~ 7 です。7 が最高プライオリティになります。
------------------	--------------	--

<b>デフォルト</b>	デフォルトでは、インターフェイス上でデータに設定された CoS 値を使用します。CoS 値が設定されていない場合、すべてのトンネリングされるレイヤ 2 プロトコル パケットのデフォルト値は 5 です。
--------------	--

<b>コマンドモード</b>	グローバル コンフィギュレーション モード
----------------	-----------------------

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	イネーブルの場合、トンネリングされるレイヤ 2 プロトコル パケットは、この CoS 値を使用します。値は NVRAM (不揮発性 RAM) に保存されます。
-------------------	---

<b>例</b>	次に、レイヤ 2 プロトコル トンネルの CoS 値を 7 に設定する例を示します。
----------	--

```
Switch(config)# l2protocol-tunnel cos 7
Switch(config)#
```

<b>関連コマンド</b>	<a href="#">l2protocol-tunnel</a> <a href="#">l2protocol-tunnel drop-threshold</a> <a href="#">l2protocol-tunnel shutdown-threshold</a>
---------------	---

# l2protocol-tunnel drop-threshold

インターフェイスがパケットを廃棄する前に受信される最大レート（1秒あたりのレイヤ2プロトコルパケット数）に対して廃棄しきい値を設定するには、**l2protocol-tunnel drop-threshold** コマンドを使用します。Cisco Discovery Protocol（CDP; シスコ検出プロトコル）、Spanning-Tree Protocol（STP; スパニングツリープロトコル）、または VLAN Trunking Protocol（VTP; VLAN トランキングプロトコル）のパケットに対して廃棄しきい値を設定できます。インターフェイス上で廃棄しきい値をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
l2protocol-tunnel drop-threshold [cdp | stp | vtp] value
```

```
no l2protocol-tunnel drop-threshold [cdp | stp | vtp] value
```

## シンタックスの説明

<b>cdp</b>	(任意) CDP の廃棄しきい値を指定します。
<b>stp</b>	(任意) STP の廃棄しきい値を指定します。
<b>vtp</b>	(任意) VTP の廃棄しきい値を指定します。
<b>value</b>	インターフェイスがシャットダウンする前にカプセル化のために受信される1秒あたりのパケット数のしきい値を指定するか、または、インターフェイスがパケットを廃棄する前のしきい値を指定します。有効値は1～4,096です。デフォルトでは、しきい値はありません。

## デフォルト

デフォルトでは、レイヤ2プロトコルパケット数に対する廃棄しきい値はありません。

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

**l2protocol-tunnel drop-threshold** コマンドは、インターフェイスがパケットを廃棄する前に、インターフェイスで受信される1秒あたりのプロトコルパケット数を制御します。プロトコルオプションにキーワードが指定されていない場合、しきい値はトンネリングされるレイヤ2プロトコルの各タイプに適用されます。また、インターフェイスにシャットダウンしきい値も設定されている場合、廃棄しきい値はシャットダウンしきい値以下でなければなりません。

廃棄しきい値に達すると、インターフェイスは、受信レートが廃棄しきい値を下回るまで、レイヤ2プロトコルパケットを廃棄します。

## 例

次に、廃棄しきい値レートを設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# l2protocol-tunnel drop-threshold cdp 50
Switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

[l2protocol-tunnel](#)  
[l2protocol-tunnel cos](#)  
[l2protocol-tunnel shutdown-threshold](#)

# l2protocol-tunnel shutdown-threshold

プロトコルトネリングのカプセル化レートを設定するには、**l2protocol-tunnel shutdown-threshold** コマンドを使用します。Cisco Discovery Protocol (CDP; シスコ検出プロトコル)、Spanning-Tree Protocol (STP; スパニング ツリー プロトコル)、または VLAN Trunking Protocol (VTP; VLAN トランキング プロトコル) のパケットに対してカプセル化レートを設定できます。カプセル化レートをインターフェイス上でディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**l2protocol-tunnel shutdown-threshold [cdp | stp | vtp] value**

**no l2protocol-tunnel shutdown-threshold [cdp | stp | vtp] value**

## シンタックスの説明

<b>cdp</b>	(任意) CDP のシャットダウンしきい値を指定します。
<b>stp</b>	(任意) STP のシャットダウンしきい値を指定します。
<b>vtp</b>	(任意) VTP のシャットダウンしきい値を指定します。
<b>value</b>	インターフェイスがシャットダウンする前に、カプセル化のために受信される 1 秒あたりのパケット数のしきい値を指定します。有効値は 1 ~ 4,096 です。デフォルトでは、しきい値はありません。

## デフォルト

デフォルトでは、レイヤ 2 プロトコル パケット数に対するシャットダウンしきい値はありません。

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

**l2-protocol-tunnel shutdown-threshold** コマンドは、インターフェイスがシャットダウンする前に、インターフェイスで受信される 1 秒あたりのプロトコル パケット数を制御します。プロトコル オプションにキーワードが指定されていない場合、しきい値はトネリングされるレイヤ 2 プロトコルの各タイプに適用されます。また、インターフェイスに廃棄しきい値も設定されている場合、シャットダウンしきい値は廃棄しきい値以上でなければなりません。

シャットダウンしきい値に達すると、インターフェイスはエラー ディセーブルになります。

**errdisable recovery cause l2ptguard** コマンドを入力してエラー回復をイネーブルにした場合は、インターフェイスはエラーディセーブル状態を抜け、すべての原因がタイムアウトになった時点で操作を再試行できるようになります。エラー回復機能生成が **l2ptguard** に対してイネーブルでない場合は、**shutdown** コマンドおよび **no shutdown** コマンドを入力するまで、インターフェイスはエラーディセーブル状態のままです。

## 例

次に、最大レートを設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# l2protocol-tunnel shutdown-threshold cdp 50
Switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

[l2protocol-tunnel](#)  
[l2protocol-tunnel cos](#)  
[l2protocol-tunnel shutdown-threshold](#)

# lacp port-priority

物理インターフェイスの LACP プライオリティを設定するには、**lacp port-priority** コマンドを使用します。

**lacp port-priority priority**

シンタックスの説明	<i>priority</i>	物理インターフェイスのプライオリティ値です。有効値は 1 ~ 65,535 です。
-----------	-----------------	---

デフォルト	プライオリティは 32,768 に設定されています。
-------	----------------------------

コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション モード
----------	--------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドは、Supervisor Engine I が搭載されているシステムではサポートされません。
------------	--

スイッチの各ポートにポート プライオリティを割り当てるには、自動指定するか、または **lacp port-priority** コマンドを入力して指定する必要があります。ポート プライオリティとポート番号を組み合わせて、ポート ID が形成されます。ハードウェアの制限により互換性のあるすべてのポートを集約できない場合は、ポート プライオリティを使用して、スタンバイ モードにする必要があるポートを決定します。

このコマンドはグローバル コンフィギュレーション コマンドですが、*priority* 値は LACP 対応の物理インターフェイスを持つポート チャネルでのみサポートされます。このコマンドは LACP 対応インターフェイスでサポートされます。

プライオリティを設定する場合は、値が大きいほど、プライオリティは低くなります。

例	次に、インターフェイスのプライオリティを設定する例を示します。
---	---------------------------------

```
Switch(config-if)# lacp port-priority 23748
Switch(config-if)#
```

関連コマンド	<a href="#">channel-group</a> <a href="#">channel-protocol</a> <a href="#">lacp system-priority</a> <a href="#">show lacp</a>
--------	--

# lacp system-priority

LACP のシステム プライオリティを設定するには、**lacp system-priority** コマンドを使用します。

**lacp system-priority** *priority*

<b>シンタックスの説明</b>	<i>priority</i>	システムのプライオリティ値です。有効値は 1 ～ 65,535 です。
------------------	-----------------	-------------------------------------

<b>デフォルト</b>	プライオリティは 32,768 に設定されています。
--------------	----------------------------

<b>コマンドモード</b>	グローバル コンフィギュレーション モード
----------------	-----------------------

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、Supervisor Engine I が搭載されているシステムではサポートされません。

LACP が稼働する各スイッチにシステム プライオリティを割り当てるには、自動指定するか、または **lacp system-priority** コマンドを入力して指定する必要があります。システム プライオリティと MAC（メディアアクセス制御）アドレスを組み合わせ、システム ID が形成されます。システム プライオリティは、他のシステムとのネゴシエーションでも使用されます。

このコマンドはグローバル コンフィギュレーション コマンドですが、*priority* 値は LACP 対応の物理インターフェイスを持つポート チャネルでサポートされます。

プライオリティを設定する場合は、値が大きいほど、プライオリティは低くなります。

**lacp system-priority** コマンドは、インターフェイス コンフィギュレーション モードで入力することもできます。このコマンドの入力後、システムはデフォルトでグローバル コンフィギュレーション モードになります。

**例** 次に、システム プライオリティを設定する例を示します。

```
Switch(config)# lacp system-priority 23748
Switch(config)#
```

<b>関連コマンド</b>	<a href="#">channel-group</a> <a href="#">channel-protocol</a> <a href="#">lacp port-priority</a> <a href="#">show lacp</a>
---------------	--



## logging event link-status global (グローバル コンフィギュレーション)

デフォルトの、スイッチ全体でのグローバルなリンクステータス イベント メッセージング設定を変更するには、**logging event link-status global** コマンドを使用します。リンクステータス イベント メッセージングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging event link-status global**

**no logging event link-status global**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** グローバル リンクステータス メッセージはディセーブルです。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(25)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** リンクステータス ロギング イベントがインターフェイス レベルで設定されていない場合は、このグローバルなリンクステータス設定が各インターフェイスに適用されます。

**例** 次に、各インターフェイスのリンクステータス メッセージをグローバルにイネーブル化する例を示します。

```
Switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# logging event link-status global
Switch(config)# end
Switch#
```

**関連コマンド** [logging event link-status global \(グローバル コンフィギュレーション\)](#)

## logging event link-status (インターフェイス コンフィギュレーション)

リンクステータス イベント メッセージングを 1 つのインターフェイスに対してイネーブルにするには、**logging event link-status** コマンドを使用します。リンクステータス イベント メッセージングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。リンクステータス設定をグローバルに適用するには、**logging event link-status use-global** コマンドを使用します。

**logging event link-status**

**no logging event link-status**

**logging event link-status use-global**

### デフォルト

グローバルなリンクステータス メッセージングがイネーブルです。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

特定のインターフェイスに対し、インターフェイス状態の変更イベントのシステム ロギングをイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **logging event link-status** コマンドを入力します。

システム内の全インターフェイスに対し、インターフェイス状態の変更イベントのシステム ロギングをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging event link-status global** コマンドを入力します。状態変更イベントを設定していないすべてのインターフェイスには、グローバル設定が適用されます。

### 例

次に、インターフェイス gi11/1 に対して状態変更イベントのロギングをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface gi11/1
Switch(config-if)# logging event link-status
Switch(config-if)# end
Switch#
```

次に、グローバル設定を無視し、リンク ステータス イベントのロギングを無効にする例を示します。

```
Switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface gi11/1
Switch(config-if)# no logging event link-status
Switch(config-if)# end
Switch#
```

次に、インターフェイス gi11/1 に対して、グローバルなリンクステータス イベント設定をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface gi11/1
Switch(config-if)# logging event link-status use-global
Switch(config-if)# end
Switch#
```

#### 関連コマンド

[logging event link-status global \(グローバル コンフィギュレーション\)](#)

## logging event trunk-status global (グローバル コンフィギュレーション)

トランクステータス イベント メッセージングをグローバルにイネーブル化するには、**logging event trunk-status global** コマンドを使用します。トランクステータス イベント メッセージングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging event trunk-status global**

**no logging event trunk-status global**

#### シンタックスの説明

このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

#### デフォルト

グローバルなトランクステータス メッセージはディセーブルです。

#### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

#### 使用上のガイドライン

トランクステータス ロギング イベントがインターフェイス レベルで設定されていない場合は、グローバルなトランクステータス設定が各インターフェイスに適用されます。

#### 例

次に、各インターフェイスのリンク ステータス メッセージングをグローバルにイネーブル化する例を示します。

```
Switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# logging event trunk-status global
Switch(config)# end
Switch#
```

#### 関連コマンド

[logging event trunk-status global \(グローバル コンフィギュレーション\)](#)

## logging event trunk-status (インターフェイス コンフィギュレーション)

トランクステータス イベント メッセージングを 1 つのインターフェイスに対してイネーブルにするには、**logging event trunk-status** コマンドを使用します。トランクステータス イベント メッセージングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。トランクステータス設定をグローバルに適用するには、**logging event trunk-status use-global** コマンドを使用します。

**logging event trunk-status**

**no logging event trunk-status**

**logging event trunk-status use-global**

### デフォルト

グローバルなトランクステータス メッセージングはイネーブルです。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

特定のインターフェイスに対し、インターフェイス状態の変更イベントのシステム ログをイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **logging event trunk-status** コマンドを入力します。

システム内の全インターフェイスに対し、インターフェイス状態の変更イベントのシステム ログをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging event trunk-status use-global** コマンドを入力します。状態変更イベントを設定していないすべてのインターフェイスには、グローバル設定が適用されます。

### 例

次に、インターフェイス gi11/1 に対して状態変更イベントのログをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface gi11/1
Switch(config-if)# logging event trunk-status
Switch(config-if)# end
Switch#
```

次に、グローバル設定を無視し、トランク ステータス イベントのログを無効にする例を示します。

```
Switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface gi11/1
Switch(config-if)# no logging event trunk-status
Switch(config-if)# end
Switch#
```

次に、インターフェイス g11/1 に対して、グローバルなトランク ステータス イベント設定をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# config terminal  
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.  
Switch(config)# interface g11/1  
Switch(config-if)# logging event trunk-status use-global  
Switch(config-if)# end  
Switch#
```

---

**関連コマンド**

**logging event trunk-status global** (グローバル コンフィギュレーション)

## mac access-list extended

拡張 MAC（メディア アクセス制御）アクセス リストを定義するには、**mac access-list extended** コマンドを使用します。MAC アクセス リストを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mac access-list extended name**

**no mac access-list extended name**

シンタックスの説明	<i>name</i>	エントリが属する Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) です。
-----------	-------------	---

デフォルト MAC アクセス リストは定義されません。

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

使用上のガイドライン ACL 名を入力する場合、次の命名規則に従います。

- 最大 31 文字で、a～z、A～Z、0～9、ダッシュ文字 (-)、アンダースコア (\_)、ピリオド文字 (.) を含むことができます。
- 英文字で始まり、すべてのタイプのすべての ACL で一意である必要があります。
- 大文字と小文字を区別します。
- 番号は使用できません。
- キーワードは使用できません。避けるべきキーワードは、all、default-action、map、help、および editbuffer です。

**mac access-list extended name** コマンドを入力した場合に、MAC レイヤ アクセス リストのエントリを作成または削除するには、**[no] {permit | deny} {{src-mac mask | any} [dest-mac mask]} [protocol-family {appletalk | arp-non-ipv4 | decnet | ipx | ipv6 | rarp-ipv4 | rarp-non-ipv4 | vines | xns}]** サブセットを使用します。

表 2-7 に、**mac access-list extended** サブコマンドの構文を示します。

表 2-7 mac access-list extended サブコマンド

サブコマンド	説明
<b>deny</b>	条件が一致した場合にアクセスを禁止します。
<b>no</b>	(任意) アクセス リストからステートメントを削除します。
<b>permit</b>	条件が一致した場合にアクセスを許可します。
<i>src-mac mask</i>	次の形式の送信元 MAC アドレスです。 <i>source-mac-address source-mac-address-mask</i>
<b>any</b>	任意のプロトコル タイプを指定します。
<i>dest-mac mask</i>	(任意) 次の形式の宛先 MAC アドレスです。 <i>dest-mac-address dest-mac-address-mask</i>
<i>protocol-family</i>	(任意) プロトコル ファミリー名です。表 2-8 で、特定のプロトコル ファミリーにマッピングされるパケットについて説明します。

表 2-8 に、イーサネット パケットの プロトコル ファミリーへのマッピングを示します。

表 2-8 イーサネット パケットの プロトコル ファミリーへのマッピング

プロトコル ファミリー	パケット ヘッダー内の Ethertype
Appletalk	0x809B、0x80F3
Arp-Non-Ipv4	0x0806、Arp のプロトコルヘッダーは、非 IP プロトコルファミリーです。
Decnet	0x6000 ~ 0x6009、0x8038 ~ 0x8042
Ipx	0x8137 ~ 0x8138
Ipv6	0x86DD
Rarp-Ipv4	0x8035、Rarp のプロトコルヘッダーは、Ipv4 です。
Rarp-Non-Ipv4	0x8035、Rarp のプロトコルヘッダーは、非 Ipv4 プロトコルファミリーです。
Vines	0x0BAD、0x0BAE、0x0BAF
Xns	0x0600、0x0807

*src-mac mask* または *dest-mac mask* 値を入力した場合は、次の注意事項に従います。

- MAC アドレスは、0030.9629.9f84 などのドット付き 16 進表記で 3 つの 4 バイト値として入力します。
- MAC アドレス マスクは、ドット付き 16 進表記で 3 つの 4 バイト値として入力します。1 ビットをワイルドカードとして使用します。たとえば、アドレスを完全に一致させるには、0000.0000.0000 を使用します (0.0.0 として入力できます)。
- 省略可能な *protocol* パラメータについては、*ethertype* またはキーワードのいずれかを入力できます。
- *protocol* パラメータなしのエントリはどのプロトコルとも一致します。
- アクセス リスト エントリは入力順にスキャンされます。最初に一致したエントリが使用されます。パフォーマンスを高めるには、アクセス リストの最初のあたりに、最も一般に使用されるエントリを置きます。
- リストの最後に明示的な **permit any any** エントリを含めなかった場合、アクセス リストの最後には暗示的な **deny any any** エントリが存在します。
- すべての新しいエントリは既存のリストの最後に置かれます。リストの中間にエントリを追加することはできません。

**例** 次に、0000.4700.0001 から 0000.4700.0009 へのトラフィックを拒否し、それ以外のすべてのトラフィックを許可する、*mac\_layer* という名前の MAC レイヤ アクセス リストを作成する例を示します。

```
Switch(config)# mac access-list extended mac_layer
Switch(config-ext-macl)# deny 0000.4700.0001 0.0.0 0000.4700.0009 0.0.0 protocol-family appletalk
Switch(config-ext-macl)# permit any any
Switch(config-ext-macl)# end
Switch#
```

**関連コマンド** [show vlan access-map](#)

## mac-address-table aging-time

レイヤ 2 テーブルでエントリのエージング タイムを設定するには、**mac-address-table aging-time** コマンドを使用します。*seconds* 値をデフォルト設定にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
mac-address-table aging-time seconds [vlan vlan_id]
```

```
no mac-address-table aging-time seconds [vlan vlan_id]
```

シンタックスの説明	<i>seconds</i>	エージング タイム (秒) です。有効値は 0 および 10 ~ 1,000,000 秒です。
	<b>vlan vlan_id</b>	(任意) 単一の VLAN 番号または VLAN 範囲を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。

**デフォルト** エージング タイムは 300 秒に設定されています。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.1(12c)EW	拡張アドレス指定のサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** VLAN を入力しない場合、変更はすべてのルーテッドポート VLAN に適用されます。  
エージングをディセーブルにするには、0 秒を入力します。

**例** 次に、エージング タイムを 400 秒に設定する例を示します。

```
Switch(config)# mac-address-table aging-time 400
Switch(config)#
```

次に、エージングをディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# mac-address-table aging-time 0
Switch(config)
```

**関連コマンド** [show mac-address-table aging-time](#)



## mac-address-table dynamic group protocols

着信パケットが ip プロトコル パケットと other プロトコル パケットのどちらか一方にしか属していない場合であっても、両方のパケットでの MAC アドレスの学習をイネーブルにするには、**mac-address-table dynamic group protocols** コマンドを使用します。この一括学習をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
mac-address-table dynamic group protocols {ip | other} {ip | other}
```

```
[no] mac-address-table dynamic group protocols {ip | other} {ip | other}
```

### シンタックスの説明

<b>ip</b>	ip プロトコル パケットを指定します。
<b>other</b>	other プロトコル パケットを指定します。

### デフォルト

一括学習機能はディセーブルです。

### コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

ip および other プロトコル パケット内のエントリは、着信トラフィックのプロトコルに従って作成されます。

**mac-address-table dynamic group protocols** コマンドを使用すると、ip または other プロトコル パケットのどちらか一方に属する着信 MAC アドレスは、両方のプロトコル パケットで学習されます。これにより、この MAC アドレス宛であり、いずれかのプロトコル パケットに属するすべてのトラフィックは、フラッドイングされるのではなく、この MAC アドレスにユニキャストされます。この結果、ホストからの着信トラフィックが、送信元ホスト宛のトラフィックとは異なるプロトコル パケットに属する場合に起こりうる、ユニキャスト レイヤ 2 フラッドイングを軽減できます。

例 次の例では、MAC アドレスは最初、ip または other プロトコル バケットのいずれかに割り当てられています。

```
Switch# show mac-address-table dynamic
Unicast Entries
-----+-----+-----+-----+-----+
vlan   mac address      type      protocols      port
-----+-----+-----+-----+-----+
1      0000.0000.5000   dynamic  other          GigabitEthernet1/1
1      0001.0234.6616   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0003.3178.ec0a   dynamic  assigned      GigabitEthernet3/1
1      0003.4700.24c3   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0003.4716.f475   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0003.4748.75c5   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0003.47f0.d6a3   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0003.47f6.a91a   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0003.ba06.4538   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0003.fd63.3eb4   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0004.2326.18a1   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0004.5a5d.de53   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0004.5a5e.6ecc   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0004.5a5e.f60e   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0004.5a5f.06f7   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0004.5a5f.072f   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0004.5a5f.08f6   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0004.5a5f.090b   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0004.5a88.b075   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0004.c1bd.1b40   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0004.c1d8.b3c0   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0004.c1d8.bd00   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0007.e997.74dd   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0007.e997.7e8f   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0007.e9ad.5e24   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      000b.5f0a.f1d8   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      000b.fdf3.c498   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0010.7be8.3794   dynamic  assigned      GigabitEthernet3/1
1      0012.436f.c07f   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0050.0407.5fe1   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0050.6901.65af   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0050.da6c.81cb   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0050.dad0.af07   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      00a0.ccd7.20ac   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      00b0.64fd.1c23   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      00b0.64fd.2d8f   dynamic  assigned      GigabitEthernet3/1
1      00d0.b775.c8bc   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      00d0.b79e.de1d   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      00e0.4c79.1939   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      00e0.4c7b.d765   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      00e0.4c82.66b7   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      00e0.4c8b.f83e   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      00e0.4cbc.a04f   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0800.20cf.8977   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
1      0800.20f2.82e5   dynamic  ip             GigabitEthernet3/1
Switch#
```

次の例では、ip または other プロトコルバケットのいずれかに属する MAC アドレスを、両方のプロトコルバケットに割り当てます。

```
Switch(config)# mac-address-table dynamic group protocols ip other
Switch(config)# exit
Switch# show mac address-table dynamic
Unicast Entries
-----+-----+-----+-----+-----+
vlan  mac address      type      protocols      port
-----+-----+-----+-----+-----+
1      0000.0000.5000      dynamic  ip,other       GigabitEthernet1/1
1      0001.0234.6616      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0003.4700.24c3      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0003.4716.f475      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0003.4748.75c5      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0003.47c4.06c1      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0003.47f0.d6a3      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0003.47f6.a91a      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0003.ba0e.24a1      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0003.fd63.3eb4      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0004.2326.18a1      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0004.5a5d.de53      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0004.5a5d.de55      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0004.5a5e.6ecc      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0004.5a5e.f60e      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0004.5a5f.08f6      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0004.5a5f.090b      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0004.5a64.f813      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0004.5a66.1a77      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0004.5a6b.56b2      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0004.5a6c.6a07      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0004.5a88.b075      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0004.c1bd.1b40      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0004.c1d8.b3c0      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0004.c1d8.bd00      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0005.dce0.7c0a      dynamic  assigned       GigabitEthernet3/1
1      0007.e997.74dd      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0007.e997.7e8f      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0007.e9ad.5e24      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0007.e9c9.0bc9      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      000b.5f0a.f1d8      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      000b.fdf3.c498      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0012.436f.c07f      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0050.0407.5fe1      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0050.6901.65af      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0050.da6c.81cb      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0050.dad0.af07      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      00a0.ccd7.20ac      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      00b0.64fd.1b84      dynamic  assigned       GigabitEthernet3/1
1      00d0.b775.c8bc      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      00d0.b775.c8ee      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      00d0.b79e.de1d      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      00e0.4c79.1939      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      00e0.4c7b.d765      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      00e0.4c82.66b7      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      00e0.4c8b.f83e      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      00e0.4c8c.0861      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
1      0800.20d1.bf09      dynamic  ip,other       GigabitEthernet3/1
Switch#
```

#### 関連コマンド

**mac-address-table dynamic** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

## mac-address-table notification

スイッチでの MAC アドレス通知をイネーブルにするには、**mac-address-table notification** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
mac-address-table notification {change [history-size hs_value] | [interval intv_value] | [mac-move] |
  [threshold [limit percentage] | [interval time]}
```

```
no mac-address-table notification {change [history-size hs_value] | [interval intv_value] |
  [mac-move] | [threshold [limit percentage] | [interval time]}
```

### シンタックスの説明

<b>change</b>	(任意) MAC 変更通知をイネーブルにします。
<b>history-size <i>hs_value</i></b>	(任意) MAC 変更通知の履歴テーブルにおける最大エントリ数です。有効値は 0 ~ 500 エントリです。
<b>interval <i>intv_value</i></b>	(任意) 連続する 2 つの通知トラップ間のインターバルを設定します。有効値は 0 ~ 2,147,483,647 秒です。
<b>mac-move</b>	(任意) MAC 移動通知をイネーブルにします。
<b>threshold</b>	(任意) MAC しきい値通知をイネーブルにします。
<b>limit percentage</b>	(任意) MAT 利用率のしきい値 (%) を指定します。有効値は 1 ~ 100% です。
<b>interval time</b>	(任意) MAC しきい値通知間の間隔を指定します。有効値は 120 秒以上です。

### デフォルト

MAC アドレス通知機能はディセーブルです。

デフォルトの MAC 変更トラップのインターバル値は 1 秒です。

履歴テーブルのデフォルトのエントリ数は 1 です。

MAC 移動通知はディセーブルです。

MAC しきい値監視機能はディセーブルです。

デフォルトの制限値は 50% です。

デフォルトの時間は 120 秒です。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

**mac address-table notification change** コマンドを使用すると、MAC 変更通知機能をイネーブルにできます。また、**snmp trap mac-notification change interface** コンフィギュレーション コマンドによって 1 つのインターフェイスに対する MAC 通知トラップをイネーブルにし、さらに **snmp-server enable traps mac-notification** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、MAC 変更トラップを NMS に送信するようにスイッチを設定する必要があります。

*history-size* オプションを設定すると、既存の MAC 変更履歴テーブルが削除され、新たなテーブルが作成されます。

**例** 次に、MAC アドレス通知の履歴テーブル サイズを 300 エントリに設定する例を示します。

```
Switch(config)# mac-address-table notification change history-size 300
Switch(config)#
```

次に、MAC アドレス通知の送信インターバルを 1,250 秒に設定する例を示します。

```
Switch(config)# mac-address-table notification change interval 1250
Switch(config)#
```

#### 関連コマンド

```
clear mac-address-table
show mac-address-table notification
snmp-server enable traps
snmp trap mac-notification change
```

## mac-address-table static

VLAN (仮想 LAN) インターフェイスのスタティック MAC (メディアアクセス制御) アドレスの設定や、VLAN インターフェイスの MAC アドレスに対するユニキャストトラフィックの廃棄を行うには、**mac-address-table static** コマンドを使用します。スタティック MAC アドレス設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
mac-address-table static mac-addr {vlan vlan-id} {interface type | drop}
```

```
no mac-address-table static mac-addr {vlan vlan-id} {interface type} {drop}
```

### シンタックスの説明

<i>mac-addr</i>	MAC アドレスです。このコマンドの <b>no</b> 形式を使用する場合は、任意です。
<b>vlan</b> <i>vlan-id</i>	VLAN および有効な VLAN 番号です。有効値は 1 ~ 4,094 です。
<b>interface</b> <i>type</i>	インターフェイスのタイプおよび番号です。有効なオプションは <b>FastEthernet</b> および <b>GigabitEthernet</b> です。
<b>drop</b>	指定された VLAN の設定済み MAC アドレスに送受信されるすべてのトラフィックを廃棄します。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

導入されたスタティック MAC アドレスは、ポートに関連付けられます。

指定する出力インターフェイスは、Switch Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス) ではなく、レイヤ 2 インターフェイスである必要があります。

プロトコルタイプを入力しない場合、4つのプロトコルタイプごとに、エントリが1つ自動作成されます。

このコマンドの **no** 形式を入力しても、システム MAC アドレスは削除されません。

MAC アドレスを削除するときには、**interface int** の入力省略できます。ユニキャスト エントリの場合、エントリは自動的に削除されます。マルチキャスト エントリの場合、インターフェイスを指定しないとエントリ全体が削除されます。インターフェイスを指定することにより、削除する選択ポートを指定できます。

### 例

次に、MAC アドレス テーブルへのスタティック エントリを追加する例を示します。

```
Switch(config)# mac-address-table static 0050.3e8d.6400 vlan 100 interface
fastethernet5/7
Switch(config)#
```

### 関連コマンド

[show mac-address-table static](#)

# macro apply cisco-desktop

スイッチ ポートを標準デスクトップへ接続するのに適したシスコ推奨機能および設定値をイネーブルにするには、**macro apply cisco-desktop** コマンドを使用します。

```
macro apply cisco-desktop $AVID access_vlanid
```

シンタックスの説明	\$AVID access_vlanid	アクセス VLAN (仮想 LAN) ID を指定します。
-----------	----------------------	-------------------------------

デフォルト	このコマンドにデフォルト設定はありません。
-------	-----------------------

コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション モード
----------	--------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、表示および適用のみが可能で、変更はできません。

インターフェイスの既存の設定が目的とするマクロ設定と競合しないように確認してください。マクロを適用する前に、**default interface** コマンドを使用してインターフェイスの設定をクリアします。

**例** 次に、ポート FastEthernet 2/1 でシスコ推奨機能および設定値をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# interface FastEthernet2/1
Switch(config-if)# macro apply cisco-desktop $AVID 50
Switch(config-if)#
```

このマクロの内容は、次のとおりです。

```
# Basic interface - Enable data VLAN only
# Recommended value for access vlan (AVID) should not be 1
switchport access vlan $AVID [access_vlanid]
switchport mode access
# Enable port security limiting port to a single
# MAC address -- that of desktop
switchport port-security
# Ensure port-security age is greater than one minute
# and use inactivity timer
# "Port-security maximum 1" is the default and will not
# Show up in the config
switchport port-security violation restrict
switchport port-security aging time 2
switchport port-security aging type inactivity
# Configure port as an edge network port
spanning-tree portfast
spanning-tree bpduguard enable
```

関連コマンド	<a href="#">macro apply cisco-phone</a> <a href="#">macro apply cisco-router</a> <a href="#">macro apply cisco-switch</a>
--------	---

# macro apply cisco-phone

スイッチ ポートを標準デスクトップおよび Cisco IP Phone へ接続するのに適したシスコ推奨機能および設定値をイネーブルにするには、**macro apply cisco-phone** コマンドを使用します。

```
macro apply cisco-phone $AVID access_vlanid $VVID voice_vlanid
```

シンタックスの説明	\$AVID access_vlanid	アクセス VLAN (仮想 LAN) ID を指定します。
	\$VVID voice_vlanid	音声 VLAN ID を指定します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、表示および適用のみが可能で、変更はできません。

インターフェイスの既存の設定が目的とするマクロ設定と競合しないように確認してください。マクロを適用する前に、**default interface** コマンドを使用してインターフェイスの設定をクリアします。

**例** 次に、ポート FastEthernet 2/1 でシスコ推奨機能および設定値をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# interface FastEthernet2/1
Switch(config-if)# macro apply cisco-phone $AVID 10 $VVID 50
Switch(config-if)#
```

このマクロの内容は、次のとおりです。

```
# VoIP enabled interface - Enable data VLAN
# and voice VLAN (VVID)
# Recommended value for access vlan (AVID) should not be 1\
switchport access vlan $AVID [access_vlan_id]
switchport mode access
# Update the Voice VLAN (VVID) value which should be
# different from data VLAN
# Recommended value for voice vlan (VVID) should not be 1
switchport voice vlan $VVID [voice_vlan_id]
# Enable port security limiting port to a 3 MAC
# addressees -- One for desktop and two for phone
switchport port-security
switchport port-security maximum 3
# Ensure port-security age is greater than one minute
# and use inactivity timer
switchport port-security violation restrict
switchport port-security aging time 2
switchport port-security aging type inactivity
# Enable auto-qos to extend trust to attached Cisco phone
auto qos voip cisco-phone
# Configure port as an edge network port
spanning-tree portfast
spanning-tree bpduguard enable@
```



## 関連コマンド

[macro apply cisco-desktop](#)  
[macro apply cisco-router](#)  
[macro apply cisco-switch](#)

## macro apply cisco-router

スイッチポートをルータへ接続するのに適したシスコ推奨機能および設定値をイネーブルにするには、**macro apply cisco-router** コマンドを使用します。

```
macro apply cisco-router $NVID native_vlanid
```

## シンタックスの説明

<b>\$NVID</b> <i>native_vlanid</i>	ネイティブ VLAN (仮想 LAN) ID を指定します。
------------------------------------	--------------------------------

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーションモード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、表示および適用のみが可能で、変更はできません。

インターフェイスの既存の設定が目的とするマクロ設定と競合しないように確認してください。**macro apply cisco-router** コマンドを適用する前に、**default interface** コマンドを使用してインターフェイスの設定をクリアします。

## 例

次に、ポート FastEthernet 2/1 でシスコ推奨機能および設定値をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# interface FastEthernet2/1  
Switch(config-if)# macro apply cisco-router $NVID 80  
Switch(config-if)#
```

このマクロの内容は、次のとおりです。

```
# Access Uplink to Distribution
switchport trunk encapsulation dot1q
# Define unique Native VLAN on trunk ports
# Recommended value for native vlan (NVID) should not be 1
switchport trunk native vlan $NVID [native_vlan_id]
# Update the allowed VLAN range (VRANGE) such that it
# includes data, voice and native VLANs
# switchport trunk allowed vlan $VRANGE [vlan_range]
# Hardcode trunk and disable negotiation to
# speed up convergence
# Hardcode speed and duplex to router
switchport mode trunk
switchport nonegotiate
speed 100
duplex full
# Configure qos to trust this interface
auto qos voip trust
qos trust dscp
# Ensure fast access to the network when enabling the interface.
# Ensure that switch devices cannot become active on the interface.
spanning-tree portfast
spanning-tree bpduguard enable
```

#### 関連コマンド

[macro apply cisco-desktop](#)

[macro apply cisco-phone](#)

[macro apply cisco-switch](#)

# macro apply cisco-switch

スイッチ ポートを別のスイッチへ接続するのに適したシスコ推奨機能および設定値をイネーブルにするには、**macro apply cisco-switch** コマンドを使用します。

**macro apply cisco-switch \$NVID native\_vlanid**

シンタックスの説明	<b>\$NVID native_vlanid</b>	ネイティブ VLAN (仮想 LAN) ID を指定します。
-----------	-----------------------------	--------------------------------

デフォルト	このコマンドにデフォルト設定はありません。
-------	-----------------------

コマンドモード	インターフェイス コンフィギュレーション モード
---------	--------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、表示および適用のみが可能で、変更はできません。

インターフェイスの既存の設定が目的とするマクロ設定と競合しないように確認してください。このマクロを適用する前に、**default interface** コマンドを使用してインターフェイスの設定をクリアします。

**例** 次に、ポート FastEthernet 2/1 でシスコ推奨機能および設定値をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# interface FastEthernet2/1
Switch(config-if)# macro apply cisco-switch $NVID 45
Switch(config-if)#
```

このマクロの内容は、次のとおりです。

```
# Access Uplink to Distribution
switchport trunk encapsulation dot1q
# Define unique Native VLAN on trunk ports
# Recommended value for native vlan (NVID) should not be 1
switchport trunk native vlan $NVID [native_vlan_id]
# Update the allowed VLAN range (VRANGE) such that it
# includes data, voice and native VLANs
# switchport trunk allowed vlan $VRANGE
# Hardcode trunk and disable negotiation to
# speed up convergence
switchport mode trunk
switchport nonegotiate
# Configure qos to trust this interface
auto qos voip trust
# 802.1w defines the link as pt-pt for rapid convergence
spanning-tree link-type point-to-point
```

関連コマンド	<a href="#">macro apply cisco-desktop</a> <a href="#">macro apply cisco-phone</a> <a href="#">macro apply cisco-router</a>
--------	--

# macro global apply cisco-global

システム定義のデフォルト テンプレートをスイッチに適用するには、スイッチ スタックまたはスタンドアロン スイッチに対して **macro global apply cisco-global** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

**macro global apply cisco-global**

**シンタックスの説明** このコマンドには、キーワードまたは変数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、システム定義のデフォルトをスイッチに適用する例を示します。

```
Switch(config)#macro global apply cisco-global
Changing VTP domain name from gsg-vtp to [smartports] Device mode already VTP
TRANSPARENT.
Switch(config)#
```

# macro global apply system-cpp

コントロールプレーンのポリシング デフォルト テンプレートをスイッチに適用するには、スイッチ スタックまたはスタンドアロン スイッチに対して **macro global apply system-cpp** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

**macro global apply system-cpp**

**シンタックスの説明** このコマンドには、キーワードまたは変数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

**例** 次に、システム定義のデフォルトをスイッチに適用する例を示します。

```
Switch (config)# macro global apply system-cpp
Switch (config)#
```

**関連コマンド** [macro global apply cisco-global](#)  
[macro global description](#)

# macro global description

スイッチに適用するマクロについての説明を入力するには、スイッチ スタックまたはスタンドアロンスイッチに対して **macro global description** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**macro global description** *text*

**no macro global description** *text*

## シンタックスの説明

**description** *text*      スイッチに適用するマクロについての説明を入力します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

コメント テキストまたはマクロ名をスイッチに関連付けるには、**description** キーワードを使用します。1 つのスイッチに複数のマクロを適用する場合は、このコメント テキストは最後に適用したマクロの説明となります。

次に、スイッチに説明を追加する例を示します。

```
Switch(config)# macro global description udlld aggressive mode enabled
```

**show parser macro description** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定内容を確認できます。

## 関連コマンド

[macro global apply cisco-global](#)

# main-cpu

メイン CPU サブモードを開始し、2 つのスーパーバイザ エンジン上の設定を手動で同期するには、**main-cpu** コマンドを使用します。

**main-cpu**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 冗長

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。 (Catalyst 4507R のみ)。

**使用上のガイドライン** メイン CPU サブモードは、2 つのスーパーバイザ エンジン上の設定を手動で同期するのに用いられます。

**auto-sync** コマンドは、メイン CPU サブモードから NVRAM（不揮発性 RAM）内のコンフィギュレーションファイルの自動同期をイネーブルにします。



**(注)** メイン CPU サブモードを開始したあとで、**auto-sync** コマンドを使用して、プライマリ コンフィギュレーションに基づきプライマリおよびセカンダリのルート プロセッサの設定を自動的に同期化できます。さらに、メイン CPU に適用可能な冗長コマンドのすべてを使用できます。

**例** 次に、**auto-sync standard** コマンドを使用してデフォルトの自動同期化機能をイネーブルに戻して、アクティブ スーパーバイザ エンジンの **startup-config** および **config-register** コンフィギュレーションをスタンバイ スーパーバイザ エンジンと同期させる例を示します。ブート変数の更新は自動的に行われるため、ディセーブルにできません。

```
Switch(config)# redundancy
Switch(config-red)# main-cpu
Switch(config-r-mc)# auto-sync standard
Switch(config-r-mc)# end
Switch# copy running-config startup-config
Switch#
```

**関連コマンド** [auto-sync](#)

# match

VLAN (仮想 LAN) アクセス マップ シーケンスの 1 つまたは複数の Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) を選択することにより、**match** 節を指定するには、**match** サブコマンドを使用します。**match** 節を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match {ip address {acl-number | acl-name}} | {mac address acl-name}
```

```
no match {ip address {acl-number | acl-name}} | {mac address acl-name}
```



(注)

**match** 節が指定されていない場合は、VLAN アクセス マップ シーケンスのアクションがすべてのパケットに適用されます。すべてのパケットが、アクセス マップのシーケンスとマッチングされます。

## シンタックスの説明

<b>ip address</b> <i>acl-number</i>	VLAN アクセス マップ シーケンスの IP ACL を 1 つまたは複数選択します。有効値は 1 ~ 199 および 1,300 ~ 2,699 です。
<b>ip address</b> <i>acl-name</i>	名前ごとに IP ACL を選択します。
<b>mac address</b> <i>acl-name</i>	VLAN アクセス マップ シーケンスの MAC (メディア アクセス制御) ACL を 1 つまたは複数選択します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

VLAN アクセス マップ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

**match** 節は、トラフィック フィルタリングの IP または MAC ACL を指定します。

IP パケットの場合、MAC シーケンスは有効ではありません。IP パケットは IP **match** 節によってアクセス制御が行われます。

設定に関する注意事項および制限については、『*Catalyst 4500 Series Switch Cisco IOS Software Configuration Guide*』を参照してください。

**match** 節情報の詳細については、『*Cisco IOS Command Reference*』のマニュアルを参照してください。

## 例

次に、VLAN アクセス マップの **match** 節を定義する例を示します。

```
Switch(config)# vlan access-map ganymede 10
Switch(config-access-map)# match ip address 13
Switch(config-access-map)#
```

## 関連コマンド

[show vlan access-map](#)  
[vlan access-map](#)



## match (クラスマップ コンフィギュレーション)

クラス マップの一致基準を定義するには、**match** クラスマップ コンフィギュレーション コマンドを使用します。一致基準を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### Supervisor Engine 6-E 以外

```
match {access-group acl-index-or-name | cos cos-list | [lp] dscp dscp-list | [lp] precedence
      ip-precedence-list
```

```
no match {access-group acl-index-or-name | cos cos-list | [lp] dscp dscp-list | [lp] precedence
          ip-precedence-list
```

### Supervisor Engine 6-E

```
match {access-group acl-index-or-name | cos cos-list | [lp] dscp dscp-list | [lp] precedence
      ip-precedence-list | qos-group value | protocol
```

```
no match {access-group acl-index-or-name | cos cos-list | [lp] dscp dscp-list | [lp] precedence
          ip-precedence-list | qos-group value | protocol
```

### シンタックスの説明

<b>access-group</b> <i>acl-index-or-name</i>	IP 標準または拡張 Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) あるいは MAC ACL の番号や名前です。IP 標準 ACL の場合、ACL インデックス範囲は 1 ~ 99 と 1300 ~ 1999 です。IP 拡張 ACL の場合、ACL インデックス範囲は 100 ~ 199 と 2000 ~ 2699 です。
<b>cos</b> <i>cos-list</i>	パケットに対して一致する、最大で 4 つのレイヤ 2 Class of Service (Cos; サービス クラス) 値のリスト。各値はスペースで区切られています。範囲は 0 ~ 7 です。
<b>[lp] dscp</b> <i>dscp-list</i>	(任意) IP キーワード。一致は IPv4 パケットに対するもののみであることを指定します。使用されていない場合、一致は IPv4 と IPv6 パケットの両方に対するものです。  パケットに対して一致する最大 8 個の IP Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServ コード ポイント) 値の一覧。各値はスペースで区切られています。範囲は 0 ~ 63 です。よく使用する値に対してニーマニック名を入力することも可能です。
<b>[lp] precedence</b> <i>ip-precedence-list</i>	(任意) IP キーワード。一致は IPv4 パケットに対するもののみであることを指定します。使用されていない場合、一致は IPv4 と IPv6 パケットの両方に対するものです。  パケットに対して一致する最大 8 の IP-precedence 値の一覧。各値はスペースで区切られています。範囲は 0 ~ 7 です。よく使用する値に対してニーマニック名を入力することも可能です。
<b>qos-group</b> <i>value</i>	入力 QoS 分類のパケットに割り当てられた、内部的に生成された qos-group 値を指定します。
<b>protocol</b>	イーサネット ヘッダーにプロトコル タイプ フィールドを指定します。この一致基準は、Supervisor Engine 6-E でのみサポートされています。コマンドライン ヘルプ ストリングで表示されていますが、サポートされているプロトコル タイプは IPv4 と IPv6 のみです。

### デフォルト

一致基準は定義されていません。

### コマンドモード

クラスマップ コンフィギュレーション

## ■ match (クラスマップコンフィギュレーション)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(40)SG	Supervisor Engine 6-E のサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**match** コマンドを入力する前に、まず **class-map** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力して、一致基準を設定するクラス名を指定します。**match** コマンドは、パケットの分類で検査されるパケット内のフィールドを指定するのに使用されます。パケットが指定の基準と一致すると、パケットはクラスのメンバーとしてみなされ、トラフィック ポリシーに設定されている QoS (Quality of Service) 仕様に従って転送されます。

**match ip dscp dscp-list** または **match ip precedence ip-precedence-list** コマンドの場合、よく使用する値のニーモニック名を入力することができます。たとえば、**match ip dscp af11** コマンドを入力することができます。これは、**match ip dscp 10** コマンドを入力するのと同じです。**match ip precedence critical** コマンドを入力することができます。これは、**match ip precedence 5** コマンドを入力するのと同じです。サポートされているニーモニック一覧の場合、**match ip dscp ?** または **match ip precedence ?** コマンドを入力して、コマンドラインヘルプ スtringを確認します。

IPv6 パケットのみを一致させるには、**match protocol ipv6** コマンドを使用しなければいけません。IPv4 パケットのみを一致させるには、**ip** プレフィクスまたはプロトコル **ip** キーワードのいずれかを使用することができます。

**match cos cos-list**、**match ip dscp dscp-list**、**match ip precedence ip-precedence-list** コマンドをポリシー マップ内のクラス マップに設定することができます。

**match cos cos-list** コマンドは、VLAN タグを搬送するイーサネット フレームにのみ適用されます。

**match qos-group** コマンドは、パケットに割り当てられた特定の QoS グループ値を識別するためにクラス マップによって使用されます。QoS グループ値は、スイッチ ローカルのもので、入力 QoS 分類でパケットと関連しています。

どの一致基準にも一致しないパケットは、デフォルトのトラフィック クラスのメンバーとして分類されます。これは、**class-default** を **class policy-map** コンフィギュレーション コマンドのクラス名として指定することで設定されます。詳細については、「[class](#)」(p.2-23)を参照してください。

## 例

次に、**class2** と呼ばれるクラス マップを作成する例を示します。これは、DSCP 値 10、11、12 のある全てのインバウンドトラフィックと一致します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# class-map class2
Switch(config-cmap)# match ip dscp 10 11 12
Switch(config-cmap)# exit
Switch#
```

次に、**class3** と呼ばれるクラス マップを作成する例を示します。これは、IPv4 および IPv6 トラフィックの IP-precedence 値 5、6、7 のある全てのインバウンドトラフィックと一致します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# class-map class3
Switch(config-cmap)# match ip precedence 5 6 7
Switch(config-cmap)# exit
Switch#
```

次に、IP-precedence 一致基準を削除し、*acl1* を使用してトラフィックを分類する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# class-map class2
Switch(config-cmap)# match ip precedence 5 6 7
Switch(config-cmap)# no match ip precedence
Switch(config-cmap)# match access-group acl1
Switch(config-cmap)# exit
Switch#
```

次に、Supervisor Engine 6-E の IPv6 トラフィックのみに適用されるクラスマップを指定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# class-map match all ipv6 only
Switch(config-cmap)# match dscp af21
Switch(config-cmap)# match protocol ipv6
Switch(config-cmap)# exit
Switch#
```

**show class-map** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

#### 関連コマンド

[class-map](#)  
[show class-map](#)

# match flow ip

一意の送信元アドレスまたは宛先アドレスを持つフローを、新規フローとして処理するように一致基準を指定するには、**match flow ip** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match flow ip {source-address [ip destination-address ip protocol L4 source-address L4
destination-address] | destination-address}
```

```
no match flow ip {source-address [ip destination-address ip protocol L4 source-address L4
destination-address] | destination-address}
```

## シンタックスの説明

<b>source-address</b>	一意の IP 送信元アドレスのあるフローから新しいフローを生成します。
<b>ip destination-address ip protocol L4 source-address L4 destination-address</b>	完全なフロー キーワードで構成されます。一意の IP 送信元および宛先アドレス、プロトコル、レイヤ 4 の送信元および宛先アドレスを持つ各フローを、新規フローとして扱います。
<b>destination-address</b>	一意の IP 宛先アドレスのあるフローから新しいフローを生成します。

## デフォルト

なし

## コマンドモード

クラスマップ コンフィギュレーション サブモード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(25)SG	完全フロー オプションのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**source-address** キーワードを指定すると、一意の送信元アドレスのある各フローは新規フローとして処理されます。

**destination-address** キーワードを指定すると、一意の宛先アドレスのある各フローは新規フローとして処理されます。

使用するクラス マップ上の **flow** キーワードを設定する場合、ポリシー マップはフローベースのポリシー マップといえます。フローベースのポリシー マップを子として集約ポリシー マップに対応付けるには、**service-policy** コマンドを使用します。



(注)

**match flow** コマンドは、Supervisor Engine VI (WS-X4516-10GE) が存在する場合にのみ、Catalyst 4500 シリーズ スイッチで利用できます。

例 次に、送信元アドレスに関連付けたフローベースのクラス マップを作成する例を示します。

```
Switch(config)# class-map match-all c1
Switch(config-cmap)# match flow ip source-address
Switch(config-cmap)# end
Switch#
Switch# show class-map c1
Class Map match-all c1 (id 2)
  Match flow ip source-address
Switch#
```

次に、宛先アドレスに関連付けたフローベースのクラス マップを作成する例を示します。

```
Switch(config)# class-map match-all c1
Switch(config-cmap)# match flow ip destination-address
Switch(config-cmap)# end
Switch#

Switch# show class-map c1
Class Map match-all c1 (id 2)
  Match flow ip destination-address
Switch#
```

インターフェイス fastethernet 6/1 上で、送信元アドレス 192.168.10.20 および 192.168.10.21 を持つアクティブなフローが 2 つ存在すると想定します。次の例では、それぞれのフローを、1 Mbps に維持し、9,000 バイトのバースト値を許可する方法を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# class-map c1
Switch(config-cmap)# match flow ip source-address
Switch(config-cmap)# exit
Switch(config)# policy-map p1
Switch(config-pmap)# class c1
Switch(config-pmap-c)# police 1000000 9000
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# exit
Switch(config)# interface fastethernet6/1
Switch(config-if)# service-policy input p1
Switch(config-if)# end
Switch# write memory

Switch# show policy-map interface
FastEthernet6/1

Service-policy input: p1

Class-map: c1 (match-all)
  15432182 packets
  Match: flow ip source-address
  police: Per-interface
    Conform: 64995654 bytes Exceed: 2376965424 bytes

Class-map: class-default (match-any)
  0 packets
  Match: any
    0 packets
Switch#
```

インターフェイス fastethernet6/1 上で、宛先アドレス 192.168.20.20 および 192.168.20.21 を持つアクティブなフローが 2 つ存在すると想定します。次の例では、それぞれのフローを、1 Mbps に維持し、9,000 バイトのバースト値を許可する方法を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# class-map c1
Switch(config-cmap)# match flow ip destination-address
Switch(config-cmap)# exit
Switch(config)# policy-map p1
Switch(config-pmap)# class c1
Switch(config-pmap-c)# police 1000000 9000
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# exit
Switch(config)# interface fastethernet6/1
Switch(config-if)# service-policy input p1
Switch(config-if)# end
Switch# write memory

Switch# show policy-map interface
FastEthernet6/1

Service-policy input: p1

Class-map: c1 (match-all)
  2965072 packets
  Match: flow ip destination-address
  police: Per-interface
    Conform: 6105636 bytes Exceed: 476652528 bytes

Class-map: class-default (match-any)
  0 packets
  Match: any
    0 packets
Switch#
```

インターフェイス fastethernet 6/1 上で、次のようなアクティブなフローが 2 つ存在すると想定します。

SrcIp	DstIp	IpProt	SrcL4Port	DstL4Port
192.168.10.10	192.168.20.20	20	6789	81
192.168.10.10	192.168.20.20	20	6789	21

以下の設定では、各フローは 1,000,000 bps、および 9,000 バイトの許可バースト値としてポリシングされます。



**(注)** match flow ip source-address|destination-address コマンドを使用すると、この 2 つのフローは送信元アドレスおよび宛先アドレスが同一であるため、1 つのフローとして統合されます。

```
Switch# conf terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# class-map c1
Switch(config-cmap)# match flow ip source-address ip destination-address ip protocol
14 source-port 14 destination-port
Switch(config-cmap)# exit
Switch(config)# policy-map p1
Switch(config-pmap)# class c1
Switch(config-pmap-c)# police 1000000 9000
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# exit
Switch(config)# interface fastEthernet 6/1
Switch(config-if)# service-policy input p1
Switch(config-if)# end
Switch# write memory
Switch# show policy-map interface
FastEthernet6/1

class-map c1
  match flow ip source-address ip destination-address ip protocol 14 source-port 14
  destination-port
!
  policy-map p1
    class c1
      police 1000000 bps 9000 byte conform-action transmit exceed-action drop
!
interface FastEthernet 6/1
  service-policy input p1

Switch# show class-map c1
Class Map match-all c1 (id 2)
  Match flow ip source-address ip destination-address ip protocol 14 source-port 14
  destination-port

Switch# show policy-map p1
Policy Map p1
Class c1
  police 1000000 bps 9000 byte conform-action transmit exceed-action drop

Switch# show policy-map interface
FastEthernet6/1

  Service-policy input: p1

    Class-map: c1 (match-all)
      15432182 packets
      Match: flow ip source-address ip destination-address ip protocol 14 source-port
      14 destination-port
      police: Per-interface
        Conform: 64995654 bytes Exceed: 2376965424 bytes

    Class-map: class-default (match-any)
      0 packets
      Match: any
        0 packets
Switch#
```

**関連コマンド**

[service-policy \(インターフェイス コンフィギュレーション\)](#)  
[show class-map](#)  
[show policy-map](#)  
[show policy-map interfaces](#) (Cisco IOS のマニュアルを参照)

# mdix auto

Automatic Medium-Dependent Interface Crossover (Auto-MDIX) 機能をインターフェイス上でイネーブルにするには、**mdix auto** コマンドを使用します。Auto-MDIX をイネーブルにすると、インターフェイスは必要なケーブル接続タイプ (ストレートまたはクロス) を自動検出し、接続を適切に設定します。Auto-MDIX をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mdix auto**

**no mdix auto**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** Auto-MDIX はイネーブルです。

**コマンド モード** インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに初めて導入されました。

**使用上のガイドライン** Auto-MDIX 設定を銅メディア ポートでサポートしているラインカードは、WS-X4124-RJ45、WS-X4148-RJ (ハードウェア リビジョン 3.0 以上)、および WS-X4232-GB-RJ (ハードウェア リビジョン 3.0 以上) です。

ポートの自動ネゴシエーションがイネーブルになっているときに Auto-MDIX をデフォルトでサポートし、mdix CLI コマンドを使用してもオフにできないラインカードは、WS-X4448-GB-RJ45 および WS-X4548-GB-RJ45 です。

デフォルトでも、CLI コマンドを使用しても、Auto-MDIX 機能をサポートできないラインカードは、WS-X4548-GB-RJ45V、WS-X4524-GB-RJ45V、および WS-X4506-GB-T です。

インターフェイス上で Auto-MDIX をイネーブルにする場合は、この機能が正しく動作するように、このインターフェイス速度が自動ネゴシエーションされるように設定する必要があります。

いずれかまたは両方の接続インターフェイスで Auto-MDIX (および速度の自動ネゴシエーション) をイネーブルにすると、ケーブル タイプ (ストレートまたはクロス) が不適切であってもリンクアップが行われます。

**例** 次に、ポートで Auto-MDIX をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface FastEthernet6/3
Switch(config-if)# speed auto
Switch(config-if)# mdix auto
Switch(config-if)# end
```

**関連コマンド**

- [speed](#)
- [show interfaces](#)
- [show interfaces capabilities](#)
- [show interfaces status](#)



# media-type

デュアルモード対応のポート用のコネクタを選択するには、**media-type** コマンドを使用します。

```
media-type {rj45 | sfp}
```

シンタックスの説明	<b>rj45</b>	RJ-45 コネクタを使用します。
	<b>sfp</b>	SFP コネクタを使用します。

デフォルト **sfp**

コマンドモード インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(20)EWA	このコマンドのサポートが WS-X4306-GB-T モジュールおよび WS-X4948 シャーシで導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、WS-X4306-GB-T モジュール上のすべてのポートおよび WS-X4948 シャーシ上の 1/45 ~ 48 ポートでサポートされます。

**show interface capabilities** コマンドを入力すると、Multiple Media Type フィールドが表示されます。このフィールドには、ポートがデュアルモード対応でない場合は **no** の値が表示され、ポートがデュアルモード対応の場合は、メディアタイプ (**sfp** および **rj45**) が表示されます。

**例** 次に、WS-X4948 シャーシ上のポート 5/45 が RJ-45 コネクタを使用するように設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet 5/45
Switch(config-if)# media-type rj45
```

# mode

冗長モードを設定するには、**mode** コマンドを使用します。

```
mode {rpr | sso}
```

## シンタックスの説明

<b>rpr</b>	RPR モードを指定します。
<b>sso</b>	SSO モードを指定します。

## デフォルト

Supervisor Engine II+、Supervisor Engine IV、および Supervisor Engine V が搭載された Catalyst 4500 シリーズ スイッチのデフォルト設定は、次のとおりです。

- スーパーバイザ エンジンが Cisco IOS Release 12.2(20)EWA を使用している場合は、SSO です。
- スーパーバイザ エンジンが Cisco IOS Release 12.2(12c)EW ~ Release 12.2(18)EW、および Release 12.1(xx)E を使用している場合は、RPR です。



(注) 現在のスーパーバイザ エンジンで Release 12.2(18)EW または以前のリリースから Release 12.2(20)EWA にアップグレードし、RPR モードがスタートアップ コンフィギュレーションに保存された場合、両方のスーパーバイザ エンジンはソフトウェアのアップグレード後も継続して RPR モードで動作します。SSO モードを使用するには、手動で冗長モードを SSO モードに変更する必要があります。

## コマンドモード

冗長コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(20)EWA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

RPR モードおよび SSO モードは、Supervisor Engine 2 を搭載した Catalyst 4500 シリーズ スイッチではサポートされません。

冗長コンフィギュレーションモードでのみ、**mode** コマンドを入力できます。

システムを RPR モードまたは SSO モードに設定する場合は、次の注意事項に従ってください。

- RPR モードおよび SSO モードをサポートするには、使用する Cisco IOS イメージおよびスーパーバイザ エンジンが同じである必要があります。Cisco IOS リリースとスーパーバイザ エンジンの機能が異なる場合、冗長性が作用しない場合があります。
- スイッチオーバー時にオンライン状態でないモジュールはいずれもリセットされ、スイッチオーバー時にリロードされます。
- ステートフル スイッチオーバーまでの 60 秒間に、モジュールの Online Insertion and Removal (OIR; ホットスワップ) が実行された場合、モジュールはステートフル スイッチオーバー中にリセットし、ポート ステートが再開されます。
- スイッチオーバーが発生すると、Forwarding Information Base (FIB; 転送情報ベース) テーブルはクリアされます。ルーテッド トラフィックは、ルート テーブルが再コンバージェンスするまで中断されます。

冗長スーパーバイザ エンジンはモードが変更されると必ずリロードを行い、現在のモードで動作を開始します。

例 次に、冗長モードを SSO に設定する例を示します。

```
Switch(config)# redundancy
Switch(config-red)# mode sso
Switch(config-red)#
```

#### 関連コマンド

[redundancy](#)  
[redundancy force-switchover](#)  
[show redundancy](#)  
[show running-config](#)

## monitor session

インターフェイスまたは VLAN（仮想 LAN）上で Switched Port Analyzer（SPAN; スイッチドポートアナライザ）セッションをイネーブルにするには、**monitor session** コマンドを使用します。SPAN セッションから 1 つまたは複数の送信元または宛先インターフェイスを削除したり、SPAN セッションから送信元 VLAN を削除したりするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
monitor session session {destination interface {FastEthernet interface-number | GigabitEthernet interface-number} [encapsulation {isl | dot1q}] [ingress [vlan vlan_id] [learning]]} | {remote vlan vlan_id} | {source {interface {FastEthernet interface-number | GigabitEthernet interface-number | Port-channel interface-number}} | [vlan vlan_id] | {remote vlan vlan_id} | {cpu [queue queue_id] | acl {input {error {rx} | log {rx} | punt {rx} | rx}} | output {error {rx} | forward {rx} | log {rx} | punt {rx} | rx} | adj-same-if {rx} | all {rx} | bridged {1 {rx} | 2 {rx} | 3 {rx} | 4 {rx} | rx} | control-packet {rx} | mtu-exceeded {rx} | routed {forward {1 {rx} | 2 {rx} | 3 {rx} | 4 {rx} | rx} | received {1 {rx} | 2 {rx} | 3 {rx} | 4 {rx} | rx} | rx} | rpf-failure {rx} | unknown-sa {rx}}}} | [, | - | rx | tx | both]} | {filter {ip access-group [name | id]} {vlan vlan_id [, | -]} | {packet-type {good | bad}} | {address-type {unicast | multicast | broadcast} [rx | tx | both]}}
```

```
no monitor session session {destination interface {FastEthernet interface-number | GigabitEthernet interface-number} [encapsulation {isl | dot1q}] [ingress [vlan vlan_id] [learning]]} | {remote vlan vlan_id} | {source {interface {FastEthernet interface-number | GigabitEthernet interface-number | Port-channel interface-number}} | [vlan vlan_id] | {remote vlan vlan_id} | {cpu [queue queue_id] | acl {input {error {rx} | log {rx} | punt {rx} | rx}} | output {error {rx} | forward {rx} | log {rx} | punt {rx} | rx} | adj-same-if {rx} | all {rx} | bridged {1 {rx} | 2 {rx} | 3 {rx} | 4 {rx} | rx} | control-packet {rx} | mtu-exceeded {rx} | routed {forward {1 {rx} | 2 {rx} | 3 {rx} | 4 {rx} | rx} | received {1 {rx} | 2 {rx} | 3 {rx} | 4 {rx} | rx} | rx} | rpf-failure {rx} | unknown-sa {rx}}}} | [, | - | rx | tx | both]} | {filter {ip access-group [name | id]} {vlan vlan_id [, | -]} | {packet-type {good | bad}} | {address-type {unicast | multicast | broadcast} [rx | tx | both]}}
```

Supervisor Engine 6-E

```
monitor session session {destination interface {FastEthernet interface-number | GigabitEthernet interface-number} [encapsulation {isl | dot1q}] [ingress [vlan vlan_id] [learning]]} | {remote vlan vlan_id} | {source {interface {FastEthernet interface-number | GigabitEthernet interface-number | Port-channel interface-number}} | [vlan vlan_id] | {remote vlan vlan_id} | {cpu [queue queue_id] | acl {input {copy {rx} | error {rx} | forward {rx} | punt {rx} | rx}} | output {copy {rx} | error {rx} | forward {rx} | punt {rx} | rx} | all {rx} | control-packet {rx} | esmp {rx} | l2-forward {adj-same-if {rx} | bridge-cpu {rx} | ip-option {rx} | ipv6-scope-check-fail {rx} | l2-src-index-check-fail {rx} | mcast-rpf-fail {rx} | non-arpa {rx} | router-cpu {rx} | ttl-expired {rx} | ucast-rpf-fail {rx} | rx} | l3-forward {forward {rx} | glean {rx} | receive {rx} | rx}}
```

```
mtu-exceeded {rx} | unknown-port-vlan-mapping {rx} | unknown-sa {rx}} [,|-|rx|tx|both]]
| {filter {ip access-group [name | id]} {vlan vlan_id [,|-]} | {packet-type {good | bad}} |
{address-type {unicast | multicast | broadcast} [rx | tx | both]}}
```

```
no monitor session session {destination interface {FastEthernet interface-number | GigabitEthernet
interface-number} [encapsulation {isl | dot1q}] [ingress [vlan vlan_id] [learning]]} | {remote vlan
vlan_id} | {source {cpu {both | queue | rx | tx} | interface {FastEthernet interface-number |
GigabitEthernet interface-number | Port-channel interface-number}} | [vlan vlan_id] | {remote
vlan vlan_id} | {cpu [queue queue_id | acl {input {copy {rx} | error {rx} | forward {rx} | punt
{rx} | rx} } | output {copy {rx} | error {rx} | forward {rx} | punt {rx} | rx} | all {rx} |
control-packet {rx} | esmp {rx} | l2-forward {adj-same-if {rx} | bridge-cpu {rx} | ip-option {rx}
| ipv6-scope-check-fail {rx} | l2-src-index-check-fail {rx} | mcast-rpf-fail {rx} | non-arpa {rx} |
router-cpu {rx} | ttl-expired {rx} | ucast-rpf-fail {rx} | rx} | l3-forward {forward {rx} | glean
{rx} | receive {rx} | rx} mtu-exceeded {rx} | unknown-port-vlan-mapping {rx} | unknown-sa
{rx}} [,|-|rx|tx|both]] | {filter {ip access-group [name | id]} {vlan vlan_id [,|-]} |
{packet-type {good | bad}} | {address-type {unicast | multicast | broadcast} [rx | tx | both]}}
```

## シンタックスの説明

<i>session</i>	SPAN セッションの番号です。有効値は 1 ～ 6 です。
<b>destination</b>	SPAN 宛先を指定します。
<b>interface</b>	インターフェイスを指定します。
<b>FastEthernet <i>interface-number</i></b>	ファストイーサネットのモジュールおよびポート番号を指定します。有効値は 1 ～ 6 です。
<b>GigabitEthernet <i>interface-number</i></b>	ギガビットイーサネットのモジュールおよびポート番号を指定します。有効値は 1 ～ 6 です。
<b>encapsulation</b>	(任意) 宛先ポートのカプセル化タイプを指定します。
<b>isl</b>	(任意) ISL (スイッチ間リンク) カプセル化を指定します。
<b>dot1q</b>	(任意) dot1q カプセル化を指定します。
<b>ingress</b>	(任意) 入力オプションがイネーブルであるかどうかを示します。
<b>vlan <i>vlan_id</i></b>	(任意) VLAN を指定します。有効値は 1 ～ 4,094 です。
<b>learning</b>	(任意) 入力対応宛先ポート上でホストラーニングをイネーブルにします。
<b>remote vlan <i>vlan_id</i></b>	スイッチの Remote SPAN (RSPAN) 送信元または宛先セッションを指定します。
<b>source</b>	SPAN 送信元を指定します。
<b>Port-channel <i>interface-number</i></b>	ポートチャネルインターフェイスを指定します。有効値は 1 ～ 64 です。
<b>cpu</b>	CPU から送受信されたトラフィックをセッションの宛先にコピーします。
<b>queue <i>queue_id</i></b>	(任意) 特定の CPU サブキューで受信されたトラフィックのみをセッションの宛先にコピーするように指定します。有効値は 1 ～ 64 です。また、all、control-packet、esmp、mtu-exceeded、unknown-port-vlan-mapping、unknown-sa、acl input、acl input copy、acl input error、acl input forward、acl input punt、acl output、acl output copy、acl output error、acl output forward、acl output punt、l2-forward、adj-same-if、bridge-cpu、ip-option、ipv6-scope-check-fail、l2-src-index-check-fail、mcast-rpf-fail、non-arpa、router-cpu、ttl-expired、ucast-rpf-fail、l3-forward、forward、glean、receive の名前を使用して指定することもできます。

<b>acl</b>	(任意) 入力および出力 ACL を指定します。有効値は 14 ~ 20 です。
<b>input</b>	入力 ACL を指定します。有効値は 14 ~ 16 です。
<b>error</b>	ACL ソフトウェア エラーを指定します。
<b>log/copy</b>	ACL ロギングの packets を指定します。
<b>punt</b>	オーバーフローによってパントされる packets を指定します。
<b>rx</b>	受信トラフィックのモニタのみを指定します。
<b>output</b>	出力 ACL を指定します。有効値は 17 ~ 20 です。
<b>l2-forward</b>	(任意) レイヤ 2 または レイヤ 3 例外 packets
<b>bridge-cpu</b>	CPU にブリッジングされる packets を指定します。
<b>ip-option</b>	IP オプションで packets を指定します。
<b>ipv6-scope-check-fail</b>	スコープチェック障害の IPv6 packets を指定します。
<b>l2-src-index-check-fail</b>	ミスマッチの SRC MAC および SRC IP アドレスの IP packets を指定します。
<b>mcast-rpf-fail</b>	IPv4/IPv6 マルチキャスト RPF 障害を指定します。
<b>non-arpa</b>	非 ARPA カプセル化の packets を指定します。
<b>router-cpu</b>	ソフトウェアでルーティングされた packets を指定します。
<b>ttl-expired</b>	IPv6 ルーテッド packets 超過 TTL を指定します。
<b>adj-same-if</b>	着信インターフェイスにルーティングされた packets を指定します。
<b>bridged</b>	レイヤ 2 ブリッジド packets を指定します。
<b>1</b>	最高優先度の packets を指定します。
<b>2</b>	高優先度の packets を指定します。
<b>3</b>	中優先度の packets を指定します。
<b>4</b>	低優先度の packets を指定します。
<b>ucast-rpf-fail</b>	IPv4/IPv6 ユニキャスト RPF 障害を指定します。
<b>all</b>	(任意) 全てのキュー
<b>l3-forward</b>	(任意) レイヤ 3 packets
<b>forward</b>	特別なレイヤ 3 転送トンネルカプセル化を指定します。
<b>glean</b>	特別なレイヤ 3 転送グリーンングを指定します。
<b>receive</b>	ポートにアドレス指定された packets を指定します。
<b>control-packet</b>	(任意) レイヤ 2 制御 packets
<b>esmp</b>	(任意) ESMP packets
<b>mtu-exceeded</b>	(任意) 超過出力レイヤ 3 インターフェイス MTU
<b>routed</b>	レイヤ 3 ルーテッド packets を指定します。
<b>received</b>	ポートにアドレス指定された packets を指定します。
<b>rpf-failure</b>	マルチキャスト RPF 失敗 packets を指定します。
<b>unknown-port-vlan-mapping</b>	(任意) ポート VLAN マッピングが不足している packets
<b>unknown-sa</b>	(任意) 送信元 IIP アドレスが不足している packets
<b>,</b>	(任意) SPAN VLAN の別の範囲を指定する記号です。有効値は 1 ~ 4094 です。
<b>-</b>	(任意) SPAN VLAN の範囲を指定する記号です。
<b>both</b>	(任意) 受信および送信トラフィックをモニタおよびフィルタリングします。
<b>rx</b>	(任意) 受信トラフィックだけをモニタおよびフィルタリングします。

<b>tx</b>	(任意) 送信トラフィックだけをモニタおよびフィルタリングします。
<b>filter</b>	SPAN 送信元トラフィックを特定の VLAN に限定します。
<b>ip access-group</b>	(任意) IP アクセス グループのフィルタリングを名前または番号で指定します。
<b>name</b>	(任意) IP アクセス リスト名を指定します。
<b>id</b>	(任意) IP アクセス リスト番号を指定します。IP アクセス リストの有効値は 1 ~ 199 です。IP 拡張アクセス リストの有効値は 1,300 ~ 2,699 です。
<b>vlan <i>vlan_id</i></b>	(任意) フィルタリングする VLAN を指定します。番号は、1 つの値または範囲として入力できます。有効値は 1 ~ 4,094 です。
<b>packet-type</b>	SPAN 送信元トラフィックを特定の packets タイプに限定します。
<b>good</b>	良好な packets タイプを指定します。
<b>bad</b>	不良な packets タイプを指定します。
<b>address-type unicast   multicast   broadcast</b>	SPAN 送信元トラフィックを特定のアドレス タイプの packets に限定します。有効なタイプはユニキャスト、マルチキャスト、およびブロードキャストです。

**デフォルト**

トランッキング インターフェイスでは、送受信されたトラフィック、およびすべての VLAN、packets タイプ、およびアドレス タイプがモニタされます。

packets は宛先ポートからタグなしで送信されます。入力およびラーニングはディセーブルです。

宛先ポートでは、すべての packets が「そのまま」許可、転送されます。

**コマンドモード**

グローバル コンフィギュレーション モード

**コマンド履歴**

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(11b)EW	単一ユーザ セッション内でのさまざまな方向へのサポートおよび拡張 VLAN アドレッシングが追加されました。
12.1(19)EW	入力 packets、カプセル化の指定、packets とアドレス タイプのフィルタリング、および CPU 送信元識別強化のサポートが追加されました。
12.1(20)EW	入力対応宛先ポートでのリモート SPAN およびホスト ラーニングのサポートが追加されました。
12.2(20)EW	IP アクセス グループ フィルタリングのサポートが追加されました。
12.2(40)SG	Supervisor Engine 6-E CPU キュー オプションのサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン**

1 つの SPAN セッションでは、1 つの SPAN 宛先だけがサポートされます。すでに宛先インターフェイスが設定されているセッションに別の宛先インターフェイスを追加しようとするとエラーとなります。SPAN 宛先を別のインターフェイスに変更する前に、SPAN 宛先インターフェイスを削除してください。

Cisco IOS Release 12.1(12c)EW から、単一のユーザ セッション内にある異なる方向の送信元を設定できます。



(注) Cisco IOS Release 12.1(12c)EW では、SPAN は入力送信元を含む 2 つのセッションおよび出力送信元を含む 4 つのセッションに制限されます。双方向送信元は、入力および出力の両方の送信元をサポートします。

特定の SPAN セッションは、VLAN または個々のインターフェイスをモニタできます。特定のインターフェイスと特定の VLAN の両方をモニタする SPAN セッションはありません。SPAN セッションを送信元インターフェイスで設定し、送信元 VLAN を同じ SPAN セッションに追加しようとすると、エラーとなります。送信元 VLAN で SPAN セッションを設定し、送信元インターフェイスをそのセッションに追加しようとした場合も、同様にエラーメッセージが表示されます。別のタイプの送信元に切り替える前に SPAN セッションのあらゆる送信元をクリアしてください。CPU 送信元は、送信元インターフェイスおよび送信元 VLAN と組み合わせることができます。

設定されたカプセル化タイプがタグなし（デフォルト）または 802.1Q の場合は、宛先ポートに **ingress** オプションを設定するときに、入力 VLAN を指定する必要があります。カプセル化タイプが ISL（スイッチ間リンク）の場合は、入力 VLAN を指定する必要はありません。

デフォルトでは、入力がいネーブルの場合、宛先ポートではホスト ラーニングが実行されません。**learning** キーワードを入力すると、宛先ポートでホスト ラーニングが実行され、トラフィックが宛先ポートからラーニングされたホストに転送されます。

モニタされたトランッキング インターフェイス上で **filter** キーワードを入力した場合、指定された VLAN セット上のトラフィックだけがモニタされます。ポート チャネル インターフェイスを設定する場合、これらは、**interface** オプションのリスト上に表示されます。VLAN インターフェイスはサポートされません。ただし、**monitor session session source vlan vlan-id** コマンドを入力することにより、特定の VLAN にまたがることができます。

パケットタイプフィルタは、受信方向でのみサポートされます。受信と送信タイプのフィルタ、および複数タイプフィルタを同時に指定できます（たとえば、**good** および **unicast** を使用して、エラーのないユニキャスト フレームのみを識別できます）。VLAN フィルタにタイプを指定しない場合は、すべてのパケットタイプが識別されます。

**queue** 識別子を使用すると、指定された CPU キューで送受信されたトラフィックのみを識別できます。キューは番号または名前でも識別できます。便利のように、キューの名前には番号付きキューを複数含めることができます。

## 例

次に、SPAN セッションの IP アクセス グループ 100 を設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# monitor session 1 filter ip access-group 100
Switch(config)# end
Switch(config)#
```

次に、送信元インターフェイスを SPAN セッションに追加する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# monitor session 1 source interface fa2/3
Switch(config)# end
Switch(config)#
Switch(config)#
Switch(config)#
```

次に、SPAN セッション内でさまざまな方向の送信元を設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# monitor session 1 source interface fa2/3 rx
Switch(config)# monitor session 1 source interface fa2/2 tx
Switch(config)# end
```

次に、送信元インターフェイスを SPAN セッションから削除する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# no monitor session 1 source interface fa2/3
Switch(config)# end
```

次に、SPAN トラフィックを VLAN 100 ~ 304 に制限する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# monitor session 1 filter vlan 100 - 304
Switch(config)# end
```

次に、RSPAN VLAN 20 を宛先として設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# monitor session 2 destination remote vlan 20
Switch(config)# end
```

次に、Supervisor Engine 6-E の SPAN 送信元として CPU のキュー名とキュー番号範囲を使用する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# monitor session 2 source cpu queue control-packet rx
Switch(config)# monitor session 3 source cpu queue 10 rx
Switch(config)# end
```



(注)

---

Supervisor Engine 6-E の場合、制御パケットがキュー 10 にマッピングされます。

---

#### 関連コマンド

[show monitor](#)



# mtu

パケットの最大サイズ、つまり最大伝送ユニット (Maximum Transmission Unit; MTU) を調整して、インターフェイス上でジャンボ フレームをイネーブルにするには、**mtu** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mtu bytes**

**no mtu**

## シンタックスの説明

**bytes**                      バイト サイズです。有効値は 1,500 ~ 9,198 です。

## デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- ジャンボ フレームはディセーブルです。
- すべてのポートで 1,500 バイトです。

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

ジャンボ フレームは、非ブロッキング ギガビット イーサネット ポート、Switch Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス)、および EtherChannel でサポートされます。スタブベースポートでは、ジャンボフレームを使用できません。

ベビー ジャイアント機能はグローバルな **system mtu size** コマンドを使用して、グローバルなベビー ジャイアント MTU を設定します。また、この機能により、すべてのスタブベース ポート インターフェイスで、1,552 バイトまでのイーサネット ペイロード サイズをサポートできます。

ジャンボ フレームをサポートできるインターフェイスでは、**system mtu** コマンドおよびインターフェイス単位の **mtu** コマンドが両方とも動作しますが、インターフェイス単位の **mtu** コマンドが優先されます。

## 例

次に、1,800 バイトの MTU を指定する例を示します。

```
Switch(config)# interface GigabitEthernet 1/1
Switch(config-if)# mtu 1800
```

## 関連コマンド

[system mtu](#)

## name

MST リージョン名を設定するには、**name** コマンドを使用します。デフォルト名に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
name name
```

```
no name name
```

シンタックスの説明	<i>name</i>	MST リージョンの名前を指定します。最大 32 文字の任意のストリングです。
-----------	-------------	---

デフォルト	MST リージョン名は設定されていません。
-------	-----------------------

コマンドモード	MST コンフィギュレーション
---------	-----------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

使用上のガイドライン	同じ VLAN マッピングおよびコンフィギュレーション バージョン番号を持つ 2 つまたはそれ以上の Catalyst 4500 シリーズ スイッチは、リージョン名が異なっている場合は異なった MST リージョンにあると考えられます。
------------	---

例	次に、リージョンに名前を付ける例を示します。
---	------------------------

```
Switch(config-mst)# name Cisco
Switch(config-mst)#
```

関連コマンド	<a href="#">instance</a> <a href="#">revision</a> <a href="#">show spanning-tree mst</a> <a href="#">spanning-tree mst configuration</a>
--------	---

# pagp learn-method

着信パケットの入力インターフェイスを学習するには、**pagp learn-method** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
pagp learn-method {aggregation-port | physical-port}
```

```
no pagp learn-method
```

シンタックスの説明	<b>aggregation-port</b>	ポートチャネルでのアドレスの学習を指定します。
	<b>physical-port</b>	バンドル内の物理ポート上のアドレスの学習を指定します。

**デフォルト** 集約ポートはイネーブルです。

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、バンドル内の物理ポートアドレス学習をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# pagp learn-method physical-port  
Switch(config-if)#
```

次に、バンドル内の集約ポートアドレス学習をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# pagp learn-method aggregation-port  
Switch(config-if)#
```

**関連コマンド** [pagp learn-method](#)  
[show pagp](#)

## pagp port-priority

ホットスタンバイモードでポートを選択するには、**pagp port-priority** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**pagp port-priority** *priority*

**no pagp port-priority**

シンタックスの説明	<i>priority</i>	ポートプライオリティ番号です。有効値は1～255です。
デフォルト		ポートプライオリティは128に設定されています。
コマンドモード		インターフェイス コンフィギュレーション モード
コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
使用上のガイドライン		プライオリティが高いほど、ポートがホットスタンバイモードで選択される可能性が高くなります。
例		次に、ポートプライオリティを設定する例を示します。  Switch(config-if)# <b>pagp port-priority 45</b> Switch(config-if)#
関連コマンド		<a href="#">pagp learn-method</a> <a href="#">show pagp</a>

# passive-interface

ルーティング更新情報の送信をインターフェイス上でディセーブルにするには、**passive-interface** コマンドを使用します。ルーティング更新情報の送信を再度イネーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
passive-interface [[default] {interface-type interface-number}] | {range interface-type interface-number-interface-type interface-number}
```

```
no passive-interface [[default] {interface-type interface-number}] | {range interface-type interface-number-interface-type interface-number}
```

## シンタックスの説明

<b>default</b>	(任意) すべてのインターフェイスがパッシブとなります。
<i>interface-type</i>	インターフェイスを指定します。
<i>interface-number</i>	インターフェイス番号を指定します。
<b>range range</b>	設定するサブインターフェイスの範囲を指定します。「使用上のガイドライン」を参照してください。

## デフォルト

ルーティング更新情報がインターフェイスに送信されます。

## コマンドモード

ルータ コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

**passive-interface range** コマンドが使用できるインターフェイスは、FastEthernet、GigabitEthernet、VLAN (仮想 LAN)、ループバック、ポート チャネル、10 GigabitEthernet、およびトンネルです。VLAN インターフェイスで **passive-interface range** コマンドを使用する場合は、このインターフェイスは既存の VLAN SVI (スイッチ仮想インターフェイス) である必要があります。VLAN SVI を表示するには、**show running config** コマンドを入力します。表示されない VLAN は、**passive-interface range** コマンドで使用できません。

**passive-interface range** コマンドで入力される値は、すべての既存の VLAN SVI に適用されます。

マクロを使用する前に、**define interface-range** コマンドで範囲を定義する必要があります。

**passive-interface range** コマンドによってポート範囲に加えられたすべての設定変更は、個別のパッシブ インターフェイス コマンドとして、実行コンフィギュレーション内で保持されます。

**range** は次の 2 つの方法で入力できます。

- 最大 5 つのインターフェイス範囲を指定
- 以前定義したマクロを指定

インターフェイス、またはインターフェイス範囲マクロ名のいずれかを指定できます。インターフェイス範囲は同一のインターフェイス タイプで構成される必要があります、1 つの範囲内のインターフェイスが複数モジュールをまたがることはできません。

1 つのコマンドで最大 5 つのインターフェイス範囲を定義できます。それぞれの範囲はカンマで区切ります。

```
interface range gigabitethernet 5/1-20, gigabitethernet4/5-20.
```

`port-range` を入力するときは、次のフォーマットを使用します。

- `interface-type {mod}/{first-port} - {last-port}`

同じコマンドでマクロとインターフェイス範囲の両方を指定することはできません。マクロを作成したあとで、さらに範囲を入力できます。すでにインターフェイス範囲を入力している場合は、CLI (コマンドライン インターフェイス) でマクロを入力することはできません。

`range range` 値には、単一のインターフェイスを指定できます。この点で、このコマンドは `passive-interface interface-number` コマンドと類似しています。



(注) `range` キーワードがサポートされるのは、Open Shortest Path First (OSPF)、Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP)、RIP、および ISIS ルータ モードのみです。

インターフェイス上でルーティング更新情報の送信をディセーブルにした場合でも、特定のサブネットは引き続き他のインターフェイスにアドバタイズされ、このインターフェイス上の他のルータからの更新情報は引き続き受信および処理されます。

**default** キーワードを使用すると、デフォルトですべてのインターフェイスがパッシブとなります。この場合、隣接情報を必要とする個別のインターフェイスを設定するには、***no passive-interface*** コマンドを使用します。**default** キーワードは、インターネット サービス プロバイダー (ISP) や大規模な企業ネットワークなど、多数の分散ルータに 200 以上ものインターフェイスが搭載されるような環境で役立ちます。

OSPF プロトコルの場合、指定のルータ インターフェイスでは、OSPF ルーティング情報の送信も受信も行われません。指定のインターフェイス アドレスは、OSPF ドメイン内のスタブ ネットワークとして表示されます。

Intermediate System-to-Intermediate System (IS-IS) プロトコルの場合、このコマンドは IS-IS に対し、指定のインターフェイスでは実際に IS-IS を実行せずに、このインターフェイスの IP アドレスをアドバタイズするように指示します。IS-IS に対してこのコマンドの **no** 形式を使用すると、指定したインターフェイスの IP アドレスのアドバタイズがディセーブルになります。



(注) IS-IS の場合は、1 つ以上のアクティブ インターフェイスを維持する必要があり、このインターフェイスを **ip router isis** コマンドを使用して設定します。

EIGRP は、パッシブと設定されたインターフェイスではディセーブルになりますが、その場合もルートのアドバタイズは行います。

## 例

次に、ネットワーク 10.108.0.0 で、インターフェイス GigabitEthernet 1/1 以外のすべてのインターフェイスに対して EIGRP 更新情報を送信する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet 1/1
Switch(config-if)# router eigrp 109
Switch(config-router)# network 10.108.0.0
Switch(config-router)# passive-interface gigabitethernet 1/1
Switch(config-router)#
```

次に、インターフェイス Ethernet 1 およびインターフェイス serial 0 上で IS-IS をイネーブルにし、リンクステート Protocol Data Unit (DPU; プロトコルデータユニット) でインターフェイス Ethernet 0 の IP アドレスをアドバタイズするように設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# router isis Finance
Switch(config-router)# passive-interface Ethernet 0
Switch(config-router)# interface Ethernet 1
Switch(config-router)# ip router isis Finance
Switch(config-router)# interface serial 0
Switch(config-router)# ip router isis Finance
Switch(config-router)#
```

次に、すべてのインターフェイスをパッシブに設定してから、インターフェイス ethernet0 をアクティブにする例を示します。

```
Switch(config-if)# router ospf 100
Switch(config-router)# passive-interface default
Switch(config-router)# no passive-interface ethernet0
Switch(config-router)# network 10.108.0.1 0.0.0.255 area 0
Switch(config-router)#
```

次に、モジュール 0 のイーサネット ポート 3～4、およびモジュール 1 のギガビットイーサネット ポート 4～7 をパッシブに設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# router ospf 100
Switch(config-router)# passive-interface range ethernet0/3-4,gigabitethernet1/4-7
Switch(config-router)#
```

# permit

DHCP バインディングとの一致に基づいて Address Resolution Protocol (ARP; アドレス レゾリューション プロトコル) パケットを許可するには、**permit** コマンドを使用します。アクセス リストから指定された Access Control Entry (ACE; アクセス コントロール エントリ) を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
permit {[request] ip {any | host sender-ip | sender-ip sender-ip-mask} mac {any | host sender-mac | sender-mac sender-mac-mask} | response ip {any | host sender-ip | sender-ip sender-ip-mask} [{any | host target-ip | target-ip target-ip-mask}] mac {any | host sender-mac | sender-mac sender-mac-mask} [{any | host target-mac | target-mac target-mac-mask}] [log]
```

```
no permit {[request] ip {any | host sender-ip | sender-ip sender-ip-mask} mac {any | host sender-mac | sender-mac sender-mac-mask} | response ip {any | host sender-ip | sender-ip sender-ip-mask} [{any | host target-ip | target-ip target-ip-mask}] mac {any | host sender-mac | sender-mac sender-mac-mask} [{any | host target-mac | target-mac target-mac-mask}] [log]
```

## シンタックスの説明

<b>request</b>	(任意) ARP 要求との一致を要求します。 <b>request</b> を指定しない場合は、すべての ARP パケットに対して照合されます。
<b>ip</b>	送信側 IP アドレスを指定します。
<b>any</b>	任意の IP または MAC (メディア アクセス制御) アドレスを許可するように指定します。
<b>host sender-ip</b>	特定の送信側 IP アドレスのみを許可するように指定します。
<i>sender-ip sender-ip-mask</i>	特定の範囲の送信側 IP アドレスを許可するように指定します。
<b>mac</b>	送信側 MAC アドレスを指定します。
<b>host sender-mac</b>	特定の送信側 MAC アドレスのみを許可するように指定します。
<i>sender-mac sender-mac-mask</i>	特定の範囲の送信側 MAC アドレスを許可するように指定します。
<b>response</b>	ARP 応答との一致を指定します。
<b>ip</b>	ARP 応答の IP アドレス値を指定します。
<b>host target-ip</b>	(任意) 特定のターゲット IP アドレスのみを許可するように指定します。
<i>target-ip target-ip-mask</i>	(任意) 特定の範囲のターゲット IP アドレスを許可するように指定します。
<b>mac</b>	ARP 応答の MAC アドレス値を指定します。
<b>host target-mac</b>	(任意) 特定のターゲット MAC アドレスのみを許可するように指定します。
<i>target-mac target-mac-mask</i>	(任意) 特定の範囲のターゲット MAC アドレスを許可するように指定します。
<b>log</b>	(任意) ACE と一致するパケットを記録します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

arp-nacl コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。



**使用上のガイドライン**

permit コマンドを追加すると、一部の一致基準に基づいて ARP パケットを転送したり、削除したりできます。

**例**

次に、MAC アドレスが 0000.0000.abcd で、IP アドレスが 1.1.1.1 であるホストの例を示します。また、このホストからの要求および応答の両方を許可する例を示します。

```
Switch(config)# arp access-list static-hosts
Switch(config-arp-nacl)# permit ip host 1.1.1.1 mac host 0000.0000.abcd
Switch(config-arp-nacl)# end
Switch# show arp access-list
```

```
ARP access list static-hosts
  permit ip host 1.1.1.1 mac host 0000.0000.abcd
Switch#
```

**関連コマンド**

[arp access-list](#)  
[deny](#)  
[ip arp inspection filter vlan](#)

# police

トラフィック ポリシング機能を設定するには、**police** QoS ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション コマンドを使用します。設定からトラフィック ポリシング機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
police {bps | kbps | mbps | gbps} [burst-normal] [burst-max] conform-action action exceed-action action
[violate-action action]
```

```
no police {bps | kbps | mbps | gbps} [burst-normal] [burst-max] conform-action action exceed-action
action [violate-action action]
```

## シンタックスの説明

<i>bps</i>	平均レート (ビット / 秒)。有効値は 32,000 ~ 32,000,000,000 です。
<i>kbps</i>	平均レート (キロビット / 秒)。有効値は 32 ~ 32,000,000 です。
<i>mbps</i>	平均レート (メガビット / 秒)。有効値は 1 ~ 32,000 です。
<i>gbps</i>	平均レート (ギガビット / 秒)。有効値は 1 ~ 32 です。
<i>burst-normal</i>	(任意) 通常バースト サイズ (バイト)。有効値は 64 ~ 2,596,929,536 です。設定レートの 4 倍までのバースト値をサポートすることができます。
<i>burst-max</i>	(任意) 超過バースト サイズ (バイト)。有効値は 64 ~ 2,596,929,536 です。設定レートの 4 倍までのバースト値をサポートすることができます。
<b>conform-action</b>	レート制限に適合したパケットに対して実行するアクション
<b>exceed-action</b>	レート制限を超過したパケットに対して実行するアクション
<b>violate-action</b>	(任意) 通常および最大バースト サイズに違反したパケットに対して実行するアクション
<i>action</i>	パケットに対して実行するアクション。以下のいずれかのキーワードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>drop</b> — パケットを廃棄します。</li> <li>• <b>set-cos-transmit new-ios</b> — Class of Services (CoS; サービス クラス) 値を新規値に設定して、パケットを送信します。範囲は 0 ~ 7 です。</li> <li>• <b>set-dscp-transmit value</b> — IP Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServ コード ポイント) 値を設定して、新規 IP DSCP 値ストリングでパケットを送信します。</li> <li>• <b>set-prec-transmit value</b> — IP precedence を設定して、新規 IP precedence 値ストリングでパケットを送信します。</li> <li>• <b>transmit</b> — パケットを送信します。パケットは変更されません。</li> </ul>

## デフォルト

このコマンドは、デフォルトでディセーブルです。

## コマンドモード

ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション (マークされたパケットに適用される単一アクションを指定した場合)

ポリシーマップ クラス ポリシング コンフィギュレーション (マークされたパケットに適用される複数アクションを指定した場合)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドが Supervisor Engine 6E を使用する Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン**

サービスレベル アグリーメントへの準拠に基づいて異なる QoS (Quality of Service) 値を持つパケットをマークするのに、**police** コマンドを使用します。

トラフィック ポリシングは、インターフェイスを通過するトラフィックに対して実行されません。

**複数アクションの設定**

**police** コマンドにより、複数のポリシング アクションを指定することができます。**police** コマンドの設定時に複数のポリシング アクションを指定した場合、以下の点に留意してください。

- 同時に最大 4 つのアクションを指定することができます。
- **conform-action transmit** と **conform-action drop** など、矛盾したアクションを指定することはできません。

**Police コマンドとトラフィック ポリシング機能の使用**

**police** コマンドは、トラフィック ポリシング機能と共に使用することができます。トラフィック ポリシング機能は、トークン バケット アルゴリズムで動作します。トークン バケット アルゴリズムには、単一トークン バケット アルゴリズムと 2 トークン バケット アルゴリズムの 2 種類があります。単一トークン バケットは、**violate-action** オプションが指定されていない場合に使用され、2 トークン バケット システムは **violate-action** オプションが指定されている場合に使用されます。

**1 トークン バケットを使用するトークン バケット アルゴリズム**

1 トークン バケット アルゴリズムは、**voilate-action** オプションが CLI (コマンドライン インターフェイス) の **police** コマンドで指定されていない場合に使用されます。

適合バケットは、最初にフル サイズに設定されています (フル サイズは、通常バースト サイズとして指定されているバイト数です)。

指定サイズのバケット (たとえば、B バイト) が特定の時間 (時間 T) で到着する場合、次のようなアクションが発生します。

- 適合バケットでトークンが更新されます。前にバケットが到着したのが T1 で、現在の時間が T の場合、バケットはトークン到着レートに基づく十分なビット数 (T-T1) で更新されます。トークン到着レートは、次のように計算されます。  
(バケット間の時間 <math>T - T1 > \times </math> ポリサー レート) / 8 バイト
- 適合バケット B のバイト数が 0 に等しい場合、バケットが適合し、適合アクションがバケットで実行されます。バケットが適合し、B バイトが適合バケットから削除されて、適合アクションがバケットで完了します。
- 適合バケット B のバイト数 (制限されているバケット数を引いたもの) が 0 未満の場合、超過アクションが実行されます。

**1 トークン バケットを使用するトークン バケット アルゴリズム (RFC 2697 参照)**

2 トークン バケット アルゴリズムは、**voilate-action** オプションが CLI の **police** コマンドで指定されている場合に使用されます。

適合バケットは、最初にフル サイズになっています (フル サイズは、通常バースト サイズとして指定されているバイト数です)。

超過バケットは、最初にフル サイズになっています (フル超過サイズは、最大バースト サイズとして指定されているバイト数です)。

適合および超過トークンバケットのいずれのトークンも、トークン到着レートに基づいて更新されるか、Committed Information Rate (CIR; 認定情報レート) です。

指定サイズのパケット（たとえば、B バイト）が特定の時間（時間 T）で到着する場合、次のようなアクションが発生します。

- 適合パケットでトークンが更新されます。前にパケットが到着したのが T1 で、現在の時間が T の場合、パケットはトークン到着レートに基づく十分なビット数  $(T - T1)$  で更新されます。補充トークンが適合パケットに配置されます。トークンが適合パケットでオーバーフローした場合、オーバーフロー トークンが超過パケットに配置されます。  
トークン到着レートは、次のように計算されます。  
(パケット間の時間  $<T - T1> \times$  ポリサー レート) / 8 バイト
- 適合パケット B のバイト数が 0 に等しい場合、パケットが適合し、適合アクションがパケットで実行されます。パケットが適合し、B バイトが適合パケットから削除されて、適合アクションが実行されます。超過パケットはこのシナリオでは影響を受けません。
- 適合パケット B のバイト数が 0 未満の場合、超過トークン バケットがパケット毎にバイト数をチェックされます。超過パケット B のバイト数が 0 以上の場合、超過アクションが実行され、B バイトが超過トークンバケットから削除されます。適合パケットからバイトは削除されません。
- 超過パケット B のバイト数が 0 未満の場合、パケットがレートに違反していて、違反アクションが実行されます。アクションがパケットで完了します。

## 例

### 1 トークンバケットを使用するトークンバケットアルゴリズム

次に、(class-map コマンドを使用して) トラフィック クラスを定義し、(policy-map コマンドを使用して) トラフィック クラスからの一致基準をサービス ポリシーに設定されているトラフィック ポリシング コンフィギュレーションに関連付けする例を示します。ここで、service-policy コマンドはこのサービス ポリシーをインターフェイスに対応付けるために使用されます。

この特定の例において、トラフィック ポリシングが平均レート 8000 ビット / 秒で設定され、ギガビットイーサネット インターフェイス 6/1 から発信される全てのパケットに対して通常バーストサイズが 1000 バイトとなります。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# class-map access-match
Switch(config-cmap)# match access-group 1
Switch(config-cmap)# exit
Switch(config)# policy-map police-setting
Switch(config-pmap)# class access-match
Switch(config-pmap-c)# police 8000 1000 conform-action transmit exceed-action drop
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# exit
Switch(config)# interface gigabitethernet 6/1
Switch(config-if)# service-policy output police-setting
Switch(config-if)# end
```

次の例では、初期トークンバケットがフルサイズの 1000 バイトで開始されます。450 バイトのパケットが到着すると、十分なバイト数が適合トークンバケットで利用可能であるため、パケットが適合します。パケットによって適合アクション（送信）が実行され、450 バイトが適合トークンバケットから削除されます（550 バイトが残ります）。

次のパケットが 0.25 秒後に到着すると、250 バイトがトークンバケットに追加され  $([0.25 \times 8000] / 8)$ 、トークンバケットには 800 バイトが残ります。次のパケットが 900 バイトの場合、パケットが超過して超過アクション（廃棄）が実行されます。トークンバケットから削除されるバイト数はありません。

## 2 トークン バケットを使用するトークン バケット アルゴリズムの例 (RFC 2697 参照)

この特定の例において、トラフィック ポリシングが平均レート 8000 ビット / 秒で設定され、ギガビットイーサネット インターフェイス 6/1 から発信される全てのパケットに対して、通常バーストサイズが 1000 バイトで超過バーストサイズが 1000 バイトとなります。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# class-map access-match
Switch(config-cmap)# match access-group 1
Switch(config-cmap)# exit
Switch(config)# policy-map police-setting
Switch(config-pmap)# class access-match
Switch(config-pmap-c)# police 8000 1000 1000 conform-action transmit exceed-action set-qos-transmit 1
violate-action drop
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# exit
Switch(config)# interface gigabitethernet 6/1
Switch(config-if)# service-policy output police-setting
Switch(config-if)# end
```

次の例では、初期トークン バケットがフルサイズの 1000 バイトで開始されます。450 バイトのパケットが到着すると、十分なバイト数が適合トークン バケットで利用可能であるため、パケットが適合します。パケットによって適合アクション (送信) が実行され、450 バイトが適合トークン バケットから削除されます (550 バイトが残ります)。

次のパケットが 0.25 秒後に到着すると、250 バイトが適合トークン バケットに追加され ( $[0.25 \times 8000] / 8$ )、適合トークン バケットには 800 バイトが残ります。900 バイトのパケットが到着する場合、適合トークン バケットで利用可能なのが 800 バイトだけなので、パケットが適合しません。

次にフルサイズの 1000 バイトで開始される (超過バケットサイズとして指定済) 超過トークン バケットが、利用可能バイトをチェックされます。超過トークン バケットで十分なバイト数を利用可能であるため、超過アクション (QoS 送信値を 1 に設定) が実行され、900 バイトが超過バケットから取り出されます (超過トークンには 100 バイトが残ります)。

次のパケットが 0.40 秒後に到着すると、400 バイトがトークン バケットに追加されます ( $[0.40 \times 8000] / 8$ )。したがって、適合トークン バケットは現在 1000 バイト (適合バケットで利用可能な最大トークン数) で、200 バイトが適合トークン バケットからオーバーフローしています (適合トークン バケットの容量を満たすために必要なのは 200 バイトだけであるため)。これらのオーバーフローバイトは、超過トークン バケットに置かれ、超過トークン バケットは 300 バイトになります。

1000 バイトのパケットが到着する場合、十分なバイト数が適合トークン バケットで利用可能であるため、パケットが適合します。パケットによって適合アクション (送信) が実行され、1000 バイトが適合トークン バケットから削除されます (0 バイトが残ります)。

次のパケットが 0.20 秒後に到着すると、200 バイトがトークン バケットに追加されます ( $[0.20 \times 8000] / 8$ )。したがって、適合バケットは 200 バイトとなります。400 バイトのパケットが到着する場合、適合トークン バケットで利用可能なのが 200 バイトだけなので、パケットが適合しません。同様に、超過バケットで利用可能なのが 300 バイトだけなので、パケットは超過しません。したがって、パケットは違反となり、違反処理 (廃棄) が実行されます。

### 関連コマンド

[police \(パーセント\)](#)  
[police \(2 レート\)](#)  
[policy-map](#)

```
service-policy (ポリシーマップ クラス)  
show policy-map  
show policy-map interface
```

## police (パーセント)

インターフェイスで利用可能な帯域幅のパーセントに基づいてトラフィック ポリシングを設定するには、QoS policy-map クラス コンフィギュレーション モードで **police** コマンドを使用します。トラフィック ポリシングを設定から削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
police cir percent percent [bc conform-burst-in-msec] [pir percent percentage] [be peak-burst-inmsec]
```

```
no police cir percent percent [bc conform-burst-in-msec] [pir percent percentage] [be peak-burst-inmsec]
```

### シンタックスの説明

<i>cir</i>	Committed Information Rate (CIR; 認定情報レート)。CIR がポリシング トラフィックに使用されていることを示します。
<i>percent</i>	帯域幅のパーセントが CIR の計算に使用されることを指定します。
<i>percent</i>	帯域幅のパーセントを指定します。有効な範囲は 1 ~ 100 の数字です。
<i>bc</i>	(任意) ポリシング トラフィックの最初のトークン バケットで使用される適合バースト (bc) サイズ
<i>conform-burst-in-msec</i>	(任意) bc サイズをミリ秒で指定します。有効な範囲は 1 ~ 2000 の数字です。
<i>pir</i>	(任意) Peak Information Rate (PIR; 最大情報レート)。PIR がポリシング トラフィックに使用されていることを示します。
<i>percent</i>	(任意) 帯域幅のパーセントが PIR の計算に使用されることを指定します。
<i>percent</i>	(任意) 帯域幅のパーセントを指定します。有効な範囲は 1 ~ 100 の数字です。
<i>be</i>	(任意) ポリシング トラフィックの 2 番めのトークン バケットで使用されるピーク バースト (be) サイズ
<i>peak-burst-in-msec</i>	(任意) be サイズをミリ秒で指定します。有効な範囲は 1 ~ 2000 の数字です。
<i>action</i>	パケットに対して実行する処理。以下のいずれかのキーワードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>drop</b> — パケットを廃棄します。</li> <li>• <b>set-cos-transmit new-ios</b> — Class of Services (CoS; サービス クラス) 値を新規値に設定して、パケットを送信します。範囲は 0 ~ 7 です。</li> <li>• <b>set-dscp-transmit value</b> — IP Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServ コード ポイント) 値を設定して、新規 IP DSCP 値ストリングにパケットを送信します。</li> <li>• <b>set-prec-transmit value</b> — IP precedence を設定して、新規 IP precedence 値ストリングでパケットを送信します。</li> <li>• <b>transmit</b> — パケットを送信します。パケットは変更されません。</li> </ul>

### コマンドのデフォルト設定

このコマンドは、デフォルトでディセーブルです。

### コマンド モード

ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドが Supervisor Engine 6E を使用する Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン**

このコマンドは、インターフェイスで利用可能な最大帯域幅のパーセントに基づいて CIR および PIR を計算します。ポリシー マップがインターフェイスに対応付けされた場合、ビット/秒 (bps) 単位の等価 CIR および PIR 値がインターフェイス帯域幅と、このコマンドで入力されたパーセント値に基づいて計算されます。**show policy-map interface** コマンドを使用して 計算された bps レートを確認することができます。

計算された CIR および PIR の bps レートは、32,000 ~ 32,000,000,000 bps の範囲でなければいけません。レートがこの範囲をはずれた場合、関連ポリシー マップをインターフェイスに対応付けすることができません。インターフェイスの帯域幅が変更された場合 (帯域幅が追加された場合など)、改訂された帯域幅に基づいて CIR および PIR の bps 値が再計算されます。ポリシー マップをインターフェイスに対応付けた後に CIR および PIR パーセントが変更された場合、CIR および PIR の bps 値が再計算されます。

このコマンドにより、適合バースト サイズの値とピーク バースト サイズをミリ秒単位で指定することができます。帯域幅をパーセントとして計算する場合、適合バースト サイズの値とピーク バースト サイズをミリ秒単位で指定する必要があります。

**例**

次に、ギガビット インターフェイス 6/2 で帯域幅のパーセントに基づいて CIR および PIR を使用したトラフィック ポリシングを設定する例を示します。この例では、CIR に 20 パーセント、PIR に 40 パーセントが指定されています。さらに、オプションの bc 値と be 値 (それぞれ 300 ms および 400 ms) が指定されます。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# policy-map policy1
Switch(config-pmap)# class-map class1
Switch(config-pmap-c)# police cir percent 20 bc 3 ms pir percent 40 be 4 ms
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap-c)# interface gigabitethernet 6/2
Switch(config-if)# service-policy output policy
Switch(config-if)# end
```



# police rate

シングルまたはデュアル レート ポリサーを設定するには、ポリシーマップ コンフィギュレーション コマンドで **police rate** コマンドを使用します。トラフィック ポリシングを設定から削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

## バイト / 秒の構文

```
police rate units bps [burst burst-in-bytes bytes] [peak-rate peak-rate-in-bps bps] [pack-burst
peak-burst-in-bytes bytes]
```

```
no police rate units bps [burst burst-in-bytes bytes] [peak-rate peak-rate-in-bps bps] [pack-burst
peak-burst-in-bytes bytes]
```

## パーセントの構文

```
police rate percent percentage [burst ms ms] [peak-rate percent percentage] [pack-burst ms ms]
```

```
no police rate percent percentage [burst ms ms] [peak-rate percent percentage] [pack-burst ms ms]
```

## シンタックスの説明

<i>units</i>	トラフィック ポリサー レートをビット / 秒単位で指定します。有効な範囲は 32,000 ~ 32,000,000,000 です。
<i>bps</i>	(任意) ビット / 秒 (bps) は、トラフィックがポリシングされているレートを決定するのに使用されます。
	
	<b>(注)</b> レートが指定されていない場合、トラフィックは bps を介してポリシングされます。
<i>burst burst-in-bytes bytes</i>	(任意) バイト単位のバースト レートをポリシング トラフィックに使用するように指定します。有効な範囲は 64 ~ 2,596,929,536 です。
<i>peak-rate peak-rate-in-bps bps</i>	(任意) ピーク レートのピーク バースト値をバイト単位で指定します。有効な範囲は 32,000 ~ 32,000,000,000 です。
<i>peak-burst peak-burst-in-bytes bytes</i>	(任意) バイト単位のピーク バースト レートをポリシング トラフィックに使用するように指定します。ポリシング レートが bps で指定されている場合、値の有効範囲は 64 ~ 2,596,929,536 です。
<i>percent</i>	(任意) インターフェイス帯域幅のパーセントは、トラフィックがポリシングされているレートを決定するのに使用されます。
<i>percentage</i>	(任意) 帯域幅のパーセント。有効な範囲は 1 ~ 100 の数字です。
<i>burst ms ms</i>	(任意) ミリ秒単位のバースト レートをポリシング トラフィックに使用します。有効な範囲は 1 ~ 2,000 の数字です。
<i>peak-rate percent percentage</i>	(任意) インターフェイス帯域幅のパーセントが PIR の計算に使用されます。有効な範囲は 1 ~ 100 の数字です。
<i>peak-burst ms ms</i>	(任意) ミリ秒単位のピーク バースト レートをポリシング トラフィックに使用します。有効な範囲は 1 ~ 2,000 の数字です。

## コマンドのデフォルト設定

このコマンドは、デフォルトでディセーブルです。

## コマンドモード

ポリシーマップ コンフィギュレーション

## ■ police rate

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(40)SG	このコマンドが Supervisor Engine 6E を使用する Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン**

インターフェイス帯域幅の pps、bps、またはパーセントに基づいてトラフィックを制限するには、**police rate** コマンドを使用します。

**police rate** コマンドが発行されているもののレートが指定されていない場合、宛先指定されたトラフィックは bps に基づいてポリシングされます。

**例**

次に、平均レート 1,500,000 bps にトラフィックを制限するためにクラスのポリシングを設定する例を示します。

```
Switch(config)# class-map c1
Switch(config-cmap)# match access-group 140
Switch(config-cmap)# exit
Switch(config)# policy-map p1
Switch(config-pmap)# class c1
Switch(config-pmap-c)# police rate 1500000 burst 500000
Switch(config-pmap-c)# exit
```

**関連コマンド**

[policy-map](#)  
[show policy-map](#)

## police (2 レート)

Committed Information Rate (CIR ; 認定情報レート) および Peak Information Rate (PIR ; 最大情報レート) の 2 レートを使用したポリシングを設定するには、ポリシーマップ コンフィギュレーション コマンドで **police** コマンドを使用します。2 レート トラフィック ポリシングを設定から削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
police cir cir [bc conform-burst] pir pir [be peak-burst] [conform-action action [exceed-action action [violate-action action]]]
```

```
no police cir cir [bc conform-burst] pir pir [be peak-burst] [conform-action action [exceed-action action [violate-action action]]]
```

シンタックスの説明	
<i>cir</i>	最初のトークンバケットが更新される CIR
<i>cir</i>	CIR 値をビット / 秒単位で指定します。値は 32,000 ~ 32,000,000,000 の数字です。
<i>bc</i>	(任意) ポリシングの最初のトークンバケットで使用される適合バースト (bc) サイズ
<i>conform-burst</i>	(任意) bc サイズをバイト単位で指定します。値は 64 ~ 2,596,929,536 の数字です。
<i>pir</i>	2 番目のトークンバケットが更新される PIR
<i>pir</i>	PIR 値をビット / 秒単位で指定します。値は 32,000 ~ 32,000,000,000 の数字です。
<i>be</i>	(任意) ポリシングの 2 番目のトークンバケットで使用されるピークバースト (be) サイズ
<i>peak-burst</i>	(任意) ピークバーストサイズ(バイト)を指定します。値は 64 ~ 2,596,929,536 の数字です。
<i>conform-action</i>	(任意) CIR および PIR に適合したパケットに対して実行するアクション
<i>exceed-action</i>	(任意) PIR に適合するものの CIR に適合しないパケットに対して実行するアクション
<i>violate-action</i>	(オプション) PIR を超過するパケットに対して実行するアクション
<i>action</i>	(オプション) パケットに対して実行する処理。以下のいずれかのキーワードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>drop</b> — パケットを廃棄します。</li> <li>• <b>set-cos-transmit new-ios</b> — Class of Services (CoS; サービスクラス) 値を新規値に設定して、パケットを送信します。範囲は 0 ~ 7 です。</li> <li>• <b>set-dscp-transmit new-dscp</b> — IP Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServ コードポイント) 値を設定して、新規 IP DSCP 値ストリングにパケットを送信します。</li> <li>• <b>set-prec-transmit new-prec</b> — IP precedence を設定して、新規 IP precedence 値設定でパケットを送信します。</li> <li>• <b>transmit</b> — 変更なしでパケットを送信します。</li> </ul>

**コマンドのデフォルト設定** このコマンドは、デフォルトでディセーブルです。

**コマンドモード** ポリシーマップ コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドが Supervisor Engine 6E を使用する Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

RFC 2698 (Two Rate Three Color Marker) を参照してください。

2 レート トラフィック ポリシングでは、2 つの独立したレートでのトラフィックのポリシングに 2 つのトークンバケット (Tc と Tp) を使用します。2 トークンバケットに関して以下の点に注意してください。

- Tc トークンバケットは、パケットが 2 レート ポリサーで到着するたびに CIR 値で更新されます。Tc トークンバケットには、適合バースト (Bc) 値まで含めることができます。
- Tp トークンバケットは、パケットが 2 レート ポリサーで到着するたびに PIR 値で更新されます。Tp トークンバケットには、適合バースト (Be) 値まで含めることができます。

## トークンバケットの更新

以下のシナリオは、トークンバケットの更新方法について説明したものです。

B バイトのパケットが時間 t に到着しました。最後のパケットは時間 t1 に到着しています。時間 t での CIR と PIR トークンバケットは、それぞれ Tc(t) および Tp(t) で表されます。これらの値をこのシナリオで使用する場合、トークンバケットは次のように更新されます。

$$Tc(t) = \min(CIR \times (t - t1) + Tc(t1), Bc)$$

$$Tp(t) = \min(PIR \times (t - t1) + Tp(t1), Be)$$

## トラフィックのマーキング

2 レート ポリサーは、指定したレートに適合しているか、超過しているか、または違反しているとしてパケットをマーキングします。以下のポイント (B バイトのパケットを使用) は、パケットのマーキング方法を説明しています。

- $B > Tp(t)$  の場合、パケットは指定したレートに違反しているとマーキングされます。
- $B > Tc(t)$  の場合、パケットは指定したレートを超過しているとマーキングされ、Tp(t) トークンバケットは  $as Tp(t) = Tp(t) - B$  として更新されます。

これ以外の場合、パケットは指定したレートに適合しているとマークされ、Tc(t) および Tp(t) のトークンバケットが次のように更新されます。

$$Tp(t) = Tp(t) - B$$

$$Tc(t) = Tc(t) - B$$

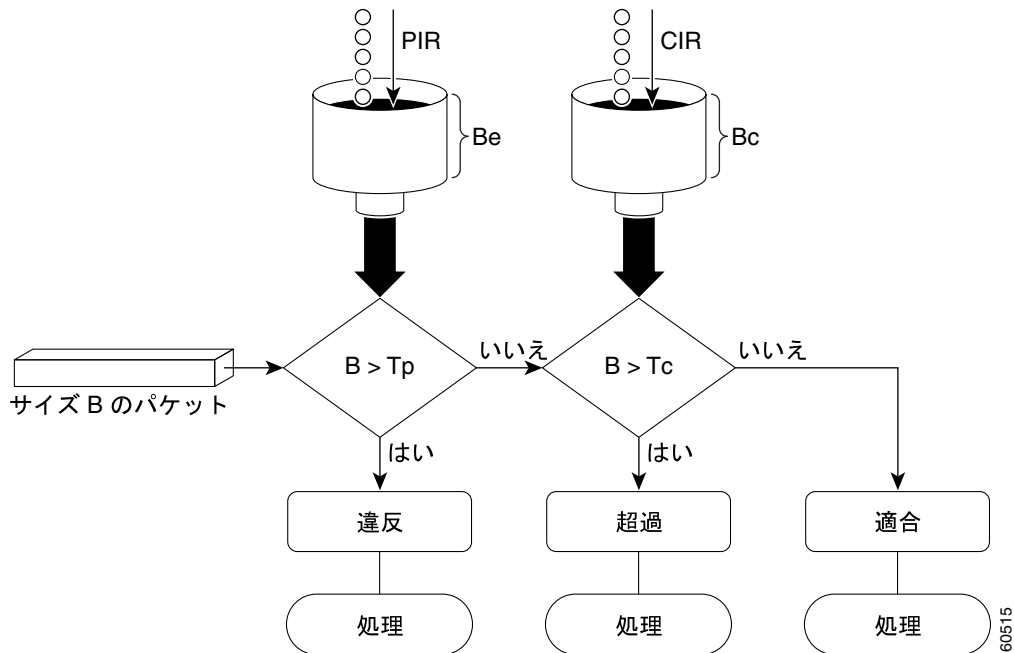
たとえば、CIR が 100 kbps の場合、PIR は 200 kbps で、250 kbps のレートのデータストリームが 2 レート ポリサーで到着し、パケットが次のようにマーキングされます。

- 100 kbps は、レートに適合しているとマーキングされます。
- 100 kbps は、レートを超過しているとマーキングされます。
- 50 kbps は、レートに違反しているとマーキングされます。

## パケットのマーキングと、アクションの割当フローチャート

図 2-1 のフローチャートは、2 レート ポリサーによるパケットのマーキング方法と、パケットへの対応アクション (違反、超過、適合) の割り当て方法を示したものです。

図 2-1 2 レート ポリサーでのパケットのマーキングとアクションの割当



## 例

次に、平均認定レート 500 kbps、ピーク レート 1 Mbps にトラフィックを制限するためにクラスの 2 レートトラフィック ポリシングを設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# class-map police
Switch(config-cmap)# match access-group 101
Switch(config-cmap)# policy-map policy1
Switch(config-pmap)# class police
Switch(config-pmap-c)# police cir 500000 bc 10000 pir 1000000 be 10000 conform-action
transmit exceed-action set-prec-transmit 2 violate-action drop
Switch(config-pmap-c)# interface gigabitethernet 6/1
Switch(config-if)# service-policy output policy1
Switch(config-if)# end
Switch# show policy-map policy1

Policy Map policy1
Class police
  police cir 500000 conform-burst 10000 pir 1000000 peak-burst 10000 conform-action
  transmit exceed-action set-prec-transmit 2 violate-action drop
Switch#
```

平均認定レート (500 kbps) に適合しているとマーキングされるトラフィックはそのまま送信されます。500 kbps を超過しているもの 1 Mbps は超過していないとマーキングされるトラフィックは、IP Precedence 2 とマーキングされたあとに送信されます。1 Mbps を超過しているとマーキングされるすべてのトラフィックは廃棄されます。バーストパラメータは 10000 バイトに設定されています。

以下の例では、1.25 Mbps のトラフィックがポリサー クラスに送信（提供）されます。

```
Switch# show policy-map interface gigabitethernet 6/1

GigabitEthernet6/1

Service-policy output: policy1

Class-map: police (match all)
 148803 packets, 36605538 bytes
 30 second offered rate 1249000 bps, drop rate 249000 bps
Match: access-group 101
police:
  cir 500000 bps, conform-burst 10000, pir 1000000, peak-burst 100000
  conformed 59538 packets, 14646348 bytes; action: transmit
  exceeded 59538 packets, 14646348 bytes; action: set-prec-transmit 2
  violated 29731 packets, 7313826 bytes; action: drop
  conformed 499000 bps, exceed 500000 bps violate 249000 bps

Class-map: class-default (match-any)
 19 packets, 1990 bytes
 30 seconds offered rate 0 bps, drop rate 0 bps
Match: any
Switch#
```

2 レート ポリサーにより、500 kbps のトラフィックが指定レートに適合とマーキングされ、500 kbps のトラフィックが指定レートを超過とマーキングされ、250 kbps のトラフィックが指定レートに違反とマーキングされます。レートに適合しているとマーキングされるパケットはそのまま送信され、レートを超過しているとマーキングされるパケットは IP Precedence 2 としてマーキングされ、その後送信されます。レートに違反しているとマーキングされるパケットは廃棄されます。

# policy-map

複数のポートに対応付け可能なポリシー マップを作成または変更して、サービス ポリシーを指定し、ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを開始するには、**policy-map** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。既存のポリシーマップを削除して、グローバル コンフィギュレーション モードに戻るには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**policy-map** *policy-map-name*

**no policy-map** *policy-map-name*

## シンタックスの説明

*policy-map-name*      ポリシー マップの名前

## デフォルト

ポリシー マップは定義されていません。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(40)SG	Supervisor Engine 6-E のサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

一致基準がクラス マップに定義されているクラスのポリシーを設定する前に、**policy-map** コマンドを使用して作成または変更するポリシー マップの名前を指定します。**policy-map** コマンドを入力する前に、スイッチはポリシーマップ コンフィギュレーション モードを開始します。そのポリシーマップのクラス ポリシーを設定または変更し、分類されたトラフィックの処理方法を決定することができます。

これらのコンフィギュレーション コマンドは、ポリシーマップ コンフィギュレーション モードで利用できます。

- **class:** 指定したクラス マップに対する分類一致基準を定義します。詳細については、「[class](#)」(p.2-23) を参照してください。
- **description:** ポリシー マップを説明します (最大 200 文字)。
- **exit:** ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
- **no:** 以前定義したポリシー マップを削除します。

グローバル コンフィギュレーション モードに戻るには、**exit** コマンドを入力します。特権 EXEC モードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

定義済の一致基準がクラスにある場合、ポリシー マップ内にクラス ポリシーを設定することができます。クラスの一貫基準を設定するには、**class-map** グローバル コンフィギュレーション コマンドおよび **match** クラスマップ コンフィギュレーション コマンドを使用します。

## 例

次に、*policy1* というポリシー マップを作成する例を示します。入力方向に対応付けされる場合、これは *class1* に定義されるすべてのインバウンド トラフィックに一致し、IP DSCP を 10 に設定し、平均レート 1 Mbps でトラフィックをポリシングし、20 KB でバーストします。プロファイルを超過するトラフィックは、ポリシングされた DSCP マップから取得した DSCP 値にマーキングされたあと、送信されます。このポリサー アクションは、Supervisor Engine 6-E 以外のすべての Catalyst 4500 Supervisor に適用可能です。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# policy-map policy1
Switch(config-pmap)# class class1
Switch(config-pmap-c)# set ip dscp 10
Switch(config-pmap-c)# police 1000000 20000 exceed-action policed-dscp-transmit
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch#
```

次に、Supervisor Engine 6-E に *policymap2* というポリシー マップを複数のクラスに設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# policy-map policymap2
Switch(config-pmap)# class class1
Switch(config-pmap-c)# police 100000 20000 exceed-action
Switch(config-pmap-c)# set-dscp-transmit cs3
Switch(config-pmap-c)# set-cos-transmit 3
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# class class2
Switch(config-pmap-c)# police cir 32000 pir 64000 conform-action transmit
exceed-action
Switch(config-pmap-c)# set-dscp-transmit cs3 violate-action drop
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# class class3
Switch(config-pmap-c)# set dscp cs3
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch#
```

次に、*policy1* というポリシー マップを削除する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# no policy-map policymap2
Switch#
```

**show policy-map** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

## 関連コマンド

[class](#)  
[class-map](#)  
[policy-map](#)  
[service-policy](#) (インターフェイス コンフィギュレーション)  
[show policy-map](#)



# port-channel load-balance

バンドル内のポート間で負荷分散方式を設定するには、**port-channel load-balance** コマンドを使用します。負荷分散をデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**port-channel load-balance *method***

**no port-channel load-balance**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>method</i>	負荷分散方式を指定します。詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
------------------	---------------	---

<b>デフォルト</b>	送信元または宛先のいずれか一方の IP アドレス上での負荷分散がイネーブルです。
--------------	--

<b>コマンドモード</b>	グローバル コンフィギュレーション モード
----------------	-----------------------

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	負荷分散方式では、次の値が有効です。
-------------------	--------------------

- **dst-ip** — 宛先 IP アドレス上での負荷分散
- **dst-mac** — 宛先 MAC（メディア アクセス制御）アドレス上での負荷分散
- **dst-port** — 宛先 TCP/UDP ポート上での負荷分散
- **src-dst-ip** — 送信元または宛先のいずれか一方の IP アドレス上での負荷分散
- **src-dst-mac** — 送信元または宛先のいずれか一方の MAC アドレス上での負荷分散
- **src-dst-port** — 送信元または宛先のいずれか一方の TCP/UDP ポート上での負荷分散
- **src-ip** — 送信元 IP アドレス上での負荷分散
- **src-mac** — 送信元 MAC アドレス上での負荷分散
- **src-port** — 送信元ポート上での負荷分散

<b>例</b>	次に、負荷分散方式を宛先 IP アドレスに設定する例を示します。
----------	----------------------------------

```
Switch(config)# port-channel load-balance dst-ip
Switch(config)#
```

次に、負荷分散方式を送信元または宛先のいずれか一方の IP アドレスに設定する例を示します。

```
Switch(config)# port-channel load-balance src-dst-port
Switch(config)#
```

<b>関連コマンド</b>	<a href="#">interface port-channel</a> <a href="#">show etherchannel</a>
---------------	---

## power dc input

スイッチに電力 DC 入力パラメータを設定するには、**power dc input** コマンドを使用します。デフォルトの電源設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**power dc input watts**

**no power dc input**

シンタックスの説明	dc input	両方の電源装置スロットに外部 DC 電源を指定します。
	watts	外部 DC 電源の合計容量をワット (W) で設定します。有効値は 300 ~ 8,500 W です。

**デフォルト** DC 電源入力 は 2,500 W です。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(11)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.1(13)EW	<b>dc input</b> のサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** ご使用のインターフェイスが PoE に対応していない場合には、次のメッセージが表示されます。

```
Power over Ethernet not supported on interface Admin
```

**例** 次に、外部 DC 電源の合計容量を 5,000 W に設定する例を示します。

```
Switch(config)# power dc input 5000
Switch(config)#
```

**関連コマンド** [show power](#)

## power inline

インライン パワー対応インターフェイスのインライン パワー ステートを設定するには、**power inline** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
power inline {auto [max milliwatt] | never | static [max milliwatt] | consumption milliwatt}
no power inline
```

### シンタックスの説明

<b>auto</b>	インラインパワー対応インターフェイスの Power over Ethernet (PoE) ステートを自動モードに設定します。
<b>max milliwatt</b>	(任意) 装置が消費可能な最大電力です。有効値は 2,000 ~ 15,400 ミリワット (mW) です。
<b>never</b>	インライン パワー対応インターフェイスで検出と電力の両方をディセーブルにします。
<b>static</b>	電力をスタティックに割り当てます。
<b>consumption milliwatt</b>	インターフェイスごとの電力配分を設定します。有効値は 4,000 ~ 15,400 です。デフォルト以外の値を設定した場合はすべて、電力配分の自動調整がディセーブルになります。

### デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- PoE に自動モードが設定されています。
- 最大ミリワット モードは 15,400 に設定されています。
- デフォルトの割り当ては 15,400 に設定されています。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(19)EW	静的な電力割り当てのサポートが追加されました。
12.1(20)EW	Power over Ethernet (PoE) のサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

ご使用のインターフェイスが PoE に対応していない場合には、次のメッセージが表示されます。

```
Power over Ethernet not supported on interface Admin
```

### 例

次に、インライン パワー対応インターフェイスのインライン パワー検出および電力を設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 4/1
Switch(config-if)# power inline auto
Switch(config-if)# end
Switch#
```

次に、インライン パワー対応インターフェイスのインライン パワー検出および電力をディセーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 4/1
Switch(config-if)# power inline never
Switch(config-if)# end
Switch#
```

次に、インターフェイス fastethernet 4/1 上で、永続的な PoE 割り当てを 8,000 mW に設定する例を示します。この場合、検出された装置において 802.3af クラスで指定された電力設定、または受電装置から受信したいずれかの CDP (シスコ検出プロトコル) パケットによって指定された電力設定は無視されます。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 4/1
Switch(config-if)# power inline consumption 8000
Switch(config-if)# end
Switch#
```

---

**関連コマンド**

[power inline consumption](#)  
[show power](#)

# power inline consumption

1つのインターフェイスに割り当てられ、スイッチのすべてのインラインパワー対応インターフェイスに適用されるデフォルト電力を設定するには、**power inline consumption** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**power inline consumption default *milliwatts***

**no power inline consumption default**

シンタックスの説明	default	デフォルト割り当てを使用するようにスイッチを指定します。
	<i>milliwatts</i>	デフォルトの電力配分をミリワット単位で設定します。有効値は 4,000 ~ 15,400 です。デフォルト以外の値を設定した場合はすべて、電力配分の自動調整がディセーブルになります。

**デフォルト** ミリワット モードは 15,400 に設定されています。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(11)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.1(20)EW	Power over Ethernet (PoE) のサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** ご使用のインターフェイスが PoE に対応していない場合には、次のメッセージが表示されます。  
Power over Ethernet not supported on interface Admin

**例** 次に、給電中の装置から受信された Cisco Discovery Protocol (CDP; シスコ検出プロトコル) パケットの種類に関係なく、8,000 mW を使用するように PoE 割り当てを設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# power inline consumption default 8000
Switch(config)# end
Switch#
```

**関連コマンド** [power inline](#)  
[show power](#)

# power redundancy-mode

シャーシの電源設定を設定するには、**power redundancy-mode** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **default** 形式を使用します。

```
power redundancy-mode {redundant | combined}
```

```
default power redundancy-mode
```

## シンタックスの説明

<b>redundant</b>	スイッチを冗長電源システム管理モードに設定します。
<b>combined</b>	スイッチを複合電源システム管理モードに設定します。

## デフォルト

冗長電源管理モード

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。 (Catalyst 4500 シリーズスイッチ専用 : 4503、4506、および 4507)

## 使用上のガイドライン

2つの電源は、同じタイプで同じワット数である必要があります。



### 注意

スイッチに搭載されている電源装置のタイプやワット数が異なる場合、スイッチは電源装置の一方を認識しません。冗長モードに設定されるスイッチには、電源冗長がありません。複合モードに設定されるスイッチは、1つの電源だけを使用します。

冗長モードでは、単一の電源装置からスイッチ設定をサポートするのに十分な電力を供給する必要があります。

表 2-9 に、シャーシおよび Power over Ethernet (PoE) で利用可能な最大電力を電源装置ごとに示します。

表 2-9 利用可能な電源

電源装置	冗長モード (W)	複合モード (W)
1000 W AC	システム <sup>1</sup> = 1,000 インライン = 0	システム = 1667 インライン = 0
2800 W AC	システム = 1360 インライン = 1400	システム = 2,473 インライン = 2,333

1. システム電力は、スーパーバイザエンジン、すべてのモジュール、およびファントレイの電力で構成されます。

## 例

次に、電源管理モードを複合モードに設定する例を示します。

```
Switch(config)# power redundancy-mode combined
Switch(config)#
```

関連コマンド [show power](#)

## port-security mac-address

インターフェイス上の指定の VLAN（仮想 LAN）または VLAN 範囲でセキュア アドレスを設定するには、**port-security mac-address** コマンドを使用します。

```
port-security mac-address mac_address
```

シンタックスの説明	<i>mac_address</i>	セキュアにする必要のある MAC（メディアアクセス制御）アドレスです。
-----------	--------------------	-------------------------------------

コマンドモード	VLAN 範囲インターフェイス サブモード
---------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(25)EWA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** レイヤ2 インターフェイスは、複数の VLAN の一部であることがあります（一般的なトランクポートの場合など）。**vlan** コマンドとともに **port-security mac-address** コマンドを使用すると、異なる VLAN 上の異なるアドレスを指定できます。

**例** 次に、VLAN 2～3 において、インターフェイス g1/1 上でセキュアアドレス 1.1.1 を設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation dot1q
Switch(config-if)# switchport mode trunk
Switch(config-if)# vlan 2-3
Switch(config-if-vlan-range)# port-security mac-address 1.1.1
Switch(config-if-vlan-range)# end
Switch#
```

関連コマンド [port-security mac-address sticky](#)  
[port-security maximum](#)

# port-security mac-address sticky

インターフェイス上の指定の VLAN（仮想 LAN）または VLAN 範囲内でスティッキ アドレスを設定するには、**port-security mac-address sticky** コマンドを使用します。

```
port-security mac-address sticky mac_address
```

シンタックスの説明	<i>mac_address</i> セキュアにする必要のある MAC（メディアアクセス制御）アドレスです。
-----------	--

コマンドモード	VLAN 範囲インターフェイス サブモード
---------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(25)EWA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** **port-security mac-address sticky** コマンドを設定するには、その前にインターフェイス上でスティッキ機能をイネーブルにしておく必要があります。

レイヤ 2 インターフェイスは、複数の VLAN の一部であることがあります（一般的なトランクポートの場合など）。**vlan** コマンドとともに **port-security mac-address sticky** コマンドを使用すると、異なる VLAN 上の異なるスティッキアドレスを指定できます。

**port-security mac-address sticky** コマンドを設定するには、その前にインターフェイス上でスティッキ機能をイネーブルにしておく必要があります。

**例** 次に、VLAN 2～3 において、インターフェイス g1/1 上でスティッキアドレス 1.1.1 を設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation dot1q
Switch(config-if)# switchport mode trunk
Switch(config-if)# vlan 2-3
Switch(config-if-vlan-range)# port-security mac-address sticky 1.1.1
Switch(config-if-vlan-range)# end
Switch#
```

**関連コマンド**

- [port-security mac-address](#)
- [port-security maximum](#)



# port-security maximum

インターフェイス上の指定の VLAN（仮想 LAN）または VLAN 範囲内で、アドレスの最大数を設定するには、**port-security maximum** コマンドを使用します。

**port-security maximum** *max\_value*

## シンタックスの説明

*max\_value* MAC（メディアアクセス制御）アドレスの最大数です。

## コマンドモード

VLAN 範囲インターフェイス サブモード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)EWA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

レイヤ2 インターフェイスは、複数の VLAN の一部であることがあります（一般的なトランクポートの場合など）。**vlan** コマンドとともに **port-security maximum** コマンドを使用すると、異なる VLAN 上でセキュアアドレスの最大数を指定できます。

ポート上の指定の VLAN に最大数が設定されていない場合は、ポートに設定された最大数が VLAN に使用されます。この場合、この VLAN で設定できるセキュアアドレスの最大数は、ポートに設定された最大数に制限されます。

各 VLAN には、ポートに設定された最大数より大きな最大数を設定できます。また、すべての VLAN に設定された最大数の合計が、ポートに設定された最大数を超過してもかまいません。どちらの場合も、各 VLAN に設定できるセキュア MAC アドレス数の上限は、VLAN に設定した最大数とポートに設定した最大数のうち、少ないほうの数となります。

## 例

次に、VLAN 2～3 において、インターフェイス `g1/1` 上で最大アドレス数を 5 に設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface g1/1
Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation dot1q
Switch(config-if)# switchport mode trunk
Switch(config-if)# vlan 2-3
Switch(config-if-vlan-range)# port-security maximum 5
Switch(config-if-vlan-range)# exit
Switch#
```

## 関連コマンド

[port-security mac-address](#)  
[port-security mac-address sticky](#)

# priority

完全優先キュー (Low Latency Queueing [LLQ ; 低遅延キューイング]) をイネーブルにして、物理ポートに対応付けられているポリシー マップに属するトラフィックのクラスに優先度を与えるには、**priority** ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**priority**

**no priority**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** 完全優先キューはディセーブルです。

**コマンドモード** ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(40)SG	このコマンドが Supervisor Engine 6E を使用する Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 物理ポートに対応付けられているポリシー マップ内でのみ **priority** コマンドを使用します。class-level クラスでのみこのコマンドを使用することができ、class-defalut クラスでは使用できません。

このコマンドは、LLQ を設定し、完全優先キューイングを提供します。完全優先キューイングにより、他のキューにあるパケットが送信される前に、音声などの遅延に影響されやすいデータを送信することができます。優先キューは、空になるまで最初にサービスされます。

**bandwidth, dbi** および **shape** ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション コマンドと **priority** ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション コマンドを、同じポリシー マップ内の同一クラスで使用することはできません。ただし、これらのコマンドを同じポリシー マップに使用することができます。

**priority** ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション コマンドと共に、**police** または **set** クラス コンフィギュレーション コマンドを使用することができます。

優先キューイング クラスでレート制限をしていない場合、**bandwidth** コマンドは使用できず、代わりに **bandwidth remaining percent** コマンドを使用することができます。

**例** 次に、*policy1* というポリシー マップ用の LLQ をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# policy-map policy1
Switch(config-pmap)# class voice
Switch(config-pmap-c)# priority
```

**show policy-map** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

## 関連コマンド

[bandwidth](#)  
[class](#)  
[policy-map](#)  
[dbl](#)  
[service-policy](#) (ポリシーマップ クラス)  
[shape](#) (クラスベース キューイング)  
[show policy-map](#)

## private-vlan

Private VLAN (PVLAN; プライベート VLAN) を設定し、PVLAN とセカンダリ VLAN (仮想 LAN) 間の関連性を設定するには、**private-vlan** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```

private-vlan {isolated | community | primary}
private-vlan association secondary-vlan-list [{add secondary-vlan-list} | {remove secondary-vlan-list}]
no private-vlan {isolated | community | primary}
no private-vlan association

```

## シンタックスの説明

<b>isolated</b>	VLAN を隔離 PVLAN として指定します。
<b>community</b>	VLAN をコミュニティ PVLAN として指定します。
<b>primary</b>	VLAN をプライマリ PVLAN として指定します。
<b>association</b>	セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN との関連を作成します。
<i>secondary-vlan-list</i>	セカンダリ VLAN の番号を指定します。
<b>add</b>	(任意) セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN に対応させます。
<b>remove</b>	(任意) セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN との関連をクリアします。

## デフォルト

プライベート VLAN は設定されません。

## コマンド モード

VLAN コンフィギュレーションモード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張アドレス指定のサポートが追加されました。
12.2(20)EW	コミュニティ VLAN のサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

VLAN 1 または VLAN 1001 ~ 1005 を PVLAN として設定することはできません。

VLAN Trunk Protocol (VTP; VLAN トランク プロトコル) はプライベート VLAN をサポートしません。プライベート VLAN ポートを使用するデバイスごとに、プライベート VLAN を設定する必要があります。

`secondary_vlan_list` パラメータには、スペースを含めないでください。複数のカンマ区切り項目を含めることができます。各項目として入力できるのは、単一の PVLAN ID またはハイフンで連結した PVLAN ID の範囲です。

`secondary_vlan_list` パラメータには複数のコミュニティ VLAN ID を含めることができます。

`secondary_vlan_list` パラメータには、1つの隔離 VLAN ID だけを含めることができます。PVLAN は、VLAN 番号ペアの共通のセットを特徴とするプライベートポートのセットとして定義されます。各ペアは、少なくとも2つの特別な単方向 VLAN から構成され、スイッチと通信するために隔離ポートまたはポートのコミュニティによって使用されます。

隔離 VLAN は、プロミスキャスポートと通信するために隔離ポートによって使用される VLAN です。隔離 VLAN トラフィックは同じ VLAN 上のすべての他のプライベートポートでブロックされ、対応するプライマリ VLAN に割り当てられた標準トランキングポートおよびプロミスキャスポートによってのみ受信できます。

コミュニティ VLAN は、対応するプライマリ VLAN 上にある、コミュニティポート間のトラフィックおよびコミュニティポートからプロミスキャスポートへのトラフィックを運ぶ VLAN です。コミュニティ VLAN を PVLAN トランク上で使用することはできません。

プロミスキャスポートは、プライマリ VLAN に割り当てられたプライベートポートです。

プライマリ VLAN は、トラフィックをスイッチからプライベートポート上の顧客端末ステーションへ伝送する VLAN です。

隔離 `vlan-id` 値は1つしか指定できません。一方、コミュニティ VLAN は複数可能です。隔離 VLAN およびコミュニティ VLAN は、1つの VLAN にだけ対応付けることができます。対応付けられた VLAN リストには、プライマリ VLAN が含まれてはなりません。同様に、すでにプライマリ VLAN に対応付けられた VLAN は、プライマリ VLAN として設定できません。

`config-VLAN` サブモードを終了しないと、`private-vlan` コマンドは有効になりません。

プライマリまたはセカンダリ VLAN を削除する場合、VLAN と対応付けられるポートは非アクティブとなります。

設定に関する注意事項については、『*Catalyst 4500 Series Switch Cisco IOS Software Configuration Guide*』を参照してください。

## 例

次に、VLAN 202 をプライマリ VLAN として設定し、その設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# vlan 202
Switch(config-vlan)# private-vlan primary
Switch(config-vlan)# end
Switch# show vlan private-vlan
Primary Secondary Type Interfaces
-----
202                primary
```

次に、VLAN 303 をコミュニティ VLAN として設定し、その設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# vlan 303
Switch(config-vlan)# private-vlan community
Switch(config-vlan)# end
Switch# show vlan private-vlan

Primary Secondary Type Interfaces
-----
202                primary
                 303    community
```

次に、VLAN 440 を隔離 VLAN として設定し、その設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# vlan 440
Switch(config-vlan)# private-vlan isolated
Switch(config-vlan)# end
Switch# show vlan private-vlan
```

Primary	Secondary	Type	Interfaces
202		primary	
	303	community	
	440	isolated	

次に、プライマリ VLAN 14、隔離 VLAN 19、およびコミュニティ VLAN 20 ~ 21 間の PVLAN 関係を作成する例を示します。

```
Switch(config)# vlan 19
Switch(config-vlan) # private-vlan isolated
Switch(config)# vlan 14
Switch(config-vlan)# private-vlan primary
Switch(config-vlan)# private-vlan association 19
```

次に、PVLAN 関係を削除し、プライマリ VLAN を削除する例を示します。対応付けられたセカンダリ VLAN は削除されません。

```
Switch(config-vlan)# no private-vlan 14
Switch(config-vlan)#
```

次に、コミュニティ VLAN 303 ~ 307、309、および隔離 VLAN 440 をプライマリ VLAN 202 に対応付け、その設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# vlan 202
Switch(config-vlan)# private-vlan association 303-307,309,440
Switch(config-vlan)# end
Switch# show vlan private-vlan
```

Primary	Secondary	Type	Interfaces
202	303	community	
202	304	community	
202	305	community	
202	306	community	
202	307	community	
202	309	community	
202	440	isolated	
	308	community	



(注)

セカンダリ VLAN 308 には、プライマリ VLAN が対応付けられていません。

次に、隔離 VLAN を PVLAN アソシエーションから削除する例を示します。

```
Switch(config)# vlan 14
Switch(config-vlan)# private-vlan association remove 18
Switch(config-vlan)#
```

次に、インターフェイス fastethernet 5/1 を PVLAN ホストポートとして設定し、その設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface fastethernet 5/1
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan host
Switch(config-if)# switchport private-vlan host-association 202 440
Switch(config-if)# end
Switch# show interfaces fastethernet 5/1 switchport
Name: Fa5/1
Switchport: Enabled
Administrative Mode: private-vlan host
Operational Mode: private-vlan host
Administrative Trunking Encapsulation: negotiate
Operational Trunking Encapsulation: native
Negotiation of Trunking: Off
Access Mode VLAN: 1 (default)
Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
Voice VLAN: none
Appliance trust: none
Administrative Private Vlan
  Host Association: 202 (VLAN0202) 440 (VLAN0440)
  Promiscuous Mapping: none
  Trunk encapsulation : dot1q
  Trunk vlans:
Operational private-vlan(s):
  202 (VLAN0202) 440 (VLAN0440)
Trunking VLANs Enabled: ALL
Pruning VLANs Enabled: 2-1001
Capture Mode Disabled
Capture VLANs Allowed: ALL
```

---

**関連コマンド**

[show vlan](#)  
[show vlan private-vlan](#)

## private-vlan mapping

プライマリ VLAN (仮想 LAN) とセカンダリ VLAN が同じプライマリ VLAN Switch Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス) を共有するようこれらの間のマッピングを作成するには、**private-vlan mapping** コマンドを使用します。すべての Private VLAN (PVLAN; プライベート VLAN) マッピングを SVI から削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
private-vlan mapping primary-vlan-id {[secondary-vlan-list | {add secondary-vlan-list} | {remove
secondary-vlan-list}}]
```

```
no private-vlan mapping
```

### シンタックスの説明

<i>primary-vlan-id</i>	PVLAN 関係のプライマリ VLAN の VLAN ID です。
<i>secondary-vlan-list</i>	(任意) プライマリ VLAN をマッピングするセカンダリ VLAN の VLAN ID です。
<b>add</b>	(任意) セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN にマッピングします。
<b>remove</b>	(任意) セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN との間のマッピングを削除します。

### デフォルト

すべての PVLAN マッピングが削除されます。

### コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

*secondary\_vlan\_list* パラメータにはスペースを含めないでください。複数のカンマ区切り項目を含めることができます。各項目として入力できるのは、単一の PVLAN ID またはハイフンで連結した PVLAN ID の範囲です。

このコマンドは、プライマリ VLAN のインターフェイス コンフィギュレーション モードで有効です。

プライマリ VLAN の SVI はレイヤ 3 で作成されます。

セカンダリ VLAN で受信されたトラフィックは、プライマリ VLAN の SVI によってルーティングされます。

既存のセカンダリ VLAN の SVI は機能せず、このコマンドが入力されたあとはダウンしているとみなされます。

セカンダリ SVI は、1 つのプライマリ SVI にだけマッピングできます。設定された PVLAN アソシエーションがこのコマンドで指定されたものと異なる場合 (指定された *primary-vlan-id* がセカンダリ VLAN として設定されている場合)、このコマンドで指定されたすべての SVI はダウンします。

有効なレイヤ 2 アソシエーションのない 2 つの VLAN 間のマッピングを設定する場合、マッピング設定は機能しません。

## 例

次に、VLAN 20 のインターフェイスを VLAN 18 の SVI にマッピングする例を示します。

```
Switch(config)# interface vlan 18
Switch(config-if)# private-vlan mapping 18 20
Switch(config-if)#
```

次に、PVLAN 303 ~ 307、309、および 440 からのセカンダリ VLAN 入力トラフィックのルーティングを許可し、設定を確認する例を示します。

```
Switch# config terminal
Switch(config)# interface vlan 202
Switch(config-if)# private-vlan mapping add 303-307,309,440
Switch(config-if)# end
Switch# show interfaces private-vlan mapping
Interface Secondary VLAN Type
-----
vlan202 303 isolated
vlan202 304 isolated
vlan202 305 isolated
vlan202 306 isolated
vlan202 307 isolated
vlan202 309 isolated
vlan202 440 isolated
Switch#
```

次に、追加する VLAN がすでに VLAN 18 の SVI にマッピングされている場合に表示されるメッセージの例を示します。まず、VLAN 18 の SVI からマッピングを削除する必要があります。

```
Switch(config)# interface vlan 19
Switch(config-if)# private-vlan mapping 19 add 21
Command rejected: The interface for VLAN 21 is already mapped as s secondary.
Switch(config-if)#
```

次に、VLAN 19 の SVI からすべての PVLAN マッピングを削除する例を示します。

```
Switch(config)# interface vlan 19
Switch(config-if)# no private-vlan mapping
Switch(config-if)#

Switch# configure terminal
Switch(config)# interface vlan 202
Switch(config-if)# private-vlan mapping add 303-307,309,440
Switch(config-if)# end
Switch# show interfaces private-vlan mapping
Interface Secondary VLAN Type
-----
vlan202 303 community
vlan202 304 community
vlan202 305 community
vlan202 306 community
vlan202 307 community
vlan202 309 community
vlan202 440 isolated

Switch#
```

## 関連コマンド

[show interfaces private-vlan mapping](#)  
[show vlan](#)  
[show vlan private-vlan](#)



# private-vlan synchronize

セカンダリ VLAN (仮想 LAN) をプライマリ VLAN として同じインスタンスにマッピングするには、**private-vlan synchronize** コマンドを使用します。

**private-vlan synchronize**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** MST コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** MST コンフィギュレーション サブモードを終了するときに VLAN を対応付けられたプライマリ VLAN として同じインスタンスにマッピングしないと、警告メッセージにより、対応付けられたプライマリ VLAN として同じインスタンスにマッピングされていないセカンダリ VLAN のリストが表示されます。**private-vlan synchronize** コマンドは、対応付けられたプライマリ VLAN としてすべてのセカンダリ VLAN を自動的に同じインスタンスにマッピングします。

**例** 次に、Private VLAN (PVLAN; プライベート VLAN) 同期を初期化する例を示します。

```
Switch(config-mst)# private-vlan synchronize
Switch(config-mst)#
```

次の例では、プライマリ VLAN 2 およびセカンダリ VLAN 3 が VLAN 2 に対応付けられ、すべての VLAN が CIST インスタンス 1 にマッピングされていると仮定します。次の例ではまた、プライマリ VLAN 2 だけのマッピングを変更しようとした場合の出力も示します。

```
Switch(config)# spanning-tree mst configuration
Switch(config-mst)# instance 1 vlan 2
Switch(config-mst)# exit
These secondary vlans are not mapped to the same instance as their primary:
->3
Switch(config)#
```

**関連コマンド** [show spanning-tree mst](#)

## qos (グローバル コンフィギュレーション モード)

スイッチで QoS (Quality Of Service) 機能をグローバルにイネーブルにするには、**qos** コマンドを使用します。QoS 機能をグローバルにディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**qos**

**no qos**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** QoS 機能はディセーブルです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。Supervisor Engine 6-E では、QoS は常に設定なしでイネーブルになっています。

グローバルにイネーブル化された QoS 機能は、QoS がディセーブルになっているインターフェイスを除くすべてのインターフェイスでイネーブルになります。QoS 機能がグローバルにディセーブルの場合、すべてのトラフィックは QoS パススルー モードで渡されます。

**例** 次に、QoS 機能をスイッチでグローバルにイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# qos
Switch(config)#
```

**関連コマンド** [qos \(インターフェイス コンフィギュレーション モード\)](#)  
[show qos](#)

## qos (インターフェイス コンフィギュレーション モード)

インターフェイス上で QoS (Quality Of Service) 機能をイネーブルにするには、**qos** コマンドを使用します。QoS 機能をインターフェイス上でディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**qos**

**no qos**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** QoS はイネーブルです。

**コマンド モード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。Supervisor Engine 6-E では、サービス ポリシーを暗黙に対応付けることにより、スーパーバイザエンジンで QoS がイネーブルになり、サービス ポリシーの対応付けを暗黙に解除すると、スーパーバイザエンジンで QoS がディセーブルになります。

QoS 機能がグローバルにディセーブルの場合、QoS 機能はすべてのインターフェイスでディセーブルです。

**例** 次に、インターフェイス上で QoS 機能をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# qos  
Switch(config-if)#
```

**関連コマンド** [show qos](#)  
[qos \(グローバル コンフィギュレーション モード\)](#)

## qos account layer2 encapsulation

QoS (Quality Of Service) 機能で考慮される追加バイトを指定するには、**qos account layer2 encapsulation** コマンドを使用します。追加バイトの使用をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
qos account layer2 encapsulation {arpa | dot1q | isl | length len}
```

```
no qos account layer2 encapsulation {arpa | dot1q | isl | length len}
```

### シンタックスの説明

<b>arpa</b>	イーサネット ARPA カプセル化パケット長を指定します (18 バイト)。
<b>dot1q</b>	802.1Q カプセル化パケット長を指定します (22 バイト)。
<b>isl</b>	ISL (スイッチ間リンク) カプセル化パケット長を指定します (48 バイト)。
<b>length len</b>	考慮する追加パケット長を指定します。有効値は 0 ~ 64 バイトです。

### デフォルト

Supervisor Engine 6-E 以外では、IP パケットの IP ヘッダー内の指定の長さ、および非 IP パケットのイーサネット ヘッダー内の指定の長さのみが考慮されます。

Supervisor Engine 6-E では、イーサネット ヘッダー内の指定の長さが IP および 非 IP パケットで考慮されます。レイヤ 2 の長さには、VLAN タグのオーバーヘッドも含まれます。

### コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

Catalyst 4500 シリーズ スイッチでは、Supervisor Engine 6-E 以外のスーパーバイザの場合、**qos account layer2 encapsulation** コマンドを使用すると、IP パケットをポリシングする場合に、IP パケット長だけでなく指定された長さも考慮するようにポリシング機能が設定されます。

共有およびシェーピングには、常にイーサネット ARPA 長が使用されます。

Supervisor Engine 6-E スーパーバイザでは、シェーピングおよび共有には、20 バイトの IPv6 オーバーヘッドが常時ポリシング用に追加されるイーサネット ARPA 長が常に使用されます。ただし、VLAN タグのオーバーヘッドを含む レイヤ 2 長のみ考慮されます。



(注)

指定された長さは、受信時のカプセル化タイプに関係なく、すべての IP パケットをポリシングする場合に考慮されます。**qos account layer2 encapsulation isl** が設定されている場合は、ISL カプセル化によって受信された IP パケットだけでなく、すべての IP パケットをポリシングするときに、48 バイトの固定長が考慮されます。

共有およびシェーピングでは、レイヤ 2 ヘッダーで指定された長さが使用されます。

**例**

次に、IP パケットをポリシングする場合に、追加の 18 バイトを考慮する例を示します。

```
Switch# config terminal
Switch(config)# qos account layer2 encapsulation length 18
Switch (config)# end
Switch#
```

次に、QoS 機能でレイヤ 2 カプセル化の考慮をディセーブルにする例を示します。

```
Switch# config terminal
Switch(config)# no qos account layer2 encapsulation
Switch (config)# end
Switch #
```

**関連コマンド**

[show interfaces](#)  
[switchport](#)  
[switchport block](#)

## qos aggregate-policer

名前付き集約ポリサーを定義するには、**qos aggregate-policer** コマンドを使用します。名前付き集約ポリサーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
qos aggregate-policer name rate burst [conform-action {transmit | drop} | exceed-action {transmit | drop | policed-dscp-transmit}]
```

```
no qos aggregate-policer name
```

### シンタックスの説明

<i>name</i>	集約ポリサー名です。
<i>rate</i>	最大 bps です。有効値は 32,000 ~ 32,000,000,000 です。
<i>burst</i>	バースト バイトです。有効値は 1,000 ~ 512,000,000 です。
<b>conform-action</b>	(任意) レートを超えない場合にとるアクションを指定します。
<b>transmit</b>	(任意) パッケージを伝送します。
<b>drop</b>	(任意) パケットを廃棄します。
<b>exceed-action</b>	(任意) QoS (Quality Of Service) 値を超えた場合のアクションを指定します。
<b>policed-dscp-transmit</b>	(任意) ポリシング済み DSCP マップ単位で DSCP を送信します。

### デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- conform-action — transmit
- exceed-action — drop

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

このポリサーは、異なったポリシー マップ クラスおよび異なったインターフェイスで共有できません。

Catalyst 4506 スイッチは最大 1,000 個の集約入力ポリサーおよび 1,000 個の出力ポリサーをサポートします。

**qos aggregate-policer** コマンドを使用すると、集約フローおよびその集約のポリシング規則を設定できます。レートとバースト パラメータを入力すると、平均レートの範囲は 32 Kbps ~ 32 Gbps となり、バースト サイズの範囲は 1 KB ~ 512 MB となります。

レートは、接尾文字を記載せずに bps 単位で入力できます。また、表 2-10 に記載されている接尾文字を使用することもできます。

表 2-10 レート接尾文字

接尾文字	説明
k	1,000 bps
m	1,000,000 bps
g	1,000,000,000 bps

バーストは、接尾文字を記載せずにバイト単位で入力できます。また、表 2-11 に記載される接尾文字を使用することもできます。

表 2-11 バースト接尾文字

接尾文字	説明
k	1,000 バイト
m	1,000,000 バイト
g	1,000,000,000 バイト



(注)

ハードウェアの精度によって、レート値が制限されます。そのため、設定したバーストは実際に使用する値と異なる場合があります。

既存の集約レート制限を変更すると、使用中の場合には NVRAM（不揮発性 RAM）およびスイッチのエントリが変更されます。

集約ポリサー名を入力する場合、次の命名規則に従います。

- 最大 31 文字で、a～z、A～Z、0～9、ダッシュ文字 (-)、アンダースコア (\_)、ピリオド文字 (.) を含めることができます。
- 英文字で始まり、すべてのタイプのすべての Access Control List (ACL; アクセスコントロールリスト) で一意である必要があります。
- 集約ポリサー名は、大文字と小文字を区別します。
- 番号は使用できません。
- キーワードは使用できません。使用できないキーワードは、**all**、**default-action**、**map**、**help**、および **editbuffer** です。

集約ポリサーは、1 つまたは複数のインターフェイスに適用できます。ただし、あるインターフェイスの入力方向と、別のインターフェイスの出力方向に同じポリサーを適用すると、スイッチングエンジン上で 2 つの異なる同等の集約ポリサーを作成したことになります。各ポリサーは同じポリシングパラメータを使用し、1 つのパラメータは 1 つのインターフェイスの入力トラフィックのポリシング、もう 1 つのパラメータは別のインターフェイスの出力トラフィックのポリシングを行います。集約ポリサーを複数のインターフェイスに同じ方向で適用した場合、スイッチングエンジン上に作成されるそのポリサーのインスタンスは 1 つだけです。

集約ポリサーは物理インターフェイスまたは VLAN（仮想 LAN）に適用できます。同じ集約ポリサーを物理インターフェイスおよび VLAN に適用した場合、スイッチングエンジン上で 2 つの異なる同等の集約ポリサーを作成したことになります。各ポリサーは同じポリシングパラメータを使用し、1 つのパラメータは設定された物理インターフェイス上のトラフィックのポリシング、もう 1 つのパラメータは設定された VLAN 上のトラフィックのポリシングを行います。集約ポリサーを複数のポートのみ、または複数の VLAN のみに適用した場合、スイッチングエンジン上に作成されるそのポリサーのインスタンスは 1 つだけです。

1 つの集約ポリサーを複数のポートおよび VLAN に異なる方向で適用した場合、同等の 4 つの集約ポリサー（入力方向でポリサーを共有するすべてのポート用、出力方向でポリサーを共有するすべてのポート用、入力方向でポリサーを共有するすべての VLAN 用、および出力方向でポリサーを共有するすべての VLAN 用の集約ポリサー）を作成したことになります。

**例** 次に、QoS 集約ポリサーが最大 100,000 bps の速度および 10,000 バイトの通常バースト サイズを許可し、これらのレートを超過しない場合にはパケットを伝送し、これらのレートを超過した場合にはパケットを廃棄するよう設定する例を示します。

```
Switch(config)# qos aggregate-policer micro-one 100000 10000 conform-action transmit exceed-action drop
Switch(config)#
```

**関連コマンド** [show qos aggregate policer](#)

## qos control-packets

制御パケットでレイヤ 2 制御パケット QoS (Quality Of Service) モードをイネーブルにするには、**qos control-packets** コマンドを使用します。制御パケットでレイヤ 2 制御パケット QoS モードをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
qos control-packets {bpdurange | cdp-vtp | sstp}
```

```
no qos control-packets {bpdurange | cdp-vtp | sstp}
```

### シンタックスの説明

<b>bpdurange</b>	BPDU 範囲パケットで QoS をイネーブルにするように指定します。
<b>cdp-vtp</b>	CDP および VTP パケットで QoS をイネーブルにするように指定します。
<b>sstp</b>	SSTP パケットで QoS をイネーブルにするように指定します。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

関連コマンドの入力時にレイヤ 2 制御パケット QoS が機能するアドレス範囲は、[表 2-12](#) に示してあります。

**表 2-12** パケットタイプと動作可能なアドレス範囲

機能がイネーブルになるパケットのタイプ	アドレス範囲
BPDU-range	0180.C200.0000 BPDU 0180.C200.0002 OAM, LACP 0180.C200.0003 Eapol
CDP-VTP	0100.0CCC.CCCC
SSTP	0100.0CCC.CCCD



レイヤ2 制御パケット QoS がイネーブルになっている際に、必要なレイヤ2 パケットを一致させるポリシーを設定し、必要に応じてこれをポリシングする必要があります。この機能が特定のパケットタイプでイネーブルであり、MACL が存在しない場合、必要な制御パケットと一致する MACL が自動的に生成されます。これらの MACL と一致する対応クラス マップも自動的に生成されます。次に、制御パケットのポリシングを行うためにこれらのクラス マップをポリシー マップで使用することができ、他のポリシーマップと同様にこれらをポート単位、VLAN 単位、またはポート単位/VLAN 単位に適用することができます。さらに、独自の MACL/クラス マップを定義して、制御パケットを一致させることができます。制限は、ユーザ定義クラス マップがプレフィクス「system-control-packet-」で開始されることです。

---

**例**

次に、BDPU パケットで QoS をイネーブルにする例を示します。

```
Switch#enable
Switch#configuration terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#qos control-packets bpu-range
Switch(config)#
```

次に、CDP および VTP パケットで QoS をイネーブルにする例を示します。

```
Switch#enable
Switch#configuration terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#qos control-packets cdp-vtp
Switch(config)#
```

次に、SSTP パケットで QoS をイネーブルにする例を示します。

```
Switch#enable
Switch#configuration terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#qos control-packets sstp
Switch(config)#
```

---

**関連コマンド**

**show platform hardware acl input entries static** (Cisco IOS のマニュアルを参照)  
**show policy-map interface**  
**show running-config**

## qos cos

インターフェイスのデフォルト Class of Service (CoS; サービス クラス) 値を定義するには、**qos cos** コマンドを使用します。以前のエントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
qos cos cos_value
no qos cos cos_value
```

### シンタックスの説明

*cos\_value* インターフェイスのデフォルト CoS 値です。有効値は 0～7 です。

### デフォルト

Supervisor Engine 6-E 以外のスーパーバイザでは、デフォルトの CoS 値は 0 です。  
Supervisor Engine 6-E スーパーバイザでは、デフォルトの CoS 値は 1 に設定されています。



(注)

CoS 無効化は設定されません。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。  
CoS 値は、物理 LAN ポートでのみ設定できます。

### 例

次に、デフォルト QoS (Quality Of Service) CoS 値を 6 に設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# qos cos 6
Switch(config-if)#
```

### 関連コマンド

[show qos](#)

## qos dbl

スイッチで Dynamic Buffer Limiting (DBL) をグローバルにイネーブルにするには、**qos dbl** コマンドを使用します。DBL をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
qos dbl [buffers {aggressive-flow buffers} | credits {aggressive-flow credits | maximum max} |
dscp-based {value | value range} | exceed-action {ecn | probability percent} | flow {include
[layer4-ports] [vlan]}]
```

```
no qos dbl [buffers {aggressive-flow buffers} | credits {aggressive-flow credits | maximum max} |
dscp-based {value | value range} | exceed-action {ecn | probability percent} | flow {include
[layer4-ports] [vlan]}]
```

### シンタックスの説明

<b>buffers</b>	(任意) 集約フローのバッファ制限を指定します。
<b>aggressive-flow</b>	(任意) 集約フローを指定します。
<i>buffers</i>	(任意) 集約フローのバッファ数です。有効値は 0 ～ 255 です。
<b>credits</b>	(任意) 集約フローおよびすべてのフローのクレジット制限を指定します。
<i>credits</i>	(任意) 集約フローのクレジット数です。有効値は 0 ～ 15 です。
<b>maximum</b>	(任意) すべてのフローの最大クレジットを指定します。
<i>max</i>	(任意) すべてのフローのクレジット数です。有効値は 0 ～ 15 です。
<b>dscp-based</b>	(任意) 内部 DSCP のリストに属するパケットを指定します。
<i>value</i>	(任意) 単一の DSCP 値。有効値は 0 ～ 63 です。
<i>value range</i>	(任意) DSCP 値の範囲。有効値は 0 ～ 63 です。最大 8 つのコマンドで区切られた DSCP 値を指定できます。
<b>exceed-action</b>	(任意) 制限を超えた場合のパケット マーキングを指定します。
<b>ecn</b>	(任意) 明示的な輻輳通知を指定します。
<b>probability</b>	(任意) パケット マーキングの確率を指定します。
<i>percent</i>	(任意) 確率値。有効値は 0 ～ 100 です。
<b>flow</b>	(任意) 制限するフローを指定します。
<b>include</b>	(任意) レイヤ 4 ポートおよび VLAN (仮想 LAN) をフローに追加できるようにします。
<b>layer4-ports</b>	(任意) フローにレイヤ 4 ポートを含めます。
<b>vlan</b>	(任意) フローに VLAN を含めます。

### デフォルト

Supervisor Engine 6-E 以外のスーパーバイザでは、デフォルトの設定は以下のとおりです。

- QoS (Quality Of Service) DBL はディセーブルです。
- aggressive-flow buffers は 2 に設定されています。
- aggressive-flow credits は 2 に設定され、制限は 10 です。
- レイヤ 4 ポートは追加されます。
- VLAN は追加されます。
- 15 個までのクレジットが許可されます。
- 15% の廃棄率が設定されます。
- DSCP 値が含まれます。

Supervisor Engine 6-E スーパーバイザでは、デフォルトの **dbl** 値は暗黙的に設定されており、変更できません。設定は次のとおりです。

- 7 個までのクレジットが許可されます。
- aggressive-flow buffers は 4 に設定されています。

- aggressive-flow buffers は 4 に設定されています。
- 6 パーセントの廃棄率が設定されます。
- レイヤ 2 パケットのハッシュ関数は、送信元および宛先 MAC アドレスと、送信 VLAN ID を使用します。
- IPv4 および IPv6 パケットのハッシュ関数は、送信元および宛先 IP アドレス、送信元および宛先レイヤ 4 ポート、送信 VLAN ID を使用します。

**コマンドモード**

グローバル コンフィギュレーション モード

QoS ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション

**コマンド履歴**

リリース	変更内容
12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.2(37)SG	DSCP ベースのフロー管理のサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン**

このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

**例**

次に、スイッチで DBL をグローバルにイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# qos db1
Global DBL enabled
Switch(config)#
```

次に、QoS ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション モードで DBL をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# class-map c1
Switch(config-cmap)# policy-map p1
Switch(config-pmap)# class c1
Switch(config-pmap-c)# db1
Switch(config-pmap-c)#
```

次に、DSCP 値 1～10 の DBL を選択的にイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# qos db1 dscp-based 1-10
Switch(config)# end
Switch# show qos db1
  DBL flow includes vlan
  DBL flow includes layer4-ports
  DBL does not use ecn to indicate congestion
  DBL exceed-action probability: 15%
  DBL max credits: 15
  DBL aggressive credit limit: 10
  DBL aggressive buffer limit: 2 packets
  DBL DSCPs with default drop probability:
    1-10
```

次に、DSCP 値 1 ～ 10 の DBL を選択的にディセーブルにする例を示します。

```
Switch# configure t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# no qos dbl dscp-based 1-5, 7
Switch(config)# end
Switch# show qos dbl
  DBL flow includes vlan
  DBL flow includes layer4-ports
  DBL does not use ecn to indicate congestion DBL exceed-action probability: 15% DBL
  max credits: 15 DBL aggressive credit limit: 10 DBL aggressive buffer limit: 2
  packets DBL DSCPs with default drop probability:
    0,6,8-63
```

`show qos dbl` 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

## 関連コマンド

[show qos dbl](#)

# qos dscp

インターフェイスのデフォルト Class of Service (CoS; サービス クラス) 値を定義するには、`qos dscp` コマンドを使用します。以前のエントリを削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

```
qos dscp dscp_value
no qos dscp dscp_value
```

## シンタックスの説明

*dscp\_value* インターフェイスのデフォルト DSCP 値です。有効値は 0 ～ 63 です。

## デフォルト

Supervisor Engine 6-E 以外のスーパーバイザでは、デフォルトの DCSP 値は 0 です。  
Supervisor Engine 6-E スーパーバイザでは、ポート DCSP 値は常に 0 に設定されています。

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

## 例

次に、デフォルト QoS (Quality Of Service) DSCP 値を 6 に設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# qos dscp 6
Switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

[show qos interface](#)

## qos map cos

信頼されるインターフェイスの入力 Class of Service (CoS; サービス クラス) /DSCP マッピングを定義するには、**qos map cos to dscp** コマンドを使用します。以前のエントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。



(注) テーブルから単一のエントリを削除することはできません。

```
qos map cos cos_values to dscp dscpl
```

```
no qos map cos to dscp
```

### シンタックスの説明

<i>cos_values</i>	CoS 値です。最大 8 つまでの CoS 値をスペースで区切って表示します。
<b>to dscp</b>	マッピングを定義し、DSCP 値を指定します。
<i>dscpl</i>	CoS 値にマッピングする DSCP 値です。有効値は 0 ~ 63 です。

### デフォルト

次の表にデフォルト CoS/DSCP コンフィギュレーション設定を示します。

CoS	0	1	2	3	4	5	6	7
DSCP	0	8	16	24	32	40	48	56

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。この制限されたマッピング機能の代わりに、Supervisor Engine 6E ではポリシー マップ内のパケットにあるさまざまなマーキングフィールドの設定をサポートしています。詳細については、**set** コマンドを参照してください。

CoS/DSCP マップは、(CoS を信頼するために設定されたインターフェイス上で) パケット CoS を内部 DSCP 値にマッピングします。このマップは、8 つの CoS 値 (0 ~ 7) およびこれに対応する DSCP 値のテーブルです。スイッチには 1 つのマップがあります。

### 例

次に、CoS 0 の入力 CoS/DSCP マッピングを設定する例を示します。

```
Switch(config)# qos map cos 0 to dscp 20
Switch(config)#
```

次に、CoS/DSCP マッピング テーブル全体を消去する例を示します。

```
Switch(config)# no qos map cos 0 to dscp 20
Switch(config)#
```

## 関連コマンド

**qos map dscp**  
**qos map dscp policed**  
**show qos**  
**tablemap** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

## qos map dscp

DSCP 値を選択された送信キューにマッピングしたり、DSCP/Class of Service (CoS; サービス クラス) 値をマッピングしたりするには、**qos map dscp** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
qos map dscp dscp-values to tx-queue queue-id
no qos map dscp dscp-values to cos cos-value
```

## シンタックスの説明

<i>dscp-values</i>	キュー ID にマッピングする DSCP 値のリストです。有効値は 0 ～ 63 です。
<b>to</b>	マッピングを定義します。
<b>tx-queue</b>	送信キューを指定します。
<i>queue-id</i>	送信キューです。有効値は 1 ～ 4 です。
<b>cos</b>	CoS 値を指定します。
<i>cos-value</i>	サービス クラスです。有効値は 1 ～ 7 です。

## デフォルト

次の表にデフォルト DSCP/CoS コンフィギュレーション設定を示します。

<b>DSCP</b>	0 ～ 7	8 ～ 15	16 ～ 23	24 ～ 31	32 ～ 39	40 ～ 47	48 ～ 55	56 ～ 63
<b>CoS</b>	0	1	2	3	4	5	6	7

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。このコマンドの代わりに、Supervisor Engine 6-E では QoS マーキングに **tablemap** コマンドを使用しています。詳細については、**table** コマンドを参照してください。

DSCP/CoS マップを使用して、最終 DSCP 分類を最終 CoS にマッピングします。CoS マップは、トランク インターフェイス上の送信済みパケットの ISL (スイッチ間リンク) ヘッダーまたは 802.1Q タグに書き込まれます。CoS マップには、64 個の DSCP 値およびこれに対応する CoS 値のテーブルが含まれます。スイッチには 1 つのマップがあります。CoS 値については最大 8 つの DSCP 値をスペースで区切って入力できます。

DSCP/送信キュー マップは、最終 DSCP 分類を送信キューにマッピングするのに用いられます。送信キューについては最大 8 つの DSCP 値をスペースで区切って入力できます。

## ■ qos map dscp

---

例

次に、出力 DSCP/CoS マッピングを設定する例を示します。

```
Switch(config)# qos map dscp 20 25 to cos 3  
Switch(config)#
```

次に、出力 DSCP/送信キューを設定する例を示します。

```
Switch(config)# qos map dscp 20 25 to tx-queue 1  
Switch(config)#
```

---

関連コマンド

[qos map cos](#)

[show qos interface](#)

[show qos](#)

[tablemap](#) (Cisco IOS のマニュアルを参照)

[tx-queue](#)



## qos map dscp policed

ポリシングされた DSCP 値の、マーキングされた DSCP 値へのマッピングを設定するには、**qos map dscp policed** コマンドを使用します。以前のエントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
qos map dscp policed dscp_list to dscp policed_dscp
no qos map dscp policed
```

シンタックスの説明		
<i>dscp_list</i>	DSCP 値です。有効値は 0 ～ 63 です。	
<b>to dscp</b>	マッピングを定義します。	
<i>policed_dscp</i>	マーキングされた DSCP 値です。有効値は 0 ～ 63 です。	

**デフォルト** DSCP 値のマッピングはディセーブルです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。さまざまなポリサー タイプが DSCP の明示的 QoS マーキング、優先順位、CoS フィールドをサポートする Supervisor Engine 6-E でサポートされています。詳細については、**police** コマンドを参照してください。

DSCP/ ポリシングされた DSCP マップは、不適合なフローに適用されるマーキングされた DSCP 値を判別します。スイッチには 1 つのマップがあります。

スペースで区切るにより最大 8 つの DSCP 値を入力できます。

ポリシングされた DSCP 値は、1 つだけ入力できます。



**(注)** シーケンス外の packets を避けるため、DSCP/ ポリシングされた DSCP マップを設定して、マーキングされた packets が適合トラフィックの同じキューに留まるようにします。

**例** 次に、複数の DSCP を単一のポリシングされた DSCP 値にマッピングする例を示します。

```
Switch(config)# qos map dscp policed 20 25 43 to dscp 4
Switch(config)#
```

**関連コマンド**

- [qos map cos](#)
- [qos map dscp](#)
- [show qos](#)

# qos rewrite ip dscp

IP パケットの DSCP 書き換えをイネーブルにするには、**qos rewrite ip dscp** コマンドを使用します。IP DSCP 書き換えをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**qos rewrite ip dscp**

**no qos rewrite ip dscp**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** IP DSCP 書き換えはイネーブルです。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

IP DSCP 書き換えをディセーブルにして QoS (Quality Of Service) をグローバルにイネーブルにすると、次の事項が発生します。

- IP パケットの Type of Service (ToS; サービス タイプ) バイトが修正されません。
- キューイングにはマーキングされたもしくはすでに適用された DSCP 値が使用されます。
- 送信キューおよびレイヤ 2 Class of Service (CoS; サービス クラス) の決定には、内部的に抽出された DSCP (インターフェイスまたは VLAN ポリシー上の信頼性のある設定ごとに) が使用されます。IP パケット ヘッダーにある DSCP 値が書き換えされません。

QoS をディセーブルにした場合、着信パケットの CoS および DSCP 値は保存され、書き換えは起こりません。

**例** 次に、IP DSCP 書き換えをディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# no qos rewrite ip dscp
Switch(config)#
```

**関連コマンド** [qos \(グローバル コンフィギュレーション モード\)](#)  
[show qos](#)

## qos trust

あるインターフェイスに到達したパケットが正しい Class of Service (CoS; サービス クラス)、Type of Service (ToS; サービス タイプ)、および DSCP 分類を送信していると信頼できるかどうかなどといったインターフェイスの信頼状態を設定するには、**qos trust** コマンドを使用します。インターフェイスを信頼できない状態に設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
qos trust {cos | device cisco-phone | dscp | extend [cos priority]}
```

```
no qos trust {cos | device cisco-phone | dscp | extend [cos priority]}
```

### シンタックスの説明

<b>cos</b>	着信フレームの CoS ビットを信頼し、CoS ビットから内部 DSCP 値を取得するように指定します。
<i>device cisco-phone</i>	Cisco IP Phone をポート上の信頼できる装置として指定します。
<b>dscp</b>	着信パケットの ToS ビットに DSCP 値が含まれることを指定します。
<b>extend</b>	PC から着信した Port VLAN ID (PVID) パケットに対する信頼拡張を指定します。
<i>cos priority</i>	(任意) PVID パケットに設定される CoS プライオリティの値を指定します。有効値は 0 ~ 7 です。

### デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- グローバル QoS (Quality Of Service) がイネーブルの場合、信頼はポート上でディセーブルになります。
- グローバル QoS がディセーブルの場合、trust DSCP はポート上でイネーブルになります。
- CoS プライオリティ レベルは 0 です。

### コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(11)EW	音声への信頼拡張サポートが追加されました。
12.1(19)EW	デバイス Cisco IP Phone の信頼サポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

信頼状態を設定できるのは、物理 LAN インターフェイスのみです。

デフォルトでは、QoS がイネーブルの場合、インターフェイスの信頼状態は **untrusted** です。QoS がインターフェイス上でディセーブルになると、信頼状態は **trust DSCP** にリセットされます。

インターフェイス信頼状態が **qos trust cos** である場合、送信 CoS は常に着信パケット CoS (または、パケットにタグがない場合にはインターフェイスのデフォルト CoS) です。

インターフェイスの信頼状態が **qos trust dscp** ではない場合、セキュリティおよび QoS Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) 分類では、常にインターフェイス DSCP が使用され、着信パケットの DSCP は使用されません。

EtherChannel に含まれるポート (ポート チャネル) には、信頼境界を設定しないでください。

**例**

次に、インターフェイスの信頼状態を CoS に設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# qos trust cos  
Switch(config-if)#
```

次に、インターフェイスの信頼状態を DSCP に設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# qos trust dscp  
Switch(config-if)#
```

次に、PVID CoS レベルを 6 に設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# qos trust extend cos 6  
Switch(config-if)#
```

次に、Cisco IP Phone を信頼できるデバイスとして設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# qos trust device cisco-phone  
Switch(config-if)#
```

**関連コマンド**

[qos cos](#)  
[qos vlan-based](#)  
[show qos interface](#)

## qos vlan-based

レイヤ 2 インターフェイスの VLAN (仮想 LAN) 単位の QoS (Quality Of Service) をイネーブルにするには、**qos vlan-based** コマンドを使用します。レイヤ 2 インターフェイスの VLAN 単位の QoS をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**qos vlan-based**

**no qos vlan-based**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** VLAN 単位の QoS はディセーブルです。

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。Supervisor Engine 6-E では、インターフェイスおよび VLAN レベルでのさまざまなマーキングおよびポリシング アクションが適切にマージされます。詳細については、『*Catalyst 4500 Series Switch Configuration Guide*』を参照してください。

VLAN ベースのモードでは、レイヤ 2 インターフェイスに対応付けられたポリシー マップは無視され、QoS は対応する VLAN インターフェイスに対応付けられたポリシー マップによって機能します。

VLAN 単位の QoS は、レイヤ 2 インターフェイス上でだけ設定できます。

レイヤ 2 インターフェイスに入力 QoS ポリシーが対応付けられていない場合、ポートが VLAN ベースで設定されていなくても、(パケットが着信する) VLAN に対応付けられた入力 QoS ポリシーがあればそれが使用されます。

このデフォルトが望ましくない場合には、レイヤ 2 インターフェイスにプレースホルダの入力 QoS ポリシーを対応付けます。

同様に、レイヤ 2 インターフェイスに出力 QoS ポリシーが対応付けられていない場合、ポートが VLAN ベースで設定されていなくても、(パケットを送信する) VLAN に対応付けられた出力 QoS ポリシーがあればそれが使用されます。

このデフォルトが望ましくない場合には、レイヤ 2 インターフェイスにプレースホルダの出力 QoS ポリシーを対応付けます。

レイヤ 3 インターフェイスは常にインターフェイス ベース モードです。レイヤ 3 VLAN インターフェイスは常に VLAN ベース モードです。

**例** 次に、レイヤ 2 インターフェイスの VLAN 単位の QoS をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# qos vlan-based
Switch(config-if)#
```

**関連コマンド** [qos cos](#)  
[show qos interface](#)

# redundancy

冗長コンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードでの **redundancy** コマンドを使用します。

**redundancy**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** グローバルコンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました (Catalyst 4507R のみ)。

**使用上のガイドライン** 冗長コンフィギュレーションモードは、メイン CPU サブモードを開始するのに用いられます。

メイン CPU サブモードを開始するには、冗長コンフィギュレーションモードで **main-cpu** コマンドを使用します。

メイン CPU サブモードは、2 つのスーパーバイザ エンジン上の設定を手動で同期するのに用いられます。

**auto-sync** コマンドは、メイン CPU サブモードから NVRAM (不揮発性 RAM) 内のコンフィギュレーションファイルの自動同期をイネーブルにします。

冗長をディセーブルにするには、**no** コマンドを使用します。冗長をディセーブルにしてから、再び冗長をイネーブルにすると、スイッチはデフォルトの冗長設定に戻ります。

冗長コンフィギュレーションモードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

**例** 次に、冗長モードを開始する例を示します。

```
Switch(config)# redundancy
Switch(config-red)#
```

次に、メイン CPU サブモードを開始する例を示します。

```
Switch(config)# redundancy
Switch(config-red)# main-cpu
Switch(config-r-mc)#
```

**関連コマンド**

- auto-sync**
- main-cpu**

# redundancy force-switchover

スーパーバイザ エンジンをアクティブからスタンバイに強制的に切り替えるには、**redundancy force-switchover** コマンドを使用します。

**redundancy force-switchover**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました (Catalyst 4507R のみ)。

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用する前に、『*Catalyst 4500 Series Switch Cisco IOS Software Configuration Guide*』の「Performing a Software Upgrade」を参照して、さらに詳しい情報を入手してください。

**redundancy force-switchover** コマンドは、冗長スーパーバイザ エンジンの手動切り替えを行います。冗長スーパーバイザ エンジンは、Cisco IOS イメージを実行する新しいアクティブ スーパーバイザ エンジンになります。モジュールはリセットされます。

以前のアクティブ スーパーバイザ エンジンが新しいイメージで再起動され、スタンバイ スーパーバイザ エンジンになります。

**例** 次に、アクティブ スーパーバイザ エンジンからスタンバイ スーパーバイザ エンジンに手動で切り替える例を示します。

```
Switch# redundancy force-switchover
Switch#
```

**関連コマンド** [redundancy](#)  
[show redundancy](#)

# redundancy reload

スーパーバイザ エンジンの 1 つまたは両方を強制的にリロードするには、**redundancy reload** コマンドを使用します。

**redundancy reload {peer | shelf}**

シンタックスの説明	peer	shelf
	ピア ユニートをリロードします。	両方のスーパーバイザ エンジンを再起動します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました (Catalyst 4507R のみ)。

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用する前に、『*Catalyst 4500 Series Switch Cisco IOS Software Configuration Guide*』の「Performing a Software Upgrade」を参照して、さらに詳しい情報を入手してください。

**redundancy reload shelf** コマンドは、両方のスーパーバイザ エンジンを再起動します。モジュールはリセットされます。

**例** 次に、一方または両方のスーパーバイザ エンジンを手動でリロードする例を示します。

```
Switch# redundancy reload shelf
Switch#
```

**関連コマンド** [redundancy](#)  
[show redundancy](#)



# remote login module

特定のモジュールにリモートから接続するには、**remote login module** コンフィギュレーション コマンドを使用します。

**remote login module** *mod*

シンタックスの説明	<i>mod</i>	コマンドのターゲット モジュール
-----------	------------	------------------

デフォルト	このコマンドにデフォルト設定はありません。
-------	-----------------------

コマンド モード	特権
----------	----

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドが適用されるのは、Catalyst 4500 シリーズ スイッチのアクセス ゲートウェイ モジュールのみです。
------------	---

*mod* の有効値は、使用するシャーシによって異なります。たとえば、Catalyst 4506 シャーシを使用している場合、モジュールの有効値は 2～6 です。4507R シャーシを使用している場合、有効値は 3～7 です。

**remote login module** *mod* コマンドを実行すると、プロンプトが Gateway# に変わります。

**remote login module** コマンドは、**session module** *mod* コマンドおよび **attach module** *mod* コマンドと同じです。

例	次に、アクセス ゲートウェイ モジュールにリモートからログインする例を示します。
---	--

```
Switch# remote login module 5
Attaching console to module 5
Type 'exit' at the remote prompt to end the session

Gateway>
```

関連コマンド	<a href="#">attach module</a> <a href="#">session module</a>
--------	---

## remote-span

VLAN（仮想 LAN）を Remote SPAN（RSPAN）VLAN に変換するには、**remote-span** コマンドを使用します。RSPAN VLAN を VLAN に変換するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**remote-span**

**no remote-span**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** RSPAN はディセーブルです。

**コマンド モード** VLAN コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(20)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、VLAN を RSPAN VLAN に変換する例を示します。

```
Switch# config terminal
Switch(config)# vlan 20
Switch(config-vlan)# remote-span
Switch(config-vlan)# end
Switch#
```

**関連コマンド** [monitor session](#)

# renew ip dhcp snooping database

DHCP バインディング データベースを更新するには、**renew ip dhcp snooping database** コマンドを使用します。

```
renew ip dhcp snooping database [validation none] [url]
```

シンタックスの説明	<b>validation none</b>	(任意) URL で指定されたファイルの内容に対応付けられたチェックサムを検証しないように指定します。
	<b>url</b>	(任意) 読み込みの実行元ファイルを指定します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** URL を指定しない場合は、設定された URL からのファイル読み込みが試行されます。

**例** 次に、Cyclic Redundancy Check (CRC; 巡回冗長検査) チェックを省略して、DHCP バインディング データベースを更新する例を示します。

```
Switch# renew ip dhcp snooping database validation none
Switch#
```

**関連コマンド**

- [ip dhcp snooping](#)
- [ip dhcp snooping binding](#)
- [ip dhcp snooping information option](#)
- [ip dhcp snooping trust](#)
- [ip dhcp snooping vlan](#)
- [show ip dhcp snooping](#)
- [show ip dhcp snooping binding](#)

## reset

新しく設定しようとした VLAN (仮想 LAN) データベースを放棄し、VLAN コンフィギュレーションモードを継続する、また、現在稼働している VLAN データベースと同じになるように、新たに設定しようとしているデータベースをリセットするように設定するには、**reset** コマンドを使用します。

**reset**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** VLAN コンフィギュレーションモード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、新たに設定しようとしている VLAN データベースを現在の VLAN データベースにリセットする例を示します。

```
Switch(vlan-config)# reset
RESET completed.
Switch(vlan-config)#
```

# revision

MST コンフィギュレーション リビジョン番号を設定するには、**revision** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**revision version**

**no revision**

## シンタックスの説明

*version* コンフィギュレーション リビジョン番号です。有効値は 0 ~ 65,535 です。

## デフォルト

リビジョンバージョンは 0 に設定されています。

## コマンドモード

MST コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

コンフィギュレーションは同じであるが、リビジョン番号が異なる 2 つの Catalyst 4500 シリーズスイッチは、それぞれ 2 つの異なるリージョンに属するとみなされます。



### 注意

MST コンフィギュレーション リビジョン番号を設定するのに **revision** コマンドを使用する場合には注意が必要です。設定を間違えると、スイッチは異なったリージョンに置かれてしまいます。

## 例

次に、コンフィギュレーション リビジョン番号を設定する例を示します。

```
Switch(config-mst)# revision 5
Switch(config-mst)#
```

## 関連コマンド

[instance](#)  
[name](#)  
[show spanning-tree mst](#)  
[spanning-tree mst configuration](#)

## service-policy (インターフェイス コンフィギュレーション)

ポリシー マップのインターフェイスへの対応付け、またはインターフェイスが属する VLAN の異なる QoS ポリシーの適用を行うには、**service-policy** コマンドを使用します。ポリシー マップをインターフェイスから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
service-policy {input | output} policy-map name
```

```
no service-policy {input | output} policy-map name
```

### シンタックスの説明

<b>input</b>	入力ポリシー マップを指定します。
<b>output</b>	出力ポリシー マップを指定します。
<i>policy-map name</i>	以前に設定されたポリシー マップの名前です。

### デフォルト

ポリシー マップは、インターフェイスや VLAN に対応付けられません。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.2(25)EWA	異なる QoS ポリシーの VLAN への適用がサポートされるようになりました。

### 使用上のガイドライン

レイヤ 2 インターフェイスは、複数の VLAN の一部であることがあります (一般的なトランクポートの場合など)。**vlan-range** コマンドとともに **service-policy** コマンドを使用すると、異なる VLAN の異なる QoS ポリシーを指定できます。



(注)

この機能は、レイヤ 2 インターフェイスに限定されています。

#### Supervisor Engine 6-E 以外

ポリシー マップは、インターフェイスと VLAN 範囲に同時に適用することはできません。

サービス ポリシーを VLAN に対応付けるには、VLAN の SVI が登録されていて、ポリシーが SVI に適用されていないなければいけません。

#### Supervisor Engine 6-E

ポリシー マップは、インターフェイスと VLAN 範囲に同時に適用することはできません。ただし、これはインターフェイス ポリシーにキューイングアクションが含まれていて、VLAN には非キューイングアクション (QoS マーキング/ポリシング) のみが含まれている場合のみ許可されます。

サービス ポリシーを VLAN に対応付けするには、VLAN コンフィギュレーションモードを使用する必要があります。

### 例

次に、ポリシー マップをインターフェイス fastethernet 5/20 に対応付ける例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 5/20
Switch(config-if)# service-policy input pmap1
Switch(config-if)# end
```

次に、VLAN 20 および 400 のトラフィックに対してポリシー マップ p1 を、VLAN 300 ~ 301 のトラフィックに対してポリシー マップ p2 をそれぞれ適用する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface gigabitEthernet 6/1
Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation dot1q
Switch(config-if)# switchport mode trunk
Switch(config-if)# vlan-range 20,400
Switch(config-if-vlan-range)# service-policy input p1
Switch(config-if-vlan-range)# exit
Switch(config-if)# vlan-range 300-301
Switch(config-if-vlan-range)# service-policy output p2
Switch(config-if-vlan-range)# end
Switch# show policy-map interface gigabitEthernet 6/1 vlan 20
GigabitEthernet6/1 vlan 20
```

```
Service-policy input: p1
```

```
Class-map: class-default (match-any)
  0 packets
  Match: any
    0 packets
  police: Per-interface
    Conform: 0 bytes Exceed: 0 bytes
```

```
Switch# show policy-map interface gigabitEthernet 6/1
GigabitEthernet6/1 vlan 20
```

```
Service-policy input: p1
```

```
Class-map: class-default (match-any)
  0 packets
  Match: any
    0 packets
  police: Per-interface
    Conform: 0 bytes Exceed: 0 bytes
```

```
GigabitEthernet6/1 vlan 300
```

```
Service-policy output: p2
```

```
Class-map: class-default (match-any)
  0 packets
  Match: any
    0 packets
  police: Per-interface
    Conform: 0 bytes Exceed: 0 bytes
```

```
GigabitEthernet6/1 vlan 301
```

```
Service-policy output: p2
```

```
Class-map: class-default (match-any)
  0 packets
  Match: any
    0 packets
  police: Per-interface
    Conform: 0 bytes Exceed: 0 bytes
```

```
GigabitEthernet6/1 vlan 400
```

```
Service-policy input: p1
```

```
Class-map: class-default (match-any)
  0 packets
  Match: any
    0 packets
  police: Per-interface
    Conform: 0 bytes Exceed: 0 bytes
```

## ■ service-policy (インターフェイス コンフィギュレーション)

次に、Supervisor Engine 6-E 以外で SVI を使用して VLAN にポリシー マップを対応付けする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)#interface vlan 10
Switch(config-if)#service-policy out policy-vlan
Switch(config-if)#end
Switch#
```

次に、Supervisor Engine 6-E を使用して VLAN にポリシー マップを対応付けする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)#vlan configuration 20
Switch(config-vlan-config)#service-policy out policy-vlan
Switch(config-vlan-config)#end
Switch#
```

---

関連コマンド

[class-map](#)  
[policy-map](#)  
[service-policy \(インターフェイス コンフィギュレーション\)](#)  
[show policy-map interface vlan](#)



## service-policy (ポリシーマップクラス)

QoS (Quality of Service) であるサービス ポリシーをポリシー マップ (階層型サービス ポリシー) 内に作成するには、**service-policy** ポリシーマップクラス コンフィギュレーション コマンドを使用します。ポリシーマップ内のサービス ポリシーをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
service-policy policy-map-name
```

```
no service-policy policy-map-name
```

### シンタックスの説明

*policy-map-name*      ポリシー マップの名前

### デフォルト

サービス マップは定義されていません。

### コマンドモード

ポリシーマップクラス コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(40)SG	Supervisor Engine 6-E のサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

物理ポートに対応づけられている階層型ポリシー マップ内でのみ **service-policy** コマンドを使用します。このコマンドは、階層のレベル 2 にあるポリシー マップで有効です。

親ポリシー マップでマーキングおよびポリシング アクションを指定し、子ポリシー マップでキューイング アクションを指定することにより、階層を作成することができます。

ポリシーマップクラス コンフィギュレーション モードでこのコマンドを入力した場合、**exit** コマンドを使用してポリシーマップ コンフィギュレーション コマンドに戻ります。特権 EXEC モードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

### 例

次に、parent というサービス ポリシーで階層型サービス ポリシーを作成する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# policy-map child
Switch(config-pmap)# class voice
Switch(config-pmap-c)# priority
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# exit
Switch(config)# policy-map parent
Switch(config-pmap)# class class1
Switch(config-pmap-c)# police 32k
Switch(config-pmap-c)# service-policy child
Switch#
```

**show policy-map** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

### 関連コマンド

[bandwidth](#)  
[class](#)  
[dbl](#)  
[policy-map](#)  
[priority](#)

**random-detect** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

**shape** (クラスベース キューイング)

**show policy-map**

## service-policy input (コントロール プレーン)

集約コントロール プレーン サービスのポリシーをコントロール プレーンに対応付けるには、**service-policy input** コマンドを使用します。コントロール プレーンからサービス ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**service-policy input** *policy-map-name*

シンタックスの説明	input	指定のサービス ポリシーを、コントロール プレーンに着信するパケットに適用します。
	<i>policy-map-name</i>	対応付けるサービス ポリシー マップ ( <b>policy-map</b> コマンドによって作成) の名前です。

**デフォルト** サービス ポリシーは指定されていません。

**コマンド モード** コントロール プレーン コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このリリースでは、コントロール プレーンで許可されるポリシー マップは **system-cpp-policy** のみです。これは、起動時にすでにコントロール プレーンに対応付けられています。何らかのエラー条件が原因で対応付けられていない場合は、**global macro system-cpp** コマンドを使用してコントロール プレーンに対応付けることを推奨します。システムによって作成された **system-cpp-policy** には、システムによって事前定義された各クラスが含まれています。これらの定義済みクラスでは、ポリシング パラメータを変更することはできますが、それ以外の変更をクラスに加えることは避けるべきです。

独自のクラス マップを定義して、**system-cpp-policy** ポリシー マップの末尾に追加できます。

**例** 次に、送信元アドレス 10.1.1.1 および 10.1.1.2 を持つ信頼されたホストを設定し、制約を設けずに Telnet パケットをコントロールプレーンに転送する例を示します。残りのすべての Telnet パケットは、指定のレートに従うようにポリシングします。

```
Switch(config)# access-list 140 deny tcp host 10.1.1.1 any eq telnet
! Allow 10.1.1.2 trusted host traffic.
Switch(config)# access-list 140 deny tcp host 10.1.1.2 any eq telnet
! Rate limit all other Telnet traffic.
Switch(config)# access-list 140 permit tcp any any eq telnet
! Define class-map "telnet-class."
Switch(config)# class-map telnet-class
Switch(config-cmap)# match access-group 140
Switch(config-cmap)# exit
Switch(config)# policy-map control-plane-policy
Switch(config-pmap)# class telnet-class
Switch(config-pmap-c)# police 80000 conform transmit exceed drop
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# exit
! Define aggregate control plane service for the active Route Processor.
Switch(config)# control-plane
Switch(config-cp)# service-policy input control-plane-policy
Switch(config-cp)# exit
```

**関連コマンド**

[control-plane](#)  
[macro global apply system-cpp](#)  
[policy-map](#)  
[show policy-map control-plane](#)

# session module



(注) このコマンドは SSO モードのみでサポートされ、RPR モードでは使用できません。

仮想コンソールを使用してスタンバイ スーパーバイザ エンジンにログインするには、**session module** コンフィギュレーション コマンドを使用します。

**session module** *mod*

## シンタックスの説明

*mod* コマンドのターゲット モジュール

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンド モード

特権

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

Catalyst 4500 シリーズ スイッチに 2 つのスーパーバイザ エンジンを搭載すると、冗長構成にすることができます。スイッチの電源を入れると、一方のスーパーバイザ エンジンがアクティブになり、スイッチオーバーが生じるまでアクティブな状態を維持します。もう一方のスーパーバイザ エンジンは、スタンバイ モードを維持します。

各スーパーバイザ エンジンには、自身のコンソール ポートがあります。スタンバイ スーパーバイザ エンジンにアクセスできるのは、スタンバイ スーパーバイザ エンジンのコンソール ポートからのみです。したがって、スタンバイ スーパーバイザ に対するアクセス、モニタ、またはデバッグを行うには、スタンバイ コンソールに接続する必要があります。

スタンバイ スーパーバイザ エンジンの仮想コンソールを使用すると、スタンバイ コンソールへの物理的な接続がなくても、アクティブ スーパーバイザ エンジンからスタンバイ コンソールにアクセスできます。仮想コンソールでは、EOBC 上で IPC (プロセッサ間通信) を行ってスタンバイ スーパーバイザ エンジンと通信します。これにより、アクティブ スーパーバイザ エンジン上でスタンバイ コンソールをエミュレートします。アクティブ スタンバイ コンソールセッションは、一度に 1 つしかアクティブにできません。

スタンバイ スーパーバイザ エンジンの仮想コンソールを使用すると、アクティブ スーパーバイザ エンジンにログインしたユーザは、スタンバイ スーパーバイザ エンジンに対して **show** コマンドをリモートに実行でき、この結果をアクティブ スーパーバイザ エンジン上で表示できます。仮想コンソールは、アクティブ スーパーバイザ エンジンのみで使用できます。

アクティブ スーパーバイザ エンジンからスタンバイ仮想コンソールにアクセスするには、アクティブ スーパーバイザ エンジン上で **attach module**、**session module**、または **remote login** コマンドを使用します。これらのコマンドを実行してスタンバイ コンソールにアクセスするには、特権 EXEC モード (レベル 15) である必要があります。



(注) **session module** コマンドは、**attach module mod** および **remote login module mod** コマンドと同じです。

仮想コンソールにアクセスすると、端末プロンプトは自動的に [**hostname**]-standby-console#] に変わります。**hostname** はスイッチに設定した名前です。仮想コンソールを終了すると、このプロンプトは元のプロンプトに戻ります。

仮想コンソールを終了するには、**exit** または **quit** コマンドを使用します。ログインしたアクティブ スーパーバイザ エンジンの端末で、非アクティブな時間が既定のアイドル時間を超過すると、アクティブ スーパーバイザ エンジンの端末から自動的にログアウトされます。この場合は、仮想コンソールセッションも終了します。仮想コンソールセッションは、スタンバイ エンジンがリブートされた場合も自動的に終了します。スタンバイ スーパーバイザ エンジンの起動後は、新たな仮想コンソールセッションを作成する必要があります。

スタンバイ仮想コンソールには、以下の制限事項が適用されます。

仮想コンソールで実行したすべてのコマンドは、完了するまで中止できません。**auto-more** 機能はなく、**terminal length 0** コマンドを実行した場合と同様の動作となります。また、インタラクティブ性もありません。したがって、実行中のコマンドは、アクティブ スーパーバイザ エンジンからどのようなキー シーケンスを入力しても中断または中止することができません。このため、コマンドの出力量が多い場合は、仮想コンソールはこの出力をスーパーバイザの画面上に表示します。

仮想コンソールは非インタラクティブです。仮想コンソールはコマンドのインタラクティブ性を検出しないので、ユーザとの対話が必要なコマンドでは、RPC タイマーによってコマンドが打ち切られるまで、仮想コンソールは待機を続けます。

仮想コンソール タイマーは 60 秒に設定されています。60 秒経過すると、仮想コンソールにプロンプトが表示されます。この期間中は、キーボードからコマンドを打ち切ることはできません。続行するには、タイマーが満了するまで待つ必要があります。

仮想コンソールを使用して、スタンバイ スーパーバイザ エンジン上で表示されているデバッグメッセージおよび Syslog メッセージを表示することはできません。仮想コンソールには、仮想コンソールから実行したコマンドの出力だけを表示できます。実際のスタンバイ コンソールに表示されるその他の情報は、仮想コンソールには表示されません。

**例** 仮想コンソールを使用してスタンバイ スーパーバイザ エンジンにログインするには、以下を行います。

```
Switch# session module 2
Connecting to standby virtual console
Type "exit" or "quit" to end this session

Switch-standby-console# exit
Switch#
```

スタンバイ コンソールがイネーブルにされていない場合は、次のメッセージが表示されます。

```
Switch-standby-console#
Standby console disabled.
Valid commands are: exit, logout
```

#### 関連コマンド

[attach module](#)  
[remote login module](#)

## set

パケットで Class of Service (CoS; サービス クラス)、Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServe コード ポイント)、IP-precedence を設定することで IP トラフィックをマーキングするには、**set** ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション コマンドを使用します。トラフィック分類を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
set {cos new-cos | [ip] {dscp new-dscp | precedence new-precedence} | qos group value}
```

```
no set cos new-cos | ip {dscp new-dscp | precedence new-precedence} | qos group value}
```

### シンタックスの説明

<b>cos new-cos</b>	分類済みトラフィックに割り当てられた新規 Cos 値。範囲は 0 ～ 7 です。
<b>ip dscp new-dscp</b>	分類済みトラフィックに割り当てられた新規 DSCP 値。範囲は 0 ～ 63 です。よく使用する値に対してニーモニック名を入力することも可能です。指定された値は、IPv4/IPv6 パケット ヘッダー内に Type of Service (ToS; サービス タイプ) トラフィック クラス バイトを設定します。
<b>ip precedence new-precedence</b>	分類済みトラフィックに割り当てられた新規 IP-Precedence 値。範囲は 0 ～ 7 です。よく使用する値に対してニーモニック名を入力することも可能です。指定された値により、IP ヘッダーに precedence ビットが設定されます。
<b>qos group value</b>	インターフェイスに対する入力で分類済みパケットに割り当てられた内部 QoS グループ

### デフォルト

パケットでイネーブルになっているマーキングがありません。

### コマンド モード

ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(40)SG	Supervisor Engine 6-E のサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**set** コマンドは、class-level クラスでのみ使用できます。

**set dscp new-dscp** および **set precedence new-precedence** コマンドは、**set ip dscp new-dscp** および **set ip precedence new-precedence** コマンドと同じです。

**set dscp new-dscp** または **set precedence new-precedence** コマンドの場合、よく使用する値のニーモニック名を入力することができます。たとえば、**set dscp af11** コマンドを入力することができます。これは、**set dscp 10** コマンドを入力するのと同じです。**set precedence critical** コマンドを入力することができます。これは、**set precedence 5** コマンドを入力するのと同じです。サポートされているニーモニック一覧の場合、**set dscp ?** または **set precedence ?** コマンドを入力して、コマンドライン ヘルプ スtringを確認します。

**set cos new-cos**、**set dscp new-dscp**、または **set precedence new-precedence** コマンドをインターフェイスまたは VLAN に対応付けられた入力および出力ポリシー マップに設定することができます。

ポリシーマップ コンフィギュレーション モードに戻るには、**exit** コマンドを入力します。特権 EXEC モードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

**例** 次に、*p1* というポリシー マップを別のトラフィック タイプに割り当てられた CoS 値と共に作成する例を示します。音声およびビデオデータのクラス マップがすでに作成されています。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# policy-map p1
Switch(config-pmap)# class voice
Switch(config-pmap-c)# set cos 1
Switch(config-pmap)# exit
Switch(config-pmap)# class video-data
Switch(config-pmap-c)# set cos 2
Switch(config-pmap)# exit
Switch#
```

**show policy-map** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

#### 関連コマンド

[class](#)  
[policy-map](#)  
[show policy-map](#)  
[trust](#)

## set cos

パケットのレイヤ 2 Class of Service (CoS; サービス クラス) 値を設定するには、ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション モードの **set cos** コマンドを使用します。特定の Cos 値設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
set cos {cos-value | from-field [table table-map-name]}
```

```
no set cos {cos-value | from-field [table table-map-name]}
```

### シンタックスの説明

<i>cos-value</i>	0 ~ 7 の特定の IEEE 802. 1 Q CoS 値
<i>from-field</i>	パケットの CoS 値を設定するのに使用される特定の packets マーキング カテゴリ。パケットマーキング値のマッピングと変換用テーブル マップを使用している場合、これがパケットマーキング カテゴリからマップを確立します。パケットマーキング カテゴリ キーワードは以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>precedence</i></li> <li>• <i>dscp</i></li> <li>• <i>cos</i></li> <li>• <i>qos group</i></li> </ul>
<i>table</i>	(任意) 指定のテーブル マップに設定された値が CoS 値の設定に使用されることを示します。
<i>table-map-name</i>	(任意) CoS 値の指定に使用されるテーブル マップ名です。テーブル マップ名には、最大 64 の英数字を使用できます。

### コマンドのデフォルト設定

発信パケットに設定されている CoS 値はありません。

### コマンド モード

ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドが Supervisor Engine 6-E を使用した Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

**set cos** コマンドは、インターフェイスまたは VLAN に対応付けられた入力および出力ポリシー マップで使用できます。

このコマンドを使用して、CoS 値のマッピングと設定に使用される **from-field** パケットマーキング カテゴリを指定できます。**from-field** パケットマーキング カテゴリ キーワードは以下のとおりです。

- 優先
- Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServe コード ポイント)
- Cost of Service (CoS; サービス コスト)
- QoS (Quality of Service) グループ

**from-field** カテゴリを指定したものの **table** キーワードと適用可能な **table-map-name** 引数を指定していない場合、デフォルト アクションは、CoS 値として **from-field** カテゴリに関連した値をコピーすることです。たとえば **set cos precedence** コマンドを設定する場合、**precedence** 値がコピーされ、CoS 値として使用されます。



DSCP マーキング カテゴリに対して同じことを行うことができます。つまり、**set cos dscp** コマンドを設定でき、DSCP 値がコピーされて CoS 値として使用されます。



(注) **set cos dscp** コマンドを設定する場合、DSCP フィールドの最初の3ビット（クラスセクタビット）が使用されます。



(注) **set cos qos group** コマンドを設定する場合、qos group フィールドの3つの最下位ビットのみが使用されます。

## 例

次に、**cos-set** というポリシー マップを設定し、別のトラフィック タイプの別の CoS に割り当てる例を示します。この例は、音声およびビデオデータのクラス マップがすでに作成されていることを想定しています。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# policy-map cos-set
Switch(config-pmap)# class voice
Switch(config-pmap-c)# set cos 1
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# class video-data
Switch(config-pmap-c)# set cos 2
Switch(config-pmap-c)# end
Switch#
```

次に、**policy-cos** というポリシー マップを設定し、**table-map1** というテーブル マップで定義された値を使用する例を示します。**table-map1** と呼ばれるテーブル マップが **table-map** (値マッピング) コマンドと共に前に作成されています。**table-map** (値マッピング) コマンドの詳細については、**table-map** (値マッピング) コマンド ページを参照してください。

次に、CoS 値の設定が **table-map1** に定義されている **precedence** 値に基づいている例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# policy-map policy-cos
Switch(config-pmap)# class class-default
Switch(config-pmap-c)# set cos precedence table table-map1
Switch(config-pmap-c)# end
Switch#
```

## 関連コマンド

[match](#) (クラスマップ コンフィギュレーション)  
[policy-map](#)  
[service-policy](#) (ポリシーマップ クラス)  
[set dscp](#)  
[set precedence](#)  
[show policy-map](#)

# set dscp

Type of service (ToS; タイプ オブ サービス) バイトで Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServe コード ポイント) を設定することでパケットをマーキングするには、ポリシーマップ クラス コンフィギュレーションモードで **set dscp** コマンドを使用します。以前に設定した DSCP 値を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
set [ip] dscp {dscp-value | from-field [table table-map-name]}
```

```
no set [ip] dscp {dscp-value | from-field [table table-map-name]}
```

## シンタックスの説明

<i>ip</i>	(任意) 一致は IPv4 パケットに対するもののみであることを指定します。使用されていない場合、一致は IPv4 と IPv6 パケットの両方に対するものです。
<i>dscp-value</i>	DSCP 値を設定する 0 ～ 63 の数字です。よく使用する値に対してニーモニック名を使用することができます。
<i>from-field</i>	パケットの DSCP 値を設定するのに使用される特定のパケットマーキング カテゴリ。パケットマーキング値のマッピングと変換用テーブル マップを使用している場合、これがパケットマーキング カテゴリからマップを確立します。パケットマーキング カテゴリ キーワードは以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>cos</i></li> <li>• <i>qos-group</i></li> <li>• <i>dscp</i></li> <li>• <i>precedence</i></li> </ul>
<i>table</i>	(任意) <i>from-field</i> 引数と共に使用します。指定のテーブル マップに設定された値が DSCP 値の設定に使用されることを示します。
<i>table-map-name</i>	(任意) <i>table</i> キーワードと共に使用します。DSCP 値の指定に使用されるテーブル マップ名です。名前には、最大 64 の英数字を使用できます。

## コマンドのデフォルト設定

ディセーブルです。

## コマンド モード

ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(40)SG	Supervisor Engine 6-E に設定されたポリシーマップの <i>from-field</i> のサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

DSCP ビットが設定されると、他の QoS (Quality Of Service) 機能がビット設定で動作することができます。

### 相互に排他的な DSCP と precedence

**set dscp** コマンドは、同じパケットをマーキングするために **set precedence** コマンドと共に使用することはできません。2 つの値 (DSCP および precedence 値) は相互に排他的です。パケットにはどちらか 1 つの値を持つことができますが、両方はできません。

このコマンドを使用して、DSCP 値のマッピングと設定に使用される **from-field** パケットマーキングカテゴリを指定することができます。**from-field** パケットマーキングカテゴリ キーワードは以下のとおりです。

- Class of Service (CoS; サービス クラス)
- QoS グループ
- precedence
- Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServe コードポイント)

**from-field** カテゴリを指定したものの **table** キーワードと適用可能な **table-map-name** 引数を指定していない場合、デフォルト アクションは、DSCP 値として **from-field** カテゴリに関連した値をコピーすることです。たとえば **set dscp cos** コマンドを設定する場合、CoS 値がコピーされ、DSCP 値として使用されます。



(注)

CoS フィールドは 3 ビット フィールドで、DCSP フィールドは 6 ビット フィールドです。**set dscp cos** コマンドを設定する場合、CoS フィールドの 3 ビットのみが使用されます。

たとえば **set dscp qos-group** コマンドを設定する場合、QoS グループがコピーされ、DSCP 値として使用されます。

DSCP の有効な値の範囲は 0 ~ 63 の数字です。QoS グループの有効な値の範囲は 0 ~ 63 の数字です。

#### IPv6 環境での DSCP 値の設定

このコマンドが IPv6 環境で使用される場合、デフォルトの一致が IP および IPv6 パケットで発生します。ただし、この機能によって設定される実際のパケットは、この機能を含むクラスマップの一致基準に合致するパケットのみです。

#### IPv6 パケットのみに対する DSCP 値の設定

IPv6 パケットのみに対して DSCP 値を設定するには、**match protocol ipv6** コマンドも使用しなければなりません。このコマンドを使用していない場合、DSCP は IPv4 と IPv6 パケットの両方に一致するデフォルトと一致します。

#### IPv4 パケットのみに対する DSCP 値の設定

IPv4 パケットのみに対して DSCP 値を設定するには、この分類に対して **match** コマンドで **ip** キーワードを使用します。**ip** キーワードを使用していない場合、IPv4 と IPv6 パケットの両方で一致が発生します。

#### 例

#### パケットマーキング値とテーブル マップ

以下の例では、**policy1** というポリシー マップが、**table-map1** というテーブル マップで定義されたパケットマーキング値を使用するために作成されます。すでにテーブル マップが **table-map1** (値マッピング) コマンドと共に作成されています。**table-map** (値マッピング) コマンドの詳細については、**table-map** (値マッピング) コマンド ページを参照してください。

次に、CoS 値の設定が `table-map1` と呼ばれるテーブル マップに定義されている CoS 値に基づいて設定されている例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# policy-map policy1
Switch(config-pmap)# class class-default
Switch(config-pmap-c)# set dscp cos table table-map1
Switch(config-pmap-c)# end
Switch#
```

---

**関連コマンド**

**match** (クラスマップ コンフィギュレーション)

**policy-map**

**service-policy** (ポリシーマップ クラス)

**set cos**

**set precedence**

**show policy-map**

**show policy-map interface**

**show table-map** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

**table-map** (値マッピング) (Cisco IOS のマニュアルを参照)

# set precedence

パケット ヘッダーに **precedence** 値を設定するには、ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション モードで **set precedence** コマンドを使用します。precedence 値を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
set precedence {precedence-value | from-field [table table-map-name]}
```

```
no set precedence {precedence-value | from-field [table table-map-name]}
```

## シンタックスの説明

<i>precedence-value</i>	パケット ヘッダーに precedence ビットを設定する 0 ~ 7 の数字です。
<i>from-field</i>	パケットの precedence 値を設定するのに使用される特定の packets マーキング カテゴリ。パケットマーキング値のマッピングと変換用テーブル マップを使用している場合、この引数値が packets マーキング カテゴリ からマップを確立します。パケットマーキング カテゴリ キーワードは以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>cos</i></li> <li>• <i>qos-group</i></li> <li>• <i>dscp</i></li> <li>• <i>precedence</i></li> </ul>
<i>table</i>	(任意) 指定のテーブル マップに設定された値が precedence 値の設定に使用されることを示します。
<i>table-map-name</i>	(任意) Class of Service (CoS; サービス クラス) 値に基づいて precedence 値を指定するのに使用されるテーブル マップ名です。名前には、最大 64 の英数字を使用できます。

## コマンドのデフォルト設定

ディセーブルです。

## コマンド モード

ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(40)SG	Supervisor Engine 6-E に設定されたポリシーマップの from-field のサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

### コマンドの互換性

**set precedence** コマンドは、同じパケットをマーキングするために **set dscp** コマンドと共に使用することはできません。2 つの値 (DSCP および precedence 値) は相互に排他的です。パケットにはどちらか 1 つの値を持つことができますが、両方はできません。

このコマンドを使用して、precedence 値のマッピングと設定に使用される from-field packets マーキング カテゴリを指定することができます。from-field packets マーキング カテゴリ キーワードは以下のとおりです。

- CoS
- QoS グループ
- DSCP

- precedence

from-field カテゴリを指定したものの **table** キーワードと適用可能な *table-map-name* 引数を指定しなかった場合、デフォルト アクションは、precedence 値として from-field カテゴリに関連した値をコピーすることです。たとえば **set precedence cos** コマンドを設定する場合、CoS 値がコピーされ、precedence 値として使用されます。

QoS グループマーキング カテゴリに対して同じことを行うことができます。つまり、**set precedence qos-group** コマンドを設定することができ、QoS グループ値がコピーされて precedence 値として使用されます。

precedence 値の有効な値の範囲は 0 ~ 7 の数字です。QoS グループの有効な値の範囲は 0 ~ 63 の数字です。したがって、**set precedence qos-group** コマンドを設定する場合、qos-group の 3 つの最下位ビットのみが precedence 値にコピーされます。

### IPv6 環境での precedence 値

このコマンドが IPv6 環境で使用される場合、IPv4 および IPv6 パケットに値を設定することができます。ただし、この機能によって設定される実際のパケットは、この機能を含むクラスマップの一致基準に合致するパケットのみです。

### IPv6 パケットのみに対する precedence 値の設定

IPv6 パケットのみに対して precedence 値を設定するには、このアクションに対して分類されているパケットのクラスマップで **match protocol ipv6** コマンドも使用しなければいけません。**match protocol ipv6** コマンドを使用しない場合、クラスマップは（他の一致基準に応じて）IPv6 および IPv4 パケットを分類することが可能で、**set precedence** コマンドも両方のタイプのパケットで機能します。

### IPv4 パケットのみに対する precedence 値の設定

IPv4 パケットにのみ precedence 値を設定するには、**match ip precedence** や **match ip dscp** コマンドなど、**ip** キーワードを含むコマンドを使用するか、他のコマンドと共に **match protocol ip** コマンドをクラスマップに含めます。追加の **ip** キーワードを使用しない場合、クラスマップは（他の一致基準に応じて）IPv6 および IPv4 パケットを一致させることが可能で、**set precedence** コマンドまたは **set dscp** コマンドも両方のタイプのパケットで機能します。

**例** 以下の例では、**policy-cos** というポリシー マップが、**table-map1** というテーブル マップで定義された値を使用するために作成されます。**table-map1** と呼ばれるテーブル マップが **table-map**（値マッピング）コマンドと共に前に作成されています。**table-map**（値マッピング）コマンドの詳細については、**table-map**（値マッピング）コマンド ページを参照してください。

次に、**table-map1** に定義されている CoS 値に従って precedence 値を設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# policy-map policy-cos
Switch(config-pmap)# class class-default
Switch(config-pmap-c)# set precedence cos table table-map1
Switch(config-pmap-c)# end
Switch#
```

**関連コマンド**

- match**（クラスマップ コンフィギュレーション）
- policy-map**
- service-policy**（ポリシーマップ クラス）
- set cos**
- set dscp**

[set qos-group](#)  
[set precedence](#)  
[show policy-map](#)  
[show policy-map interface](#)  
[show table-map](#) (Cisco IOS のマニュアルを参照)  
[table-map](#) (値マッピング) (Cisco IOS のマニュアルを参照)

## set qos-group

あとでパケットの分類に使用できる QoS (Quality Of Service) グループ ID を設定するには、ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション モードで **set qos-group** コマンドを使用します。グループ ID を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```

set qos-group group-id

no set qos-group group-id

```

シンタックスの説明	<i>group-id</i>	0 ~ 63 の範囲のグループ ID 番号
-----------	-----------------	-----------------------

コマンドのデフォルト設定	グループ ID は 0 に設定されています。
--------------	------------------------

コマンドモード	ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション
---------	-------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(40)SG	このコマンドが Supervisor Engine 6-E を使用した Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

使用上のガイドライン	<p><b>set qos-group</b> コマンドにより、グループ ID をパケットと関連付けることができます。この関連付けは、入力方向のインターフェイスや VLAN に対応付けられたサービスポリシーを通じて行われます。グループ ID は、あとで QoS サービス ポリシーをパケットに適用するために出力方向で使用することができます。</p>
------------	--

例	次に、qos group を 5 に設定する例を示します。
---	-------------------------------

```

Switch#configure terminal
Switch(config)#policy-map p1
Switch(config-pmap)#class c1
Switch(config-pmap-c)#set qos
Switch(config-pmap-c)#set qos-group 5
Switch(config-pmap-c)#end
Switch#

```

関連コマンド	<a href="#">match</a> (クラスマップ コンフィギュレーション) <a href="#">mls qos trust</a> (Cisco IOS のマニュアルを参照) <a href="#">policy-map</a> <a href="#">service-policy</a> (ポリシーマップ クラス) <a href="#">show policy-map</a> <a href="#">show policy-map interface</a>
--------	---

## shape (クラスベース キューイング)

物理ポートに対応付けられたポリシー マップ内でトラフィック クラスのトラフィック シェーピングをイネーブルにするには、**shape average** ポリシーマップ クラス コマンドを使用します。トラフィック シェーピングは、データ伝送レートを制限します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
shape average {rate} [bps | kbps | mbps | gbps]
```

```
shape average percent {percent_value}
```

```
no shape average
```

### シンタックスの説明

<i>rate</i>	トラフィック シェーピングの平均レートを指定します。有効値は 16,000 ~ 10,000,000,000 です。ポストフィックス表記法 (k、m、g) は任意で、小数点を使用できます。
<b>bps</b>	(任意) レートをビット / 秒単位で指定します。
<b>kbps</b>	(任意) レートをキロバイト / 秒単位で指定します。
<b>mbps</b>	(任意) レートをメガビット / 秒単位で指定します。
<b>gbps</b>	(任意) レートをギガビット / 秒単位で指定します。
<b>percent</b>	トラフィック シェーピングの帯域幅の割合を指定します。
<i>percent_value</i>	(任意) トラフィック シェーピングに使用する帯域幅の割合を指定します。有効値は 1 ~ 100% です。

### デフォルト

平均レート トラフィック シェーピングはディセーブルです。

### コマンド モード

ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドが Supervisor Engine 6E を使用する Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

物理ポートに対応付けられているポリシー マップ内でのみ **shape** コマンドを使用します。このコマンドは、階層の任意のレベルにあるポリシー マップで有効です。

シェーピングは、指定したプロファイルに適合するようにキュー内のプロファイル外パケットを遅延させる処理です。シェーピングはポリシングとは別のものです。ポリシングでは設定したしきい値を越えたパケットを廃棄しますが、シェーピングではトラフィックがしきい値内に収まるようにパケットをバッファリングします。シェーピングは、ポリシングに比べてトラフィックの処理が大幅に平滑化されます。

**bandwidth**、**dbl** および **shape** ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション コマンドと **priority** ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション コマンドを同じポリシー マップ内の同一クラスで使用することはできません。ただし、これらのコマンドを同じポリシー マップに使用することができます。

ポリシーマップ コンフィギュレーション モードに戻るには、**exit** コマンドを入力します。特権 EXEC モードに戻るには、**end** コマンドを使用します。



**例** 次に、指定したトラフィック クラスをデータ伝送レート 256 kbps に制限する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# policy-map policy1
Switch(config-pmap)# class class1
Switch(config-pmap-c)# shape average 256000
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# exit
Switch(config)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# service-policy output policy1
Switch(config-if)# end
```

**show policy-map** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

#### 関連コマンド

- bandwidth**
- class**
- policy-map**
- dbl**
- service-policy** (ポリシーマップクラス)
- show policy-map**

## shape (インターフェイス コンフィギュレーション)

インターフェイス上のトラフィック シェーピングを指定するには、**shape** コマンドを使用します。トラフィック シェーピングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**shape [rate] [percent]**

**no shape [rate] [percent]**

シンタックスの説明	rate	(任意) トラフィック シェーピングの平均レートを指定します。有効値は 16,000 ~ 1,000,000,000 です。ポストフィックス表記法 (k、m、g) は任意で、小数点を使用できます。
	percent	(任意) トラフィック シェーピングの帯域幅の割合を指定します。

**デフォルト** デフォルトでトラフィック シェーピングは設定されていません。

**コマンド モード** インターフェイス送信キュー コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

トラフィック シェーピングはすべてのポート上で使用可能で、帯域幅の上限を設定します。

Catalyst 4500 Supervisor Engine II-Plus-10GE (WS-X4013+10GE)、Catalyst 4500 Supervisor Engine V (WS-X4516)、および Catalyst 4500 Supervisor Engine V-10GE (WS-X4516-10GE) 上で高いシェープ レートを設定すると、コンテンションが発生した場合、または異常なサイズのパケットが伝送された場合には、シェーピングしたトラフィック レートが実現できないことがあります。スタブ ASIC の多重ポートおよびバックプレーン ギガポートに接続しているポート上で、8 メガビット (秒) 以上のシェーピング レートを設定すると、悪条件な環境によっては達成されないことがあります。バックプレーンのギガポートに直接接続しているポートまたはスーパーバイザ エンジンのギガポート上で、51 メガビット (秒) 以上のシェーピング レートを設定すると、悪条件な環境によっては達成されないことがあります。

次に、バックプレーンに直接接続しているポートの例を示します。

- Supervisor Engine II+, II+10GE, III, IV, V、および V-10GE 上のアップリンク ポート
- WS-X4306-GB モジュール上のポート
- WS-X4232-GB-RJ モジュール上の 2 つの 1000BASE-X ポート
- WS-X4418-GB モジュール上の最初の 2 つのポート
- WS-X4412-2GB-TX モジュール上の 2 つの 1000BASE-X ポート

24 ポート モジュールおよび 48 ポート モジュールのすべてのポートはスタブ ASIC で多重化されています。次に、スタブ ASIC で多重化されているポートの例を示します。

- WS-X4148-RJ45 モジュール上の 10/100 ポート
- WS-X4124-GB-RJ45 モジュール上の 10/100/1000 ポート
- WS-X4448-GB-RJ45 モジュール上の 10/100/1000 ポート

例 次に、インターフェイス fastethernet3/1 に最大帯域幅（70%）を設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet3/1
Switch(config-if)# tx-queue 3
Switch(config-if-tx-queue)# shape 70m
Switch(config-if-tx-queue)#
```

## show access-group mode interface

レイヤ2 インターフェイスの Access Control List (ACL; アクセスコントロールリスト) 設定を表示するには、**show access-group mode interface** コマンドを使用します。

```
show access-group mode interface [interface interface-number]
```

シンタックスの説明	<i>interface</i>	(任意) インターフェイス タイプです。有効値は <b>ethernet</b> 、 <b>fastethernet</b> 、 <b>gigabitethernet</b> 、 <b>tengigabitethernet</b> 、および <b>port-channel</b> です。
	<i>interface-number</i>	(任意) インターフェイス番号です。

デフォルト このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.2(25)EW	10 ギガビットイーサネットインターフェイスが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

使用上のガイドライン ポート番号の有効値は、使用するシャーシによって異なります。

例 次に、インターフェイス fa6/1 の ACL 設定を表示する例を示します。

```
Switch# show access-group mode interface fa6/1
Interface FastEthernet6/1:
  Access group mode is: merge
Switch#
```

関連コマンド [access-group mode](#)

## show adjacency

レイヤ 3 スイッチング隣接テーブルに関する情報を表示するには、**show adjacency** コマンドを使用します。

```
show adjacency [{interface interface-number} | {null interface-number} | {port-channel number} |
               {vlan vlan-id} | detail | internal | summary]
```

### シンタックスの説明

<i>interface</i>	(任意) インターフェイス タイプ。有効値は <b>ethernet</b> 、 <b>fastethernet</b> 、 <b>gigabitethernet</b> 、 <b>tengigabitethernet</b> 、 <b>pos</b> 、 <b>ge-wan</b> 、および <b>atm</b> です。
<i>interface-number</i>	(任意) モジュールおよびポートの番号。有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<i>null interface-number</i>	(任意) ヌル インターフェイスを指定します。有効値は <b>0</b> です。
<i>port-channel number</i>	(任意) チャンネル インターフェイスを指定します。有効値は 1 ~ 256 で、設定できるインターフェースの最大数は 64 です。
<i>vlan vlan-id</i>	(任意) VLAN (仮想 LAN) を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。
<b>detail</b>	(任意) プロトコルの詳細およびタイマーに関する情報を表示します。
<b>internal</b>	(任意) 内部データ構造に関する情報を表示します。
<b>summary</b>	(任意) CEF (シスコ エクスプレス フォワーディング) 隣接情報の概要を表示します。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンド モード

EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)EW	10 ギガビット イーサネット インターフェイスが追加されました。

### 使用上のガイドライン

*interface-number* 引数はモジュールおよびポート番号を指定します。*interface-number* の有効値は、指定されたインターフェイス タイプ、および使用するシャーシとモジュールによって異なります。たとえば、ギガビット イーサネット インターフェイスを指定し、13 スロット シャーシに 48 ポート 10/100 BASE-T イーサネット モジュールが搭載されている場合、モジュール番号の有効値は 1 ~ 13、ポート番号の有効値は 1 ~ 48 です。

ハードウェア レイヤ 3 スイッチング隣接統計情報は、60 秒間隔で更新されます。

次の情報は、**show adjacency** コマンドに含まれます。

- プロトコル インターフェイス
- インターフェイス上で設定されたルーティング プロトコル タイプ
- インターフェイス アドレス
- 学習された隣接への接続方法
- 隣接ルータの MAC (メディア アクセス制御) アドレス
- 隣接接続が隣接テーブルから出るまでの時間。隣接テーブルから出ると、パケットは宛先に対して同じネクスト ホップを使用する必要があります。

## 例

次に、隣接情報を表示する例を示します。

```
Switch# show adjacency
Protocol Interface          Address
IP       FastEthernet2/3      172.20.52.1(3045)
IP       FastEthernet2/3      172.20.52.22(11)
Switch#
```

次に、隣接情報の概要を表示する例を示します。

```
Switch# show adjacency summary
Adjacency Table has 2 adjacencies
  Interface          Adjacency Count
  FastEthernet2/3    2
Switch#
```

次に、プロトコルの詳細およびタイマーに関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show adjacency detail
Protocol Interface          Address
IP       FastEthernet2/3      172.20.52.1(3045)
                                                0 packets, 0 bytes
                                                000000000FF920000380000000000000
                                                00000000000000000000000000000000
                                                00605C865B2800D0BB0F980B0800
ARP      03:58:12
IP       FastEthernet2/3      172.20.52.22(11)
                                                0 packets, 0 bytes
                                                000000000FF920000380000000000000
                                                00000000000000000000000000000000
                                                00801C93804000D0BB0F980B0800
ARP      03:58:06
Switch#
```

次に、特定のインターフェイスの隣接情報を表示する例を示します。

```
Switch# show adjacency fastethernet2/3
Protocol Interface          Address
IP       FastEthernet2/3      172.20.52.1(3045)
IP       FastEthernet2/3      172.20.52.22(11)
Switch#
```

## 関連コマンド

[debug adjacency](#)

# show arp access-list

Address Resolution Protocol (ARP; アドレス レゾリューション プロトコル) アクセス リストの詳細を表示するには、**show arp** コマンドを使用します。

**show arp access-list**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、スイッチの ARP Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) 情報を表示する例を示します。

```
Switch# show arp access-list
ARP access list rose
  permit ip 10.101.1.1 0.0.0.255 mac any
  permit ip 20.3.1.0 0.0.0.255 mac any
```

**関連コマンド**

- [access-group mode](#)
- [arp access-list](#)
- [ip arp inspection filter vlan](#)

# show auto install status

自動インストールのステータスを表示するには、**show auto install status** コマンドを使用します。

**show auto install status**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(20)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、Trivial File Transfer Protocol (TFTP; 簡易ファイル転送プロトコル) の IP アドレスを表示して、現在スイッチが TFTP サーバからコンフィギュレーション ファイルを取得しているかどうかを表示する例を示します。

```
Switch# show auto install status

Status           : Downloading config file
DHCP Server      : 20.0.0.1
TFTP Server      : 30.0.0.3
Config File Fetched : Undetermined
```

表示の最初の IP アドレスは自動インストールに使用するサーバです。2 番目の IP アドレスは、コンフィギュレーション ファイルを提供する TFTP サーバです。

# show auto qos

適用されている Auto-Quality of Service (Auto-QoS) 設定を表示するには、**show auto qos** ユーザ EXEC コマンドを使用します。

```
show auto qos [interface interface-id] [{begin | exclude | include} expression]
```

シンタックスの説明	
<b>interface</b> <i>interface-id</i>	(任意) 指定されたインターフェイスまたはすべてのインターフェイスの Auto-QoS 情報を表示します。有効なインターフェイスは物理ポートなどです。
<b>begin</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行から表示を開始します。
<b>exclude</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行を除外します。
<b>include</b>	(任意) 指定された <i>expression</i> と一致する行を含めます。
<i>expression</i>	(任意) 参照ポイントとして使用する出力内の式です。

**コマンド モード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** **show auto qos interface interface-id** コマンドでは Auto-QoS の設定を表示しますが、ユーザが行った設定の変更は、有効な変更であっても表示されません。

Auto-QoS の影響を受ける可能性のある QoS 設定の情報を Supervisor Engine 6-E 以外で表示するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

- **show qos**
- **show qos map**
- **show qos interface interface-id**
- **show running-config**

文字列では大文字と小文字が区別されます。たとえば、**exclude output** と入力した場合、*output* を含む行は表示されませんが、*Output* を含む行は表示されます。

**例** 次に、Auto-QoS がイネーブルに設定されている場合の **show auto qos** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show auto qos
GigabitEthernet1/2
auto qos voip cisco-phone
Switch#
```

**関連コマンド** [auto qos voip](#)



## show bootflash:

bootflash: ファイルシステムに関する情報を表示するには、**show bootflash:** コマンドを使用します。

**show bootflash:** [all | chips | fileys]

### シンタックスの説明

<b>all</b>	(任意) 使用可能なすべてのフラッシュ情報を表示します。
<b>chips</b>	(任意) フラッシュチップ情報を表示します。
<b>fileys</b>	(任意) ファイルシステム情報を表示します。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

### 例

次に、ファイルシステムステータス情報を表示する例を示します。

```
Switch> show bootflash: fileys

----- F I L E   S Y S T E M   S T A T U S -----
Device Number = 0
DEVICE INFO BLOCK: bootflash
  Magic Number          = 6887635   File System Vers = 10000   (1.0)
  Length                = 1000000   Sector Size      = 40000
  Programming Algorithm = 39       Erased State     = FFFFFFFF
  File System Offset    = 40000    Length = F40000
  MONLIB Offset        = 100       Length = C628
  Bad Sector Map Offset = 3FFF8    Length = 8
  Squeeze Log Offset   = F80000   Length = 40000
  Squeeze Buffer Offset = FC0000   Length = 40000
  Num Spare Sectors    = 0
  Spares:
STATUS INFO:
  Writable
  NO File Open for Write
  Complete Stats
  No Unrecovered Errors
  No Squeeze in progress
USAGE INFO:
  Bytes Used           = 917CE8   Bytes Available = 628318
  Bad Sectors          = 0       Spared Sectors  = 0
  OK Files             = 2       Bytes = 917BE8
  Deleted Files        = 0       Bytes = 0
  Files w/Errors       = 0       Bytes = 0
Switch>
```

次に、システムイメージ情報を表示する例を示します。

```
Switch> show bootflash:
-# - ED --type-- --crc--- -seek-- nlen -length- -----date/time----- name
1  .. image   8C5A393A 237E3C  14 2063804 Aug 23 1999 16:18:45 c4-boot-mz
2  .. image   D86EE0AD 957CE8   9 7470636 Sep 20 1999 13:48:49 rp.halley
Switch>
```

## ■ show bootflash:

次に、すべてのブートフラッシュ情報を表示する例を示します。

```
Switch> show bootflash: all
-# - ED --type-- --crc--- -seek-- nlen -length- -----date/time----- name
1  .. image      8C5A393A  237E3C   14  2063804 Aug 23 1999 16:18:45 c4-boot-
mz
2  .. image      D86EE0AD  957CE8    9  7470636 Sep 20 1999 13:48:49 rp.halley

6456088 bytes available (9534696 bytes used)

----- F I L E   S Y S T E M   S T A T U S -----
Device Number = 0
DEVICE INFO BLOCK: bootflash
Magic Number      = 6887635   File System Vers = 10000   (1.0)
Length            = 1000000   Sector Size      = 40000
Programming Algorithm = 39     Erased State     = FFFFFFFF
File System Offset = 40000    Length = F40000
MONLIB Offset     = 100      Length = C628
Bad Sector Map Offset = 3FFF8    Length = 8
Squeeze Log Offset = F80000   Length = 40000
Squeeze Buffer Offset = FC0000   Length = 40000
Num Spare Sectors = 0

Spares:
STATUS INFO:
Writable
NO File Open for Write
Complete Stats
No Unrecovered Errors
No Squeeze in progress
USAGE INFO:
Bytes Used      = 917CE8   Bytes Available = 628318
Bad Sectors     = 0       Spared Sectors  = 0
OK Files        = 2       Bytes = 917BE8
Deleted Files   = 0       Bytes = 0
Files w/Errors  = 0       Bytes = 0
Switch>
```

# show bootvar

BOOT 環境変数情報を表示するには、**show bootvar** コマンドを使用します。

**show bootvar**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、BOOT 環境変数情報を表示する例を示します。

```
Switch# show bootvar
BOOT variable = sup:1;
CONFIG_FILE variable does not exist
BOOTLDR variable does not exist
Configuration register is 0x0
Switch#
```

## show cable-diagnostics tdr

TDR ケーブル診断テストの結果を表示するには、**show cable-diagnostics tdr** コマンドを使用します。

```
show cable-diagnostics tdr {interface {interface interface-number}}
```



(注)

このコマンドは、将来の Cisco IOS リリースでは廃止される予定です。**diagnostic start** コマンドを使用してください。

### シンタックスの説明

**interface interface** (任意) インターフェイス タイプです。有効値は **fastethernet** および **gigabitethernet** です。

**interface-number** モジュールおよびポート番号です。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

特権 EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

TDR テストは、Cisco IOS Release 12.2(25)SG を実行する Catalyst 4500 シリーズ スイッチにおいて、以下のラインカードのみでサポートされます。

- WS-X4548-GB-RJ45
- WS-X4548-GB-RJ45V
- WS-X4524-GB-RJ45V
- WS-X4013+TS
- WS-C4948
- WS-C4948-10GE

障害箇所までの距離は、メートル (m) 単位で表示されます。

### 例

次に、TDR テストに関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show cable-diagnostics tdr interface gi4/13
Interface Speed Local pair Cable length Remote channel Status
Gi4/13 0Mbps 1-2 102 +-2m Unknown Fault
          3-6 100 +-2m Unknown Fault
          4-5 102 +-2m Unknown Fault
          7-8 102 +-2m Unknown Fault
Switch#
```

表 2-13 に、`show cable-diagnostics tdr` コマンド出力に含まれるフィールドの説明を示します。

表 2-13 show cable-diagnostics tdr コマンドの出力フィールド

フィールド	説明
Interface	テスト対象のインターフェイス
Speed	現在の回線速度
Pair	ローカル ペアの名前
Cable Length	障害箇所までの距離 (m)
Channel	ペアの指定 (A、B、C、または D)
Status	次のいずれかのペア ステータスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>Terminated — リンクは稼働しています。</li><li>Fault — ケーブルに障害が発生しています (オープンまたはショート)。</li></ul>

#### 関連コマンド

[test cable-diagnostics tdr](#)

# show cdp neighbors

CDP (シスコ検出プロトコル) によって検索された近接装置に関する詳細情報を表示するには、**show cdp neighbors** コマンドを使用します。

```
show cdp neighbors [type number] [detail]
```

シンタックスの説明	
<i>type</i>	(任意) 必要な情報を持ったネイバに接続されたインターフェイス タイプ。有効値は <b>ethernet</b> 、 <b>fastethernet</b> 、 <b>gigabitethernet</b> 、 <b>tengigabitethernet</b> 、 <b>port-channel</b> 、および <b>vlan</b> です。
<i>number</i>	(任意) 必要な情報を持ったネイバに接続されたインターフェイス番号です。
<b>detail</b>	(任意) ネットワーク アドレス、イネーブル化されたプロトコル、保持時間、ソフトウェア バージョンを含めたネイバに関する詳細情報を表示します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(25)EW	10 ギガビット イーサネット インターフェイスが追加されました。

**使用上のガイドライン** **vlan** キーワードは、Supervisor Engine 2 を搭載した Catalyst 4500 シリーズ スイッチでサポートされます。

**port-channel** 値は 0 ~ 282 です。257 ~ 282 の値は CSM および FWSM でのみ、サポートされます。

**例** 次に、CDP ネイバに関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show cdp neighbors
Capability Codes: R - Router, T - Trans Bridge, B - Source Route Bridge
                  S - Switch, H - Host, I - IGMP, r - Repeater, P - Phone
Device ID        Local Intrfce   Holdtme    Capability  Platform  Port ID
lab-7206         Eth 0          157        R           7206VXR   Fas 0/0/0
lab-as5300-1     Eth 0          163        R           AS5300    Fas 0
lab-as5300-2     Eth 0          159        R           AS5300    Eth 0
lab-as5300-3     Eth 0          122        R           AS5300    Eth 0
lab-as5300-4     Eth 0          132        R           AS5300    Fas 0/0
lab-3621         Eth 0          140        R S        3631-telcoFas 0/0
008024 2758E0    Eth 0          132        T           CAT3000   1/2
Switch#
```

表 2-14 に、この例で表示されるフィールドの説明を示します。

表 2-14 show cdp neighbors のフィールドの説明

フィールド	定義
Device ID	設定された ID (名前)、MAC (メディア アクセス制御) アドレス、またはネイバ装置のシリアル番号
Local Intrfce	(ローカル インターフェイス) 接続媒体により使用されるプロトコル
Holdtme	(保持時間) 現在の装置が CDP アドバタイズを廃棄する前に送信ルータから CDP アドバタイズを保持する秒単位の時間の残量。
Capability	装置で検出される機能コード。この装置タイプは CDP ネイバ テーブルに表示されます。可能な値は次のとおりです。 R — ルータ T — トランスペアレントブリッジ B — 送信元ルーティングブリッジ S — スイッチ H — ホスト I — IGMP デバイス r — リピータ P — 電話
Platform	装置の製品番号
Port ID	装置のプロトコルおよびポートの番号

次に、CDP ネイバに関する詳細情報を表示する例を示します。

```
Switch# show cdp neighbors detail
-----
Device ID: lab-7206
Entry address(es):
  IP address: 172.19.169.83
Platform: cisco 7206VXR, Capabilities: Router
Interface: Ethernet0, Port ID (outgoing port): FastEthernet0/0/0
Holdtime : 123 sec

Version :
Cisco Internetwork Operating System Software
IOS (tm) 5800 Software (C5800-P4-M), Version 12.1(2)
Copyright (c) 1986-2002 by Cisco Systems, Inc.

advertisement version: 2
Duplex: half

-----
Device ID: lab-as5300-1
Entry address(es):
  IP address: 172.19.169.87
.
.
.
Switch#
```

表 2-15 に、この例で表示されるフィールドの説明を示します。

**表 2-15 show cdp neighbors のフィールドの詳細な説明**

フィールド	定義
Device ID	ネイバ装置の名前、およびこの装置の MAC アドレスまたはシリアル番号
Entry address(es)	ネイバ装置のネットワーク アドレスのリスト
[network protocol] address	ネイバ装置のネットワーク アドレス。アドレスは IP、IPX、AppleTalk、DECnet、または CLNS（コネクションレス型ネットワーク サービス）プロトコルの仕様で表記できます。
Platform	ネイバ装置の製品名および番号
Capabilities	ネイバの装置タイプ。この装置はルータ、ブリッジ、トランスペアレントブリッジ、送信元ルーティングブリッジ、スイッチ、ホスト、IGMP 装置、またはリピーターになることができます。
Interface	現在の装置上のプロトコルおよびポートの番号
Holdtime	現在の装置が CDP アドバタイズを廃棄する前に送信ルータの CDP アドバタイズを保持する秒単位の時間の残量。
Version	ネイバ装置で稼働するソフトウェアバージョン
advertisement version	CDP アドバタイズに使用されている CDP のバージョン
Duplex	現在の装置とネイバ装置間の接続のデュプレックスステート

#### 関連コマンド

- show cdp** (Cisco IOS のマニュアルを参照)
- show cdp entry** (Cisco IOS のマニュアルを参照)
- show cdp interface** (Cisco IOS のマニュアルを参照)
- show cdp traffic** (Cisco IOS のマニュアルを参照)



# show class-map

クラス マップ情報を表示するには、**show class-map** コマンドを使用します。

```
show class-map class_name
```

シンタックスの説明	<i>class_name</i> クラス マップ名です。						
デフォルト	このコマンドにデフォルト設定はありません。						
コマンドモード	特権 EXEC モード						
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12.1(8a)EW</td> <td>このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。</td> </tr> <tr> <td>12.2(25)SG</td> <td>完全なフロー オプションの結果を表示します。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。	12.2(25)SG	完全なフロー オプションの結果を表示します。
リリース	変更内容						
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。						
12.2(25)SG	完全なフロー オプションの結果を表示します。						

**例** 次に、すべてのクラス マップに関するクラス マップ情報を表示する例を示します。

```
Switch# show class-map
Class Map match-any class-default (id 0)
  Match any
Class Map match-any class-simple (id 2)
  Match any
Class Map match-all ipp5 (id 1)
  Match ip precedence 5
Class Map match-all agg-2 (id 3)
Switch#
```

次に、特定のクラス マップに関するクラス マップ情報を表示する例を示します。

```
Switch# show class-map ipp5
Class Map match-all ipp5 (id 1)
  Match ip precedence 5
Switch#
```

インターフェイス fastethernet 6/1 上で、次のようなアクティブなフローが 2 つ存在すると想定します。

SrcIp	DstIp	IpProt	SrcL4Port	DstL4Port
192.168.10.10	192.168.20.20	20	6789	81
192.168.10.10	192.168.20.20	20	6789	21

以下の設定では、各フローは 1,000,000 bps、および 9,000 バイトの許可バースト値としてポリシングされます。



(注) **match flow ip source-address|destination-address** コマンドを使用すると、この2つのフローは、送信元および宛先アドレスが同じである1つのフローとして統合されます。

```
Switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
Switch(config)# class-map c1
Switch(config-cmap)# match flow ip source-address ip destination-address ip protocol
l4 source-port l4 destination-port
Switch(config-cmap)# exit
Switch(config)# policy-map p1
Switch(config-pmap)# class c1
Switch(config-pmap-c)# police 1000000 9000
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# exit
Switch(config)# interface fastEthernet 6/1
Switch(config-if)# service-policy input p1
Switch(config-if)# end
Switch# write memory
Switch# show policy-map interface
FastEthernet6/1

class-map c1
  match flow  ip source-address ip destination-address ip protocol l4 source-port l4
  destination-port
  !
  policy-map p1
    class c1
      police 1000000 bps 9000 byte conform-action transmit exceed-action drop
  !
interface FastEthernet 6/1
  service-policy input p1

Switch# show class-map c1
Class Map match-all c1 (id 2)
  Match flow  ip source-address ip destination-address ip protocol l4 source-port l4
  destination-port
Switch#
```

#### 関連コマンド

[class-map](#)  
[show policy-map](#)  
[show policy-map interface](#)

# show diagnostic content

各テストおよびすべてのモジュールのテスト ID、テスト属性、およびサポート対象範囲のテストレベルに関するテスト情報を表示するには、**show diagnostic content** コマンドを使用します。

```
show diagnostic content module {all | num}
```

シンタックスの説明	all	num
	シャーンシ上のすべてのモジュールを表示します。	モジュール番号です。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(20)EWA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、シャーンシのすべてのモジュールのテストスイート、モニタリングインターバルおよびテスト属性を表示する例を示します。

```
Switch# show diagnostic content module all

module 1:

Diagnostics test suite attributes:
  B/* - Basic ondemand test / NA
  P/V/* - Per port test / Per device test / NA
  D/N/* - Disruptive test / Non-disruptive test / NA
  S/* - Only applicable to standby unit / NA
  X/* - Not a health monitoring test / NA
  F/* - Fixed monitoring interval test / NA
  E/* - Always enabled monitoring test / NA
  A/I - Monitoring is active / Monitoring is inactive
  m/* - Mandatory bootup test, can't be bypassed / NA
  o/* - Ongoing test, always active / NA

ID      Test Name                               Attributes      Testing Interval
====  =====
1) supervisor-bootup -----> **D***I**      not configured
2) packet-memory-bootup -----> **D***I**      not configured
3) packet-memory-ongoing -----> **N***I*o      not configured
```

```
module 6:

Diagnostics test suite attributes:
  B/* - Basic ondemand test / NA
  P/V/* - Per port test / Per device test / NA
  D/N/* - Disruptive test / Non-disruptive test / NA
  S/* - Only applicable to standby unit / NA
  X/* - Not a health monitoring test / NA
  F/* - Fixed monitoring interval test / NA
  E/* - Always enabled monitoring test / NA
  A/I - Monitoring is active / Monitoring is inactive
  m/* - Mandatory bootup test, can't be bypassed / NA
  o/* - Ongoing test, always active / NA
```

## ■ show diagnostic result module

```

                                Testing Interval
ID   Test Name                      Attributes  (day hh:mm:ss.ms)
=====
1) linecard-online-diag -----> **D***I**  not configured

```

Switch#

## 関連コマンド

[show diagnostic result module](#)  
[show diagnostic result module test 2](#)  
[show diagnostic result module test 3](#)

## show diagnostic result module

診断テストの結果をモジュールベースで表示するには、**show diagnostic result module** コマンドを使用します。

```
show diagnostic result module [slot-num | all] [test [test-id | test-id-range | all]] [detail]
```

## シンタックスの説明

<i>slot-num</i>	(任意) 診断結果を表示するスロットを指定します。
<b>all</b>	(任意) すべてのスロットの診断結果を表示します。
<b>test</b>	(任意) 指定したモジュールで選択したテストを表示します。
<i>test-id</i>	(任意) テスト ID を 1 つ指定します。
<i>test-id-range</i>	(任意) テスト ID の範囲を指定します。
<b>all</b>	(任意) すべてのテストの診断結果を表示します。
<b>detail</b>	(任意) 完了したテストを表示します。

## デフォルト

シャーシ内にあるすべてのモジュールのテスト結果の概要が表示されます。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

例 次に、シャーシ内にあるすべてのモジュールの診断結果の概要を表示する例を示します。

```
Switch# show diagnostic result module

Current bootup diagnostic level: minimal

module 1:

  Overall diagnostic result: PASS
  Diagnostic level at card bootup: bypass

  Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)

    1) supervisor-bootup -----> U
    2) packet-memory-bootup -----> U
    3) packet-memory-ongoing -----> U

module 4:

  Overall diagnostic result: PASS
  Diagnostic level at card bootup: minimal

  Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)

    1) linecard-online-diag -----> .

module 5:

  Overall diagnostic result: PASS
  Diagnostic level at card bootup: minimal

  Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)

    1) linecard-online-diag -----> .

module 6:

  Overall diagnostic result: PASS
  Diagnostic level at card bootup: minimal

  Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)

    1) linecard-online-diag -----> .
```

次に、モジュール 1 のオンライン診断情報を表示する例を示します。

```
Switch# show diagnostic result module 1 detail

Current bootup diagnostic level: minimal

module 1:

Overall diagnostic result: PASS
Diagnostic level at card bootup: minimal

Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)

-----

1) supervisor-bootup -----> .

      Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
      Total run count -----> 0
      Last test execution time -----> n/a
      First test failure time -----> n/a
      Last test failure time -----> n/a
      Last test pass time -----> n/a
      Total failure count -----> 0
      Consecutive failure count -----> 0

Power-On-Self-Test Results for ACTIVE Supervisor

Power-on-self-test for Module 1: WS-X4014
Port/Test Status: (. = Pass, F = Fail)
Reset Reason: PowerUp Software/User

Port Traffic: L2 Serdes Loopback ...
0: . 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: .
12: . 13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: .
24: . 25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: .

Port Traffic: L2 Asic Loopback ...
0: . 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: .
12: . 13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: .
24: . 25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: .

Port Traffic: L3 Asic Loopback ...
0: . 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: .
12: . 13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: .
24: . 25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . au: .

Switch Subsystem Memory ...
1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: . 12: .
13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: . 24: .
25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . 32: . 33: . 34: . 35: . 36: .
37: . 38: . 39: . 40: . 41: . 42: . 43: . 44: . 45: . 46: . 47: . 48: .
49: . 50: . 51: . 52: . 53: . 54: .

Module 1 Passed

-----

2) packet-memory-bootup -----> .
```

```

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 0
Last test execution time -----> n/a
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> n/a
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count -----> 0
packet buffers on free list: 64557 bad: 0 used for ongoing tests: 979

```

```

Number of errors found: 0
Cells with hard errors (failed two or more tests): 0
Cells with soft errors (failed one test, includes hard): 0
Suspect bad cells (uses a block that tested bad): 0
total buffers: 65536
bad buffers: 0 (0.0%)
good buffers: 65536 (100.0%)
Bootup test results:1
No errors.

```

---

```

3) packet-memory-ongoing -----> U

```

```

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 0
Last test execution time -----> n/a
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> n/a
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count -----> 0
packet buffers on free list: 64557 bad: 0 used for ongoing tests: 979

```

```

Packet memory errors: 0 0
Current alert level: green
Per 5 seconds in the last minute:
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
 0 0
Per minute in the last hour:
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Per hour in the last day:
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
 0 0 0 0
Per day in the last 30 days:
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Direct memory test failures per minute in the last hour:
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Potential false positives: 0 0
Ignored because of rx errors: 0 0
Ignored because of cdm fifo overrun: 0 0
Ignored because of oir: 0 0
Ignored because isl frames received: 0 0

```

## ■ show diagnostic result module test

```

Ignored during boot: 0 0
Ignored after writing hw stats: 0 0
Ignored on high gigaport: 0
Ongoing diag action mode: Normal
Last 1000 Memory Test Failures:
Last 1000 Packet Memory errors:
First 1000 Packet Memory errors:

```

---

Switch#

## show diagnostic result module test

起動時パケットメモリテストの結果を表示するには、**show diagnostic result module test** コマンドを使用します。出力は、テストに合格、失敗、または実行されなかったかのいずれかを示します。

```
show diagnostic result module [N | all] [test test-id] [detail]
```

### シンタックスの説明

<b>N</b>	モジュール番号を指定します。
<b>all</b>	すべてのモジュールを指定します。
<b>test test-id</b>	プラットフォームでの TDR テスト番号を指定します。
<b>detail</b>	(任意) 分析に関する詳細情報の表示を指定します。 このオプションは推奨されます。

### デフォルト

簡潔な結果を表示します。

### コマンドモード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

**detail** キーワードは、障害の分析時にシスコサポート担当者が使用するためのものです。

### 例

次に、起動時パケットメモリテストの結果を表示する例を示します。

```

Switch# show diagnostic result module 6 detail

module 6:

  Overall diagnostic result:PASS

  Test results:(. = Pass, F = Fail, U = Untested)

```



```

1) linecard-online-diag -----> .
      Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
      Total run count -----> 1
      Last test execution time -----> Jan 21 2001 19:48:30
      First test failure time -----> n/a
      Last test failure time -----> n/a
      Last test pass time -----> Jan 21 2001 19:48:30
      Total failure count -----> 0
      Consecutive failure count -----> 0

```

Slot	Ports	Card Type	Diag Status	Diag Details
6	48	10/100/1000BaseT (RJ45)V, Cisco/IEEE	Passed	None

## Detailed Status

```

-----
. = Pass          U = Unknown
L = Loopback failure  S = Stub failure
I = Ilc failure     P = Port failure
E = SEEPROM failure  G = GBIC integrity check failure

```

```

Ports 1  2  3  4  5  6  7  8  9  10 11 12 13 14 15 16
      .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .

Ports 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32
      .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .

Ports 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
      .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .

```

## 2) online-diag-tdr:

```

Port  1  2  3  4  5  6  7  8  9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
-----
      .  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U

Port 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
-----
      U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U

```

```

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 1
Last test execution time -----> Jan 22 2001 03:01:54
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> Jan 22 2001 03:01:54
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count -----> 0

```

## Detailed Status

```

-----
TDR test is in progress on interface Gi6/1

```

Switch#

## 関連コマンド

[diagnostic start](#)

# show diagnostic result module test 2

起動時パケット メモリ テストの結果を表示するには、**show diagnostic result module test 2** コマンドを使用します。出力は、テストに合格、失敗、または実行されなかったかのいずれかを示します。

**show diagnostic result module *N* test 2 [detail]**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>N</i>	モジュール番号を指定します。
<b>detail</b>		(任意) 分析に関する詳細情報の表示を指定します。

**デフォルト** 簡潔な結果を表示します。

**コマンドモード** EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** **detail** キーワードは、障害の分析時にシスコサポート担当者が使用するためのものです。

**例** 次に、起動時パケット メモリ テストの結果を表示する例を示します。

```
Switch# show diagnostic result module 1 test 2

Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)

    2) packet-memory-bootup -----> .
```

次に、起動時パケット メモリ テストの詳細な結果を表示する例を示します。

```
Switch# show diagnostic result module 2 test 2 detail

Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)

-----

    2) packet-memory-bootup -----> .

        Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
        Total run count -----> 0
        Last test execution time ----> n/a
        First test failure time ----> n/a
        Last test failure time ----> n/a
        Last test pass time -----> n/a
        Total failure count -----> 0
        Consecutive failure count ----> 0
packet buffers on free list: 64557 bad: 0 used for ongoing tests: 979

Number of errors found: 0
Cells with hard errors (failed two or more tests): 0
Cells with soft errors (failed one test, includes hard): 0
Suspect bad cells (uses a block that tested bad): 0
total buffers: 65536
bad buffers: 0 (0.0%)
good buffers: 65536 (100.0%)
Bootup test results:
No errors.
```

関連コマンド [diagnostic monitor action](#)  
[show diagnostic result module test 3](#)

## show diagnostic result module test 3

実行中のパケットメモリテストの結果を表示するには、**show diagnostic result module test 3** コマンドを使用します。出力は、テストに合格、失敗、または実行されなかったかのいずれかを示します。

**show diagnostic result module *N* test 3 [detail]**

シンタックスの説明	<i>N</i>	モジュール番号です。
	<b>detail</b>	(任意) 分析に関する詳細情報の表示を指定します。

デフォルト 簡潔な結果を表示します。

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

使用上のガイドライン **detail** キーワードは、障害の分析時にシスコサポート担当者が使用するためのものです。

例 次に、実行中のパケットメモリテストの結果を表示する例を示します。

```
Switch# show diagnostic result module 1 test 3
Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)
3) packet-memory-ongoing -----> .
```

## ■ show diagnostic result module test 3

次に、実行中のパケット メモリ テストの詳細な結果を表示する例を示します。

```
Switch# show diagnostic result module 1 test 3 detail
```

```
Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)
```

```

-----
3) packet-memory-ongoing -----> .

    Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
    Total run count -----> 0
    Last test execution time -----> n/a
    First test failure time -----> n/a
    Last test failure time -----> n/a
    Last test pass time -----> n/a
    Total failure count -----> 0
    Consecutive failure count ---> 0
packet buffers on free list: 64557 bad: 0 used for ongoing tests: 979

Packet memory errors: 0 0
Current alert level: green
Per 5 seconds in the last minute:
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
    0 0
Per minute in the last hour:
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Per hour in the last day:
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
    0 0 0 0
Per day in the last 30 days:
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Direct memory test failures per minute in the last hour:
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
    0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Potential false positives: 0 0
    Ignored because of rx errors: 0 0
    Ignored because of cdm fifo overrun: 0 0
    Ignored because of oir: 0 0
    Ignored because isl frames received: 0 0
    Ignored during boot: 0 0
    Ignored after writing hw stats: 0 0
    Ignored on high gigaport: 0
Ongoing diag action mode: Normal
Last 1000 Memory Test Failures: v
Last 1000 Packet Memory errors:
First 1000 Packet Memory errors:

```

## 関連コマンド

[diagnostic monitor action](#)

[show diagnostic result module test 2](#)

# show dot1x

スイッチ全体、または指定したインターフェイスの 802.1x 統計情報および動作ステータスを表示するには、**show dot1x** コマンドを使用します。

```
show dot1x [interface interface-id] | [statistics [interface interface-id]] | [all]
```

シンタックスの説明	
<b>interface interface-id</b>	(任意) 指定されたポートの 802.1x ステータスを表示します。
<b>statistics</b>	(任意) スイッチまたは指定されたインターフェイスの 802.1x 統計情報を表示します。
<b>all</b>	(任意) デフォルト以外の 802.1x コンフィギュレーションを持つすべてのインターフェイスについて、802.1x コンフィギュレーション情報をインターフェイス単位で表示します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.1(19)EW	ゲスト VLAN (仮想 LAN) を表示するように拡張されました。
	12.2(25)EW	10 ギガビット イーサネット インターフェイスが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.2(25)EWA	現在割り当てられている再認証タイマー (このタイマーが <b>Session-Timeout</b> 値に従うように設定されている場合) のサポートが追加されました。
	12.2(31)SG	ポートの方向制御およびクリティカル回復のサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** インターフェイスを指定しない場合は、グローバル パラメータおよびサマリーが表示されます。インターフェイスを指定した場合は、該当するインターフェイスの詳細が表示されます。

**interface** オプションを指定せずに **statistics** キーワードを指定すると、すべてのインターフェイスの統計情報が表示されます。**statistics** キーワードとともに **interface** オプションを指定すると、指定のインターフェイスに対する統計情報が表示されます。

文字列では大文字と小文字が区別されます。たとえば、**exclude output** と入力した場合、**output** を含む行は表示されませんが、**Output** を含む行は表示されます。

**show dot1x** コマンドでは、再認証がイネーブルになっている場合、現在割り当てられている再認証タイマー、および再認証が行われるまでのタイマーの残存時間が表示されます。

**例** 次に、**show dot1x** コマンドの出力を表示する例を示します。

```
Switch# show dot1x
Sysauthcontrol = Disabled
Dot1x Protocol Version = 2
Dot1x Oper Controlled Directions = Both
Dot1x Admin Controlled Directions = Both
Critical Recovery Delay = 500
Critical EAP = Enabled
Switch#
```

次に、特定のポートの 802.1x 統計情報を表示する例を示します。

```
Switch# show dot1x interface fastethernet6/1
Dot1x Info for FastEthernet6/1
-----
PAE = AUTHENTICATOR
PortControl = AUTO
ControlDirection = Both
HostMode = MULTI_DOMAIN
ReAuthentication = Disabled
QuietPeriod = 60
ServerTimeout = 30
SuppTimeout = 30
ReAuthPeriod = 3600 (Locally configured)
ReAuthMax = 2
MaxReq = 2
TxPeriod = 30
RateLimitPeriod = 0

Dot1x Authenticator Client List
-----
Domain = DATA
Supplicant = 0000.0000.ab01
    Auth SM State = AUTHENTICATED
    Auth BEND SM Stat = IDLE

Port Status = AUTHORIZED
Authentication Method = Dot1x
Authorized By = Authentication Server
Vlan Policy = 12

Domain = VOICE
Supplicant = 0060.b057.4687
    Auth SM State = AUTHENTICATED
    Auth BEND SM Stat = IDLE
Port Status = AUTHORIZED
Authentication Method = Dot1x
Authorized By = Authentication Server

Switch#
```



(注)

表 2-16 に、出力フィールドの一部を示します。出力の残りのフィールドには、内部状態に関する情報が表示されます。これらのステート マシンおよび設定の詳細については、802.1x の仕様を参照してください。

表 2-16 show dot1x interface フィールドの説明

フィールド	説明
PortStatus	ポートのステータス (AUTHORIZED または UNAUTHORIZED) です。 <b>dot1x port-control</b> インターフェイス コンフィギュレーション コマンドが <b>auto</b> に設定されていて、認証が正常に完了した場合、ポートのステータスは AUTHORIZED として表示されます。
Port Control	<b>dot1x port-control</b> インターフェイス コンフィギュレーション コマンドの設定です。
MultiHosts	<b>dot1x multiple-hosts</b> インターフェイス コンフィギュレーション コマンドの設定 (allowed または disallowed) です。

次に、`show dot1x statistics interface gigabitethernet1/1` コマンドの出力例を示します。表 2-17 に、この例で表示されるフィールドの説明を示します。

```
Switch# show dot1x statistics interface gigabitethernet1/1

PortStatistics Parameters for Dot1x
-----
TxReqId = 0      TxReq = 0      TxTotal = 0
RxStart = 0      RxLogoff = 0   RxRespId = 0   RxResp = 0
RxInvalid = 0    RxLenErr = 0   RxTotal = 0
RxVersion = 0    LastRxSrcMac 0000.0000.0000
Switch#
```

表 2-17 show dot1x statistics のフィールドの説明

フィールド	説明
TxReq/TxReqId	送信された EAP 要求 /ID フレームの個数
TxTotal	送信されたすべてのタイプの EAPOL フレームの個数
RxStart	受信された有効な EAPOL 開始フレームの個数
RxLogoff	受信された EAPOL ログオフ フレームの個数
RxRespId	受信された EAP 応答 /ID フレームの個数
RxResp	受信された有効な EAP 応答フレーム（応答 /ID フレーム以外）の個数
RxInvalid	受信された EAPOL フレームのうち、フレーム タイプを認識できないものの個数
RxLenError	受信された EAPOL フレームのうち、パケット本体の長さを示すフィールドが無効であるものの個数
RxTotal	受信された任意のタイプの有効な EAPOL フレームの個数
RxVersion	最後に受信した EAPOL フレームで伝送されたプロトコルバージョン番号
LastRxSrcMac	最後に受信した EAPOL フレームで伝送された送信元 MAC（メディア アクセス制御）アドレス

#### 関連コマンド

[mac-address-table notification](#)

[dot1x critical](#)

[dot1x critical eapol](#)

[dot1x critical recovery delay](#)

[dot1x critical vlan](#)

[dot1x guest-vlan](#)

[dot1x max-reauth-req](#)

[dot1x port-control](#)

# show environment

環境アラーム、動作ステータス、およびシャーシの現在の温度を表示するには、**show environment** コマンドを使用します。

```
show environment [alarm] | [status [chassis | fantray | powersupply | supervisor]] | [temperature]
```

## シンタックスの説明

<b>alarm</b>	(任意) シャーシのアラーム ステータスを指定します。
<b>status</b>	(任意) 動作ステータス情報を指定します。
<b>chassis</b>	(任意) シャーシの動作ステータスを指定します。
<b>fantray</b>	(任意) ファン トレイのステータスを指定し、ファン トレイの消費電力量を表示します。
<b>powersupply</b>	(任意) 電源装置のステータスを指定します。
<b>supervisor</b>	(任意) スーパーバイザ エンジンのステータスを指定します。
<b>temperature</b>	(任意) 現在のシャーシの温度を指定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	<b>show environment</b> コマンドを使用した一般的な環境情報を表示する機能が追加されました。



例 次に、環境アラーム、動作ステータス、およびシャーシの現在の温度を表示する例を示します。

```
Switch# show environment
no alarm

Chassis Temperature           = 32 degrees Celsius
Chassis Over Temperature Threshold = 75 degrees Celsius
Chassis Critical Temperature Threshold = 95 degrees Celsius

Power Supply Model No      Type      Fan Status      Sensor
-----
PS1      PWR-C45-1400AC  AC 1400W  good         good
PS2      none           --        --           --

Power Supply Max      Min      Max      Min      Absolute
(Nos in Watts) Inline  Inline  System  System  Maximum
-----
PS1      0        0        1360    1360    1400
PS2      --       --       --       --       --

Power supplies needed by system : 1

Chassis Type : WS-C4507R

Supervisor Led Color : Green

Fantray : good

Power consumed by Fantray : 50 Watts
```

次に、環境アラームに関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show environment alarm
no alarm
Switch#
```

次に、電源装置、シャーシタイプ、およびファントレイに関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show environment status

Power Supply Model No      Type      Status      Fan Sensor
-----
PS1      PWR-C45-1400AC  AC 1400W  good         good
PS2      none           --        --           --

Power Supply Max      Min      Max      Min      Absolute
(Nos in Watts) Inline  Inline  System  System  Maximum
-----
PS1      0        0        1360    1360    1400
PS2      --       --       --       --       --

Power supplies needed by system : 1

Chassis Type : WS-C4507R

Supervisor Led Color : Green

Fantray : good

Power consumed by Fantray : 50 Watts

Switch#
```

次に、シャーシに関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show environment status chassis
Chassis Type :WS-C4507R
Switch#
```

次に、ファントレイに関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show environment status fantray
Fantray : good
Power consumed by Fantray : 50 Watts
Switch#
```

次に、電源装置に関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show environment status powersupply
Power
Supply Model No Type Status Fan
-----
PS1 WS-X4008 AC 400W good good
PS2 WS-X4008 AC 400W good good
PS3 none -- -- --
Switch#
```

次に、スーパーバイザエンジンに関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show environment status supervisor
Supervisor Led Color :Green
Switch#
```

次に、シャーシの温度に関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show environment temperature
Chassis Temperature = 32 degrees Celsius
Chassis Over Temperature Threshold = 75 degrees Celsius
Chassis Critical Temperature Threshold = 95 degrees Celsius
Switch#
```

# show errdisable detect

エラー ディisable 検出ステータスを表示するには、**show errdisable detect** コマンドを使用します。

**show errdisable detect**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.1(19)EW	ストーム制御のステータスが出力に追加されました。

**例** 次に、エラー ディisable 検出ステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show errdisable detect
ErrDisable Reason    Detection status
-----
udld                  Enabled
bpduguard             Enabled
security-violatio    Enabled
channel-misconfig    Disabled
psecure-violation    Enabled
vmps                  Enabled
pagp-flap             Enabled
dtp-flap              Enabled
link-flap             Enabled
l2ptguard            Enabled
gbic-invalid          Enabled
dhcp-rate-limit      Enabled
unicast-flood         Enabled
storm-control        Enabled
ilpower              Enabled
arp-inspection        Enabled
Switch#
```

**関連コマンド**

- [errdisable detect](#)
- [errdisable recovery](#)
- [show interfaces status](#)

# show errdisable recovery

エラー ディisable回復タイマー情報を表示するには、**show errdisable recovery** コマンドを使用します。

**show errdisable recovery**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.1(19)EW	ストーム制御のステータスが出力に追加されました。

**例** 次に、エラー ディisable回復タイマー情報を表示する例を示します。

```
Switch# show errdisable recovery
ErrDisable Reason    Timer Status
-----
udld                  Disabled
bpduguard             Disabled
security-violatio    Disabled
channel-misconfig    Disabled
vmps                  Disabled
pagp-flap             Disabled
dtp-flap              Disabled
link-flap             Disabled
l2ptguard             Disabled
psecure-violation    Disabled
gbic-invalid          Disabled
dhcp-rate-limit      Disabled
unicast-flood         Disabled
storm-control         Disabled
arp-inspection        Disabled

Timer interval:30 seconds

Interfaces that will be enabled at the next timeout:

Interface    Errdisable reason    Time left(sec)
-----
Fa7/32       arp-inspect           13
```

**関連コマンド**

- [errdisable detect](#)
- [errdisable recovery](#)
- [show interfaces status](#)

# show etherchannel

チャンネルの EtherChannel 情報を表示するには、**show etherchannel** コマンドを使用します。

```
show etherchannel [channel-group] {port-channel | brief | detail | summary | port | load-balance | protocol}
```

## シンタックスの説明

<b>channel-group</b>	(任意) チャンネルグループの番号です。有効値は 1 ~ 64 です。
<b>port-channel</b>	ポート チャンネル情報を表示します。
<b>brief</b>	EtherChannel 情報の概要を表示します。
<b>detail</b>	EtherChannel の詳細を表示します。
<b>summary</b>	各チャンネルグループの概要を 1 行で表示します。
<b>port</b>	EtherChannel ポート情報を表示します。
<b>load-balance</b>	ロードバランス情報を表示します。
<b>protocol</b>	イネーブル化されたプロトコルを表示します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(13)EW	LACP のサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

チャンネルグループを指定しない場合は、すべてのチャンネルグループが表示されます。

次の例の [Passive port list] フィールドには、レイヤ 3 ポート チャンネルに関する情報のみが表示されます。このフィールドは、まだ起動していない物理インターフェイスが、チャンネルグループに含まれるように（およびチャンネルグループ内の唯一のポート チャンネルに間接的に含まれるように）設定されていることを意味します。

## 例

次に、特定のグループのポート チャンネル情報を表示する例を示します。

```
Switch# show etherchannel 1 port-channel
      Port-channels in the group:
      -----
Port-channel: Po1
-----
Age of the Port-channel   = 02h:35m:26s
Logical slot/port        = 10/1           Number of ports in agport = 0
GC                        = 0x00000000   HotStandBy port = null
Passive port list        = Fa5/4 Fa5/5
Port state                = Port-channel L3-Ag Ag-Not-Inuse

Ports in the Port-channel:
Index  Load  Port
-----
Switch#
```

次に、ロードバランス情報を表示する例を示します。

```
Switch# show etherchannel load-balance
Source XOR Destination mac address
Switch#
```

次に、特定のグループに関する情報の概要を表示する例を示します。

```
Switch# show etherchannel 1 brief
Group state = L3
Ports: 2 Maxports = 8
port-channels: 1 Max port-channels = 1
Switch#
```

次に、特定のグループに関する詳細情報を表示する例を示します。

```
Switch# show etherchannel 1 detail
Group state = L3
Ports: 2 Maxports = 8
Port-channels: 1 Max Port-channels = 1
                Ports in the group:
                -----
Port: Fa5/4
-----

Port state      = EC-Enbl'd Down Not-in-Bndl Usr-Config
Channel group  = 1                Mode = Desirable      Gcchange = 0
Port-channel   = null             GC   = 0x00000000    Psudo-agport = Po1
Port indx     = 0                Load = 0x00

Flags:  S - Device is sending Slow hello.  C - Device is in Consistent state.
        A - Device is in Auto mode.        P - Device learns on physical port.
Timers: H - Hello timer is running.        Q - Quit timer is running.
        S - Switching timer is running.    I - Interface timer is running.

Local information:

Port      Flags State  Timers  Hello  Partner  PAgP    Learning  Group
Fa5/4    d    U1/S1    1s      Interval Count  Priority  Method  Ifindex
Age of the port in the current state: 02h:33m:14s
Port: Fa5/5
-----

Port state      = EC-Enbl'd Down Not-in-Bndl Usr-Config
Channel group  = 1                Mode = Desirable      Gcchange = 0
Port-channel   = null             GC   = 0x00000000    Psudo-agport = Po1
Port indx     = 0                Load = 0x00

Flags:  S - Device is sending Slow hello.  C - Device is in Consistent state.
        A - Device is in Auto mode.        P - Device learns on physical port.
Timers: H - Hello timer is running.        Q - Quit timer is running.
        S - Switching timer is running.    I - Interface timer is running.

Local information:

Port      Flags State  Timers  Hello  Partner  PAgP    Learning  Group
Fa5/5    d    U1/S1    1s      Interval Count  Priority  Method  Ifindex
Age of the port in the current state: 02h:33m:17s
                Port-channels in the group:
                -----
```

```

Port-channel: Po1
-----
Age of the Port-channel   = 02h:33m:52s
Logical slot/port        = 10/1          Number of ports in agport = 0
GC                        = 0x00000000    HotStandBy port = null
Passive port list        = Fa5/4 Fa5/5
Port state                 = Port-channel L3-Ag Ag-Not-Inuse

```

Ports in the Port-channel:

```

Index  Load  Port
-----
Switch#

```

次に、各チャンネルグループの概要を1行で表示する例を示します。

```

Switch# show etherchannel summary
U-in use I-in port-channel S-suspended D-down i-stand-alone d-default

Group Port-channel Ports
-----
1      Po1(U)          Fa5/4(I) Fa5/5(I)
2      Po2(U)          Fa5/6(I) Fa5/7(I)
Switch#

```

次に、すべてのポートおよびすべてのグループに関する EtherChannel ポート情報を表示する例を示します。

```
Switch# show etherchannel port
          Channel-group listing:
          -----

Group: 1
-----
          Ports in the group:
          -----

Port: Fa5/4
-----
Port state   = EC-Enbl'd Down Not-in-Bndl Usr-Config
Channel group = 1             Mode = Desirable      Gcchange = 0
Port-channel = null          GC   = 0x00000000     Psudo-agport = Po1
Port indx    = 0             Load = 0x00

Flags:  S - Device is sending Slow hello.  C - Device is in Consistent state.
        A - Device is in Auto mode.        P - Device learns on physical port.
Timers: H - Hello timer is running.        Q - Quit timer is running.
        S - Switching timer is running.    I - Interface timer is running.

Local information:

Port      Flags State   Timers   Hello   Partner  PAgP   Learning  Group
Fa5/4    d    U1/S1    1s      0       0       128   Any      0

Age of the port in the current state: 02h:40m:35s
Port: Fa5/5
-----

Port state   = EC-Enbl'd Down Not-in-Bndl Usr-Config
Channel group = 1             Mode = Desirable      Gcchange = 0
Port-channel = null          GC   = 0x00000000     Psudo-agport = Po1
Port indx    = 0             Load = 0x00

Flags:  S - Device is sending Slow hello.  C - Device is in Consistent state.
        A - Device is in Auto mode.        P - Device learns on physical port.
Timers: H - Hello timer is running.        Q - Quit timer is running.
        S - Switching timer is running.    I - Interface timer is running.
```

(テキスト出力は省略)

```
Switch#
```

次に、イネーブル化されたプロトコルを表示する例を示します。

```
Switch# show etherchannel protocol
          Channel-group listing:
          -----

Group: 12
-----
Protocol:  PAgP

Group: 24
-----
Protocol:  - (Mode ON)
Switch#
```

## 関連コマンド

[channel-group](#)  
[interface port-channel](#)



# show flowcontrol

各インターフェイスのステータスおよびフロー制御に関する統計情報を表示するには、**show flowcontrol** コマンドを使用します。

```
show flowcontrol [module slot | interface interface]
```

シンタックスの説明	<b>module slot</b>	(任意) 表示対象を特定のモジュールのインターフェイスに限定します。
	<b>interface interface</b>	(任意) 特定のインターフェイスのステータスを表示します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.2(25)EW	10 ギガビットイーサネットインターフェイスが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 表 2-18 に、**show flowcontrol** コマンド出力に含まれるフィールドの説明を示します。

表 2-18 show flowcontrol コマンドの出力

フィールド	説明
Port	モジュールおよびポート番号です。
Send-Flowcontrol-Admin	フロー制御管理。可能な設定は次のとおりです。 <b>on</b> の場合、ローカルポートはフロー制御を反対側に送信します。 <b>off</b> の場合、ローカルポートはフロー制御を反対側に送信しません。 <b>desired</b> の場合、反対側がローカル側からのフロー制御送信を予期しているときに限り、ローカル側はフロー制御を反対側に送信します。
Send-Flowcontrol-Oper	フロー制御の動作。可能な設定は次のとおりです。 <b>disagree</b> の場合、2つのポートはリンクプロトコルについて合意できません。
Receive-Flowcontrol-Admin	フロー制御管理。可能な設定は次のとおりです。 <b>on</b> の場合、ローカルポートは反対側に対してフロー制御の送信を要求します。 <b>off</b> の場合、ローカルポートは反対側に対してフロー制御の送信を禁止します。 <b>desired</b> の場合、ローカル側は反対側に対してフロー制御の送信を許可します。
Receive-Flowcontrol-Oper	フロー制御の動作。可能な設定は次のとおりです。 <b>disagree</b> の場合、2つのポートはリンクプロトコルについて合意できません。
RxPause	受信した休止フレームの個数
TxPause	送信した休止フレームの個数

例 次に、すべてのギガビット イーサネット インターフェイスのフロー制御ステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show flowcontrol
Port          Send FlowControl  Receive FlowControl  RxPause TxPause
             admin    oper             admin    oper
-----
Te1/1         off     off             on      off      0      0
Te1/2         off     off             on      off      0      0
Gi1/3         off     off             desired on      0      0
Gi1/4         off     off             desired on      0      0
Gi1/5         off     off             desired on      0      0
Gi1/6         off     off             desired on      0      0
Gi3/1         off     off             desired off     0      0
Gi3/2         off     off             desired off     0      0
Gi3/3         off     off             desired off     0      0
Gi3/4         off     off             desired off     0      0
Gi3/5         off     off             desired off     0      0
Gi3/6         off     off             desired off     0      0
Switch#
```

次に、モジュール 1 のフロー制御ステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show flowcontrol module 1
Port          Send FlowControl  Receive FlowControl  RxPause TxPause
             admin    oper             admin    oper
-----
Gi1/1         desired off             off     off      0      0
Gi1/2         on      disagree on             on      0      0
Switch#
```

次に、インターフェイス gigabitethernet3/4 のフロー制御ステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show flowcontrol interface gigabitethernet3/4
Port          Send FlowControl  Receive FlowControl  RxPause TxPause
             admin    oper             admin    oper
-----
Gi3/4         off     off             on      on      0      0
Switch#
```

次に、インターフェイス tengigabitethernet1/1 のフロー制御ステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show flowcontrol interface tengigabitethernet1/1
Port          Send FlowControl  Receive FlowControl  RxPause TxPause
             admin    oper             admin    oper
-----
Te1/1         off     off             on      off      0      0
Switch#
```

## 関連コマンド

[flowcontrol](#)  
[show interfaces status](#)

# show hw-module port-group

モジュールの X2 穴がどのようにグループ化されているかを表示するには、**show hw-module port-group** コマンドを使用します。

```
show hw-module module number port-group
```

## シンタックスの説明

<b>module</b>	回線モジュールを指定します。
<b>number</b>	スロットまたはモジュール番号を指定します。
<b>port-group</b>	スイッチのポート グループを指定します。

## デフォルト

X2 モード

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	WS-X4606-10GE-E Twin Gigabit コンバータのサポートが導入されました。

## 使用上のガイドライン

TwinGig コンバータがイネーブルまたはディセーブルになっている場合、ラインカードのポート番号やタイプは動的に変更されます。各名前はこの動作を反映している必要があります。Cisco IOS では 10-Gigabit ポートには TenGigabit という名前が、1-Gigabit ポートには Gigabit という名前が付きます。Cisco IOS Release 12.2(40)SG 以降では、TenGigabit1/1 および Gigabit1/1 という名前のポートが生じないように、10-Gigabit および 1-Gigabit のポート番号は独立しました。6 つの X2 ポートがある WS-X4606-10GE-E モジュールには TenGigabit<slot-num>/<1-6> という名前が付き、SFP ポートには Gigabit<slot-num>/<7-18> という名前が付きます。

Supervisor Engine 6-E システムでは、ポートはスタブ ASIC を通してスイッチング エンジンに接続されます。このスタブ ASIC によって、Gigabit および 10-Gigabit ポートを 1 つのスタブ ASIC 上で共存させることはできず、すべて 10-Gigabit (X2) または Gigabit (TwinGig コンバータおよび SFP) にする必要があるという制限が生じます。X2 モジュールの前面プレートに、実際の物理的なグループまたは周囲にボックスが描画されたグループのスタブ ポート グループが表示されます。

## 例

次に、WS-X4606-10GE-E 上でモジュールの X2 穴がどのようにグループ化されるのかを判別する例を示します。

```
Switch# show hw-module module 1 port-group
Module   Port-group  Active      Inactive
-----
1        1           Te1/1-3    Gi1/7-12
1        2           Te1/4-6    Gi1/13-18
Switch#
```

## 関連コマンド

[hw-module port-group](#)

# show hw-module uplink

現在のアップリンク モードを表示するには、**show hw-module uplink** コマンドを使用します。

**show hw-module uplink**

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(25)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** アクティブなアップリンク モードが設定されたモードと異なる場合、出力にその変更が表示されません。

デフォルトでは、現在の（動作）アップリンク 選択が表示されます。

**例** 次に、現在の（アクティブな）アップリンクを表示する出力例を示します。

```
Switch# show hw-module uplink
Active uplink configuration is TenGigabitEthernet
```

次に、10 ギガビット イーサネット アップリンクがアクティブで、ギガビット イーサネット アップリンクが選択された場合に SSO モードの冗長システムで表示される出力例を示します。

```
Switch# show hw-module uplink
Active uplink configuration is TenGigabitEthernet
(will be GigabitEthernet after next reload)
A 'redundancy reload shelf' or power-cycle of chassis is required to
apply the new configuration
```

次に、10 ギガビット イーサネット アップリンクがアクティブで、ギガビット イーサネット アップリンクが選択された場合に RPR モードの冗長システムで表示される出力例を示します。

```
Switch# show hw-module uplink
Active uplink configuration is TenGigabitEthernet
(will be GigabitEthernet after next reload)
A reload of active supervisor is required to apply the new configuration.
```

**関連コマンド** [hw-module uplink select](#)

# show idprom

シャーシ、スーパーバイザ エンジン、モジュール、電源装置、ファントレイ、クロック モジュール、およびマルチプレクサ (mux) バッファの IDPROM を表示するには、**show idprom** コマンドを使用します。

```
show idprom {all | chassis | module [mod] | interface int_name | supervisor | power-supply number | fan-tray}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	すべての IDPROM の情報を表示します。
<b>chassis</b>	シャーシの IDPROM の情報を表示します。
<b>module</b>	モジュールの IDPROM の情報を表示します。
<i>mod</i>	(任意) モジュール名を指定します。
<b>interface int_name</b>	GBIC (ギガビット インターフェイス コンバータ) または SFP IDPROM の情報を表示します。
<b>supervisor</b>	スーパーバイザ エンジンの IDPROM 情報を表示します。
<b>power-supply number</b>	電源装置の IDPROM 情報を表示します。
<b>fan-tray</b>	ファントレイの IDPROM 情報を表示します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	<b>power-supply</b> 、 <b>fan-tray</b> 、 <b>clock-module</b> 、 <b>mux-buffer</b> キーワードのサポートが追加されました。
12.1(13)EW	<b>interface</b> キーワードのサポートが追加されました。
12.2(18)EW	<b>show idprom interface</b> 出力が拡張され、GBIC/SFP SEEPROM の内容の 16 進数表示が含まれました。
12.2(25)EW	10 ギガビット イーサネット インターフェイスが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

**show idprom interface** コマンドを入力した場合に、一部の GBIC について、調整タイプおよび Rx (受信) 電力測定値の出力行が表示されないことがあります。

## 例

次に、モジュール4のIDPROM情報を表示する例を示します。

```
Switch# show idprom module 4
Module 4 Idprom:
  Common Block Signature = 0xABAB
  Common Block Version = 1
  Common Block Length = 144
  Common Block Checksum = 4199
  Idprom Size = 256
  Block Count = 2
  FRU Major Type = 0x4201
  FRU Minor Type = 303
  OEM String = Cisco Systems, Inc.
  Product Number = WS-X4306
  Serial Number = 00000135
  Part Number = <tbid>
  Hardware Revision = 0.2
  Manufacturing Bits = 0x0000
  Engineering Bits = 0x0000
  Snmp OID = 0.0.0.0.0.0.0.0
  Power Consumption = 0
  RMA Failure Code = 0 0 0 0
  Linecard Block Signature = 0x4201
  Linecard Block Version = 1
  Linecard Block Length = 24
  Linecard Block Checksum = 658
  Feature Bits = 0x0000000000000000
  Card Feature Index = 50
  MAC Base = 0010.7bab.9830
  MAC Count = 6
Switch#
```

次に、インターフェイス gigabitethernet1/2 の GBIC に関する IDPROM 情報を表示する例を示します。

```
Switch# show idprom interface gigabitethernet1/2
GBIC Serial EEPROM Contents:
Common Block:
  Identifier           = GBIC [0x1]
  Extended Id         = Not specified/compliant with defined MOD_DEF [0x0]
  Connector           = SC connector [0x1]
  Transceiver
    Speed             = Not available [0x0]
    Media             = Not available [0x0]
    Technology        = Not available [0x0]
    Link Length       = Not available [0x0]
    GE Comp Codes     = Not available [0x0]
    SONET Comp Codes = Not available [0x0]
    Encoding          = 8B10B [0x1]
    BR, Nominal       = 1300000000 MHz
    Length(9u) in km = GBIC does not support single mode fibre, or the length
                        must be determined from the transceiver technology.
    Length(9u)        = > 25.4 km
    Length(50u)       = GBIC does not support 50 micron multi-mode fibre, or the
                        length must be determined from the transceiver technology.
    Length(62.5u)    = GBIC does not support 62.5 micron multi-mode fibre, or
                        the length must be determined from transceiver technology.
    Length(Copper)   = GBIC does not support copper cables, or the length must
                        be determined from the transceiver technology.
  Vendor name         = CISCO-FINISAR
  Vendor OUI          = 36965
  Vendor Part No.    = FTR-0119-CSC
  Vendor Part Rev.   = B
  Wavelength         = Not available
  CC_BASE             = 0x1A

Extended ID Fields
  Options             = Loss of Signal implemented TX_FAULT signal implemented TX_DISABLE
is implemented and disables the serial output [0x1A]
  BR, max             = Unspecified
  BR, min             = Unspecified
  Vendor Serial No.  = K1273DH
  Date code          = 030409
  Diag monitoring    = Implemented
  Calibration type   = Internal
  Rx pwr measuremnt = Optical Modulation Amplitude (OMA)
  Address change     = Required
  CC_EXT             = 0xB2

Vendor Specific ID Fields:
20944D30 29 00 02 80 22 33 38 3D C7 67 83 E8 DF 65 6A AF )... "38=Gg^Ch_ej/
20944D40 1A 80 ED 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 38 23 3C 1B .....8#<.

SEEPROM contents (hex) size 128:
0x0000 01 00 01 00 00 00 00 00 00 00 01 0D 00 00 FF .....
0x0010 00 00 00 00 43 49 53 43 4F 2D 46 49 4E 49 53 41 ... CISCO-FINISA
0x0020 52 20 20 20 00 00 90 65 46 54 52 2D 30 31 31 39 R .. ^PeFTR-0119
0x0030 2D 43 53 43 20 20 20 20 42 20 20 20 00 00 00 1A -CSC B ....
0x0040 00 1A 00 00 4B 31 32 37 33 44 48 20 20 20 20 20 ....K1273DH
0x0050 20 20 20 20 30 33 30 34 30 39 20 20 64 00 00 B2 030409 d..2
0x0060 29 00 02 80 22 33 38 3D C7 67 83 E8 DF 65 6A AF ).. ^@"38=Gg^C._ej.
0x0070 1A 80 ED 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 38 23 3C 1B .^@m.....8#<.
Switch#
```

次に、インターフェイス tengigabitethernet1/1 の IDPROM 情報を表示する例を示します。

```
Switch# show idprom interface tengigabitethernet1/1
X2 Serial EEPROM Contents:
Non-Volatile Register (NVR) Fields
  X2 MSA Version supported          :0xA
  NVR Size in bytes                :0x100
  Number of bytes used             :0xD0
  Basic Field Address              :0xB
  Customer Field Address           :0x77
  Vendor Field Address             :0xA7
  Extended Vendor Field Address    :0x100
  Reserved                         :0x0
  Transceiver type                 :0x2 =X2
  Optical connector type          :0x1 =SC
  Bit encoding                     :0x1 =NRZ
  Normal BitRate in multiple of 1M b/s :0x2848
  Protocol Type                   :0x1 =10GgE

Standards Compliance Codes :
  10GbE Code Byte 0               :0x2 =10GBASE-LR
  10GbE Code Byte 1               :0x0
  SONET/SDH Code Byte 0          :0x0
  SONET/SDH Code Byte 1          :0x0
  SONET/SDH Code Byte 2          :0x0
  SONET/SDH Code Byte 3          :0x0
  10GFC Code Byte 0              :0x0
  10GFC Code Byte 1              :0x0
  10GFC Code Byte 2              :0x0
  10GFC Code Byte 3              :0x0
  Transmission range in 10m      :0x3E8

Fibre Type :
  Fibre Type Byte 0              :0x40 =NDSF only
  Fibre Type Byte 1              :0x0 =Unspecified

Centre Optical Wavelength in 0.01nm steps - Channel 0 :0x1 0xFF 0xB8
Centre Optical Wavelength in 0.01nm steps - Channel 1 :0x0 0x0 0x0
Centre Optical Wavelength in 0.01nm steps - Channel 2 :0x0 0x0 0x0
Centre Optical Wavelength in 0.01nm steps - Channel 3 :0x0 0x0 0x0
Package Identifier OUI          :0xC09820
Transceiver Vendor OUI         :0x3400800
Transceiver vendor name        :CISCO-OPNEXT,INC
Part number provided by transceiver vendor          :TRT5021EN-SMC-W
Revision level of part number provided by vendor   :00
Vendor serial number           :ONJ08290041
Vendor manufacturing date code :2004072000

Reserved1 : 00 02 02 20 D1 00 00
Basic Field Checksum :0x10

Customer Writable Area :
  0x00: 58 32 2D 31 30 47 42 2D 4C 52 20 20 20 20 20 20
  0x10: 20 20 20 20 20 4F 4E 4A 30 38 32 39 30 30 34 31
  0x20: 31 30 2D 32 30 33 36 2D 30 31 20 20 41 30 31 20

Vendor Specific :
  0x00: 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
  0x10: 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
  0x20: 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
  0x30: 00 00 00 00 11 E2 69 A9 2F 95 C6 EE D2 DA B3 FD
  0x40: 9A 34 4A 24 CB 00 00 00 00 00 00 00 00 00 EF FC
  0x50: F4 AC 1A D7 11 08 01 36 00

Switch#
```



次に、スーパーバイザ エンジンの IDPROM 情報を表示する例を示します。

```
Switch# show idprom supervisor
Supervisor Idprom:
  Common Block Signature = 0xABAB
  Common Block Version = 1
  Common Block Length = 144
  Common Block Checksum = 4153
  Idprom Size = 256
  Block Count = 2
  FRU Major Type = 0x4101
  FRU Minor Type = 333
  OEM String = Cisco Systems, Inc.
  Product Number = WS-X4014
  Serial Number = JAB05320CCE
  Part Number = 73-6854-04
  Part Revision = 05
  Manufacturing Deviation String = 0
  Hardware Revision = 0.4
  Manufacturing Bits = 0x0000
  Engineering Bits = 0x0000
  Snmp OID = 0.0.0.0.0.0.0.0
  Power Consumption = 0
  RMA Failure Code = 0 0 0 0
  Supervisor Block Signature = 0x4101
  Supervisor Block Version = 1
  Supervisor Block Length = 24
  Supervisor Block Checksum = 548
  Feature Bits = 0x0000000000000000
  Card Feature Index = 95
  MAC Base = 0007.0ee5.2a44
  MAC Count = 2
Switch#
```

次に、シャーシの IDPROM 情報を表示する例を示します。

```
Switch# show idprom chassis
Chassis Idprom:
  Common Block Signature = 0xABAB
  Common Block Version = 1
  Common Block Length = 144
  Common Block Checksum = 4285
  Idprom Size = 256
  Block Count = 2
  FRU Major Type = 0x4001
  FRU Minor Type = 24
  OEM String = Cisco Systems, Inc.
  Product Number = WS-C4507R
  Serial Number = FOX04473737
  Part Number = 73-4289-02
  Part Revision = 02
  Manufacturing Deviation String = 0x00
  Hardware Revision = 0.2
  Manufacturing Bits = 0x0000
  Engineering Bits = 0x0000
  Snmp OID = 0.0.0.0.0.0.0.0
  Chassis Block Signature = 0x4001
  Chassis Block Version = 1
  Chassis Block Length = 22
  Chassis Block Checksum = 421
  Feature Bits = 0x0000000000000000
  MAC Base = 0004.dd42.2600
  MAC Count = 1024
Switch#
```

次に、電源装置 1 の IDPROM 情報を表示する例を示します。

```
Switch# show idprom power-supply 1
Power Supply 0 Idprom:
  Common Block Signature = 0xABAB
  Common Block Version = 1
  Common Block Length = 144
  Common Block Checksum = 10207
  Idprom Size = 256
  Block Count = 1
  FRU Major Type = 0xAB01
  FRU Minor Type = 8224
  OEM String = Cisco Systems, Inc.
  Product Number = WS-CAC-1440W
  Serial Number = ACP05180002
  Part Number = 34-XXXX-01
  Part Revision = A0
  Manufacturing Deviation String =
  Hardware Revision = 1.1
  Manufacturing Bits = 0x0000
  Engineering Bits = 0x3031
  Snmp OID = 9.12.3.65535.65535.65535.65535.65535
  Power Consumption = -1
  RMA Failure Code = 255 255 255 255
  Power Supply Block Signature = 0xFFFF
  PowerSupply Block Version = 255
  PowerSupply Block Length = 255
  PowerSupply Block Checksum = 65535
  Feature Bits = 0x00000000FFFFFFFF
  Current @ 110V = -1
  Current @ 220V = -1
  StackMIB OID = 65535
Switch#
```

次に、ファントレイの IDPROM 情報を表示する例を示します。

```
Switch# show idprom fan-tray
Fan Tray Idprom :
  Common Block Signature = 0xABAB
  Common Block Version = 1
  Common Block Length = 144
  Common Block Checksum = 19781
  Idprom Size = 256
  Block Count = 1
  FRU Major Type = 0x4002
  FRU Minor Type = 0
  OEM String = "Cisco Systems"
  Product Number = WS-X4502-fan
  Serial Number =
  Part Number =
  Part Revision =
  Manufacturing Deviation String =
  Hardware Revision = 0.1
  Manufacturing Bits = 0xFFFF
  Engineering Bits = 0xFFFF
  Snmp OID = 65535.65535.65535.65535.65535.65535.65535.65535.65535
  Power Consumption = -1
  RMA Failure Code = 255 255 255 255
Switch#
```

# show interfaces

特定のインターフェイスのトラフィックを表示するには、**show interfaces** コマンドを使用します。

```
show interfaces [{{fastethernet mod/interface-number} | {gigabitethernet mod/interface-number} |
{tengigabitethernet mod/interface-number} | {null interface-number} | {vlan vlan_id} | {status}}
```

## シンタックスの説明

<b>fastethernet</b> <i>mod/interface-number</i>	(任意) ファストイーサネット モジュールおよびインターフェイスを指定します。
<b>gigabitethernet</b> <i>mod/interface-number</i>	(任意) ギガビットイーサネット モジュールおよびインターフェイスを指定します。
<b>tengigabitethernet</b> <i>mod/interface-number</i>	(任意) 10 ギガビットイーサネット モジュールおよびインターフェイスを指定します。
<b>null</b> <i>interface-number</i>	(任意) スルインターフェイスを指定します。有効値は 0 です。
<b>vlan</b> <i>vlan_id</i>	(任意) VLAN (仮想 LAN) を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。
<b>status</b>	(任意) ステータス情報を表示します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。
12.2(25)EW	10 ギガビットイーサネットインターフェイスが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.2(31)SGA	コマンドの出力に Auto-MDIX が反映されるようになりました。

## 使用上のガイドライン

統計情報は、レイヤ 2 スイッチド パケットおよびレイヤ 3 スイッチド パケットに基づいて、VLAN 単位で収集されます。統計情報はユニキャストとマルチキャストの両方で利用できます。レイヤ 3 スイッチド パケット数は、入力と出力の両方の方向で利用できます。各 VLAN の統計情報は、5 秒間隔で更新されます。

場合によっては、**show interfaces** コマンドと **show running-config** コマンドで表示されるデュプレックス モードが異なる場合があります。**show interfaces** コマンドで表示されるデュプレックス モードは、インターフェイスが実際に実行しているデュプレックス モードです。**show interfaces** コマンドは、インターフェイスの動作モードを表示しますが、**show running-config** コマンドは、インターフェイスに設定されているモードを表示します。

キーワードを入力しなかった場合は、すべてのモジュールのすべてのカウンタが表示されます。

Auto-MDIX 設定を銅メディア ポートでサポートしているラインカードは、WS-X4124-RJ45、WS-X4148-RJ (ハードウェア リビジョン 3.0 以上)、および WS-X4232-GB-RJ (ハードウェア リビジョン 3.0 以上) です。

## 例

次に、インターフェイス `gigabitethernet2/5` のトラフィックを表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces gigabitethernet2/5
GigabitEthernet9/5 is up, line protocol is up
Hardware is C4k 1000Mb 802.3, address is 0001.64f8.3fa5 (bia 0001.64f8.3fa5)
Internet address is 172.20.20.20/24
MTU 1500 bytes, BW 1000000 Kbit, DLY 10 usec,
reliability 255/255, txload 1/255, rxload 1/255
Encapsulation ARPA, loopback not set
Keepalive set (10 sec)
Full-duplex, 1000Mb/s
ARP type: ARPA, ARP Timeout 04:00:00
Last input 00:00:00, output never, output hang never
Last clearing of "show interface" counters never
Queueing strategy: fifo
Output queue 0/40, 0 drops; input queue 0/75, 0 drops
5 minute input rate 1000 bits/sec, 2 packets/sec
5 minute output rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
L2 Switched: ucast: 8199 pkt, 1362060 bytes - mcast: 6980 pkt, 371952 bytes
L3 in Switched: ucast: 0 pkt, 0 bytes - mcast: 0 pkt, 0 bytes mcast
L3 out Switched: ucast: 0 pkt, 0 bytes - mcast: 0 pkt, 0 bytes
300114 packets input, 27301436 bytes, 0 no buffer
Received 43458 broadcasts, 0 runts, 0 giants, 0 throttles
0 input errors, 0 CRC, 0 frame, 0 overrun, 0 ignored
0 input packets with dribble condition detected
15181 packets output, 1955836 bytes, 0 underruns
0 output errors, 0 collisions, 3 interface resets
0 babbles, 0 late collision, 0 deferred
0 lost carrier, 0 no carrier
0 output buffer failures, 0 output buffers swapped out
Switch#
```

次に、インターフェイス `tengigabitethernet1/1` のトラフィックを表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces tengigabitethernet1/1
Name: Tengigabitethernet1/1
Switchport: Enabled
Administrative Mode: private-vlan promiscuous trunk
Operational Mode: private-vlan promiscuous (suspended member of bundle Po1)
Administrative Trunking Encapsulation: negotiate
Operational Trunking Encapsulation: native
Negotiation of Trunking: Off
Access Mode VLAN: none
Trunking Native Mode VLAN: none
Administrative Native VLAN tagging: enabled
Voice VLAN: none
Administrative private-vlan host-association: none
Administrative private-vlan mapping: 202 (VLAN0202) 303 (VLAN0303) 304 (VLAN0304)
Administrative private-vlan trunk native VLAN: none
Administrative private-vlan trunk
Native VLAN tagging: enabled
Administrative private-vlan trunk encapsulation: 802.1q
Administrative private-vlan trunk normal VLANs: none
Administrative private-vlan trunk private VLANs: none
Administrative private-vlan mapping trunk: New 202 (VLAN0202) 303 (VLAN0303) 304
(VLAN0304) 204 (VLAN0204) 305 (VLAN0305) 306 (VLAN0306)
Operational private-vlan: 202 (VLAN0202) 303 (VLAN0303) 304 (VLAN0304)
Trunking VLANs Enabled: ALL
Pruning VLANs Enabled: 2-1001
Capture Mode Disabled
Capture VLANs Allowed: ALL
Switch#
```

次に、RJ-45 ポートで `Auto-MDIX` の状態を調べる例を示します。



(注)

設定内容を確認し、インターフェイスでの Auto-MDIX の動作状態を確認するには、**show interfaces EXEC** コマンドを入力します。このフィールドの表示は、サポートされるラインカードの 10/100/1000Base-T RJ45 銅ポートに対して **show interfaces** コマンドを実行した場合のみに有効です。サポートされるラインカードは、WS-X4124-RJ45、WS-X4148-RJ (ハードウェア リビジョン 3.0 以上)、および WS-X4232-GB-RJ (ハードウェア リビジョン 3.0 以上) です。

```
FastEthernet6/3 is up, line protocol is up (connected)
  Hardware is Fast Ethernet Port, address is 0003.6ba8.ee68 (bia 0003.6ba8.ee68)
  MTU 1500 bytes, BW 100000 Kbit, DLY 100 usec,
    reliability 255/255, txload 1/255, rxload 1/255
  Encapsulation ARPA, loopback not set
  Keepalive set (10 sec)
  Full-duplex, 100Mb/s, link type is auto, media type is 10/100BaseTX
  input flow-control is unsupported output flow-control is unsupported
  Auto-MDIX on (operational: on)
  ARP type: ARPA, ARP Timeout 04:00:00
  Last input never, output never, output hang never
  Last clearing of "show interface" counters never
  Input queue: 0/2000/0/0 (size/max/drops/flushes); Total output drops: 0
  Queueing strategy: fifo
  Output queue: 0/40 (size/max)
  5 minute input rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
  5 minute output rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
    0 packets input, 0 bytes, 0 no buffer
    Received 0 broadcasts (0 multicasts)
    0 runs, 0 giants, 0 throttles
    0 input errors, 0 CRC, 0 frame, 0 overrun, 0 ignored
    0 input packets with dribble condition detected
  157082 packets output, 13418032 bytes, 0 underruns
    0 output errors, 0 collisions, 0 interface resets
    0 babbles, 0 late collision, 0 deferred
    1 lost carrier, 0 no carrier
    0 output buffer failures, 0 output buffers swapped out
Switch#
```

次に、インターフェイス `gigabitethernet1/2` のステータス情報を表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces gigabitethernet1/2 status
Port      Name      Status      Vlan      Duplex  Speed Type
Gi1/2                    notconnect  1          auto     1000 1000-XWDM-RXONLY
Switch#
```

次に、スーパーバイザエンジンのインターフェイスのステータス情報を表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces status

Port      Name      Status      Vlan      Duplex  Speed Type
Te1/1                    connected   1          full     10G 10GBase-LR
Te1/2                    connected   1          full     10G 10GBase-LR
Switch#
```

# show interfaces capabilities

スイッチの特定のインターフェイスまたはすべてのインターフェイスのインターフェイス機能を表示するには、**show interfaces capabilities** コマンドを使用します。

```
show interfaces capabilities [{module mod}]
```

```
show interfaces [interface interface-number] capabilities
```

## シンタックスの説明

<b>module mod</b>	(任意) 指定されたモジュールの情報のみを表示します。
<b>interface</b>	(任意) インターフェイス タイプを指定します。有効値は <b>fastethernet</b> 、 <b>gigabitethernet</b> 、 <b>tengigabitethernet</b> 、および <b>port-channel</b> です。
<b>interface-number</b>	(任意) ポート番号です。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(25)EW	10 ギガビット イーサネット インターフェイスが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(31)SGA	コマンドの出力に Auto-MDIX が反映されるようになりました。

## 使用上のガイドライン

**interface-number** 引数はモジュールおよびポート番号を指定します。**interface-number** の有効値は、使用するシャーシおよびモジュールによって異なります。たとえば、Catalyst 4507 シャーシに 48 ポート 10/100 Mbps の Fast Ethernet RJ-21 (Telco コネクタ) スイッチング モジュールが搭載されている場合、スロット番号の有効値は 2 ~ 13、ポート番号の有効値は 1 ~ 48 です。

Auto-MDIX 設定を銅メディア ポートでサポートしているラインカードは、WS-X4124-RJ45、WS-X4148-RJ (ハードウェア リビジョン 3.0 以上)、および WS-X4232-GB-RJ (ハードウェア リビジョン 3.0 以上) です。

## 例

次に、モジュールのインターフェイス機能を表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces capabilities module 1
GigabitEthernet1/1
  Model: WS-X4516-Gbic
  Type: Unsupported GBIC
  Speed: 1000
  Duplex: full
  Trunk encap. type: 802.1Q, ISL
  Trunk mode: on, off, desirable, nonegotiate
  Channel: yes
  Broadcast suppression: percentage(0-100), hw
  Flowcontrol: rx- (off, on, desired), tx- (off, on, desired)
  VLAN Membership: static, dynamic
  Fast Start: yes
  Queuing: rx- (N/A), tx- (4q1t, Sharing/Shaping)
  CoS rewrite: yes
  ToS rewrite: yes
  Inline power: no
  SPAN: source/destination
  UDLD: yes
  Link Debounce: no
  Link Debounce Time: no
  Port Security: yes
  Dot1x: yes
GigabitEthernet1/2
  Model: WS-X4516-Gbic
  Type: Unsupported GBIC
  Speed: 1000
  Duplex: full
  Trunk encap. type: 802.1Q, ISL
  Trunk mode: on, off, desirable, nonegotiate
  Channel: yes
  Broadcast suppression: percentage(0-100), hw
  Flowcontrol: rx- (off, on, desired), tx- (off, on, desired)
  VLAN Membership: static, dynamic
  Fast Start: yes
  Queuing: rx- (N/A), tx- (4q1t, Sharing/Shaping)
  CoS rewrite: yes
  ToS rewrite: yes
  Inline power: no
  SPAN: source/destination
  UDLD: yes
  Link Debounce: no
  Link Debounce Time: no
  Port Security: yes
  Dot1x: yes
Switch#
```

次に、インターフェイス `tengigabitethernet1/1` のインターフェイス機能を表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces tengigabitethernet1/1 capabilities
TenGigabitEthernet1/1
  Model: WS-X4517-X2
  Type: 10GBase-LR
  Speed: 10000
  Duplex: full
  Trunk encap. type: 802.1Q, ISL
  Trunk mode: on, off, desirable, nonegotiate
  Channel: yes
  Broadcast suppression: percentage(0-100), hw
  Flowcontrol: rx- (off, on), tx- (off, on)
  VLAN Membership: static, dynamic
  Fast Start: yes
  Queuing: rx- (N/A), tx- (1p3q1t, Sharing/Shaping)
  CoS rewrite: yes
  ToS rewrite: yes
  Inline power: no
  SPAN: source/destination
  UDLD: yes
  Link Debounce: no
  Link Debounce Time: no
  Port Security: yes
  Dot1x: yes
  Maximum MTU: 9198 bytes (Jumbo Frames)
  Multiple Media Types: no
  Diagnostic Monitoring: N/A
Switch#
```

次に、インターフェイス `gigabitethernet1/1` のインターフェイス機能を表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces gigabitethernet1/1 capabilities
GigabitEthernet1/1
  Model: WS-X4014-Gbic
  Type: No Gbic
  Speed: 1000
  Duplex: full
  Trunk encap. type: 802.1Q, ISL
  Trunk mode: on, off, desirable, nonegotiate
  Channel: yes
  Broadcast suppression: percentage(0-100), hw
  Flowcontrol: rx- (off, on, desired), tx- (off, on, desired)
  VLAN Membership: static, dynamic
  Fast Start: yes
  Queuing: rx- (N/A), tx- (4q1t, Sharing/Shaping)
  CoS rewrite: yes
  ToS rewrite: yes
  Inline power: no
  SPAN: source/destination
  UDLD: yes
  Link Debounce: no
  Link Debounce Time: no
  Port Security: yes
  Dot1x: yes
  MTU Supported: jumbo frames, baby giants
Switch#
```



次に、インターフェイス fastethernet3/1 のインターフェイス機能を表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces fastethernet3/1 capabilities
FastEthernet3/1
  Model: WS-X4148-RJ-RJ-45
  Type: 10/100BaseTX
  Speed: 10,100,auto
  Duplex: half,full,auto
  Trunk encap. type: 802.1Q,ISL
  Trunk mode: on,off,desirable,nonegotiate
  Channel: yes
  Broadcast suppression:percentage(0-100),sw
  Flowcontrol: rx-(none),tx-(none)
  VLAN Membership: static,dynamic
  Fast Start: yes
  Queuing: rx-(N/A),tx-(4q1t,Shaping)
  CoS rewrite: yes
  ToS rewrite: yes
  Inline power: no
  SPAN: source/destination
  UDLD: yes
  Link Debounce: no
  Link Debounce Time: no
  Port Security: yes
  Dot1x: yes
  MTU Supported: no jumbo frames, baby giants
Switch#
```

次に、ポートで Auto-MDIX 設定がサポートされているかどうかを調べる例を示します。

```
Switch# show interfaces fastethernet6/3 capabilities
FastEthernet6/3
  Model: WS-X4232-GB-RJ-RJ-45
  Type: 10/100BaseTX
  Speed: 10,100,auto
  Duplex: half,full,auto
  Auto-MDIX: yes
  Trunk encap. type: 802.1Q,ISL
  Trunk mode: on,off,desirable,nonegotiate
  Channel: yes
  Broadcast suppression:percentage(0-100),hw
  Flowcontrol: rx-(none),tx-(none)
  VLAN Membership: static,dynamic
  Fast Start: yes
  Queuing: rx-(N/A),tx-(1p3q1t,Sharing/Shaping)
  CoS rewrite: yes
  ToS rewrite: yes
  Inline power: no
  SPAN: source/destination
  UDLD: yes
  Link Debounce: no
  Link Debounce Time: no
  Port Security: yes
  Dot1x: yes
  Maximum MTU: 1552 bytes (Baby Giants)
  Multiple Media Types: no
  Diagnostic Monitoring: N/A
Switch#
```

## 関連コマンド

[show interfaces counters](#)

# show interfaces counters

物理インターフェイスのトラフィックを表示するには、**show interfaces counters** コマンドを使用します。

```
show interfaces counters [all | detail | errors | storm-control | trunk] [module mod]
```

シンタックスの説明	説明
<b>all</b>	(任意) エラー、トランク、詳細を含むすべてのインターフェイス カウンタを表示します。
<b>detail</b>	(任意) インターフェイスの詳細カウンタを表示します。
<b>errors</b>	(任意) インターフェイスのエラー カウンタを表示します。
<b>storm-control</b>	(任意) インターフェイスの抑制が原因で廃棄されたパケット数を表示します。
<b>trunk</b>	(任意) インターフェイスのトランク カウンタを表示します。
<b>module mod</b>	(任意) 表示対象を特定のモジュールのインターフェイスに限定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(19)EW	ストーム制御のサポートが追加されました。
12.2(18)EW	抑制廃棄の総数表示がサポートされました。

## 使用上のガイドライン

キーワードを入力しなかった場合は、すべてのモジュールのすべてのカウンタが表示されます。

**storm-control** キーワードの表示には、抑制されたマルチキャストバイト数が含まれます。

## 例

次に、特定のモジュールのエラー カウンタを表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces counters errors module 1
```

```
Port          Align-Err    FCS-Err    Xmit-Err    Rcv-Err    UnderSize
Gi1/1          0             0           0           0           0
Gi1/2          0             0           0           0           0
```

```
Port          Single-Col  Multi-Col  Late-Col  Excess-Col  Carri-Sen    Runts    Giants
Gi1/1          0           0           0         0           0           0         0
Gi1/2          0           0           0         0           0           0         0
Switch#
```

次に、特定のモジュールで認識されるトラフィックを表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces counters module 1

Port          InOctets    InUcastPkts  InMcastPkts  InBcastPkts
Gi1/1         0           0             0             0
Gi1/2         0           0             0             0

Port          OutOctets    OutUcastPkts  OutMcastPkts  OutBcastPkts
Gi1/1         0           0             0             0
Gi1/2         0           0             0             0
Switch#
```

次に、特定のモジュールのトランク カウンタを表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces counters trunk module 1

Port          TrunkFramesTx  TrunkFramesRx  WrongEncap
Gi1/1         0              0              0
Gi1/2         0              0              0
Switch#
```

次に、抑制が原因で廃棄されたパケット数を表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces counters storm-control

Multicast Suppression : Enabled

Port          BcastSuppLevel  TotalSuppressionDiscards
Fa5/35        10.00%          6278550
Switch#
```

## 関連コマンド

[show interfaces capabilities](#)

# show interfaces description

インターフェイスの説明およびステータスを表示するには、**show interfaces description** コマンドを使用します。

**show interfaces** [*interface*] **description**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>interface</i> (任意) インターフェイスのタイプです。
------------------	---------------------------------------

<b>デフォルト</b>	このコマンドにデフォルト設定はありません。
--------------	-----------------------

<b>コマンドモード</b>	特権 EXEC モード
----------------	-------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

<b>例</b>	次に、すべてのインターフェイスの情報を表示する例を示します。
----------	--------------------------------

```
Switch# show interfaces description
Interface Status      Protocol Description
PO0/0     admin down          down    First interface
PO0/1     admin down          down
Gi1/1     up                  up      GigE to server farm
Switch#
```

<b>関連コマンド</b>	<b>description</b> (Cisco IOS のマニュアルを参照)
---------------	--

# show interfaces link

インターフェイスのケーブル切断時間を表示するには、**show interfaces link** コマンドを使用します。

```
show interfaces link [module mod_num]
```

<b>シンタックスの説明</b>	<b>module mod_num</b> (任意) 表示対象をモジュール上のインターフェイスに限定します。
------------------	--

<b>デフォルト</b>	このコマンドにデフォルト設定はありません。
--------------	-----------------------

<b>コマンドモード</b>	特権 EXEC モード
----------------	-------------

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	インターフェイスが起動している状態であれば、このコマンドで <b>0:00</b> が表示されます。インターフェイスがダウンしている状態であれば、時間（時間、分、秒）が表示されます。
-------------------	---

<b>例</b>	次に、アクティブなリンクレベルの情報を表示する例を示します。
----------	--------------------------------

```
Switch# show interfaces link

Port      Name           Down Time
-----
Gi1/1    Gi1/1          00:00:00
Gi1/2    Gi1/2          00:00:00
Gi3/1    Gi3/1          00:00:00
Gi3/2    Gi3/2          00:00:00
Fa4/1    Fa4/1          00:00:00
Fa4/2    Fa4/2          00:00:00
Fa4/3    Fa4/3          00:00:00
Fa4/4    Fa4/4          00:00:00
```

次に、非アクティブなリンクレベルの情報を表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces link

Port      Name           Down Time
-----
Gi3/4    Gi3/4          1 minute 28 secs
Gi3/5    Gi3/5          1 minute 28 secs
Gi3/6    Gi3/6          1 minute 28 secs
Gi4/1    Gi4/1          1 minute 28 secs
```

この例では、ポートに対するケーブルの切断時間を 1 分 28 秒としています。

## show interfaces mtu

スイッチのすべての物理インターフェイスおよび Switch Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス) の最大伝送ユニット (Maximum Transmission Unit; MTU) サイズを表示するには、**show interfaces mtu** コマンドを使用します。

```
show interfaces mtu [module mod]
```

### シンタックスの説明

<b>module mod</b>	(任意) 表示対象を特定のモジュールのインターフェイスに限定します。
-------------------	------------------------------------

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 例

次に、モジュール 1 のすべてのインターフェイスの MTU サイズを表示する例を示します。

```
Switch> show interfaces mtu module 1

Port      Name           MTU
Gi1/1     1500
Gi1/2     1500
Switch>
```

### 関連コマンド

[mtu](#)

# show interfaces private-vlan mapping

VLAN (仮想 LAN) Switch Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス) の Private VLAN (PVLAN; プライベート VLAN) マッピング情報を表示するには、**show interface private-vlan mapping** コマンドを使用します。

```
show interfaces private-vlan mapping [active]
```

## シンタックスの説明

<b>active</b>	(任意) アクティブ インターフェイスのみを表示します。
---------------	------------------------------

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、SVI 情報のみを表示します。

## 例

次に、PVLAN マッピング情報を表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces private-vlan mapping
Interface Secondary VLAN Type
-----
vlan2      301      isolated
vlan2      302      isolated
Switch#
```

## 関連コマンド

[access-list hardware entries](#)  
[private-vlan mapping](#)

# show interfaces status

インターフェイスのステータス、またはエラー ディセーブル ステートにあるインターフェイスのリストを表示するには、**show interfaces status** コマンドを使用します。

```
show interfaces status [err-disabled | inactive ] [module {module}]
```

## シンタックスの説明

<b>err-disabled</b>	(任意) エラー ディセーブル ステートのインターフェイスを表示します。
<b>inactive</b>	(任意) 非アクティブ ステートのインターフェイスを表示します。
<b>module module</b>	(任意) 特定のモジュールのインターフェイスを表示します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.2(40)SG	WS-X4606-10GE-E Twin Gigabit コンバータのサポートが導入されました。

## 例

次に、すべてのインターフェイスのステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces status

Port      Name                Status      Vlan      Duplex  Speed  Type
-----
Gi1/1     Gi1/1               disabled    routed    full    1000   missing
Gi1/2     Gi1/2               notconnect  1         full    1000   unknown (4)
Fa5/1     Fa5/1               disabled    routed    auto    auto   10/100BaseTX
Fa5/2     Fa5/2               disabled    routed    auto    auto   10/100BaseTX
Fa5/3     Fa5/3               disabled    routed    auto    auto   10/100BaseTX
Fa5/4     Fa5/4               disabled    routed    auto    auto   10/100BaseTX
...
Fa5/15    Fa5/15              disabled    routed    auto    auto   10/100BaseTX
Fa5/16    Fa5/16              disabled    routed    auto    auto   10/100BaseTX
Fa5/17    Fa5/17              disabled    routed    auto    auto   10/100BaseTX
Switch#
```

次に、エラー ディセーブル ステートのインターフェイスのステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces status err-disabled

Port      Name                Status      Reason
-----
Fa9/4     Fa9/4               notconnect  link-flap

informational error message when the timer expires on a cause
-----

5d04h:%PM-SP-4-ERR_RECOVER:Attempting to recover from link-flap err-disable state on
Fa9/4
Switch#
```



次に、TwinGig コンバータを使用する WS-X4606-10GE-E で Gigabit Ethernet インターフェイスを表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces status module 1
Port Name Status Vlan Duplex Speed Type
Te1/1 inactive 1 full 10G No X2
Te1/2 inactive 1 full 10G No X2
Te1/3 inactive 1 full 10G No X2
Te1/4 notconnect 1 full 10G No X2
Te1/5 notconnect 1 full 10G No X2
Te1/6 notconnect 1 full 10G No X2
Gi1/7 notconnect 1 full 1000 No Gbic
Gi1/8 notconnect 1 full 1000 No Gbic
Gi1/9 notconnect 1 full 1000 No Gbic
Gi1/10 notconnect 1 full 1000 No Gbic
Gi1/11 notconnect 1 full 1000 No Gbic
Gi1/12 notconnect 1 full 1000 No Gbic
Gi1/13 inactive 1 full 1000 No Gbic
Gi1/14 inactive 1 full 1000 No Gbic
Gi1/15 inactive 1 full 1000 No Gbic
Gi1/16 inactive 1 full 1000 No Gbic
Gi1/17 inactive 1 full 1000 No Gbic
Gi1/18 inactive 1 full 1000 No Gbic
Switch#
```

#### 関連コマンド

[errdisable detect](#)  
[hw-module port-group](#)  
[show errdisable recovery](#)

# show interfaces switchport

スイッチング（非ルーティング）ポートの管理ステータスおよび動作ステータスを表示するには、**show interfaces switchport** コマンドを使用します。

```
show interfaces [interface-id] switchport [module mod]
```

## シンタックスの説明

<i>interface-id</i>	(任意) 物理ポートのインターフェイス ID を指定します。
<b>module mod</b>	(任意) 表示対象を、指定されたモジュールのインターフェイスに限定します。有効値は 1～6 です。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(19)EW	インターフェイス単位の出力のサポートが追加されました。
12.2(18)EW	コマンド出力におけるネイティブ VLAN（仮想 LAN）タグgingのステータス表示がサポートされました。

## 例

次に、**begin** 出力修飾子を使用してスイッチポート情報を表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces switchport | include VLAN
Name: Fa5/6
Access Mode VLAN: 200 (VLAN0200)
Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
Trunking VLANs Enabled: ALL
Pruning VLANs Enabled: ALL
Switch#
```

次に、モジュール1のスイッチポート情報を表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces switchport module 1
Name:Gi1/1
Switchport:Enabled
Administrative Mode:dynamic auto
Operational Mode:down
Administrative Trunking Encapsulation:negotiate
Negotiation of Trunking:On
Access Mode VLAN:1 (default)
Trunking Native Mode VLAN:1 (default)
Administrative private-vlan host-association:none
Administrative private-vlan mapping:none
Operational private-vlan:none
Trunking VLANs Enabled:ALL
Pruning VLANs Enabled:2-1001

Name:Gi1/2
Switchport:Enabled
Administrative Mode:dynamic auto
Operational Mode:down
Administrative Trunking Encapsulation:negotiate
Negotiation of Trunking:On
Access Mode VLAN:1 (default)
Trunking Native Mode VLAN:1 (default)
Administrative private-vlan host-association:none
Administrative private-vlan mapping:none
Operational private-vlan:none
Trunking VLANs Enabled:ALL
Pruning VLANs Enabled:2-1001
Switch#
```

次に、ポートのネイティブ VLAN タギングのステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces f3/1 switchport
show interface f3/1 switchport
Name: Fa3/1
Switchport: Enabled
Administrative Mode: private-vlan trunk promiscuous
Operational Mode: private-vlan trunk promiscuous
Administrative Trunking Encapsulation: negotiate
Operational Trunking Encapsulation: dot1q
Negotiation of Trunking: On
Access Mode VLAN: 1 (default)
Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
Administrative Native VLAN tagging: enabled
Voice VLAN: none
Administrative private-vlan host-association: none
Administrative private-vlan mapping: none
Administrative private-vlan trunk native VLAN: 1
Administrative private-vlan trunk Native VLAN tagging: enabled
Administrative private-vlan trunk encapsulation: dot1q
Administrative private-vlan trunk normal VLANs: 1
Administrative private-vlan trunk associations: none
Administrative private-vlan trunk mappings:
  10 (VLAN0010) 100 (VLAN0100)
Operational private-vlan:
  10 (VLAN0010) 100 (VLAN0100)
Trunking VLANs Enabled: ALL
Pruning VLANs Enabled: 2-1001
Capture Mode Disabled
Capture VLANs Allowed: ALL

Unknown unicast blocked: disabled
Unknown multicast blocked: disabled
Appliance trust: none
Switch#
```

## 関連コマンド

[show interfaces capabilities](#)  
[show interfaces counters](#)

## show interfaces transceiver

トランシーバが接続されたすべてのインターフェイスの診断モニタリング データを表示するには、**show interfaces transceiver** コマンドを使用します。

```
show interfaces {[int_name] transceiver {[detail]} | {transceiver [module mod] | detail [module mod]}}
```

### シンタックスの説明

<b>int_name</b>	(任意) インターフェイスです。
<b>detail</b>	(任意) A/D 読み取り値が調整値と異なる場合は、調整値および読み取り値を表示します。また、 <b>high-alarm</b> 、 <b>high-warning</b> 、 <b>low-warning</b> 、および <b>low-alarm</b> しきい値も表示します。
<b>module mod</b>	(任意) 表示対象を特定のモジュールのインターフェイスに限定します。

### デフォルト

デフォルトでは、**show interfaces transceiver** コマンドのインターフェイス非固有バージョンがイネーブルです。

指定されたインターフェイスに診断モニタリング用に設定されたトランシーバ (GBIC [ギガビットインターフェイス コンバータ] または SFP) が接続されていて、このトランシーバが診断モニタリングをサポートするモジュールに搭載されている場合は、デフォルトでこれらのコマンドのインターフェイス固有バージョンがイネーブルになります。

### コマンド モード

特権 EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(20)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(18)EW	<b>calibration</b> キーワードのサポートが取り消されました。

### 使用上のガイドライン

**show interfaces transceiver** コマンドは、以下の条件が満たされている場合に有益な情報を表示しません。

- 診断モニタリング用に設定されたシャーシに、少なくとも 1 台のトランシーバが搭載されている場合
- 診断モニタリングをサポートするモジュールにトランシーバが搭載されている場合

トランシーバにアラームおよび警告フラグが設定されている場合は、確認のためにコマンドを再入力してください。

**例** 次に、スイッチに搭載されたトランシーバに接続されているすべてのインターフェイスの診断モニタリングデータを表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces transceiver
If device is externally calibrated, only calibrated values are printed.
++ : high alarm, + : high warning, - : low warning, -- : low alarm.
NA or N/A: not applicable, Tx: transmit, Rx: receive.
mA: milliamperes, dBm: decibels (milliwatts).

      Temperature  Voltage  Current      Optical  Optical
Port   (Celsius)     (Volts)  (mA)         (dBm)    Rx Power
-----
Gi1/1   48.1           3.30     0.0          8.1 ++   N/A
Gi1/2   33.0           3.30     1.8         -10.0    -36.9
Gi2/1   43.7           5.03     50.6 +      -16.7 --  N/A
Gi2/2   39.2           5.02     25.7         0.8     N/A
Switch#
```



**(注)** Optical Tx Power (dBm) の値は、 $\log(\text{Tx Power [mW]})$  の 10 倍です。Tx Power 値が 3 mW の場合、Optical Tx Power 値は  $10 \times \sim \log(3) = 10 \times \sim 0.477$ 、つまり 4.77 dBm になります。Optical Rx Power 値についても、同様です。Tx Power または Rx Power が 0 の場合、dBm 値は未定義となり、N/A (該当なし) と表示されます。

## show interfaces transceiver

次に、調整値、アラームおよび警告しきい値、A/D 読み取り値、アラームおよび警告フラグなど、詳細な診断モニタリング データを表示する例を示します。A/D 読み取り値は、調整値と異なる場合に限り、カッコ内で個別に表示されます。

Switch# **show interfaces transceiver detail**

mA: milliamperes, dBm: decibels (milliwatts), NA or N/A: not applicable.

++ : high alarm, + : high warning, - : low warning, -- : low alarm.

A2D readouts (if they differ), are reported in parentheses.

The threshold values are calibrated.

Port	Temperature (Celsius)	High Alarm Threshold (Celsius)	High Warn Threshold (Celsius)	Low Warn Threshold (Celsius)	Low Alarm Threshold (Celsius)
Gi1/1	48.1	100.0	100.0	0.0	0.0
Gi1/2	34.9	100.0	100.0	0.0	0.0
Gi2/1	43.5	70.0	60.0	5.0	0.0
Gi2/2	39.1	70.0	60.0	5.0	0.0

Port	Voltage (Volts)	High Alarm Threshold (Volts)	High Warn Threshold (Volts)	Low Warn Threshold (Volts)	Low Alarm Threshold (Volts)
Gi1/1	3.30	6.50	6.50	N/A	N/A
Gi1/2	3.30	6.50	6.50	N/A	N/A
Gi2/1	5.03	5.50	5.25	4.75	4.50
Gi2/2	5.02	5.50	5.25	4.75	4.50

Port	Current (milliamperes)	High Alarm Threshold (mA)	High Warn Threshold (mA)	Low Warn Threshold (mA)	Low Alarm Threshold (mA)
Gi1/1	0.0	130.0	130.0	N/A	N/A
Gi1/2	1.7	130.0	130.0	N/A	N/A
Gi2/1	50.6 +	60.0	40.0	10.0	5.0
Gi2/2	25.8	60.0	40.0	10.0	5.0

Port	Optical Transmit Power (dBm)	High Alarm Threshold (dBm)	High Warn Threshold (dBm)	Low Warn Threshold (dBm)	Low Alarm Threshold (dBm)
Gi1/1	8.1 ++	8.1	8.1	N/A	N/A
Gi1/2	-9.8	8.1	8.1	N/A	N/A
Gi2/1	-16.7 (-13.0) --	3.4	3.2	-0.3	-0.5
Gi2/2	0.8 ( 5.1)	3.4	3.2	-0.3	-0.5

Port	Optical Receive Power (dBm)	High Alarm Threshold (dBm)	High Warn Threshold (dBm)	Low Warn Threshold (dBm)	Low Alarm Threshold (dBm)
Gi1/1	N/A	8.1	8.1	N/A	N/A
Gi1/2	-30.9	8.1	8.1	N/A	N/A
Gi2/1	N/A (-28.5)	5.9	-6.7	-28.5	-28.5
Gi2/2	N/A (-19.5)	5.9	-6.7	-28.5	-28.5

Switch#

次に、モジュール2に搭載されたトランシーバに接続されているインターフェイスのモニタリングデータを表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces transceiver module 2
If device is externally calibrated, only calibrated values are printed.
++ : high alarm, + : high warning, - : low warning, -- : low alarm.
NA or N/A: not applicable, Tx: transmit, Rx: receive.
mA: milliamperes, dBm: decibels (milliwatts).
```

Port	Temperature (Celsius)	Voltage (Volts)	Current (mA)	Optical Tx Power (dBm)	Optical Rx Power (dBm)
Gi2/1	43.7	5.03	50.6 +	-16.7 --	N/A
Gi2/2	39.2	5.02	25.7	0.8	N/A

```
Switch#
```

次に、モジュール2に搭載されたトランシーバに接続されているインターフェイスの詳細なモニタリングデータを表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces transceiver detail module 2
mA: milliamperes, dBm: decibels (milliwatts), NA or N/A: not applicable.
++ : high alarm, + : high warning, - : low warning, -- : low alarm.
A2D readouts (if they differ), are reported in parentheses.
The threshold values are calibrated.
```

Port	Temperature (Celsius)	High Alarm Threshold (Celsius)	High Warn Threshold (Celsius)	Low Warn Threshold (Celsius)	Low Alarm Threshold (Celsius)
Gi2/1	43.5	70.0	60.0	5.0	0.0
Gi2/2	39.1	70.0	60.0	5.0	0.0

Port	Voltage (Volts)	High Alarm Threshold (Volts)	High Warn Threshold (Volts)	Low Warn Threshold (Volts)	Low Alarm Threshold (Volts)
Gi2/1	5.03	5.50	5.25	4.75	4.50
Gi2/2	5.02	5.50	5.25	4.75	4.50

Port	Current (milliamperes)	High Alarm Threshold (mA)	High Warn Threshold (mA)	Low Warn Threshold (mA)	Low Alarm Threshold (mA)
Gi2/1	50.6 +	60.0	40.0	10.0	5.0
Gi2/2	25.8	60.0	40.0	10.0	5.0

Port	Optical Transmit Power (dBm)	High Alarm Threshold (dBm)	High Warn Threshold (dBm)	Low Warn Threshold (dBm)	Low Alarm Threshold (dBm)
Gi2/1	-16.7 (-13.0) --	3.4	3.2	-0.3	-0.5
Gi2/2	0.8 ( 5.1)	3.4	3.2	-0.3	-0.5

Port	Optical Receive Power (dBm)	High Alarm Threshold (dBm)	High Warn Threshold (dBm)	Low Warn Threshold (dBm)	Low Alarm Threshold (dBm)
Gi2/1	N/A (-28.5)	5.9	-6.7	-28.5	-28.5
Gi2/2	N/A (-19.5)	5.9	-6.7	-28.5	-28.5

```
Switch#
```

## show interfaces transceiver

次に、インターフェイス g1/2 のトランシーバに関するモニタリング データを表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces g1/2 transceiver
ITU Channel 23 (1558.98 nm),
Transceiver is externally calibrated.
If device is externally calibrated, only calibrated values are printed.
++ : high alarm, + : high warning, - : low warning, -- : low alarm.
NA or N/A: not applicable, Tx: transmit, Rx: receive.
mA: milliamperes, dBm: decibels (milliwatts).
```

Port	Temperature (Celsius)	Voltage (Volts)	Current (mA)	Optical Tx Power (dBm)	Optical Rx Power (dBm)
Gi2/1	43.7	5.03	50.6 +	-16.7 --	N/A

Switch#

次に、インターフェイス g1/2 のトランシーバに関する詳細なモニタリング データを表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces g1/2 transceiver detail
ITU Channel 23 (1558.98 nm),
Transceiver is externally calibrated.
mA: milliamperes, dBm: decibels (milliwatts), NA or N/A: not applicable.
++ : high alarm, + : high warning, - : low warning, -- : low alarm.
A2D readouts (if they differ), are reported in parentheses.
The threshold values are calibrated.
```

Port	Temperature (Celsius)	High Alarm Threshold (Celsius)	High Warn Threshold (Celsius)	Low Warn Threshold (Celsius)	Low Alarm Threshold (Celsius)
Gi2/1	43.5	70.0	60.0	5.0	0.0

Port	Voltage (Volts)	High Alarm Threshold (Volts)	High Warn Threshold (Volts)	Low Warn Threshold (Volts)	Low Alarm Threshold (Volts)
Gi2/1	5.03	5.50	5.25	4.75	4.50

Port	Current (milliamperes)	High Alarm Threshold (mA)	High Warn Threshold (mA)	Low Warn Threshold (mA)	Low Alarm Threshold (mA)
Gi2/1	50.6 +	60.0	40.0	10.0	5.0

Port	Optical Transmit Power (dBm)	High Alarm Threshold (dBm)	High Warn Threshold (dBm)	Low Warn Threshold (dBm)	Low Alarm Threshold (dBm)
Gi2/1	-16.7 (-13.0) --	3.4	3.2	-0.3	-0.5

Port	Optical Receive Power (dBm)	High Alarm Threshold (dBm)	High Warn Threshold (dBm)	Low Warn Threshold (dBm)	Low Alarm Threshold (dBm)
Gi2/1	N/A (-28.5)	5.9	-6.7	-28.5	-28.5

Switch#

## 関連コマンド

[show idprom](#)  
[show interfaces status](#)



# show interfaces trunk

ポートおよびモジュールのインターフェイス トランク情報を表示するには、**show interfaces trunk** コマンドを使用します。

```
show interfaces trunk [module mod]
```

<b>シンタックスの説明</b>	<b>module mod</b>	(任意) 表示対象を、指定されたモジュールのインターフェイスに限定します。有効値は 1 ~ 6 です。
------------------	-------------------	---

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** キーワードを指定しない場合は、トランキング ポートの情報のみが表示されます。

**例** 次に、モジュール 5 のインターフェイス トランク情報を表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces trunk module 5

Port      Mode      Encapsulation  Status      Native vlan
Fa5/1     routed    negotiate       routed      1
Fa5/2     routed    negotiate       routed      1
Fa5/3     routed    negotiate       routed      1
Fa5/4     routed    negotiate       routed      1
Fa5/5     routed    negotiate       routed      1
Fa5/6     off       negotiate       not-trunking 10
Fa5/7     off       negotiate       not-trunking 10
Fa5/8     off       negotiate       not-trunking 1
Fa5/9     desirable n-isl         trunking    1
Fa5/10    desirable negotiate      not-trunking 1
Fa5/11    routed    negotiate       routed      1
Fa5/12    routed    negotiate       routed      1
...
Fa5/48    routed    negotiate       routed      1

Port      Vlans allowed on trunk
Fa5/1     none
Fa5/2     none
Fa5/3     none
Fa5/4     none
Fa5/5     none
Fa5/6     none
Fa5/7     none
Fa5/8     200
Fa5/9     1-1005
Fa5/10    none
Fa5/11    none
Fa5/12    none

Fa5/48    none
```

## ■ show interfaces trunk

```

Port          Vlans allowed and active in management domain
Fa5/1         none
Fa5/2         none
Fa5/3         none
Fa5/4         none
Fa5/5         none
Fa5/6         none
Fa5/7         none
Fa5/8         200
Fa5/9         1-6,10,20,50,100,152,200,300,303-305,349-351,400,500,521,524,570,801-8
02,850,917,999,1002-1005
Fa5/10        none
Fa5/11        none
Fa5/12        none

Fa5/48        none

Port          Vlans in spanning tree forwarding state and not pruned
Fa5/1         none
Fa5/2         none
Fa5/3         none
Fa5/4         none
Fa5/5         none
Fa5/6         none
Fa5/7         none
Fa5/8         200
Fa5/9         1-6,10,20,50,100,152,200,300,303-305,349-351,400,500,521,524,570,801-8
02,850,917,999,1002-1005
Fa5/10        none
Fa5/11        none

Fa5/48        none
Switch#

```

次に、アクティブなトランキング ポートのトランキング情報を表示する例を示します。

```
Switch# show interfaces trunk
```

```

Port          Mode          Encapsulation  Status        Native vlan
Fa5/9         desirable    n-isl          trunking      1

Port          Vlans allowed on trunk
Fa5/9         1-1005

Port          Vlans allowed and active in management domain
Fa5/9         1-6,10,20,50,100,152,200,300,303-305,349-351,400,500,521,524,570,801-8
02,850,917,999,1002-1005

Port          Vlans in spanning tree forwarding state and not pruned
Fa5/9         1-6,10,20,50,100,152,200,300,303-305,349-351,400,500,521,524,570,801-8
02,850,917,999,1002-1005
Switch#

```

# show ip arp inspection

特定の VLAN（仮想 LAN）範囲のダイナミック Address Resolution Protocol（ARP; アドレス レゾリューション プロトコル）インスペクション ステータスを表示するには、**show ip arp inspection** コマンドを使用します。

```
show ip arp inspection {[statistics] vlan vlan-range | interfaces [interface-name]}
```

## シンタックスの説明

<b>statistics</b>	(任意) この機能によって処理された、転送、廃棄、MAC（メディア アクセス制御）検証障害、および IP 検証障害の各パケット タイプに関する統計情報を表示します。
<b>vlan <i>vlan-range</i></b>	(任意) <b>statistics</b> キーワードと併用した場合は、選択された VLAN 範囲の統計情報を表示します。 <b>statistics</b> キーワードと併用しない場合は、選択された VLAN 範囲の Dynamic ARP Inspection（DAI; ダイナミック ARP インスペクション）の設定状態および動作状態を表示します。
<b>interfaces <i>interface-name</i></b>	(任意) 指定されたインターフェイスの信頼状態および ARP パケットのレート制限を表示します。インターフェイス名を指定しない場合は、システム内の適用可能なすべてのインターフェイスの信頼状態およびレート制限を表示します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンド モード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 例

次に、VLAN 3 の DAI によって処理されたパケットの統計情報を表示する例を示します。

```
Switch# show ip arp inspection statistics vlan 3

Vlan      Forwarded      Dropped      DHCP Drops      ACL Drops
----      -
3         31753          102407        102407          0

Vlan      DHCP Permits    ACL Permits    Source MAC Failures
----      -
3         31753          0              0

Vlan      Dest MAC Failures  IP Validation Failures
----      -
3         0                0

Switch#
```

## ■ show ip arp inspection

次に、アクティブなすべての VLAN の DAI によって処理されたパケットの統計情報を表示する例を示します。

```
Switch# show ip arp inspection statistics
```

Vlan	Forwarded	Dropped	DHCP Drops	ACL Drops
1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	68322	220356	220356	0
4	0	0	0	0
100	0	0	0	0
101	0	0	0	0
1006	0	0	0	0
1007	0	0	0	0

Vlan	DHCP Permits	ACL Permits	Source MAC Failures
1	0	0	0
2	0	0	0
3	68322	0	0
4	0	0	0
100	0	0	0
101	0	0	0
1006	0	0	0
1007	0	0	0

Vlan	Dest MAC Failures	IP Validation Failures
1	0	0
2	0	0
3	0	0
4	0	0
100	0	0
101	0	0
1006	0	0
1007	0	0

```
Switch#
```

次に、VLAN 1 の DAI の設定状態および動作状態を表示する例を示します。

```
Switch# show ip arp inspection vlan 1
Source Mac Validation      : Disabled
Destination Mac Validation : Disabled
IP Address Validation      : Disabled
```

Vlan	Configuration	Operation	ACL Match	Static ACL
1	Enabled	Active		

Vlan	ACL Logging	DHCP Logging
1	Deny	Deny

```
Switch#
```

次に、インターフェイス fastEthernet 6/1 の信頼状態を表示する例を示します。

```
Switch# show ip arp inspection interfaces fastEthernet 6/1
Interface      Trust State      Rate (pps)      Burst Interval
-----
Fa6/1          Untrusted        20               5
Switch#
```

次に、スイッチのインターフェイスの信頼状態を表示する例を示します。

```
Switch# show ip arp inspection interfaces
Interface          Trust State      Rate (pps)
-----
Gi1/1              Untrusted        15
Gi1/2              Untrusted        15
Gi3/1              Untrusted        15
Gi3/2              Untrusted        15
Fa3/3              Trusted          None
Fa3/4              Untrusted        15
Fa3/5              Untrusted        15
Fa3/6              Untrusted        15
Fa3/7              Untrusted        15
Switch#
```

**関連コマンド**

[arp access-list](#)  
[clear ip arp inspection log](#)  
[show ip arp inspection](#)

# show ip arp inspection log

ログバッファのステータスを表示するには、**show ip arp inspection log** コマンドを使用します。

**show ip arp inspection log**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、バッファをクリアする前後のログバッファの内容を表示する例を示します。

```
Switch# show ip arp inspection log
Total Log Buffer Size : 10
Syslog rate : 0 entries per 10 seconds.
```

Interface	Vlan	Sender MAC	Sender IP	Num of Pkts
Fa6/3	1	0002.0002.0002	1.1.1.2	1 (12:02:52 UTC Fri Apr 25 2003)
Fa6/3	1	0002.0002.0002	1.1.1.3	1 (12:02:52 UTC Fri Apr 25 2003)
Fa6/3	1	0002.0002.0002	1.1.1.4	1 (12:02:52 UTC Fri Apr 25 2003)
Fa6/3	1	0002.0002.0002	1.1.1.5	1 (12:02:52 UTC Fri Apr 25 2003)
Fa6/3	1	0002.0002.0002	1.1.1.6	1 (12:02:52 UTC Fri Apr 25 2003)
Fa6/3	1	0002.0002.0002	1.1.1.7	1 (12:02:52 UTC Fri Apr 25 2003)
Fa6/3	1	0002.0002.0002	1.1.1.8	1 (12:02:52 UTC Fri Apr 25 2003)
Fa6/3	1	0002.0002.0002	1.1.1.9	1 (12:02:52 UTC Fri Apr 25 2003)
Fa6/3	1	0002.0002.0002	1.1.1.10	1 (12:02:52 UTC Fri Apr 25 2003)
Fa6/3	1	0002.0002.0002	1.1.1.11	1 (12:02:52 UTC Fri Apr 25 2003)
--	--	--	--	5 (12:02:52 UTC Fri Apr 25 2003)

```
Switch#
```

次に、**clear ip arp inspection log** コマンドを使用してバッファをクリアする例を示します。

```
Switch# clear ip arp inspection log
Switch# show ip arp inspection log
Total Log Buffer Size : 10
Syslog rate : 0 entries per 10 seconds.
No entries in log buffer.
Switch#
```

**関連コマンド**

- [arp access-list](#)
- [clear ip arp inspection log](#)

# show ip cef vlan

IP Cisco Express Forwarding (CEF; シスコ エクスプレス フォワーディング) VLAN (仮想 LAN) インターフェイスのステータスやコンフィギュレーション情報、および特定のインターフェイスのプレフィクスを表示するには、**show ip cef vlan** コマンドを使用します。

```
show ip cef vlan vlan_num [detail]
```

## シンタックスの説明

<b>vlan_num</b>	VLAN (仮想 LAN) の番号です。
<b>detail</b>	(任意) 詳細情報を表示します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 例

次に、特定の VLAN のプレフィクスを表示する例を示します。

```
Switch# show ip cef vlan 1003
Prefix          Next Hop          Interface
0.0.0.0/0       172.20.52.1      FastEthernet3/3
0.0.0.0/32      receive
10.7.0.0/16     172.20.52.1      FastEthernet3/3
10.16.18.0/23   172.20.52.1      FastEthernet3/3
Switch#
```

次に、特定の VLAN に関する詳細な IP CEF 情報を表示する例を示します。

```
Switch# show ip cef vlan 1003 detail
IP Distributed CEF with switching (Table Version 2364), flags=0x0
 1383 routes, 0 reresolve, 0 unresolved (0 old, 0 new)
 1383 leaves, 201 nodes, 380532 bytes, 2372 inserts, 989 invalidations
 0 load sharing elements, 0 bytes, 0 references
 universal per-destination load sharing algorithm, id 9B6C9823
 3 CEF resets, 0 revisions of existing leaves
 refcounts: 54276 leaf, 51712 node

Adjacency Table has 5 adjacencies
Switch#
```

# show ip dhcp snooping

DHCP スヌーピングの設定を表示するには、**show ip dhcp snooping** コマンドを使用します。

**show ip dhcp snooping**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.2(25)EWA	信頼できないポートでのオプション 82 のサポートが追加されました。

**例** 次に、DHCP スヌーピングの設定を表示する例を示します。

```
Switch# show ip dhcp snooping
Switch DHCP snooping is enabled
DHCP snooping is configured on following VLANs:
500,555
DHCP snooping is operational on following VLANs:
500,555
DHCP snooping is configured on the following L3 Interfaces:
Insertion of option 82 is enabled
circuit-id default format: vlan-mod-port
remote-id: switch123 (string)
Option 82 on untrusted port is not allowed Verification of hwaddr field is enabled
DHCP snooping trust/rate is configured on the following Interfaces:
Interface Trusted Rate limit (pps)
-----
FastEthernet5/1 yes 100
Custom circuit-ids:
VLAN 555: customer-555
FastEthernet2/1 no unlimited
Custom circuit-ids:
VLAN 500: customer-500
Switch#
```

**関連コマンド**

- [ip dhcp snooping](#)
- [ip dhcp snooping information option](#)
- [ip dhcp snooping limit rate](#)
- [ip dhcp snooping trust](#)
- [ip dhcp snooping vlan](#)



# show ip dhcp snooping binding

DHCP スヌーピング バインディング エントリを表示するには、**show ip dhcp snooping binding** コマンドを使用します。

```
show ip dhcp snooping binding [ip-address] [mac-address] [vlan vlan_num] [interface interface_num]
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	<i>ip-address</i>	(任意) バインディング エントリの IP アドレスを指定します。
	<i>mac-address</i>	(任意) バインディング エントリの MAC (メディアアクセス制御) アドレスを指定します。
	<i>vlan vlan_num</i>	(任意) VLAN (仮想 LAN) を指定します。
	<i>interface interface_num</i>	(任意) インターフェイスを指定します。

**デフォルト** 引数を指定しない場合、スイッチは DHCP スヌーピング バインディング テーブル全体を表示します。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** DHCP スヌーピングは、グローバル スヌーピングと VLAN スヌーピングが両方ともイネーブルの場合のみ、VLAN 上でイネーブルになります。

VLAN の範囲を設定するには、オプションの *last\_vlan* 引数を使用して、VLAN 範囲の末尾を指定します。

**例** 次に、スイッチの DHCP スヌーピング バインディング エントリを表示する例を示します。

```
Switch# show ip dhcp snooping binding
```

MacAddress	IP Address	Lease (seconds)	Type	VLAN	Interface
0000.0100.0201	10.0.0.1	1600	dhcp-snooping	100	FastEthernet3/1

Switch#

次に、DHCP スヌーピング バインディング エントリの IP アドレスを表示する例を示します。

```
Switch# show ip dhcp snooping binding 172.100.101.102
```

MacAddress	IP Address	Lease (seconds)	Type	VLAN	Interface
0000.0100.0201	172.100.101.102	1600	dhcp-snooping	100	FastEthernet3/1

Switch#

次に、DHCP スヌーピング バインディング エントリの MAC (メディアアクセス制御) アドレスを表示する例を示します。

```
Switch# show ip dhcp snooping binding 55.5.5.2 0002.b33f.3d5f
```

MacAddress	IpAddress	Lease(sec)	Type	VLAN	Interface
00:02:B3:3F:3D:5F	55.5.5.2	492	dhcp-snooping	99	FastEthernet6/36

Switch#

## ■ show ip dhcp snooping binding

次に、特定の VLAN に関する DHCP スヌーピング バインディング エントリの MAC アドレスを表示する例を示します。

```
Switch# show ip dhcp snooping binding 55.5.5.2 0002.b33f.3d5f vlan 99
```

```

-----
MacAddress      IPAddress      Lease(sec)    Type          VLAN  Interface
-----
00:02:B3:3F:3D:5F  55.5.5.2      479           dhcp-snooping  99   FastEthernet6/36
Switch#

```

次に、ダイナミック DHCP スヌーピング バインディング エントリを表示する例を示します。

```
Switch# show ip dhcp snooping binding dynamic
```

```

-----
MacAddress      IP Address     Lease (seconds)  Type          VLAN  Interface
-----
0000.0100.0201  10.0.0.1      1600            dhcp-snooping  100   FastEthernet3/1
Switch#

```

次に、VLAN 100 の DHCP スヌーピング バインディング エントリを表示する例を示します。

```
Switch# show ip dhcp snooping binding vlan 100'
```

```

-----
MacAddress      IP Address     Lease (seconds)  Type          VLAN  Interface
-----
0000.0100.0201  10.0.0.1      1600            dhcp-snooping  100   FastEthernet3/1
Switch#

```

次に、インターフェイス fastethernet3/1 の DHCP スヌーピング バインディング エントリを表示する例を示します。

```
Switch# show ip dhcp snooping binding interface fastethernet3/1
```

```

-----
MacAddress      IP Address     Lease (seconds)  Type          VLAN  Interface
-----
0000.0100.0201  10.0.0.1      1600            dhcp-snooping  100   FastEthernet3/1
Switch#

```

表 2-19 で、show ip dhcp snooping コマンド出力のフィールドを説明します。

表 2-19 show ip dhcp snooping のコマンド出力

フィールド	説明
Mac Address	クライアントハードウェア MAC アドレス
IP Address	DHCP サーバから割り当てられたクライアント IP アドレス
Lease (seconds)	IP アドレス リース時間
Type	バインディング タイプ (CLI [コマンドライン インターフェイス] からステータックに設定されるか、ダイナミックに学習されます)
VLAN	クライアントインターフェイスの VLAN 番号
Interface	DHCP クライアント ホストに接続したインターフェイス

### 関連コマンド

[ip dhcp snooping information option](#)  
[ip dhcp snooping limit rate](#)  
[ip dhcp snooping trust](#)  
[ip igmp snooping](#)  
[ip igmp snooping vlan](#)

# show ip dhcp snooping database

DHCP スヌーピング データベース エージェントのステータスを表示するには、**show ip dhcp snooping database** コマンドを使用します。

**show ip dhcp snooping database [detail]**

<b>シンタックスの説明</b>	<b>detail</b> (任意) 追加の動作ステータスおよび統計情報を表示します。
------------------	---

<b>デフォルト</b>	このコマンドにデフォルト設定はありません。
--------------	-----------------------

<b>コマンドモード</b>	特権 EXEC モード
----------------	-------------

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.1(19)EW	ステータスおよび統計情報のサポートが追加されました。

<b>例</b>	次に、DHCP スヌーピング データベースを表示する例を示します。
----------	-----------------------------------

```
Switch# show ip dhcp snooping database
Agent URL :
Write delay Timer : 300 seconds
Abort Timer : 300 seconds

Agent Running : No
Delay Timer Expiry : Not Running
Abort Timer Expiry : Not Running

Last Succeeded Time : None
Last Failed Time : None
Last Failed Reason : No failure recorded.

Total Attempts      :          0   Startup Failures :          0
Successful Transfers :          0   Failed Transfers :          0
Successful Reads    :          0   Failed Reads     :          0
Successful Writes   :          0   Failed Writes    :          0
Media Failures      :          0

Switch#
```

## ■ show ip dhcp snooping database

次に、追加の動作統計情報を表示する例を示します。

```
Switch# show ip dhcp snooping database detail
Agent URL : tftp://10.1.1.1/directory/file
Write delay Timer : 300 seconds
Abort Timer : 300 seconds

Agent Running : No
Delay Timer Expiry : 7 (00:00:07)
Abort Timer Expiry : Not Running

Last Succeeded Time : None
Last Failed Time : 17:14:25 UTC Sat Jul 7 2001
Last Failed Reason : Unable to access URL.

Total Attempts      :          21   Startup Failures :          0
Successful Transfers :          0   Failed Transfers :         21
Successful Reads    :          0   Failed Reads     :          0
Successful Writes   :          0   Failed Writes    :         21
Media Failures      :          0

First successful access: Read

Last ignored bindings counters :
Binding Collisions   :          0   Expired leases    :          0
Invalid interfaces   :          0   Unsupported vlans :          0
Parse failures       :          0
Last Ignored Time : None

Total ignored bindings counters:
Binding Collisions   :          0   Expired leases    :          0
Invalid interfaces   :          0   Unsupported vlans :          0
Parse failures       :          0

Switch#
```

---

**関連コマンド**

[ip dhcp snooping](#)  
[ip dhcp snooping database](#)  
[ip dhcp snooping information option](#)  
[ip dhcp snooping limit rate](#)  
[ip dhcp snooping trust](#)  
[ip dhcp snooping vlan](#)

# show ip igmp interface

IP Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) インターフェイスのステータスおよびコンフィギュレーション情報を表示するには、**show ip igmp interface** コマンドを使用します。

```
show ip igmp interface [fastethernet slot/port | gigabitethernet slot/port | tengigabitethernet slot/port
| null interface-number | vlan vlan_id]
```

シンタックスの説明	
<b>fastethernet slot/port</b>	(任意) ファストイーサネット インターフェイス、およびスロットとポートの番号を指定します。
<b>gigabitethernet slot/port</b>	(任意) ギガビットイーサネット インターフェイス、およびスロットとポートの番号を指定します。有効値は 1～9 です。
<b>tengigabitethernet slot/port</b>	(任意) 10 ギガビットイーサネット インターフェイス、およびスロットとポートの番号を指定します。有効値は 1～2 です。
<b>null interface-number</b>	(任意) ヌル インターフェイスおよびインターフェイスの番号を指定します。有効値は 0 のみです。
<b>vlan vlan_id</b>	(任意) VLAN (仮想 LAN) および VLAN の番号を指定します。有効値は 1～4,094 です。

**デフォルト** VLAN を指定しない場合は、VLAN 1 の情報が表示されます。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。
	12.2(25)EW	10 ギガビットイーサネット インターフェイスのサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** オプションの引数を省略した場合、**show ip igmp interface** コマンドはすべてのインターフェイスの情報を表示します。

**例** 次に、VLAN 200 の IGMP 情報を表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp interface vlan 200
IGMP snooping is globally enabled
IGMP snooping is enabled on this Vlan
IGMP snooping immediate-leave is disabled on this Vlan
IGMP snooping mrouter learn mode is pim-dvmrp on this Vlan
IGMP snooping is running in IGMP-ONLY mode on this VLAN
Switch#
```

**関連コマンド**

- [clear ip igmp group](#)
- [show ip igmp snooping mrouter](#)

# show ip igmp profile

設定されたすべての Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) プロファイル、または指定された IGMP プロファイルを表示するには、**show ip igmp profile** 特権 EXEC コマンドを使用します。

```
show ip igmp profile [profile number]
```

<b>シンタックスの説明</b>	<i>profile number</i>	(任意) 表示する IGMP プロファイルの番号です。有効値は 1 ~ 4,294,967,295 です。
------------------	-----------------------	---

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(11b)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** プロファイル番号を入力しない場合は、すべての IGMP プロファイルが表示されます。

**例** 次に、IGMP プロファイル 40 を表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp profile 40
IGMP Profile 40
  permit
  range 233.1.1.1 233.255.255.255
Switch#
```

次に、すべての IGMP プロファイルを表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp profile
IGMP Profile 3
  range 230.9.9.0 230.9.9.0
IGMP Profile 4
  permit
  range 229.9.9.0 229.255.255.255
Switch#
```

**関連コマンド** [ip igmp profile](#)

# show ip igmp snooping

動的に学習され、手動で設定された VLAN (仮想 LAN) スイッチ インターフェイスの情報を表示するには、**show ip igmp snooping** コマンドを使用します。

```
show ip igmp snooping [querier | groups | mrouter] [vlan vlan_id] a.b.c.d [summary | sources | hosts]
[count]
```

## シンタックスの説明

<b>querier</b>	(任意) IP アドレスおよびバージョン情報を出力に含めるように指定します。
<b>groups</b>	(任意) VLAN メンバをグループ IP アドレスでソートして表示するように指定します。
<b>mrouter</b>	(任意) 動的に学習され、手動で設定されたマルチキャスト スイッチ インターフェイスに関する情報を出力に含めるように指定します。
<b>vlan vlan_id</b>	(任意) VLAN (仮想 LAN) を指定します。有効値は 1 ~ 1,001 および 1,006 ~ 4,094 です。
<b>a.b.c.d</b>	グループまたはマルチキャスト IP アドレスを指定します。
<b>summary</b>	(任意) v2 または v3 グループの詳細情報を表示するように指定します。
<b>sources</b>	(任意) 指定されたグループの送信元 IP のリストを指定します。
<b>hosts</b>	(任意) 指定されたグループのホスト IP のリストを指定します。
<b>count</b>	(任意) システムによってグローバルに、または VLAN 単位で学習されたグループアドレスの総数を表示するように指定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(19)EW	拡張アドレス指定のサポートが追加されました。
12.1(20)EW	IGMPv3 の明示的なホスト追跡に関する設定状態を表示するためのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) スヌーピングがイネーブルである VLAN の MAC (メディア アクセス制御) アドレス テーブル内のエントリを表示する場合は、**show mac-address-table multicast** コマンドも使用できます。

VLAN インターフェイスの IGMP スヌーピング情報を表示するには、**show ip igmp snooping** コマンドを入力します。

## ■ show ip igmp snooping

## 例

次に、スイッチのグローバル スヌーピング情報を表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping
Global IGMP Snooping configuration:
-----
IGMP snooping           : Enabled
IGMPv3 snooping        : Enabled
Report suppression     : Enabled
TCN solicit query      : Disabled
TCN flood query count   : 2

Vlan 1:
-----
IGMP snooping           : Enabled
IGMPv2 immediate leave : Disabled
Explicit host tracking  : Enabled
Multicast router learning mode : pim-dvmrp
CGMP interoperability mode : IGMP_ONLY

Vlan 2:
-----
IGMP snooping           : Enabled
IGMPv2 immediate leave : Disabled
Explicit host tracking  : Enabled
Multicast router learning mode : pim-dvmrp
CGMP interoperability mode : IGMP_ONLY
Switch>
```

次に、VLAN 2 のスヌーピング情報を表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping vlan 2
Global IGMP Snooping configuration:
-----
IGMP snooping           : Enabled
IGMPv3 snooping        : Enabled
Report suppression     : Enabled
TCN solicit query      : Disabled
TCN flood query count   : 2

Vlan 2:
-----
IGMP snooping           : Enabled
IGMPv2 immediate leave : Disabled
Explicit host tracking  : Enabled
Multicast router learning mode : pim-dvmrp
CGMP interoperability mode : IGMP_ONLY
Switch>
```

次に、スイッチのすべての VLAN の IGMP クエリア情報を表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping querier
Vlan      IP Address      IGMP Version      Port
-----
2         10.10.10.1      v2                 Router
3         172.20.50.22   v3                 Fa3/15
Switch>
```

次に、IGMPv2 の実行時に、VLAN 5 の IGMP クエリア情報を表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping querier vlan 5
IP address      :5.5.5.10
IGMP version    :v2
Port            :Fa3/1
Max response time :10s
Switch>
```



次に、IGMPv3 の実行時に、VLAN 5 の IGMP クエリア情報を表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping querier vlan 5
IP address           :5.5.5.10
IGMP version         :v3
Port                 :Fa3/1
Max response time    :10s
Query interval       :60s
Robustness variable  :2
Switch>
```

次に、特定のグループに関するスヌーピング情報を表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping group

Vlan      Group          Version  Ports
-----
2         224.0.1.40      v3      Router
2         224.2.2.2       v3      Fa6/2
Switch>
```

次に、VLAN 1 内のグループのホストタイプおよびポートを表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping group vlan 1

Vlan      Group          Host Type  Ports
-----
1         229.2.3.4      v3        fa2/1 fa2/3
1         224.2.2.2      v3        Fa6/2
Switch>
```

次に、VLAN 1 内のグループのホストタイプおよびポートを表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping group vlan 10 226.6.6.7

Vlan      Group          Version  Ports
-----
10        226.6.6.7      v3      Fa7/13, Fa7/14
Switch>
```

次に、特定の送信元 IP アドレスに対するグループの現在の状態を表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping group vlan 10 226.6.6.7 sources
Source information for group 226.6.6.7:
Timers: Expired sources are deleted on next IGMP General Query

SourceIP      Expires      Uptime      Inc Hosts  Exc Hosts
-----
2.0.0.1       00:03:04    00:03:48    2          0
2.0.0.2       00:03:04    00:02:07    2          0
Switch>
```

次に、特定のホスト MAC アドレスに対するグループの現在の状態を表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping group vlan 10 226.6.6.7 hosts
IGMPv3 host information for group 226.6.6.7
Timers: Expired hosts are deleted on next IGMP General Query

Host (MAC/IP)  Filter mode  Expires      Uptime      # Sources
-----
175.1.0.29     INCLUDE     stopped      00:00:51    2
175.2.0.30     INCLUDE     stopped      00:04:14    2
Switch>
```

## ■ show ip igmp snooping

次に、v3 グループ情報の概要を表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping group vlan 10 226.6.6.7 summary
Group Address (Vlan 10)      : 226.6.6.7
Host type                    : v3
Member Ports                 : Fa7/13, Fa7/14
Filter mode                  : INCLUDE
Expires                      : stopped
Sources                      : 2
Reporters (Include/Exclude) : 2/0
Switch>
```

次に、VLAN 1 のマルチキャスト ルータ情報を表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping mrouter vlan 1
vlan          ports
-----+-----
  1          Gi1/1,Gi2/1,Fa3/48,Router
Switch#
```

次に、システムがグローバルに学習したグループ アドレスの総数を表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping group count
Total number of groups: 54
Switch>
```

次に、VLAN 5 で学習されたグループ アドレスの総数を表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping group vlan 5 count
Total number of groups: 30
Switch>
```

---

**関連コマンド**

[ip igmp snooping](#)  
[ip igmp snooping vlan immediate-leave](#)  
[ip igmp snooping vlan mrouter](#)  
[ip igmp snooping vlan static](#)  
[show ip igmp interface](#)  
[show ip igmp snooping mrouter](#)  
[show mac-address-table multicast](#)

# show ip igmp snooping membership

ホストメンバシップ情報を表示するには、**show ip igmp snooping membership** コマンドを使用します。

```
show ip igmp snooping membership [interface interface_num] [vlan vlan_id] [reporter a.b.c.d]
[source a.b.c.d group a.b.c.d]
```

## シンタックスの説明

<b>interface interface_num</b>	(任意) インターフェイスの IP アドレスおよびバージョン情報を表示します。
<b>vlan vlan_id</b>	(任意) VLAN (仮想 LAN) メンバを VLAN のグループ IP アドレスでソートして表示します。有効値は 1 ~ 1,001 および 1,006 ~ 4,094 です。
<b>reporter a.b.c.d</b>	(任意) 指定されたレポーターのメンバシップ情報を表示します。
<b>source a.b.c.d</b>	(任意) レポーター、送信元、またはグループ IP アドレスを指定します。
<b>group a.b.c.d</b>	(任意) チャンネルのすべてのメンバ (送信元、グループ) をインターフェイスまたは VLAN でソートして表示します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(20)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.2(25)EW	10 ギガビットイーサネットインターフェイスのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドが有効なのは、スイッチで明示的なホスト追跡がイネーブルの場合のみです。

## 例

次に、インターフェイス `gigabitethernet4/1` のホストメンバシップを表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping membership interface gigabitethernet4/1
#channels: 5
#hosts : 1
Source/Group Interface Reporter Uptime Last-Join Last-Leave
40.40.40.2/224.10.10.10 Gi4/1 20.20.20.20 00:23:37 00:06:50 00:20:30
40.40.40.4/224.10.10.10Gi4/1 20.20.20.20 00:39:42 00:09:17 -
Switch#
```

次に、VLAN 20 およびグループ 224.10.10.10 のホストメンバシップを表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping membership vlan 20 source 40.40.40.2 group 224.10.10.10
#channels: 5
#hosts : 1
Source/Group Interface Reporter Uptime Last-Join Last-Leave
40.40.40.2/224.10.10.10 Gi4/1 20.20.20.20 00:23:37 00:06:50 00:20:30
Switch#
```

## ■ show ip igmp snooping membership

次に、VLAN 20 のホスト メンバシップ情報を表示して、明示的なホスト追跡を削除する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping membership vlan 20
Snooping Membership Summary for Vlan 20
-----
Total number of channels:5
Total number of hosts   :4

Source/Group                Interface  Reporter                Uptime   Last-Join/
Last-Leave
-----
-
40.0.0.1/224.1.1.1          Fa7/37    0002.4ba0.a4f6          00:00:04 00:00:04 /
-
40.0.0.2/224.1.1.1          Fa7/37    0002.fd80.f770          00:00:17 00:00:17 /
-
40.0.0.3/224.1.1.1          Fa7/36    20.20.20.20             00:00:04 00:00:04 /
-
40.0.0.4/224.1.1.1          Fa7/35    20.20.20.210           00:00:17 00:00:17 /
-
40.0.0.5/224.1.1.1          Fa7/37    0002.fd80.f770          00:00:17 00:00:17 /
-

Switch# clear ip igmp snooping membership vlan 20
Switch#
```

## 関連コマンド

**clear ip igmp snooping membership**  
**ip igmp snooping vlan explicit-tracking**  
**show ip igmp snooping vlan**

# show ip igmp snooping mrouter

動的に学習され、手動で設定されたマルチキャスト スイッチ インターフェイスの情報を表示するには、**show ip igmp snooping mrouter** コマンドを使用します。

```
show ip igmp snooping mrouter [{vlan vlan-id}]
```

シンタックスの説明	<b>vlan vlan-id</b> (任意) VLAN (仮想 LAN) を指定します。有効値は 1 ~ 1,001 および 1,006 ~ 4,094 です。
-----------	--

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.1(19)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) スヌーピングがイネーブルである VLAN の MAC (メディア アクセス制御) アドレス テーブル内のエントリを表示する場合は、**show mac-address-table multicast** コマンドも使用できます。

VLAN インターフェイスの IGMP スヌーピング情報を表示するには、**show ip igmp interface vlan vlan-num** コマンドを入力します。

**例** 次に、特定の VLAN のスヌーピング情報を表示する例を示します。

```
Switch# show ip igmp snooping mrouter vlan 1
vlan          ports
-----+-----
  1           Gi1/1,Gi2/1,Fa3/48,Switch
Switch#
```

**関連コマンド** [ip igmp snooping vlan mrouter](#)  
[show ip igmp interface](#)  
[show mac-address-table multicast](#)

# show ip igmp snooping vlan

動的に学習され、手動で設定された VLAN (仮想 LAN) スイッチ インターフェイスの情報を表示するには、**show ip igmp snooping vlan** コマンドを使用します。

```
show ip igmp snooping vlan vlan_num
```

<b>シンタックスの説明</b>	<i>vlan_num</i> VLAN の番号です。有効値は 1 ~ 1,001 および 1,006 ~ 4,094 です。
------------------	---

<b>デフォルト</b>	このコマンドにデフォルト設定はありません。
--------------	-----------------------

<b>コマンドモード</b>	特権 EXEC モード
----------------	-------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.1(12c)EW	拡張アドレス指定のサポートが追加されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) スヌーピングがイネーブルである VLAN の MAC (メディア アクセス制御) アドレス テーブル内のエントリを表示する場合は、 <b>show mac-address-table multicast</b> コマンドも使用できます。
-------------------	---

<b>例</b>	次に、特定の VLAN のスヌーピング情報を表示する例を示します。
----------	-----------------------------------

```
Switch# show ip igmp snooping vlan 2
vlan 2
-----
IGMP snooping is globally enabled
IGMP snooping TCN solicit query is globally enabled
IGMP snooping global TCN flood query count is 2
IGMP snooping is enabled on this Vlan
IGMP snooping immediate-leave is disabled on this Vlan
IGMP snooping mrouter learn mode is pim-dvmrp on this Vlan
IGMP snooping is running in IGMP_ONLY mode on this Vlan
Switch#
```

<b>関連コマンド</b>	<p><b>ip igmp snooping</b></p> <p><b>ip igmp snooping vlan immediate-leave</b></p> <p><b>ip igmp snooping vlan mrouter</b></p> <p><b>ip igmp snooping vlan static</b></p> <p><b>show ip igmp interface</b></p> <p><b>show ip igmp snooping mrouter</b></p> <p><b>show mac-address-table multicast</b></p>
---------------	---

# show ip interface

IP 用に設定されたインターフェイスのユーザビリティ ステータスを表示するには、**show ip interface** コマンドを使用します。

```
show ip interface [type number]
```

シンタックスの説明	<i>type</i>	(任意) インターフェイス タイプです。
	<i>number</i>	(任意) インターフェイス番号です。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(25)EW	10 ギガビット イーサネット インターフェイスが追加されました。

**使用上のガイドライン** インターフェイスを使用できる場合、Cisco IOS ソフトウェアはルーティング テーブルで直接接続されたルートで自動的に接続します。使用可能なインターフェイスでは、ソフトウェアはパケットを送受信できます。ソフトウェアがインターフェイスを使用できないと判断した場合、ルーティング テーブルから直接接続されたルーティング エントリを削除します。エントリを削除すると、ソフトウェアはダイナミック ルーティング プロトコルを使用してネットワークへのバックアップ ルートを決定できます。

インターフェイスが双方向通信を行う場合、ラインプロトコルは [Up] とマークされます。インターフェイスのハードウェアを使用する場合、インターフェイスは [Up] とマークされます。

任意のインターフェイス タイプを指定する場合、指定されたインターフェイスの情報のみを参照できます。

オプションの引数を指定しない場合、すべてのインターフェイスの情報を参照できます。

PPP (ポイントツーポイント プロトコル) または Serial Line Internet Protocol (SLIP; シリアル ライン インターネット プロトコル) を使用して非同期インターフェイスをカプセル化すると、IP ファスト スイッチングがイネーブルになります。同期インターフェイス上で PPP または SLIP を使用してカプセル化された **show ip interface** コマンドでは、IP ファスト スイッチングがイネーブルであることを示すメッセージが表示されます。

## 例

次に、特定の VLAN のユーザビリティ ステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show ip interface vlan 1
Vlan1 is up, line protocol is up
  Internet address is 10.6.58.4/24
  Broadcast address is 255.255.255.255
  Address determined by non-volatile memory
  MTU is 1500 bytes
  Helper address is not set
  Directed broadcast forwarding is disabled
  Outgoing access list is not set
  Inbound access list is not set
  Proxy ARP is enabled
  Local Proxy ARP is disabled
  Security level is default
  Split horizon is enabled
  ICMP redirects are always sent
  ICMP unreachable are always sent
  ICMP mask replies are never sent
  IP fast switching is enabled
  IP fast switching on the same interface is disabled
  IP Flow switching is disabled
  IP CEF switching is enabled
  IP Fast switching turbo vector
  IP Normal CEF switching turbo vector
  IP multicast fast switching is enabled
  IP multicast distributed fast switching is disabled
  IP route-cache flags are Fast, CEF
  Router Discovery is disabled
  IP output packet accounting is disabled
  IP access violation accounting is disabled
  TCP/IP header compression is disabled
  RTP/IP header compression is disabled
  Probe proxy name replies are disabled
  Policy routing is disabled
  Network address translation is disabled
  WCCP Redirect outbound is disabled
  WCCP Redirect inbound is disabled
  WCCP Redirect exclude is disabled
  BGP Policy Mapping is disabled
  Sampled Netflow is disabled
  IP multicast multilayer switching is disabled
  Netflow Data Export (hardware) is enabled
Switch#
```

表 2-20 に、この例で表示されるフィールドの説明を示します。

表 2-20 show ip interface フィールドの説明

フィールド	説明
Ethernet0 is up	インターフェイスのハードウェアを使用する場合、インターフェイスは [Up] とマークされます。使用するインターフェイスの場合、インターフェイス ハードウェアおよびライン プロトコルは両方ともアップする必要があります。
line protocol is up	インターフェイスが双方向通信を行う場合、ライン プロトコルは [Up] とマークされます。使用するインターフェイスの場合、インターフェイス ハードウェアおよびライン プロトコルは両方ともアップする必要があります。
Internet address and subnet mask	インターフェイスの IP アドレスおよびサブネット マスク
Broadcast address	ブロードキャスト アドレス
Address determined by...	インターフェイスの IP アドレスを判別するステータス



表 2-20 show ip interface フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
MTU	インターフェイス上で設定された MTU 値
Helper address	ヘルパー アドレス (設定されている場合)
Secondary address	セカンダリ アドレス (設定されている場合)
Directed broadcast forwarding	ブロードキャスト直接転送のステータス
Multicast groups joined	このインターフェイスが属するマルチキャスト グループ
Outgoing access list	インターフェイスに発信アクセス リストが設定されているかどうかのステータス
Inbound access list	インターフェイスに着信アクセス リストが設定されているかどうかのステータス
Proxy ARP	プロキシ Address Resolution Protocol (ARP; アドレス レゾリューション プロトコル) がインターフェイスでイネーブルであるかどうかのステータス
Security level	このインターフェイスの IP Security Option (IPSO) セキュリティ レベルの設定
Split horizon	スプリット ホライズンのステータス
ICMP redirects	このインターフェイス上のリダイレクト メッセージのステータス
ICMP unreachable	このインターフェイス上の到達不能メッセージのステータス
ICMP mask replies	このインターフェイス上のマスク応答のステータス
IP fast switching	ファスト スイッチングがこのインターフェイスでイネーブルであるかどうかのステータス。同様に、ファスト スイッチングはシリアル インターフェイス上でも通常イネーブルです。
IP SSE switching	IP Silicon Switching Engine (SSE) のステータス
Router Discovery	このインターフェイスの検出プロセスのステータス。シリアル インターフェイス上では通常ディセーブルです。
IP output packet accounting	このインターフェイスの IP アカウンティングおよびしきい値 (エントリの最大数) のステータス
TCP/IP header compression	圧縮のステータス
Probe proxy name	HP プローブ プロキシ名応答を生成するかどうかのステータス
WCCP Redirect outbound is enabled	インターフェイス上で受信されたパケットをキャッシュ エンジンへリダイレクトするかどうかのステータス
WCCP Redirect exclude is disabled	インターフェイス対象のパケットをキャッシュ エンジンへリダイレクトしないようにするかどうかのステータス
Netflow Data Export (hardware) is enabled	インターフェイスの NetFlow Data Export (NDE; NetFlow データ エクスポート) ハードウェア フロー ステータス

## show ip mfib

アクティブな Multicast Forwarding Information Base (MFIB; マルチキャスト転送情報ベース) ルートをすべて表示するには、**show ip mfib** コマンドを使用します。

```
show ip mfib [all | counters | log [n]]
```

シンタックスの説明	説明
<b>all</b>	(任意) スイッチングを高速化するために使用されるにもかかわらず、上位レイヤルーティング プロトコル テーブルに格納されているとは限らないルートを含めて、MFIB 内のルートをすべて指定します。
<b>counters</b>	(任意) MFIB 関連イベントの数を指定します。0 以外のカウンタのみが表示されます。
<b>log</b>	(任意) 最近の MFIB 関連イベントのログを指定します。最新のイベントが先に表示されます。
<b>n</b>	(任意) イベント番号です。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.2(40)SG	Supervisor Engine 6-E でこのコマンドのサポートが導入されました。

**使用上のガイドライン** Supervisor Engine 6-E システムでは、**show ip mfib** コマンドの出力にハードウェア カウンタは表示されません。

MFIB テーブルには、一連の IP マルチキャスト ルートが格納されます。MFIB テーブルの各ルートには、複数のフラグが対応付けられています。

ルート フラグは、ルートに一致するパケットの転送方法を指示します。たとえば、MFIB ルートに付けられた IC フラグは、スイッチのプロセスがパケットのコピーを受信する必要があることを意味します。MFIB ルートに対応付けられるフラグは、次のとおりです。

- **Internal Copy (IC) フラグ** — スイッチのプロセスが、特定のルートにマッチするすべてのパケットのコピーを受信する必要がある場合に設定します。
- **Signaling (S) フラグ** — このルートに一致するパケットを受信したことを、スイッチプロセスに通知する必要がある場合に設定します。シグナリング インターフェイスでのパケット受信に応答して、プロトコル コードが MFIB ステートを更新するなどの動作を行うことが考えられます。
- **Connected (C) フラグ** — このフラグをルートに設定した場合、直接接続されたホストによってルートに送信されたパケットだけをプロトコル プロセスに通知する必要があるという点を除き、S フラグと同じ意味を持ちます。

ルートには、1 つまたは複数のインターフェイスに対応するフラグを設定することもできます。(S,G) ルートの場合、インターフェイス 1 のフラグは、入力パケットの処理方法、およびルートと一致するパケットをインターフェイス 1 に転送するかどうかを指示します。MFIB ルートに対応付けられる各インターフェイスのフラグは、次のとおりです。

- **Accepting (A)** — インターフェイスに着信し、**Accepting (A)** としてマークされるパケットがすべての **Forwarding (F)** インターフェイスに転送される場合に、**RPF** インターフェイスに設定します。
- **Forwarding (F)** — 上記のように、**A** フラグと組み合わせて使用します。**Forwarding** インターフェイスの集合は、マルチキャスト **olist (output interface list)** を形成します。
- **Signalling (S)** — このインターフェイスに入力パケットが着信したときに、Cisco IOS のマルチキャストルーティングプロトコルプロセスに通知する必要がある場合に設定します。
- **Not Platform (NP) fast-switched** — **F** フラグと組み合わせて使用します。出力インターフェイスをプラットフォームハードウェアによって高速スイッチングできず、ソフトウェア転送が必要な場合に、**Forwarding** インターフェイスには **Not Platform fast-switched** というマークも付けられます。

たとえば、Supervisor Engine III を搭載した Catalyst 4506 スイッチは、トンネルインターフェイスのスイッチングをハードウェアで行えないため、これらのインターフェイスには **NP** フラグが付けられます。**NP** インターフェイスにルートが対応付けられている場合、**Accepting** インターフェイスに着信した入力パケットごとに、パケットのコピーがスイッチのソフトウェア転送パスに送信され、ソフトウェアで複製されてから、**NP** インターフェイスに転送されます。

**例**

次に、すべてのアクティブ MFIB ルートを表示する例を示します。

```
Switch# show ip mfib
IP Multicast Forwarding Information Base
Entry Flags: C - Directly Connected, S - Signal,
             IC - Internal Copy
Interface Flags: A - Accept, F - Forward, NS - Signal,
                NP - Not platform switched
Packets: Fast/Partial/Slow Bytes: Fast/Partial/Slow:
(171.69.10.13, 224.0.1.40), flags (IC)
  Packets: 2292/2292/0, Bytes: 518803/0/518803
  Vlan7 (A)
  Vlan100 (F NS)
  Vlan105 (F NS)
(*, 224.0.1.60), flags ()
  Packets: 2292/0/0, Bytes: 518803/0/0
  Vlan7 (A NS)
(*, 224.0.1.75), flags ()
  Vlan7 (A NS)
(10.34.2.92, 239.192.128.80), flags ()
  Packets: 24579/100/0, 2113788/15000/0 bytes
  Vlan7 (F NS)
  Vlan100 (A)
(*, 239.193.100.70), flags ()
  Packets: 1/0/0, 1500/0/0 bytes
  Vlan7 (A)
Switch#
```

**関連コマンド**

[clear ip mfib counters](#)

# show ip mfib fastdrop

現在アクティブなすべての高速廃棄エントリや、高速廃棄がイネーブルであるかどうかを表示するには、**show ip mfib fastdrop** コマンドを使用します。

**show ip mfib fastdrop**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、現在アクティブなすべての高速廃棄エントリ、および高速廃棄がイネーブルかどうかを表示する例を示します。

```
Switch# show ip mfib fastdrop
MFIB fastdrop is enabled.
MFIB fast-dropped flows:
(10.0.0.1, 224.1.2.3, Vlan9 ) 00:01:32
(10.1.0.2, 224.1.2.3, Vlan9 ) 00:02:30
(1.2.3.4, 225.6.7.8, Vlan3) 00:01:50
Switch#
```

**関連コマンド** [clear ip mfib fastdrop](#)

# show ip mroute

IP マルチキャスト ルーティング テーブル情報を表示するには、**show ip mroute** コマンドを使用します。

```
show ip mroute [interface_type slot/port | host_name | host_address [source] | active [kbps |
interface_type num] | count | pruned | static | summary]
```

## シンタックスの説明

<i>interface_type slot/port</i>	(任意) インターフェイス タイプおよびスロットとポートの番号です。 <i>interface type</i> の有効値は <b>fastethernet</b> 、 <b>gigabitethernet</b> 、 <b>tengigabitethernet</b> 、 <b>null</b> 、および <b>vlan</b> です。
<i>host_name</i>	(任意) Domain Name System (DNS; ドメイン ネーム システム) ホストテーブルで定義されている名前または IP アドレスです。
<i>host_address source</i>	(任意) マルチキャスト送信元の IP アドレスまたは名前です。
<b>active</b>	(任意) アクティブな送信元からマルチキャストグループへの送信速度を表示します。
<i>kbps interface_type num</i>	(任意) アクティブな送信元からマルチキャストグループへの送信速度の最小値です。送信速度がこの速度以上であるアクティブな送信元が表示されます。有効値は 1 ~ 4,294,967,295 kbps です。
<b>count</b>	(任意) ルートおよびパケット数に関する情報を表示します。
<b>pruned</b>	(任意) プルーニングされたルートを表示します。
<b>static</b>	(任意) スタティック マルチキャスト ルートを表示します。
<b>summary</b>	(任意) IP マルチキャスト ルーティング テーブル内の各エントリの概要を 1 行で表示します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.2(25)EW	10 ギガビットイーサネットインターフェイスのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

オプションの引数およびキーワードを省略した場合、**show ip mroute** コマンドは IP マルチキャスト ルーティング テーブル内のすべてのエントリを表示します。

**show ip mroute active kbps** コマンドは、送信速度が *kbps* 以上のすべての送信元を表示します。

マルチキャスト ルーティング テーブルにデータを入力するには、送信元、スターのグループ (S,G) エントリ、グループ (\*,G) エントリを作成します。スターはすべての送信元アドレス、[S] は単一の送信元アドレス、[G] は宛先マルチキャストグループアドレスを意味します。(S,G) エントリを作成する場合、ソフトウェアはユニキャストルーティングテーブル内で見つかった(つまり Reverse Path Forwarding [RPF] を経由する)、該当する宛先グループへの最適パスを使用します。

例 次に、IP マルチキャストルーティングテーブル内のすべてのエントリを表示する例を示します。

```
Switch# show ip mroute

IP Multicast Routing Table
Flags:D - Dense, S - Sparse, s - SSM Group, C - Connected, L - Local,
      P - Pruned, R - RP-bit set, F - Register flag, T - SPT-bit set,
      J - Join SPT, M - MSDP created entry, X - Proxy Join Timer Running
      A - Advertised via MSDP, U - URD, I - Received Source Specific Host
      Report
Outgoing interface flags:H - Hardware switched
Timers:Uptime/Expires
Interface state:Interface, Next-Hop or VCD, State/Mode

(*, 230.13.13.1), 00:16:41/00:00:00, RP 10.15.1.20, flags:SJC
  Incoming interface:GigabitEthernet4/8, RPF nbr 10.15.1.20
  Outgoing interface list:

GigabitEthernet4/9, Forward/Sparse-Dense, 00:16:41/00:00:00, H

(*, 230.13.13.2), 00:16:41/00:00:00, RP 10.15.1.20, flags:SJC
  Incoming interface:GigabitEthernet4/8, RPF nbr 10.15.1.20, RPF-MFD
  Outgoing interface list:
    GigabitEthernet4/9, Forward/Sparse-Dense, 00:16:41/00:00:00, H

(10.20.1.15, 230.13.13.1), 00:14:31/00:01:40, flags:CJT
  Incoming interface:GigabitEthernet4/8, RPF nbr 10.15.1.20, RPF-MFD
  Outgoing interface list:
    GigabitEthernet4/9, Forward/Sparse-Dense, 00:14:31/00:00:00, H
(132.206.72.28, 224.2.136.89), 00:14:31/00:01:40, flags:CJT
  Incoming interface:GigabitEthernet4/8, RPF nbr 10.15.1.20, RPF-MFD

  Outgoing interface list:Null
Switch#
```

次に、アクティブな送信元からマルチキャストグループへの送信速度を表示し、送信速度がデフォルト以上であるアクティブな送信元のみを表示する例を示します。

```
Switch# show ip mroute active

Active IP Multicast Sources - sending > = 4 kbps

Group: 224.2.127.254, (sdr.cisco.com)
  Source: 146.137.28.69 (mbone.ipd.anl.gov)
  Rate: 1 pps/4 kbps(1sec), 4 kbps(last 1 secs), 4 kbps(life avg)

Group: 224.2.201.241, ACM 97
  Source: 130.129.52.160 (webcast3-e1.acm97.interop.net)
  Rate: 9 pps/93 kbps(1sec), 145 kbps(last 20 secs), 85 kbps(life avg)

Group: 224.2.207.215, ACM 97
  Source: 130.129.52.160 (webcast3-e1.acm97.interop.net)
  Rate: 3 pps/31 kbps(1sec), 63 kbps(last 19 secs), 65 kbps(life avg)
Switch#
```

次に、ルートおよびパケット数に関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show ip mroute count
IP Multicast Statistics
56 routes using 28552 bytes of memory
13 groups, 3.30 average sources per group
Forwarding Counts:Pkt Count/Pkts per second/Avg Pkt Size/Kilobits per second

Other counts:Total/RPF failed/Other drops(OIF-null, rate-limit etc)

Group:224.2.136.89, Source count:1, Group pkt count:29051
Source:132.206.72.28/32, Forwarding:29051/-278/1186/0, Other:85724/8/56665
Switch#
```

次に、サマリー情報を表示する例を示します。

```
Switch# show ip mroute summary
IP Multicast Routing Table
Flags: D - Dense, S - Sparse, s - SSM Group, C - Connected, L - Local,
       P - Pruned, R - RP-bit set, F - Register flag, T - SPT-bit set,
       J - Join SPT, M - MSDP created entry, X - Proxy Join Timer Running
       A - Advertised via MSDP, U - URD, I - Received Source Specific Host
       Report
Outgoing interface flags: H - Hardware switched
Timers: Uptime/Expires
Interface state: Interface, Next-Hop or VCD, State/Mode

Switch#
```

表 2-21 に、この出力で表示されるフィールドについて説明します。

表 2-21 show ip mroute フィールドの説明

フィールド	説明
Flags:	エントリーに関する情報です。
D - Dense	エントリーは稠密モードで動作しています。
S - Sparse	エントリーは希薄モードで動作しています。
s - SSM Group	エントリーは SSM グループのメンバです。
C - Connected	マルチキャスト グループのメンバは、直接接続されたインターフェイス上に存在します。
L - Local	スイッチが、マルチキャストグループのメンバです。
P - Pruned	ルートがブルーニングされています。ダウンストリーム メンバが送信元に加入する場合は、この情報が保持されます。
R - Rp-bit set	(S,G) エントリーのステータスです。(S,G) エントリーが Route Processor (RP; ルートプロセッサ) 方向を指していることを示します。R - Rp-bit set は、通常、特定の送信元に関する共有ツリーに沿ったブルーニングステータスです。
F - Register flag	ソフトウェアのステータスです。ソフトウェアがマルチキャスト送信元に登録されていることを示します。
T - SPT-bit set	パケットのステータスです。パケットが最短パス送信元ツリーで受信されていることを示します。

表 2-21 show ip mroute フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
J - Join SPT	<p>(* , G) エントリの場合、共有ツリーの下方向に流れるトラフィックの速度が、グループの SPT しきい値の設定値を超えていることを示します (デフォルトの SPT しきい値の設定値は 0 kbps です)。J - Join SPT フラグが設定されている場合に、共有ツリーの下流で次の (S,G) パケットが受信されると、送信元方向に (S,G) join メッセージがトリガされます。これにより、スイッチは送信元ツリーに加入します。</p> <p>(S, G) エントリの場合、グループの SPT しきい値を超過したためにエントリが作成されたことを示します。(S,G) エントリに J - Join SPT フラグが設定されている場合、スイッチは送信元ツリー上のトラフィック速度をモニタします。送信元ツリーのトラフィック速度がグループの SPT しきい値を下回っている状況が 1 分以上継続した場合、スイッチはこの送信元の共有ツリーに再び切り替えようとしています。</p> <p>スイッチは共有ツリー上のトラフィック速度を測定し、この速度とグループの SPT しきい値を 1 秒おきに比較します。トラフィック速度が SPT しきい値を超えた場合は、トラフィック速度の次の測定が行われるまで、(* , G) エントリに J - Join SPT フラグが設定されます。共有ツリーに次のパケットが着信し、新しい測定インターバルが開始すると、フラグが解除されます。</p> <p>グループにデフォルトの SPT しきい値 (0 Kbps) が使用されている場合、(* , G) エントリには常に J - Join SPT フラグが設定され、解除されません。デフォルトの SPT しきい値が使用されている場合に、新しい送信元からトラフィックを受信すると、スイッチは最短パス ツリーにただちに切り替えます。</p>
Outgoing interface flag:	発信エントリに関する情報です。
H - Hardware switched	エントリはハードウェアによりスイッチングされます。
Timer:	Uptime/Expires
Interface state:	Interface、Next-Hop または Virtual Circuit Descriptor (VCD; 仮想チャネル ディスクリプタ)、State/Mode
(* , 224.0.255.1) (198.92.37.100/32, 224.0.255.1)	<p>IP マルチキャスト ルーティング テーブルのエントリです。エントリは、送信元スイッチの IP アドレスと、それに続くマルチキャストグループの IP アドレスで構成されます。送信元スイッチの位置に置かれたアスタリスク (*) は、すべての送信元を意味します。</p> <p>最初の形式のエントリは、(*,G) または「スター カンマ G」エントリといます。2 番目の形式のエントリは、(S,G) または「S カンマ G」エントリといます。(*,G) エントリは、(S,G) エントリを作成するために使用されます。</p>
uptime	IP マルチキャスト ルーティング テーブルにエントリが格納される期間 (時間、分、秒) です。
expires	発信インターフェイスの IP マルチキャスト ルーティング テーブルからエントリが削除されるまでの期間 (時間、分、秒) です。



表 2-21 show ip mroute フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
RP	RP スwitchのアドレスです。希薄モードで動作するSwitchおよびアクセスサーバの場合、このアドレスは常に 0.0.0.0 です。
flags:	エントリに関する情報です。
Incoming interface	送信元からのマルチキャストパケットが着信する予定のインターフェイスです。このインターフェイスに着信しなかったパケットは、廃棄されます。
RPF neighbor	送信元に対するアップストリーム Switchの IP アドレスです。「Tunneling」は、このSwitchがカプセル化されたデータを Register パケットに格納して RP に送信していることを示します。カッコ内の 16 進数は、登録されている RP を示します。1つのグループに複数の RP が使用されている場合、各ビットはそれぞれ異なる RP を示します。
DVMRP または Mroute	RPF 情報が DVMRP ルーティングテーブルから取得されたか、またはスタティック mroute コンフィギュレーションから取得されたかを示すステータスです。
Outgoing interface list	パケットが転送される際に通過したインターフェイスです。インターフェイス上で <b>ip pim nbma-mode</b> コマンドがイネーブルの場合、PIM ネイバの IP アドレスも表示されます。
Ethernet0	発信インターフェイスの名前および番号です。
Next hop または VCD	Next hop は、ダウンストリーム ネイバの IP アドレスを指定します。VCD は、仮想回線の記述子番号を指定します。VCD0 は、グループがスタティックマップ仮想回線を使用していることを意味します。
Forward/Dense	パケットのステータスです。アクセスリストまたは Time To Live (TTL) しきい値による制限がない場合に、インターフェイス上でパケットが転送されることを示します。スラッシュ (/) の後ろに、インターフェイスの動作モード (dense または sparse) を示します。
Forward/Sparse	希薄モードインターフェイスが転送モードです。
time/time (uptime/expiration time)	各インターフェイスの、IP マルチキャストルーティングテーブルにエントリが格納される期間 (時間、分、秒) です。スラッシュ (/) の後ろに、IP マルチキャストルーティングテーブルからエントリが削除されるまでの期間 (時間、分、秒) を示します。

### 関連コマンド

**ip multicast-routing** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

**ip pim** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

# show ip source binding

システムに設定された IP 送信元バインディングを表示するには、**show ip source binding EXEC** コマンドを使用します。

```
show ip source binding [ip-address] [mac-address] [dhcp-snooping | static] [vlan vlan-id] [interface interface-name]
```

## シンタックスの説明

<i>ip-address</i>	(任意) バインディング対象 IP アドレスです。
<i>mac-address</i>	(任意) バインディング対象 MAC (メディア アクセス制御) アドレスです。
<b>dhcp-snooping</b>	(任意) DHCP スヌーピング タイプ バインディングです。
<b>static</b>	(任意) スタティックに設定されたバインディングです。
<i>vlan vlan-id</i>	(任意) VLAN (仮想 LAN) の番号です。
<b>interface interface-name</b>	(任意) バインディング対象インターフェイスです。

## デフォルト

スタティック スヌーピング バインディングと DHCP スヌーピング バインディングを両方表示します。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

任意のパラメータを指定すると、出力結果がフィルタリングされます。

## 例

次に、IP 送信元バインディングを表示する例を示します。

```
Switch# show ip source binding
MacAddress      IpAddress      Lease(sec)  Type           VLAN  Interface
-----
00:00:00:0A:00:0B  11.0.0.1      infinite    static         10    FastEthernet6/10
Switch#
```

次に、IP アドレス 11.0.0.1 のスタティック IP バインディング エントリを表示する例を示します。

```
Switch# show ip source binding 11.0.0.1 0000.000A.000B static vlan 10 interface Fa6/10
show ip source binding 11.0.0.1 0000.000A.000B static vlan 10 interface Fa6/10
MacAddress      IpAddress      Lease(sec)  Type           VLAN  Interface
-----
00:00:00:0A:00:0B  11.0.0.1      infinite    static         10    FastEthernet6/10
Switch#
```

## 関連コマンド

[ip source binding](#)

# show ip verify source

特定のインターフェイスにおける IP 送信元ガードの設定およびフィルタを表示するには、**show ip verify source** コマンドを使用します。

```
show ip verify source [interface interface_num]
```

## シンタックスの説明

**interface interface\_num** (任意) インターフェイスを指定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 例

次に、**show ip verify source interface** コマンドを使用して、特定のインターフェイスにおける IP 送信元ガードの設定およびフィルタを表示する例を示します。

- この出力は、VLAN (仮想 LAN) 10 ~ 20 上で DHCP スヌーピングがイネーブルであり、インターフェイス fa6/1 の IP 送信元フィルタ モードが IP として設定されていて、VLAN 10 の 10.0.0.1 をバインドする既存の IP アドレスが存在する場合を示します。

Interface	Filter-type	Filter-mode	IP-address	Mac-address	Vlan
fa6/1	ip	active	10.0.0.1		10
fa6/1	ip	active	deny-all		11-20



- (注) 2 番目のエントリは、有効な IP 送信元バインディングを持たないスヌーピング対応 VLAN のポートに、デフォルト PVACL (すべての IP トラフィックを拒否) が設定されていることを示します。

- 次の出力は、VLAN 10 ~ 20 上で DHCP スヌーピングをイネーブルであり、インターフェイス fa6/1 の IP 送信元フィルタ モードが IP として設定されていて、VLAN 10 の 10.0.0.1 をバインドする既存の IP アドレスが存在する場合に、**show ip verify source interface fa6/2** コマンドを入力したものです。

Interface	Filter-type	Filter-mode	IP-address	Mac-address	Vlan
fa6/2	ip	inactive-trust-port			

- 次の出力は、インターフェイス fa6/3 に DHCP スヌーピング対応の VLAN が設定されていない場合に、**show ip verify source interface fa6/3** コマンドを入力したものです。

Interface	Filter-type	Filter-mode	IP-address	Mac-address	Vlan
fa6/3	ip	inactive-no-snooping-vlan			

- 次の出力は、インターフェイス fa6/4 の IP 送信元フィルタ モードが IP MAC (メディア アクセス制御) として設定されていて、VLAN 10 の 10.0.0.2/aaaa.bbbb.cccc および VLAN 11 の 11.0.0.1/aaaa.bbbb.cccd をバインドする既存の IP MAC が存在する場合に、**show ip verify source interface fa6/4** コマンドを入力したものです。

Interface	Filter-type	Filter-mode	IP-address	Mac-address	Vlan
fa6/4	ip-mac	active	10.0.0.2	aaaa.bbbb.cccc	10
fa6/4	ip-mac	active	11.0.0.1	aaaa.bbbb.cccd	11
fa6/4	ip-mac	active	deny-all	deny-all	12-20

- 次の出力は、インターフェイス fa6/5 の IP 送信元フィルタ モードが IP MAC として設定されていて、VLAN 10 の 10.0.0.3/aaaa.bbbb.cccc をバインドする既存の IP MAC が存在するにもかかわらず、fa6/5 でポートセキュリティがイネーブル化されていない場合に、**show ip verify source interface fa6/5** コマンドを入力したものです。

Interface	Filter-type	Filter-mode	IP-address	Mac-address	Vlan
fa6/5	ip-mac	active	10.0.0.3	permit-all	10
fa6/5	ip-mac	active	deny-all	permit-all	11-20



**(注)** DHCP セキュリティ MAC フィルタはポートまたは VLAN に適用できないため、最初にポートセキュリティをイネーブルにしてください。

- 次の出力は、インターフェイス fa6/6 に IP 送信元フィルタ モードが設定されていない場合に、**show ip verify source interface fa6/6** コマンドを入力したものです。

DHCP security is not configured on the interface fa6/6.

次に、**show ip verify source** コマンドを使用して、DHCP スヌーピングセキュリティおよび IP ポートセキュリティ トラッキングをイネーブルにしたスイッチのすべてのインターフェイスを表示する例を示します。

出力には、インターフェイス単位の **show CLI** (コマンドライン インターフェイス) がまとめて表示されます。

Interface	Filter-type	Filter-mode	IP-address	Mac-address	Vlan
fa6/1	ip	active	10.0.0.1		10
fa6/1	ip	active	deny-all		11-20
fa6/2	ip	inactive-trust-port			
Fa6/3	ip trk	active	40.1.1.24		10
Fa6/3	ip trk	active	40.1.1.20		10
Fa6/3	ip trk	active	40.1.1.21		10
fa6/4	ip-mac	active	10.0.0.2	aaaa.bbbb.cccc	10
fa6/4	ip-mac	active	11.0.0.1	aaaa.bbbb.cccd	11
fa6/4	ip-mac	active	deny-all	deny-all	12-20
fa6/5	ip-mac	active	10.0.0.3	permit-all	10
fa6/5	ip-mac	active	deny-all	permit-all	11-20

#### 関連コマンド

[ip dhcp snooping information option](#)  
[ip dhcp snooping limit rate](#)  
[ip dhcp snooping trust](#)  
[ip igmp snooping](#)  
[ip igmp snooping vlan](#)  
[ip source binding](#)  
[ip verify source](#)  
[show ip source binding](#)

# show ipc

Inter-Processor Communication (IPC; プロセッサ間通信) 情報を表示するには、**show ipc** コマンドを使用します。

**show ipc {nodes | ports | queue | status}**

## シンタックスの説明

<b>nodes</b>	参加ノードを表示します。
<b>ports</b>	ローカル IPC ポートを表示します。
<b>queue</b>	IPC 再送信キューの内容を表示します。
<b>status</b>	ローカル IPC サーバのステータスを表示します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 例

次に、参加ノードを表示する例を示します。

```
Switch# show ipc nodes
There are 3 nodes in this IPC realm.
  ID      Type      Name                               Last   Last
      Sent   Heard
  -----
  10000   Local     IPC Master                         0      0
  2010000 Local     GALIOS IPC:Card 1                 0      0
  2020000 Ethernet GALIOS IPC:Card 2                 12     26
Switch#
```

次に、ローカル IPC ポートを表示する例を示します。

```
Switch# show ipc ports
There are 11 ports defined.

Port ID      Type      Name                               (current/peak/total)
-----
 10000.1     unicast   IPC Master:Zone
 10000.2     unicast   IPC Master:Echo
 10000.3     unicast   IPC Master:Control
 10000.4     unicast   Remote TTY Server Port
 10000.5     unicast   GALIOS RF :Active
      index = 0 seat_id = 0x2020000 last sent = 0   heard = 1635   0/1/1635
 10000.6     unicast   GALIOS RED:Active
      index = 0 seat_id = 0x2020000 last sent = 0   heard = 2     0/1/2
 2020000.3     unicast   GALIOS IPC:Card 2:Control
 2020000.4     unicast   GALIOS RFS :Standby
 2020000.5     unicast   Slave: Remote TTY Client Port
 2020000.6     unicast   GALIOS RF :Standby
 2020000.7     unicast   GALIOS RED:Standby

RPC packets: current/peak/total
                                           0/1/17

Switch#
```

次に、IPC 再送信キューの内容を表示する例を示します。

```
Switch# show ipc queue
There are 0 IPC messages waiting for acknowledgement in the transmit queue.
There are 0 IPC messages waiting for a response.
There are 0 IPC messages waiting for additional fragments.
There are 0 IPC messages currently on the IPC inboundQ.
There are 0 messages currently in use by the system.
Switch#
```

次に、ローカル IPC サーバのステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show ipc status
IPC System Status:

This processor is the IPC master server.

6000 IPC message headers in cache
3363 messages in, 1680 out, 1660 delivered to local port,
1686 acknowledgements received, 1675 sent,
0 NACKS received, 0 sent,
0 messages dropped on input, 0 messages dropped on output
0 no local port, 0 destination unknown, 0 no transport
0 missing callback or queue, 0 duplicate ACKs, 0 retries,
0 message timeouts.
0 ipc_output failures, 0 mtu failures,
0 msg alloc failed, 0 emer msg alloc failed, 0 no origs for RPC replies
0 pak alloc failed, 0 memd alloc failed
0 no hwq, 1 failed opens, 0 hardware errors
No regular dropping of IPC output packets for test purposes
Switch#
```

# show ipv6 mld snooping

スイッチまたは VLAN の IP バージョン 6 (IPv6) Multicast Listener Discovery (MLD) スヌーピングの設定を表示するには、**show ipv6 mld snooping** コマンドを使用します。

```
show ipv6 mld snooping [vlan vlan-id]
```

<b>シンタックスの説明</b>	<b>vlan <i>vlan-id</i></b> (任意) 1 から 1,001 および 1,006 から 4,094 の範囲で VLAN を指定します。
------------------	---

<b>コマンドモード</b>	ユーザ EXEC モード
----------------	--------------

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.2(40)SG	このコマンドが Catalyst 4500 に導入されました。

**使用上のガイドライン** スイッチまたは特定の VLAN に対する MLD スヌーピングの設定を表示するには、このコマンドを使用します。

VLAN の番号 1,002 から 1,005 はトークンリングおよび FDDI VLAN 用に予約されており、MLD スヌーピングでは使用できません。

**例** 次に、**show ipv6 mld snooping vlan** コマンドの出力例を示します。特定 VLAN のスヌーピング特性を示します。

```
Switch> show ipv6 mld snooping vlan 100
Global MLD Snooping configuration:
-----
MLD snooping                : Enabled
MLDv2 snooping (minimal)    : Enabled
Listener message suppression : Enabled
TCN solicit query           : Disabled
TCN flood query count       : 2
Robustness variable         : 3
Last listener query count    : 2
Last listener query interval : 1000

Vlan 100:
-----
MLD snooping                : Disabled
MLDv1 immediate leave       : Disabled
Explicit host tracking       : Enabled
Multicast router learning mode : pim-dvmrp
Robustness variable         : 3
Last listener query count    : 2
Last listener query interval : 1000
```

次に、**show ipv6 mld snooping** コマンドの出力例を示します。スイッチ上の VLAN すべてのスヌーピング特性を表示します。

```
Switch> show ipv6 mld snooping
Global MLD Snooping configuration:
-----
MLD snooping                : Enabled
MLDv2 snooping (minimal)    : Enabled
Listener message suppression : Enabled
TCN solicit query           : Disabled
TCN flood query count       : 2
Robustness variable         : 3
Last listener query count    : 2
Last listener query interval : 1000

Vlan 1:
-----
MLD snooping                : Disabled
MLDv1 immediate leave       : Disabled
Explicit host tracking       : Enabled
Multicast router learning mode : pim-dvmrp
Robustness variable         : 1
Last listener query count    : 2
Last listener query interval : 1000

<output truncated>

Vlan 951:
-----
MLD snooping                : Disabled
MLDv1 immediate leave       : Disabled
Explicit host tracking       : Enabled
Multicast router learning mode : pim-dvmrp
Robustness variable         : 3
Last listener query count    : 2
Last listener query interval : 1000
```

## 関連コマンド

[ipv6 mld snooping](#)



# show ipv6 mld snooping mrouter

スイッチまたは VLAN の動的に学習され、手動で設定された IP バージョン 6 (IPv6) Multicast Listener Discovery (MLD) スイッチ ポートを表示するには、**show ipv6 mld snooping mrouter** コマンドを使用します。

```
show ipv6 mld snooping mrouter [vlan vlan-id]
```

シンタックスの説明	<b>vlan <i>vlan-id</i></b>	(任意) 1 から 1,001 および 1,006 から 4,094 の範囲で VLAN を指定します。
-----------	----------------------------	--

コマンドモード	ユーザ EXEC モード
---------	--------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(40)SG	このコマンドが Catalyst 4500 に導入されました。

**使用上のガイドライン** スイッチまたは特定の VLAN で MLD スヌーピング スイッチ ポートを表示するには、このコマンドを使用します。

VLAN の番号 1,002 から 1,005 はトークンリングおよび FDDI VLAN 用に予約されており、MLD スヌーピングでは使用できません。

**例** 次に、**show ipv6 mld snooping mrouter** コマンドの出力例を示します。これによって MLD スヌーピングに参加する、スイッチ上の VLAN すべてのスヌーピング特性が表示されます。

```
Switch> show ipv6 mld snooping mrouter
Vlan      ports
-----  -----
    2     Gi1/0/11 (dynamic)
    72     Gi1/0/11 (dynamic)
   200     Gi1/0/11 (dynamic)
```

次に、**show ipv6 mld snooping mrouter vlan** コマンドの出力例を示します。これによって特定 VLAN のマルチキャスト スイッチ ポートが表示されます。

```
Switch> show ipv6 mld snooping mrouter vlan 100
Vlan      ports
-----  -----
    2     Gi1/0/11 (dynamic)
```

**関連コマンド**

- [ipv6 mld snooping](#)
- [ipv6 mld snooping vlan](#)

## show ipv6 mld snooping querier

スイッチまたは VLAN から受信した最新の IP バージョン 6 (IPv6) Multicast Listener Discovery (MLD) スヌーピング クエリア関連の情報を表示するには、**show ipv6 mld snooping querier** コマンドを使用します。

```
show ipv6 mld snooping querier [vlan vlan-id]
```

### シンタックスの説明

<b>vlan <i>vlan-id</i></b>	(任意) 1 から 1,001 および 1,006 から 4,094 の範囲で VLAN を指定します。
----------------------------	--

### コマンドモード

ユーザ EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SG	このコマンドが Catalyst 4500 に導入されました。

### 使用上のガイドライン

**show ipv6 mld snooping querier** コマンドを使用すると、MLD クエリ メッセージを送信する、クエリアとも呼ばれる検出されたデバイスの MLD バージョンおよび IPv6 アドレスが表示されます。サブネットには複数のマルチキャスト スイッチを設定できますが、MLD クエリアは 1 つしか設定できません。クエリアはレイヤ 3 スイッチにすることができます。

**show ipv6 mld snooping querier** のコマンド出力でも、クエリアが検出された VLAN およびインターフェイスを表示できます。クエリアがスイッチの場合、*Port* フィールドに *Router* と出力されます。クエリアがルータの場合、*Port* フィールドにクエリアが検出されたポート番号が出力されます。

**show ipv6 mld snoop querier vlan** コマンドの出力では、外部または内部クエリアからのクエリ メッセージの返答として受信した情報が表示されます。これでは、特定の VLAN のスヌーピング堅牢性の変数などのユーザ設定の VLAN 値は表示されません。クエリア情報は、スイッチから送信される MASQ メッセージでのみ使用されます。クエリー メッセージに応答しないメンバをエージングアウトするために使用されるユーザ設定の堅牢性変数は上書きしません。

VLAN の番号 1,002 から 1,005 はトークンリングおよび FDDI VLAN 用に予約されており、MLD スヌーピングでは使用できません。

### 例

次に、**show ipv6 mld snooping querier** コマンドの出力例を示します。

```
Switch> show ipv6 mld snooping querier
Vlan      IP Address          MLD Version Port
-----
2         FE80::201:C9FF:FE40:6000 v1          Gi3/0/1
```

次に、**show ipv6 mld snooping querier vlan** コマンドの出力例を示します。

```
Switch> show ipv6 mld snooping querier vlan 2
IP address : FE80::201:C9FF:FE40:6000
MLD version : v1
Port : Gi3/0/1
Max response time : 1000s
```

## 関連コマンド

[ipv6 mld snooping](#)  
[ipv6 mld snooping last-listener-query-count](#)  
[ipv6 mld snooping last-listener-query-interval](#)  
[ipv6 mld snooping robustness-variable](#)  
[ipv6 mld snooping tc](#)

## show issu capability

クライアントの ISSU 機能を表示するには、**show issu capability** コマンドを使用します。

```
show issu capability {entries | groups | types} [client_id]
```

## シンタックスの説明

<b>entries</b>	1つの機能エントリに含まれる、機能タイプおよび依存機能タイプのリストを表示します。1つのエントリ内のタイプには、独立機能タイプが含まれる場合もあります。
<b>groups</b>	機能エントリのリストを、プライオリティ順(セッションにおいてネゴシエートされる順序)に表示します。
<b>types</b>	特定の機能を識別する ID を表示します。
<b>client_id</b>	(任意) ISSU インフラストラクチャに登録されているクライアントを識別します。  クライアント ID のリストを表示するには、 <b>show issu clients</b> コマンドを使用します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

ユーザ EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

ここでの機能とは、ISSU クライアントがサポートし、ピアと相互動作するために必要となる機能です。

ISSU 対応のクライアントがピアとのセッションを確立すると、ISSU ネゴシエーションが開始されます。ISSU インフラストラクチャは登録情報を使用して、セッション中に使用する機能およびメッセージバージョンをネゴシエートします。

## 例

次に、IP ホスト ISSU クライアント (clientid=2082) の ISSU 機能タイプを表示する例を示します。

```
Switch#show issu capability types 2082
Client_ID = 2082, Entity_ID = 1 :
  Cap_Type = 0
Switch#
```

## ■ show issu capability

次に、IP ホスト ISSU クライアント (clientid=2082) の ISSU 機能エントリを表示する例を示します。

```
Switch#show issu capability entries 2082
Client_ID = 2082, Entity_ID = 1 :
  Cap_Entry = 1 :
    Cap_Type = 0
Switch#
```

次に、IP ホスト ISSU クライアント (clientid=2082) の ISSU 機能グループを表示する例を示します。

```
Switch#show issu capability groups 2082
Client_ID = 2082, Entity_ID = 1 :
  Cap_Group = 1 :
    Cap_Entry = 1
    Cap_Type = 0
Switch#
```

---

関連コマンド[show issu clients](#)

## show issu clients

ISSU クライアントを表示するには、**show issu clients** コマンドを使用します。

```
show issu clients [peer_uid]
```

### シンタックスの説明

<i>peer_uid</i>	(任意) ピア スーパーバイザ エンジンの ISSU インフラストラクチャに登録されているクライアントのリストを表示します。
-----------------	--

### デフォルト

コマンドが入力されたスーパーバイザ エンジンの ISSU インフラストラクチャに登録されている、クライアントのリストを表示します。

### コマンド モード

ユーザ EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

ISSU バージョニング機能を実装するには、クライアントはシステムの初期化時に、まず自分自身、クライアント機能、およびクライアント メッセージ情報を ISSU インフラストラクチャに登録する必要があります。

### 例

次に、ISSU クライアントを表示する例を示します。

```
Switch# show issu clients
Client_ID = 2, Client_Name = ISSU Proto client, Entity_Count = 1
Client_ID = 3, Client_Name = ISSU RF, Entity_Count = 1
Client_ID = 4, Client_Name = ISSU CF client, Entity_Count = 1
Client_ID = 5, Client_Name = ISSU Network RF client, Entity_Count = 1
Client_ID = 7, Client_Name = ISSU CONFIG SYNC, Entity_Count = 1
Client_ID = 8, Client_Name = ISSU ifIndex sync, Entity_Count = 1
Client_ID = 9, Client_Name = ISSU IPC client, Entity_Count = 1
Client_ID = 10, Client_Name = ISSU IPC Server client, Entity_Count = 1
Client_ID = 11, Client_Name = ISSU Red Mode Client, Entity_Count = 1
Client_ID = 100, Client_Name = ISSU rfs client, Entity_Count = 1
Client_ID = 110, Client_Name = ISSU ifs client, Entity_Count = 1
Client_ID = 200, Client_Name = ISSU Event Manager client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2002, Client_Name = CEF Push ISSU client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2003, Client_Name = ISSU XDR client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2004, Client_Name = ISSU SNMP client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2010, Client_Name = ARP HA, Entity_Count = 1
Client_ID = 2012, Client_Name = ISSU HSRP Client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2021, Client_Name = XDR Int Priority ISSU client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2022, Client_Name = XDR Proc Priority ISSU client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2023, Client_Name = FIB HWIDB ISSU client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2024, Client_Name = FIB IDB ISSU client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2025, Client_Name = FIB HW subblock ISSU client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2026, Client_Name = FIB SW subblock ISSU client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2027, Client_Name = Adjacency ISSU client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2028, Client_Name = FIB IPV4 ISSU client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2054, Client_Name = ISSU process client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2058, Client_Name = ISIS ISSU RTR client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2059, Client_Name = ISIS ISSU UPD client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2067, Client_Name = ISSU PM Client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2068, Client_Name = ISSU PAGP_SWITCH Client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2070, Client_Name = ISSU Port Security client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2071, Client_Name = ISSU Switch VLAN client, Entity_Count = 1
```

```

Client_ID = 2072, Client_Name = ISSU dot1x client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2073, Client_Name = ISSU STP, Entity_Count = 1
Client_ID = 2077, Client_Name = ISSU STP MSTP, Entity_Count = 1
Client_ID = 2078, Client_Name = ISSU STP IEEE, Entity_Count = 1
Client_ID = 2079, Client_Name = ISSU STP RSTP, Entity_Count = 1
Client_ID = 2081, Client_Name = ISSU DHCP Snooping client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2082, Client_Name = ISSU IP Host client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2083, Client_Name = ISSU Inline Power client, Entity_Count = 1
Client_ID = 2084, Client_Name = ISSU IGMP Snooping client, Entity_Count = 1
Client_ID = 4001, Client_Name = ISSU C4K Chassis client, Entity_Count = 1
Client_ID = 4002, Client_Name = ISSU C4K Port client, Entity_Count = 1
Client_ID = 4003, Client_Name = ISSU C4K Rkios client, Entity_Count = 1
Client_ID = 4004, Client_Name = ISSU C4K HostMan client, Entity_Count = 1
Client_ID = 4005, Client_Name = ISSU C4k GaliosRedundancy client, Entity_Count = 1

```

## Base Clients:

```

Client_Name = ISSU Proto client
Client_Name = ISSU RF
Client_Name = ISSU CF client
Client_Name = ISSU Network RF client
Client_Name = ISSU CONFIG SYNC
Client_Name = ISSU ifIndex sync
Client_Name = ISSU IPC client
Client_Name = ISSU IPC Server client
Client_Name = ISSU Red Mode Client
Client_Name = ISSU rfs client
Client_Name = ISSU ifs client
Client_Name = ISSU Event Manager client
Client_Name = CEF Push ISSU client
Client_Name = ISSU XDR client
Client_Name = ARP HA
Client_Name = XDR Int Priority ISSU client
Client_Name = XDR Proc Priority ISSU client
Client_Name = FIB HWIDB ISSU client
Client_Name = FIB IDB ISSU client
Client_Name = FIB HW subblock ISSU client
Client_Name = FIB SW subblock ISSU client
Client_Name = Adjacency ISSU client
Client_Name = FIB IPV4 ISSU client
Client_Name = ISSU process client
Client_Name = ISSU PM Client
Client_Name = ISSU C4K Chassis client
Client_Name = ISSU C4K Port client
Client_Name = ISSU C4K Rkios client
Client_Name = ISSU C4K HostMan client
Client_Name = ISSU C4k GaliosRedundancy client

```

## 関連コマンド

[show issu capability](#)[show issu entities](#)

# show issu comp-matrix

In Service Software Upgrade (ISSU) 互換性マトリクスに関する情報を表示するには、**show issu comp-matrix** コマンドを使用します。

```
show issu comp-matrix {negotiated | stored | xml}
```

## シンタックスの説明

<b>negotiated</b>	ネゴシエートされた互換性マトリクス情報を表示します。
<b>stored</b>	保存された互換性マトリクス情報を表示します。
<b>xml</b>	ネゴシエートされた互換性マトリクス情報を XML 形式で表示します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

ユーザ EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

ISSU を使用する場合は、アクティブおよびスタンバイ スーパーバイザ エンジンでの、新旧バージョンの Cisco IOS ソフトウェア間の互換性レベルを事前に確認しておく必要があります。2つのバージョンに互換性がないと、ISSU は機能しません。

互換性マトリクスは Cisco.com で参照できます。したがって、ISSU プロセス中にアップグレードを実行できるかどうか事前に確認できます。ISSU プロセス中、またはあとから互換性マトリクスを表示するには、**show issu comp-matrix** コマンドを入力します。特定システムにおける、2つのソフトウェアバージョン間の互換性マトリクス データに対するネゴシエーション情報を表示するには、**show issu comp-matrix negotiated** コマンドを使用します。

互換性マトリクス データは、ISSU 機能をサポートする各 Cisco IOS ソフトウェア イメージとともに保存されます。保存された互換性マトリクス情報を表示するには、**show issu comp-matrix stored** コマンドを使用します。

互換性マトリクス情報は、すべての IOS ISSU イメージに組み込まれます。ISSU インフラストラクチャは、スタンバイ スーパーバイザ エンジンとの通信が確立されるとすぐに、マトリクスの検索を実行します。この検索では、次の3つの結果が想定されます。

- 互換性あり — 基本レベルのシステム インフラストラクチャ、およびすべてのオプション HA 対応サブシステムに互換性があります。稼働中にこうしたバージョン間のアップグレードまたはダウングレードを行っても、サービスへの影響は最小限にとどまります。
- 基本レベルの互換性あり — 1つ以上のオプション HA 対応サブシステムに互換性がありません。稼働中にバージョン間のアップグレードまたはダウングレードを正常に実行できますが、一部のサブシステムは、スイッチオーバー時に状態を維持することができません。稼働中のアップグレードまたはダウングレードを試みる前に、この処理がスイッチの動作およびサービスに与える影響について、慎重に検討する必要があります。
- 互換性なし — SSO が正しく機能するには、一式のコア システム インフラストラクチャが、ステートフルな形式で実行可能である必要があります。このような「必須」の機能またはサブシステムのうち、2つの異なる IOS イメージ間でどれか1つでも互換性がない場合は、この2つのバージョンの Cisco IOS イメージは「互換性なし」とみなされます。この場合、これらのバージョン間では、稼働中のアップグレードまたはダウングレードは実行できません。アクティブ スーパーバイザ エンジンとスタンバイ スーパーバイザ エンジンの IOS バージョンが異なる場合は、システムはこの間 RPR モードで動作します。

## 例

次に、ネゴシエートされた互換性マトリクス情報を表示する例を示します。

```
Switch# show issu comp-matrix negotiated
```

```
CardType: WS-C4507R(112), Uid: 2, Image Ver: 12.2(31)SGA
Image Name: cat4500-ENTSERVICES-M
```

Cid	Eid	Sid	pSid	pUid	Compatibility
2	1	262151	3	1	COMPATIBLE
3	1	262160	5	1	COMPATIBLE
4	1	262163	9	1	COMPATIBLE
5	1	262186	25	1	COMPATIBLE
7	1	262156	10	1	COMPATIBLE
8	1	262148	7	1	COMPATIBLE
9	1	262155	1	1	COMPATIBLE
10	1	262158	2	1	COMPATIBLE
11	1	262172	6	1	COMPATIBLE
100	1	262166	13	1	COMPATIBLE
110	113	262159	14	1	COMPATIBLE
200	1	262167	24	1	COMPATIBLE
2002	1	-	-	-	UNAVAILABLE
2003	1	262185	23	1	COMPATIBLE
2004	1	262175	16	1	COMPATIBLE
2008	1	262147	26	1	COMPATIBLE
2008	1	262168	27	1	COMPATIBLE
2010	1	262171	32	1	COMPATIBLE
2012	1	262180	31	1	COMPATIBLE
2021	1	262170	41	1	COMPATIBLE
2022	1	262152	42	1	COMPATIBLE
2023	1	-	-	-	UNAVAILABLE
2024	1	-	-	-	UNAVAILABLE
2025	1	-	-	-	UNAVAILABLE
2026	1	-	-	-	UNAVAILABLE
2027	1	-	-	-	UNAVAILABLE
2028	1	-	-	-	UNAVAILABLE
2054	1	262169	8	1	COMPATIBLE
2058	1	262154	29	1	COMPATIBLE
2059	1	262179	30	1	COMPATIBLE
2067	1	262153	12	1	COMPATIBLE
2068	1	196638	40	1	COMPATIBLE
2070	1	262145	21	1	COMPATIBLE
2071	1	262178	11	1	COMPATIBLE
2072	1	262162	28	1	COMPATIBLE
2073	1	262177	33	1	COMPATIBLE
2077	1	262165	35	1	COMPATIBLE
2078	1	196637	34	1	COMPATIBLE
2079	1	262176	36	1	COMPATIBLE
2081	1	262150	37	1	COMPATIBLE
2082	1	262161	39	1	COMPATIBLE
2083	1	262184	20	1	COMPATIBLE
2084	1	262183	38	1	COMPATIBLE
4001	101	262181	17	1	COMPATIBLE
4002	201	262164	18	1	COMPATIBLE
4003	301	262182	19	1	COMPATIBLE
4004	401	262146	22	1	COMPATIBLE
4005	1	262149	4	1	COMPATIBLE

```
Message group summary:
```

Cid	Eid	GrpId	Sid	pSid	pUid	Nego Result
2	1	1	262151	3	1	Y
3	1	1	262160	5	1	Y
4	1	1	262163	9	1	Y
5	1	1	262186	25	1	Y
7	1	1	262156	10	1	Y
8	1	1	262148	7	1	Y
9	1	1	262155	1	1	Y
10	1	1	262158	2	1	Y



11	1	1	262172	6	1	Y
100	1	1	262166	13	1	Y
110	113	115	262159	14	1	Y
200	1	1	262167	24	1	Y
2002	1	2	-	-	-	N - did not negotiate
2003	1	1	262185	23	1	Y
2004	1	1	262175	16	1	Y
2008	1	1	262147	26	1	Y
2008	1	2	262168	27	1	Y
2010	1	1	262171	32	1	Y
2012	1	1	262180	31	1	Y
2021	1	1	262170	41	1	Y
2022	1	1	262152	42	1	Y
2023	1	1	-	-	-	N - did not negotiate
2024	1	1	-	-	-	N - did not negotiate
2025	1	1	-	-	-	N - did not negotiate
2026	1	1	-	-	-	N - did not negotiate
2027	1	1	-	-	-	N - did not negotiate
2028	1	1	-	-	-	N - did not negotiate
2054	1	1	262169	8	1	Y
2058	1	1	262154	29	1	Y
2059	1	1	262179	30	1	Y
2067	1	1	262153	12	1	Y
2068	1	1	196638	40	1	Y
2070	1	1	262145	21	1	Y
2071	1	1	262178	11	1	Y
2072	1	1	262162	28	1	Y
2073	1	1	262177	33	1	Y
2077	1	1	262165	35	1	Y
2078	1	1	196637	34	1	Y
2079	1	1	262176	36	1	Y
2081	1	1	262150	37	1	Y
2082	1	1	262161	39	1	Y
2083	1	1	262184	20	1	Y
2084	1	1	262183	38	1	Y
4001	101	1	262181	17	1	Y
4002	201	1	262164	18	1	Y
4003	301	1	262182	19	1	Y
4004	401	1	262146	22	1	Y
4005	1	1	262149	4	1	Y

## List of Clients:

Cid	Client Name	Base/Non-Base
2	ISSU Proto client	Base
3	ISSU RF	Base
4	ISSU CF client	Base
5	ISSU Network RF client	Base
7	ISSU CONFIG SYNC	Base
8	ISSU ifIndex sync	Base
9	ISSU IPC client	Base
10	ISSU IPC Server client	Base
11	ISSU Red Mode Client	Base
100	ISSU rfs client	Base
110	ISSU ifs client	Base
200	ISSU Event Manager client	Base
2002	CEF Push ISSU client	Base
2003	ISSU XDR client	Base
2004	ISSU SNMP client	Non-Base
2008	ISSU Tableid Client	Base
2010	ARP HA	Base
2012	ISSU HSRP Client	Non-Base
2021	XDR Int Priority ISSU cli	Base
2022	XDR Proc Priority ISSU cl	Base
2023	FIB HWIDB ISSU client	Base
2024	FIB IDB ISSU client	Base
2025	FIB HW subblock ISSU clie	Base
2026	FIB SW subblock ISSU clie	Base
2027	Adjacency ISSU client	Base

## ■ show issu comp-matrix

```

2028      FIB IPV4 ISSU client      Base
2054      ISSU process client      Base
2058      ISIS ISSU RTR client     Non-Base
2059      ISIS ISSU UPD client     Non-Base
2067      ISSU PM Client           Base
2068      ISSU PAGP_SWITCH Client  Non-Base
2070      ISSU Port Security client Non-Base
2071      ISSU Switch VLAN client  Non-Base
2072      ISSU dot1x client        Non-Base
2073      ISSU STP                 Non-Base
2077      ISSU STP MSTP           Non-Base
2078      ISSU STP IEEE            Non-Base
2079      ISSU STP RSTP           Non-Base
2081      ISSU DHCP Snooping client Non-Base
2082      ISSU IP Host client      Non-Base
2083      ISSU Inline Power client Non-Base
2084      ISSU IGMP Snooping client Non-Base
4001      ISSU C4K Chassis client  Base
4002      ISSU C4K Port client     Base
4003      ISSU C4K Rkios client    Base
4004      ISSU C4K HostMan client  Base
4005      ISSU C4k GaliosRedundancy Base

```

次に、保存された互換性マトリクス情報を表示する例を示します。

```
Switch> show issu comp-matrix stored
```

```
Number of Matrices in Table = 1
```

```

(1) Matrix for cat4500-ENTSERVICES-M(112) - cat4500-ENTSERVICES-M(112)
=====
Start Flag (0xDEADBABE)

      My Image ver: 12.2(31)SGA
      Peer Version   Compatibility
      -----
      12.2(31)SGA           Comp(3)

```

## 関連コマンド

[show issu clients](#)  
[show issu sessions](#)

## show issu config-sync

ISSU コンフィギュレーション同期障害情報、または無視された Mismatched Command List (MCL) を表示するには (存在する場合)、**show issu config-sync** コマンドを使用します。

```
show issu config-sync {failures | ignored} {bem | mcl| prc}
```

```
show issu config-sync ignored failures mcl
```

シンタックスの説明	
<b>failures</b>	MCL エントリ、または BEM/PRC 障害を表示します。
<b>ignored</b>	無視された MCL エントリを表示します。
<b>bem</b>	(廃止予定)
<b>mcl</b>	アクティブ スーパーバイザ エンジンの実行コンフィギュレーション内には存在するが、スタンバイ スーパーバイザ エンジンのイメージではサポートされないコマンドを表示します。
<b>prc</b>	アクティブおよびスタンバイ スーパーバイザ エンジンで実行したコマンドに対する戻りコードにミスマッチが含まれる場合に、Parser Return Code (PRC) 障害を表示し、システムを強制的に PRC モードで動作させます。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** ユーザ EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 2 つの Cisco IOS イメージのバージョンが異なる場合、それぞれのイメージによってサポートされるコマンドの種類が異なる可能性があります。このようなミスマッチ コマンドをアクティブ スーパーバイザ エンジン上で実行すると、スタンバイ スーパーバイザ エンジンがこれを認識できない場合があります。この結果、コンフィギュレーション ミスマッチ条件が生じます。バルク同期中に、スタンバイ スーパーバイザ エンジンでこのコマンドに対する構文チェックが失敗すると、このコマンドは MCL に移動され、スタンバイ スーパーバイザ エンジンがリセットされます。すべてのミスマッチ コマンドを表示するには、**show issu config-sync failures mcl** コマンドを使用します。

MCL を消去するには、次の手順に従います。

- ステップ 1** アクティブ スーパーバイザ エンジンの実行コンフィギュレーションから、すべてのミスマッチ コマンドを削除します。
- ステップ 2** **issu config-sync validate mismatched-commands** コマンドを使用して、修正した実行コンフィギュレーションに基づき MCL を再確認します。
- ステップ 3** スタンバイ スーパーバイザ エンジンをリロードします。

または、次の手順に従って MCL を無視することもできます。

**ステップ 1** `issu config-sync ignore mismatched-commands` コマンドを実行します。

**ステップ 2** スタンバイ スーパーバイザ エンジンをリロードします。システムは SSO モードに変わります。



**(注)** ミスマッチ コマンドを無視する場合でも、アクティブおよびスタンバイ スーパーバイザ エンジンの異なるコンフィギュレーションは残されたままになります。

**ステップ 3** 無視された MCL を確認するには、`show issu config-sync ignored mcl` コマンドを使用します。

各コマンドは、このコマンドを実装するアクション機能において戻りコードを設定します。この戻りコードは、コマンドが正常に実行されたかどうかを示します。アクティブ スーパーバイザ エンジンは、コマンドの実行後に PRC を維持します。スタンバイ スーパーバイザ エンジンはコマンドを実行すると、PRC をアクティブ スーパーバイザ エンジンに返します。この 2 つの PRC が一致しないと、PRC 障害が発生します。バルク同期中または LBL 同期中にスタンバイ スーパーバイザ エンジンで PRC エラーが発生すると、スタンバイ スーパーバイザ エンジンはリセットされます。すべての PRC 障害を表示するには、`show issu config-sync failures prc` コマンドを使用します。

Best Effort Method (BEM) エラーを表示するには、`show issu config-sync failures bem` コマンドを使用します。

#### 例

次に、ISSU BEM 障害を表示する例を示します。

```
Switch# show issu config-sync failures bem
BEM Failed Command List
-----

The list is Empty
Switch#
```

次に、ISSU MCL 障害を表示する例を示します。

```
Switch#show issu config-sync failures mcl
Mismatched Command List
-----

The list is Empty
Switch#
```

次に、ISSU PRC 障害を表示する例を示します。

```
Switch#show issu config-sync failures prc
PRC Failed Command List
-----
interface FastEthernet3/2
! <submode> "interface"
- channel-protocol pagp
! </submode> "interface"
```

#### 関連コマンド

[issu config-sync mismatched-commands](#)

# show issu endpoints

ISSU エンドポイント情報を表示するには、**show issu endpoints** コマンドを使用します。

**show issu endpoints**

**シンタックスの説明** このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** ユーザ EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** エンドポイントは、冗長ドメイン内の実行ユニットです。Catalyst 4500 シリーズ スイッチ冗長シャーシには、2つのエンドポイント（1 および 2）のみがあります。これらはスーパーバイザ エンジンのスロット番号に相当します。ISSU インフラストラクチャはこの2つのエンドポイント間で通信を行ってセッションを確立し、ISSU クライアントのセッション ネゴシエーションを実行します。

**例** 次に、ISSU エンドポイントを表示する例を示します。

```
Switch# show issu endpoints
My_Unique_ID = 1/0x1, Client_Count = 46

This endpoint communicates with 1 peer endpoints :
  Peer_Unique_ID    CAP    VER    XFORM    ERP    Compatibility
  2/0x2             1      1      1        1      Same

Shared Negotiation Session Info :
  Nego_Session_ID = 15
  Nego_Session_Name = shared nego session
  Transport_Mtu = 4096
  Ses_In_Use = 2
Switch#
```

**関連コマンド** [show issu clients](#)

# show issu entities

ISSU エンティティ情報を表示するには、**show issu entities** コマンドを使用します。

```
show issu entities [client_id]
```

シンタックスの説明	<i>client_id</i> (任意) ISSU クライアント ID です。
-----------	--

デフォルト	このコマンドにデフォルト設定はありません。
-------	-----------------------

コマンドモード	ユーザ EXEC
---------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

使用上のガイドライン	エンティティとは、共通するいくつかの属性（機能リスト、メッセージタイプなど）を持つセッションを論理的にグループ化したものです。現時点では、Catalyst 4500 シリーズ スイッチのほとんどの ISSU クライアントのエンティティは1つのみです。
------------	---

例	次に、指定の ISSU クライアントに対するエンティティ情報を表示する例を示します。
---	--

```
Switch#show issu entities 2072
Client_ID = 2072 :
  Entity_ID = 1, Entity_Name = ISSU dot1x entity :
    MsgType MsgGroup CapType CapEntry CapGroup
    Count   Count   Count   count   Count
    28      1       1       1       1
Switch#
```

関連コマンド	<a href="#">show issu clients</a>
--------	-----------------------------------

# show issu fsm



(注) このコマンドは、エンドユーザを対象としたものではありません。

ISSU セッションに対応する ISSU Finite State Machine (FSM; 有限状態マシン) 情報を表示するには、**show issu fsm** コマンドを使用します。

```
show issu fsm [session_id]
```

## シンタックスの説明

*session\_id* (任意) 指定のセッションに対する詳細な FSM 情報を表示します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

ユーザ EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 例

次に、LOADVERSION 後の ISSU 状態を表示して確認する例を示します。

```
Switch# show issu fsm 26
Session_ID = 26 :
  FSM_Name      Curr_State      Old_State      Error_Reason
  FSM_L1        TRANS          A_VER         none
  FSM_L2_HELLO  EXIT           RCVD          none
  FSM_L2_A_CAP  A_EXIT        A_RSP         none
  FSM_L2_P_CAP  P_INIT        unknown       none
  FSM_L2_A_VER  A_EXIT        A_RES_RSP     none
  FSM_L2_P_VER  P_INIT        unknown       none
  FSM_L2_TRANS  COMP          COMP          none
Current FSM is FSM_L2_TRANS
Session is compatible
Negotiation started at 00:01:07.688, duration is 0.148 seconds
Switch#
```

## 関連コマンド

[show issu clients](#)  
[show issu sessions](#)

## show issu message

指定した ISSU クライアントのチェックポイント メッセージを表示するには、**show issu message** コマンドを使用します。

```
show issu message {groups | types} [client_id]
```

シンタックスの説明	groups	指定したクライアントのサポートするメッセージ グループ情報を表示します。
	types	指定したクライアントのサポートするすべてのメッセージ タイプ情報を表示します。
	client_id	(任意) クライアント ID を指定します。

**デフォルト** クライアント ID を指定しない場合は、ISSU インフラストラクチャに登録されているすべてのクライアントに対するメッセージ グループまたはメッセージ タイプ情報が表示されます。

**コマンドモード** ユーザ EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** メッセージとは、2つのエンドポイント間で送信された同期データ (別名チェックポイント データ) です。

ISSU 対応のクライアントがピアとのセッションを確立すると、ISSU ネゴシエーションが開始されます。ISSU インフラストラクチャは登録情報を使用して、セッション中に使用する機能およびメッセージ バージョンをネゴシエートします。

**例** 次に、クライアント ID 2082 のメッセージ グループを表示する例を示します。

```
Switch#show issu message groups 2082
Client_ID = 2082, Entity_ID = 1 :
  Message_Group = 1 :
    Message_Type = 1, Version_Range = 1 ~ 2
    Message_Type = 2, Version_Range = 1 ~ 2
Switch#
```

次に、クライアント ID 2082 のメッセージ タイプを表示する例を示します。

```
Switch#show issu message types 2082
Client_ID = 2082, Entity_ID = 1 :
  Message_Type = 1, Version_Range = 1 ~ 2
    Message_Ver = 1, Message_Mtu = 12
    Message_Ver = 2, Message_Mtu = 8
  Message_Type = 2, Version_Range = 1 ~ 2
    Message_Ver = 1, Message_Mtu = 32
    Message_Ver = 2, Message_Mtu = 28
Switch#
```

**関連コマンド** [show issu clients](#)



## show issu negotiated

ISSU クライアントに対し、ネゴシエートされた機能およびメッセージバージョン情報を表示するには、**show issu negotiated** コマンドを使用します。

```
show issu negotiated {capability | version} [session_id]
```

シンタックスの説明	
<b>capability</b>	ネゴシエートされたすべての機能を表示します。
<b>version</b>	ネゴシエートされたすべてのメッセージの詳細情報を表示します。
<i>session_id</i>	(任意)機能情報またはバージョン情報を表示する ISSU セッションの ID を指定します。

**デフォルト** 全ての ISSU セッションに対し、ネゴシエートされた機能情報またはバージョン情報を表示します。

**コマンドモード** ユーザ EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、指定グループのメッセージタイプを表示する例を示します。

```
Switch# show issu negotiated capability 26
Session_ID = 26 :
  Cap_Type = 0,      Cap_Result = 1      No cap value assigned

Switch# show issu negotiated version 26
Session_ID = 26 :
  Message_Type = 1, Negotiated_Version = 1, Message_MTU = 44
  Message_Type = 2, Negotiated_Version = 1, Message_MTU = 4
```

**関連コマンド** [show issu sessions](#)

# show issu rollback-timer

ISSU ロールバック タイマーの状態を表示するには、**show issu rollback-timer** コマンドを使用します。

**show issu rollback-timer**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、ロールバック タイマーの状態を表示する例を示します。

```
Switch#show issu rollback-timer
      Rollback Process State = Not in progress
      Configured Rollback Time = 45:00
Switch#
```

**関連コマンド**

- [issu acceptversion](#)
- [issu runversion](#)

## show issu sessions

指定したクライアントの ISSU セッション情報を表示するには、**show issu sessions** コマンドを使用します。

```
show issu sessions [client_id]
```

シンタックスの説明	<i>client_id</i> (任意) ISSU クライアント ID を指定します。
-----------	--

デフォルト	ISSU インフラストラクチャに登録されたすべてのクライアントのセッション情報を表示します。
-------	--

コマンドモード	ユーザ EXEC
---------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン**

セッションは双方向であり、2つのエンドポイント間で信頼性のある接続が確立されます。セッション中、ピア エンドポイントには同期データおよびネゴシエーションメッセージが送信されます。Catalyst 4500 シリーズスイッチでは、ISSU 対応の各クライアントは、各エンドポイントで最大1つのセッションを実行できます。

ISSU 対応のクライアントがピアとのセッションを確立すると、ISSU ネゴシエーションが開始されます。ISSU インフラストラクチャは登録情報を使用して、セッション中に使用する機能およびメッセージバージョンをネゴシエートします。

**例** 次に、ロールバック タイマーの状態を表示する例を示します。

```
Switch#show issu sessions 2072
Client_ID = 2072, Entity_ID = 1 :

*** Session_ID = 26, Session_Name = dot1x :

  Peer   Peer  Negotiate  Negotiated  Cap    Msg    Session
  UniqueID Sid   Role       Result      GroupID GroupID Signature
  2      26   PRIMARY   COMPATIBLE  1      1      0
                        (no policy)

Negotiation Session Info for This Message Session:
  Nego_Session_ID = 26
  Nego_Session_Name = dot1x
  Transport_Mtu = 17884
Switch#
```

関連コマンド	<a href="#">show issu clients</a>
--------	-----------------------------------

# show issu state

ISSU プロセス中に ISSU 状態、および現在起動されているイメージの名前を表示するには、**show issu state** コマンドを使用します。

```
show issu state [slot_number] [detail]
```

## シンタックスの説明

<i>slot_number</i>	(任意)ISSU 状態を表示する必要があるスロット番号(1 または 2)を指定します。
<b>detail</b>	(任意) アクティブおよびスタンバイ スーパーバイザ エンジンの状態についての詳細情報を表示します。

## デフォルト

アクティブ スーパーバイザ エンジンとスタンバイ スーパーバイザ エンジンの両方に対し、ISSU 状態、および現在起動されているイメージの名前が表示されます。

## コマンド モード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SGA	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

**issu loadversion** コマンドを入力してから、Cisco IOS ソフトウェアがスタンバイ スーパーバイザ エンジンにロードされ、スタンバイ スーパーバイザ エンジンが SSO モードに移行するまでには、数秒かかります。**show issu state** コマンドを入力するタイミングが早すぎると、必要な情報が表示されない場合があります。

## 例

次に、LOADVERSION 後の ISSU 状態を表示して確認する例を示します。

```
Switch# show issu state detail
      Slot = 1
      RP State = Active
      ISSU State = Load Version
      Boot Variable = bootflash:old_image,12
      Operating Mode = Stateful Switchover
      Primary Version = bootflash:old_image
      Secondary Version = bootflash:new_image
      Current Version = bootflash:old_image

      Slot = 2
      RP State = Standby
      ISSU State = Load Version
      Boot Variable = bootflash:new_image,12;bootflash:old_image,12
      Operating Mode = Stateful Switchover
      Primary Version = bootflash:old_image
      Secondary Version = bootflash:new_image
      Current Version = bootflash:new_image

Switch#
```

## 関連コマンド

[issu abortversion](#)  
[issu acceptversion](#)  
[issu commitversion](#)  
[issu loadversion](#)  
[issu runversion](#)

# show l2protocol-tunnel

レイヤ 2 プロトコル トンネル ポートに関する情報を表示するには、**show l2protocol-tunnel** コマンドを使用します。このコマンドは、プロトコル トンネリングがイネーブルなインターフェイスに関する情報を表示します。

```
show l2protocol-tunnel [interface interface-id] [[summary] | {begin | exclude | include} expression]
```

## シンタックスの説明

<b>interface interface-id</b>	(任意) プロトコル トンネリング情報を表示するインターフェイスを指定します。有効なインターフェイスは物理ポートおよびポート チャネルです。ポート チャネルの範囲は 1 ~ 64 です。
<b>summary</b>	(任意) レイヤ 2 プロトコル サマリー情報だけを表示します。
<b>begin</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行から表示を開始します。
<b>exclude</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行を除いた情報を表示します。
<b>include</b>	(任意) 指定された <i>expression</i> と一致する行を表示します。
<b>expression</b>	(任意) 参照ポイントとして使用する出力内の式です。

## コマンドモード

ユーザ EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(25)EW	10 ギガビット イーサネット インターフェイスのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**l2protocol-tunnel** コマンドを使用してアクセスまたは 802.1Q トンネル ポートでレイヤ 2 プロトコル トンネリングをイネーブルにすると、次のパラメータの一部またはすべてを設定できます。

- トンネリング対象のプロトコル タイプ
- シャットダウンしきい値
- 廃棄しきい値

**show l2protocol-tunnel [interface interface-id]** コマンドを入力すると、すべてのパラメータが設定されたアクティブ ポートに関する情報だけが表示されます。

**show l2protocol-tunnel summary** コマンドを入力すると、一部またはすべてのパラメータが設定されたアクティブ ポートに関する情報だけが表示されます。

文字列では大文字と小文字が区別されます。たとえば、**| exclude output** と入力した場合、*output* を含む行は表示されませんが、*Output* を含む行は表示されます。

## 例

次に、`show l2protocol-tunnel` コマンドの出力例を示します。

```
Switch> show l2protocol-tunnel
COS for Encapsulated Packets: 5

Port      Protocol Shutdown Threshold Drop Threshold Encapsulation Counter Decapsulation Counter Drop Counter
-----
Fa0/10    ---          ----          ----          ----          ----          ----
          stp          ----          ----          9847          1866          0
          vtp          ----          ----          77            12            0
          pagp         ----          ----          859           860           0
          lacp         ----          ----          0              0              0
          udld         ----          ----          219           211           0
Fa0/11    cdp          1100          ----          2356          2350          0
          stp          1100          ----          116           13            0
          vtp          1100          ----          3              67            0
          pagp         ----          900          856           5848          0
          lacp         ----          900          0              0              0
          udld         ----          900          0              0              0
Fa0/12    cdp          ----          ----          2356          0              0
          stp          ----          ----          11787         0              0
          vtp          ----          ----          81            0              0
          pagp         ----          ----          0              0              0
          lacp         ----          ----          849           0              0
          udld         ----          ----          0              0              0
Fa0/13    cdp          ----          ----          2356          0              0
          stp          ----          ----          11788         0              0
          vtp          ----          ----          81            0              0
          pagp         ----          ----          0              0              0
          lacp         ----          ----          849           0              0
          udld         ----          ----          0              0              0

Switch#
```

次に、`show l2protocol-tunnel summary` コマンドの出力例を示します。

```
Switch> show l2protocol-tunnel summary
COS for Encapsulated Packets: 5

Port      Protocol Shutdown Threshold Drop Threshold Status
          (cdp/stp/vtp) (cdp/stp/vtp)
          (pagp/lacp/udld) (pagp/lacp/udld)
-----
Fa0/10    --- stp vtp ----/----/---- ----/----/---- up
          pagp lacp udld ----/----/---- ----/----/----
Fa0/11    cdp stp vtp 1100/1100/1100 ----/----/---- up
          pagp lacp udld ----/----/---- 900/ 900/ 900
Fa0/12    cdp stp vtp ----/----/---- ----/----/---- up
          pagp lacp udld ----/----/---- ----/----/----
Fa0/13    cdp stp vtp ----/----/---- ----/----/---- up
          pagp lacp udld ----/----/---- ----/----/----
Fa0/14    cdp stp vtp ----/----/---- ----/----/---- down
          pagp ---- udld ----/----/---- ----/----/----
Fa0/15    cdp stp vtp ----/----/---- ----/----/---- down
          pagp ---- udld ----/----/---- ----/----/----
Fa0/16    cdp stp vtp ----/----/---- ----/----/---- down
          pagp lacp udld ----/----/---- ----/----/----
Fa0/17    cdp stp vtp ----/----/---- ----/----/---- down
          pagp lacp udld ----/----/---- ----/----/----

Switch#
```

## 関連コマンド

`clear l2protocol-tunnel counter` (Cisco IOS のマニュアルを参照)

[l2protocol-tunnel](#)

[l2protocol-tunnel cos](#)

# show lacp

LACP 情報を表示するには、**show lacp** コマンドを使用します。

```
show lacp [channel-group] {counters | internal | neighbors | sys-id}
```

シンタックスの説明	
<i>channel-group</i>	(任意) チャネルグループの番号です。有効値は 1 ~ 64 です。
<b>counters</b>	LACP 統計情報を表示します。
<b>internal</b>	内部情報を表示します。
<b>neighbors</b>	ネイバ情報を表示します。
<b>sys-id</b>	LACP システム ID を表示します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、Supervisor Engine I が搭載されているシステムではサポートされません。

*channel-group* 値を指定しない場合は、すべてのチャネルグループが表示されます。

オプションの *channel-group* 値を入力すると、**sys-id** キーワードを除くすべてのキーワードにチャネルグループを指定できます。

**例** 次に、特定のチャネルグループの LACP 統計情報を表示する例を示します。

```
Switch# show lacp 1 counters
          LACPDU          Marker          LACPDU
Port      Sent  Recv      Sent  Recv      Pkts Err
-----
Channel group: 1
  Fa4/1     8    15         0     0         3    0
  Fa4/2    14    18         0     0         3    0
  Fa4/3    14    18         0     0         0
  Fa4/4    13    18         0     0         0
Switch#
```

出力では次の情報が表示されます。

- [LACPDU Sent] および [Recv] カラムは、特定のインターフェイスで送受信された LACPDU 数を表示します。
- [LACPDU Pkts] および [Err] カラムは、マーカー プロトコル パケット数を表示します。

次に、特定のチャンネルに属するインターフェイスの内部情報を表示する例を示します。

```
Switch# show lacp 1 internal
Flags: S - Device sends PDUs at slow rate. F - Device sends PDUs at fast rate.
       A - Device is in Active mode.           P - Device is in Passive mode.

Channel group 1

Port      Flags  State  LACPDU Interval  LACP Port  Admin  Oper  Port  Port
         saC   bndl   s       Priority  Key       Key   Number State
Fa4/1    saC   bndl   30s     32768    100      100   0xc1  0x75
Fa4/2    saC   bndl   30s     32768    100      100   0xc2  0x75
Fa4/3    saC   bndl   30s     32768    100      100   0xc3  0x75
Fa4/4    saC   bndl   30s     32768    100      100   0xc4  0x75
Switch#
```

表 2-22 に、出力フィールドの定義を示します。

表 2-22 show lacp internal コマンドの出力フィールド

フィールド	説明
State	現時点における特定のポートの状態が表示されます。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>bndl</i> — ポートはアグリゲータに対応付けられ、他のポートとともにバンドルされています。</li> <li>• <i>susp</i> — ポートはサスペンド ステートです。アグリゲータに対応付けられていません。</li> <li>• <i>indep</i> — ポートはインディペンデント（独立）ステートです（バンドルされていませんが、データトラフィックのスイッチングは可能です。この場合、LACP はパートナー ポート上では稼働していません）。</li> <li>• <i>hot-sby</i> — ポートはホットスタンバイ ステートです。</li> <li>• <i>down</i> — ポートはダウンしています。</li> </ul>
LACPDU Interval	内部設定
LACP Port Priority	ポート プライオリティ設定
Admin Key	管理鍵
Oper Key	オペレータ鍵
Port Number	ポート番号
Port State	単一オクテット内の各ビットとして符号化されたポートのステート変数です。次の意味を持ちます [1]。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>bit0</b> : <i>LACP_Activity</i></li> <li>• <b>bit1</b> : <i>LACP_Timeout</i></li> <li>• <b>bit2</b> : <i>Aggregation</i></li> <li>• <b>bit3</b> : <i>Synchronization</i></li> <li>• <b>bit4</b> : <i>Collecting</i></li> <li>• <b>bit5</b> : <i>Distributing</i></li> <li>• <b>bit6</b> : <i>Defaulted</i></li> <li>• <b>bit7</b> : <i>Expired</i></li> </ul>



次に、特定のポートチャネルの LACP ネイバ情報を表示する例を示します。

```
Switch# show lacp 1 neighbor
Flags: S - Device sends PDUs at slow rate. F - Device sends PDUs at fast rate.
       A - Device is in Active mode.           P - Device is in Passive mode.

Channel group 1 neighbors

```

Port	Partner System ID	Partner Port Number	Age	Flags
Fa4/1	8000,00b0.c23e.d84e	0x81	29s	P
Fa4/2	8000,00b0.c23e.d84e	0x82	0s	P
Fa4/3	8000,00b0.c23e.d84e	0x83	0s	P
Fa4/4	8000,00b0.c23e.d84e	0x84	0s	P

Port	Admin Key	Oper Key	Port State
Fa4/1	32768	200	0x81
Fa4/2	32768	200	0x81
Fa4/3	32768	200	0x81
Fa4/4	32768	200	0x81

```
Switch#
```

Protocol Data Unit (PDU; プロトコル データ ユニット) が受信されていない場合は、カッコ内にデフォルトの管理情報が表示されます。

次に、LACP のシステム ID を表示する例を示します。

```
Switch> show lacp sys-id
8000,AC-12-34-56-78-90
Switch>
```

システム ID は、システムのプライオリティおよび MAC (メディア アクセス制御) アドレスで構成されます。先頭の 2 バイトはシステムのプライオリティです。最後の 6 バイトはシステムに対応付けられた、グローバルに管理された各 MAC アドレスです。

## 関連コマンド

[lacp port-priority](#)  
[lacp system-priority](#)

# show mac access-group interface

レイヤ2 インターフェイスの Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) 設定を表示するには、**show mac access-group interface** コマンドを使用します。

```
show mac access-group interface [interface interface-number]
```

<b>シンタックスの説明</b>	<i>interface</i>	(任意) インターフェイス タイプを指定します。有効値は <b>ethernet</b> 、 <b>fastethernet</b> 、 <b>gigabithernet</b> 、 <b>tengigabithernet</b> 、 <b>pos</b> 、 <b>atm</b> 、 <b>port-channel</b> 、および <b>ge-wan</b> です。
	<i>interface-number</i>	(任意) ポート番号を指定します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

<b>コマンド履歴</b>	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** ポート番号の有効値は、使用するシャーシによって異なります。

**例** 次に、インターフェイス fast 6/1 の ACL 設定を表示する例を示します。

```
Switch# show mac access-group interface fast 6/1
Interface FastEthernet6/1:
  Inbound access-list is simple-mac-acl
  Outbound access-list is not set
```

**関連コマンド** [access-group mode](#)

# show mac-address-table address

特定の MAC（メディア アクセス制御）アドレスの MAC アドレス テーブル情報を表示するには、**show mac-address-table address** コマンドを使用します。

```
show mac-address-table address mac_addr [interface type slot/port | protocol protocol | vlan vlan_id]
```

## シンタックスの説明

<i>mac_addr</i>	48 ビット MAC アドレスです。有効な形式は H.H.H です。
<i>interface type slot/port</i>	(任意) 特定のインターフェイスの情報を表示します。type の有効値は <b>fastethernet</b> 、 <b>gigabithernet</b> 、および <b>tengigabithernet</b> です。
<i>protocol protocol</i>	(任意) プロトコルを指定します。詳細については、「 <a href="#">使用上のガイドライン</a> 」を参照してください。
<i>vlan vlan_id</i>	(任意) 特定の VLAN（仮想 LAN）のエントリのみを表示します。有効値は 1 ~ 4,094 です。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。
12.2(25)EW	10 ギガビットイーサネットインターフェイスのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ルーテッドポートで使用される MAC アドレス テーブル エントリの場合、[vlan] カラムには内部 VLAN（仮想 LAN）番号でなくルーテッドポート名が表示されます。

*protocol* 変数のキーワードの定義は、次のとおりです。

- **ip** — IP プロトコルを指定します。
- **ipx** — IPX プロトコルを指定します。
- **assigned** — 割り当てられたプロトコル エントリを指定します。
- **other** — その他のプロトコル エントリを指定します。

## 例

次に、特定の MAC アドレスの MAC アドレス テーブル情報を表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table address 0030.94fc.0dff
Unicast Entries
  vlan  mac address      type      protocols      port
-----+-----+-----+-----+-----
    1   0030.94fc.0dff    static  ip,ipx,assigned,other  Switch
Fa6/1   0030.94fc.0dff    static  ip,ipx,assigned,other  Switch
Fa6/2   0030.94fc.0dff    static  ip,ipx,assigned,other  Switch
Switch#
```

## 関連コマンド

[show mac-address-table aging-time](#)  
[show mac-address-table count](#)  
[show mac-address-table dynamic](#)

[show mac-address-table interface](#)  
[show mac-address-table multicast](#)  
[show mac-address-table protocol](#)  
[show mac-address-table static](#)  
[show mac-address-table vlan](#)

## show mac-address-table aging-time

MAC (メディア アクセス制御) アドレス エージング タイムを表示するには、**show mac-address-table aging-time** コマンドを使用します。

```
show mac-address-table aging-time [vlan vlan_id]
```

### シンタックスの説明

**vlan *vlan\_id*** (任意) VLAN (仮想 LAN) を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

特権 EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張アドレス指定のサポートが追加されました。

### 例

次に、すべての VLAN に現在設定されているエージング タイムを表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table aging-time
Vlan    Aging Time
----    -
100     300
200     1000

Switch#
```

次に、特定の VLAN に現在設定されているエージング タイムを表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table aging-time vlan 100
Vlan    Aging Time
----    -
100     300

Switch#
```

### 関連コマンド

[show mac-address-table address](#)  
[show mac-address-table count](#)  
[show mac-address-table dynamic](#)  
[show mac-address-table interface](#)  
[show mac-address-table multicast](#)  
[show mac-address-table protocol](#)  
[show mac-address-table static](#)  
[show mac-address-table vlan](#)

# show mac-address-table count

MAC (メディア アクセス制御) アドレス テーブル内の現在のエントリ数を表示するには、**show mac-address-table count** コマンドを使用します。

```
show mac-address-table count [vlan vlan_id]
```

## シンタックスの説明

**vlan *vlan\_id*** (任意) VLAN (仮想 LAN) を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。

## 例

次に、特定の VLAN のエントリ数を表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table count vlan 1
MAC Entries for Vlan 1:
Dynamic Unicast Address Count:          0
Static Unicast Address (User-defined) Count: 0
Static Unicast Address (System-defined) Count: 1
Total Unicast MAC Addresses In Use:      1
Total Unicast MAC Addresses Available:    32768
Multicast MAC Address Count:             1
Total Multicast MAC Addresses Available:  16384
Switch#
```

## 関連コマンド

[show mac-address-table address](#)  
[show mac-address-table aging-time](#)  
[show mac-address-table dynamic](#)  
[show mac-address-table interface](#)  
[show mac-address-table multicast](#)  
[show mac-address-table protocol](#)  
[show mac-address-table static](#)  
[show mac-address-table vlan](#)

## show mac-address-table dynamic

ダイナミック MAC (メディア アクセス制御) アドレス テーブル エントリのみを表示するには、**show mac-address-table dynamic** コマンドを使用します。

```
show mac-address-table dynamic [address mac_addr | interface type slot/port | protocol protocol | vlan
vlan_id]
```

### シンタックスの説明

<b>address mac_addr</b>	(任意) 48 ビット MAC アドレスを指定します。有効な形式は H.H.H です。
<b>interface type slot/port</b>	(任意) 一致するインターフェイスを指定します。type の有効値は <b>fastethernet</b> 、 <b>gigabitethernet</b> 、および <b>tengigabitethernet</b> です。
<b>protocol protocol</b>	(任意) プロトコルを指定します。詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<b>vlan vlan_id</b>	(任意) 特定の VLAN (仮想 LAN) のエントリを指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

特権 EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。
12.2(25)EW	10 ギガビット イーサネット インターフェイスのサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

*protocol* 引数のキーワードの定義は、次のとおりです。

- **assigned** — 割り当てられたプロトコル エントリを指定します。
- **ip** — IP プロトコルを指定します。
- **ipx** — IPX プロトコルを指定します。
- **other** — その他のプロトコル エントリを指定します。

EtherChannel インターフェイスに対する **show mac-address-table dynamic** コマンドの出力では、ポート番号指定 (5/7 など) がポートのグループ番号 (Po80 など) に変更されます。

ルーテッド ポートで使用される MAC アドレス テーブル エントリの場合、[vlan] カラムには内部 VLAN (仮想 LAN) 番号でなくルーテッド ポート名が表示されます。

## 例

次に、ダイナミック MAC アドレス エントリをすべて表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table dynamic
Unicast Entries
  vlan  mac address      type          protocols          port
-----+-----+-----+-----+-----
   1    0000.0000.0201    dynamic ip                               FastEthernet6/15
   1    0000.0000.0202    dynamic ip                               FastEthernet6/15
   1    0000.0000.0203    dynamic ip,assigned                       FastEthernet6/15
   1    0000.0000.0204    dynamic ip,assigned                       FastEthernet6/15
   1    0000.0000.0205    dynamic ip,assigned                       FastEthernet6/15
   2    0000.0000.0101    dynamic ip                               FastEthernet6/16
   2    0000.0000.0102    dynamic ip                               FastEthernet6/16
   2    0000.0000.0103    dynamic ip,assigned                       FastEthernet6/16
   2    0000.0000.0104    dynamic ip,assigned                       FastEthernet6/16
   2    0000.0000.0105    dynamic ip,assigned                       FastEthernet6/16
Switch#
```

次に、特定のプロトコル タイプ（この場合は assigned）が設定されたダイナミック MAC アドレス エントリを表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table dynamic protocol assigned
Unicast Entries
  vlan  mac address      type          protocols          port
-----+-----+-----+-----+-----
   1    0000.0000.0203    dynamic ip,assigned                       FastEthernet6/15
   1    0000.0000.0204    dynamic ip,assigned                       FastEthernet6/15
   1    0000.0000.0205    dynamic ip,assigned                       FastEthernet6/15
   2    0000.0000.0103    dynamic ip,assigned                       FastEthernet6/16
   2    0000.0000.0104    dynamic ip,assigned                       FastEthernet6/16
   2    0000.0000.0105    dynamic ip,assigned                       FastEthernet6/16
Switch#
```

## 関連コマンド

[show mac-address-table protocol](#)

[show mac-address-table static](#)

[show mac-address-table vlan](#)

# show mac-address-table interface

特定のインターフェイスの MAC (メディア アクセス制御) アドレス テーブル情報を表示するには、**show mac-address-table interface** コマンドを使用します。

```
show mac-address-table interface type slot/port
```

シンタックスの説明	説明
<i>type</i>	(任意) インターフェイス タイプです。有効値は <b>ethernet</b> 、 <b>fastethernet</b> 、 <b>gigabitethernet</b> 、および <b>tengigabitethernet</b> です。
<i>slot/port</i>	スロットおよびポートの番号です。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.2(25)EW	10 ギガビット イーサネット インターフェイスのサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** ルーテッド ポートで使用される MAC アドレス テーブル エントリの場合、[vlan] カラムには内部 VLAN (仮想 LAN) 番号でなくルーテッド ポート名が表示されます。

**例** 次に、特定のインターフェイスの MAC アドレス テーブル情報を表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table interface fastethernet6/16
Unicast Entries
  vlan  mac address      type      protocols      port
-----+-----+-----+-----+-----
   2    0000.0000.0101    dynamic  other          FastEthernet6/16
   2    0000.0000.0102    dynamic  other          FastEthernet6/16
   2    0000.0000.0103    dynamic  other          FastEthernet6/16
   2    0000.0000.0104    dynamic  other          FastEthernet6/16
   2    0000.0000.0105    dynamic  other          FastEthernet6/16
   2    0000.0000.0106    dynamic  other          FastEthernet6/16

Multicast Entries
  vlan  mac address      type      ports
-----+-----+-----+-----
   2    ffff.ffff.ffff    system  Fa6/16
Switch#
```

**関連コマンド**

- [show mac-address-table address](#)
- [show mac-address-table aging-time](#)
- [show mac-address-table count](#)
- [show mac-address-table dynamic](#)
- [show mac-address-table multicast](#)
- [show mac-address-table protocol](#)
- [show mac-address-table static](#)
- [show mac-address-table vlan](#)



# show mac-address-table multicast

マルチキャスト MAC (メディア アクセス制御) アドレス テーブル情報を表示するには、**show mac-address-table multicast** コマンドを使用します。

```
show mac-address-table multicast [count | {igmp-snooping [count]} | {user [count]} | {vlan
vlan_num}]
```

## シンタックスの説明

<b>count</b>	(任意) マルチキャスト エントリ数を表示します。
<b>igmp-snooping</b>	(任意) Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネット グループ管理プロトコル) スヌーピングによって学習されるアドレスのみを表示します。
<b>user</b>	(任意) ユーザが入力したスタティック アドレスのみを表示します。
<b>vlan vlan_num</b>	(任意) 特定の VLAN (仮想 LAN) の情報のみを指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ルーテッドポートで使用される MAC アドレス テーブル エントリの場合、[vlan] カラムには内部 VLAN (仮想 LAN) 番号でなくルーテッドポート名が表示されます。

## 例

次に、特定の VLAN のマルチキャスト MAC アドレス テーブル情報を表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table multicast vlan 1
Multicast Entries
  vlan      mac address      type      ports
-----+-----+-----+-----
   1      ffff.ffff.ffff    system   Switch,Fa6/15
Switch#
```

次に、すべての VLAN のマルチキャスト MAC エントリ数を表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table multicast count
MAC Entries for all vlans:
Multicast MAC Address Count:                141
Total Multicast MAC Addresses Available:    16384
Switch#
```

## 関連コマンド

[show mac-address-table address](#)  
[show mac-address-table aging-time](#)  
[show mac-address-table count](#)  
[show mac-address-table dynamic](#)  
[show mac-address-table interface](#)

[show mac-address-table protocol](#)  
[show mac-address-table static](#)  
[show mac-address-table vlan](#)

## show mac-address-table notification

MAC（メディア アクセス制御）アドレス テーブルの通知ステータスと履歴を表示するには、**show mac-address-table notification** コマンドを使用します。

```
show mac-address-table notification [change] [interface interface-id] | [mac-move] | [threshold]
```

### シンタックスの説明

<b>change</b>	(任意) MAC アドレスの変更通知ステータスを表示します。
<b>interface</b>	(任意) インターフェイスに対する MAC 変更情報を表示します。
<i>interface-id</i>	(任意) 特定のインターフェイスの情報を表示します。有効なインターフェイスは物理ポートおよびポート チャネルです。
<b>mac-move</b>	(任意) MAC 移動通知ステータスを表示します。
<b>threshold</b>	(任意) MAC しきい値通知ステータスを表示します。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

**show mac-address-table notification change** コマンドを使用すると、MAC 変更機能がイネーブルなのかディセーブルなのか、MAC 変更通知のインターバル、履歴テーブルに許可された最大エントリ数、および履歴テーブルの内容を表示できます。

**interface** キーワードを使用すると、すべてのインターフェイスに対するフラグが表示されます。*interface-id* を指定した場合は、指定のインターフェイスだけのフラグが表示されます。

## 例

次に、すべての MAC アドレス通知情報を表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table notification change
MAC Notification Feature is Enabled on the switch
Interval between Notification Traps : 1 secs
Number of MAC Addresses Added : 5
Number of MAC Addresses Removed : 1
Number of Notifications sent to NMS : 3
Maximum Number of entries configured in History Table : 500
Current History Table Length : 3
MAC Notification Traps are Enabled
History Table contents
-----
History Index 1, Entry Timestamp 478433, Despatch Timestamp 478433
MAC Changed Message :
Operation: Added Vlan: 1 MAC Addr: 1234.5678.9ab0 Dot1dBasePort: 323
History Index 2, Entry Timestamp 481834, Despatch Timestamp 481834
MAC Changed Message :
Operation: Added Vlan: 1 MAC Addr: 1234.5678.9ab1 Dot1dBasePort: 323
Operation: Added Vlan: 1 MAC Addr: 1234.5678.9ab2 Dot1dBasePort: 323
Operation: Added Vlan: 1 MAC Addr: 1234.5678.9ab3 Dot1dBasePort: 323
Operation: Added Vlan: 1 MAC Addr: 1234.5678.9ab4 Dot1dBasePort: 323
History Index 3, Entry Timestamp 484334, Despatch Timestamp 484334
MAC Changed Message :
Operation: Deleted Vlan: 1 MAC Addr: 1234.5678.9ab0 Dot1dBasePort: 323
Switch#
```

次に、インターフェイス FastEthernet 7/1 の MAC アドレス変更ステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table notification change interface FastEthernet 7/1
MAC Notification Feature is Enabled on the switch
Interface MAC Added Trap MAC Removed Trap
-----
FastEthernet7/1 Enabled Disabled

Switch#
```

次に、MAC アドレス移動ステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table notification mac-move
MAC Move Notification: Enabled
Switch#
```

次に、MAC アドレス テーブルの使用状況ステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table notification threshold
Status limit Interval
-----+-----+-----
enabled 50 120
Switch#
```

## 関連コマンド

[clear mac-address-table](#)  
[mac-address-table notification](#)  
[snmp-server enable traps](#)  
[snmp trap mac-notification change](#)

# show mac-address-table protocol

プロトコルに基づいて MAC（メディア アクセス制御）アドレス テーブル情報を表示するには、**show mac-address-table protocol** コマンドを使用します。

```
show mac-address-table protocol {assigned | ip | ipx | other}
```

シンタックスの説明	assigned	割り当てられたプロトコル エントリを指定します。
	ip	IP プロトコル エントリを指定します。
	ipx	IPX プロトコル エントリを指定します。
	other	その他のプロトコル エントリを指定します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** ルーテッド ポートで使用される MAC アドレス テーブル エントリの場合、[vlan] カラムには内部 VLAN（仮想 LAN）番号でなくルーテッド ポート名が表示されます。

**例** 次に、特定のプロトコル タイプ（この場合は assigned）が設定された MAC アドレス テーブル エントリを表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table protocol assigned
vlan  mac address      type    protocol  qos      ports
-----+-----+-----+-----+-----+-----
  200  0050.3e8d.6400  static  assigned  --      Switch
  100  0050.3e8d.6400  static  assigned  --      Switch
    5  0050.3e8d.6400  static  assigned  --      Switch
4092  0000.0000.0000  dynamic  assigned  --      Switch
    1  0050.3e8d.6400  static  assigned  --      Switch
    4  0050.3e8d.6400  static  assigned  --      Switch
4092  0050.f0ac.3058  static  assigned  --      Switch
4092  0050.f0ac.3059  dynamic  assigned  --      Switch
    1  0010.7b3b.0978  dynamic  assigned  --      Fa5/9
Switch#
```

次に、上記の例における、その他の出力例を示します。

```
Switch# show mac-address-table protocol other
Unicast Entries
  vlan  mac address  type  protocols  port
-----+-----+-----+-----+-----
   1    0000.0000.0201  dynamic other  FastEthernet6/15
   1    0000.0000.0202  dynamic other  FastEthernet6/15
   1    0000.0000.0203  dynamic other  FastEthernet6/15
   1    0000.0000.0204  dynamic other  FastEthernet6/15
   1    0030.94fc.0dff   static ip,ipx,assigned,other  Switch
   2    0000.0000.0101  dynamic other  FastEthernet6/16
   2    0000.0000.0102  dynamic other  FastEthernet6/16
   2    0000.0000.0103  dynamic other  FastEthernet6/16
   2    0000.0000.0104  dynamic other  FastEthernet6/16
Fa6/1  0030.94fc.0dff   static ip,ipx,assigned,other  Switch
Fa6/2  0030.94fc.0dff   static ip,ipx,assigned,other  Switch

Multicast Entries
  vlan  mac address  type  ports
-----+-----+-----+-----
   1    ffff.ffff.ffff  system Switch, Fa6/15
   2    ffff.ffff.ffff  system Fa6/16
1002  ffff.ffff.ffff  system
1003  ffff.ffff.ffff  system
1004  ffff.ffff.ffff  system
1005  ffff.ffff.ffff  system
Fa6/1  ffff.ffff.ffff  system Switch, Fa6/1
Fa6/2  ffff.ffff.ffff  system Switch, Fa6/2
Switch#
```

#### 関連コマンド

[show mac-address-table address](#)  
[show mac-address-table aging-time](#)  
[show mac-address-table count](#)  
[show mac-address-table dynamic](#)  
[show mac-address-table interface](#)  
[show mac-address-table multicast](#)  
[show mac-address-table static](#)  
[show mac-address-table vlan](#)

# show mac-address-table static

スタティック MAC（メディアアクセス制御）アドレス テーブル エントリのみを表示するには、**show mac-address-table static** コマンドを使用します。

```
show mac-address-table static [address mac_addr | interface type number | protocol protocol | vlan
vlan_id]
```

## シンタックスの説明

<b>address mac_addr</b>	(任意) 照合する 48 ビット MAC アドレスを指定します。有効な形式は H.H.H です。
<b>interface type number</b>	(任意) 一致するインターフェイスを指定します。type の有効値は <b>fastethernet</b> 、 <b>gigabitethernet</b> 、および <b>tengigabitethernet</b> です。
<b>protocol protocol</b>	(任意) プロトコルを指定します。詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<b>vlan vlan_id</b>	(任意) 特定の VLAN（仮想 LAN）のエントリを表示します。有効値は 1 ~ 4,094 です。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。
12.2(25)EW	10 ギガビット イーサネット インターフェイスのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ルーテッド ポートで使用される MAC アドレス テーブル エントリの場合、[vlan] カラムには内部 VLAN（仮想 LAN）番号でなくルーテッド ポート名が表示されます。

*protocol* 引数のキーワードの定義は、次のとおりです。

- **assigned** — 割り当てられたプロトコル エントリを指定します。
- **ip** — IP プロトコルを指定します。
- **ipx** — IPX プロトコルを指定します。
- **other** — その他のプロトコル エントリを指定します。

## 例

次に、スタティック MAC アドレス エントリをすべて表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table static
Unicast Entries
  vlan  mac address      type      protocols      port
-----+-----+-----+-----+-----
    1    0030.94fc.0dff      static  ip,ipx,assigned,other  Switch
Fa6/1    0030.94fc.0dff      static  ip,ipx,assigned,other  Switch
Fa6/2    0030.94fc.0dff      static  ip,ipx,assigned,other  Switch

Multicast Entries
  vlan  mac address      type      ports
-----+-----+-----+-----
    1    ffff.ffff.ffff      system  Switch,Fa6/15
    2    ffff.ffff.ffff      system  Fa6/16
1002    ffff.ffff.ffff      system
1003    ffff.ffff.ffff      system
1004    ffff.ffff.ffff      system
1005    ffff.ffff.ffff      system
Fa6/1    ffff.ffff.ffff      system  Switch,Fa6/1
Fa6/2    ffff.ffff.ffff      system  Switch,Fa6/2
.
.
Switch#
```

次に、特定のプロトコル タイプ（この場合は assigned）が設定されたスタティック MAC アドレス エントリを表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table static protocol assigned
Unicast Entries
  vlan  mac address      type      protocols      port
-----+-----+-----+-----+-----
    1    0030.94fc.0dff      static  ip,ipx,assigned,other  Switch
Fa6/1    0030.94fc.0dff      static  ip,ipx,assigned,other  Switch
Fa6/2    0030.94fc.0dff      static  ip,ipx,assigned,other  Switch

Multicast Entries
  vlan  mac address      type      ports
-----+-----+-----+-----
    1    ffff.ffff.ffff      system  Switch,Fa6/15
    2    ffff.ffff.ffff      system  Fa6/16
1002    ffff.ffff.ffff      system
1003    ffff.ffff.ffff      system
1004    ffff.ffff.ffff      system
1005    ffff.ffff.ffff      system
Fa6/1    ffff.ffff.ffff      system  Switch,Fa6/1
Fa6/2    ffff.ffff.ffff      system  Switch,Fa6/2
Switch#
```

## 関連コマンド

[show mac-address-table address](#)  
[show mac-address-table aging-time](#)  
[show mac-address-table count](#)  
[show mac-address-table dynamic](#)  
[show mac-address-table interface](#)  
[show mac-address-table multicast](#)  
[show mac-address-table protocol](#)  
[show mac-address-table vlan](#)

## show mac-address-table vlan

特定の VLAN (仮想 LAN) の MAC (メディア アクセス制御) アドレス テーブル情報を表示するには、**show mac-address-table vlan** コマンドを使用します。

```
show mac-address-table [vlan vlan_id] [protocol protocol]
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	<b>vlan</b> <i>vlan_id</i>	(任意) 特定の VLAN (仮想 LAN) のエントリを表示します。有効値は 1 ~ 4,094 です。
	<b>protocol</b> <i>protocol</i>	(任意) プロトコルを指定します。詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.1(12c)EW	拡張アドレス指定のサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** ルーテッドポートで使用される MAC アドレス テーブル エントリの場合、[vlan] カラムには内部 VLAN (仮想 LAN) 番号でなくルーテッドポート名が表示されます。

*protocol* 変数のキーワードの定義は、次のとおりです。

- **assigned** — 割り当てられたプロトコル エントリを指定します。
- **ip** — IP プロトコルを指定します。
- **ipx** — IPX プロトコルを指定します。
- **other** — その他のプロトコル エントリを指定します。

**例** 次に、特定の VLAN の MAC アドレス テーブル情報を表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table vlan 1
Unicast Entries
vlan    mac address      type           protocols      port
-----+-----+-----+-----+-----
  1     0000.0000.0201   dynamic ip                               FastEthernet6/15
  1     0000.0000.0202   dynamic ip                               FastEthernet6/15
  1     0000.0000.0203   dynamic other                             FastEthernet6/15
  1     0000.0000.0204   dynamic other                             FastEthernet6/15
  1     0030.94fc.0dff   static ip,ipx,assigned,other           Switch

Multicast Entries
vlan    mac address      type           ports
-----+-----+-----+-----
  1     ffff.ffff.ffff   system Switch,Fa6/15

Switch#
```



次に、特定のプロトコルタイプの MAC アドレス テーブル情報を表示する例を示します。

```
Switch# show mac-address-table vlan 100 protocol other
Unicast Entries
  vlan  mac address      type      protocols      port
-----+-----+-----+-----+-----
   1    0000.0000.0203    dynamic  other          FastEthernet6/15
   1    0000.0000.0204    dynamic  other          FastEthernet6/15
   1    0030.94fc.0dff      static   ip,ipx,assigned,other  Switch

Multicast Entries
  vlan  mac address      type      ports
-----+-----+-----+-----
   1    ffff.ffff.ffff      system   Switch,Fa6/15
Switch#
```

#### 関連コマンド

```
show mac-address-table address
show mac-address-table aging-time
show mac-address-table count
show mac-address-table dynamic
show mac-address-table interface
show mac-address-table multicast
show mac-address-table protocol
show mac-address-table static
```

## show module

モジュール情報を表示するには、**show module** コマンドを使用します。

```
show module [mod | all]
```

### シンタックスの説明

<i>mod</i>	(任意) モジュールの番号です。有効値はシャーシによって異なります。
<b>all</b>	(任意) すべてのモジュールの情報を表示します。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

特権 EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(25)EW	<b>show idprom interface</b> コマンドの出力が拡張され、10 ギガビットイーサネットインターフェイスが含まれました。

### 使用上のガイドライン

**show module** コマンド出力の [Mod Sub-Module] フィールドには、スーパーバイザエンジン番号に、アップリンク ドータカードのモジュール タイプおよび情報が付加されて表示されます。

モジュールによって消費された Power over Ethernet (PoE) が管理上割り当てられた PoE を 50 W 超えた場合は、**Status** フィールドに [PwrOver] が表示されます。モジュールによって消費された PoE が PoE モジュール制限を 50 W 超えた場合は、**Status** フィールドに [PwrFault] が表示されます。

### 例

次に、すべてのモジュールの情報を表示する例を示します。

この例は、インストールされているすべてのモジュールに対してシステムが十分な電力を供給できない場合の **show module** コマンド出力を示しています。システムはモジュール 5 に対して十分な電力を持っていないため、[Status] フィールドに [PwrDeny] が表示されます。

```
Switch# show module all
Mod  Ports Card Type                               Model                               Serial No.
-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
 1      2  1000BaseX (GBIC) Supervisor(active)    WS-X4014                               JAB054109GH
 2      6  1000BaseX (GBIC)                               WS-X4306                               00000110
 3     18  1000BaseX (GBIC)                               WS-X4418                               JAB025104WK
 5      0  Not enough power for module                WS-X4148-FX-MT                         00000000000
 6     48  10/100BaseTX (RJ45)                          WS-X4148                               JAB023402RP

M  MAC addresses                               Hw  Fw      Sw      Status
---+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
 1  005c.9d1a.f9d0 to 005c.9d1a.f9df 0.5  12.1(11br)EW 12.1(20020313:00) Ok
 2  0010.7bab.9920 to 0010.7bab.9925 0.2                               Ok
 3  0050.7356.2b36 to 0050.7356.2b47 1.0                               Ok
 5  0001.64fe.a930 to 0001.64fe.a95f 0.0                               PwrDeny
 6  0050.0f10.28b0 to 0050.0f10.28df 1.0                               Ok
Switch#
```

次に、特定のモジュールの情報を表示する例を示します。

```
Switch# show module mod2
Mod Ports Card Type                               Model                               Serial No.
-----
 2      2 Catalyst 4000 supervisor 2 (Active)    WS-X6K-SUP2-2GE                    SAD04450LF1
Mod MAC addresses                               Hw  Fw                               Sw                               Status
-----
 2  0001.6461.39c0 to 0001.6461.39c1  1.1  6.1(3)                            6.2(0.97)                        Ok
Mod Sub-Module                               Model                               Serial                               Hw                               Status
-----
 2 Policy Feature Card 2                    WS-F6K-PFC2                        SAD04440HVU                        1.0                               Ok
 2 Cat4k MSFC 2 daughterboard              WS-F6K-MSFC2                       SAD04430J9K                        1.1                               Ok
Switch#
```

次に、スイッチ上のすべてのモジュールの情報を表示する例を示します。

```
Switch# show module
Chassis Type : WS-C4506

Power consumed by backplane : 0 Watts

Mod Ports Card Type                               Model                               Serial No.
-----
 1      6 XG (X2), 1000BaseX (SFP) Supervisor(ac WS-X4517                    ""
 3      6 1000BaseX (GBIC)                    WS-X4306                            00000110

M MAC addresses                               Hw  Fw                               Sw                               Status
-----
 1  0004.dd46.7700 to 0004.dd46.7705  0.0  12.2(20r)EW( 12.2(20040513:16 Ok
 3  0010.7bab.9920 to 0010.7bab.9925  0.2                               Ok
Switch#
```

# show monitor

Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチドポートアナライザ) セッション情報を表示するには、**show monitor** コマンドを使用します。

```
show monitor [session] [range session-range | local | remote | all] [session-number] [detail]
```

## シンタックスの説明

<b>session</b>	(任意) セッションの SPAN 情報を表示します。
<b>range</b>	(任意) 一連のセッションの情報を表示します。
<i>session-range</i>	(任意) セッションの範囲を指定します。
<b>local</b>	(任意) すべてのローカル SPAN セッションを表示します。
<b>remote</b>	(任意) Remote SPAN (RSPAN) の送信元および宛先セッションを表示します。
<b>all</b>	(任意) SPAN および RSPAN セッションを表示します。
<i>session-number</i>	(任意) セッション番号を指定します。有効値は 1～6 です。
<b>detail</b>	(任意) セッションの詳細な SPAN 情報を表示します。

## デフォルト

**detail** キーワードを指定した場合は、デフォルト以外の設定行のみが表示されます。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(13)EW	単一ユーザセッションの各方向に対するサポートが追加されました。
12.1(19)EW	SPAN 拡張機能の設定ステータスを表示するように出力が拡張されました。
12.1(20)EW	リモート SPAN および学習に関する設定ステータスを表示するためのサポートが追加されました。
12.2(20)EW	SPAN セッションに適用する Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) を表示するためのサポートが追加されました。

## 例

次に、ACL が Catalyst 4500 シリーズ スイッチで、指定された SPAN セッションに適用されているかどうかを表示する例を示します。

```
Switch# show monitor

Session 1
-----
Type           : Local Session
Source Ports   :
  Both         : Fa6/1
Destination Ports : Fa6/2
Encapsulation : Native
  Ingress      : Disabled
  Learning     : Disabled
Filter VLANs   : 1
IP Access-group : 10
```

次に、セッション 2 の SPAN 情報を表示する例を示します。

```
Switch# show monitor session 2
Session 2
-----
Type : Remote Source Session
Source Ports:
    RX Only:      Fa1/1-3
Dest RSPAN VLAN: 901
Ingress : Enabled, default VLAN=2
Learning : Disabled
Switch#
```

次に、セッション 1 の詳細 SPAN 情報を表示する例を示します。

```
Switch# show monitor session 1 detail
Session 1
-----
Type           : Local Session
Source Ports   :
    RX Only    : None
    TX Only    : None
    Both       : Gi1/1, CPU
Source VLANs   :
    RX Only    : None
    TX Only    : None
    Both       : None
Source RSPAN VLAN : Fa6/1
Destination Ports : Fa6/1
    Encapsulation : DOT1Q
    Ingress      : Enabled, default VLAN = 2
Filter VLANs   : None
    Filter Types RX : Good
    Filter Types TX : None
Dest Rspan Vlan : 901
Ingress : Enabled, default VLAN=2
Learning : Disabled
IP Access-group : None
Switch#
```

次に、先頭行が [Destination] で始まるセッション 1 の SPAN 情報を表示する例を示します。

```
Switch# show monitor session 1 | begin Destination
Destination Ports: None
Filter VLANs:      None
Switch#
Switch#
```

## 関連コマンド

[monitor session](#)

# show pagp

ポート チャネル情報を表示するには、**show pagp** コマンドを使用します。

```
show pagp [group-number] {counters | internal | neighbor}
```

シンタックスの説明	
<b>group-number</b>	(任意) チャネルグループの番号です。有効値は1～64です。
<b>counters</b>	トラフィック カウンタ情報を指定します。
<b>internal</b>	Port Aggregation Protocol (PAgP; ポート集約プロトコル) 内部情報を指定します。
<b>neighbor</b>	PAgP ネイバ情報を指定します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** **show pagp** コマンドを入力すると、アクティブな PAgP ポート チャネルの情報が表示されます。非アクティブな PAgP ポート チャネルの情報を表示するには、グループを指定して **show pagp** コマンドを入力します。

**例** 次に、PAgP カウンタに関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show pagp counters
          Information          Flush
Port      Sent   Recv   Sent   Recv
-----
Channel group: 1
  Fa5/4    2660   2452    0     0
  Fa5/5    2676   2453    0     0
Channel group: 2
  Fa5/6    289    261     0     0
  Fa5/7    290    261     0     0
Switch#
```

次に、PAgP 内部情報を表示する例を示します。

```
Switch# show pagp 1 internal
Flags: S - Device is sending Slow hello.  C - Device is in Consistent state.
       A - Device is in Auto mode.
Timers: H - Hello timer is running.        Q - Quit timer is running.
        S - Switching timer is running.    I - Interface timer is running.

Channel group 1

Port      Flags State   Timers   Hello   Partner PAgP   Learning
          SC   U6/S7   Interval Count   Priority Method   IfIndx
Fa5/4     SC   U6/S7   30s      1      128    Any     129
Fa5/5     SC   U6/S7   30s      1      128    Any     129
Switch#
```

次に、すべてのネイバの PAgP ネイバ情報を表示する例を示します。

```
Switch# show pagp neighbor
Flags: S - Device is sending Slow hello.  C - Device is in Consistent state.
       A - Device is in Auto mode.         P - Device learns on physical port.

Channel group 1 neighbors
  Partner
  Port      Name          Partner      Partner      Partner
           Name          Device ID    Port         Age  Flags  Group
Fa5/4      JAB031301    0050.0f10.230c  2/45        2s  SAC   2D
Fa5/5      JAB031301    0050.0f10.230c  2/46        27s SAC   2D

Channel group 2 neighbors
  Partner
  Port      Name          Partner      Partner      Partner
           Name          Device ID    Port         Age  Flags  Group
Fa5/6      JAB031301    0050.0f10.230c  2/47        10s SAC   2F
Fa5/7      JAB031301    0050.0f10.230c  2/48        11s SAC   2F

Switch#
```

#### 関連コマンド

[pagp learn-method](#)  
[pagp port-priority](#)

# show policy-map

ポリシー マップ情報を表示するには、**show policy-map** コマンドを使用します。

```
show policy-map [policy_map_name]
```

<b>シンタックスの説明</b>	<i>policy_map_name</i> (任意) ポリシー マップ名です。
------------------	--

<b>デフォルト</b>	このコマンドにデフォルト設定はありません。
--------------	-----------------------

<b>コマンドモード</b>	特権 EXEC モード
----------------	-------------

<b>コマンド履歴</b>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12.1(8a)EW</td> <td>このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
リリース	変更内容				
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。				

<b>例</b>	次に、すべてのポリシー マップ情報を表示する例を示します。
----------	-------------------------------

```
Switch# show policy-map
Policy Map ipp5-policy
  class ipp5
    set ip precedence 6
Switch#
```

次に、特定のポリシー マップに関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show policy ipp5-policy
Policy Map ipp5-policy
  class ipp5
    set ip precedence 6
Switch#
```

<b>関連コマンド</b>	<a href="#">class-map</a> <a href="#">policy-map</a> <a href="#">show class-map</a> <a href="#">show policy-map interface</a>
---------------	--



# show policy-map control-plane

1 つまたはすべてのクラスに対し、コントロールプレーンのポリシー マップ設定を表示するには、**show policy-map control-plane** コマンドを使用します。

```
show policy-map control-plane [input [class class-name] | [class class-name]]
```

シンタックスの説明	<b>input</b>	(任意) 対応付けられた入力ポリシーの統計情報を表示します。
	<b>class class-name</b>	(任意) クラス名を表示します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

**show policy-map control-plane** コマンドは、プロセス レベルに送られるパケットの数またはレートを制御する、集約型のコントロールプレーンサービスの情報を表示します。

**例** 次に、ポリシー マップ TEST がコントロールプレーンに対応付けられていることを表示する例を示します。このポリシー マップは、クラスマップ TEST と一致するトラフィックをポリシングし、それ以外のすべてのトラフィック (クラスマップ **class-default** と一致するトラフィック) はそのまま伝送することを許可します。[表 2-23](#) では、この出力結果に表示されている各フィールドの説明を

示します。

```
Switch# show policy-map control-plane
```

```
Control Plane
```

```
Service-policy input: system-cpp-policy
```

```
Class-map: system-cpp-eapol (match-all)  
  0 packets  
  Match: access-group name system-cpp-eapol
```

```
Class-map: system-cpp-bpdu-range (match-all)  
  0 packets  
  Match: access-group name system-cpp-bpdu-range
```

```
Class-map: system-cpp-cdp (match-all)  
  28 packets  
  Match: access-group name system-cpp-cdp  
  police: Per-interface  
    Conform: 530 bytes Exceed: 0 bytes
```

```
Class-map: system-cpp-garp (match-all)  
  0 packets  
  Match: access-group name system-cpp-garp
```

```
Class-map: system-cpp-sstp (match-all)  
  0 packets  
  Match: access-group name system-cpp-sstp
```

```
Class-map: system-cpp-cgmp (match-all)  
  0 packets  
  Match: access-group name system-cpp-cgmp
```

```
Class-map: system-cpp-ospf (match-all)  
  0 packets  
  Match: access-group name system-cpp-ospf
```

```
Class-map: system-cpp-igmp (match-all)  
  0 packets  
  Match: access-group name system-cpp-igmp
```

```
Class-map: system-cpp-pim (match-all)  
  0 packets  
  Match: access-group name system-cpp-pim
```

```
Class-map: system-cpp-all-systems-on-subnet (match-all)  
  0 packets  
  Match: access-group name system-cpp-all-systems-on-subnet
```

```
Class-map: system-cpp-all-routers-on-subnet (match-all)  
  0 packets  
  Match: access-group name system-cpp-all-routers-on-subnet
```

```
Class-map: system-cpp-ripv2 (match-all)  
  0 packets  
  Match: access-group name system-cpp-ripv2
```

```
Class-map: system-cpp-ip-mcast-linklocal (match-all)  
  0 packets  
  Match: access-group name system-cpp-ip-mcast-linklocal
```

```
Class-map: system-cpp-dhcp-cs (match-all)  
  0 packets  
  Match: access-group name system-cpp-dhcp-cs
```

```
Class-map: system-cpp-dhcp-sc (match-all)  
  0 packets
```

```


Match: access-group name system-cpp-dhcp-sc

Class-map: system-cpp-dhcp-ss (match-all)
  0 packets
  Match: access-group name system-cpp-dhcp-ss

Class-map: class-default (match-any)
  0 packets
  Match: any
    0 packets
Switch#

```

表 2-23 show policy-map control-plane のフィールドの説明

フィールド	説明
<b>クラスまたはサービス ポリシーに関するフィールド</b>	
Service-policy input	コントロール パネルに適用される入力サービス ポリシーの名前。このフィールドを設定した場合は、出力サービス ポリシーも表示されます。
Class-map	表示するトラフィックのクラス。設定済みの各クラスに対してトラフィックが表示されます。トラフィック クラスの横には、選択したクラス マッチの実装方法 (match-all、match-any など) も表示されます。
Match	指定のトラフィック クラスに対する一致基準   <b>(注)</b> 使用可能なさまざまな一致基準オプションの詳細については、『Cisco IOS Quality of Service Solutions Configuration Guide』の「Configuring the Modular Quality of Service Command-Line Interface」を参照してください。
<b>トラフィック ポリシングに関するフィールド</b>	
police	トラフィック ポリシングをイネーブルにするために、 <b>police</b> コマンドが設定されています。
conformed	指定のレートに準拠するパケットに対して実行されるアクション。このアクションが実行されたパケットの数とバイト数が表示されます。
exceeded	指定のレートを超過したパケットに対して実行されるアクション。このアクションが実行されたパケットの数とバイト数が表示されます。

**関連コマンド**

[control-plane](#)  
[service-policy input \(コントロール プレーン\)](#)

## show policy-map interface

インターフェイスに付加されている入力 / 出力ポリシーの統計情報およびコンフィギュレーションを表示するには、**show policy-map interface** コマンドを使用します。

```
show policy-map interface [{fastethernet interface-number} | {gigabitethernet interface-number} |
{port-channel number} | {vlan vlan_id}] [input | output]
```

シンタックスの説明	
<b>fastethernet interface-number</b>	(任意) ファストイーサネット 802.3 インターフェイスを指定します。
<b>gigabitethernet interface-number</b>	(任意) ギガビットイーサネット 802.3z インターフェイスを指定します。
<b>port-channel number</b>	(任意) ポートチャンネルを指定します。
<b>vlan vlan_id</b>	(任意) VLAN (仮想 LAN) ID を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。
<b>input</b>	(任意) 入力ポリシーのみを指定します。
<b>output</b>	(任意) 出力ポリシーのみを指定します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。
	12.2(25)SG	完全なフロー ポリシングの結果を表示します。

**例** 次に、インターフェイスに付加されているすべての入力 / 出力ポリシーの統計情報およびコンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
Switch# show policy-map interface

FastEthernet6/1

  service-policy input:ipp5-policy

    class-map:ipp5 (match-all)
      0 packets
      match:ip precedence 5
      set:
        ip precedence 6

    class-map:class-default (match-any)
      0 packets
      match:any
      0 packets

  service-policy output:ipp5-policy

    class-map:ipp5 (match-all)
      0 packets
      match:ip precedence 5
      set:
        ip precedence 6

    class-map:class-default (match-any)
      0 packets
      match:any
      0 packets

Switch#
```

次に、特定のインターフェイスの入力ポリシー統計情報およびコンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
Switch# show policy-map interface fastethernet 5/36 input
service-policy input:ipp5-policy

  class-map:ipp5 (match-all)
    0 packets
    match:ip precedence 5
    set:
      ip precedence 6

  class-map:class-default (match-any)
    0 packets
    match:any
    0 packets

Switch#
```

以下の設定では、各フローは 1,000,000 bps、および 9,000 バイトの許可バースト値としてポリシングされます。



(注) **match flow ip source-address|destination-address** コマンドを使用すると、この2つのフローは、送信元および宛先アドレスが同じである1つのフローとして統合されます。

```
Switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# class-map c1
Switch(config-cmap)# match flow ip source-address ip destination-address ip protocol
14 source-port 14 destination-port
Switch(config-cmap)# exit
Switch(config)# policy-map p1
Switch(config-pmap)# class c1
Switch(config-pmap-c)# police 1000000 9000
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# exit
Switch(config)# interface fastEthernet 6/1
Switch(config-if)# service-policy input p1
Switch(config-if)# end
Switch# write memory
Switch# show policy-map interface
FastEthernet6/1

class-map c1
  match flow ip source-address ip destination-address ip protocol 14 source-port 14
  destination-port
  !
  policy-map p1
    class c1
      police 1000000 bps 9000 byte conform-action transmit exceed-action drop
    !
interface FastEthernet 6/1
  service-policy input p1

Switch# show policy-map p1
Policy Map p1
Class c1
  police 1000000 bps 9000 byte conform-action transmit exceed-action drop

Switch# show policy-map interface
FastEthernet6/1

Service-policy input: p1

Class-map: c1 (match-all)
  15432182 packets
  Match: flow ip source-address ip destination-address ip protocol 14 source-port
  14 destination-port
  police: Per-interface
    Conform: 64995654 bytes Exceed: 2376965424 bytes

Class-map: class-default (match-any)
  0 packets
  Match: any
    0 packets
Switch#
```

#### 関連コマンド

[class-map](#)  
[policy-map](#)  
[show class-map](#)  
[show qos](#)

# show policy-map interface vlan

インターフェイス上の指定の VLAN（仮想 LAN）に適用された QoS（Quality Of Service）ポリシーマップ情報を表示するには、**show policy-map interface vlan** コマンドを使用します。

**show policy-map interface vlan** *interface-id* **vlan** *vlan-id*

シンタックスの説明	
<b>interface</b> <i>interface-id</i>	(任意) 特定のインターフェイスに対する QoS ポリシーマップ情報を表示します。
<b>vlan</b> <i>vlan-id</i>	(任意) 特定の VLAN に対する QoS ポリシーマップ情報を表示します。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、Supervisor Engine 6-E 以外での設定例を示します。

```
interface GigabitEthernet3/1
  vlan-range 20,400
  service-policy input p1
  vlan-range 300-301
  service-policy output p2
```

次に、インターフェイス `gigabitEthernet 3/1` 上の VLAN 20 に対するポリシーマップ統計情報を表示する例を示します。

```
Switch# show policy-map interface gigabitEthernet 3/1 vlan 20
GigabitEthernet3/1 vlan 20

Service-policy input: p1

Class-map: class-default (match-any)
  0 packets
  Match: any
    0 packets
  police: Per-interface
    Conform: 0 bytes Exceed: 0 bytes
Switch#
```

次に、Supervisor Engine 6-E 以外での設定例を示します。

```
interface fastethernet6/1
  vlan-range 100
  service-policy in p1
```

## ■ show policy-map interface vlan

次に、インターフェイス FastEthernet 上の VLAN 100 に対するポリシーマップ統計情報を表示する例を示します。

```
Switch#show policy-map interface fastEthernet 6/1 vlan 100

FastEthernet6/1 vlan 100

Service-policy input: p1

Class-map: c1 (match-all)
  0 packets
  Match: ip dscp af11 (10)
  police: Per-interface
    Conform: 0 bytes Exceed: 0 bytes

Class-map: class-default (match-any)
  0 packets
  Match: any
    0 packets
Switch#
```

次に、Supervisor Engine 6-E での設定例を示します。

```
interface gigabitEthernet3/1
  vlan-range 100
  service-policy in p1
```

次に、インターフェイス FastEthernet 上の VLAN 100 に対するポリシーマップ統計情報を表示する例を示します。

```
Switch#show policy-map interface gigabitEthernet 3/1 vlan 100
GigabitEthernet3/1 vlan 100

Service-policy input: p1

Class-map: c1 (match-all)
  0 packets
  Match: ip dscp af11 (10)
  police:
    rate 128000 bps, burst 4000 bytes
    conformed 0 packets, 0 bytes; action:
      transmit
    exceeded 0 packets, 0 bytes; action:
      drop
    conformed 0 bps, exceeded 0 bps

Class-map: class-default (match-any)
  0 packets
  Match: any
    0 packets
Switch#
```

## 関連コマンド

[service-policy \(インターフェイス コンフィギュレーション\)](#)  
[show policy-map interface](#)



# show port-security

特定のインターフェイスまたはスイッチのポート セキュリティ設定を表示するには、**show port-security** コマンドを使用します。

```
show port-security [address] [interface interface-id] [interface port-channel port-channel-number]
[vlan vlan-id]
```

## シンタックスの説明

<b>address</b>	(任意) すべてのポートまたは特定のポートのセキュア MAC (メディア アクセス制御) アドレスをすべて表示します。
<b>interface interface-id</b>	(任意) 特定のインターフェイスのポート セキュリティ設定を表示します。
<b>interface port-channel port channel-number</b>	(任意) 特定のポートチャネルインターフェイスのポート セキュリティ設定を表示します。
<b>vlan vlan-id</b>	(任意) 特定の VLAN (仮想 LAN) のポート セキュリティ設定を表示します。

## コマンド モード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(18)EW	スティッキ MAC アドレスの表示サポートが拡張されました。
12.2(25)EWA	VLAN ごとに設定を表示できるようにコマンドのサポートが拡張されました。
12.2(31)SGA	EtherChannel インターフェイスの設定を表示できるようにコマンドのサポートが拡張されました。

## 使用上のガイドライン

キーワードを指定しないでこのコマンドを入力すると、スイッチのすべてのセキュア ポートの管理ステータスおよび動作ステータスが出力されます。

**interface-id** 値または **port-channel-interface** 値を入力すると、**show port-security** コマンドはこのインターフェイスに対するポート セキュリティ設定を表示します。

**address** キーワードを指定して **show port-security address** コマンドを入力すると、すべてのインターフェイスのセキュア MAC アドレス、および各セキュアアドレスのエージング情報が表示されます。

**interface-id** 値および **address** キーワードを指定して、**show port-security address interface** コマンドを入力すると、インターフェイスのすべての MAC アドレス、および各セキュアアドレスのエージング情報が表示されます。インターフェイス上でポート セキュリティがイネーブルでない場合も、このコマンドを使用して、そのインターフェイスの MAC アドレスをすべて表示することができます。

## 例

次に、スイッチ全体のポートセキュリティ設定を表示する例を示します。

```
Switch# show port-security
Secure Port   MaxSecureAddr  CurrentAddr  SecurityViolation  Security Action
              (Count)        (Count)      (Count)
-----
    Fa3/1           2             2             0             Restrict
    Fa3/2           2             2             0             Restrict
    Fa3/3           2             2             0             Shutdown
    Fa3/4           2             2             0             Shutdown
    Fa3/5           2             2             0             Shutdown
    Fa3/6           2             2             0             Shutdown
    Fa3/7           2             2             0             Shutdown
    Fa3/8           2             2             0             Shutdown
    Fa3/10          1             0             0             Shutdown
    Fa3/11          1             0             0             Shutdown
    Fa3/12          1             0             0             Restrict
    Fa3/13          1             0             0             Shutdown
    Fa3/14          1             0             0             Shutdown
    Fa3/15          1             0             0             Shutdown
    Fa3/16          1             0             0             Shutdown
    Po2             3             1             0             Shutdown
-----
Total Addresses in System (excluding one mac per port)  :8
Max Addresses limit in System (excluding one mac per port) :3072
Global SNMP trap control for port-security             :20 (traps per second)
Switch#
```

次に、インターフェイス ファストイーサネット ポート 1 のポートセキュリティ設定を表示する例を示します。

```
Switch# show port-security interface fastethernet 5/1
Port Security           : Enabled
Port Status             : Secure-up
Violation Mode          : Shutdown
Aging Time              : 0 mins
Aging Type              : Absolute
SecureStatic Address Aging : Disabled
Maximum MAC Addresses   : 1
Total MAC Addresses     : 1
Configured MAC Addresses : 0
Sticky MAC Addresses    : 1
Last Source Address     : 0000.0001.001a
Security Violation Count : 0
Switch#
```

次に、すべてのスイッチ インターフェイスに設定されたすべてのセキュア MAC アドレスを表示する例を示します。

```
Switch# show port-security address
          Secure Mac Address Table
-----
Vlan      Mac Address      Type                Ports      Remaining Age
          -----
          (mins)
-----
  1      0000.0001.0000   SecureConfigured   Fa3/1      15 (I)
  1      0000.0001.0001   SecureConfigured   Fa3/1      14 (I)
  1      0000.0001.0100   SecureConfigured   Fa3/2      -
  1      0000.0001.0101   SecureConfigured   Fa3/2      -
  1      0000.0001.0200   SecureConfigured   Fa3/3      -
  1      0000.0001.0201   SecureConfigured   Fa3/3      -
  1      0000.0001.0300   SecureConfigured   Fa3/4      -
  1      0000.0001.0301   SecureConfigured   Fa3/4      -
  1      0000.0001.1000   SecureDynamic      Fa3/5      -
  1      0000.0001.1001   SecureDynamic      Fa3/5      -
  1      0000.0001.1100   SecureDynamic      Fa3/6      -
  1      0000.0001.1101   SecureDynamic      Fa3/6      -
  1      0000.0001.1200   SecureSticky       Fa3/7      -
  1      0000.0001.1201   SecureSticky       Fa3/7      -
  1      0000.0001.1300   SecureSticky       Fa3/8      -
  1      0000.0001.1301   SecureSticky       Fa3/8      -
  1      0000.0001.2000   SecureSticky       Po2        -
-----
Total Addresses in System (excluding one mac per port)    :8
Max Addresses limit in System (excluding one mac per port) :3072
```

次に、インターフェイス `gigabitethernet1/1` に対し、許可されているセキュア MAC アドレスの最大数、および現時点のセキュア MAC アドレス数を表示する例を示します。

```
Switch# show port-security interface gigabitethernet1/1 vlan
Default maximum: 22
VLAN Maximum Current
  2         22      3
  3         22      3
  4         22      3
  5         22      1
  6         22      2
```

次に、インターフェイス `gigabitethernet1/1` の VLAN 2 および 3 に対し、ポートセキュリティ設定を表示する例を示します。

```
Switch# show port-security interface gigabitethernet1/1 vlan 2-3
Default maximum: 22
VLAN Maximum Current
  2         22      3
  3         22      3
```

次に、インターフェイス `gigabitethernet1/1` に設定されたすべてのセキュア MAC アドレス、および各アドレスのエージング情報を表示する例を示します。

```
Switch# show port-security interface gigabitethernet1/1 address
```

```

Secure Mac Address Table
-----
Vlan    Mac Address      Type                Ports    Remaining Age (mins)
-----
  2     0001.0001.0001   SecureConfigured   Gi1/1    -
  2     0001.0001.0002   SecureSticky       Gi1/1    -
  3     0001.0001.0001   SecureConfigured   Gi1/1    -
  3     0001.0001.0002   SecureSticky       Gi1/1    -
  3     0001.0001.0003   SecureSticky       Gi1/1    -
  4     0001.0001.0001   SecureConfigured   Gi1/1    -
  4     0001.0001.0003   SecureSticky       Gi1/1    -
  6     0001.0001.0001   SecureConfigured   Gi1/1    -
  6     0001.0001.0002   SecureConfigured   Gi1/1    -
-----
Total Addresses: 12

```

次に、インターフェイス `gigabitethernet1/1` 上の VLAN 2 および 3 に設定されたすべてのセキュア MAC アドレス、および各アドレスのエージング情報を表示する例を示します。

```
Switch# show port-security interface gigabitethernet1/1 address vlan 2-3
```

```

Secure Mac Address Table
-----
Vlan    Mac Address      Type                Ports    Remaining Age (mins)
-----
  2     0001.0001.0001   SecureConfigured   Gi1/1    -
  2     0001.0001.0002   SecureSticky       Gi1/1    -
  2     0001.0001.0003   SecureSticky       Gi1/1    -
  3     0001.0001.0001   SecureConfigured   Gi1/1    -
  3     0001.0001.0002   SecureSticky       Gi1/1    -
  3     0001.0001.0003   SecureSticky       Gi1/1    -
-----
Total Addresses: 12
Switch#

```

次に、ファストイーサネット ポート 1 に対し、許可されているセキュア MAC アドレスの最大数、および現時点のセキュア MAC アドレス数を表示する例を示します。

```

Switch# show port-security interface fastethernet5/1 vlan
Default maximum: 22
VLAN  Maximum    Current
  2         22         3
  3         22         3
  5         22         1
  6         22         2
Switch#

```

次に、ファストイーサネット ポート 1 の VLAN 2 および 3 に対し、ポートセキュリティ設定を表示する例を示します。

```

Switch# show port-security interface fastethernet5/1 vlan 2-3
Default maximum: 22
VLAN  Maximum    Current
  2         22         3
  3         22         3
Switch#

```

次に、ファストイーサネットポート1に設定されたすべてのセキュアMACアドレス、および各アドレスのエイジング情報を表示する例を示します。

```
Switch# show port-security interface fastethernet5/1 address
```

```
Secure Mac Address Table
```

Vlan	Mac Address	Type	Ports	Remaining Age (mins)
2	0001.0001.0001	SecureConfigured	Gi1/1	-
2	0001.0001.0002	SecureSticky	Gi1/1	-
2	0001.0001.0003	SecureSticky	Gi1/1	-
3	0001.0001.0001	SecureConfigured	Gi1/1	-
3	0001.0001.0002	SecureSticky	Gi1/1	-
3	0001.0001.0003	SecureSticky	Gi1/1	-
4	0001.0001.0001	SecureConfigured	Gi1/1	-
4	0001.0001.0002	SecureSticky	Gi1/1	-
4	0001.0001.0003	SecureSticky	Gi1/1	-
5	0001.0001.0001	SecureConfigured	Gi1/1	-
6	0001.0001.0001	SecureConfigured	Gi1/1	-
6	0001.0001.0002	SecureConfigured	Gi1/1	-

```
Total Addresses: 12
```

```
Switch#
```

次に、ファストイーサネットポート1上のVLAN2および3に設定されたすべてのセキュアMACアドレス、および各アドレスのエイジング情報を表示する例を示します。

```
Switch# show port-security interface fastethernet5/1 address vlan 2-3
```

```
Secure Mac Address Table
```

Vlan	Mac Address	Type	Ports	Remaining Age (mins)
2	0001.0001.0001	SecureConfigured	Gi1/1	-
2	0001.0001.0002	SecureSticky	Gi1/1	-
2	0001.0001.0003	SecureSticky	Gi1/1	-
3	0001.0001.0001	SecureConfigured	Gi1/1	-
3	0001.0001.0002	SecureSticky	Gi1/1	-
3	0001.0001.0003	SecureSticky	Gi1/1	-

```
Total Addresses: 12
```

```
Switch#
```

次に、すべてのスイッチ インターフェイスに設定されたすべてのセキュア MAC アドレスを表示する例を示します。

```
Switch# show port-security address
      Secure Mac Address Table
-----
Vlan    Mac Address      Type                Ports      Remaining Age
      (mins)
-----
  1     0000.0001.0000   SecureConfigured   Fa3/1      15 (I)
  1     0000.0001.0001   SecureConfigured   Fa3/1      14 (I)
  1     0000.0001.0100   SecureConfigured   Fa3/2      -
  1     0000.0001.0101   SecureConfigured   Fa3/2      -
  1     0000.0001.0200   SecureConfigured   Fa3/3      -
  1     0000.0001.0201   SecureConfigured   Fa3/3      -
  1     0000.0001.0300   SecureConfigured   Fa3/4      -
  1     0000.0001.0301   SecureConfigured   Fa3/4      -
  1     0000.0001.1000   SecureDynamic      Fa3/5      -
  1     0000.0001.1001   SecureDynamic      Fa3/5      -
  1     0000.0001.1100   SecureDynamic      Fa3/6      -
  1     0000.0001.1101   SecureDynamic      Fa3/6      -
  1     0000.0001.1200   SecureSticky       Fa3/7      -
  1     0000.0001.1201   SecureSticky       Fa3/7      -
  1     0000.0001.1300   SecureSticky       Fa3/8      -
  1     0000.0001.1301   SecureSticky       Fa3/8      -
-----
Total Addresses in System (excluding one mac per port)    :8
Max Addresses limit in System (excluding one mac per port) :3072
Switch#
```

次に、インターフェイス `gigabitethernet1/1` に対し、許可されているセキュア MAC アドレスの最大数、および現時点のセキュア MAC アドレス数を表示する例を示します。

```
Switch# show port-security interface gigabitethernet1/1 vlan
Default maximum: 22
VLAN Maximum Current
  2         22      3
  3         22      3
  4         22      3
  5         22      1
  6         22      2
Switch#
```

次に、インターフェイス `gigabitethernet1/1` の VLAN 2 および 3 に対し、ポートセキュリティ設定を表示する例を示します。

```
Switch# show port-security interface gigabitethernet1/1 vlan 2-3
Default maximum: 22
VLAN Maximum Current
  2         22      3
  3         22      3
Switch#
```

次に、インターフェイス `gigabitethernet1/1` に設定されたすべてのセキュア MAC アドレス、および各アドレスのエージング情報を表示する例を示します。

```
Switch# show port-security interface gigabitethernet1/1 address
```

```

          Secure Mac Address Table
-----
Vlan    Mac Address      Type                Ports    Remaining Age (mins)
-----
  2     0001.0001.0001   SecureConfigured   Gi1/1    -
  2     0001.0001.0002   SecureSticky       Gi1/1    -
  3     0001.0001.0001   SecureConfigured   Gi1/1    -
  3     0001.0001.0002   SecureSticky       Gi1/1    -
  3     0001.0001.0003   SecureSticky       Gi1/1    -
  4     0001.0001.0001   SecureConfigured   Gi1/1    -
  4     0001.0001.0003   SecureSticky       Gi1/1    -
  6     0001.0001.0001   SecureConfigured   Gi1/1    -
  6     0001.0001.0002   SecureConfigured   Gi1/1    -
-----
Total Addresses: 12
Switch#
```

次に、インターフェイス `gigabitethernet1/1` 上の VLAN 2 および 3 に設定されたすべてのセキュア MAC アドレス、および各アドレスのエージング情報を表示する例を示します。

```
Switch# show port-security interface gigabitethernet1/1 address vlan 2-3
```

```

          Secure Mac Address Table
-----
Vlan    Mac Address      Type                Ports    Remaining Age (mins)
-----
  2     0001.0001.0001   SecureConfigured   Gi1/1    -
  2     0001.0001.0002   SecureSticky       Gi1/1    -
  2     0001.0001.0003   SecureSticky       Gi1/1    -
  3     0001.0001.0001   SecureConfigured   Gi1/1    -
  3     0001.0001.0002   SecureSticky       Gi1/1    -
  3     0001.0001.0003   SecureSticky       Gi1/1    -
-----
Total Addresses: 12
Switch#
```

## 関連コマンド

[show diagnostic result module test 2](#)

# show power

電力状況に関する情報を表示するには、**show power** コマンドを使用します。

```
show power [available | capabilities | detail | inline {[interface] | consumption default | module mod}
           | module | status | supplies]
```

## シンタックスの説明

<b>available</b>	(任意) 使用可能なシステム電源を表示します。
<b>capabilities</b>	(任意) 各電源装置の機能を表示します。
<b>detail</b>	(任意) 電源リソースの詳細情報を表示します。
<b>inline</b>	(任意) Power over Ethernet (PoE) ステータスを表示します。
<b>interface</b>	(任意) インターフェイスのタイプです。有効なタイプは <b>fastethernet</b> のみです。
<b>consumption default</b>	(任意) PoE 消費量を表示します。
<b>module mod</b>	(任意) 指定したモジュールの PoE 消費量を表示します。
<b>module</b>	(任意) 各モジュールの電力消費量を表示します。
<b>status</b>	(任意) 電源装置のステータスを表示します。
<b>supplies</b>	(任意) システムに必要な電源装置の数を表示します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(25)SG	Supervisor Engine II-TS に対するインラインパワー処理を表示します。

## 使用上のガイドライン

受電装置が外部電源を使用してインターフェイスに接続されている場合、この受電装置はスイッチによって認識されません。**show power inline** コマンドの出力の [Device] カラムには、unknown (不明) として表示されます。

ご使用のポートが PoE に対応していない場合には、次のメッセージが表示されます。

```
Power over Ethernet not supported on interface Admin
```

**show power in-line interface | module** コマンドを使用すると、Cisco 7960 IP Phone の動作に使用される電力量が表示されます。必要な電力量を表示するには、**show cdp neighbors** コマンドを使用します。

受電装置がモジュールに接続されていない場合でも、FPGA およびモジュール上のその他のハードウェア コンポーネントが消費する PoE によって、802.3af 準拠モジュールの動作 PoE 消費量がゼロ以外になることがあります。動作 PoE は、ハードウェア コンポーネントが消費する PoE の変動によって、約 20 W 変動する可能性があります。



## 例

次に、一般の電源装置に関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show power
Power
Supply Model No          Type          Status        Fan           Inline
-----
PS1     PWR-C45-2800AC         AC 2800W     good          good          good
PS2     PWR-C45-1000AC         AC 1000W     err-disable   good          n.a.

*** Power Supplies of different type have been detected***

Power supplies needed by system   :1
Power supplies currently available :1

Power Summary
(in Watts)          Used          Maximum
-----
System Power (12V)   328           1360
Inline Power (-50V)  0             1400
Backplane Power (3.3V) 10            40
-----
Total Used          338 (not to exceed Total Maximum Available = 750)
Switch#
```

次に、使用可能なシステム電力量を表示する例を示します。

```
Switch# show power available
Power Summary
(in Watts)  Available  Used  Remaining
-----
System Power   1360      280   1080
Inline Power   1400       0    1400
Maximum Power  2800      280   2520
Switch#
```

次に、システム電力に関する詳細情報を表示する例を示します。

```
Switch# show power detail
Power
Supply Model No Type Status Fan Sensor Inline Status
-----
PS1 PWR-C45-1400DC DCSP1400W good good n.a.
PS1-1 12.5A good
PS1-2 15.0A off
PS1-3 15.0A off
PS2 none -- -- -- --

Power supplies needed by system : 1
Power supplies currently available : 1

Power Summary
(in Watts) Used Maximum Available
-----
System Power (12V) 360 360
Inline Power (-50V) 0 0
Backplane Power (3.3V) 0 40
-----
Total 360 400

Module Inline Power Summary (Watts)
(12V -> -48V on board conversion)
-----
Mod Used Maximum Available
--- ---
1 5 25
--- ---

Watts Used of System Power (12V)
currently out of reset in reset
-----
Mod Model 180 60 90 30
1 WS-X4013+TS 180 180 180
2 WS-X4506-GB-T 60 60 20
3 WS-X4424-GB-RJ45 90 90 50
-- Fan Tray 30 -- --
-----
Total 360 330 250

Watts used of Chassis Inline Power (-50V)
Inline Power Admin Inline Power Oper
Mod Model PS Device PS Device Efficiency
-----
2 WS-X4506-GB-T 0 0 0 0 89
3 WS-X4424-GB-RJ45 - - - - -
-----
Total 0 0 0 0

Watts used of Module Inline Power (12V -> -50V)
Inline Power Admin Inline Power Oper
Mod Model PS Device PS Device Efficiency
-----
1 WS-X4013+TS 6 5 3 3 90
-----
Switch#
```

次に、モジュールの消費電力を表示する例を示します。

```
Switch# show power module
Watts Used of System Power (12V)
Mod  Model                currently  out of reset  in reset
-----
  1   WS-X4013+TS           180        180          180
  2   WS-X4506-GB-T        60         60           20
  3   WS-X4424-GB-RJ45     90         90           50
  --  Fan Tray             30         --           --
-----
      Total              360        330          250

Watts used of Chassis Inline Power (-50V)
Inline Power Admin  Inline Power Oper
Mod  Model                PS      Device      PS      Device      Efficiency
-----
  2   WS-X4506-GB-T        0       0           0       0           89
  3   WS-X4424-GB-RJ45     -       -           -       -           -
-----
      Total              0       0           0       0

Watts used of Module Inline Power (12V -> -50V)
Inline Power Admin  Inline Power Oper
Mod  Model                PS      Device      PS      Device      Efficiency
-----
  1   WS-X4013+TS           6       5           3       3           90
-----
Switch#
```



(注)

[Inline Power Oper] カラムには、モジュールに接続された受電装置が消費した PoE に加え、FPGA とモジュール上のその他のハードウェア コンポーネントが消費した PoE が表示されます。[Inline Power Admin] カラムには、モジュールに接続された受電装置によって割り当てられた PoE だけが表示されます。

次に、電力状況に関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show power status
Power
Supply  Model No          Type      Status      Fan      Inline
-----
PS1     PWR-C45-2800AC    AC 2800W  good        good     good
PS2     PWR-C45-2800AC    AC 2800W  good        good     good

Power Supply  Max      Min      Max      Min      Absolute
(Nos in Watts)  Inline  Inline  System  System  Maximum
-----
PS1           1400    1400    1360    1360    2800
PS2           1400    1400    1360    1360    2800
Switch#
```

次に、スイッチの PoE 消費量を検証する例を示します。

```
Switch# show power inline consumption default
Default PD consumption : 5000 mW
Switch#
```

次に、インラインパワーのステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show power inline
Available:677(w) Used:117(w) Remaining:560(w)

Interface Admin Oper          Power(Watts)      Device            Class
          From PS   To Device
-----
Fa3/1     auto  on           17.3             15.4             Ieee PD           0
Fa3/2     auto  on            4.5             4.0             Ieee PD           1
Fa3/3     auto  on            7.1             6.3             Cisco IP Phone 7960 0
Fa3/4     auto  on            7.1             6.3             Cisco IP Phone 7960 n/a
Fa3/5     auto  on           17.3             15.4             Ieee PD           0
Fa3/6     auto  on           17.3             15.4             Ieee PD           0
Fa3/7     auto  on            4.5             4.0             Ieee PD           1
Fa3/8     auto  on            7.9             7.0             Ieee PD           2
Fa3/9     auto  on           17.3             15.4             Ieee PD           3
Fa3/10    auto  on           17.3             15.4             Ieee PD           4
Fa3/11    auto  off            0              0              n/a              n/a
Fa3/12    auto  off            0              0              n/a              n/a
Fa3/13    auto  off            0              0              n/a              n/a
Fa3/14    auto  off            0              0              n/a              n/a
Fa3/15    auto  off            0              0              n/a              n/a
Fa3/16    auto  off            0              0              n/a              n/a
Fa3/17    auto  off            0              0              n/a              n/a
Fa3/18    auto  off            0              0              n/a              n/a

-----

Totals:          10  on    117.5    104.6

Switch#
```

次に、システムに必要な電源装置の数を表示する例を示します。

```
Switch# show power supplies
Power supplies needed by system = 2
Switch#
```

次に、インターフェイス fastethernet3/1 の PoE ステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show power inline fastethernet3/1
Available:677(w) Used:11(w) Remaining:666(w)

Interface Admin Oper          Power(Watts)      Device            Class
          From PS   To Device
-----
Fa3/1     auto  on           11.2             10.0             Ieee PD           0

Interface AdminPowerMax AdminConsumption
          (Watts)          (Watts)
-----
Fa3/1          15.4              10.0

Switch#
```



(注)

Supervisor Engine II+TS と 1400 W DC 電源 (PWR-C45-1400DC) を組み合わせて使用している場合に、DC 電源の 12.5 A 入力を 1 つのみ使用すると、スーパーバイザエンジンの消費電力は、スロット 2 および 3 にラインカードが挿入されているかどうか、および挿入されているラインカードのタイプによって異なります。この消費電力は、155 ~ 330 W の範囲で変わります。これによって、スーパーバイザエンジンで使用可能な最大インラインパワーの量も変化し、その範囲は 0 ~ 175 W となります。したがって、このようなスーパーバイザエンジンでシャーシに 1 枚または複数のラインカードが挿入されている場合は、接続されたインラインパワー装置の一部でインラインパワーが拒否される可能性もあります。

**show power detail** および **show power module** コマンドの出力結果には、スーパーバイザエンジンの変動的な消費電力と、そのインラインパワーの概要が表示されます。

```
Switch# show power detail
sh power detail
Power
Supply Model No Type Status Fan Sensor Inline Status
-----
PS1 PWR-C45-1400DC DCSP1400W good good n.a.
PS1-1 12.5A good
PS1-2 15.0A off
PS1-3 15.0A off
PS2 none -- -- -- --

Power supplies needed by system : 1
Power supplies currently available : 1

Power Summary
(in Watts) Used Maximum Available
-----
System Power (12V) 360 360
Inline Power (-50V) 0 0
Backplane Power (3.3V) 0 40
-----
Total 360 400

Module Inline Power Summary (Watts)
(12V -> -48V on board conversion)
-----
Mod Used Maximum Available
---
1 5 25
---

Watts Used of System Power (12V)
Mod Model currently out of reset in reset
-----
1 WS-X4013+TS 180 180 180
2 WS-X4506-GB-T 60 60 20
3 WS-X4424-GB-RJ45 90 90 50
-- Fan Tray 30 -- --
-----
Total 360 330 250

Watts used of Chassis Inline Power (-50V)
Mod Model Inline Power Admin PS Device Inline Power Oper PS Device Efficiency
-----
2 WS-X4506-GB-T 0 0 0 0 89
3 WS-X4424-GB-RJ45 - - - - -
-----
Total 0 0 0 0

Watts used of Module Inline Power (12V -> -50V)
Mod Model Inline Power Admin PS Device Inline Power Oper PS Device Efficiency
-----
1 WS-X4013+TS 6 5 3 3 90
-----

Switch#sh power module
sh power module

Watts Used of System Power (12V)
Mod Model currently out of reset in reset
-----
1 WS-X4013+TS 180 180 180
2 WS-X4506-GB-T 60 60 20
3 WS-X4424-GB-RJ45 90 90 50
```

## show power

```

-- Fan Tray          30          --          --
-----
Total                360          330          250

Watts used of Chassis Inline Power (-50V)
Inline Power Admin  Inline Power Oper
Mod  Model          PS    Device          PS    Device          Efficiency
-----
2    WS-X4506-GB-T    0     0              0     0              89
3    WS-X4424-GB-RJ45 -     -              -     -              -
-----
Total                0     0              0     0

Watts used of Module Inline Power (12V -> -50V)
Inline Power Admin  Inline Power Oper
Mod  Model          PS    Device          PS    Device          Efficiency
-----
1    WS-X4013+TS    6     5              3     3              90
-----

Switch#

```

## 関連コマンド

[power dc input](#)  
[power inline](#)  
[power inline consumption](#)  
[power redundancy-mode](#)

# show qos

QoS (Quality Of Service) 情報を表示するには、**show qos** コマンドを使用します。

```
show qos
```

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

**例** 次に、キーワードを入力しなかった場合に表示される出力例を示します。

```
Switch# show qos
  QoS is enabled globally
Switch#
```

**関連コマンド**

- [qos \(グローバル コンフィギュレーション モード\)](#)
- [qos \(インターフェイス コンフィギュレーション モード\)](#)

# show qos aggregate policer

QoS (Quality Of Service) 集約ポリサー情報を表示するには、**show qos aggregate policer** コマンドを使用します。

```
show qos aggregate policer [aggregate_name]
```

シンタックスの説明	<i>aggregate_name</i> (任意) 名前付きの集約ポリサーです。
-----------	---

デフォルト	このコマンドにデフォルト設定はありません。
-------	-----------------------

コマンドモード	特権 EXEC モード
---------	-------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。 集約ポリサー名は大文字と小文字の区別があります。
------------	--

例	次に、キーワードを入力しなかった場合に表示される出力例を示します。
---	-----------------------------------

```
Switch# show qos aggregate policer
Policer aggr-1
Rate(bps):10000000 Normal-Burst(bytes):1000000
conform-action:transmit exceed-action:policed-dscp-transmit
Policymaps using this policer:
  ipp5-policy
Switch#
```

関連コマンド	<a href="#">qos aggregate-policer</a>
--------	---------------------------------------



## show qos dbl

グローバルな Dynamic Buffer Limiting (DBL) 情報を表示するには、**show qos dbl** コマンドを使用します。

```
show qos dbl
```

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

**例** 次に、グローバルな DBL 情報を表示する例を示します。

```
Switch# show qos dbl
DBL is enabled globally
DBL flow includes vlan
DBL flow includes 14-ports
DBL does not use ecn to indicate congestion
DBL exceed-action mark probability:15%
DBL max credits:15
DBL aggressive credit limit:10
DBL aggressive buffer limit:2 packets
DBL DSCPs with default drop probability:
    1-10
Switch#
```

**関連コマンド** [qos \(グローバルコンフィギュレーションモード\)](#)  
[qos dbl](#)

# show qos interface

キューイング情報を表示するには、**show qos interface** コマンドを使用します。

```
show qos interface {fastethernet interface-number | gigabitethernet interface-number} | [vlan vlan_id
| port-channel number]
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	<b>fastethernet interface-number</b>	ファストイーサネット 802.3 インターフェイスを指定します。
	<b>gigabitethernet interface-number</b>	ギガビットイーサネット 802.3z インターフェイスを指定します。
	<b>vlan vlan_id</b>	(任意) VLAN (仮想 LAN) ID を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。
	<b>port-channel number</b>	(任意) ポートチャンネルを指定します。有効値は 1 ~ 64 です。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.1(13)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。
	12.1(19)EW	ポート信頼デバイスを出力に含めるように変更されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

**例** 次に、キューイング情報を表示する例を示します。

```
Switch# show qos interface fastethernet 6/1
QoS is enabled globally
Port QoS is enabled
Administrative Port Trust State: 'dscp'
Operational Port Trust State: 'untrusted'
Port Trust Device: 'cisco-phone'
Default DSCP:0 Default CoS:0

Tx-Queue   Bandwidth   ShapeRate   Priority   QueueSize
           (bps)       (bps)
1           31250000   disabled    N/A       240
2           31250000   disabled    N/A       240
3           31250000   disabled    normal    240
4           31250000   disabled    N/A       240
Switch#
```

**関連コマンド**

- [qos map cos](#)
- [show qos](#)
- [tx-queue](#)

## show qos maps

QoS (Quality Of Service) マップ情報を表示するには、**show qos maps** コマンドを使用します。

```
show qos maps [cos | dscp [policed | tx-queue]]
```

シンタックスの説明	
<b>cos</b>	(任意) Class of Service (CoS; サービスクラス) マップ情報を表示します。
<b>dscp</b>	(任意) DSCP マップ情報を表示します。
<b>policed</b>	(任意) ポリシングされたマップ情報を表示します。
<b>tx-queue</b>	(任意) 送信キュー マップ情報を表示します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

## 例

次に、QoS マップの設定を表示する例を示します。

```
Switch# show qos maps
DSCP-TxQueue Mapping Table (dscp = d1d2)
d1 :d2  0  1  2  3  4  5  6  7  8  9
-----
0 :    01 01 01 01 01 01 01 01 01 01
1 :    01 01 01 01 01 01 02 02 02 02
2 :    02 02 02 02 02 02 02 02 02 02
3 :    02 02 03 03 03 03 03 03 03 03
4 :    03 03 03 03 03 03 03 03 04 04
5 :    04 04 04 04 04 04 04 04 04 04
6 :    04 04 04 04

Policed DSCP Mapping Table (dscp = d1d2)
d1 :d2  0  1  2  3  4  5  6  7  8  9
-----
0 :    00 01 02 03 04 05 06 07 08 09
1 :    10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
2 :    20 21 22 23 24 25 26 27 28 29
3 :    30 31 32 33 34 35 36 37 38 39
4 :    40 41 42 43 44 45 46 47 48 49
5 :    50 51 52 53 54 55 56 57 58 59
6 :    60 61 62 63

DSCP-CoS Mapping Table (dscp = d1d2)
d1 :d2  0  1  2  3  4  5  6  7  8  9
-----
0 :    00 00 00 00 00 00 00 00 01 01
1 :    01 01 01 01 01 01 02 02 02 02
2 :    02 02 02 02 03 03 03 03 03 03
3 :    03 03 04 04 04 04 04 04 04 04
4 :    05 05 05 05 05 05 05 05 06 06
5 :    06 06 06 06 06 06 07 07 07 07
6 :    07 07 07 07

CoS-DSCP Mapping Table
  CoS:  0  1  2  3  4  5  6  7
-----
  DSCP: 0  8 16 24 32 40 48 56

Switch#
```

## 関連コマンド

[qos \(グローバル コンフィギュレーション モード\)](#)  
[qos \(インターフェイス コンフィギュレーション モード\)](#)

# show redundancy

冗長性ファシリティ情報を表示するには、**show redundancy** コマンドを使用します。

```
show redundancy {clients | counters | history | states}
```

シンタックスの説明	
<b>clients</b>	(任意) 冗長性ファシリティ クライアント情報を表示します。
<b>counters</b>	(任意) 冗長性ファシリティ カウンタ情報を表示します。
<b>history</b>	(任意) 過去のステータスのログおよび冗長性ファシリティ関連情報を表示します。
<b>states</b>	(任意) 冗長性ファシリティ ステート情報 (ディセーブル、初期化、スタンバイ、アクティブなど) を表示します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1.(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました (Catalyst 4507R のみ)。
	12.2(31)SGA	ISSU のサポートが導入されました。

## 例

次に、冗長ファシリティ情報を表示する例を示します。

```
Switch# show redundancy
Switch# show redundancy
4507r-demo#show redundancy
Redundant System Information :
-----
    Available system uptime = 2 days, 2 hours, 39 minutes
Switchovers system experienced = 0
    Standby failures = 0
    Last switchover reason = none

    Hardware Mode = Duplex
Configured Redundancy Mode = Stateful Switchover
Operating Redundancy Mode = Stateful Switchover
Maintenance Mode = Disabled
Communications = Up

Current Processor Information :
-----
    Active Location = slot 1
    Current Software state = ACTIVE
    Uptime in current state = 2 days, 2 hours, 39 minutes
    Image Version = Cisco Internetwork Operating System Software
IOS (tm) Catalyst 4000 L3 Switch Software (cat4000-I5S-M), Version 12.2(20)EWA(3
.92), CISCO INTERNAL USE ONLY ENHANCED PRODUCTION VERSION
Copyright (c) 1986-2004 by cisco Systems, Inc.
Compiled Wed 14-Jul-04 04:42 by esi
    BOOT = bootflash:cat4000-i5s-mz.122_20_EWA_392,1
    Configuration register = 0x2002

Peer Processor Information :
-----
    Standby Location = slot 2
    Current Software state = STANDBY HOT
    Uptime in current state = 2 days, 2 hours, 39 minutes
    Image Version = Cisco Internetwork Operating System Software
IOS (tm) Catalyst 4000 L3 Switch Software (cat4000-I5S-M), Version 12.2(20)EWA(3
.92), CISCO INTERNAL USE ONLY ENHANCED PRODUCTION VERSION
Copyright (c) 1986-2004 by cisco Systems, Inc.
Compiled Wed 14-Jul-04 0
    BOOT = bootflash:cat4000-i5s-mz.122_20_EWA_392,1
    Configuration register = 0x2002

Switch#
```

次に、冗長性ファシリティクライアント情報を表示する例を示します。

```
Switch# show redundancy clients
clientID = 0          clientSeq = 0          RF_INTERNAL_MSG
clientID = 30        clientSeq = 135        Redundancy Mode RF
clientID = 28        clientSeq = 330        GALIOS_CONFIG_SYNC
clientID = 65000     clientSeq = 65000     RF_LAST_CLIENT Switch
```

出力では次の情報が表示されます。

- clientID — クライアントの ID 番号
- clientSeq — クライアントの通知シーケンス番号
- 現在の冗長性ファシリティステート

次に、冗長性ファシリティカウンタ情報を表示する例を示します。

```
Switch# show redundancy counters
Redundancy Facility OMs
    comm link up = 1
    comm link down down = 0

    invalid client tx = 0
    null tx by client = 0
    tx failures = 0
    tx msg length invalid = 0

    client not rxing msgs = 0
    rx peer msg routing errors = 0
    null peer msg rx = 0
    errored peer msg rx = 0

    buffers tx = 1535
    tx buffers unavailable = 0
    buffers rx = 1530
    buffer release errors = 0

    duplicate client registers = 0
    failed to register client = 0
    Invalid client syncs = 0
Switch#
```

次に、冗長性ファシリティ履歴情報を表示する例を示します。

```
Switch# show redundancy history
00:00:01 client added: RF_INTERNAL_MSG(0) seq=0
00:00:01 client added: RF_LAST_CLIENT(65000) seq=65000
00:00:01 client added: GALIOS_CONFIG_SYNC(28) seq=330
00:00:03 client added: Redundancy Mode RF(30) seq=135
00:00:03 *my state = INITIALIZATION(2) *peer state = DISABLED(1)
00:00:03 RF_PROG_INITIALIZATION(100) RF_INTERNAL_MSG(0) op=0 rc=11
00:00:03 RF_PROG_INITIALIZATION(100) Redundancy Mode RF(30) op=0 rc=11
00:00:03 RF_PROG_INITIALIZATION(100) GALIOS_CONFIG_SYNC(28) op=0 rc=11
00:00:03 RF_PROG_INITIALIZATION(100) RF_LAST_CLIENT(65000) op=0 rc=11
00:00:03 *my state = NEGOTIATION(3) peer state = DISABLED(1)
00:00:25 RF_EVENT_GO_ACTIVE(511) op=0
00:00:25 *my state = ACTIVE-FAST(9) peer state = DISABLED(1)
00:00:25 RF_STATUS_MAINTENANCE_ENABLE(403) Redundancy Mode RF(30) op=0
00:00:25 RF_STATUS_MAINTENANCE_ENABLE(403) GALIOS_CONFIG_SYNC(28) op=0
00:00:25 RF_PROG_ACTIVE_FAST(200) RF_INTERNAL_MSG(0) op=0 rc=11
00:00:25 RF_PROG_ACTIVE_FAST(200) Redundancy Mode RF(30) op=0 rc=11
00:00:25 RF_PROG_ACTIVE_FAST(200) GALIOS_CONFIG_SYNC(28) op=0 rc=11
00:00:25 RF_PROG_ACTIVE_FAST(200) RF_LAST_CLIENT(65000) op=0 rc=11
00:00:25 *my state = ACTIVE-DRAIN(10) peer state = DISABLED(1)
00:00:25 RF_PROG_ACTIVE_DRAIN(201) RF_INTERNAL_MSG(0) op=0 rc=11
00:00:25 RF_PROG_ACTIVE_DRAIN(201) Redundancy Mode RF(30) op=0 rc=11
00:00:25 RF_PROG_ACTIVE_DRAIN(201) GALIOS_CONFIG_SYNC(28) op=0 rc=11
00:00:25 RF_PROG_ACTIVE_DRAIN(201) RF_LAST_CLIENT(65000) op=0 rc=11
00:01:34 RF_PROG_PLATFORM_SYNC(300) RF_INTERNAL_MSG(0) op=0 rc=11
00:01:34 RF_PROG_PLATFORM_SYNC(300) Redundancy Mode RF(30) op=0 rc=11
00:01:34 RF_PROG_PLATFORM_SYNC(300) GALIOS_CONFIG_SYNC(28) op=0 rc=0
00:01:34 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) GALIOS_CONFIG_SYNC(28) op=1 rc=0
00:01:36 RF_EVENT_PEER_PROG_DONE(506) GALIOS_CONFIG_SYNC(28) op=300
00:01:36 RF_PROG_PLATFORM_SYNC(300) RF_LAST_CLIENT(65000) op=0 rc=0
00:01:36 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) RF_LAST_CLIENT(65000) op=1 rc=0
00:01:36 RF_EVENT_PEER_PROG_DONE(506) RF_LAST_CLIENT(65000) op=300
00:01:38 *my state = ACTIVE(13) *peer state = STANDBY COLD(4)
Switch#
```

次に、冗長性ファシリティ ステート情報を表示する例を示します。

```
Switch# show redundancy states
my state = 13 -ACTIVE
  peer state = 8  -STANDBY HOT
    Mode = Duplex
    Unit = Primary
    Unit ID = 2

Redundancy Mode (Operational) = Stateful Switchover
Redundancy Mode (Configured)  = Stateful Switchover
  Split Mode = Disabled
  Manual Swact = Enabled
  Communications = Up

  client count = 21
  client_notification_TMR = 240000 milliseconds
    keep_alive TMR = 9000 milliseconds
    keep_alive count = 0
    keep_alive threshold = 18
    RF debug mask = 0x0
Switch#
```

---

**関連コマンド**

[redundancy](#)  
[redundancy force-switchover](#)



# show running-config

モジュールのステータスおよび設定を表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

```
show running-config [module slot]
```

シンタックスの説明	<b>module slot</b>	(任意) モジュールのスロット番号を指定します。有効値は 1～6 です。
デフォルト	このコマンドにデフォルト設定はありません。	
コマンドモード	特権 EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 場合によっては、**show interfaces** コマンドと **show running-config** コマンドで表示されるデュプレックス モードが異なる場合があります。表示が異なる場合、**show interfaces** コマンドで表示されるデュプレックス モードは、インターフェイスが実際に実行しているデュプレックス モードです。**show interfaces** コマンドは、インターフェイスの動作モードを表示しますが、**show running-config** コマンドは、インターフェイスに設定されているモードを表示します。

特定のインターフェイスに **show running-config** コマンドを使用した場合は、デュプレックス モード設定が表示されているにもかかわらず、速度設定が表示されないことがあります。速度が出力に表示されない場合は、インターフェイス速度が **auto** に設定されていること、および速度を **auto** 以外に設定すると、表示されているデュプレックス モードが動作設定になることを示します。このような設定の場合、このインターフェイスで動作中のデュプレックス モードは、**show running-config** コマンドで示されるデュプレックス モードと一致しません。

## 例

次に、すべてのモジュールのモジュール設定およびステータス設定を表示する例を示します。

```
Switch# show running-config
03:23:36:%SYS-5-CONFIG_I:Configured from console by consoleh runn
Building configuration...

Current configuration:3268 bytes
!
version 12.1
no service pad
service timestamps debug uptime
service timestamps log uptime
no service password-encryption
!
hostname Switch
!
!
power supplies required 1
ip subnet-zero
!
!
interface FastEthernet1
 no ip address
 shutdown
 duplex auto
 speed auto
Switch#
```

次に、**switchport voice vlan** コマンドがイネーブルである場合の、**show running-config** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show running-config int fastethernet 6/1
Building configuration...

Current configuration:133 bytes
!
interface FastEthernet6/1
 switchport voice vlan 2
 no snmp trap link-status
 spanning-tree portfast
 channel-group 1 mode on
end

Switch#
```

## show slavebootflash:

スタンバイブートフラッシュファイルシステムに関する情報を表示するには、**show slavebootflash:** コマンドを使用します。

**show slavebootflash: [all | chips | filesys]**

シンタックスの説明	
<b>all</b>	(任意) 使用可能なすべてのフラッシュ情報を表示します。
<b>chips</b>	(任意) フラッシュチップ情報を表示します。
<b>filesys</b>	(任意) ファイルシステム情報を表示します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、ファイルシステムステータス情報を表示する例を示します。

```
Switch# show slavebootflash: filesys

----- F I L E   S Y S T E M   S T A T U S -----
  Device Number = 0
DEVICE INFO BLOCK: bootflash
  Magic Number      = 6887635   File System Vers = 10000   (1.0)
  Length            = 1000000   Sector Size      = 40000
  Programming Algorithm = 39     Erased State     = FFFFFFFF
  File System Offset = 40000     Length           = F40000
  MONLIB Offset     = 100       Length           = C628
  Bad Sector Map Offset = 3FFF8   Length           = 8
  Squeeze Log Offset = F80000   Length           = 40000
  Squeeze Buffer Offset = FC0000  Length           = 40000
  Num Spare Sectors = 0
  Spares:
STATUS INFO:
  Writable
  NO File Open for Write
  Complete Stats
  No Unrecovered Errors
  No Squeeze in progress
USAGE INFO:
  Bytes Used       = 917CE8   Bytes Available = 628318
  Bad Sectors     = 0         Spared Sectors = 0
  OK Files        = 2         Bytes          = 917BE8
  Deleted Files   = 0         Bytes          = 0
  Files w/Errors  = 0         Bytes          = 0
Switch>
```

次に、システムイメージ情報を表示する例を示します。

```
Switch# show slavebootflash:
-# - ED --type-- --crc--- -seek-- nlen -length- -----date/time----- name
1  .. image   8C5A393A 237E3C  14 2063804 Aug 23 1999 16:18:45 c4-boot-mz
2  .. image   D86EE0AD 957CE8   9 7470636 Sep 20 1999 13:48:49 rp.halley
Switch>
```

## ■ show slavebootflash:

次に、すべてのブートフラッシュ情報を表示する例を示します。

```
Switch# show slavebootflash: all
-# - ED --type-- --crc--- -seek-- nlen -length- -----date/time----- name
1  .. image      8C5A393A  237E3C   14  2063804 Aug 23 1999 16:18:45 c4-boot-
mz
2  .. image      D86EE0AD  957CE8    9  7470636 Sep 20 1999 13:48:49 rp.halley

6456088 bytes available (9534696 bytes used)

----- F I L E   S Y S T E M   S T A T U S -----
Device Number = 0
DEVICE INFO BLOCK: bootflash
Magic Number      = 6887635   File System Vers = 10000   (1.0)
Length            = 1000000   Sector Size      = 40000
Programming Algorithm = 39     Erased State     = FFFFFFFF
File System Offset = 40000    Length = F40000
MONLIB Offset     = 100      Length = C628
Bad Sector Map Offset = 3FFF8    Length = 8
Squeeze Log Offset = F80000   Length = 40000
Squeeze Buffer Offset = FC0000   Length = 40000
Num Spare Sectors = 0

Spares:
STATUS INFO:
Writable
NO File Open for Write
Complete Stats
No Unrecovered Errors
No Squeeze in progress
USAGE INFO:
Bytes Used      = 917CE8   Bytes Available = 628318
Bad Sectors    = 0       Spared Sectors  = 0
OK Files       = 2       Bytes = 917BE8
Deleted Files  = 0       Bytes = 0
Files w/Errors = 0       Bytes = 0
Switch>
```

## show slaveslot0:

スタンバイ スーパーバイザ エンジンのファイル システムに関する情報を表示するには、**show slaveslot0:** コマンドを使用します。

**show slot0:** [all | chips | filesys]

シンタックスの説明	
<b>all</b>	(任意) <b>show slot0:chips</b> コマンドおよび <b>show slot0: filesys</b> コマンドからの出力を含むすべてのフラッシュ情報を表示します。
<b>chips</b>	(任意) フラッシュ チップ レジスタ情報を表示します。
<b>filesys</b>	(任意) ファイル システム ステータス情報を表示します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、ファイル システムの概要を表示する例を示します。

```
Switch# show slaveslot0:
-# - ED --type-- --crc--- -seek-- nlen -length- -----date/time----- name
1  .. image    6375DBB7  A4F144    6 10678468 Nov 09 1999 10:50:42 halley

5705404 bytes available (10678596 bytes used)
Switch>
```

```
show slaveslot0:
```

次に、フラッシュ チップ情報を表示する例を示します。

```
Switch# show slaveslot0: chips
***** Intel Series 2+ Status/Register Dump *****
ATTRIBUTE MEMORY REGISTERS:
  Config Option Reg (4000): 2
  Config Status Reg (4002): 0
  Card Status Reg (4100): 1
  Write Protect Reg (4104): 4
  Voltage Cntrl Reg (410C): 0
  Rdy/Busy Mode Reg (4140): 2

COMMON MEMORY REGISTERS: Bank 0
  Intelligent ID Code : 8989A0A0
  Compatible Status Reg: 8080
  Global Status Reg: B0B0
  Block Status Regs:
    0 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
    8 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   16 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   24 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0

COMMON MEMORY REGISTERS: Bank 1
  Intelligent ID Code : 8989A0A0
  Compatible Status Reg: 8080
  Global Status Reg: B0B0
  Block Status Regs:
    0 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
    8 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   16 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   24 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0

COMMON MEMORY REGISTERS: Bank 2
  Intelligent ID Code : 8989A0A0
  Compatible Status Reg: 8080
  Global Status Reg: B0B0
  Block Status Regs:
    0 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
    8 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   16 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   24 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0

COMMON MEMORY REGISTERS: Bank 3
  Intelligent ID Code : 8989A0A0
  Compatible Status Reg: 8080
  Global Status Reg: B0B0
  Block Status Regs:
    0 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
    8 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   16 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   24 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0

COMMON MEMORY REGISTERS: Bank 4
  Intelligent ID Code : FFFFFFFF
  IID Not Intel -- assuming bank not populated
```

次に、ファイルシステム情報を表示する例を示します。

```
Switch# show slaveslot0: fileys
----- F I L E   S Y S T E M   S T A T U S -----
  Device Number = 0
DEVICE INFO BLOCK: slot0
  Magic Number      = 6887635   File System Vers = 10000   (1.0)
  Length            = 1000000   Sector Size      = 20000
  Programming Algorithm = 4     Erased State     = FFFFFFFF
  File System Offset = 20000    Length = FA0000
  MONLIB Offset     = 100       Length = F568
  Bad Sector Map Offset = 1FFF0   Length = 10
  Squeeze Log Offset = FC0000   Length = 20000
  Squeeze Buffer Offset = FE0000   Length = 20000
  Num Spare Sectors = 0
  Spares:
STATUS INFO:
  Writable
  NO File Open for Write
  Complete Stats
  No Unrecovered Errors
  No Squeeze in progress
USAGE INFO:
  Bytes Used      = 9F365C   Bytes Available = 5AC9A4
  Bad Sectors    = 0        Spared Sectors  = 0
  OK Files       = 1        Bytes = 9F35DC
  Deleted Files  = 0        Bytes = 0
  Files w/Errors = 0        Bytes =
Switch>
```

## show slot0:

slot0: ファイルシステムに関する情報を表示するには、**show slot0:** コマンドを使用します。

**show slot0:** [all | chips | filesys]

シンタックスの説明	
all	(任意) <b>show slot0:chips</b> コマンドおよび <b>show slot0: filesys</b> コマンドからの出力を含むすべてのフラッシュ情報を表示します。
chips	(任意) フラッシュチップレジスタ情報を表示します。
filesys	(任意) ファイルシステムステータス情報を表示します。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、ファイルシステムの概要を表示する例を示します。

```
Switch# show slot0:
-# - ED --type-- --crc--- -seek-- nlen -length- -----date/time----- name
1  .. image    6375DBB7  A4F144    6 10678468 Nov 09 1999 10:50:42 halley

5705404 bytes available (10678596 bytes used)
Switch>
```



次に、フラッシュ チップ情報を表示する例を示します。

```
Switch# show slot0: chips
***** Intel Series 2+ Status/Register Dump *****
ATTRIBUTE MEMORY REGISTERS:
  Config Option Reg (4000): 2
  Config Status Reg (4002): 0
  Card Status Reg (4100): 1
  Write Protect Reg (4104): 4
  Voltage Cntrl Reg (410C): 0
  Rdy/Busy Mode Reg (4140): 2

COMMON MEMORY REGISTERS: Bank 0
  Intelligent ID Code : 8989A0A0
  Compatible Status Reg: 8080
  Global Status Reg: B0B0
  Block Status Regs:
    0 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
    8 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   16 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   24 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0

COMMON MEMORY REGISTERS: Bank 1
  Intelligent ID Code : 8989A0A0
  Compatible Status Reg: 8080
  Global Status Reg: B0B0
  Block Status Regs:
    0 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
    8 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   16 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   24 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0

COMMON MEMORY REGISTERS: Bank 2
  Intelligent ID Code : 8989A0A0
  Compatible Status Reg: 8080
  Global Status Reg: B0B0
  Block Status Regs:
    0 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
    8 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   16 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   24 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0

COMMON MEMORY REGISTERS: Bank 3
  Intelligent ID Code : 8989A0A0
  Compatible Status Reg: 8080
  Global Status Reg: B0B0
  Block Status Regs:
    0 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
    8 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   16 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0
   24 : B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0 B0B0

COMMON MEMORY REGISTERS: Bank 4
  Intelligent ID Code : FFFFFFFF
  IID Not Intel -- assuming bank not populated
Switch>
```

## ■ show slot0:

次に、ファイルシステム情報を表示する例を示します。

```
Switch# show slot0: fileSYS
----- F I L E   S Y S T E M   S T A T U S -----
  Device Number = 0
DEVICE INFO BLOCK: slot0
  Magic Number      = 6887635   File System Vers = 10000   (1.0)
  Length            = 1000000   Sector Size      = 20000
  Programming Algorithm = 4     Erased State     = FFFFFFFF
  File System Offset = 20000    Length = FA0000
  MONLIB Offset     = 100       Length = F568
  Bad Sector Map Offset = 1FFF0  Length = 10
  Squeeze Log Offset = FC0000   Length = 20000
  Squeeze Buffer Offset = FE0000  Length = 20000
  Num Spare Sectors = 0
  Spares:
STATUS INFO:
  Writable
  NO File Open for Write
  Complete Stats
  No Unrecovered Errors
  No Squeeze in progress
USAGE INFO:
  Bytes Used      = 9F365C   Bytes Available = 5AC9A4
  Bad Sectors    = 0         Spared Sectors  = 0
  OK Files       = 1         Bytes = 9F35DC
  Deleted Files  = 0         Bytes = 0
  Files w/Errors = 0         Bytes = 0
Switch>
```

# show spanning-tree

スパニングツリーのステート情報を表示するには、**show spanning-tree** コマンドを使用します。

```
show spanning-tree [bridge_group | active | backbonefast | bridge [id] | inconsistentports | interface
type | root | summary [total] | uplinkfast | vlan vlan_id | pathcost method | detail]
```

シンタックスの説明	
<i>bridge_group</i>	(任意) ブリッジグループの番号を指定します。有効値は 1 ~ 255 です。
<b>active</b>	(任意) アクティブ インターフェイスに関するスパニングツリー情報のみを表示します。
<b>backbonefast</b>	(任意) スパニング ツリー BackboneFast ステータスを表示します。
<b>bridge</b>	(任意) ブリッジのステータスおよびコンフィギュレーション情報を表示します。
<i>id</i>	(任意) ブリッジの名前です。
<b>inconsistentports</b>	(任意) ルート矛盾 (Inconsistency) ステートを表示します。
<b>interface type</b>	(任意) インターフェイスのタイプおよび番号を指定します。有効値は <b>fastethernet</b> 、 <b>gigabitethernet</b> 、 <b>tengigabitethernet</b> 、 <b>port-channel</b> (1 ~ 64)、および <b>vlan</b> (1 ~ 4,094) です。
<b>root</b>	(任意) ルートブリッジのステータスおよびコンフィギュレーションを表示します。
<b>summary</b>	(任意) ポートステートの概要を指定します。
<b>total</b>	(任意) スパニングツリー ステート セクションのすべての行を表示します。
<b>uplinkfast</b>	(任意) スパニング ツリー UplinkFast ステータスを表示します。
<b>vlan vlan_id</b>	(任意) VLAN (仮想 LAN) ID を指定します。有効値は 1 ~ 4,094 です。
<b>pathcost method</b>	(任意) 使用されているデフォルトパスコスト計算方式を表示します。
<b>detail</b>	(任意) インターフェイス情報の概要を表示します。

## デフォルト

インターフェイス情報の概要が表示されます。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張アドレス指定のサポートが追加されました。
12.2(25)EW	10 ギガビットイーサネットインターフェイスのサポートが追加されました。

例 次に、アクティブ インターフェイスのスパニングツリー情報のみを表示する例を示します。

```
Switch# show spanning-tree active
UplinkFast is disabled
BackboneFast is disabled

VLAN1 is executing the ieee compatible Spanning Tree protocol
Bridge Identifier has priority 32768, address 0050.3e8d.6401
Configured hello time 2, max age 20, forward delay 15
Current root has priority 16384, address 0060.704c.7000
Root port is 265 (FastEthernet5/9), cost of root path is 38
Topology change flag not set, detected flag not set
Number of topology changes 0 last change occurred 18:13:54 ago
Times: hold 1, topology change 24, notification 2
      hello 2, max age 14, forward delay 10
Timers: hello 0, topology change 0, notification 0

Port 265 (FastEthernet5/9) of VLAN1 is forwarding
Port path cost 19, Port priority 128, Port Identifier 129.9.
Designated root has priority 16384, address 0060.704c.7000
Designated bridge has priority 32768, address 00e0.4fac.b000
Designated port id is 128.2, designated path cost 19
Timers: message age 3, forward delay 0, hold 0
Number of transitions to forwarding state: 1
BPDU: sent 3, received 32852
Switch#
```

次に、スパニングツリー BackboneFast ステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show spanning-tree backbonefast
BackboneFast is enabled

BackboneFast statistics
-----
Number of transition via backboneFast (all VLANs) : 0
Number of inferior BPDUs received (all VLANs)    : 0
Number of RLQ request PDUs received (all VLANs)  : 0
Number of RLQ response PDUs received (all VLANs) : 0
Number of RLQ request PDUs sent (all VLANs)      : 0
Number of RLQ response PDUs sent (all VLANs)     : 0
Switch#
```

次に、ブリッジのスパニングツリー情報を表示する例を示します。

```
Switch# show spanning-tree bridge
VLAN1
  Bridge ID  Priority    32768
            Address    0050.3e8d.6401
            Hello Time  2 sec  Max Age 20 sec  Forward Delay 15 sec
VLAN2
  Bridge ID  Priority    32768
            Address    0050.3e8d.6402
            Hello Time  2 sec  Max Age 20 sec  Forward Delay 15 sec
VLAN3
  Bridge ID  Priority    32768
            Address    0050.3e8d.6403
            Hello Time  2 sec  Max Age 20 sec  Forward Delay 15 sec
Switch#
```

次に、インターフェイス情報の概要を表示する例を示します。

```
Switch# show spanning-tree
```

```
VLAN1
Spanning tree enabled protocol ieee
Root ID    Priority    32768
           Address    0030.94fc.0a00
           This bridge is the root
           Hello Time  2 sec  Max Age 20 sec  Forward Delay 15 sec

Bridge ID  Priority    32768
           Address    0030.94fc.0a00
           Hello Time  2 sec  Max Age 20 sec  Forward Delay 15 sec
           Aging Time  300

Interface
Name          Port ID Prio  Cost Sts      Designated
-----
FastEthernet6/15 129.79 128   19 FWD      0 32768 0030.94fc.0a00 129.79

VLAN2
Spanning tree enabled protocol ieee
Root ID    Priority    32768
           Address    0030.94fc.0a01
           This bridge is the root
           Hello Time  2 sec  Max Age 20 sec  Forward Delay 15 sec

Bridge ID  Priority    32768
           Address    0030.94fc.0a01
           Hello Time  2 sec  Max Age 20 sec  Forward Delay 15 sec
           Aging Time  300

Interface
Name          Port ID Prio  Cost Sts      Designated
-----
FastEthernet6/16 129.80 128   19 FWD      0 32768 0030.94fc.0a01 129.80
Switch#
```

次に、インターフェイス fastethernet5/9 のスパニングツリー情報を表示する例を示します。

```
Switch# show spanning-tree interface fastethernet5/9
Interface Fa0/10 (port 23) in Spanning tree 1 is ROOT-INCONSISTENT
Port path cost 100, Port priority 128
Designated root has priority 8192, address 0090.0c71.a400
Designated bridge has priority 32768, address 00e0.1e9f.8940
Designated port is 23, path cost 115
Timers: message age 0, forward delay 0, hold 0
BPDU: sent 0, received 0
The port is in the portfast mode
Switch#
```

次に、特定の VLAN のスパニングツリー情報を表示する例を示します。

```
Switch# show spanning-tree vlan 1
VLAN1 is executing the ieee compatible Spanning Tree protocol
  Bridge Identifier has priority 32768, address 0030.94fc.0a00
  Configured hello time 2, max age 20, forward delay 15
  We are the root of the spanning tree
  Topology change flag not set, detected flag not set
  Number of topology changes 5 last change occurred 01:50:47 ago
    from FastEthernet6/16
  Times: hold 1, topology change 35, notification 2
    hello 2, max age 20, forward delay 15

  Timers:hello 0, topology change 0, notification 0, aging 300

Port 335 (FastEthernet6/15) of VLAN1 is forwarding
  Port path cost 19, Port priority 128, Port Identifier 129.79.
  Designated root has priority 32768, address 0030.94fc.0a00
  Designated bridge has priority 32768, address 0030.94fc.0a00
  Designated port id is 129.79, designated path cost 0
  Timers:message age 0, forward delay 0, hold 0
  Number of transitions to forwarding state:1
  BPDU:sent 6127, received 0
Switch#
```

次に、特定のブリッジグループのスパニングツリー情報を表示する例を示します。

```
Switch# show spanning-tree vlan 1
  UplinkFast is disabled
  BackboneFast is disabled
Switch#
```

次に、ポート ステータスの概要を表示する例を示します。

```
Switch# show spanning-tree summary
Root bridge for:VLAN1, VLAN2.
PortFast BPDU Guard is disabled
EtherChannel misconfiguration guard is enabled
UplinkFast is disabled
BackboneFast is disabled
Default pathcost method used is short

Name                Blocking Listening Learning Forwarding STP Active
-----
VLAN1                0          0          0          1          1
VLAN2                0          0          0          1          1
-----
2 VLANs 0            0          0          2          2

Switch#
```

次に、スパニングツリー ステータス セクションのすべての行を表示する例を示します。

```
Switch# show spanning-tree summary totals
Root bridge for:VLAN1, VLAN2.
PortFast BPDU Guard is disabled
EtherChannel misconfiguration guard is enabled
UplinkFast is disabled
BackboneFast is disabled
Default pathcost method used is short

Name                Blocking Listening Learning Forwarding STP Active
-----
2 VLANs 0            0          0          2          2

Switch#
```

次に、ルート矛盾ステータスのポートがあるかどうかを確認する例を示します。

```
Switch# show spanning-tree inconsistentports
```

Name	Interface	Inconsistency
VLAN1	FastEthernet3/1	Root Inconsistent

```
Number of inconsistent ports (segments) in the system:1  
Switch#
```

#### 関連コマンド

[spanning-tree backbonefast](#)

[spanning-tree cost](#)

[spanning-tree guard](#)

[spanning-tree pathcost method](#)

[spanning-tree portfast default](#)

[spanning-tree portfast \(インターフェイス コンフィギュレーション モード\)](#)

[spanning-tree port-priority](#)

[spanning-tree uplinkfast](#)

[spanning-tree vlan](#)

# show spanning-tree mst

MST プロトコル情報を表示するには、**show spanning-tree mst** コマンドを使用します。

```
show spanning-tree mst [configuration]
```

```
show spanning-tree mst [instance-id] [detail]
```

```
show spanning-tree mst [instance-id] interface interface [detail]
```

シンタックスの説明	
<b>configuration</b>	(任意) リージョン コンフィギュレーション情報を表示します。
<i>instance-id</i>	(任意) インスタンス ID 番号です。有効値は 0 ~ 15 です。
<b>detail</b>	(任意) MST プロトコルの詳細情報を表示します。
<b>interface interface</b>	(任意) インターフェイスのタイプおよび番号です。タイプの有効値は <b>fastethernet</b> 、 <b>gigabitethernet</b> 、 <b>tengigabitethernet</b> 、 <b>port-channel</b> 、および <b>vlan</b> です。詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.2(25)EW	10 ギガビットイーサネット インターフェイスのサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、Supervisor Engine I が搭載されているシステムではサポートされません。

**show spanning-tree mst configuration** コマンドの出力表示では、警告メッセージが表示されることがあります。このメッセージは、セカンダリ VLAN (仮想 LAN) を、対応付けられたプライマリ VLAN と同じインスタンスにマッピングしなかった場合に、表示されます。出力には、対応付けられたプライマリ VLAN と同じインスタンスにマッピングされていないセカンダリ VLAN のリストが含まれます。警告メッセージは次のとおりです。

```
These secondary vlans are not mapped to the same instance as their primary:
-> 3
```

出力の定義については、**show spanning-tree** コマンドを参照してください。

**例** 次に、リージョン コンフィギュレーション情報を表示する例を示します。

```
Switch# show spanning-tree mst configuration
Name      [leo]
Revision  2702
Instance  Vlans mapped
-----
0         1-9,11-19,21-29,31-39,41-4094
1         10,20,30,40
-----
Switch#
```



次に、追加の MST プロトコル値を表示する例を示します。

```
Switch# show spanning-tree mst 3 detail
# # # # # MST03 vlans mapped: 3,3000-3999
Bridge address 0002.172c.f400 priority 32771 (32768 sysid 3)
Root this switch for MST03

GigabitEthernet1/1 of MST03 is boundary forwarding
Port info port id 128.1 priority 128
cost 20000
Designated root address 0002.172c.f400 priority 32771
cost 0
Designated bridge address 0002.172c.f400 priority 32771 port
id 128.1
Timers: message expires in 0 sec, forward delay 0, forward transitions 1
Bpdus (MRecords) sent 4, received 0

FastEthernet4/2 of MST03 is backup blocking
Port info port id 128.194 priority 128 cost
200000
Designated root address 0002.172c.f400 priority 32771
cost 0
Designated bridge address 0002.172c.f400 priority 32771 port id
128.193
Timers: message expires in 2 sec, forward delay 0, forward transitions 1
Bpdus (MRecords) sent 3, received 252
Switch#
```

次に、特定のインターフェイスの MST 情報を表示する例を示します。

```
Switch# show spanning-tree mst 0 interface fastethernet4/1 detail
Edge port: no (trunk) port guard : none
(default)
Link type: point-to-point (point-to-point) bpdu filter: disable
(default)
Boundary : internal bpdu guard : disable
(default)
FastEthernet4/1 of MST00 is designated forwarding
Vlans mapped to MST00 1-2,4-2999,4000-4094
Port info port id 128.193 priority 128 cost
200000
Designated root address 0050.3e66.d000 priority 8193
cost 20004
Designated ist master address 0002.172c.f400 priority 49152
cost 0
Designated bridge address 0002.172c.f400 priority 49152 port id
128.193
Timers: message expires in 0 sec, forward delay 0, forward transitions 1
Bpdus sent 492, received 3
Switch#
```

#### 関連コマンド

[spanning-tree mst](#)  
[spanning-tree mst forward-time](#)  
[spanning-tree mst hello-time](#)  
[spanning-tree mst max-hops](#)  
[spanning-tree mst root](#)

## show storm-control

スイッチまたは指定されたインターフェイスのブロードキャスト ストーム制御設定を表示するには、**show storm-control** コマンドを使用します。

```
show storm-control [interface-id | broadcast]
```

Supervisor Engine 6-E

```
show storm-control [interface-id | broadcast | multicast]
```

### シンタックスの説明

<i>interface-id</i>	(任意) 物理ポートのインターフェイス ID を指定します。
<b>broadcast</b>	(任意) ブロードキャスト ストームのしきい値設定を表示します。
<b>multicast</b>	(任意) マルチキャスト ストームのしきい値設定を表示します。

### コマンドモード

特権 EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(25)EW	10 ギガビット イーサネット インターフェイスのサポートが追加されました。
12.2(40)SG	Supervisor Engine 6E のサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

インターフェイス ID を入力すると、指定されたインターフェイスのストーム制御しきい値が表示されます。

インターフェイス ID を入力しない場合は、スイッチのすべてのポートに対するブロードキャストトラフィック タイプの設定が表示されます。

### 例

次に、キーワードを入力しなかった場合の **show storm-control** の出力例を示します。トラフィックタイプ キーワードが入力されていないため、ブロードキャスト ストーム制御設定が表示されます。

```
Switch# show storm-control
Interface  Filter State  Upper    Lower    Current
-----  -
Gi2/1     Forwarding  30.00%  30.00%   N/A
Gi4/1     Forwarding  30.00%  30.00%   N/A
Gi4/3     Forwarding  30.00%  30.00%   N/A
Switch#
```

次に、Supervisor Engine 6-E に対する **show storm-control multicast** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show storm-control multicast //Supervisor Engine 6-E
Interface Filter State  Broadcast Multicast Level
-----
Fa6/2     Blocking  Enabled  Enabled  61%
Switch#
```

次に、Supervisor Engine 6-E に対する、キーワードを入力しなかった場合の **show storm-control** の出力例を示します。

```
Switch# show storm-control
Interface Filter State Broadcast Multicast Level
-----
Fa6/1      Blocking      Enabled      Disabled  81%
Fa6/2      Blocking      Enabled      Enabled   61%
Switch#
```

次に、指定されたインターフェイスに対する **show storm-control** の出力例を示します。

```
Switch# show storm-control fastethernet2/17
Interface Filter State Level Current
-----
Fa2/17    Forwarding    50.00%    0.00%
Switch#
```

次に、Supervisor Engine 6-E 上の指定したインターフェイスに対する **show storm-control** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show storm-control interface fastethernet6/1
Interface Filter State Broadcast Multicast Level
-----
Fa6/1      Blocking      Enabled      Disabled  81%
Switch#
```

表 2-24 に、**show storm-control** の出力に含まれるフィールドの説明を示します。

表 2-24 show storm-control のフィールドの説明

フィールド	説明
Interface	インターフェイスの ID を表示します。
Filter State	フィルタのステータスを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Blocking — ストーム制御はイネーブルであり、ストームが発生しています。</li> <li>Forwarding — ストーム制御はイネーブルであり、ストームは発生していません。</li> <li>Inactive — ストーム制御はディセーブルです。</li> </ul>
Level	インターフェイスに設定されたブロードキャストトラフィックのしきい値レベルを表示します。
Current	ブロードキャストトラフィックの帯域幅利用率を、使用可能な合計帯域幅のパーセントで表示します。このフィールドはストーム制御がイネーブルの場合にのみ有効です。
(注)	N/A (該当なし) は、ストーム制御をハードウェアで行うインターフェイスにのみ表示されます。

#### 関連コマンド

[storm-control](#)  
[show interfaces counters](#)  
[show running-config](#)

# show system mtu

グローバル最大伝送ユニット (Maximum Transmission Unit; MTU) 設定を表示するには、**show system mtu** コマンドを使用します。

```
show system mtu
```

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、グローバル MTU 設定を表示する例を示します。

```
Switch# show system mtu
Global Ethernet MTU is 1550 bytes.
Switch#
```

**関連コマンド** [system mtu](#)

# show tech-support

Technical Assistance Center (TAC) 用のトラブルシューティング情報を表示するには、**show tech-support** コマンドを使用します。

```
show tech-support [bridging | cef | ipmulticast | isis | password [page] | page]
```

## シンタックスの説明

<b>bridging</b>	(任意) ブリッジング関連情報を指定します。
<b>cef</b>	(任意) Cisco Express Forwarding (CEF; シスコ エクスプレス フォワーディング) 関連情報を指定します。
<b>ipmulticast</b>	(任意) IP マルチキャスト関連情報を表示します。
<b>isis</b>	(任意) Connectionless Network Service (CLNS; コネクションレス型ネットワーク サービス) および ISIS 関連情報を表示します。
<b>password</b>	(任意) 出力にパスワードおよびその他のセキュリティ情報を含めます。
<b>page</b>	(任意) 一度に情報を 1 ページ分出力します。

## デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- 出力はページ区切りなしに表示されます。
- (任意) パスワードおよびその他のセキュリティ情報は出力から除外されます。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

**show tech-support** コマンドの出力を途中で中止するには、Ctrl+Alt+6 キーを同時に押します。コマンドの出力はバッファに保存されるので、このコマンドが終了するのは、このコマンドの下位で実行されている現在のサブコマンドの出力が完了した時点となります。

次の出力行を表示するには、**Return** キーを押します。次の情報ページを表示するには、**Space** キーを押します。**page** キーワードを入力しなかった場合、出力はスクロールし、ページの区切りで停止しません。

**password** キーワードを入力した場合は、パスワードの暗号化がイネーブルになり、出力には暗号化形式のみが表示されます。

**password** キーワードを入力しなかった場合、出力内のパスワードおよびその他のセキュリティ依存情報は、ワード [removed] で置き換えられます。

**show tech-support** コマンドは、複数の **show** コマンドが組み合わされたものであり、出力は非常に長くなることがあります。**show tech-support** コマンドの出力例については、リストされている各 **show** コマンドを参照してください。

引数を指定しないで **show tech-support** コマンドを入力すると、出力には次の **show** コマンドと同等な結果が表示されます。

- show version**
- show running-config**
- show stacks**

- **show interfaces**
- **show controllers**
- **show process memory**
- **show process cpu**
- **show buffers**
- **show logging**
- **show module**
- **show power**
- **show environment**
- **show interfaces switchport**
- **show interfaces trunk**
- **show vlan**

**ipmulticast** キーワードを入力した場合、出力には次の **show** コマンドと同等の結果が表示されます。

- **show ip pim interface**
- **show ip pim interface count**
- **show ip pim neighbor**
- **show ip pim rp**
- **show ip igmp groups**
- **show ip igmp interface**
- **show ip mroute count**
- **show ip mroute**
- **show ip mcache**
- **show ip dvmrp route**

---

**例**

**show tech-support** コマンドの出力例の詳細については、「使用上のガイドライン」にリストされているコマンドを参照してください。

---

**関連コマンド**

「使用上のガイドライン」を参照してください。

# show udld

管理および動作上の UniDirectional Link Detection Protocol (UDLD; 単一方向リンク検出) ステータスを表示するには、**show udld** コマンドを使用します。

```
show udld interface-id
```

シンタックスの説明	<i>interface-id</i> インターフェイスの名前です。
-----------	------------------------------------

デフォルト	このコマンドにデフォルト設定はありません。
-------	-----------------------

コマンドモード	特権 EXEC モード
---------	-------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.2(25)EW	10 ギガビット イーサネット インターフェイスのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン	インターフェイス ID 値を入力しなかった場合は、すべてのインターフェイスの管理および動作上の UDLD ステータスが表示されます。
------------	--

例	次に、インターフェイス <code>gigabitethernet2/2</code> の UDLD ステートを表示する例を示します。
---	---

```
Switch# show udld gigabitethernet2/2
Interface Gi2/2
---
Port enable administrative configuration setting: Follows device default
Port enable operational state: Enabled
Current bidirectional state: Bidirectional
Current operational state: Advertisement
Message interval: 60
Time out interval: 5
No multiple neighbors detected
  Entry 1
  ---
  Expiration time: 146
  Device ID: 1
  Current neighbor state: Bidirectional
  Device name: 0050e2826000
  Port ID: 2/1
  Neighbor echo 1 device: SAD03160954
  Neighbor echo 1 port: Gi1/1
  Message interval: 5
  CDP Device name: 066527791
Switch#
```

関連コマンド	<a href="#">udld (グローバル コンフィギュレーションモード)</a> <a href="#">udld (インターフェイス コンフィギュレーションモード)</a>
--------	---

# show vlan

VLAN（仮想 LAN）情報を表示するには、**show vlan** コマンドを使用します。

```
show vlan [brief | id vlan_id | name name]
```

```
show vlan private-vlan [type]
```

シンタックスの説明		
<b>brief</b>	(任意) VLAN ごとに、VLAN 名、ステータス、およびポートを 1 行で表示します。	
<b>id <i>vlan_id</i></b>	(任意) VLAN ID 番号によって識別される単一 VLAN に関する情報を表示します。有効値は 1 ~ 4,094 です。	
<b>name <i>name</i></b>	(任意) VLAN 名によって識別される単一 VLAN に関する情報を表示します。有効値は 1 ~ 32 文字の ASCII 文字列です。	
<b>private-vlan</b>	プライベート VLAN 情報を表示します。	
<b><i>type</i></b>	(任意) プライベート VLAN タイプです。	

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.1(12c)EW	拡張 VLAN アドレスのサポートが追加されました。



例 次に、管理ドメイン内のすべての VLAN に関する VLAN パラメータを表示する例を示します。

```
Switch# show vlan
VLAN Name                Status    Ports
-----
1    default                 active    Fa5/9
2    VLAN0002                active    Fa5/9
3    VLAN0003                active    Fa5/9
4    VLAN0004                active    Fa5/9
5    VLAN0005                active    Fa5/9
6    VLAN0006                active    Fa5/9
10   VLAN0010                active    Fa5/9
20   VLAN0020                active    Fa5/9
```

(テキスト出力は省略)

```
850  VLAN0850                active    Fa5/9
917  VLAN0917                active    Fa5/9
999  VLAN0999                active    Fa5/9
1002 fddi-default            active    Fa5/9
1003 trcrf-default          active    Fa5/9
1004 fddinet-default        active    Fa5/9
1005 trbrf-default         active    Fa5/9
```

```
VLAN Type  SAID      MTU   Parent  RingNo BridgeNo Stp   BrdgMode Trans1 Trans2
-----
1    enet    100001    1500  -       -       -     -       0       0
2    enet    100002    1500  -       -       -     -       0       0
3    enet    100003    1500  -       -       -     -       303     0
4    enet    100004    1500  -       -       -     -       304     0
5    enet    100005    1500  -       -       -     -       305     0
6    enet    100006    1500  -       -       -     -       0       0
10   enet    100010    1500  -       -       -     -       0       0
20   enet    100020    1500  -       -       -     -       0       0
50   enet    100050    1500  -       -       -     -       0       0
```

(テキスト出力は省略)

```
850  enet    100850    1500  -       -       -     -       0       0
917  enet    100917    1500  -       -       -     -       0       0
999  enet    100999    1500  -       -       -     -       0       0
1002 fddi    101002    1500  -       0       -     -       0       0
1003 trcrf  101003    4472  1005   3276   -     -       srb     0       0
1004 fdnet  101004    1500  -       -       -     -       ieee   0       0
1005 trbrf  101005    4472  -       -       15    -       ibm    0       0
```

```
VLAN AREHops STEHops Backup CRF
-----
802  0         0         off
1003 7         7         off
Switch#
```

次に、VLAN 名、ステータス、および対応付けられたポートのみを表示する例を示します。

```
Switch# show vlan brief
VLAN Name                                Status   Ports
-----
1    default                                active  Fa5/9
2    VLAN0002                                active  Fa5/9
3    VLAN0003                                active  Fa5/9
4    VLAN0004                                active  Fa5/9
5    VLAN0005                                active  Fa5/9
10   VLAN0010                                active  Fa5/9
.
.
.
999  VLAN0999                                active  Fa5/9
1002 fddi-default                            active  Fa5/9
1003 trcrf-default                          active  Fa5/9
1004 fddinet-default                        active  Fa5/9
1005 trbrf-default                          active  Fa5/9
Switch#
```

次に、VLAN 3 の VLAN パラメータのみを表示する例を示します。

```
Switch# show vlan id 3

VLAN Name                                Status   Ports
-----
3    VLAN0003                                active  Fa5/9

VLAN Type  SAID      MTU   Parent  RingNo BridgeNo Stp   BrdgMode Trans1 Trans2
-----
3    enet    100003   1500   -       -       -       -       -       303    0
Switch#
```

表 2-25 に、show vlan コマンド出力に含まれるフィールドの説明を示します。

表 2-25 show vlan コマンドの出力フィールド

フィールド	説明
VLAN	VLAN 番号
Name	VLAN の名前 (設定されている場合)
Status	VLAN のステータス (active または suspend)
Ports	VLAN に属するポート
Type	VLAN のメディア タイプ
SAID	VLAN の Security Association Identifier (SAID) 値
MTU	VLAN の最大伝送ユニット (Maximum Transmission Unit; MTU) サイズ
Parent	親 VLAN (存在する場合)
RingNo	VLAN のリング番号 (該当する場合)
BrdgNo	VLAN のブリッジ番号 (該当する場合)
Stp	VLAN で使用される Spanning-Tree Protocol (STP; スパニングツリープロトコル) タイプ

次に、プライマリ VLAN とセカンダリ VLAN が相互に正しく関連付けられており、PVLAN ポートでも同じ関連付けが存在することを確認する例を示します。

```
Switch# show vlan private-vlan
```

```
Primary Secondary Type          Ports
-----
-----
-----
10          100          community    Fa3/1, Fa3/2
```

ここで、次のように VLAN の関連付けを削除します。

```
Switch(config)# vlan 10
Switch(config-vlan)# private-vlan association remove 100
Switch(config-vlan)# end
Switch# show vlan private
```

```
Primary Secondary Type          Ports
-----
-----
-----
10          primary
          100          community
```

次のコマンドを使用すると、インターフェイス上の PVLAN 設定を確認できます。

```
Switch# show interface f3/2 status
Port      Name          Status      Vlan      Duplex  Speed Type
Fa3/2     pvlan seco   connected   pvlan seco a-full  a-100  10/100BaseTX

Switch# show interface f3/1 status
Port      Name          Status      Vlan      Duplex  Speed Type
Fa3/1     pvlan prom   connected   pvlan prom a-full  a-100  10/100BaseTX
Switch#
```

## 関連コマンド

[vlan database](#)

[vlan \(VLAN データベース モード\)](#)

[vtp \(グローバル コンフィギュレーション モード\)](#)

## show vlan access-map

VLAN (仮想 LAN) アクセス マップの内容を表示するには、**show vlan access-map** コマンドを使用します。

```
show vlan access-map [map-name]
```

シンタックスの説明	<i>map-name</i> (任意) VLAN アクセス マップの名前です。				
デフォルト	このコマンドにデフォルト設定はありません。				
コマンド モード	特権 EXEC モード				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12.1(12c)EW</td> <td>このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
リリース	変更内容				
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。				
例	次に、VLAN アクセス マップの内容を表示する例を示します。 <pre>Switch# show vlan access-map mordred Vlan access-map "mordred" 1     match: ip address 13     action: forward capture Switch#</pre>				
関連コマンド	<a href="#">vlan access-map</a>				

# show vlan counters

ソフトウェアキャッシュ カウンタ値を表示するには、**show vlan counters** コマンドを使用します。

```
show vlan [id vlanid] counters
```

シンタックスの説明	<b>id <i>vlanid</i></b> (任意) 特定の VLAN (仮想 LAN) のソフトウェアキャッシュ カウンタ値を表示します。
-----------	--

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** VLAN ID を指定しないで **show vlan counters** コマンドを入力した場合は、すべての VLAN のソフトウェアキャッシュ カウンタ値が表示されます。

**例** 次に、特定の VLAN のソフトウェアキャッシュ カウンタ値を表示する例を示します。

```
Switch# show vlan counters
* Multicast counters include broadcast packets

Vlan Id                : 1
L2 Unicast Packets     : 0
L2 Unicast Octets      : 0
L3 Input Unicast Packets : 0
L3 Input Unicast Octets : 0
L3 Output Unicast Packets : 0
L3 Output Unicast Octets : 0
L3 Output Multicast Packets : 0
L3 Output Multicast Octets : 0
L3 Input Multicast Packets : 0
L3 Input Multicast Octets : 0
L2 Multicast Packets   : 1
L2 Multicast Octets    : 94
Switch>
```

**関連コマンド** [clear vlan counters](#)

## show vlan dot1q tag native

ネイティブ VLAN (仮想 LAN) タギングに適格なスイッチ上のすべてのポートと、それらの現在のネイティブ VLAN タギング ステータスを表示するには、**show vlan dot1q tag native** コマンドを使用します。

**show vlan dot1q tag native**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**コマンド モード** ユーザ EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、**show vlan dot1q tag native** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show vlan dot1q tag native
dot1q native vlan tagging is disabled globally

Per Port Native Vlan Tagging State
-----

Port      Operational      Native VLAN
          Mode             Tagging State
-----
f3/2      trunk            enabled
f3/16    PVLAN trunk      disabled
f3/16    trunk            enabled
```

**関連コマンド** [switchport mode](#)  
**vlan** (グローバル コンフィギュレーション) (Cisco IOS のマニュアルを参照)  
**vlan** (VLAN コンフィギュレーション) (Cisco IOS のマニュアルを参照)

## show vlan internal usage

内部 VLAN（仮想 LAN）の割り当てに関する情報を表示するには、**show vlan internal usage** コマンドを使用します。

```
show vlan [id vlan-id] internal usage
```

シンタックスの説明	<b>id vlan-id</b> (任意) 指定された VLAN の内部 VLAN 割り当て情報を表示します。有効値は 1 ~ 4,094 です。
-----------	--

デフォルト	このコマンドにデフォルト設定はありません。
-------	-----------------------

コマンドモード	特権 EXEC モード
---------	-------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

例	次に、現在の内部 VLAN 割り当てに関する情報を表示する例を示します。
---	--------------------------------------

```
Switch# show vlan internal usage
```

```
VLAN Usage
-----
1025 -
1026 -
1027 -
1028 -
1029 Port-channel6
1030 GigabitEthernet1/2
1032 FastEthernet3/20
1033 FastEthernet3/21
1129 -
```

次に、特定の VLAN の内部 VLAN 割り当てに関する情報を表示する例を示します。

```
Switch# show vlan id 1030 internal usage
```

```
VLAN Usage
-----
1030 GigabitEthernet1/2
```

関連コマンド	<a href="#">vlan internal allocation policy</a>
--------	---

## show vlan mtu

各 VLAN（仮想 LAN）の最小伝送ユニットおよび最大伝送ユニット（Maximum Transmission Unit; MTU）を表示するには、**show vlan mtu** コマンドを使用します。

**show vlan mtu**

**シンタックスの説明** このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** コマンド出力の [MTU\_Mismatch] カラムは、VLAN のすべてのポートで MTU が同じかどうかを示します。[MTU\_Mismatch] カラムに [Yes] が表示された場合は、VLAN に異なる MTU を持つポートが存在し、MTU が大きなポートから MTU が小さなポートにスイッチングされたパケットが廃棄されることがあります。この VLAN に Switch Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス) が存在しない場合は、[SVI\_MTU] カラムにハイフン (-) 記号が表示されます。

特定の VLAN の [MTU-Mismatch] カラムに [Yes] が表示された場合は、MinMTU のポートおよび MaxMTU のポート名が表示されます。特定の VLAN の [SVI\_MTU] が MinMTU よりも大きい場合は、[SVI\_MTU] のあとに [TooBig] が表示されます。

**例** 次に、**show vlan mtu** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show vlan mtu

VLAN      SVI_MTU      MinMTU(port)  MaxMTU(port)  MTU_Mismatch
-----
1         1500         1500          1500          No
Switch>
```

**関連コマンド** [mtu](#)



## show vlan private-vlan

Private VLAN (PVLAN; プライベート VLAN) 情報を表示するには、**show vlan private-vlan** コマンドを使用します。

```
show vlan private-vlan [type]
```

### シンタックスの説明

<b>type</b>	(任意) PVLAN のタイプを表示します。有効なタイプは <code>isolated</code> 、 <code>primary</code> 、 <code>community</code> 、 <code>nonoperational</code> 、および <code>normal</code> です。
-------------	--

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

特権 EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.2(20)EW	コミュニティ VLAN のサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**show vlan private-vlan type** コマンドの出力に、VLAN タイプとして `normal` が表示された場合、PVLAN には通常の VLAN (仮想 LAN) 設定が使用されていることとなります。`normal` が表示された場合は、タイプ設定前にすでに 2 つの VLAN が対応付けられており、PVLAN は動作していないことを示します。この情報は、デバッグ時に役立ちます。

### 例

次に、現在設定されているすべての PVLAN 情報を表示する例を示します。

```
Switch# show vlan private-vlan

Primary Secondary Type          Ports
-----
2         301      community   Fa5/3, Fa5/25
2         302      community
2         10       community
100      101      isolated
150      151      non-operational
          202      community
          303      community
401      402      non-operational
Switch#
```



(注) Primary 値の空白は対応するタイプが存在しないことを意味します。

## ■ show vlan private-vlan

次に、現在設定されているすべての PVLAN タイプ情報を表示する例を示します。

```
Switch# show vlan private-vlan type
```

```
Vlan Type
-----
202 primary
303 community
304 community
305 community
306 community
307 community
308 normal
309 community
440 isolated
Switch#
```

表 2-26 に、`show vlan private-vlan` コマンド出力に含まれるフィールドの説明を示します。

表 2-26 show vlan private-vlan コマンドの出力フィールド

フィールド	説明
Primary	プライマリ VLAN の番号です。
Secondary	セカンダリ VLAN の番号です。
Secondary-Type	セカンダリ VLAN タイプは <b>isolated</b> または <b>community</b> です。
Ports	VLAN 内のポートを指定します。
Type	VLAN のタイプです。表示される値は、 <b>primary</b> 、 <b>isolated</b> 、 <b>community</b> 、 <b>nonoperational</b> 、または <b>normal</b> です。

#### 関連コマンド

[access-list hardware entries](#)  
[private-vlan mapping](#)

# show vlan remote-span

Remote SPAN (RSPAN) VLAN (仮想 LAN) のリストを表示するには、**show vlan remote-span** コマンドを使用します。

**show vlan remote-span**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、RSPAN VLAN のリストを表示する例を示します。

```
Router# show vlan remote-span
Remote SPAN VLANs
-----
2,20
```

**関連コマンド**

- [remote-span](#)
- [vlan \(VLAN データベース モード\)](#)

## show vmps

VLAN Query Protocol (VQP) バージョン、再確認インターバル、再試行回数、VLAN Membership Policy Server (VMPS; VLAN メンバシップ ポリシー サーバ) の IP アドレス、現在のサーバ、およびプライマリ サーバを表示するには、**show vmps** コマンドを使用します。

```
show vmps [statistics]
```

### シンタックスの説明

<b>statistics</b>	(任意) クライアント側の統計情報を表示します。
-------------------	--------------------------

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

### 例

次に、**show vmps** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show vmps
VQP Client Status:
-----
VMPS VQP Version: 1
Reconfirm Interval: 60 min
Server Retry Count: 3
VMPS domain server: 172.20.50.120 (primary, current)

Reconfirmation status
-----
VMPS Action:          No Dynamic Port
Switch#
```

次に、**show vmps statistics** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show vmps statistics
VMPS Client Statistics
-----
VQP Queries:          0
VQP Responses:        0
VMPS Changes:         0
VQP Shutdowns:       0
VQP Denied:           0
VQP Wrong Domain:    0
VQP Wrong Version:   0
VQP Insufficient Resource: 0
Switch#
```

### 関連コマンド

[vmps reconfirm](#) (特権 EXEC)

# show vtp

VLAN Trunk Protocol (VTP; VLAN トランク プロトコル) 統計情報およびドメイン情報を表示するには、**show vtp** コマンドを使用します。

```
show vtp {counters | status}
```

## シンタックスの説明

<b>counters</b>	VTP の統計情報を指定します。
<b>status</b>	VTP ドメイン ステータスを指定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 例

次に、VTP の統計情報を表示する例を示します。

```
Switch# show vtp counters
VTP statistics:
Summary advertisements received      : 1
Subset advertisements received      : 1
Request advertisements received     : 0
Summary advertisements transmitted  : 31
Subset advertisements transmitted   : 1
Request advertisements transmitted  : 0
Number of config revision errors    : 0
Number of config digest errors     : 0
Number of V1 summary errors        : 0

VTP pruning statistics:

Trunk          Join Transmitted Join Received   Summary advts received from
-----          -----          -----          -----
Fa5/9          1555          1564          0
Switch#
```

次に、VTP ドメイン ステータスを表示する例を示します。

```
Switch# show vtp status
VTP Version          : 2
Configuration Revision : 250
Maximum VLANs supported locally : 1005
Number of existing VLANs : 33
VTP Operating Mode   : Server
VTP Domain Name     : Lab_Network
VTP Pruning Mode    : Enabled
VTP V2 Mode         : Enabled
VTP Traps Generation : Disabled
MD5 digest          : 0xE6 0xF8 0x3E 0xDD 0xA4 0xF5 0xC2 0x0E
Configuration last modified by 172.20.52.18 at 9-22-99 11:18:20
Local updater ID is 172.20.52.18 on interface Vl1 (lowest numbered VLAN interface found)
Switch#
```

次に、**show vtp** コマンド出力内に、**Summary** という語を含む行のみを表示する例を示します。

```
Switch# show vtp counters | include Summary
Summary advertisements received      : 1
Summary advertisements transmitted : 32
Trunk                               Join Transmitted Join Received   Summary advts received from
Switch#
```

表 2-27 に、**show vtp** コマンド出力に含まれるフィールドの説明を示します。

表 2-27 show vtp コマンドの出力フィールド

フィールド	説明
Summary advertisements received	受信されたサマリー アドバタイズの総数
Subset advertisements received	受信されたサブセット アドバタイズの総数
Request advertisements received	受信された要求アドバタイズの総数
Summary advertisements transmitted	送信されたサマリー アドバタイズの総数
Subset advertisements transmitted	送信されたサブセット アドバタイズの総数
Request advertisements transmitted	送信された要求アドバタイズの総数
Number of config revision errors	コンフィギュレーション リビジョン エラーの数
Number of config digest errors	コンフィギュレーション ダイジェスト エラーの数
Number of V1 summary errors	V1 サマリー エラーの数
Trunk	VTP プルーニングに参加するトランク ポート
Join Transmitted	送信された VTP プルーニング join の数
Join Received	受信された VTP プルーニング join の数
Summary advts received from non-pruning-capable device	非プルーニング対応装置から受信されたサマリー アドバタイズの数
Number of existing VLANs	ドメイン内の VLAN (仮想 LAN) の総数
Configuration Revision	VLAN 情報を交換するために使用される VTP リビジョン番号
Maximum VLANs supported locally	装置で許可されている VLAN の最大数
Number of existing VLANs	既存の VLAN 数
VTP Operating Mode	VTP がイネーブルであるか、またはディセーブルであるか
VTP Domain Name	VTP ドメイン名
VTP Pruning Mode	VTP プルーニングがイネーブルであるか、またはディセーブルであるか
VTP V2 Mode	VTP V2 モード (server、client、または transparent)
VTP Traps Generation	VTP トラップ生成モードがイネーブルであるか、またはディセーブルであるか
MD5 digest	チェックサム値

#### 関連コマンド

**vtp** (グローバル コンフィギュレーション モード)

**vtp client**

**vtp domain**

**vtp password**

**vtp pruning**

**vtp server**

**vtp transparent**

**vtp v2-mode**

# snmp ifindex clear

特定のインターフェイスに対して入力されて以前に設定された **snmp ifindex** コマンドをクリアするには、**snmp ifindex clear** コマンドを使用します。

**snmp ifindex clear**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** インターフェイス インデックスの持続性は、Interface MIB (IF-MIB) の ifIndex 値が再起動後も維持され、SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) を使用して特定のインターフェイスを矛盾なく識別できる場合に確立されます。

ifIndex 持続性に関するグローバル コンフィギュレーション設定をインターフェイスに使用する場合は、特定のインターフェイスで **snmp ifindex clear** コマンドを使用します。このコマンドは、その特定のインターフェイスに対して以前に入力された ifIndex コンフィギュレーション コマンドをクリアします。

**例** 次に、すべてのインターフェイスの ifIndex 持続性をイネーブルにする例を示します。

```
Router(config)# snmp-server ifindex persist
```

次に、fastethernet 1/1 だけの ifIndex 持続性をディセーブルにする例を示します。

```
Router(config)# interface fastethernet 1/1
Router(config-if)# no snmp ifindex persist
Router(config-if)# exit
```

次に、fastethernet 1/1 設定から ifIndex 設定をクリアする例を示します。

```
Router(config)# interface fastethernet 1/1
Router(config-if)# snmp ifindex clear
Router(config-if)# exit
```

この一連のコマンドの結果として、ifIndex の持続性は **snmp-server ifindex persist** グローバル コンフィギュレーション コマンドによって指定されたすべてのインターフェイスに対してイネーブルになります。

**関連コマンド** [snmp ifindex persist](#)  
[snmp-server ifindex persist](#)

# snmp ifindex persist

特定のインターフェイスで再起動後も維持される Interface MIB (IF-MIB) の ifIndex 値 (ifIndex 持続性) をイネーブルにするには、**snmp ifindex persist** コマンドを使用します。特定のインターフェイス上で ifIndex の持続性をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**snmp ifindex persist**

**no snmp ifindex persist**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** ディセーブルです。

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** インターフェイス インデックスの持続性は、IF-MIB の ifIndex 値が再起動後も維持され、SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) を使用して特定のインターフェイスを矛盾なく識別できる場合に確立されます。

**snmp ifindex persist** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは、IF-MIB の ifIndex テーブルの個々のエントリ (個々のインターフェイスに相応) ごとに ifIndex 持続性をイネーブルまたはディセーブルにします。

**snmp-server ifindex persist** グローバル コンフィギュレーション コマンドは、ルーティング装置のすべてのインターフェイスに対して ifIndex 持続性をイネーブルまたはディセーブルにします。このアクションは、IF-MIB の ifIndex テーブルに ifDescr エントリおよび ifIndex エントリを持つインターフェイスにのみ適用されます。

**例** 次に、インターフェイス fastethernet 1/1 だけの ifIndex 持続性をイネーブルにする例を示します。

```
Router(config)# interface fastethernet 1/1
Router(config-if)# snmp ifindex persist
Router(config-if)# exit
```

次に、すべてのインターフェイスの ifIndex 持続性をイネーブルにし、その後、インターフェイス fastethernet 1/1 だけの ifIndex 持続性をディセーブルにする例を示します。

```
Router(config)# snmp-server ifindex persist
Router(config)# interface fastethernet 1/1
Router(config-if)# no snmp ifindex persist
Router(config-if)# exit
```

**関連コマンド** [snmp ifindex clear](#)  
[snmp-server ifindex persist](#)



## snmp-server enable traps

SNMP（簡易ネットワーク管理プロトコル）通知（トラップまたはインフォーム）をイネーブルにするには、**snmp-server enable traps** コマンドを使用します。すべての SNMP 通知をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server enable traps [flash [insertion | removal] | fru-ctrl | port-security [trap-rate trap-rate] |
removal | stpx | vlancreate | vlandelete | vtp] [mac-notification [change | move | threshold]
```

```
no snmp-server enable traps [flash [insertion | removal] | fru-ctrl | port-security [trap-rate trap-rate]
| removal | stpx | vlancreate | vlandelete | vtp] [mac-notification]
```

### シンタックスの説明

<b>flash</b>	(任意) SNMP フラッシュ トラップ通知を制御します。
<b>insertion</b>	(任意) SNMP フラッシュ追加トラップ通知を制御します。
<b>removal</b>	(任意) SNMP フラッシュ削除トラップ通知を制御します。
<b>fru-ctrl</b>	(任意) SNMP エンティティ Field-Replaceable Unit (FRU; 現場交換可能ユニット) 制御トラップ通知を制御します。
<b>port-security</b>	(任意) SNMP トラップ生成を制御します。
<b>trap-rate trap-rate</b>	(任意) 1 秒間のトラップ数を設定します。
<b>stpx</b>	(任意) CISCO-STP-EXTENSIONS-MIB 通知で定義されたすべてのトラップを制御します。
<b>vlancreate</b>	(任意) SNMP VLAN (仮想 LAN) によって作成されたトラップ通知を制御します。
<b>vlandelete</b>	(任意) SNMP VLAN によって削除されたトラップ通知を制御します。
<b>vtp</b>	(任意) SNMP VLAN Trunk Protocol (VTP; VLAN トランク プロトコル) トラップ通知を制御します。
<b>mac-notification</b>	(任意) SNMP MAC (メディアアクセス制御) トラップ通知を制御します。
<b>change</b>	(任意) SNMP MAC 変更トラップ通知を制御します。
<b>move</b>	(任意) SNMP MAC 移動トラップ通知を制御します。
<b>threshold</b>	(任意) SNMP MAC しきい値トラップ通知を制御します。

### デフォルト

SNMP 通知はディセーブルです。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(31)SG	MAC 通知のサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

オプションを指定しないでこのコマンドを入力すると、このコマンドで制御されたすべての通知タイプがイネーブルになります。

SNMP 通知は、トラップまたはインフォーム要求として送信できます。このコマンドを使用すると、指定された通知タイプのトラップ要求およびインフォーム要求が両方ともイネーブルになります。通知をトラップまたはインフォームのどちらで送信するかを指定するには、**snmp-server host [traps | informs]** コマンドを使用します。

**snmp-server enable traps** コマンドは、**snmp-server host** コマンドと組み合わせて使用します。SNMP 通知を受信するホストを指定するには、**snmp-server host** コマンドを使用します。通知を送信するには、少なくとも 1 つの **snmp-server host** コマンドを設定する必要があります。

次に、トラップに使用される MIB（管理情報ベース）のリストを示します。

- **flash** — CISCO-FLASH-MIB からの SNMP FLASH トラップを制御します。
  - **insertion** — SNMP フラッシュ追加トラップ通知を制御します。
  - **removal** — SNMP フラッシュ削除トラップ通知を制御します。
- **fru-ctrl** — CISCO-ENTITY-FRU-CONTROL-MIB からの FRU 制御トラップを制御します。
- **port-security** — CISCO-PORT-SECURITY-MIB からのポートセキュリティトラップを制御します。
- **stpx** — CISCO-STP-EXTENSIONS-MIB からのすべてのトラップを制御します。
- **vlancreate** — SNMP VLAN（仮想 LAN）によって作成されたトラップ通知を制御します。
- **vlandelete** — SNMP VLAN によって削除されたトラップ通知を制御します。
- **vtp** — CISCO-VTP-MIB からの VTP トラップを制御します。

## 例

次に、パブリックとして定義されたコミュニティ スtring を使用して、すべてのトラップをホスト myhost.cisco.com に送信する例を示します。

```
Switch(config)# snmp-server enable traps
Switch(config)# snmp-server host myhost.cisco.com public
Switch(config)#
```

次に、MAC アドレス変更 MIB 通知をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# snmp-server enable traps mac-notification change
Switch(config)#
```

SNMP トラップをイネーブルにしてレート制限を適用すると、制限モードでのポートセキュリティ違反を検出できます。次に、ポートセキュリティのトラップをイネーブルにし、1 秒あたりのトラップ数を 5 に設定する例を示します。

```
Switch(config)# snmp-server enable traps port-security trap-rate 5
Switch(config)#
```

## 関連コマンド

**clear mac-address-table**  
**mac-address-table notification**  
**show mac-address-table notification**  
**snmp-server enable traps**  
**snmp trap mac-notification change**

**snmp-server enable traps** コマンドの詳細については、Cisco IOS のマニュアルを参照してください。

# snmp-server ifindex persist

SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) が使用できるように再起動後も一定のままとなる ifIndex 値をイネーブルにするには、**snmp-server ifindex persist** コマンドを使用します。ifIndex 持続性をグローバルにディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**snmp-server ifindex persist**

**no snmp-server ifindex persist**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** ディセーブルです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** インターフェイス インデックスの持続性は、IF-MIB の ifIndex 値が再起動後も維持され、SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) を使用して特定のインターフェイスを矛盾なく識別できる場合に確立されます。

**snmp-server ifindex persist** グローバル コンフィギュレーション コマンドはインターフェイス固有の設定を上書きしません。ifIndex 持続性のインターフェイス固有の設定を上書きするには、**no snmp ifindex persist** および **snmp ifindex clear** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力します。

**no snmp-server ifindex persist** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力すると、IF-MIB の ifIndex テーブルの ifDescr エントリおよび ifIndex エントリを使用しているルーティング装置のすべてのインターフェイスに対して ifIndex 持続性をイネーブルまたはディセーブルにできます。

**例** 次に、すべてのインターフェイスの ifIndex 持続性をイネーブルにする例を示します。

```
Router (config)# snmp-server ifindex persist
```

**関連コマンド** **snmp ifindex clear**  
**snmp ifindex persist**

# snmp-server ifindex persist compress

圧縮形式で ifIndex テーブルの形式を設定するには、**snmp-server ifindex persist compress** コマンドを使用します。テーブルを圧縮解除形式にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**snmp-server ifindex persist compress**

**no snmp-server ifindex persist compress**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** デイセーブルです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(40)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは Supervisor Engine V とそれ以降のスーパーバイザ エンジンでは非表示です。それらのスーパーバイザ エンジンでは、ifIndex テーブルが常に圧縮形式のためです。

起動時に、nvram:ifIndex-table.gz ファイル（圧縮形式の ifIndex テーブル）が Supervisor Engine II+、Supervisor Engine III、または Supervisor Engine IV に存在する場合は、startup-config ファイルに設定されていない場合でも、**snmp-server ifindex persist compress** コマンドが自動的に実行されます。

**例** 次に、ifIndex テーブルの圧縮をイネーブルにする例を示します。

```
Router(config)# snmp-server ifindex persist compress
```

次に、ifIndex テーブルの圧縮をデイセーブルにする例を示します。

```
Router(config)# no snmp-server ifindex persist compress
```

**関連コマンド**

- [snmp ifindex clear](#)
- [snmp ifindex persist](#)
- [snmp-server ifindex persist](#)

# snmp trap mac-notification change

SNMP MAC (メディア アクセス制御) アドレス通知をイネーブルにするには、**snmp trap mac-notification** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp trap mac-notification change {added | removed}
```

```
no snmp trap mac-notification change {added | removed}
```

## シンタックスの説明

<b>added</b>	MAC アドレスがインターフェイスに追加されるたびに、MAC アドレス通知トラップの生成をイネーブルにします。
<b>removed</b>	MAC アドレスがインターフェイスから削除されるたびに、MAC アドレス通知トラップの生成をイネーブルにします。

## デフォルト

MAC アドレスの追加および削除通知はディセーブルです。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(31)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

**snmp trap mac-notification change** コマンドを使用して、特定のインターフェイスに対する変更通知トラップをイネーブルにした場合でも、**snmp-server enable traps mac-notification change** および **mac address-table notification change** グローバル コンフィギュレーション コマンドをイネーブルにしないかぎり、トラップは生成されません。

## 例

次の例は、MAC アドレスをポートに追加した場合の MAC 通知トラップをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# snmp trap mac-notification change added
```

**show mac address-table notification change interface** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定内容を確認できます。

## 関連コマンド

[clear mac-address-table](#)  
[mac-address-table notification](#)  
[show mac-address-table notification](#)  
[snmp-server enable traps](#)

**snmp-server enable traps** コマンドの詳細については、Cisco IOS のマニュアルを参照してください。

# spanning-tree backbonefast

スパニングツリー VLAN（仮想 LAN）上で BackboneFast をイネーブルにするには、**spanning-tree backbonefast** コマンドを使用します。BackboneFast をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**spanning-tree backbonefast**

**no spanning-tree backbonefast**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** BackboneFast はディセーブルです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。 .

**使用上のガイドライン** 間接リンク障害を検出できるようにするには、すべての Catalyst 4506 シリーズ スイッチ上で BackboneFast をイネーブルにする必要があります。BackboneFast をイネーブルにすると、スパニングツリーの再設定がより短時間で開始されます。

**例** 次に、すべての VLAN で BackboneFast をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree backbonefast
Switch(config)#
```

**関連コマンド**

- [spanning-tree cost](#)
- [spanning-tree port-priority](#)
- [spanning-tree portfast default](#)
- [spanning-tree portfast](#) (インターフェイス コンフィギュレーション モード)
- [spanning-tree uplinkfast](#)
- [spanning-tree vlan](#)
- [show spanning-tree](#)

# spanning-tree bpdudfilter

インターフェイス上で Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジプロトコルデータユニット) フィルタリングをイネーブルにするには、**spanning-tree bpdudfilter** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**spanning-tree bpdudfilter {enable | disable}**

**no spanning-tree bpdudfilter**

シンタックスの説明	enable	disable
	現在のインターフェイス上で BPDU フィルタリングをイネーブルにします。	現在のインターフェイス上で BPDU フィルタリングをディセーブルにします。

**デフォルト**      ディセーブルです。

**コマンドモード**      インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン



### 注意

**spanning-tree bpdudfilter enable** コマンドを入力する場合は、慎重に行ってください。インターフェイス上で BPDU フィルタリングをイネーブルにすることは、このインターフェイスのスパニングツリーをディセーブルにすることとほぼ同じです。このコマンドを正しく使用しないと、ブリッジグループが発生することがあります。

すべてのサービスプロバイダーエッジスイッチにレイヤ2プロトコルトンネリングを設定する場合は、**spanning-tree bpdudfilter enable** コマンドを入力して、802.1Q トンネルポート上でスパニングツリー BPDU フィルタリングをイネーブルにする必要があります。

BPDU フィルタリングを使用すると、ポートでの BPDU の送受信を禁止できます。この設定は、トランッキング インターフェイスであるかどうかに関係なく、インターフェイス全体に適用できます。このコマンドには、3つの状態があります。

- **spanning-tree bpdudfilter enable** — この状態の場合は、インターフェイス上で BPDU フィルタ機能が無条件にイネーブルになります。
- **spanning-tree bpdudfilter disable** — この状態の場合は、インターフェイス上で BPDU フィルタ機能が無条件にディセーブルになります。
- **no spanning-tree bpdudfilter** — この状態の場合は、インターフェイスが動作上の PortFast ステータのとき、および **spanning-tree portfast bpdudfilter default** コマンドが設定されているときに、インターフェイス上で BPDU フィルタ機能がイネーブルになります。

**例**      次に、現在のインターフェイス上で BPDU フィルタ機能をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# spanning-tree bpdudfilter enable
Switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

[show spanning-tree](#)  
[spanning-tree portfast bpduguard default](#)

## spanning-tree bpduguard

インターフェイス上で Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジプロトコルデータユニット) ガードをイネーブルにするには、**spanning-tree bpduguard** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
spanning-tree bpduguard {enable | disable}
no spanning-tree bpduguard
```

## シンタックスの説明

<b>enable</b>	現在のインターフェイス上で BPDU ガードをイネーブルにします。
<b>disable</b>	現在のインターフェイス上で BPDU ガードをディセーブルにします。

## デフォルト

BPDU ガードはディセーブルです。

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

BPDU ガードは、ポートでの BPDU の受信を禁止する機能です。通常、この機能はサービス プロバイダー環境で使用されます。管理者はこの機能を使用して、アクセス ポートがスパニングツリーに参加しないようにできます。この機能を使用してもポートが BPDU を受信する場合は、その対策として、ポートはエラー ディセーブルステートになります。このコマンドには、3 つの状態があります。

- **spanning-tree bpduguard enable** — この状態の場合は、インターフェイス上で BPDU ガードが無条件にイネーブルになります。
- **spanning-tree bpduguard disable** — この状態の場合は、インターフェイス上で BPDU ガードが無条件にディセーブルになります。
- **no spanning-tree bpduguard** — この状態の場合は、インターフェイスが動作上の PortFast ステータスのとき、および [spanning-tree portfast bpduguard default](#) コマンドが設定されているときに、インターフェイス上で BPDU ガードがイネーブルになります。

## 例

次に、現在のインターフェイス上で BPDU ガードをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# spanning-tree bpduguard enable
Switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

[show spanning-tree](#)  
[spanning-tree portfast bpduguard default](#)



# spanning-tree cost

インターフェイスでの Spanning-Tree Protocol (STP; スパニングツリー プロトコル) のパス コストを計算するには、**spanning-tree cost** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
spanning-tree cost cost
```

```
no spanning-tree cost cost
```

## シンタックスの説明

<i>cost</i>	パス コストです。有効値は 1 ~ 200,000,000 です。
-------------	-----------------------------------

## デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- FastEthernet — 19
- GigabitEthernet — 1

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

コストを設定する場合は、値が大きいほどコストが高くなります。指定されたプロトコルタイプに関係なく、範囲が適用されます。パス コストは、インターフェイスの帯域幅に基づいて計算されず。

## 例

次に、インターフェイスにアクセスし、このインターフェイスに対応付けられたスパニングツリー VLAN (仮想 LAN) にパス コスト値 250 を設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet 2/1
Switch(config-if)# spanning-tree cost 250
Switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

[spanning-tree port-priority](#)  
[spanning-tree portfast default](#)  
[spanning-tree portfast](#) (インターフェイス コンフィギュレーション モード)  
[spanning-tree uplinkfast](#)  
[spanning-tree vlan](#)  
[show spanning-tree](#)

# spanning-tree etherchannel guard misconfig

チャンネルの設定ミスによるループが検出された場合に、エラー メッセージを表示するには、**spanning-tree etherchannel guard misconfig** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**spanning-tree etherchannel guard misconfig**

**no spanning-tree etherchannel guard misconfig**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** スパニングツリー EtherChannel ガードはイネーブルです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** EtherChannel ガードの設定ミスが検出されると、次のメッセージが表示されます。

```
%SPANTRREE-2-CHNL_MISCFG:Detected loop due to etherchannel misconfig of interface
Port-Channel1
```

設定ミスに関連するローカル ポートを判別するには、**show interfaces status err-disabled** コマンドを入力します。リモート装置の EtherChannel 設定を調べるには、リモート装置上で **show etherchannel summary** コマンドを入力します。

設定を訂正したら、対応付けられたポート チャンネル インターフェイス上で **shutdown** および **no shutdown** コマンドを入力します。

**例** 次に、EtherChannel ガードの設定ミス機能をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree etherchannel guard misconfig
Switch(config)#
```

**関連コマンド**

- show etherchannel**
- show interfaces status**
- shutdown** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

# spanning-tree extend system-id

1,024 個の MAC（メディア アクセス制御）アドレスをサポートするシャーシ上で、拡張システム ID 機能をイネーブルにするには、**spanning-tree extend system-id** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**spanning-tree extend system-id**

**no spanning-tree extend system-id**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** 1,024 個の MAC アドレスを提供しないシステム上でイネーブルです。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** Releases 12.1(13)E 以降では、64 個または 1,024 個の MAC アドレスを持つシャーシをサポートします。64 個の MAC アドレスを持つシャーシの場合、Spanning-Tree Protocol（STP; スパニングツリー プロトコル）は拡張システム ID と MAC アドレスを使用して、VLAN（仮想 LAN）ごとに一意のブリッジ ID を作成します。

64 個の MAC アドレスをサポートするシャーシでは、拡張システム ID をディセーブルにできません。

拡張システム ID をイネーブルまたはディセーブルにすると、すべてのアクティブな STP インスタンスのブリッジ ID が更新されるため、これによってスパニングツリー トポロジーが変更される場合があります。

**例** 次に、拡張システム ID をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree extend system-id  
Switch(config)#
```

**関連コマンド** [show spanning-tree](#)

# spanning-tree guard

ルート ガードをイネーブルにするには、**spanning-tree guard** コマンドを使用します。ルート ガードをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
spanning-tree guard {loop | root | none}
```

```
no spanning-tree guard
```

## シンタックスの説明

<b>loop</b>	インターフェイスでループガードモードをイネーブルにします。
<b>root</b>	インターフェイスでルートガードモードをイネーブルにします。
<b>none</b>	ガードモードをなしに設定します。

## デフォルト

ルート ガードはディセーブルです。

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	ループ ガードのサポートが追加されました。

## 例

次に、ルート ガードをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# spanning-tree guard root
Switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

[show spanning-tree](#)

# spanning-tree link-type

ポートのリンク タイプを設定するには、**spanning-tree link-type** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
spanning-tree link-type {point-to-point | shared}
```

```
no spanning-tree link-type
```

<b>シンタックスの説明</b>	<b>point-to-point</b>	インターフェイスがポイントツーポイントリンクであることを指定します。
	<b>shared</b>	インターフェイスが共有メディアであることを指定します。

**デフォルト** リンク タイプはデュプレックス モードから取得されます。

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** RSTP+ 高速トランジションが機能するのは、2つのブリッジ間のポイントツーポイントリンク上のみです。

デフォルトでは、ポートのリンク タイプはデュプレックス モードから取得されます。つまり、全二重ポートはポイントツーポイントリンクであるとみなされ、半二重コンフィギュレーションは共有リンクであるとみなされます。

ポートを共有リンクに指定した場合は、デュプレックス設定に関係なく、RSTP+ 高速トランジションは禁止されます。

**例** 次に、ポートを共有リンクとして設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# spanning-tree link-type shared  
Switch(config-if)#
```

**関連コマンド** [show spanning-tree interface](#)

# spanning-tree loopguard default

特定のブリッジのすべてのポートで、ループガードをデフォルトでイネーブルにするには、**spanning-tree loopguard default** コマンドを使用します。ループガードをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**spanning-tree loopguard default**

**no spanning-tree loopguard default**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** ループガードはディセーブルです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** ループガードを使用すると、ブリッジネットワークのセキュリティがさらに向上します。また、単一方向リンクの原因となる障害によって代替ポートまたはルートポートが指定ポートとして使用されることがなくなります。

ループガードが動作するのは、スパンニングツリーがポイントツーポイントとみなすポート上のみです。

ループガードポートを個別に設定すると、このグローバルなデフォルト設定が上書きされます。

**例** 次に、ループガードをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree loopguard default
Switch(config)#
```

**関連コマンド** [show spanning-tree](#)  
[spanning-tree guard](#)

## spanning-tree mode

PVST+ と MST モードを切り替えるには、**spanning-tree mode** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
spanning-tree mode {pvst | mst | rapid-pvst}
```

```
no spanning-tree mode {pvst | mst | rapid-pvst}
```

シンタックスの説明	pvst	PVST+ モードを指定します。
	mst	MST モードを指定します。
	rapid-pvst	Rapid PVST モードを指定します。

デフォルト PVST+ モード

コマンドモード コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.1(19)EW	<b>rapid-pvst</b> キーワードのサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン



#### 注意

**spanning-tree mode** コマンドを使用して PVST+ モードと MST モードを切り替える作業は、慎重に行ってください。このコマンドを入力すると、以前のモードのスパニング ツリー インスタンスはすべて停止し、新しいモードで再開されます。このコマンドを使用すると、ユーザ トラフィックが分断されることがあります。

例 次に、MST モードに切り替える例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree mode mst
Switch(config)#
```

次に、デフォルト モード (PVST) に戻す例を示します。

```
Switch(config)# no spanning-tree mode
Switch(config)#
```

関連コマンド [show spanning-tree mst](#)

## spanning-tree mst

任意の MST インスタンス (インスタンス ID が 0 の CIST を含む) のパス コストおよびポートプライオリティ パラメータを設定するには、**spanning-tree mst** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
spanning-tree mst instance-id [cost cost] | [port-priority prio]
```

```
no spanning-tree mst instance-id {cost | port-priority}
```

シンタックスの説明	instance-id	インスタンス ID 番号です。有効値は 0 ~ 15 です。
	cost cost	(任意) インスタンスのパス コストを指定します。有効値は 1 ~ 200,000,000 です。
	port-priority prio	(任意) インスタンスのポート プライオリティを指定します。有効値は 0 ~ 240 です (16 ずつ増分)。

### デフォルト

ポート プライオリティ値は 128 です。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

**cost cost** 値が高いほど、コストは大きくなります。**cost** 値を入力する場合は、エントリにカンマを含めないでください。たとえば、**1,000** ではなく、**1000** と入力します。

**port-priority prio** 値が高いほど、プライオリティは小さくなります。

デフォルトでは、コストはポート速度に依存します。インターフェイスが高速であるほど、コストは小さくなります。MST では常に、long パス コストが使用されます。

### 例

次に、インターフェイスのパス コストを設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# spanning-tree mst 0 cost 17031970
Switch(config-if)#
```

次に、インターフェイスのプライオリティを設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# spanning-tree mst 0 port-priority 64
Switch(config-if)#
```

### 関連コマンド

[show spanning-tree mst](#)  
[spanning-tree port-priority](#)



# spanning-tree mst configuration

MST コンフィギュレーション サブモードを開始するには、**spanning-tree mst configuration** コマンドを使用します。デフォルトの MST コンフィギュレーションに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**spanning-tree mst configuration**

**no spanning-tree mst configuration**

## シンタックスの説明

このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

## デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- MST インスタンスには、VLAN（仮想 LAN）がマッピングされません。
- CIST インスタンスには、すべての VLAN がマッピングされます。
- リージョン名は空のストリングです。
- リビジョン番号は 0 です。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

MST コンフィギュレーションには、3 つの主要パラメータが使用されます。

- インスタンス VLAN マッピング (**instance** コマンドを参照)
- リージョン名 (**name** コマンドを参照)
- コンフィギュレーション リビジョン番号 (**revision** コマンドを参照)

デフォルトでは、MST の設定値がすべてのパラメータのデフォルト値になります。

**abort** および **exit** コマンドを使用すると、MST コンフィギュレーション サブモードを終了できます。2 つのコマンドの違いは、変更内容を保存するかどうかです。

**exit** コマンドは、MST コンフィギュレーション サブモードが終了する前に、すべての変更をコミットします。MST コンフィギュレーション サブモードを終了するときにセカンダリ VLAN を対応付けられたプライマリ VLAN として同じインスタンスにマッピングしないと、メッセージにより、対応付けられたプライマリ VLAN として同じインスタンスにマッピングされていないセカンダリ VLAN のリストが表示されます。メッセージは次のとおりです。

```
These secondary vlans are not mapped to the same instance as their primary:  
->3
```

**abort** コマンドは、変更をコミットしないで、MST コンフィギュレーション サブモードを終了します。

MST コンフィギュレーション サブモード パラメータを変更すると、接続が切断されることがあります。サービスが中断される回数を減らすには、MST コンフィギュレーション サブモードを開始する場合に、現在の MST コンフィギュレーションのコピーを変更します。コンフィギュレーションの編集が終了したら、**exit** キーワードを使用して、すべての変更を一度に適用するか、または **abort** キーワードを使用して、変更をコンフィギュレーションにコミットしないで終了できます。

2名のユーザがまったく同時に新しいコンフィギュレーションを入力することはほとんどありませんが、その場合は次のメッセージが表示されます。

```
Switch(config-mst)# exit
% MST CFG:Configuration change lost because of concurrent access
Switch(config-mst)#
```

---

**例**

次に、MST コンフィギュレーション サブモードを開始する例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree mst configuration
Switch(config-mst)#
```

次に、MST コンフィギュレーションをデフォルト設定に戻す例を示します。

```
Switch(config)# no spanning-tree mst configuration
Switch(config)#
```

---

**関連コマンド**

[instance](#)  
[name](#)  
[revision](#)  
[show spanning-tree mst](#)

# spanning-tree mst forward-time

すべてのインスタンスの転送遅延タイマーを設定するには、**spanning-tree mst forward-time** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**spanning-tree mst forward-time** *seconds*

**no spanning-tree mst forward-time**

シンタックスの説明	<i>seconds</i>	Catalyst 4500 シリーズスイッチのすべてのインスタンスの転送遅延タイマーの設定秒数です。有効値は 4 ~ 30 秒です。
デフォルト		転送遅延時間は 15 秒に設定されています。
コマンドモード		グローバル コンフィギュレーション モード
コマンド履歴	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
例		次に、転送遅延タイマーを設定する例を示します。  Switch(config)# <b>spanning-tree mst forward-time 20</b> Switch(config)#
関連コマンド		<a href="#">show spanning-tree mst</a>

## spanning-tree mst hello-time

すべてのインスタンスの hello タイム遅延タイマーを設定するには、**spanning-tree mst hello-time** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**spanning-tree mst hello-time seconds**

**no spanning-tree mst hello-time**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>seconds</i>	Catalyst 4500 シリーズ スイッチのすべてのインスタンスの hello タイム遅延タイマーの設定秒数です。有効値は 1 ~ 10 秒です。
------------------	----------------	---

**デフォルト** hello タイム遅延タイマーは 2 秒に設定されています。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** *hello-time* 値を指定しない場合、この値はネットワークの直径から計算されます。

**例** 次に、hello タイム遅延タイマーを設定する例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree mst hello-time 3
Switch(config)#
```

**関連コマンド** [show spanning-tree mst](#)

## spanning-tree mst max-age

すべてのインスタンスの最大エージング タイマーを設定するには、**spanning-tree mst max-age** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
spanning-tree mst max-age seconds
```

```
no spanning-tree mst max-age
```

シンタックスの説明	<i>seconds</i>	Catalyst 4500 シリーズスイッチのすべてのインスタンスの最大エージング タイマーの設定秒数です。有効値は 6 ~ 40 秒です。
-----------	----------------	--

**デフォルト** 最大エージング タイマーは 20 秒に設定されています。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**例** 次に、最大エージング タイマーを設定する例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree mst max-age 40  
Switch(config)#
```

**関連コマンド** [show spanning-tree mst](#)

## spanning-tree mst max-hops

Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) が廃棄されるまでのリージョンの最大ホップ数を指定するには、**spanning-tree mst max-hops** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**spanning-tree mst max-hops** *hopnumber*

**no spanning-tree mst max-hops**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>hopnumber</i>	BPDU が廃棄されるまでのリージョンの最大ホップ数です。有効値は 1 ~ 40 ホップです。
------------------	------------------	---

<b>デフォルト</b>	ホップ数は 20 です。
--------------	--------------

<b>コマンド モード</b>	グローバル コンフィギュレーション モード
-----------------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

<b>例</b>	次に、BPDU が廃棄されるまでのリージョン内での最大ホップ数を 25 に設定する例を示します。
----------	--

```
Switch(config)# spanning-tree mst max-hops 25
Switch(config)#
```

<b>関連コマンド</b>	<a href="#">show spanning-tree mst</a>
---------------	--

## spanning-tree mst root

インスタンスのプライマリ ルート、セカンダリ ルート、ブリッジプライオリティ、およびタイマー値を指定するには、**spanning-tree mst root** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
spanning-tree mst instance-id root {primary | secondary} | {priority prio} [diameter dia [hello-time hello]]
```

```
no spanning-tree mst root
```

### シンタックスの説明

<b>instance-id</b>	インスタンス ID 番号です。有効値は 1 ~ 15 です。
<b>root</b>	スイッチをルートスイッチとして設定します。
<b>primary</b>	スパニングツリー インスタンスのブリッジ ルートを作成するために必要なプライオリティ (小さな値) を設定します。
<b>secondary</b>	プライマリ ルートに障害が発生した場合のセカンダリ ルートとして、スイッチを指定します。
<b>priority prio</b>	ブリッジプライオリティを設定します。有効値および詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<b>diameter dia</b>	(任意) ネットワーク直径に基づいて、ブリッジのタイマー値を設定します。有効値は 2 ~ 7 です。
<b>hello-time hello</b>	(任意) ルートスイッチがコンフィギュレーション メッセージを生成する間隔を指定します。

### デフォルト

ブリッジプライオリティは 32,768 です。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

ブリッジプライオリティは、4,096 ずつ増分して設定できます。プライオリティを設定する場合の有効値は 0、4,096、8,192、12,288、16,384、20,480、24,576、28,672、32,768、36,864、40,960、45,056、49,152、53,248、57,344、および 61,440 です。

スイッチをルートにする場合は、プライオリティを 0 に設定します。

**spanning-tree root secondary** のブリッジプライオリティ値は 16,384 です。

**diameter dia** および **hello-time hello** オプションは、インスタンス 0 にのみ使用できます。

**hello\_time** 値を指定しない場合、この値はネットワークの直径から計算されます。

### 例

次に、ブリッジのプライオリティおよびタイマー値を設定する例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree mst 0 root primary diameter 7 hello-time 2
Switch(config)# spanning-tree mst 5 root primary
Switch(config)#
```

### 関連コマンド

[show spanning-tree mst](#)

## spanning-tree pathcost method

パス コスト計算方式を設定するには、**spanning-tree pathcost method** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**spanning-tree pathcost method {long | short}**

**no spanning-tree pathcost method**

シンタックスの説明	long	ポートのパス コストに 32 ビットベース値を指定します。
	short	ポートのパス コストに 16 ビットベース値を指定します。

**デフォルト** ポートのパス コストは 32 ビットベース値です。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、スイッチのすべてのスパニングツリー インスタンスに適用されます。

**long** パス コスト計算方式では、パス コスト計算に 32 ビットをすべて使用して、1 ~ 200,000,000 の値を生成します。

**short** パス コスト計算方式 (16 ビット) では、1 ~ 65,535 の値が生成されます。

**例** 次に、パス コスト計算方式を long に設定する例を示します。

```
Switch(config) spanning-tree pathcost method long
Switch(config)
```

次に、パス コスト計算方式を short に設定する例を示します。

```
Switch(config) spanning-tree pathcost method short
Switch(config)
```

**関連コマンド** [show spanning-tree](#)



## spanning-tree portfast (インターフェイス コンフィギュレーション モード)

リンクがアップした時点で、インターフェイスがタイマーの経過を待たずにただちにフォワーディング ステートに移行した場合、PortFast モードをイネーブルにするには、**spanning-tree portfast** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
spanning-tree portfast {disable | trunk}
```

```
no spanning-tree portfast
```

### シンタックスの説明

<b>disable</b>	インターフェイスの PortFast をディセーブルにします。
<b>trunk</b>	トランク モードの場合も、インターフェイスの PortFast をイネーブルにします。

### デフォルト

PortFast モードはディセーブルです。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	<b>disable</b> および <b>trunk</b> オプションが追加されました。

### 使用上のガイドライン

この機能は、エンドステーションに接続されているインターフェイスにのみ使用してください。そうしないと、偶発的なトポロジー ループが原因でデータ パケット ループが発生し、Catalyst 4500 シリーズスイッチおよびネットワークの動作が妨げられることがあります。

リンクがアップすると、PortFast モードがイネーブルに設定されたインターフェイスは標準の転送遅延時間の経過を待たずに、ただちにスパンニングツリーフォワーディング ステートに移行します。

**no spanning-tree portfast** コマンドは、慎重に使用してください。このコマンドは、**spanning-tree portfast default** コマンドがイネーブルの場合は、PortFast をディセーブルにしません。

このコマンドには、4つの状態があります。

- **spanning-tree portfast** — 所定のポートで、PortFast を無条件にイネーブルにします。
- **spanning-tree portfast disable** — 所定のポートで、PortFast を明示的にディセーブルにします。このコンフィギュレーション行はデフォルトではないため、実行コンフィギュレーションに含まれます。
- **spanning-tree portfast trunk** — トランク ポートに PortFast を設定できます。



(注) **spanning-tree portfast trunk** コマンドを入力すると、アクセス モードの場合でも、ポートは PortFast に対応するように設定されます。

- **no spanning-tree portfast** — **spanning-tree portfast default** コマンドがグローバル コンフィギュレーション内で定義されている場合、およびポートがトランク ポートでない場合に、PortFast を暗黙的にイネーブルにします。PortFast をグローバルに設定しない場合、**no spanning-tree portfast** コマンドは **spanning-tree portfast disable** コマンドと同様に機能します。

■ **spanning-tree portfast** (インターフェイス コンフィギュレーション モード)

---

**例**

次に、PortFast モードをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# spanning-tree portfast  
Switch(config-if)
```

---

**関連コマンド**

[spanning-tree cost](#)  
[spanning-tree port-priority](#)  
[spanning-tree portfast default](#)  
[spanning-tree uplinkfast](#)  
[spanning-tree vlan](#)  
[show spanning-tree](#)

# spanning-tree portfast bpdudfilter default

すべての PortFast ポートで、Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジプロトコルデータユニット) フィルタリングをデフォルトでイネーブルにするには、**spanning-tree portfast bpdudfilter default** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**spanning-tree portfast bpdudfilter default**

**no spanning-tree portfast bpdudfilter default**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** BPDU フィルタリングはディセーブルです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** **spanning-tree portfast bpdudfilter default** コマンドは、Catalyst 4500 シリーズスイッチで、BPDU フィルタリングをグローバルにイネーブルにします。BPDU フィルタリングにより、ポートはすべての BPDU を送受信できなくなります。

**spanning-tree portfast bpdudfilter default** コマンドを無効にするには、インターフェイスごとに BPDU フィルタリングを設定します。



**(注)** BPDU フィルタリングをイネーブルにする場合は、慎重に行ってください。ポート単位のイネーブル化とグローバルなイネーブル化では、機能が異なります。グローバルにイネーブル化された BPDU フィルタリングは、PortFast 動作ステータスのポートにのみ適用されます。リンクがアップすると、ポートは BPDU をいくつか送信してから、発信 BPDU を効率的にフィルタリングします。エッジポートに着信した BPDU は、ただちに PortFast 動作ステータスを失い、BPDU フィルタリングがディセーブルになります。

BPDU フィルタリングがポート上でローカルにイネーブル化されている場合、Catalyst 4500 シリーズスイッチはこのポート上で BPDU を送受信できません。



## 注意

このコマンドは、慎重に使用してください。このコマンドを正しく使用しないと、ブリッジングループが発生することがあります。

**例** 次に、BPDU フィルタリングをデフォルトでイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree portfast bpdudfilter default
Switch(config)#
```

**関連コマンド** [show spanning-tree mst](#)  
[spanning-tree bpdudfilter](#)

# spanning-tree portfast bpduguard default

すべての PortFast ポートで、Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) ガードをデフォルトでイネーブルにするには、**spanning-tree portfast bpduguard default** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**spanning-tree portfast bpduguard default**

**no spanning-tree portfast bpduguard default**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** BPDU ガードはディセーブルです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン



### 注意

このコマンドは、慎重に使用してください。このコマンドは、エンド ステーションに接続されているインターフェイスにのみ使用してください。そうしないと、偶発的なトポロジー ループが原因でデータ パケット ループが発生し、Catalyst 4500 シリーズ スイッチおよびネットワークの動作が妨げられることがあります。

BPDU ガードは、BPDU を受信したポートをディセーブルにします。BPDU ガードが適用されるのは、PortFast がイネーブルに設定されていて、PortFast 動作ステートになっているポートのみです。

**例** 次に、BPDU ガードをデフォルトでイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree portfast bpduguard default
Switch(config)#
```

**関連コマンド** [show spanning-tree mst](#)  
[spanning-tree bpduguard](#)

# spanning-tree portfast default

すべてのアクセス ポートで、PortFast をデフォルトでグローバルにイネーブルにするには、**spanning-tree portfast default** コマンドを使用します。すべてのアクセス ポートで、PortFast をデフォルトでディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**spanning-tree portfast default**

**no spanning-tree portfast default**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** PortFast はディセーブルです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン



### 注意

このコマンドは、慎重に使用してください。このコマンドは、エンド ステーションに接続されているインターフェイスにのみ使用してください。そうしないと、偶発的なトポロジー ループが原因でデータ パケット ループが発生し、Catalyst 4500 シリーズ スイッチおよびネットワークの動作が妨げられることがあります。

リンクがアップすると、PortFast モードがイネーブルに設定されたインターフェイスは標準の転送遅延時間の経過を待たずに、ただちにスパンニングツリー フォワーディング ステートに移行します。

インターフェイスごとに個別に PortFast モードをイネーブルにするには、**spanning-tree portfast (インターフェイス コンフィギュレーション モード)** コマンドを使用します。

**例** 次に、すべてのアクセス ポートで、PortFast をデフォルトでグローバルにイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree portfast default
Switch(config)#
```

## 関連コマンド

**show spanning-tree**

**spanning-tree portfast (インターフェイス コンフィギュレーション モード)**

## spanning-tree port-priority

2 台のブリッジがルートブリッジとして競合している場合に、インターフェイスにプライオリティを設定するには、**spanning-tree port-priority** コマンドを使用します。設定されたプライオリティによって、差が生じます。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**spanning-tree port-priority** *port\_priority*

**no spanning-tree port-priority**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>port_priority</i>	ポートのプライオリティです。有効値は 0 ~ 240 で、16 ずつ増分します。
------------------	----------------------	--

<b>デフォルト</b>	ポート プライオリティ値は 128 に設定されています。
--------------	------------------------------

<b>コマンドモード</b>	インターフェイス コンフィギュレーションモード
----------------	-------------------------

<b>コマンド履歴</b>	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

<b>例</b>	次に、インターフェイス FastEthernet 2/1 のルートブリッジとしてスパンニングツリー インスタンス 20 が選択される可能性を高める例を示します。
----------	--

```
Switch(config-if)# spanning-tree port-priority 0
Switch(config-if)#
```

<b>関連コマンド</b>	<p><a href="#">spanning-tree cost</a></p> <p><a href="#">spanning-tree portfast default</a></p> <p><a href="#">spanning-tree portfast (インターフェイス コンフィギュレーションモード)</a></p> <p><a href="#">spanning-tree uplinkfast</a></p> <p><a href="#">spanning-tree vlan</a></p> <p><a href="#">show spanning-tree</a></p>
---------------	---

# spanning-tree uplinkfast

UplinkFast 機能をイネーブルにするには、**spanning-tree uplinkfast** コマンドを使用します。UplinkFast をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
spanning-tree uplinkfast [max-update-rate packets-per-second]
```

```
no spanning-tree uplinkfast [max-update-rate]
```

<b>シンタックスの説明</b>	<b>max-update-rate</b> (任意) 更新パケットの最大送信速度 (パケット/秒) を指定します。有効値は 0 ~ 65,535 です。
	<i>packets_per_second</i>

## デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- ディセーブルです。
- 最大速度は 150 パケット / 秒です。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、アクセススイッチでのみ使用してください。

UplinkFast が設定されている場合は、このスイッチがルートとして選択されないように、ブリッジプライオリティは 49,152 に変更されます。指定されたスパンニングツリー インスタンスに属するすべてのスパンニングツリー インターフェイスのインターフェイス パス コストも、すべて 3,000 ずつ増分します。

ルート インターフェイスの障害がスパンニングツリーで検出されると、UplinkFast 機能はただちに代替ルート インターフェイスに切り替えて、新しいルート インターフェイスを直接フォワーディング ステータスに移行させます。この間、トポロジー変更通知が送信されます。トポロジーの変更による中断を最小限にするため、元のルート インターフェイスに対応付けられたアドレスを除き、転送元ブリッジのステーションアドレスごとに、マルチキャストパケットが 01-00-0C-CD-CD-CD に送信されます。

**spanning-tree uplinkfast max-update-rate** コマンドを使用すると、UplinkFast がイネーブルになり(まだイネーブルでない場合)、更新パケットの送信速度が変更されます。送信速度をデフォルト速度である 150 パケット / 秒に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

## 例

次に、UplinkFast をイネーブルにして、最大速度を 200 パケット / 秒に設定する例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree uplinkfast
Switch(config)# spanning-tree uplinkfast max-update-rate 200
```

## 関連コマンド

[spanning-tree cost](#)  
[spanning-tree port-priority](#)  
[spanning-tree portfast default](#)  
[spanning-tree portfast \(インターフェイス コンフィギュレーション モード\)](#)  
[spanning-tree vlan](#)

## spanning-tree vlan

VLAN (仮想 LAN) 単位で Spanning-Tree Protocol (STP; スパニングツリー プロトコル) を設定するには、**spanning-tree vlan** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
spanning-tree vlan vlan_id [forward-time seconds | hello-time seconds | max-age seconds |
priority priority | protocol protocol | root {primary | secondary} [diameter net-diameter
[hello-time seconds]]]
```

```
no spanning-tree vlan vlan_id [forward-time | hello-time | max-age | priority | root]
```

### シンタックスの説明

<i>vlan_id</i>	VLAN ID 番号です。有効値は 1 ~ 4,094 です。
<i>forward-time seconds</i>	(任意) STP 転送遅延時間を設定します。有効値は 4 ~ 30 秒です。
<i>hello-time seconds</i>	(任意) ルートスイッチで生成されるコンフィギュレーションメッセージの間隔を秒数で指定します。有効値は 1 ~ 10 秒です。
<i>max-age seconds</i>	(任意) Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジプロトコル データ ユニット) 内の情報が有効である最大期間を秒数で設定します。有効値は 6 ~ 40 秒です。
<i>priority priority</i>	(任意) STP ブリッジプライオリティを設定します。有効値は 0 ~ 65,535 です。
<i>protocol protocol</i>	(任意) プロトコルを指定します。
<i>root primary</i>	(任意) このスイッチを強制的にルートブリッジに設定します。
<i>root secondary</i>	(任意) プライマリ ルートに障害が発生した場合に、このスイッチがルートスイッチとして機能するように指定します。
<i>diameter net-diameter</i>	(任意) 2 台のエンドステーション間のブリッジの最大数を指定します。有効値は 2 ~ 7 です。

### デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- forward-time — 15 秒
- hello-time — 2 秒
- max-age — 20 秒
- priority — STP がイネーブルで 32,768、MST がイネーブルで 128
- root — STP ルートなし

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張アドレス指定のサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**max-age seconds** 値が設定されている場合に、ブリッジが指定インターバル内にルートブリッジから BPDU を受信しない場合は、ネットワークが変更されているとみなされ、スパニングツリー トポロジーが再計算されます。



**spanning-tree root primary** コマンドを入力すると、スイッチのブリッジプライオリティが 8,192 に変更されます。**spanning-tree root primary** コマンドを入力したにもかかわらず、スイッチがルートにならなかった場合は、このスイッチのブリッジプライオリティが現在のブリッジのブリッジプライオリティよりも 100 だけ小さな値に変更されます。スイッチがルートにならない場合は、エラーが発生します。

**spanning-tree root secondary** コマンドを入力すると、スイッチのブリッジプライオリティは 16,384 に変更されます。ルートスイッチに障害が発生した場合は、このスイッチが次のルートスイッチになります。

**spanning-tree root** コマンドは、バックボーンスイッチでのみ使用してください。

---

**例**

次に、VLAN 200 でスパンニングツリーをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree vlan 200
Switch(config)#
```

次に、スイッチを VLAN 10 のルートスイッチとして設定し、ネットワーク直径を 4 に設定する例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree vlan 10 root primary diameter 4
Switch(config)#
```

次に、スイッチを VLAN 10 のセカンダリ ルートスイッチとして設定し、ネットワーク直径を 4 に設定する例を示します。

```
Switch(config)# spanning-tree vlan 10 root secondary diameter 4
Switch(config)#
```

---

**関連コマンド**

[spanning-tree cost](#)  
[spanning-tree port-priority](#)  
[spanning-tree portfast default](#)  
[spanning-tree portfast \(インターフェイス コンフィギュレーション モード\)](#)  
[spanning-tree uplinkfast](#)  
[show spanning-tree](#)

# speed

インターフェイス速度を設定するには、**speed** コマンドを使用します。速度設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
speed {10 | 100 | 1000 | auto [10 | 100 | 1000] | nonegotiate}
```

```
no speed
```

## シンタックスの説明

<b>10</b>	(任意) 10 Mbps で伝送するようにインターフェイスを設定します。
<b>100</b>	(任意) 100 Mbps で伝送するようにインターフェイスを設定します。
<b>1000</b>	(任意) 1,000 Mbps で伝送するようにインターフェイスを設定します。
<b>auto [10   100   1000]</b>	(任意) 速度を自動ネゴシエーションし、自動ネゴシエーション時にアダプタイズする正確な値を指定するようにインターフェイスをイネーブルにします。
<b>nonegotiate</b>	(任意) 速度をネゴシエーションしないようにインターフェイスをイネーブルにします。

## デフォルト

次の表に、デフォルト値を示します。

インターフェイス タイプ	サポートされている構文	デフォルト設定
10/100 Mbps モジュール	<b>speed [10   100   auto [10   100]]</b>	auto
100 Mbps ファイバ モジュール	該当なし	該当なし
ギガビット イーサネット インターフェイス	<b>speed nonegotiate</b>	非ネゴシエーション
10/100/1000	<b>speed [10   100   1000   auto [10   100   1000]]</b>	auto
1000	該当なし	該当なし

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.2(20)EWA	特定の速度の自動ネゴシエーションのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

表 2-28 に、サポートされているコマンド オプションをインターフェイス別に示します。

表 2-28 サポートされている speed コマンド オプション

インターフェイス タイプ	サポートされている構文	デフォルト設定	注意事項
10/100 Mbps モジュール	<b>speed [10   100   auto]</b>	auto	速度が 10 または 100 に設定されている場合に、デュプレックスを設定しないと、デュプレックスは半二重に設定されます。
100 Mbps ファイバ モジュール	該当なし	該当なし	該当なし

表 2-28 サポートされている speed コマンドオプション (続き)

インターフェイスタイプ	サポートされている構文	デフォルト設定	注意事項
ギガビットイーサネットインターフェイス	<code>speed nonegotiate</code>	非ネゴシエーションがイネーブルです。	ギガビットイーサネットポートにのみ適用されます。
10/100/1000	<code>speed [10   100   1000   auto]</code>	<code>auto</code>	速度が 10 または 100 に設定されている場合に、デュプレックスを設定しないと、デュプレックスは半二重に設定されます。  速度が 1,000 を含む任意のサブセット (例えば、10/100/1000 ポート上で <code>speed auto 10 1000</code> または <code>speed auto</code> ) で 1,000 または自動に設定されている場合は、デュプレックスを半二重に設定できません。
1000	該当なし	該当なし	速度は常に 1,000 です。  デュプレックスは半二重です。

インターフェイスの `speed` および `duplex` コマンドを手動で設定し、`speed auto` 以外の値 (10 または 100 Mbps など) を入力した場合は、接続先インターフェイスの `speed` コマンドを適合する速度に設定します。ただし、`auto` パラメータは使用しないでください。

インターフェイス速度を手動で 10 または 100 Mbps に設定すると、インターフェイスのデュプレックスモードも設定するように指示するプロンプトが表示されます。



(注)

Catalyst 4506 スイッチは、いずれかの接続先インターフェイスが `auto` 以外の値に設定されている場合、インターフェイス速度およびデュプレックスモードを自動ネゴシエーションできません。



注意

インターフェイス速度およびデュプレックスモードの設定を変更すると、インターフェイスがシャットダウンされてから再びイネーブルになる場合があります。

表 2-29 に、デュプレックスおよび速度モードをさまざまに組み合わせた場合のシステムパフォーマンスを示します。指定された `duplex` コマンドと、指定された `speed` コマンドを組み合わせると、システムは次のアクションを行います。

表 2-29 duplex および speed コマンドを使用した場合のシステムアクション

duplex コマンド	speed コマンド	システムアクション
<code>duplex auto</code>	<code>speed auto</code>	速度とデュプレックスモードの両方を自動ネゴシエーションします。
<code>duplex half</code>	<code>speed 10</code>	強制的に 10 Mbps および半二重になります。
<code>duplex full</code>	<code>speed 10</code>	強制的に 10 Mbps および全二重になります。
<code>duplex half</code>	<code>speed 100</code>	強制的に 100 Mbps および半二重になります。

表 2-29 duplex および speed コマンドを使用した場合のシステムアクション (続き)

duplex コマンド	speed コマンド	システムアクション
duplex full	speed 100	強制的に 100 Mbps および全二重になります。
duplex full	speed 1000	強制的に 1,000 Mbps および全二重になります。

**例** 次に、インターフェイス fastethernet 5/4 上でインターフェイス速度を 100 Mbps に設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet 5/4
Switch(config-if)# speed 100
```

次に、インターフェイス fastethernet 5/4 が速度およびデュプレックスモードを自動ネゴシエートできるようにする例を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet 5/4
Switch(config-if)# speed auto
```



**(注)** speed auto 10 100 コマンドは、ファストイーサネットインターフェイス上の speed auto コマンドと同様です。

次に、自動ネゴシエーションモードのインターフェイス gigabitethernet 1/1 上で、インターフェイス速度を 10 および 100 Mbps に制限する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet 1/1
Switch(config-if)# speed auto 10 100
```

次に、インターフェイス gigabitethernet 1/1 上で速度ネゴシエーションを 100 Mbps に制限する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet 1/1
Switch(config-if)# speed auto 100
```

## 関連コマンド

### duplex

**interface** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

**show controllers** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

**show interfaces** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

# storm-control

ポートでのブロードキャスト ストーム制御をイネーブルにしたり、ポートにストームが発生した場合のアクションを指定するには、**storm-control** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。ブロードキャスト トラフィックのストーム制御をディセーブルにして、指定されたストーム制御アクションをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
storm-control {broadcast level high level [lower level]} | action {shutdown | trap}
```

```
no storm-control {broadcast level level [lower level]} | action {shutdown | trap}
```

## シンタックスの説明

<b>broadcast</b>	ポート上でブロードキャスト ストーム制御をイネーブルにします。
<b>level high-level</b>	上限および下限抑制レベルを定義します。
<b>lower-level</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>high-level</b> — 合計帯域幅に対する割合 (% [小数点以下 2 桁まで]) で表した上限抑制レベル。有効値は、0 ~ 100% です。level に指定した値に到達すると、ストーム パケットのフラッディングがブロックされます。</li> <li><b>lower level</b> — (任意) 合計帯域幅に対する割合 (% [小数点以下 2 桁まで]) で表した下限抑制レベル。有効値は 0 ~ 100 です。この値には、上限抑制値よりも小さい値を指定する必要があります。</li> </ul>
<b>action</b>	ポート上でストーム制御が発生した場合に、スイッチにアクションを実行するよう指示します。
<b>shutdown</b>	ストーム中にポートをディセーブルにします。
<b>trap</b>	ストームが発生した場合に、SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) トラップを送信します。このキーワードは使用可能ですが、12.1(19)EW ではサポートされていません。

## デフォルト

ブロードキャスト ストーム制御はディセーブルです。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(40)SG	Supervisor Engine 6-E のサポートが導入されました。

## 使用上のガイドライン

インターフェイス上でトラフィック ストーム制御をイネーブルにし、トラフィック ストーム制御レベルを設定し、インターフェイスのブロードキャスト トラフィックにトラフィック ストーム制御レベルを適用するには、**storm-control broadcast level** コマンドを使用します。

Catalyst 4500 シリーズ スイッチのすべての LAN ポートで、ブロードキャスト トラフィック ストーム制御がサポートされます。

小数点以下の抑制レベルを入力する場合は、ピリオドが必要です。

抑制レベルは、合計帯域幅に対する割合で入力します。しきい値が 100% の場合は、トラフィックが制限されません。値が 0.0 の場合は、ポートのすべての指定トラフィックがブロックされます。

廃棄数を表示するには、**show interfaces counters storm-control** コマンドを入力します。

イネーブル化された抑制モードおよびレベル設定を表示するには、**show running-config** コマンドを入力します。

指定されたトラフィック タイプの抑制をオフにするには、次のいずれかを実行します。

- 指定されたトラフィック タイプの *high-level* 値を 100% に設定します。
- このコマンドの **no** 形式を使用します。

ストーム制御をハードウェアで行うインターフェイスでは、下限レベルは無視されます。



(注)

**lower level** キーワードは Supervisor Engine 6-E には使用できません。

例

次に、ポートのブロードキャスト ストーム制御をイネーブルにし、上限抑制レベルを 75.67% に設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 3/1
Switch(config-if)# storm-control broadcast level 75.67
Switch(config-if)# end
```

次に、ストーム発生中にポートをディセーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 3/1
Switch(config-if)# storm-control action shutdown
Switch(config-if)# end
```

次に、ポート上でストーム制御をディセーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 3/1
Switch(config-if)# no storm-control broadcast level
Switch(config-if)# end
```

次に、上限レベルを 100% に設定して、ストーム制御をディセーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 3/1
Switch(config-if)# storm-control broadcast level 100
Switch(config-if)# end
```

関連コマンド

**show interfaces counters**  
**show running-config**

# storm-control broadcast include multicast

ポートのマルチキャスト ストーム制御をイネーブルにするには、**storm-control broadcast include multicast** コマンドを使用します。マルチキャスト ストーム制御をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**storm-control broadcast include multicast**

**no storm-control broadcast include multicast**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** マルチキャスト ストーム制御はディセーブルです。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード  
Supervisor Engine 6-E のインターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
	12.2(40)SG	Supervisor Engine 6-E のサポートが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、すでにブロードキャスト パケットがフィルタリング中である場合に、マルチキャスト パケットをフィルタするようにハードウェアに指示します。

Supervisor Engine 6-E ではインターフェイスごとのマルチキャスト抑制をサポートしています。あるインターフェイスでマルチキャスト抑制をイネーブルにすると、そのインターフェイスへの着信マルチキャストおよびブロードキャスト トラフィックは抑制されます。

**例** 次に、グローバルにマルチキャスト ストーム制御をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# storm-control broadcast include multicast
Switch(config)# end
```

次に、Supervisor Engine 6-E でポートごとにマルチキャスト ストーム制御をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet2/4
Switch(config-if)# storm-control broadcast include multicast
Switch(config)# end
```

**関連コマンド** [storm-control](#)

# switchport

レイヤ2 スイッチ インターフェイスのスイッチング特性を変更するには、**switchport** コマンドを使用します。インターフェイスをルーテッドインターフェイス ステータスに戻して、すべてのレイヤ2 コンフィギュレーションを消去するには、このコマンドの **no** 形式を、パラメータを指定しないで使用します。

```
switchport [access vlan vlan_num] [nonegotiate] [voice vlan {vlan_id | dot1p | none | untagged}]
no switchport [access | nonegotiate | voice vlan]
```

## シンタックスの説明

<b>access vlan <i>vlan_num</i></b>	(任意) インターフェイスがアクセス モードの場合に、VLAN (仮想 LAN) を設定します。有効値は 1 ~ 1,005 です。
<b>nonegotiate</b>	(任意) インターフェイス上で Dynamic InterSwitch Link (DISL) /Dynamic Trunking Protocol (DTP; ダイナミック トランキング プロトコル) ネゴシエーション パケットが送信されないように指定します。
<b>voice vlan <i>vlan_id</i></b>	(任意) VLAN (仮想 LAN) の番号を指定します。有効値は 1 ~ 1,005 です。
<b>dot1p</b>	(任意) プライオリティとしてタグ付けされた Port VLAN Identifier (PVID; ポート VLAN ID) パケットを指定します。
<b>none</b>	(任意) 電話および音声 VLAN が通信しないように指定します。
<b>untagged</b>	(任意) タグなし PVID パケットを指定します。

## デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- スイッチポート トランキング モードはイネーブルです。
- ダイナミック ネゴシエーション パラメータは **auto** に設定されています。
- プラットフォームまたはインターフェイス ハードウェアに対応するデフォルト VLAN は、アクセス VLAN およびトランク インターフェイス ネイティブ VLAN です。
- すべての VLAN リストには、すべての VLAN が含まれます。
- 音声 VLAN はイネーブル化されていません。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。
12.1(11)EW	音声 VLAN のサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**no switchport** コマンドを入力すると、ポートがシャットダウンされ、そのあと再びイネーブルになります。このときに、ポートが接続されている装置にメッセージが表示される場合があります。

アクセス モード VLAN を装置に適したデフォルト VLAN にリセットするには、**switchport access** コマンドの **no** 形式を使用します。**nonegotiate** ステータスを解除するには、**switchport nonegotiate** コマンドの **no** 形式を使用します。

**nonegotiate** キーワードを使用した場合は、インターフェイス上で DISL/DTP ネゴシエーション パケットが送信されません。指定された **mode** パラメータ (**access** または **trunk**) に応じて、装置が トランキングを行うかどうかが決まります。**dynamic** (**auto** または **desirable**) モードでこのコマンドを実行しようとする、エラーが戻されます。



いずれかのオプション キーワードを使用しないかぎり、音声 VLAN は自動的に VLAN 1 に設定されます。

インターフェイスに **switch port voice vlan** コマンドを使用した場合、インターフェイスはポートチャンネルに加入できません。

**switchport voice vlan** コマンドを使用した場合、**show running-config** コマンドの出力は、設定された音声 VLAN を表示するように変更されます。

## 例

次に、ポート インターフェイスがシスコ ルーテッド ポートとしての動作を停止して、レイヤ 2 スイッチド インターフェイスに変換されるように設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport  
Switch(config-if)#
```

次に、スイッチド インターフェイスとして設定されたアクセス モードのポート インターフェイスが、VLAN 2 で動作するように設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport access vlan 2  
Switch(config-if)#
```

次に、スイッチド インターフェイスとして設定されたポート インターフェイスが、トランキング モードをネゴシエーションしないように制限し、(**mode** の設定に応じて) トランクまたはアクセス ポートとして動作するように設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport nonegotiate  
Switch(config-if)#
```

次に、インターフェイスの音声 VLAN を VLAN 2 に設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport voice vlan 2  
switchport voice vlan 2  
Switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

[show interfaces switchport](#)

## switchport access vlan

インターフェイスがアクセス モードの場合に VLAN (仮想 LAN) を設定するには、**switchport access vlan** コマンドを使用します。アクセス モード VLAN を装置に適したデフォルト VLAN にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport access [vlan {vlan-id | dynamic}]
```

```
no switchport access vlan
```

### シンタックスの説明

<b>vlan-id</b>	(任意) アクセス モードにおけるインターフェイスの VLAN 番号。有効値は 1 ~ 4,094 です。
<b>dynamic</b>	(任意) VLAN の VLAN Membership Policy Server (VMPS; VLAN メンバシップ ポリシー サーバ) 制御をイネーブルにします。

### デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- プラットフォームまたはインターフェイス ハードウェアに対応するデフォルト VLAN は、アクセス VLAN およびトランク インターフェイス ネイティブ VLAN です。
- すべての VLAN リストには、すべての VLAN が含まれます。

### コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(13)EW	VMPS のサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

LAN インターフェイスをレイヤ 2 インターフェイスとして設定するには、キーワードを指定しないで **switchport** コマンドを入力してから、**switchport access vlan** コマンドを入力する必要があります。この処理は、インターフェイスに対して **switchport** コマンドをまだ入力していない場合のみ、必須です。

**no switchport** コマンドを入力すると、ポートがシャットダウンされ、そのあと再びイネーブルになります。このときポートが接続されている装置にメッセージが表示される場合があります。

アクセス モード VLAN を装置に適したデフォルト VLAN にリセットするには、**switchport access vlan** コマンドの **no** 形式を使用します。

システムに Supervisor Engine I が搭載されている場合、**vlan-id** の有効値は 1 ~ 1,005 です。システムに Supervisor Engine II が搭載されている場合、**vlan-id** の有効値は 1 ~ 4,094 です。拡張範囲 VLAN は、Supervisor Engine I が搭載されているシステムではサポートされません。

### 例

次に、ポート インターフェイスがシスコ ルーテッド ポートとしての動作を停止して、レイヤ 2 スイッチ インターフェイスに変換されるように設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport
Switch(config-if)#
```

**(注)**

シスコ ルーテッド ポートをサポートしないプラットフォームでは、上記コマンドを使用できません。このようなプラットフォームのすべての物理ポートは、レイヤ 2 スイッチド インターフェイスとみなされます。

次に、すでにスイッチド インターフェイスとして設定されたポート インターフェイスが、アクセスモード時に、プラットフォームのデフォルト VLAN でなく VLAN 2 で動作するように設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport access vlan 2  
Switch(config-if)#
```

**関連コマンド**[show interfaces switchport](#)

# switchport autostate exclude

VLAN（仮想 LAN）インターフェイスのリンクアップ計算からポートを除外するには、**switchport autostate exclude** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**switchport autostate exclude**

**no switchport autostate exclude**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** すべてのポートが VLAN インターフェイスのリンクアップ計算に含まれます。

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(37)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** LAN インターフェイスをレイヤ 2 として設定するには、キーワードを指定せずに **switchport** コマンドを入力してから、**switchport autostate exclude** コマンドを入力します。この処理は、インターフェイスに対して **switchport** コマンドをまだ入力していない場合のみ必要です。



(注)

シスコ ルーテッド ポートをサポートしないプラットフォームでは、**switchport** コマンドは使用されません。このようなプラットフォームのすべての物理ポートは、レイヤ 2 スイッチド インターフェイスとみなされます。

**switchport autostate exclude** コマンドは、VLAN 内に複数のポートがあるときに、インターフェイス VLAN リンクアップ計算から除外するポートをマーキングします。

**show interface interface switchport** コマンドは、autostate モード（設定されている場合）を表示します。設定されていない場合、autostate モードは表示されません。

**例** 次に、VLAN インターフェイスのリンクアップ計算からポートを除外する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport autostate exclude
Switch(config-if)#
```

次に、VLAN インターフェイスのリンクアップ計算にポートを含める例を示します。

```
Switch(config-if)# no switchport autostate exclude
Switch(config-if)#
```

**show interfaces switchport** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

**関連コマンド** [show interfaces switchport](#)

# switchport block

不明なマルチキャストまたはユニキャスト パケットの転送を禁止するには、**switchport block** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。不明なマルチキャストまたはユニキャスト パケットの転送を許可するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**switchport block {multicast | unicast}**

**no switchport block {multicast | unicast}**

## シンタックスの説明

<b>multicast</b>	不明なマルチキャストトラフィックをブロックするように指定します。
<b>unicast</b>	不明なユニキャストトラフィックをブロックするように指定します。

## デフォルト

不明なマルチキャストトラフィックおよびユニキャストトラフィックはブロックされません。

不明な MAC (メディア アクセス制御) アドレスを持つすべてのトラフィックがすべてのポートに送信されます。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

スイッチ ポートで不明なマルチキャストまたはユニキャストトラフィックをブロックできます。

スイッチ ポートで不明なマルチキャストまたはユニキャストトラフィックをブロックする機能は、自動的にイネーブルになりません。手動で設定する必要があります。



(注)

パケットのブロックに関する詳細は、このリリースのソフトウェア コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

## 例

次に、インターフェイス上で不明なマルチキャストトラフィックをブロックする例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport block multicast
```

設定を確認するには、**show interfaces interface-id switchport** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

[show interfaces switchport](#)

# switchport mode

インターフェイス タイプを設定するには、**switchport mode** コマンドを使用します。モードを装置に適したデフォルト モードにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport mode {access | dot1q-tunnel | trunk | dynamic {auto | desirable}}
```

```
switchport mode private-vlan {host | promiscuous | trunk promiscuous | trunk [secondary]}
```

```
no switchport mode dot1q-tunnel
```

```
no switchport mode private-vlan
```

## シンタックスの説明

<b>access</b>	単一の非トランキング、タグなし VLAN（仮想 LAN）レイヤ 2 インターフェイスを指定します。
<b>dot1q-tunnel</b>	802.1Q トンネル ポートを指定します。
<b>trunk</b>	トランキング VLAN レイヤ 2 インターフェイスを指定します。
<b>dynamic auto</b>	インターフェイスがリンクからトランク リンクに変換されるように指定します。
<b>dynamic desirable</b>	インターフェイスがリンクからトランク リンクへの変換をアクティブに試行するように指定します。
<b>private-vlan host</b>	Private VLAN（PVLAN; プライベート VLAN）トランクとの関連性が有効であるポートが、アクティブ ホストのプライベート VLAN トランク ポートになるように指定します。
<b>private-vlan promiscuous</b>	PVLAN マッピングが有効であるポートが、アクティブなプロミスキャス ポートになるように指定します。
<b>private-vlan trunk promiscuous</b>	PVLAN トランク マッピングが有効であるポートが、アクティブなプロミスキャス トランク ポートになるように指定します。
<b>private-vlan trunk secondary</b>	Private VLAN（PVLAN; プライベート VLAN）トランクとの関連性が有効であるポートが、アクティブ ホストのプライベート VLAN トランク ポートになるように指定します。

## デフォルト

リンクはトランク リンクに変換されます。

dot1q トンネル ポートはディセーブルです。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(18)EW	dot1q トンネル ポート設定のサポートが追加されました。
12.2(31)SG	トランク プロミスキャス ポートのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**access** モードを開始した場合、インターフェイスは永続的な非トランキング モードになり、近接インターフェイスがリンクから非トランク リンクへの変換に合意しない場合でも、この変換を行うようにネゴシエートします。

**trunk** モードを開始した場合、インターフェイスは永続的なトランキング モードになり、近接インターフェイスがリンクからトランク リンクへの変換に合意しない場合でも、この変換を行うようにネゴシエートします。

**dynamic auto** モードを開始した場合に、近接インターフェイスが **trunk** または **desirable** モードに設定されると、インターフェイスはリンクをトランク リンクに変換します。

**dynamic desirable** モードを開始した場合に、近接インターフェイスが **trunk**、**desirable**、または **auto** モードに設定されると、インターフェイスはトランク インターフェイスになります。

**dot1q-tunnel** キーワードを指定して入力すると、ポートは無条件で 802.1Q トンネル ポートとして設定されます。

ポートが PVLAN トランク モードとして設定されていて、次のいずれかの条件が適用される場合、ポートは非アクティブになります。

- ポートに PVLAN との有効な関連性がない。
- ポートに有効な許容標準 VLAN がない。

プライベート ポートの PVLAN との関連性またはマッピングを削除するか、またはプライベートポートが Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチド ポート アナライザ) 宛先として設定されている場合、プライベートポートは非アクティブになります。

## 例

次に、インターフェイスを **dynamic desirable** モードに設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport mode dynamic desirable
Switch(config-if)#
```

次に、ポートを PVLAN ホスト モードに設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan host
Switch(config-if)#
```

次に、ポートをプライベート VLAN トランクに設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan trunk
Switch(config-if)#
```

次に、802.1Q トンネル ポート用にポートを設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport mode dot1q-tunnel
Switch(config-if)#
```

次に、プロミスキャス トランク ポートを設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan trunk promiscuous
Switch(config-if)#
```

次に、隔離されたトランク ポートを設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan trunk
OR
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan trunk secondary
Switch(config-if)#
```

設定値を確認するには、**show interfaces switchport** コマンドを入力して、Administrative Mode 行および Operational Mode 行の情報を調べます。

次に、インターフェイス fastethernet 5/2 を PVLAN プロミスキャスポートとして設定し、これを PVLAN にマッピングして、設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface fastethernet 5/2
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan promiscuous
Switch(config-if)# switchport private-vlan mapping 200 2
Switch(config-if)# end
Switch# show interfaces fastethernet 5/2 switchport
Name:Fa5/2
Switchport:Enabled
Administrative Mode:private-vlan promiscuous
Operational Mode:private-vlan promiscuous
Administrative Trunking Encapsulation:negotiate
Operational Trunking Encapsulation:native
Negotiation of Trunking:Off
Access Mode VLAN:1 (default)
Trunking Native Mode VLAN:1 (default)
Voice VLAN:none
Administrative Private VLAN Host Association:none
Administrative Private VLAN Promiscuous Mapping:200 (VLAN0200) 2 (VLAN0002)
Private VLAN Trunk Native VLAN:none
Administrative Private VLAN Trunk Encapsulation:dot1q
Administrative Private VLAN Trunk Normal VLANs:none
Administrative Private VLAN Trunk Private VLANs:none
Operational Private VLANs:
  200 (VLAN0200) 2 (VLAN0002)
Trunking VLANs Enabled:ALL
Pruning VLANs Enabled:2-1001
Capture Mode Disabled
Capture VLANs Allowed:ALL
```

次に、インターフェイス fastethernet 5/1 を PVLAN ホストポートとして設定し、その設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface fastethernet 5/1
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan host
Switch(config-if)# switchport private-vlan host-association 202 440

Switch(config-if)# end

Switch# show interfaces fastethernet 5/1 switchport
Name: Fa5/1
Switchport: Enabled
Administrative Mode: private-vlan host
Operational Mode: private-vlan host
Administrative Trunking Encapsulation: negotiate
Operational Trunking Encapsulation: native
Negotiation of Trunking: Off
Access Mode VLAN: 1 (default)
Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
Voice VLAN: none
Appliance trust: none
Administrative Private Vlan
  Host Association: 202 (VLAN0202) 440 (VLAN0440)
  Promiscuous Mapping: none
  Trunk encapsulation : dot1q
  Trunk vlans:
Operational private-vlan(s):
  202 (VLAN0202) 440 (VLAN0440)
Trunking VLANs Enabled: ALL
Pruning VLANs Enabled: 2-1001
Capture Mode Disabled
Capture VLANs Allowed: ALL
```



次に、インターフェイス fastethernet 5/2 をセカンダリ トランク ポートとして設定し、その設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface fastethernet 5/2
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan trunk secondary
Switch(config-if)# switchport private-vlan trunk native vlan 10
Switch(config-if)# switchport private-vlan trunk allowed vlan 10, 3-4
Switch(config-if)# switchport private-vlan association trunk 3 301
Switch(config-if)# end
Switch# show interfaces fastethernet 5/2 switchport
Name: Fa5/2
  Switchport: Enabled
  Administrative Mode: private-vlan trunk secondary
  Operational Mode: private-vlan trunk secondary
  Administrative Trunking Encapsulation: negotiate
  Operational Trunking Encapsulation: dot1q
  Negotiation of Trunking: On
  Access Mode VLAN: 1 (default)
  Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
  Administrative Native VLAN tagging: enabled
  Voice VLAN: none
  Administrative private-vlan host-association: none A
  Administrative private-vlan mapping: none
  Administrative private-vlan trunk native VLAN: 10
  Administrative private-vlan trunk Native VLAN tagging: enabled
  Administrative private-vlan trunk encapsulation: dot1q
  Administrative private-vlan trunk normal VLANs: none
  Administrative private-vlan trunk associations:
    3 (VLAN0003) 301 (VLAN0301)
  Administrative private-vlan trunk mappings: none
  Operational private-vlan: none
  Operational Normal VLANs: none
  Trunking VLANs Enabled: ALL
  Pruning VLANs Enabled: 2-1001
  Capture Mode Disabled Capture VLANs Allowed: ALL

  Unknown unicast blocked: disabled
  Unknown multicast blocked: disabled
  Appliance trust: none
Switch(config-if)#
```

次に、インターフェイス fastethernet 5/2 をプロミスキャス トランク ポートとして設定し、その設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface fastethernet 5/2
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan trunk promiscuous
Switch(config-if)# switchport private-vlan trunk native vlan 10
Switch(config-if)# switchport private-vlan trunk allowed vlan 10, 3-4
Switch(config-if)# switchport private-vlan mapping trunk 3 301, 302
Switch(config-if)# end
Switch# show interfaces fastethernet 5/2 switchport
Name: Fa5/2
Switchport: Enabled
Administrative Mode: private-vlan trunk promiscuous
Operational Mode: private-vlan trunk promiscuous
Administrative Trunking Encapsulation: negotiate
Operational Trunking Encapsulation: dot1q
Negotiation of Trunking: On
Access Mode VLAN: 1 (default)
Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
Administrative Native VLAN tagging: enabled
Voice VLAN: none
Administrative private-vlan host-association: none
Administrative private-vlan mapping: none
Administrative private-vlan trunk native VLAN: 10
Administrative private-vlan trunk Native VLAN tagging: enabled
Administrative private-vlan trunk encapsulation: dot1q
Administrative private-vlan trunk normal VLANs: 3-4,10
Administrative private-vlan trunk associations: none
Administrative private-vlan trunk mappings:
    3 (VLAN0003) 301 (VLAN0301) 302 (VLAN0302)
Operational private-vlan:
    3 (VLAN0003) 301 (VLAN0301) 302 (VLAN0302)
Trunking VLANs Enabled: ALL
Pruning VLANs Enabled: 2-1001
Capture Mode Disabled
Capture VLANs Allowed: ALL

Unknown unicast blocked: disabled
Unknown multicast blocked: disabled
Appliance trust: none
Switch(config-if)#
```

#### 関連コマンド

[show interfaces switchport](#)  
[switchport](#)  
[switchport private-vlan host-association](#)  
[switchport private-vlan mapping](#)

## switchport port-security

インターフェイス上でポートセキュリティをイネーブルにするには、**switchport port-security** コマンドを使用します。ポートセキュリティをディセーブルにし、パラメータをデフォルト状態に設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport port-security [aging {static | time time | type {absolute | inactivity}}] | limit rate
invalid-source-mac [N | none] | mac-address mac-address [vlan {access | voice} | mac-address
sticky [mac-address] [vlan access | voice] | maximum value [vlan {access | voice} | violation
{restrict | shutdown}]
```

```
no switchport port-security [aging {static | time time | type {absolute | inactivity}}] | limit rate
invalid-source-mac [N | none] | mac-address mac-address [vlan {access | voice} | mac-address
sticky [mac-address] [vlan access | voice] | maximum value [vlan {access | voice} | violation
{restrict | shutdown}]
```

### シンタックスの説明

<b>aging</b>	(任意) ポートセキュリティのエージングを指定します。
<b>static</b>	(任意) このポートに静的に設定されたセキュアアドレスのエージングをイネーブルにします。
<b>time time</b>	(任意) このポートのエージング タイムを指定します。有効値は 0 ~ 1,440 分です。値が 0 の場合、このポートのエージングはディセーブルです。
<b>type absolute</b>	(任意) エージング タイプを <b>absolute</b> に設定します。このポートのセキュアアドレスはすべて、指定した時間 (分単位) が経過すると期限切れになり、セキュアアドレス リストから削除されます。
<b>type inactivity</b>	(任意) エージング タイプを <b>inactivity</b> に設定します。指定された時間内にセキュア送信元アドレスからデータ トラフィックが送信されない場合のみ、このポートのセキュアアドレスが期限切れになります。
<b>limit rate invalid-source-mac</b>	(任意) 不良パケットのレート制限を設定します。このレート制限は、IP および MAC (メディアアクセス制御) アドレスをフィルタリングするときに、DHCP スヌーピング セキュリティ モードがイネーブルであるポートにも適用されます。
<b>N none</b>	(任意) レート制限を指定するか ( <b>N</b> )、または何も指定しません ( <b>none</b> )。
<b>mac-address mac-address</b>	(任意) インターフェイスのセキュア MAC アドレス (48 ビット MAC アドレス) を指定します。設定された最大値まで、セキュア MAC アドレスを追加できます。
<b>sticky</b>	(任意) ダイナミック アドレスをインターフェイス上のスティッキ アドレスとして設定します。
<b>vlan access</b>	(任意) アクセス VLAN からセキュア MAC アドレスを削除します。
<b>vlan voice</b>	(任意) 音声 VLAN からセキュア MAC アドレスを削除します。
<b>maximum value</b>	(任意) インターフェイスの最大セキュア MAC アドレス数を設定します。有効な値は 1 ~ 3,072 です。デフォルト設定は 1 です。
<b>violation</b>	(任意) セキュリティ違反モード、およびポートセキュリティに違反した場合のアクションを設定します。
<b>restrict</b>	(任意) セキュリティ違反制限モードを設定します。このモードの場合にポートのセキュリティ違反が発生すると、データが制限され、SecurityViolation カウンタが増加します。

<b>shutdown</b>	(任意) セキュリティ違反シャットダウン モードを設定します。このモードの場合にポート セキュリティ違反が発生すると、インターフェイスはただちにエラーディセーブル ステートになります。
-----------------	--

## デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- ポート セキュリティはディセーブルです。
- ポート セキュリティがイネーブルの場合に、キーワードを入力しないと、デフォルトのセキュア MAC アドレスの最大数が 1 になります。
- エージングはディセーブルです。
- エージング タイムは 0 分です。
- このポートのすべてのセキュア アドレスは、セキュア アドレス リストから削除されたあと、すぐに期限切れになります。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(19)EW	DHCP スヌーピング セキュリティ拡張が追加されました。
12.2(18)EW	スティッキ インターフェイスのサポートが追加されました。
12.2(31)SG	スティッキ ポート セキュリティのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ポートで許可されるセキュア MAC アドレスの最大数を設定した場合は、セキュア アドレスを手動で設定するか、ポートがセキュア アドレスを動的に設定できるようにするか、または、一部の MAC アドレスを設定し、残りの MAC アドレスを動的に設定できるようにすることで、セキュア アドレスをアドレス テーブルに追加できます。

アドレス テーブル内のセキュア MAC アドレス数が最大値に達している場合に、そのアドレス テーブルに含まれない MAC アドレスを持つステーションがインターフェイスにアクセスしようとする、パケットはハードウェアで廃棄されます。

音声 VLAN (仮想 LAN) ポート上でポート セキュリティをイネーブルにした場合、および IP Phone に接続された PC が存在する場合は、ポート上で許可されているセキュア アドレスの最大数を 1 より大きい値に設定してください。

音声 VLAN では、スタティック セキュア MAC アドレスを設定できません。

セキュア ポートに関する制限事項は、次のとおりです。

- セキュア ポートは、ダイナミック アクセス ポートまたはトランク ポートにできません。
- セキュア ポートは、ルーテッド ポートにできません。
- セキュア ポートは、保護ポートにできません。
- セキュア ポートは、Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチド ポート アナライザ) の宛先ポートにできません。
- セキュア ポートは、Fast EtherChannel や Gigabit EtherChannel ポート グループに属することができません。
- セキュア ポートは、802.1x ポートにできません。
- セキュア ポートで 802.1x をイネーブルにしようすると、エラー メッセージが表示され、802.1x はイネーブルになりません。802.1x 対応ポートをセキュア ポートに変更しようすると、エラー メッセージが表示され、セキュリティ設定は変更されません。

セキュアポートがエラーディセーブルステートの場合は、**errdisable recovery cause psecure-violation** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力してこのステートを解除したり、また **shutdown** および **no shut down** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力して手動で再びイネーブルにできます。

特定のポートのセキュア アドレス エージングをイネーブルにするには、そのポートのエージング タイプを 0 以外の値に設定します。

特定のセキュア アドレスへのアクセス時間を限定するには、エージング タイプを **absolute** に設定します。エージング タイムの期限が切れると、セキュア アドレスが削除されます。

継続的にアクセスできるセキュア アドレス数を制限するには、エージング タイプを **inactivity** に設定します。このアクションにより、非アクティブになったセキュア アドレスを削除して、他のアドレスをセキュアにできます。

セキュア アドレスに対するアクセスを無制限に許可するには、目的のポートをセキュア アドレスとして設定し、**no switchport port-security aging static** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、静的に設定されたセキュア アドレスのエージングをディセーブルにします。

MAC アドレスを指定せずに **sticky** コマンドを実行すると、そのポートで学習されたすべての MAC アドレスがスティッキーになります。MAC アドレスに続けて **sticky** キーワードを入力すると、特定の MAC アドレスだけをスティッキーにできます。

インターフェイス上でポート セキュリティ機能がイネーブルでない場合でも、スティッキー機能を設定できます。機能は、インターフェイス上でポート セキュリティをイネーブルにすると、動作可能となります。

スティッキー機能がすでにインターフェイス上でイネーブルな場合は、**sticky** コマンドの **no** 形式を使用できます。

**例** 次に、ファストイーサネット ポート 12 のセキュア アドレスに対し、エージング タイムを 2 時間 (120 分) に設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet 0/12
Switch(config-if)# switchport port-security aging time 120
Switch(config-if)#
```

次に、ファストイーサネット ポート 12 のセキュア アドレスに対し、エージング タイマーのタイプを **Inactivity** に設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet 0/12
Switch(config-if)# switchport port-security aging type inactivity
Switch(config-if)#
```

次に、ファストイーサネット ポート 12 上の無効な送信元パケットに対し、レート制限を設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet 0/12
Switch(config-if)# switchport port-security limit rate invalid-source-mac 100
Switch(config-if)#
```

次に、ファストイーサネット ポート 12 上の無効な送信元パケットに対し、レート制限を設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet 0/12
Switch(config-if)# switchport port-security limit rate invalid-source-mac none
Switch(config-if)#
```

すべてのセキュア ポートまたは指定したポートの設定を確認するには、**show port-security** 特権 EXEC コマンドを使用します。

次に、インターフェイスに設定されたすべてのスティッキおよびスタティック アドレスを削除する例を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet 2/12
Switch(config-if)# no switchport port-security mac-address
Switch(config-if)
```

次に、ファストイーサネット ポート 12 にセキュア MAC アドレスを設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet 0/12
Switch(config-if)# switchport mode access
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# switchport port-security mac-address 1000.2000.3000
Switch(config-if)
```

次に、ファストイーサネット ポート 12 で学習したすべての MAC アドレスをスティッキにする例を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet 2/12
SSwitch(config-if)# switchport port-security mac-address sticky
Switch(config-if)
```

次に、MAC アドレス 1000.2000.3000 をファストイーサネット ポート 12 でスティッキにする例を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet 2/12
Switch(config-if)# switchport port-security mac-address sticky 1000.2000.3000
Switch(config-if)
```

次に、ファストイーサネット ポート 12 のスティッキ機能をディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet 2/12
Switch(config-if)# no switchport port-security mac-address sticky
Switch(config-if)
```



(注)

このコマンドは、このインターフェイス上のすべてのスティッキ アドレスを通常の学習済みエンタリにします。セキュア MAC アドレス テーブルからエンタリは削除しません。



(注)

次に、音声 VLAN を設定したインターフェイス上のアクセス VLAN および音声 VLAN において、スティッキ セキュア MAC アドレスを設定する例を示します。音声 VLAN を設定していない場合は、**vlan [access | voice]** キーワードはサポートされません。

この例では、インターフェイス fa5/1 上の音声およびデータ VLAN に対し、スティッキ MAC アドレスを設定して、その設定を確認します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fa5/1
Switch(config-if)# switchport mode access
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.obob vlan
voice
Switch(config-if)# switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.0005 vlan
access
Switch(config-if)# end
```

次の例では、インターフェイス fa5/1 に対し、音声 VLAN (たとえば Cisco IP Phone) および、データ VLAN (たとえば PC) の最大 MAC アドレス数に 1 を指定して、設定内容を確認します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fa5/1
Switch(config-if)# switchport mode access
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# switchport port-security mac-address sticky
Switch(config-if)# switchport port-security maximum 1 vlan voice
Switch(config-if)# switchport port-security maximum 1 vlan access
Switch(config-if)# end
```



(注)

ポートにトラフィックを送信すると、このポートはスティッキセキュアアドレスで設定されます。

設定を確認するには、**show port-security address** 特権 EXEC コマンドを使用します。

#### 関連コマンド

[show interfaces switchport](#)  
[show port-security](#)  
[switchport block](#)

## switchport private-vlan association trunk

Private VLAN (PVLAN; プライベート VLAN) トランク ポートにセカンダリ VLAN (仮想 LAN) と VLAN との関係を設定するには、**switchport private-vlan association trunk** コマンドを使用します。ポートから PVLAN マッピングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**switchport private-vlan association trunk** {*primary-vlan-id*} {*secondary-vlan-id*}

**no switchport private-vlan association trunk** {*primary-vlan-id*}

### シンタックスの説明

<i>primary-vlan-id</i>	PVLAN 関係におけるプライマリ VLAN の番号です。
<i>secondary-vlan-id</i>	PVLAN 関係におけるセカンダリ VLAN の番号です。

### デフォルト

PVLAN マッピングはディセーブルです。

### コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.2(20)EW	コミュニティ VLAN のサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

PVLAN トランク ポートが複数のセカンダリ VLAN を伝送できるように、複数の PVLAN ペアを指定できます。関連性を既存のプライマリ VLAN に指定した場合、元の関連性と置き換えられます。

隔離されたセカンダリ VLAN のみが PVLAN トランクで伝送できます。



(注)

PVLAN トランクのコミュニティ セカンダリ VLAN は、このリリースではサポートされません。

トランクに関連性が指定されていない場合、セカンダリ VLAN で受信されたパケットはすべて廃棄されます。

### 例

次に、プライマリ VLAN (VLAN 18) およびセカンダリ VLAN (VLAN 20) をポートに設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport private-vlan association trunk 18 20
Switch(config-if)#
```

次に、ポートから PVLAN との関連性を削除する例を示します。

```
Switch(config-if)# no switchport private-vlan association trunk 18
Switch(config-if)#
```



次に、インターフェイス fastethernet 5/2 をセカンダリ トランク ポートとして設定し、その設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface fastethernet 5/2
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan trunk secondary
Switch(config-if)# switchport private-vlan trunk native vlan 10
Switch(config-if)# switchport private-vlan trunk allowed vlan 10, 3-4
Switch(config-if)# switchport private-vlan association trunk 3 301
Switch(config-if)# end
Switch# show interfaces fastethernet 5/2 switchport
Name: Fa5/2
  Switchport: Enabled
  Administrative Mode: private-vlan trunk secondary
  Operational Mode: private-vlan trunk secondary
  Administrative Trunking Encapsulation: negotiate
  Operational Trunking Encapsulation: dot1q
  Negotiation of Trunking: On
  Access Mode VLAN: 1 (default)
  Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
  Administrative Native VLAN tagging: enabled
  Voice VLAN: none
  Administrative private-vlan host-association: none A
  Administrative private-vlan mapping: none
  Administrative private-vlan trunk native VLAN: 10
  Administrative private-vlan trunk Native VLAN tagging: enabled
  Administrative private-vlan trunk encapsulation: dot1q
  Administrative private-vlan trunk normal VLANs: none
  Administrative private-vlan trunk associations:
    3 (VLAN0003) 301 (VLAN0301)
  Administrative private-vlan trunk mappings: none
  Operational private-vlan: none
  Operational Normal VLANs: none
  Trunking VLANs Enabled: ALL
  Pruning VLANs Enabled: 2-1001
  Capture Mode Disabled Capture VLANs Allowed: ALL

  Unknown unicast blocked: disabled
  Unknown multicast blocked: disabled
  Appliance trust: none
Switch(config-if)#
```

#### 関連コマンド

[show interfaces switchport](#)  
[switchport mode](#)

# switchport private-vlan host-association

独立ポートまたはコミュニティ ポートに Private VLAN (PVLAN; プライベート VLAN) との関連性を定義するには、**switchport private-vlan host-association** コマンドを使用します。ポートから PVLAN マッピングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**switchport private-vlan host-association** {*primary-vlan-id*} {*secondary-vlan-id*}

**no switchport private-vlan host-association**

シンタックスの説明		
<i>primary-vlan-id</i>	PVLAN 関係におけるプライマリ VLAN (仮想 LAN) の番号です。有効値は 1 ~ 4,094 です。	
<i>secondary-vlan-list</i>	PVLAN 関係におけるセカンダリ VLAN の番号です。有効値は 1 ~ 4,094 です。	

**デフォルト** PVLAN マッピングはディセーブルです。

**コマンド モード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.1(12c)EW	拡張アドレス指定のサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** PVLAN ホスト モードでないポート上では、実行しても効果がありません。ポートが PVLAN ホスト モードであっても VLAN が存在しない場合は、コマンドを使用できますが、このポートは非アクティブになります。

セカンダリ VLAN は独立またはコミュニティ VLAN になる場合があります。

**例** 次に、プライマリ VLAN (VLAN 18) およびセカンダリ VLAN (VLAN 20) をポートに設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport private-vlan host-association 18 20
Switch(config-if)#
```

次に、ポートから PVLAN との関連性を削除する例を示します。

```
Switch(config-if)# no switchport private-vlan host-association
Switch(config-if)#
```

次に、インターフェイス fastethernet 5/1 を PVLAN ホスト ポートとして設定し、その設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface fastethernet 5/1
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan host
Switch(config-if)# switchport private-vlan host-association 202 440
Switch(config-if)# end
Switch# show interfaces fastethernet 5/1 switchport
Name: Fa5/1
Switchport: Enabled
Administrative Mode: private-vlan host
Operational Mode: private-vlan host
Administrative Trunking Encapsulation: negotiate
Operational Trunking Encapsulation: native
Negotiation of Trunking: Off
Access Mode VLAN: 1 (default)
Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
Voice VLAN: none
Appliance trust: none
Administrative Private Vlan
  Host Association: 202 (VLAN0202) 440 (VLAN0440)
  Promiscuous Mapping: none
  Trunk encapsulation : dot1q
  Trunk vlans:
Operational private-vlan(s):
  202 (VLAN0202) 440 (VLAN0440)
Trunking VLANs Enabled: ALL
Pruning VLANs Enabled: 2-1001
Capture Mode Disabled
Capture VLANs Allowed: ALL
```

---

**関連コマンド**

[show interfaces switchport](#)  
[switchport mode](#)

# switchport private-vlan mapping

プロミスキャス ポートの Private VLAN (PVLAN; プライベート VLAN) マッピングを定義するには、**switchport private-vlan mapping** コマンドを使用します。プライマリ VLAN (仮想 LAN) からすべてのマッピングを消去するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport private-vlan mapping {primary-vlan-id} {secondary-vlan-list} | {add secondary-vlan-list}
| {remove secondary-vlan-list}
```

```
switchport private-vlan mapping trunk {primary-vlan-id} [add | remove] secondary-vlan-list
```

```
no switchport private-vlan mapping [trunk]
```

## シンタックスの説明

<i>primary-vlan-id</i>	PVLAN 関係におけるプライマリ VLAN の番号です。有効値は 2 ~ 4,094 です (1,002 ~ 1,005 は除く)。
<i>secondary-vlan-list</i>	プライマリ VLAN にマッピングするセカンダリ VLAN の番号です。有効値は 2 ~ 4,094 です。
<b>add</b>	セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN にマッピングします。
<b>remove</b>	セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN のマッピングを消去します。
<b>trunk</b>	トランクのセカンダリ VLAN をプライマリ VLAN にマッピングします。

## デフォルト

PVLAN マッピングはディセーブルです。

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張アドレス指定のサポートが追加されました。
12.2(20)EW	コミュニティ VLAN のサポートが追加されました。
12.2(31)SG	トランク VLAN のサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

PVLAN プロミスキャス モードでないポート上では、実行しても効果がありません。ポートが PVLAN プロミスキャス モードであっても VLAN が存在しない場合は、コマンドを使用できますが、このポートは非アクティブになります。

セカンダリ VLAN は独立またはコミュニティ VLAN になる場合があります。



### (注)

上記の **switchport private-vlan mapping trunk** コマンドによってサポートされる、一意のプライベート VLAN ペアの最大数は 500 です。たとえば、1,000 のセカンダリ VLAN を 1 つのプライマリ VLAN にマッピングしたり、1,000 のセカンダリ VLAN を 1,000 のプライマリ VLAN に 1 対 1 でマッピングすることが可能です。

## 例

次に、プライマリ VLAN 18 とセカンダリ独立 VLAN 20 のマッピングをポートに設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport private-vlan mapping 18 20
Switch(config-if)#
```

次に、マッピングに VLAN を追加する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport private-vlan mapping 18 add 21
Switch(config-if)#
```

次に、マッピングにセカンダリ VLAN の範囲を追加する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport private-vlan mapping 18 add 22-24
Switch(config-if)#
```

次に、トランク マッピングにセカンダリ VLAN の範囲を追加する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport private-vlan mapping trunk 18 add 22-24
Switch(config-if)#
```

次に、インターフェイス fastethernet 5/2 を PVLAN プロミスキュラス ポートとして設定し、これを PVLAN にマッピングして、設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface fastethernet 5/2
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan promiscuous
Switch(config-if)# switchport private-vlan mapping 200 2
Switch(config-if)# end
Switch# show interfaces fastethernet 5/2 switchport
Name:Fa5/2
Switchport:Enabled
Administrative Mode:private-vlan promiscuous
Operational Mode:private-vlan promiscuous
Administrative Trunking Encapsulation:negotiate
Operational Trunking Encapsulation:native
Negotiation of Trunking:Off
Access Mode VLAN:1 (default)
Trunking Native Mode VLAN:1 (default)
Voice VLAN:none
Administrative Private VLAN Host Association:none
Administrative Private VLAN Promiscuous Mapping:200 (VLAN0200) 2 (VLAN0002)
Private VLAN Trunk Native VLAN:none
Administrative Private VLAN Trunk Encapsulation:dot1q
Administrative Private VLAN Trunk Normal VLANs:none
Administrative Private VLAN Trunk Private VLANs:none
Operational Private VLANs:
  200 (VLAN0200) 2 (VLAN0002)
Trunking VLANs Enabled:ALL
Pruning VLANs Enabled:2-1001
Capture Mode Disabled
Capture VLANs Allowed:ALL
```

次に、インターフェイス fastethernet 5/2 をプロミスキャス トランク ポートとして設定し、その設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface fastethernet 5/2
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan trunk promiscuous
Switch(config-if)# switchport private-vlan trunk native vlan 10
Switch(config-if)# switchport private-vlan trunk allowed vlan 10, 3-4
Switch(config-if)# switchport private-vlan mapping trunk 3 301, 302
Switch(config-if)# end
Switch# show interfaces fastethernet 5/2 switchport
Name: Fa5/2
Switchport: Enabled
Administrative Mode: private-vlan trunk promiscuous
Operational Mode: private-vlan trunk promiscuous
Administrative Trunking Encapsulation: negotiate
Operational Trunking Encapsulation: dot1q
Negotiation of Trunking: On
Access Mode VLAN: 1 (default)
Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
Administrative Native VLAN tagging: enabled
Voice VLAN: none
Administrative private-vlan host-association: none
Administrative private-vlan mapping: none
Administrative private-vlan trunk native VLAN: 10
Administrative private-vlan trunk Native VLAN tagging: enabled
Administrative private-vlan trunk encapsulation: dot1q
Administrative private-vlan trunk normal VLANs: 3-4,10
Administrative private-vlan trunk associations: none
Administrative private-vlan trunk mappings:
    3 (VLAN0003) 301 (VLAN0301) 302 (VLAN0302)
Operational private-vlan:
    3 (VLAN0003) 301 (VLAN0301) 302 (VLAN0302)
Trunking VLANs Enabled: ALL
Pruning VLANs Enabled: 2-1001
Capture Mode Disabled
Capture VLANs Allowed: ALL

Unknown unicast blocked: disabled
Unknown multicast blocked: disabled
Appliance trust: none
Switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

[show interfaces private-vlan mapping](#)

# switchport private-vlan trunk allowed vlan

Private VLAN (PVLAN; プライベート VLAN) トランク ポートで許容標準 VLAN (仮想 LAN) のリストを設定するには、**switchport private-vlan trunk allowed vlan** コマンドを使用します。PVLAN トランク ポートから許容標準 VLAN を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport private-vlan trunk allowed vlan {vlan-list} all | none | [add | remove | except] vlan_atom
[vlan_atom...]
```

```
no switchport private-vlan trunk allowed vlan
```

## シンタックスの説明

<i>vlan_list</i>	許容 VLAN のリストを設定します。 <i>vlan_list</i> の書式に関する注意事項については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<b>all</b>	1 ~ 4096 のすべての VLAN を指定します。リスト内のすべての VLAN を同時に設定できないコマンドでは、このキーワードがサポートされません。
<b>none</b>	空のリストを意味します。特定の VLAN を設定するか、または少なくとも 1 つの VLAN を設定する必要があるコマンドでは、このキーワードがサポートされません。
<b>add</b>	(任意) 現在設定されている VLAN リストを置き換えないで、定義済み VLAN リストを追加します。
<b>remove</b>	(任意) 現在設定されている VLAN リストを置き換えないで、リストから定義済み VLAN リストを削除します。
<b>except</b>	(任意) 定義済み VLAN リストを除く、計算する必要がある VLAN をリストします。
<i>vlan_atom</i>	1 ~ 4,094 の単一の VLAN 番号、または 2 つの VLAN 番号 (小さい方が先、ハイフンで区切る) で指定する VLAN 範囲です。

## デフォルト

すべての許容標準 VLAN が、PVLAN トランク ポートから削除されます。

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

デフォルトでは、許容されるように明示的に設定されないかぎり、標準 VLAN は許容されません。このコマンドは、PVLAN トランク ポートの標準 VLAN にのみ使用してください。

PVLAN トランク ポートで PVLAN を伝送できるポートを設定する場合は、**switchport private-vlan association trunk** コマンドを使用します。

## 例

次に、標準 VLAN 1 ~ 10 を伝送する PVLAN トランク ポートを設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport private-vlan trunk allowed vlan 1-10
Switch(config-if)#
```

次に、PVLAN トランク ポートから許容標準 VLAN をすべて削除する例を示します。

```
Switch(config-if)# no switchport private-vlan trunk allowed vlan
Switch(config-if)#
```

次に、インターフェイス fastethernet 5/2 をセカンダリ トランク ポートとして設定し、その設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface fastethernet 5/2
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan trunk secondary
Switch(config-if)# switchport private-vlan trunk native vlan 10
Switch(config-if)# switchport private-vlan trunk allowed vlan 10, 3-4
Switch(config-if)# switchport private-vlan association trunk 3 301
Switch(config-if)# end
Switch# show interfaces fastethernet 5/2 switchport
Name: Fa5/2
  Switchport: Enabled
  Administrative Mode: private-vlan trunk secondary
  Operational Mode: private-vlan trunk secondary
  Administrative Trunking Encapsulation: negotiate
  Operational Trunking Encapsulation: dot1q
  Negotiation of Trunking: On
  Access Mode VLAN: 1 (default)
  Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
  Administrative Native VLAN tagging: enabled
  Voice VLAN: none
  Administrative private-vlan host-association: none A
  Administrative private-vlan mapping: none
  Administrative private-vlan trunk native VLAN: 10
  Administrative private-vlan trunk Native VLAN tagging: enabled
  Administrative private-vlan trunk encapsulation: dot1q
  Administrative private-vlan trunk normal VLANs: none
  Administrative private-vlan trunk associations:
    3 (VLAN0003) 301 (VLAN0301)
  Administrative private-vlan trunk mappings: none
  Operational private-vlan: none
  Operational Normal VLANs: none
  Trunking VLANs Enabled: ALL
  Pruning VLANs Enabled: 2-1001
  Capture Mode Disabled Capture VLANs Allowed: ALL

  Unknown unicast blocked: disabled
  Unknown multicast blocked: disabled
  Appliance trust: none
Switch(config-if)#
```



次に、インターフェイス fastethernet 5/2 をプロミスキャス トランク ポートとして設定し、その設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface fastethernet 5/2
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan trunk promiscuous
Switch(config-if)# switchport private-vlan trunk native vlan 10
Switch(config-if)# switchport private-vlan trunk allowed vlan 10, 3-4
Switch(config-if)# switchport private-vlan mapping trunk 3 301, 302
Switch(config-if)# end
Switch# show interfaces fastethernet 5/2 switchport
Name: Fa5/2
Switchport: Enabled
Administrative Mode: private-vlan trunk promiscuous
Operational Mode: private-vlan trunk promiscuous
Administrative Trunking Encapsulation: negotiate
Operational Trunking Encapsulation: dot1q
Negotiation of Trunking: On
Access Mode VLAN: 1 (default)
Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
Administrative Native VLAN tagging: enabled
Voice VLAN: none
Administrative private-vlan host-association: none
Administrative private-vlan mapping: none
Administrative private-vlan trunk native VLAN: 10
Administrative private-vlan trunk Native VLAN tagging: enabled
Administrative private-vlan trunk encapsulation: dot1q
Administrative private-vlan trunk normal VLANs: 3-4,10
Administrative private-vlan trunk associations: none
Administrative private-vlan trunk mappings:
    3 (VLAN0003) 301 (VLAN0301) 302 (VLAN0302)
Operational private-vlan:
    3 (VLAN0003) 301 (VLAN0301) 302 (VLAN0302)
Trunking VLANs Enabled: ALL
Pruning VLANs Enabled: 2-1001
Capture Mode Disabled
Capture VLANs Allowed: ALL

Unknown unicast blocked: disabled
Unknown multicast blocked: disabled
Appliance trust: none
Switch(config-if)#
```

#### 関連コマンド

[show interfaces switchport](#)  
[switchport mode](#)

## switchport private-vlan trunk native vlan tag

802.1Q Private VLAN (PVLAN; プライベート VLAN) トランクのネイティブ VLAN (仮想 LAN) トラフィックのタグgingを制御するには、**switchport private-vlan trunk native vlan tag** コマンドを使用します。タグgingの制御を取り除く (およびデフォルトのグローバル設定に戻す) には、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**switchport private-vlan trunk native vlan tag**

**no switchport private-vlan trunk native vlan tag**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** デフォルトの設定はグローバルです。ポートの設定は、グローバル設定によって決定されます。

**コマンドモード** インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
	12.2(18)EW	<b>vlan-id</b> キーワードが削除されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用して作成された設定は、PVLAN トランクとして設定されたポートにのみ適用されます。

**例** 次に、PVLAN トランク上の 802.1Q ネイティブ VLAN タグgingをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport private-vlan trunk native vlan tag
Switch(config-if)#
```

**関連コマンド** [show interfaces switchport](#)  
[switchport mode](#)

# switchport trunk

インターフェイスがトランキング モードの場合にトランクの特性を設定するには、**switchport trunk** コマンドを使用します。すべてのトランキング特性をデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**switchport trunk encapsulation {isl | dot1q | negotiate}**

**no switchport trunk encapsulation**

**switchport trunk native vlan {tag | vlan\_id}**

**no switchport trunk native vlan {tag | vlan\_id}**

**switchport trunk allowed vlan vlan\_list**

**no switchport trunk allowed vlan vlan\_list**

**switchport trunk pruning vlan vlan\_list**

**no switchport trunk pruning vlan vlan\_list**

## シンタックスの説明

<b>encapsulation isl</b>	トランクのカプセル化形式を ISL (スイッチ間リンク) に設定します。
<b>encapsulation dot1q</b>	トランクのカプセル化形式を 802.1Q に設定します。
<b>encapsulation negotiate</b>	Dynamic Inter-Switch Link (DISL) および Dynamic Trunking Protocol (DTP; ダイナミック トランキング プロトコル) ネゴシエーションでカプセル化形式が解決されない場合に、ISL がカプセル化形式として選択されるように指定します。
<b>native vlan tag</b>	802.1Q トランク上のネイティブ VLAN (仮想 LAN) トラフィックのタグgingを指定します。
<b>native vlan vlan_id</b>	802.1Q トランキング モードのトランクにネイティブ VLAN を設定します。
<b>allowed vlan vlan_list</b>	トランキング モードの場合に、このインターフェイスをタグなし形式で伝送する許容 VLAN のリストを設定します。vlan_list の書式に関する注意事項については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<b>pruning vlan vlan_list</b>	スイッチがトランキング モードの場合に、VLAN Trunk Protocol (VTP; VLAN トランク プロトコル) プルーニングがイネーブルに設定された VLAN のリストを設定します。vlan_list の書式に関する注意事項については、「使用上のガイドライン」を参照してください。

## デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- カプセル化タイプは、プラットフォームまたはインターフェイス ハードウェアによって決まります。
- プラットフォームまたはインターフェイス ハードウェアに対応するデフォルト VLAN は、アクセス VLAN およびトランク インターフェイス ネイティブ VLAN です。
- すべての VLAN リストには、すべての VLAN が含まれます。
- グローバルにイネーブルな場合、ネイティブ VLAN タグgingはイネーブルです。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。
12.1(12c)EW	拡張アドレス指定のサポートが追加されました。
12.2(18)EW	ネイティブ VLAN タギングのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

`vlan_list` の書式は、**all** | **none** | [**add** | **remove** | **except**] `vlan_atom`[,`vlan_atom`...] です。それぞれの意味は、次のとおりです。

- **all** — 1 ~ 4,096 のすべての VLAN を指定します。リスト内のすべての VLAN を同時に設定できないコマンドでは、このキーワードがサポートされません。
- **none** — 空のリストを意味します。特定の VLAN を設定するか、または少なくとも 1 つの VLAN を設定する必要があるコマンドでは、このキーワードがサポートされません。
- **add** — 現在設定されている VLAN リストを置き換えないで、定義済み VLAN リストを追加します。
- **remove** — 現在設定されている VLAN リストを置き換えないで、リストから定義済み VLAN リストを削除します。
- **except** — 定義済み VLAN リストを除く、計算する必要がある VLAN を示します。
- `vlan_atom` — 1 ~ 4,094 の単一の VLAN 番号、または 2 つの VLAN 番号（小さい方が先、ハイフンで区切る）で指定する VLAN 範囲です。

**switchport trunk encapsulation** コマンドがサポートされるのは、ISL と 802.1Q の両方の形式をサポートするプラットフォームおよびインターフェイス ハードウェアに対してのみです。

**negotiate** キーワードを入力した場合、DISL および DTP ネゴシエーションでカプセル化形式が解決されなければ、ISL がカプセル化形式として選択されます。トランクのカプセル化形式をデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ネイティブ モード VLAN を装置に適したデフォルト VLAN にリセットするには、**native vlan** コマンドの **no** 形式を使用します。

リストをデフォルト リスト（すべての VLAN を許可）にリセットするには、**allowed vlan** コマンドの **no** 形式を使用します。

リストをデフォルト リスト（すべての VLAN に VTP プルーニングを許可）にリセットするには、**pruning vlan** コマンドの **no** 形式を使用します。

次に示す設定時の注意事項および制限事項は、802.1Q トランクを使用するときに適用され、これによってネットワークのトランッキングの構築方法が多少制限されます。

- 802.1Q トランクを介してシスコ製スイッチを接続するときは、802.1Q トランクのネイティブ VLAN がトランク リンクの両端で同じであることを確認してください。トランクの一端のネイティブ VLAN と反対側のネイティブ VLAN が異なると、スパニングツリー ループの原因になります。
- ネットワーク上のすべてのネイティブ VLAN についてスパニングツリーをディセーブルにせず、802.1Q トランクの VLAN 上のスパニングツリーをディセーブルにすると、スパニングツリー ループが発生することがあります。802.1Q トランクのネイティブ VLAN 上で、スパニングツリーをイネーブルのままにしておくことを推奨します。このようにできない場合は、ネットワークのすべての VLAN 上でスパニングツリーをディセーブルにしてください。スパニングツリーをディセーブルにする場合には、事前にネットワークに物理的なループが存在しないことを確認してください。

- 802.1Q トランクを介して 2 台のシスコ製スイッチを接続すると、トランク上で許容される VLAN ごとにスパニングツリー Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジプロトコル データ ユニット) が交換されます。トランクのネイティブ VLAN 上の BPDU は、タグなしの状態、予約された 802.1d スパニングツリー マルチキャスト MAC (メディア アクセス制御) アドレス (01-80-C2-00-00-00) に送信されます。トランクのほかのすべての VLAN 上の BPDU は、タグ付きの状態、予約された SSTP マルチキャスト MAC アドレス (01-00-0c-cc-cc-cd) に送信されます。
- シスコ以外の 802.1Q スイッチでは、すべての VLAN に対してスパニングツリー トポロジを定義するスパニングツリーのインスタンス (MST) が 1 つしか維持されません。802.1Q トランクを介してシスコ製スイッチをシスコ以外のスイッチに接続すると、シスコ以外のスイッチの MST とシスコ製スイッチのネイティブ VLAN スパニングツリーが組み合わせられて、CST と呼ばれる単一のスパニングツリー トポロジが形成されます。
- シスコ製スイッチは、トランクのネイティブ VLAN 以外の VLAN にある SSTP マルチキャスト MAC アドレスに BPDU を送信します。したがって、シスコ以外のスイッチではこれらのフレームが BPDU として認識されず、対応する VLAN のすべてのポート上でフラッドされます。シスコ以外の 802.1Q ネットワークに接続されたほかのシスコ製スイッチは、フラッドされたこれらの BPDU を受信します。シスコ製スイッチはフラッドされた BPDU を受信するため、シスコ以外の 802.1Q スイッチからなるネットワークを通して、VLAN 単位でスパニングツリー トポロジを維持できます。シスコ製スイッチと分離されたシスコ以外の 802.1Q ネットワークは、802.1Q トランクを介してシスコ以外の 802.1Q ネットワークに接続されたすべてのスイッチ間の単一のブロードキャスト セグメントとして処理されます。
- シスコ製スイッチをシスコ以外の 802.1Q ネットワークに接続するすべての 802.1Q トランク上で、ネイティブ VLAN が同じであることを確認します。
- シスコ以外の 802.1Q ネットワークに複数のシスコ製スイッチを接続する場合は、802.1Q トランクを介してすべて接続する必要があります。ISL トランクまたはアクセス ポートを介して、シスコ製スイッチをシスコ以外の 802.1Q ネットワークに接続することはできません。このように接続すると、スイッチの ISL トランク ポートまたはアクセス ポートがスパニングツリー「ポート不一致」ステートになり、ポートを介してトラフィックが送信されなくなります。

ネイティブ VLAN タギングに関する注意事項は、次のとおりです。

- **no switchport trunk native vlan tag** コマンドは、ポートのネイティブ VLAN タギング操作をディセーブルにします。これは、グローバル タギング設定を無効にします。
- **switchport trunk native vlan tag** コマンドを使用すると、ディセーブルなポートのタギングを再びイネーブルにできます。
- スイッチが再起動するたびにユーザが手動でポートを選択しタギング操作をディセーブルにする必要がないように、**no** オプションは NVRAM (不揮発性 RAM) に保存されます。
- **switchport trunk native vlan tag** コマンドがイネーブルでアクティブな場合、ネイティブ VLAN 上のすべてのパケットがタグ付けされ、入力タグなしパケットは廃棄されます。タグなし制御パケットは受け入れられません。

## 例

次に、スイッチド インターフェイスとして設定されたポート インターフェイスが、トランキングモードのデフォルトのトランキング形式に関係なく、802.1Q トランキング形式でカプセル化されるように設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation dot1q
Switch(config-if)#
```

次に、ポート上の 802.1Q タギングをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport trunk native vlan tag
Switch(config-if)#
```

次に、ギガビットイーサネットポート1のすべてのVLANに対し、セキュアMACアドレスを設定し、セキュアMACアドレスの上限を指定する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation dot1q
Switch(config-if)# switchport mode trunk
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# switchport port-security maximum 3
```

次に、ギガビットイーサネットポート1の特定VLANまたはVLAN範囲内に、セキュアMACアドレスを設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation dot1q
Switch(config-if)# switchport mode trunk
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# vlan-range 2-6
Switch(config-if-vlan-range)# port-security maximum 3
```

次に、ギガビットイーサネットポート1のVLAN内にセキュアMACアドレスを設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/1
Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation dot1q
Switch(config-if)# switchport mode trunk
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# switchport port-security mac-address sticky
Switch(config-if)# vlan-range 2-6
Switch(config-if-vlan-range)# port-security mac-address 1.1.1
Switch(config-if-vlan-range)# port-security mac-address sticky 1.1.2
Switch(config-if-vlan-range)# port-security mac-address sticky 1.1.3
```

設定を確認するには、**show port-security interface vlan** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

[show interfaces switchport](#)

## system mtu

レイヤ 2 またはレイヤ 3 の最大ペイロード サイズを設定するには、**system mtu** コマンドを使用します。デフォルトの Maximum Transmission Unit (MTU; 最大伝送ユニット) 設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
system mtu datagram-size
```

```
no system mtu
```

シンタックスの説明	<i>datagram-size</i>	レイヤ 2 ペイロード サイズを指定します。有効値は 1,500 ~ 1,552 バイトです。
-----------	----------------------	---

**デフォルト** デフォルトの MTU 設定は 1,500 バイトです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** *datagram-size* パラメータは、イーサネット フレームの合計サイズでなく、イーサネット ペイロード サイズを指定します。**system mtu** コマンドを変更すると、レイヤ 3 MTU が変更されます。

モデル WS-X4418-GB のポート 3 ~ 18、およびモデル WS-X4412-2GB-TX のポート 1 ~ 12 では、標準 IEEE イーサネット ペイロード サイズである 1,500 バイトのみがサポートされます。

その他のモジュールでは、イーサネット ペイロード サイズとして最大 1,552 バイト、およびイーサネット フレームの合計サイズとして最大 1,600 バイトがサポートされます。

**例** 次に、MTU サイズを 1,550 バイトに設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# system mtu 1550
Switch(config)# end
Switch#
```

次に、MTU のデフォルト設定に戻す例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# no system mtu
Switch(config)# end
Switch#
```

**関連コマンド** [show interfaces](#)  
[show system mtu](#)

## test cable-diagnostics tdr

48 ポート 10/100/1000BASE-T モジュールで銅ケーブルの状態をテストするには、**test cable-diagnostics tdr** コマンドを使用します。

```
test cable-diagnostics tdr {interface {interface interface-number}}
```



(注)

このコマンドは、将来の Cisco IOS リリースでは廃止される予定です。**diagnostic start** コマンドを使用してください。

### シンタックスの説明

<b>interface interface</b>	(任意) インターフェイス タイプです。有効値は <b>fastethernet</b> および <b>gigabitethernet</b> です。
<b>interface-number</b>	モジュールおよびポート番号です。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

特権 EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)SG	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチでサポートされるようになりました。

### 使用上のガイドライン

TDR テストは、Cisco IOS Release 12.2(25)SG を実行する Catalyst 4500 シリーズ スイッチにおいて、以下のラインカードのみでサポートされます。

- WS-X4548-GB-RJ45
- WS-X4548-GB-RJ45V
- WS-X4524-GB-RJ45V
- WS-X4013+TS
- WS-C4948
- WS-C4948-10GE

**interface interface** の有効値は **fastethernet** および **gigabitethernet** です。

このテストは、ケーブルの両端で同時に開始しないでください。ケーブルの両端でテストを同時に開始すると、テストの結果が不正確となる可能性があります。

どのケーブル診断テストの場合でも、テストの実行中にポートのコンフィギュレーションを変更しないでください。テスト結果が不正確になる可能性があります。

インターフェイスは、TDR テストの開始前に動作している必要があります。ポートがダウンしている場合は、テスト結果が無効となります。ポートで **no shutdown** コマンドを実行してください。

### 例

次に、モジュール 2 のポート 1 で TDR テストを開始する例を示します。

```
Switch# test cable-diagnostics tdr int gi2/1
Switch#
```



次に、TDR テストがモジュールでサポートされていない場合に表示されるメッセージの例を示します。

```
Switch# test cable-diagnostics tdr int gi2/1
00:03:15:%C4K_IOSDIAGMAN-4-TESTNOTSUPPORTEDONMODULE: Online cable
diag tdr test is not supported on this module
Switch#
```



(注)

TDR テストの結果を表示するには、**show cable-diagnostic tdr** コマンドを使用します。テストの結果は、テストの開始から約 1 分経過しないと取得可能になりません。テストの開始後 1 分以内に **show cable-diagnostic tdr** コマンドを入力すると、[TDR test is in progress on interface...] というメッセージが表示されます。

#### 関連コマンド

[show cable-diagnostics tdr](#)

## tracertoute mac

指定した送信元 MAC（メディア アクセス制御）アドレスから、指定した宛先 MAC アドレスまでの、パケットのレイヤ 2 パスを表示するには、**tracertoute mac** コマンドを使用します。

```
tracertoute mac [interface interface-id] {source-mac-address} [interface interface-id]
                {destination-mac-address} [vlan vlan-id] [detail]
```

### シンタックスの説明

<b>interface interface-id</b>	(任意) 送信元または宛先スイッチ インターフェイスを指定します。
<b>source-mac-address</b>	送信元スイッチの MAC アドレス (16 進形式) です。
<b>destination-mac-address</b>	宛先スイッチの MAC アドレス (16 進形式) です。
<b>vlan vlan-id</b>	(任意) パケットが送信元スイッチから宛先スイッチまでに通過するレイヤ 2 パスをトレースする VLAN (仮想 LAN) を指定します。有効な VLAN ID は 1 ~ 4,094 です。先行ゼロは入力しないでください。
<b>detail</b>	(任意) 詳細情報を表示します。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

特権 EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(15)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

VLAN ID を入力する場合は、先行ゼロを入力しないでください。

レイヤ 2 tracertoute 機能は次のスイッチで利用できます。

- Catalyst 2950 スイッチ (Release 12.1(12c)EA1 以上が稼働)
- Catalyst 3550 スイッチ (Release 12.1(12c)EA1 以上が稼働)
- Catalyst 4500 シリーズ スイッチ (スーパーバイザ エンジン用の Catalyst オペレーティング システム Release 6.2 以上が稼働)
- Catalyst 4500 シリーズ スイッチ (Release 12.1(15)EW 以上が稼働)
- Catalyst 5000 ファミリー スイッチ (スーパーバイザ エンジン用の Catalyst オペレーティング システム Release 6.1 以上が稼働)
- Catalyst 6500 シリーズ スイッチ (スーパーバイザ エンジン用の Catalyst オペレーティング システム Release 6.1 以上が稼働)

レイヤ 2 tracertoute を正常に機能させるには、ネットワーク内のすべてのスイッチで Cisco Discovery Protocol (CDP; シスコ検出プロトコル) をイネーブルにする必要があります。CDP はディセーブルにしないでください。

レイヤ 2 tracertoute に対応していないデバイスがレイヤ 2 パス上に検出されると、スイッチはレイヤ 2 トレース クエリーを送信し続けて、それらをタイムアウトにします。

パス内で識別できる最大ホップ数は 10 です。

レイヤ 2 tracertoute が対応しているのはユニキャスト トラフィックのみです。マルチキャスト送信元 MAC アドレスまたはマルチキャスト宛先 MAC アドレスを指定した場合、物理パスは識別されず、メッセージが表示されます。

指定された送信元および宛先アドレスが同じ VLAN に属している場合、**traceroute mac** コマンド出力は、レイヤ 2 パスを表示します。指定した送信元および宛先アドレスがそれぞれ異なる VLAN に属する場合、レイヤ 2 パスは識別されず、メッセージが表示されます。

送信元または宛先 MAC アドレスが複数の VLAN に属している場合は、送信元および宛先 MAC アドレスが両方属する VLAN を指定する必要があります。このような VLAN を指定しないと、パスは識別されず、メッセージが表示されます。

複数の装置がハブを通じて 1 つのポートに接続されている場合(たとえば複数の CDP ネイバが 1 つのポートで検出される場合)、レイヤ 2 **traceroute** はサポートされません。1 つのポートで複数の CDP ネイバが検出された場合、レイヤ 2 パスは識別されず、メッセージが表示されます。

この機能は、トークンリング VLAN ではサポートされません。

**例** 次に、送信元および宛先 MAC アドレスを指定してレイヤ 2 パスを表示する例を示します。

```
Switch# traceroute mac 0000.0201.0601 0000.0201.0201

Source 0000.0201.0601 found on con6 [WS-C2950G-24-EI] (2.2.6.6)
con6 (2.2.6.6) :Fa0/1 =>Fa0/3
con5          (2.2.5.5      ) :   Fa0/3 =>Gi0/1
con1          (2.2.1.1      ) :   Gi0/1 =>Gi0/2
con2          (2.2.2.2      ) :   Gi0/2 =>Fa0/1
Destination 0000.0201.0201 found on con2 [WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed
Switch#
```

次に、レイヤ 2 パスの詳細を表示する例を示します。

```
Switch# traceroute mac 0000.0201.0601 0000.0201.0201 detail
Source 0000.0201.0601 found on con6 [WS-C2950G-24-EI] (2.2.6.6)
con6 / WS-C2950G-24-EI / 2.2.6.6 :
      Fa0/1 [auto, auto] =>Fa0/3 [auto, auto]
con5 / WS-C2950G-24-EI / 2.2.5.5 :
      Fa0/3 [auto, auto] =>Gi0/1 [auto, auto]
con1 / WS-C3550-12G / 2.2.1.1 :
      Gi0/1 [auto, auto] =>Gi0/2 [auto, auto]
con2 / WS-C3550-24 / 2.2.2.2 :
      Gi0/2 [auto, auto] =>Fa0/1 [auto, auto]
Destination 0000.0201.0201 found on con2 [WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed.
Switch#
```

次に、スイッチが送信元スイッチに接続されていない場合のレイヤ 2 パスを示します。

```
Switch# traceroute mac 0000.0201.0501 0000.0201.0201 detail
Source not directly connected, tracing source .....
Source 0000.0201.0501 found on con5 [WS-C2950G-24-EI] (2.2.5.5)
con5 / WS-C2950G-24-EI / 2.2.5.5 :
      Fa0/1 [auto, auto] =>Gi0/1 [auto, auto]
con1 / WS-C3550-12G / 2.2.1.1 :
      Gi0/1 [auto, auto] =>Gi0/2 [auto, auto]
con2 / WS-C3550-24 / 2.2.2.2 :
      Gi0/2 [auto, auto] =>Fa0/1 [auto, auto]
Destination 0000.0201.0201 found on con2 [WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed.
Switch#
```

次に、送信元 MAC アドレスの宛先ポートが見つからない場合のレイヤ 2 パスを示します。

```
Switch# traceroute mac 0000.0011.1111 0000.0201.0201
Error:Source Mac address not found.
Layer2 trace aborted.
Switch#
```

次に、送信元および宛先デバイスがそれぞれ異なる VLAN に属する場合のレイヤ 2 パスを示します。

```
Switch# traceroute mac 0000.0201.0601 0000.0301.0201
Error:Source and destination macs are on different vlans.
Layer2 trace aborted.
Switch#
```

次に、宛先 MAC アドレスがマルチキャストアドレスである場合のレイヤ 2 パスを示します。

```
Switch# traceroute mac 0000.0201.0601 0100.0201.0201
Invalid destination mac address
Switch#
```

次に、送信元および宛先スイッチが複数の VLAN に属する場合のレイヤ 2 パスを示します。

```
Switch# traceroute mac 0000.0201.0601 0000.0201.0201
Error:Mac found on multiple vlans.
Layer2 trace aborted.
Switch#
```

次に、送信元および宛先スイッチのインターフェイスを指定してレイヤ 2 パスを表示する例を示します。

```
Switch# traceroute mac interface fastethernet0/1 0000.0201.0601 interface fastethernet0/3 0000.0201.0201
Source 0000.0201.0601 found on con6 [WS-C2950G-24-EI] (2.2.6.6)
con6 (2.2.6.6) :Fa0/1 =>Fa0/3
con5 (2.2.5.5 ) : Fa0/3 =>Gi0/1
con1 (2.2.1.1 ) : Gi0/1 =>Gi0/2
con2 (2.2.2.2 ) : Gi0/2 =>Fa0/1
Destination 0000.0201.0201 found on con2 [WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed
Switch#
```

関連コマンド **traceroute mac ip**

# traceroute mac ip

指定した送信元 IP アドレスまたはホスト名から、指定した宛先 IP アドレスまたはホスト名までの、パケットのレイヤ 2 パスを表示するには、**traceroute mac** コマンドを使用します。

```
traceroute mac ip {source-ip-address | source-hostname} {destination-ip-address |
destination-hostname} [detail]
```

## シンタックスの説明

<i>source-ip-address</i>	32 ビットの数値（ドット付き 10 進表記）で指定された送信元スイッチの IP アドレスです。
<i>destination-ip-address</i>	32 ビットの数値（ドット付き 10 進表記）で指定された宛先スイッチの IP アドレスです。
<i>source-hostname</i>	送信元スイッチの IP ホスト名です。
<i>destination-hostname</i>	宛先スイッチの IP ホスト名です。
<b>detail</b>	（任意）traceroute MAC（メディア アクセス制御）IP の詳細情報を表示します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

レイヤ 2 traceroute 機能は次のスイッチで利用できます。

- Catalyst 2950 スイッチ（Release 12.1(12c)EA1 以上が稼働）
- Catalyst 3550 スイッチ（Release 12.1(12c)EA1 以上が稼働）
- Catalyst 4500 シリーズスイッチ（スーパーバイザエンジン用の Catalyst オペレーティングシステム Release 6.2 以上が稼働）
- Catalyst 4500 シリーズスイッチ（Release 12.1(15)EW 以上が稼働）
- Catalyst 5000 ファミリースイッチ（スーパーバイザエンジン用の Catalyst オペレーティングシステム Release 6.1 以上が稼働）
- Catalyst 6500 シリーズスイッチ（スーパーバイザエンジン用の Catalyst オペレーティングシステム Release 6.1 以上が稼働）

レイヤ 2 traceroute を正常に機能させるには、ネットワーク内のすべてのスイッチで Cisco Discovery Protocol (CDP; シスコ検出プロトコル) をイネーブルにする必要があります。CDP はディセーブルにしないでください。

レイヤ 2 traceroute に対応していないデバイスがレイヤ 2 パス上に検出されると、スイッチはレイヤ 2 トレースクエリーを送信し続けて、それらをタイムアウトにします。

パス内で識別できる最大ホップ数は 10 です。

指定された送信元および宛先 IP アドレスが同じサブネットに存在している場合、**traceroute mac ip** コマンド出力は、レイヤ 2 パスを表示します。IP アドレスを指定すると、スイッチは Address Resolution Protocol (ARP; アドレス レゾリューションプロトコル) を使用して、IP アドレスと対応する MAC アドレスおよび VLAN（仮想 LAN）ID を関連付けます。

- 指定された IP アドレスに対応する ARP エントリが存在する場合、スイッチは関連する MAC アドレスを使用し、物理パスを識別します。
- 指定された IP アドレスに対応する ARP エントリが存在しない場合、スイッチは ARP クエリーを送信し、IP アドレスを解決しようとします。IP アドレスは同じサブネット内になくてもなりません。IP アドレスが解決されないと、パスは識別されず、メッセージが表示されます。

複数の装置がハブを通じて1つのポートに接続されている場合(たとえば複数の CDP ネイバが1つのポートで検出される場合)、レイヤ 2 **tracertoute** はサポートされません。1つのポートで複数の CDP ネイバが検出された場合、レイヤ 2 パスは識別されず、エラーメッセージが表示されます。

この機能は、トークンリング VLAN ではサポートされません。

## 例

次に、送信元および宛先 IP アドレスを指定し、**detail** キーワードを使用して、レイヤ 2 パスを表示する例を示します。

```
Switch# tracertoute mac ip 2.2.66.66 2.2.22.22 detail
Translating IP to mac.....
2.2.66.66 =>0000.0201.0601
2.2.22.22 =>0000.0201.0201

Source 0000.0201.0601 found on con6 [WS-C2950G-24-EI] (2.2.6.6)
con6 / WS-C2950G-24-EI / 2.2.6.6 :
      Fa0/1 [auto, auto] =>Fa0/3 [auto, auto]
con5 / WS-C2950G-24-EI / 2.2.5.5 :
      Fa0/3 [auto, auto] =>Gi0/1 [auto, auto]
con1 / WS-C3550-12G / 2.2.1.1 :
      Gi0/1 [auto, auto] =>Gi0/2 [auto, auto]
con2 / WS-C3550-24 / 2.2.2.2 :
      Gi0/2 [auto, auto] =>Fa0/1 [auto, auto]
Destination 0000.0201.0201 found on con2 [WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed.
Switch#
```

次に、送信元および宛先ホスト名を指定して、レイヤ 2 パスを表示する例を示します。

```
Switch# tracertoute mac ip con6 con2
Translating IP to mac .....
2.2.66.66 =>0000.0201.0601
2.2.22.22 =>0000.0201.0201

Source 0000.0201.0601 found on con6
con6 (2.2.6.6) :Fa0/1 =>Fa0/3
con5           (2.2.5.5       ) :   Fa0/3 =>Gi0/1
con1           (2.2.1.1       ) :   Gi0/1 =>Gi0/2
con2           (2.2.2.2       ) :   Gi0/2 =>Fa0/1
Destination 0000.0201.0201 found on con2
Layer 2 trace completed
Switch#
```

次に、ARP が送信元 IP アドレスに対応する MAC アドレスに関連付けることができない場合のレイヤ 2 パスを示します。

```
Switch# tracertoute mac ip 2.2.66.66 2.2.77.77
Arp failed for destination 2.2.77.77.
Layer2 trace aborted.
Switch#
```

## 関連コマンド

[tracertoute mac](#)

# trust

**class** ポリシーマップ コンフィギュレーション コマンドで分類されたトラフィックの信頼状態を定義するには、**trust** ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
trust [cos | dscp]
```

```
no trust [cos | dscp]
```

シンタックスの説明	
<b>cos</b>	(任意) パケット Class of Service (Cos; サービス クラス) 値を使用し入力パケットを分類します。タグなしのパケットについては、ポートのデフォルトの CoS 値が使用されます。
<b>dscp</b>	(任意) パケット Differentiated Services Code Point (DSCP) 値を (8 ビットのサービスタイプフィールドの最上位の 6 ビット) 使用し入力パケットを分類します。IP パケットではないものについては、パケットにタグがついている場合、パケットの CoS 値が使用されます。パケットにタグがない場合、CoS を DSCP にマッピングするためにデフォルトのポート CoS 値が使用されます。

**デフォルト** 処理は信頼されていません。

**コマンドモード** ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

このコマンドは、別のトラフィックと特定のトラフィックの QoS (Quality of Service) 信頼動作を区別するために使用します。たとえば、特定の DSCP 値を持つ着信トラフィックを信頼するとします。着信トラフィックのその DSCP 値が一致し信頼されるようにクラス マップを設定します。

このコマンドで設定した信頼値は **qos trust** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドで設定した信頼値に優先されます。

**trust cos** を指定すると、QoS は受信したまたはデフォルトのポートの CoS 値、および CoS から DSCP への対応付けを使用しパケットの DSCP 値を生成します。

**trust dscp** を指定すると、QoS は入力パケットの DSCP 値を使用します。タグがある非 IP パケットについては、QoS は受信した CoS 値を使用します。タグがない非 IP パケットについては、QoS はデフォルトのポート CoS 値を使用します。いずれの場合にも、パケットの DSCP 値は CoS から DSCP への対応付けから得られます。

ポリシーマップ コンフィギュレーション モードに戻るには、**exit** コマンドを使用します。特権 EXEC モードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

**例** 次に、“class1”に分類されている着信 DSCP 値を信頼するようにポートの信頼状態を定義する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# policy-map policy1
Switch(config-pmap)# class class1
Switch(config-pmap-c)# trust dscp
Switch(config-pmap-c)# police 1000000 20000 exceed-action policed-dscp-transmit
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch#
```

**show policy-map** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

#### 関連コマンド

- [class](#)
- [police](#)
- [policy-map](#)
- [set](#)
- [show policy-map](#)



## tx-queue

インターフェイスの送信キュー パラメータを設定するには、**tx-queue** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
tx-queue [queue-id] {bandwidth bandwidth-rate | priority high | shape shape-rate}
```

```
no tx-queue
```

シンタックスの説明	
<b>queue-id</b>	(任意) キューの番号です。有効値は 1 ~ 4 です。
<b>bandwidth</b> bandwidth-rate	トラフィック帯域幅を指定します。有効値は 16,000 ~ 1,000,000,000 ビット/秒です。
<b>priority</b> high	高プライオリティを指定します。
<b>shape</b> shape-rate	送信キューを介してパケットを送受信する最大速度を指定します。有効値は 16,000 ~ 1,000,000,000 ビット/秒です。

### デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- カプセル化タイプは、プラットフォームまたはインターフェイス ハードウェアによって決まります。
- QoS (Quality Of Service) がイネーブルの場合の帯域幅レートは 4:255 です。
- QoS がディセーブルの場合の帯域幅レートは 255:1 です。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

帯域幅およびシェープ レートは、インターフェイスの最大速度を超えることができません。

帯域幅を設定できるのは、次のポートに限られます。

- Supervisor Engine III (WS-X4014) 上のアップリンク ポート
- WS-X4306-GB モジュール上のポート
- WS-X4232-GB-RJ モジュール上の 2 つの 1000BASE-X ポート
- WS-X4418-GB モジュール上の最初の 2 つのポート
- WS-X4412-2GB-TX モジュール上の 2 つの 1000BASE-X ポート

高プライオリティの送信キューに設定できるのは、送信キュー 3 のみです。

### 例

次に、キューの帯域幅を 1 ~ 100 Mbps に割り当てる例を示します。

```
Switch(config-if)# tx-queue 1
Switch(config-if-tx-queue)# bandwidth 100000000
Switch(config-if-tx-queue)#
```

次に、送信キュー 3 を高プライオリティに設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# tx-queue 3
Switch(config-if-tx-queue)# priority high
Switch(config-if-tx-queue)#
```

次に、送信キュー 1 にトラフィック シェープ レート 64 kbps を設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# tx-queue 1
Switch(config-if-tx-queue)# shape 64000
Switch(config-if-tx-queue)#
```

---

**関連コマンド**

[show qos interface](#)

## udld (グローバル コンフィギュレーション モード)

UniDirectional Link Detection Protocol (UDLD; 単一方向リンク検出) プロトコルにおいてアグレッシブ モードまたは標準モードをイネーブルにしたり、設定可能なメッセージ タイマーの時刻を設定するには、**udld** コマンドを使用します。次の処理を行うには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

- すべての光ファイバ ポート上で、標準モード UDLD をデフォルトでディセーブルにする。
- すべての光ファイバ ポート上で、アグレッシブ モード UDLD をデフォルトでディセーブルにする。
- メッセージ タイマーをディセーブルにする。

**udld enable | aggressive**

**no udld enable | aggressive**

**udld message time message-timer-time**

**no udld message time**

### シンタックスの説明

<b>enable</b>	すべての光ファイバ インターフェイス上で、標準モード UDLD をデフォルトでイネーブルにします。
<b>aggressive</b>	すべての光ファイバ インターフェイス上で、アグレッシブ モード UDLD をデフォルトでイネーブルにします。
<b>message time</b> <i>message-timer-time</i>	アドバタイズ モードであり、現在双方向であると判別されているポートに、UDLD プローブ メッセージの間隔を設定します。有効値は 7 ~ 90 秒です。

### デフォルト

すべての光ファイバ インターフェイスはディセーブルです。メッセージ タイマーの期限は 15 秒です。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

アグレッシブ モードがイネーブルである場合、ポートのすべてのネイバがアドバタイズ フェーズまたは検出フェーズ中に期限切れになると、UDLD はリンクアップ シーケンスを再開して、同期外れになる可能性のあるネイバと再同期し、リンクからのメッセージ トレインが未定の場合は、ポートをシャット ダウンしようとします。

このコマンドは、光ファイバ インターフェイスにのみ作用します。他のインターフェイス タイプで UDLD をイネーブルにする場合は、**udld (インターフェイス コンフィギュレーション モード)** コマンドを使用します。

### 例

次に、すべての光ファイバ インターフェイスで UDLD をイネーブルにする例を示します。

```
Switch (config)# udld enable
Switch (config)#
```

### 関連コマンド

**show udld**  
**udld (インターフェイス コンフィギュレーション モード)**

## udld (インターフェイス コンフィギュレーション モード)

インターフェイスごとに個別に UniDirectional Link Detection Protocol (UDLD; 単一方向リンク検出) をイネーブルにしたり、光ファイバ インターフェイスが **udld (グローバル コンフィギュレーション モード)** コマンドでイネーブル化されないようにするには、**udld** コマンドを使用します。**udld (グローバル コンフィギュレーション モード)** コマンドの設定に戻す場合、またはポートが光ファイバ以外のポートである場合に UDLD をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
udld {enable | aggressive | disable}
```

```
no udld {enable | aggressive | disable}
```

### シンタックスの説明

<b>enable</b>	現在のインターフェイス上で UDLD をイネーブルにします。
<b>aggressive</b>	現在のインターフェイス上でアグレッシブ モード UDLD をイネーブルにします。
<b>disable</b>	現在のインターフェイス上で UDLD をディセーブルにします。

### デフォルト

光ファイバ インターフェイスは、グローバルな **udld (enable または aggressive)** コマンドの状態ごとに、イネーブルになります。UDLD がディセーブルの場合、光ファイバ以外のインターフェイスはイネーブルになります。

### コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

アグレッシブ モードがイネーブルである場合、ポートのすべてのネイバがアドバタイズ フェーズまたは検出フェーズ中に期限切れになると、UDLD はリンクアップ シーケンスを再開して、同期外れになる可能性のあるネイバと再同期し、リンクからのメッセージトレインが未定の場合は、ポートをシャットダウンしようとしています。

UDLD の制御をグローバルな **udld enable** コマンドに戻したり、UDLD を光ファイバ以外のポートでディセーブルにするには、光ファイバポートに対して **no udld enable** コマンドを使用します。

グローバルな **udld (enable または aggressive)** コマンドの設定を上書きするには、光ファイバポートに対して **udld aggressive** コマンドを使用します。この設定を削除して UDLD のイネーブル化に関する制御をグローバルな **udld** コマンドに戻したり、UDLD を光ファイバ以外のポートでディセーブルにするには、光ファイバポートに対して **no** 形式を使用します。

**disable** キーワードは、光ファイバポートでのみサポートされています。この設定を削除して、UDLD の制御を **udld (グローバル コンフィギュレーション モード)** コマンドに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ポートが光ファイバポートから光ファイバ以外のポートに、またはその逆に変更された場合でも、プラットフォーム ソフトウェアによってモジュールまたは GBIC (ギガビット インターフェイス コンバータ) の変更が検出されるため、すべての設定が維持されます。

**例** 次に、現在のグローバルな **udld (グローバル コンフィギュレーション モード)** 設定に関係なく、任意のポート インターフェイスで UDLD をイネーブルにする例を示します。

```
Switch (config-if)# udld enable
Switch (config-if)#
```

次に、現在のグローバルな **udld (enable または aggressive)** 設定に関係なく、任意のポート インターフェイス上でアグレッシブ モード UDLD をイネーブルにする例を示します。

```
Switch (config-if)# udld aggressive
Switch (config-if)#
```

次に、現在のグローバルな **udld (グローバル コンフィギュレーション モード)** 設定に関係なく、すべての光ファイバ ポート インターフェイスで UDLD をディセーブルにする例を示します。

```
Switch (config-if)# udld disable
Switch (config-if)#
```

#### 関連コマンド

**show udld**  
**udld (グローバル コンフィギュレーション モード)**

# uddl reset

シャットダウン状態のすべての UniDirectional Link Detection Protocol (UDLD; 単一方向リンク検出) ポートをリセットするには、**uddl reset** コマンドを使用します。

## uddl reset

**シンタックスの説明** このコマンドには、キーワードまたは変数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** UDLD のインターフェイス コンフィギュレーションがまだイネーブルの場合、これらのポートは UDLD の再実行を開始します。原因が修正されていない場合は、何らかの理由によりポートがシャットダウンすることがあります。

**uddl reset** コマンドを使用すると、トラフィックはポートを再び通過できるようになります。スパニングツリー、Port Aggregation Protocol (PAgP; ポート集約プロトコル)、Dynamic Trunking Protocol (DTP; ダイナミック トランキング プロトコル) など、その他の機能がイネーブルである場合、これらの機能は通常どおり機能します。

**例** 次に、UDLD によってシャットダウンされたすべてのポートをリセットする例を示します。

```
Switch# uddl reset
Switch#
```

**関連コマンド** [show uddl](#)

# unidirectional

インターフェイス上でトラフィックの単一方向通信（送信または受信）を行うように、ノンブロッキングギガビットイーサネットポートを設定するには、**unidirectional** コマンドを使用します。単一方向通信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
unidirectional {receive-only | send-only}
```

```
no unidirectional {receive-only | send-only}
```

## シンタックスの説明

<b>receive-only</b>	受信のみを行うように指定します。
<b>send-only</b>	送信のみを行うように指定します。

## デフォルト

ディセーブルです。

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

ポートの単一方向モードをイネーブルにすると、ポート上で UniDirectional Link Detection Protocol (UDLD; 単一方向リンク検出) が自動的にディセーブルになります。単一方向リンクによってネットワークにスパニングツリー ループが発生しないように、手動で設定する必要があります。

## 例

次に、インターフェイス `gigabitethernet 1/1` でトラフィックを単一方向で受信するように設定する例を示します。

```
Switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface gigabitethernet 1/1
Switch(config-if)# unidirectional receive-only
Switch(config-if)# end
Switch#
```

## 関連コマンド

[show interfaces switchport](#)

## username

ユーザ名に基づく認証システムを確立するには、**username** コマンドを使用します。

```
username name secret {0|5} password
```

シンタックスの説明	
<i>name</i>	ユーザのユーザ ID です。
<b>secret 0   5</b>	ユーザの認証システムを指定します。有効値は <b>0</b> (直後のテキストは暗号化されない) および <b>5</b> (直後のテキストは MD5 タイプ カプセル化方式を使用して暗号化される) です。
<i>password</i>	ユーザのパスワードです。

**デフォルト** ユーザ名に基づく認証システムは確立されません。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用すると、指定されたユーザ名に対して拡張パスワードセキュリティがイネーブルになります。また、パスワードの MD5 カプセル化がイネーブルになります。MD5 カプセル化は、解読不可能な強力な暗号化方式です。Challenge Handshake Authentication Protocol (CHAP; チャレンジハンドシェイク認証プロトコル) などのクリアテキストパスワードを必要とするプロトコルと、MD5 を併用することはできません。

このコマンドは、特殊な取り扱いが必要なユーザ名を定義する場合に使用できます。たとえば、パスワードが不要で、ユーザを汎用の情報サービスに接続する [info] ユーザ名を定義できます。

**username** コマンドは、ユーザ名認証、およびログイン専用の **secret** 認証を提供します。

*name* 引数に指定できるのは、1 ワードのみです。スペースや引用符は使用できません。

単一ユーザのオプションを指定する場合は、複数の **username** コマンドを使用できます。

**username** コマンドの詳細については、『Cisco IOS Command Reference』を参照してください。

**例** 次に、ユーザ名 (xena) のパスワード (warrior) に MD5 暗号化を指定する例を示します。

```
Switch(config)# username xena secret 5 warrior
Switch(config)#
```

**関連コマンド** **enable password** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

**enable secret** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

**username** (Cisco IOS のマニュアルを参照)



# verify

フラッシュ メモリ ファイル システムのファイルのチェックサムを確認するには、**verify** コマンドを使用します。

```
verify [/md5] [flash-filesystem:] [filename] [expected-md5-signature]
```

シンタックスの説明	
<b>/md5</b>	(任意) MD5 シグニチャを確認します。
<b>flash-filesystem:</b>	(任意) フラッシュ メモリが搭載された装置です。有効値は <b>bootflash:</b> 、 <b>slot0:</b> 、 <b>flash:</b> 、または <b>sup-bootflash:</b> です。
<b>filename</b>	(任意) Cisco IOS イメージの名前です。
<b>expected-md5-signature</b>	(任意) MD5 シグニチャです。

**デフォルト** 現在作業している装置が指定されます。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** ディスクに配信された各ソフトウェア イメージでは、イメージ全体のチェックサムが 1 つ使用されます。このチェックサムが表示されるのは、イメージがフラッシュ メモリにコピーされた場合のみです。

ディスクのイメージに含まれている **Readme** ファイルには、イメージの名前、ファイルサイズ、およびチェックサムが格納されています。**Readme** ファイルの内容を確認してから、新しいイメージのロードや複製を行ってください。このようにすると、**Readme** ファイルをフラッシュ メモリまたはサーバにコピーした場合に、チェックサムを確認できます。

ファイルの MD5 シグニチャを使用する前に、このシグニチャを確認するには、**verify /md5** コマンドを使用します。このコマンドは、事前に計算された MD5 シグニチャと、このコマンドによって計算されたシグニチャを比較して、コピーされたファイルの一貫性を検証します。2 つの MD5 シグニチャが一致する場合、コピーされたファイルは元のファイルと同じです。

Cisco.com ページでは、イメージとともに、公開された MD5 シグニチャを取得できます。

**verify /md5** コマンドは、次のいずれかの方法で使用できます。

- **verify /md5 filename** コマンドを入力して、MD5 シグニチャを手動で確認します。  
表示されたシグニチャを、Cisco.com ページに公開された MD5 シグニチャと比較します。
- **verify /md5 {flash-filesystem:filename} {expected-md5-signature}** コマンドを入力して、システムが MD5 シグニチャを比較できるようにします。

比較が終了すると、確認済みメッセージが表示されます。エラーが検出された場合は、次のような出力が表示されます。

```
Switch# verify /md5 slot0:c4-jsv-mz 0f
.....
.....
.....
.....
.....
.....Done!
%Error verifying slot0:c4-jsv-mz
Computed signature = 0f369ed9e98756f179d4f29d6e7755d3
Submitted signature = 0f
```

フラッシュ メモリの内容を表示するには、**show flash** コマンドを入力します。フラッシュ メモリの内容リストには、各ファイルのチェックサムは含まれません。イメージをフラッシュ メモリにコピーしたあとで、イメージのチェックサムを再計算したり、確認する場合は、**verify** コマンドを入力します。

装置を指定したあとに、コロン (:) を入力する必要があります。

## 例

次に、**verify** コマンドを使用する例を示します。

```
Switch# verify cat6k_r47_1.cbi
.....
File cat6k_r47_1.cbi verified OK.
Switch#
```

次に、MD5 シグニチャを手動でチェックする例を示します。

```
Switch# verify /md5 c4-jsv-mz
.....
.....
.....
.....Done!
verify /md5 (slot0:c4-jsv-mz) = 0f369ed9e98756f179d4f29d6e7755d3
Switch#
```

次に、システムが MD5 シグニチャを比較できるようにする例を示します。

```
Switch# verify /md5 slot0:c4-jsv-mz 0f369ed9e98756f179d4f29d6e7755d3
.....
.....
.....
.....Done!
verified /md5 (slot0:c6sup12-jsv-mz) = 0f369ed9e98756f179d4f29d6e7755d3
Switch#
```

## 関連コマンド

**show file system** (フラッシュ ファイル システム) (Cisco IOS のマニュアルを参照)  
**show flash** (Cisco IOS のマニュアルを参照)

## vlan (VLAN データベース モード)

特定の VLAN (仮想 LAN) を設定するには、**vlan** コマンドを使用します。VLAN を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
vlan vlan_id [are hops] [backupcrf mode] [bridge type | bridge-num] [media type] [mtu mtu-size]
[name vlan-name] [parent parent-vlan-id] [ring ring-number] [said said-value] [state {suspend |
active}] [stp type type] [tb-vlan1 tb-vlan1-id] [tb-vlan2 tb-vlan2-id]
```

```
no vlan vlan
```

### シンタックスの説明

<b>vlan_id</b>	VLAN の番号です。有効値は 1 ~ 4,094 です。
<b>are hops</b>	(任意) 現在の VLAN の All Route Explorer ホップの最大数を指定します。有効値は 0 ~ 13 です。値を指定しないと、0 が使用されます。
<b>backupcrf mode</b>	(任意) VLAN のバックアップ Concentrator Relay Function (CRF; コンセントレータ リレー機能) モードをイネーブルまたはディセーブルにします。有効値は <b>enable</b> および <b>disable</b> です。
<b>bridge type</b>	(任意) VLAN のブリッジング特性またはブリッジの ID 番号を指定します。type の有効値は <b>srb</b> および <b>srt</b> です。
<b>bridge_num</b>	(任意) bridge_num の有効値は 0 ~ 15 です。
<b>media type</b>	(任意) VLAN のメディア タイプを指定します。有効値は <b>fast ethernet</b> 、 <b>fd-net</b> 、 <b>fddi</b> 、 <b>trcrf</b> 、および <b>trbrf</b> です。
<b>mtu mtu-size</b>	(任意) VLAN が使用できる Maximum Transmission Unit (MTU; 最大伝送ユニット) (バイトで表したパケット サイズ) を指定します。有効値は 576 ~ 18,190 です。
<b>name vlan-name</b>	(任意) VLAN の名前として使用されるテキストストリングを定義します (1 ~ 32 文字)。
<b>parent parent-vlan-id</b>	(任意) Fiber Distributed Data Interface (FDDI) の親 VLAN またはトークンリングタイプ VLAN の ID 番号を指定します。有効値は 2 ~ 1,001 です。
<b>ring ring-number</b>	(任意) FDDI またはトークンリングタイプ VLAN のリング番号を指定します。有効値は 2 ~ 1,001 です。
<b>said said-value</b>	(任意) Security Association Identifier (SAID) を指定します。有効値は 1 ~ 4,294,967,294 です。
<b>state</b>	(任意) VLAN の状態を指定します。
<b>suspend</b>	VLAN の状態を一時停止にするように指定します。一時停止状態の VLAN は、パケットを送受信しません。
<b>active</b>	VLAN の状態をアクティブにするように指定します。
<b>stp type type</b>	(任意) Spanning-Tree Protocol (STP; スパニングツリー プロトコル) タイプを指定します。有効値は <b>ieee</b> 、 <b>ibm</b> 、および <b>auto</b> です。
<b>tb-vlan1 tb-vlan1-id</b>	(任意) 現在の VLAN の最初のトランスレーショナル VLAN の ID 番号を指定します。有効値は 2 ~ 1,001 です。値を指定しないと、0 が使用されます。
<b>tb-vlan2 tb-vlan2-id</b>	(任意) 現在の VLAN の 2 番目のトランスレーショナル VLAN の ID 番号を指定します。有効値は 2 ~ 1,001 です。値を指定しないと、0 が使用されます。

### デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- VLAN 名 — 「VLANxxxx」。「xxxx」は、VLAN ID 番号に等しい 4 桁の数値 (先行 0 を含む) を表します。
- メディア タイプ — fast ethernet

## ■ vlan (VLAN データベース モード)

- ステータス — アクティブ
- SAID 値 — 100,000 に VLAN ID 番号を加えた値
- MTU サイズ — デフォルト値は、VLAN タイプによって異なります。
  - fddi — 1500
  - trcrf — 1,500 (V2 がイネーブルでない場合) または 4,472 (V2 がイネーブルの場合)
  - fd-net — 1500
  - trbrf — 1,500 (V2 がイネーブルでない場合) または 4,472 (V2 がイネーブルの場合)
- リング番号 — 指定なし
- ブリッジ番号 — 指定なし
- 親 VLAN — 指定なし
- STP タイプ — 指定なし
- トランスレーショナルブリッジ VLAN — 指定なし

## コマンドモード

VLAN コンフィギュレーションモード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

## 使用上のガイドライン

VLAN 1 パラメータは出荷時に設定されていて、変更できません。

*vlan-name* を定義する場合は、管理ドメイン内で一意の名前を付ける必要があります。

SAID は 802.10 に記載されています。**no** 形式を使用すると、VLAN の SAID はデフォルトに戻ります。

*said-value* を定義する場合は、管理ドメイン内で一意の名前を付ける必要があります。

**bridge bridge-number** 引数は、トークンリングネットおよび FDDI ネット VLAN の場合のみ使用します。他のタイプの VLAN では、無視されます。**no** 形式を使用すると、VLAN のソースルートブリッジ番号はデフォルトに戻ります。

親 VLAN が削除されるか、または **media** キーワードによって VLAN タイプまたは親 VLAN の VLAN タイプが変更された場合、親 VLAN はデフォルトにリセットされます。

*tb-vlan1* および *tb-vlan2* は、特定の VLAN タイプのトランスレーショナルブリッジ VLAN を設定する場合に使用します。他のタイプの VLAN では、使用できません。トランスレーショナルブリッジ VLAN には、関係する VLAN と異なる VLAN タイプを指定する必要があります。2 つの VLAN を指定する場合は、それぞれ異なる VLAN タイプを指定する必要があります。

トランスレーショナルブリッジ VLAN が削除されるか、または **media** キーワードによって VLAN タイプまたは対応するトランスレーショナルブリッジ VLAN の VLAN タイプが変更された場合、トランスレーショナルブリッジ VLAN はデフォルトにリセットされます。

## 例

次に、新しい VLAN データベースに、すべてのパラメータがデフォルトである新しい VLAN を追加する例を示します。

```
Switch(vlan)# vlan 2
```



(注) VLAN がすでに存在する場合は、処理が行われません。

次に、新しい VLAN を追加し、メディア タイプおよび親 VLAN ID 番号 3 を指定し、他のパラメータがすべてデフォルトとなるように装置を設定する例を示します。

```
Switch(vlan)# vlan 2 media fastethernet parent 3  
VLAN 2 modified:  
Media type FASTETHERNET  
Parent VLAN 3
```

次に、VLAN 2 を削除する例を示します。

```
Switch(vlan)# no vlan 2  
Switch(vlan)#
```

次に、MTU を該当タイプのデフォルトに、トランスレーショナルブリッジング VLAN をデフォルトに戻す例を示します。

```
Switch(vlan)# no vlan 2 mtu tb-vlan1 tb-vlan2  
Switch(vlan)#
```

## 関連コマンド

[show vlan](#)

## vlan access-map

VLAN (仮想 LAN) アクセス マップを作成するための VLAN アクセスマップ コマンドモードを開始するには、**vlan access-map** コマンドを使用します。マッピング シーケンスまたはマップ全体を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
vlan access-map name [seq#]
```

```
no vlan access-map name [seq#]
```

### シンタックスの説明

<i>name</i>	VLAN アクセスマップのタグです。
<i>seq#</i>	(任意) マップのシーケンス番号です。有効値は 0 ~ 65,535 です。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

既存のマップ シーケンスのシーケンス番号を入力するには、VLAN アクセスマップ モードを開始します。シーケンス番号を指定しないと、番号が自動的に割り当てられます。各マップ シーケンスには、**match** コマンドおよび **action** コマンドをそれぞれ 1 つずつ指定できます。シーケンス番号を指定しないで **no vlan access-map name [seq#]** コマンドを入力すると、マップ全体が削除されます。VLAN アクセスマップ モードを開始すると、次のコマンドが使用可能になります。

- **action** — 実行するアクションを設定します (forward または drop)。
- **default** — コマンドをデフォルト設定に戻します。
- **end** — コンフィギュレーション モードを終了します。
- **exit** — VLAN アクセスマップ コンフィギュレーション モードを終了します。
- **match** — 照合する値を設定します (IP アドレスまたは MAC [メディア アクセス制御] アドレス)。
- **no** — コマンドを否定するか、またはデフォルトにリセットします。

### 例

次に、VLAN アクセスマップ モードを開始する例を示します。

```
Switch(config)# vlan access-map cisco
Switch(config-access-map)#
```

### 関連コマンド

**match**  
**show vlan access-map**

# vlan configuration

VLAN でサービス ポリシーを設定するには、**vlan configuration** コマンドを使用して VLAN 機能のコンフィギュレーションモードを開始します。

```
vlan configuration {vlan}
```

<b>シンタックスの説明</b>	<i>vlan</i>	VLAN リストを指定します。1-10,20 などのように「,」「-」の演算子を使用できます。
<b>デフォルト</b>		このコマンドにデフォルト設定はありません。
<b>コマンドモード</b>		コンフィギュレーションモード
<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.2(40)SG	このコマンドは Supervisor Engine 6E を使用する Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** Supervisor Engine 6-E では、このモードでのサービス ポリシーの設定がサポートされています。

V から 10GE およびそれ以前の Supervisor Engine では、VLAN ベースのポリシーを適用するためにサービス ポリシーを SVI に対応付ける必要があります。純粹にレイヤ 2 のスイッチとして Catalyst 4500 シリーズのスイッチを使用する場合など、SVI はすべてのケースにおいて必要ではありませんが、SVI の作成は必須です。

SVI の作成を必須でなくするために、Supervisor Engine 6-E では VLAN コンフィギュレーションモードが導入されています。このコマンドでは適用する VLAN リストと入力および出力ポリシーを指定します。このモードでシステムを設定する場合、SVI の作成や VLAN または VTP モードの作用の作成は必須ではありません。一度 VLAN がアクティブになると、設定は VLAN 上でアクティブになります。VLAN のリストを指定する際、「-」または「,」の記号を使用できます。

**例** 次に、VLAN コンフィギュレーションモードのときのサービス ポリシーを設定する例と新しいサービス ポリシーを表示する例を示します。

```
Switch#configure terminal
Switch(config)#vlan configuration 30-40
Switch(config-vlan-config)#service-policy input p1
Switch(config-vlan-config)#end
Switch#show running configuration | begin vlan configuration
!
vlan configuration 30-40
    service-policy input p1
!
vlan internal allocation policy ascending !
vlan 2-1000
!
Switch#
```

次に、新しいサービス ポリシーを表示する例を示します。

```
Switch#show policy-map vlan 30
vlan 30

Service-policy input: p1

Class-map: class-default (match-any)
  0 packets
Match: any
  0 packets
police:
  rate 128000 bps, burst 4000 bytes
  conformed 0 packets, 0 bytes; action:
    transmit
  exceeded 0 packets, 0 bytes; action:
    drop
  conformed 0 bps, exceeded 0 bps
Switch#
```

---

**関連コマンド**

[vlan \(VLAN データベース モード\)](#)  
[policy-map](#)



# vlan database

VLAN (仮想 LAN) コンフィギュレーション モードを開始するには、**vlan database** コマンドを使用します。

## vlan database

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** VLAN コンフィギュレーション モードから、次のような VLAN データベース編集バッファの操作コマンドにアクセスできます。

- **abort** — 変更を適用しないで、モードを終了します。
- **apply** — 現在の変更を適用して、リビジョン番号を増加させます。
- **exit** — 変更を適用し、リビジョン番号を増加させて、VLAN コンフィギュレーション モードを終了します。
- **no** — コマンドを否定するか、またはデフォルトを設定します。有効値は **vlan** および **vtp** です。
- **reset** — 現在の変更を放棄して、現在のデータベースを再度読み込みます。
- **show** — データベース情報を表示します。
- **vlan** — 単一 VLAN に関連付けられた値を追加、削除、または変更するためのサブコマンドにアクセスします。**vlan** サブコマンドの詳細については、**vlan (VLAN データベース モード)** コマンドを参照してください。
- **vtp** — VLAN Trunk Protocol (VTP; VLAN トランク プロトコル) 管理機能を実行するためのサブコマンドにアクセスします。**vtp** サブコマンドの詳細については、**vtp client** コマンドを参照してください。

**例** 次に、VLAN コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
Switch# vlan database
Switch(vlan)#
```

次に、VLAN コンフィギュレーション モードの場合に、変更を適用しないで VLAN コンフィギュレーション モードを終了する例を示します。

```
Switch(vlan)# abort
Aborting...
Switch#
```

次に、VLAN コンフィギュレーションモードの場合に、VLAN を削除する例を示します。

```
Switch(vlan)# no vlan 100
Deleting VLAN 100...
Switch(vlan)#
```

次に、VLAN コンフィギュレーションモードの場合に、プルーンングをオフにする例を示します。

```
Switch(vlan)# no vtp pruning
Pruning switched OFF
Switch(vlan)#
```

---

**関連コマンド**

[show vlan](#)

# vlan dot1q tag native

すべての 802.1Q トランク ポートでネイティブ VLAN (仮想 LAN) フレームのタグgingをイネーブルにするには、**vlan dot1q tag native** コマンドを使用します。ネイティブ VLAN フレームのタグgingをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vlan dot1q tag native**

**no vlan dot1q tag native**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** 802.1Q ネイティブ VLAN タグgingはディセーブルです。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** イネーブルの場合は、ポートのネイティブ VLAN タグgingが明示的にディセーブルに設定されていないかぎり、すべての 802.1Q トランク ポートから出力するネイティブ VLAN パケットがタグ付けされます。

ディセーブルの場合、すべての 802.1Q トランク ポートから出力するネイティブ VLAN パケットはタグ付けされません。

このコマンドは、802.1Q トンネリングと一緒に使用できます。この機能は、サービスプロバイダーネットワークのエッジスイッチで動作し、VLAN-in-VLAN 階層を使用し、タグ付きパケットをタグ付けすることで VLAN スペースを拡張します。サービスプロバイダーネットワークへパケットを送出するには、802.1Q トランク ポートを使用する必要があります。ただし、サービスプロバイダーネットワークのコアを経由するパケットは、802.1Q トランク上で搬送されることもあります。802.1Q トランクのネイティブ VLAN が同じスイッチ上のトンネリングポートのネイティブ VLAN に一致する場合、ネイティブ VLAN 上のトラフィックは送信トランクポートではタグ付けされません。このコマンドは、すべての 802.1Q トランクポート上のネイティブ VLAN パケットがタグ付けされるように保証します。

**例** 次に、ネイティブ VLAN フレームの 802.1Q タグgingをイネーブルにし、設定を検証する例を示します。

```
Switch# config terminal
Switch (config)# vlan dot1q tag native
Switch (config)# end
Switch# show vlan dot1q tag native
dot1q native vlan tagging is enabled
```

**関連コマンド** [switchport private-vlan trunk native vlan tag](#)  
[switchport trunk](#)

## vlan filter

VLAN (仮想 LAN) アクセス マップを適用するには、**vlan filter** コマンドを使用します。VLAN またはインターフェイスから VLAN アクセス マップを消去するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
vlan filter map-name {vlan-list vlan-list}
```

```
no vlan filter map-name {vlan-list [vlan-list]}
```

### シンタックスの説明

<i>map-name</i>	VLAN アクセスマップのタグです。
<b>vlan-list</b> <i>vlan-list</i>	VLAN リストを指定します。有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(12c)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

VLAN アクセス マップに **action** コマンドを設定する場合は、次の点に注意してください。

- VLAN アクセス マップは、1 つまたは複数の VLAN に適用できます。
- *vlan-list* パラメータには単一の VLAN ID、VLAN ID リスト、または VLAN ID 範囲 (*vlan-id-vlan-id*) を指定できます。複数のエントリはハイフン (-) またはカンマ (,) で区切ります。
- 各 VLAN には、VLAN アクセス マップを 1 つだけ適用できます。

このコマンドの **no** 形式を入力する場合、*vlan-list* パラメータの入力は任意です (ただし、キーワード **vlan-list** は必須です)。*vlan-list* パラメータを入力しないと、*map-name* が適用されるすべての VLAN から VACL が削除されます。

### 例

次に、VLAN 7～9 に VLAN アクセス マップを適用する例を示します。

```
Switch(config)# vlan filter ganymede vlan-list 7-9
Switch(config)#
```

# vlan internal allocation policy

内部 VLAN（仮想 LAN）割り当て方式を設定するには、**vlan internal allocation policy** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vlan internal allocation policy {ascending | descending}**

**no vlan internal allocation policy**

シンタックスの説明	ascending	内部 VLAN を 1,006 ～ 4,094 に割り当てよう指定します。
	descending	内部 VLAN を 4,094 ～ 1,006 に割り当てよう指定します。

**デフォルト** デフォルトは昇順（ascending）割り当て方式です。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(19)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 内部 VLAN 割り当ては、1,006 からの昇順、あるいは 4,094 からの降順となるように設定できます。内部 VLAN およびユーザ定義 VLAN は、1,006 ～ 4,094 の VLAN スペースを共有します。これらのスペースの割り当てには、「先に指定されたものを先に処理する」というポリシーが使用されます。

**vlan internal allocation policy** コマンドを使用すると、内部 VLAN の割り当て方向を設定できます。

システム起動中に、startup-config ファイル内の機能に必要な内部 VLAN が最初に割り当てられます。次に、startup-config ファイル内のユーザ設定 VLAN が設定されます。既存の内部 VLAN と競合する VLAN を設定すると、内部 VLAN が解放されて使用可能になるまで、設定された VLAN は動作不能状態になります。

**write mem** コマンドを入力してリロードを行うと、ポート マネージャでは再設定された割り当て方式が使用されます。

**例** 次に、内部 VLAN 割り当てポリシーとして、VLAN を降順に設定する例を示します。

```
Switch(config)# vlan internal allocation policy descending
Switch(config)#
```

**関連コマンド** [show vlan internal usage](#)

## vmps reconfirm (グローバル コンフィギュレーション)

VLAN Query Protocol (VQP) クライアントの再確認インターバルを変更するには、**vmps reconfirm** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vmps reconfirm interval**

**no vmps reconfirm**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>interval</i>	ダイナミック VLAN (仮想 LAN) 割り当てを再確認するために、VLAN Membership Policy Server (VMPS; VLAN メンバシップ ポリシー サーバ) に問い合わせる間隔です。有効値は 1 ~ 120 分です。
------------------	-----------------	---

**デフォルト** 再確認インターバルは 60 分です。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

<b>コマンド履歴</b>	リリース	変更内容
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**例** 次に、VQP クライアントが 20 分ごとにダイナミック VLAN エントリを再確認するように設定する例を示します。

```
Switch(config)# vmps reconfirm 20
Switch(config)#
```

**show vmps** コマンドを入力して、[Reconfirm Interval] 行を調べることにより、設定を確認できます。

**関連コマンド** [show vmps](#)  
[vmps reconfirm \(特権 EXEC\)](#)

## vmps reconfirm (特権 EXEC)

VLAN Query Protocol (VQP) クエリーをただちに送信し、VLAN Membership Policy Server (VMPS; VLAN メンバシップ ポリシー サーバ) を使用してすべてのダイナミック VLAN (仮想 LAN) 割り当てを再確認するには、**vmps reconfirm** コマンドを使用します。

### vmps reconfirm

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 特権 EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** **show vmps** コマンドを入力して、[Reconfirmation Status] セクションの [VMPS Action] 行を調べることにより、設定を確認できます。**show vmps** コマンドは、再確認タイマーの期限が切れた結果、または **vmps reconfirm** コマンドの入力のいずれかにより、最後に割り当てが再確認された結果を表示します。

**例** 次に、VQP クエリーを VMPS へただちに送信する例を示します。

```
Switch# vmps reconfirm
Switch#
```

**関連コマンド** [show vmps](#)  
[vmps reconfirm \(グローバル コンフィギュレーション\)](#)

## vmps retry

VLAN Query Protocol (VQP) クライアントのサーバごとの再試行回数を設定するには、**vmps retry** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vmps retry count**

**no vmps retry**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>count</i>	リスト内の次のサーバに照会するまでに、クライアントが VLAN Membership Policy Server (VMPS; VLAN メンバシップ ポリシー サーバ) に問い合わせを試みる回数です。有効値は 1 ~ 10 回です。
------------------	--------------	---

**デフォルト** 再試行回数は 3 回です。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション モード

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	12.1(13)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** **show vmps** コマンドを入力して、[Server Retry Count] 行の内容を調べることにより、設定を確認できます。

**例** 次に、再試行回数を 7 回に設定する例を示します。

```
Switch(config)# vmps retry 7
```

**関連コマンド** [show vmps](#)



## vmps server

プライマリ VLAN Membership Policy Server (VMPS; VLAN メンバシップ ポリシー サーバ) および最大 3 台のセカンダリ サーバを設定するには、**vmps server** コマンドを使用します。VMPS サーバを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
vmps server ipaddress [primary]
```

```
no vmps server ipaddress
```

シンタックスの説明		
<i>ipaddress</i>		プライマリおよびセカンダリ VMPS サーバの IP アドレスまたはホスト名です。ホスト名を指定する場合には、Domain Name System (DNS; ドメインネームシステム) サーバを設定してください。
<b>primary</b>		(任意)プライマリとセカンダリのどちらの VMPS サーバを設定するのかを決定します。

### デフォルト

プライマリまたはセカンダリ VMPS サーバは定義されていません。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(4)EA1	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

### 使用上のガイドライン

**primary** キーワードが入力されているかどうかに関わらず、最初に入力されたサーバが自動的にプライマリ サーバとして選択されます。最初のサーバのアドレスは、後続のコマンドで **primary** を使用して上書きできます。

クラスタ コンフィギュレーションのメンバスイッチに IP アドレスが指定されていない場合、クラスタはそのメンバスイッチに設定された VMPS サーバを使用しません。その代わりに、クラスタはコマンドスイッチの VMPS サーバを使用し、コマンドスイッチは VMPS 要求のプロキシとなります。VMPS サーバは、クラスタを単一スイッチとして扱い、コマンドスイッチの IP アドレスを使用して要求に応答します。

*ipaddress* を指定せずに、このコマンドの **no** 形式を使用すると、すべての設定済みサーバが削除されます。ダイナミックアクセス ポートが存在する場合にすべてのサーバを削除すると、スイッチは、VMPS に照会できなくなり、これらのポートでは新しい送信元からのパケットを転送できなくなります。

**show vmps** コマンドを入力して、[VMPS Domain Server] 行の内容を調べることで、設定を確認できます。

### 例

次に、IP アドレス 191.10.49.20 のサーバをプライマリ VMPS サーバとして設定する例を示します。IP アドレス 191.10.49.21 および 191.10.49.22 のサーバは、セカンダリ サーバとして設定されます。

```
Switch(config)# vmps server 191.10.49.20 primary
Switch(config)# vmps server 191.10.49.21
Switch(config)# vmps server 191.10.49.22
Switch(config)#
```

次に、IP アドレス 191.10.49.21 のサーバを削除する方法を示します。

```
Switch(config)# no vmps server 191.10.49.21  
Switch(config)#
```

---

**関連コマンド**

[show vmps](#)

## vtp (グローバル コンフィギュレーション モード)

VLAN Trunk Protocol (VTP; VLAN トランク プロトコル) コンフィギュレーション ストレージ ファイル名を変更するには、**vtp** コマンドを使用します。ファイル名を消去するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
vtp {{file filename}} | {{if-id name}}
```

```
no vtp {{file filename}} | {{if-id name}}
```

シンタックスの説明	file filename	VTP コンフィギュレーションを保存する IOS File System (IFS; IOS ファイル システム) ファイルを指定します。
	if-id name	現在の装置の VTP アップデータ ID を提供するインターフェイス名を指定します。ここで、 <b>if-id name</b> は、255 文字以下の ASCII ストリングです。

**デフォルト** デイセーブルです。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 新しいデータベースをロードする場合は、**vtp file** コマンドを使用できません。このコマンドを使用できるのは、既存データベースが格納されているファイルの名前を変更する場合のみです。

**vtp if-id** コマンドを使用すると、現在の装置の VTP アップデータ ID を提供するインターフェイス名を指定できます。VTP アップデータは、ネットワークに対して VLAN (仮想 LAN) を追加、削除、または変更したり、システムの他の部分に変更内容を通知する VTP アップデータをトリガする装置です。

**例** 次に、VTP コンフィギュレーションを保存する IFS ファイル システム ファイルを指定する例を示します。

```
Switch(config)# vtp file vtpconfig
Setting device to store VLAN database at filename vtpconfig.
Switch(config)#
```

次に、VTP アップデータ ID を提供するインターフェイス名を指定する例を示します。

```
Switch(config)# vtp if-id fastethernet
Switch(config)#
```

**関連コマンド** [show vtp](#)

# vtp client

装置を VLAN Trunk Protocol (VTP; VLAN トランク プロトコル) クライアント モードにするには、**vtp client** コマンドを使用します。VTP サーバ モードに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vtp client**

**no vtp client**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** デイセーブルです。

**コマンド モード** VLAN コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** 受信側スイッチがクライアント モードの場合、クライアント スイッチは自身のコンフィギュレーションを変更して、サーバのコンフィギュレーションを複製します。クライアント モードのスイッチがある場合は、VTP または VLAN (仮想 LAN) コンフィギュレーションに関するすべての変更を、サーバ モードのスイッチ上で行ってください。

**vtp server** コマンドは、装置がクライアント モードでない場合にエラーを戻さない点を除き、**no vtp client** コマンドと機能が同じです。

**例** 次に、装置を VTP クライアント モードにする例を示します。

```
Switch(vlan-config)# vtp client
Switch(vlan-config)#
```

**関連コマンド** **show vtp**  
**vtp** (グローバル コンフィギュレーション モード)

# vtp domain

装置の管理ドメイン名を設定するには、**vtp domain** コマンドを使用します。

**vtp domain** *domain-name*

シンタックスの説明	<i>domain-name</i> ドメイン名です。
-----------	-----------------------------

デフォルト	このコマンドにデフォルト設定はありません。
-------	-----------------------

コマンドモード	VLAN コンフィギュレーション モード
---------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

使用上のガイドライン	<i>domain-name</i> を定義する場合は、大文字と小文字を区別する 1 ～ 32 文字のドメイン名を指定してください。
------------	--

VLAN Trunk Protocol (VTP; VLAN トランク プロトコル) アドバタイズを送信する前に、ドメイン名を設定する必要があります。

ドメイン名を設定しない場合でも、現在トランキング中の任意のポートに最初の VTP サマリー パケットが着信すると、装置は非管理ドメイン ステートでなくなります。

装置は、サマリー パケットからドメインを受け取ると、コンフィギュレーション リビジョン番号をゼロにリセットします。非管理ドメイン状態でなくなった装置は、NVRAM (不揮発性 RAM) を消去してリロードしないかぎり、番号を再入力するように設定することはできません。

例	次に、装置の管理ドメインを設定する例を示します。
---	--------------------------

```
Switch(vlan-config)# vtp domain DomainChandon
Switch(vlan-config)#
```

関連コマンド	<a href="#">show vtp</a> <a href="#">vtp (グローバル コンフィギュレーション モード)</a>
--------	---

# vtp password

VLAN Trunk Protocol (VTP; VLAN トランク プロトコル) ドメインパスワードを作成するには、**vtp password** コマンドを使用します。パスワードを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
vtp password password-value
```

```
no vtp password
```

シンタックスの説明	<i>password-value</i>	装置の管理ドメインを示す 1 ～ 32 文字の ASCII ストリングです。
デフォルト		ディセーブルです。
コマンドモード		VLAN コンフィギュレーションモード
コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

## 例

次に、VTP ドメインパスワードを作成する例を示します。

```
Switch(vlan-config)# vtp password DomainChandon
Switch(vlan-config)#
```

次に、VTP ドメインパスワードを削除する例を示します。

```
Switch(vlan-config)# no vtp password
Clearing device VLAN database password.
Switch(vlan-config)#
```

## 関連コマンド

[show vtp](#)  
[vtp \(グローバル コンフィギュレーションモード\)](#)

## vtp pruning

VLAN (仮想 LAN) データベースでのプルーンングをイネーブルにするには、**vtp pruning** コマンドを使用します。VLAN データベースでのプルーンングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vtp pruning**

**no vtp pruning**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** ディセーブルです。

**コマンドモード** VLAN コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** VLAN Trunk Protocol (VTP; VLAN トランク プロトコル) プルーンングが設定されていると、プルーンング適格 VLAN に属するステーションがない場合、この VLAN に関する情報が VTP アップデートから削除されます。

**例** 次に、VLAN データベースでプルーンングをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(vlan-config)# vtp pruning
Pruning switched ON
Switch(vlan-config)#
```

次に、VLAN データベースでプルーンングをディセーブルにする例を示します。

```
Switch(vlan-config)# no vtp pruning
Pruning switched OFF
Switch(vlan-config)#
```

**関連コマンド** [show vtp](#)  
[vtp](#) (グローバル コンフィギュレーションモード)

# vtp server

装置を VLAN Trunk Protocol (VTP; VLAN トランク プロトコル) サーバ モードにするには、**vtp server** コマンドを使用します。

**vtp server**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** イネーブルです。

**コマンドモード** VLAN コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** サーバモードのスイッチ上で VTP または VLAN (仮想 LAN) コンフィギュレーションを変更した場合は、その変更が同じ VTP ドメイン内のすべてのスイッチに伝播します。

VTP をサーバモードまたはクライアントモードに設定できるのは、ダイナミック VLAN 作成がディセーブルの場合のみです。

受信側スイッチがサーバモードの場合、設定は変更されません。

**vtp server** コマンドは、装置がクライアントモードでない場合にエラーを戻さない点を除き、**no vtp client** コマンドと機能が同じです。

**例** 次に、装置を VTP サーバモードにする例を示します。

```
Switch(vlan-config)# vtp server
Switch(vlan-config)#
```

**関連コマンド** **show vtp**  
**vtp** (グローバル コンフィギュレーションモード)



# vtp transparent

装置を VLAN Trunk Protocol (VTP; VLAN トランク プロトコル) トランスペアレント モードにするには、**vtp transparent** コマンドを使用します。VTP サーバ モードに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vtp transparent**

**no vtp transparent**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** ディセーブルです。

**コマンド モード** VLAN コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズスイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** **vtp transparent** コマンドはドメインの VTP をディセーブルにしますが、スイッチからドメインを削除しません。

受信側スイッチがトランスペアレント モードの場合、設定は変更されません。トランスペアレント モードのスイッチは、VTP に参加しません。トランスペアレント モードのスイッチで VTP または VLAN (仮想 LAN) コンフィギュレーションを変更した場合は、変更がネットワーク内の他のスイッチに伝播されません。

**vtp server** コマンドは、装置がトランスペアレント モードでない場合にエラーを戻さない点を除き、**no vtp transparent** コマンドと同様に機能します。

**例** 次に、装置を VTP トランスペアレント モードにする例を示します。

```
Switch(vlan-config)# vtp transparent  
Switch(vlan-config)#
```

次に、装置を VTP サーバ モードに戻す例を示します。

```
Switch(vlan-config)# no vtp transparent  
Switch(vlan-config)#
```

**関連コマンド** [show vtp](#)  
[vtp \(グローバル コンフィギュレーション モード\)](#)

## vtp v2-mode

バージョン 2 モードをイネーブルにするには、**vtp v2-mode** コマンドを使用します。バージョン 2 モードをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vtp v2-mode**

**no vtp v2-mode**

**シンタックスの説明** このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

**デフォルト** ディセーブルです。

**コマンドモード** VLAN コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(8a)EW	このコマンドが Catalyst 4500 シリーズ スイッチに導入されました。

**使用上のガイドライン** VLAN Trunk Protocol (VTP; VLAN トランク プロトコル) ドメイン内のすべてのスイッチで、同じ VTP バージョンを実行する必要があります。同一 VTP ドメイン内のスイッチで、VTP バージョン 1 とバージョン 2 を同時に実行することはできません。

ドメイン内のすべてのスイッチが VTP バージョン 2 対応である場合は、1 つのスイッチ上で VTP バージョン 2 をイネーブルにするだけで、バージョン番号が VTP ドメイン内の他のバージョン 2 対応スイッチに伝播します。

バージョン 2 モードを切り替えると、特定のデフォルト VLAN (仮想 LAN) のパラメータが変更されます。

**例** 次に、VLAN データベースでバージョン 2 モードをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(vlan-config)# vtp v2-mode
Switch(vlan-config)#
```

次に、VLAN データベースでバージョン 2 モードをディセーブルにする例を示します。

```
Switch(vlan-config)# no vtp v2-mode
Switch(vlan-config)#
```

**関連コマンド** [show vtp](#)  
[vtp \(グローバル コンフィギュレーションモード\)](#)